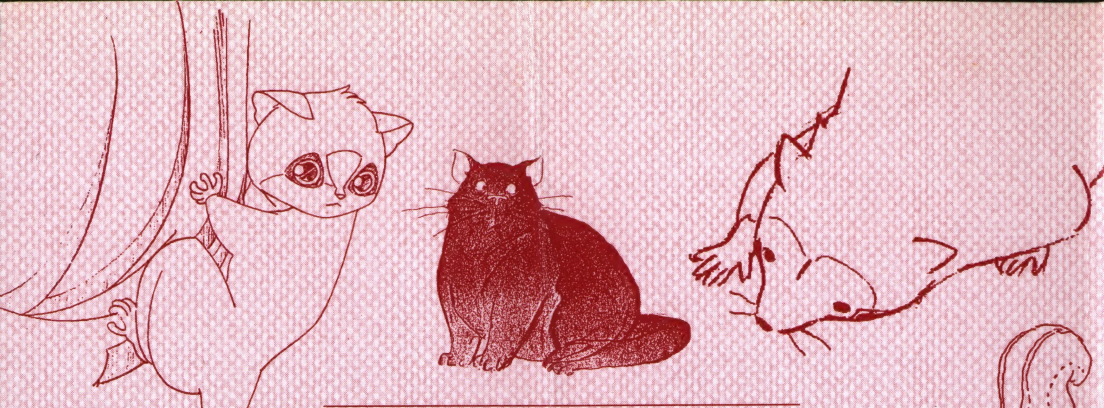
世界名作劇場シリーズ
メモリアルブック
アメリカ&ワールド編

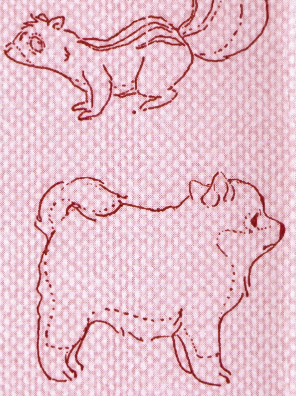
著 ちばかおり

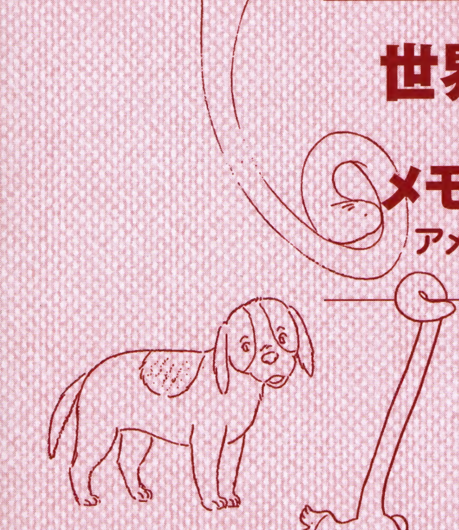




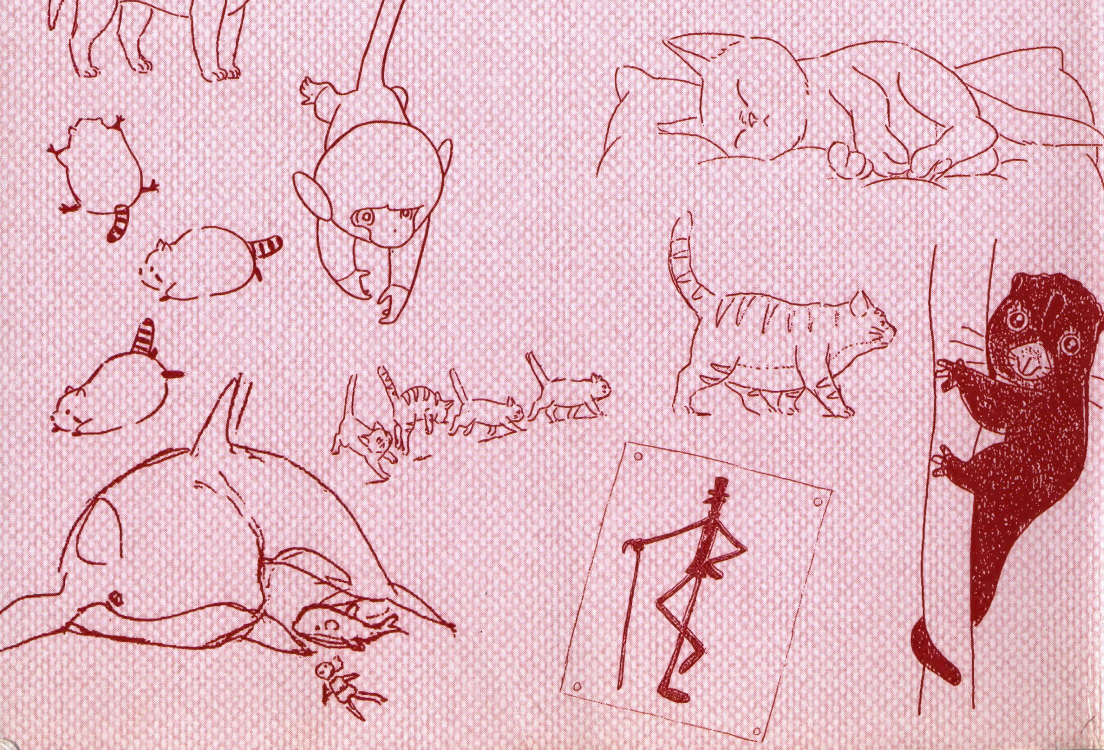


世界名作劇場
シリーズ
メモリアルブック
アメリカ＆ワールド編





著
ちばかおり



Memories of the World Masterpiece Theater

世界名作劇場シリーズ
メモリアルブック

アメリカ・ワールド編





アメリカ・ワールド編

もう一度、世界名作劇場（あのころ）へ

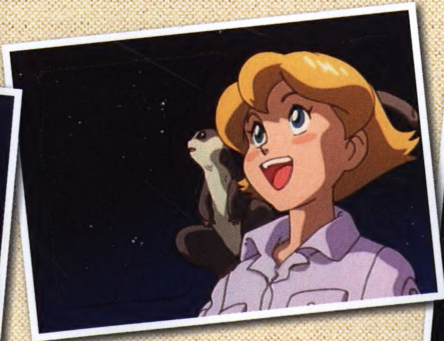
日曜夜7時半に放送されていた世界名作劇場シリーズ。欧米で読み継がれている児童文学をアニメ化し、1975年の『フランダースの犬』から、1997年の『家なき子レミ』まで、ほぼ一年に一作品ずつ23年間に渡って放送されたこのシリーズは、今も多くの人の心をとらえて放さない。惜しまれながら一旦放送が終了したが、10年の時を経て2007年よりBSフジから再びシリーズが再開された。

世界名作劇場は、他に類を見ない丁寧な人物描写や自然描写で、放映当時から大きな反響を呼んだ。優れた作品には、必ずそこに優れたスタッフの姿があるものだ。彼らの技術とその熱い情熱なしには、アニメーション制作という困難を切り抜けることも、ましてやよい作品を生み出すことは不可能であっただろう。

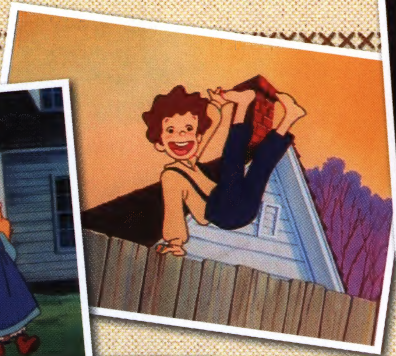
本書では、各作品の名場面を振り返りつつ、作品の制作過程に作られた膨大な設定画、背景画を紹介していきたい。願わくばそこに、あの映像を支えたたくさんの陰の力を感じていただけたらと思う。

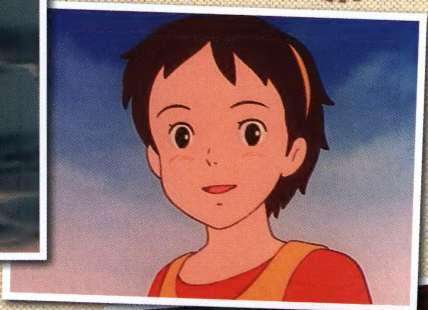
また、本の構成にあたっては、放送年順ではなく時代設定を軸にして、「世界名作劇場」ならではの歴史的な切り口を試みた。またシリーズの多彩な舞台にも注目し、地域としての特色が作品にどう描かれているかも考察している。これも各作品の設定がしっかりしているからこそ初めて成立する企画だろう。

懐かしいあの作品との、久しぶりの再会を楽しんでほしい。

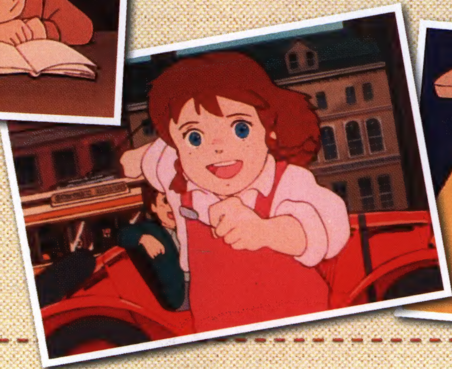
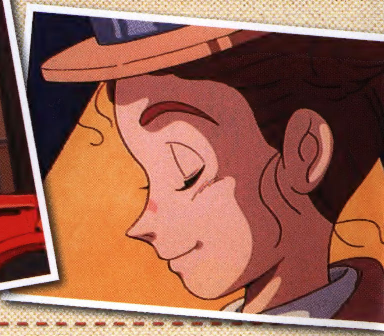






オープニング
映像より

World Map

アメリカ&ワールド編

世界名作劇場は、現在まで26作品を数える。このメモリアル本は、資料重視にした保存版として上下2冊の構成とした。本書は“アメリカ&ワールド編”でくくり、アメリカ大陸を舞台にした作品と、ヨーロッパ以外のオセアニア、アフリカを加えた広い地域を扱う。該当する下記の12作品を、物語の時代設定順に掲載してみた。違った角度からみることで、作品を再認識する機会になれば幸いである。

（画像は番組宣伝パンフレットの表紙より）

番組宣伝パンフレット

商品化に向けて企業に配られる番組紹介用パンフレットで、一般には出回らない。放送前の準備段階で制作されるため、キャラクターや色など本編とは違う場合も多く興味深い。





90年

『私のあしながおじさん』

舞台 アメリカ
年代 1920年～
全40話
➡ P245



92年

『大草原の小さな天使 ブッシュベイビー』

舞台 ケニア
年代 1965年
全40話
➡ P265



81年

『ふしぎな島のフローネ』

舞台 スイス、無人島
年代 1880年代
全50話
➡ P165

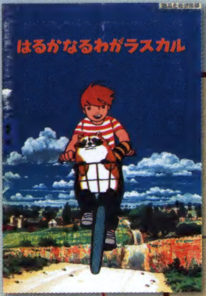


82年

『南の虹のルーシー』

舞台 オーストラリア
年代 1837年～
全50話
➡ P65





77年

『あらいぐま ラスカル』

舞台 アメリカ
年代 1914年〜
全52話
➡ P205



79年

『赤毛のアン』

舞台 カナダ
年代 1886年〜
全50話
➡ P185



87年

『愛の若草物語』

舞台 アメリカ
年代 1863年〜
全48話
➡ P105



『トム・ソーヤー の冒険』

80年

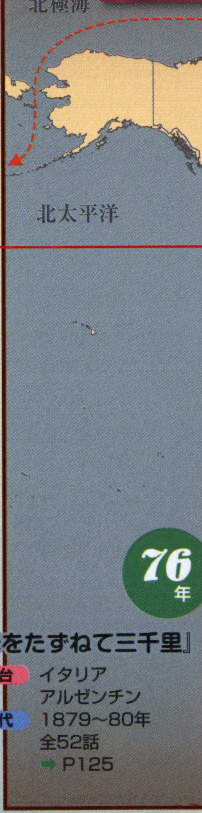
舞台 アメリカ
年代 1845年頃
全49話
➡ P85



93年

『若草物語 ナンとジョー先生』

舞台 アメリカ
年代 1882年〜
全40話
➡ P145





86年

『愛少女 ポリアンナ物語』

舞台 アメリカ
年代 1920年頃
全51話
➡ P225



94年

『七つの海のティコ』

舞台 世界中の海
年代 1990年代
全39話
➡ P285



76年

『母をたずねて三千里』

舞台 イタリア アルゼンチン
年代 1879〜80年
全52話
➡ P125

19C

- 一八〇四 ■ナポレオン皇帝に即位（仏）
- 一八〇七 ●フルトン蒸気船を試作（米）
- 一八一五 ■ワーテルローの戦いに破れ、ナポレオン没落
- ●イギリスの機械技術輸出解禁で産業革命大陸へ
- 一八一五 ■ウィーン条約、スイス永世中立国になる
- 一八二五 ●蒸気機関車実用化（英）
- 一八三三 ●工場法制定　年少者の労働制限（英）
- 一八三七 ■ヴィクトリア女王即位（英）
- 一八四六 ■アメリカメキシコ戦争（～一八四八）
- 一八四八 ■二月革命（仏）　三月革命（独、墺）
- ■カリフォルニアを獲得、太平洋へ到達
- 一八五一 ●ロンドン万博（英）
- 一八六一 ■イタリア王国成立
- ■南北戦争（～一八六五）
- 一八六八 明治維新（日）
- 一八六九 ●スエズ運河開通、最初の大陸横断鉄道開通（米）
- 一八七一 ■ドイツ帝国成立
- 一八七九 ●トーマス・エジソンが白熱電球実用化（米）
- 一八八六 ●ベンツ　ガソリン自動車を発売（独）
- 一九〇八 ●T型フォード発売（米）
- 一九一四 第一次世界大戦（～一九一八）

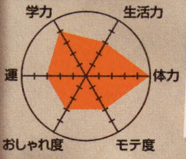
ポリアンナ誕生
アン誕生
ナン誕生
ジュディ誕生
フローネ誕生
トム誕生
マルコ誕生
ジョオ誕生
スターリング誕生
ルーシー誕生

主人公たちの履歴書

Profile 若草物語 ナンとジョー先生
アニー(ナン)・ハーディング

年齢・11歳(プラムフィールド在学)

- 出身国　アメリカ
- 現住所　コンコード
- 言語　英語
- 家族構成　父
- 特技　薬草治療、かけっこ



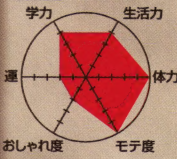


衣装持ちで時にはこだわるものの普段は無頓着。料理の腕は怪しい。

Profile 愛の若草物語
ジョセフィーン(ジョオ)・マーチ

年齢・15歳

- 出身国　アメリカ
- 現住所　ニューコード
- 言語　英語
- 家族構成　父、母、姉、妹2人
- 特技　物語を書く



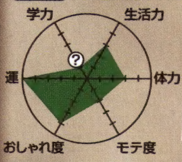


運に頼らず自力で道を切り開くタイプ。そのつもりはないがモテる。

Profile 南の虹のルーシー
ルーシー・メイ・ポップル

年齢・7歳

- 出身国　イギリス
- 現住所　オーストラリア、アデレード
- 言語　英語
- 家族構成　父、母、兄、姉2人、弟
- 特技　動物の飼育、耳がいい



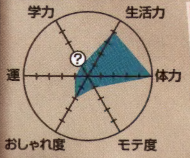


意外に着替えシーンが多く4点。一家を救う強運の持ち主。

Profile ふしぎな島のフローネ
フローネ・ロビンソン

年齢・10歳

- 出身国　スイス
- 現住所　無人島
- 言語　ドイツ語
- 家族構成　父、母、兄、弟
- 特技　逆立ち、木登り



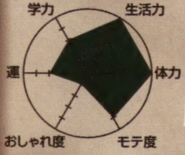


無人島暮らしに多くは求められず。生活力は大人に依存のため4点。

Profile 母をたずねて三千里
マルコ・ロッシ

年齢・10歳（小学生）

- 出身国　イタリア
- 現住所　ジェノバ
- 言語　イタリア語
- 家族構成　父、母、兄
- 特技　料理、かけっこ、泳ぎ



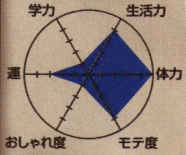


不運も多いがそれを上回る幸運に出会う。女の子にも密かにモテる。

Profile トム・ソーヤーの冒険
トマス(トム)・ソーヤー

年齢・10歳（小学生）

- 出身国　アメリカ
- 現住所　セントピーターズバーグ
- 言語　英語
- 家族構成　叔母、いとこ、弟
- 特技　水泳





大人の人気はイマイチ？　インジャンとの不運な遭遇は結果オーライ。

チャート式主人公判断

	5	4	3	2	1
学力	学年、町で1番レベル。	クラスで一番レベル。	まあ、普通。	勉強よりも運動が得意。	落第寸前？大の苦手。
運	宝くじ1等当選レベル。	何かとツイテるレベル。	人生いいことも悪いこともあるさ。	何をやっても失敗ばかり。	呪われてる…。
おしゃれ	おしゃれ大好き、衣装持ち、その上センスも良し。	衣装持ち。	おしゃれに関心あり。	無頓着ながら、TPOに応じた身だしなみができる。	着の身着のまま。
モテ度	3人以上に好意を持たれている。	2人から好意。	特定のBF、GFがいる。	特定の異性はなし。友情以上の存在はまだまだ先。	友達、あまりいない…。
体力	強靱。サバイバルでも何でもOK。	体力あります。	病気しません。健康が取り柄。	何かと病気します。	持病あり、虚弱で外出不可能。
生活力	自分で稼げる。	家族の世話もできる。	お手伝いできる。	自分のことは自分で。	何でも人に手伝ってもらわないと…。

20C

一九二九 ●世界恐慌
一九三九 第二次世界大戦（～一九四五）
一九四一 太平洋戦争（～一九四五）
一九四五 国際連合成立
一九六二 ■キューバ危機
一九六三 ケニア、イギリスから独立
一九六九 ●アポロ11号が月面着陸（米）
一九九〇 ■東西ドイツが統合

★ジャッキー誕生
★ナナミ誕生

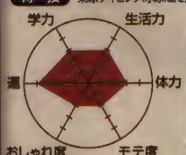
※■＝アメリカ政治、■＝ヨーロッパ政治、●＝生活。

Profile 大草原の小さな天使 ブッシュベイビー

ジャクリーヌ(ジャッキー)・ローズ

年齢・12歳（小学生）

出身国 イギリス
現住所 ケニア
言語 英語
家族構成 父、母、兄
特技 乗馬、ダイビング、水泳、絵を描くこと、物忘れ





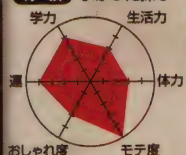
ジャッキーの普通っぽさが逆に新鮮でこの作品の魅力といえよう。

Profile 愛少女ポリアンナ物語

ポリアンナ・フィティア

年齢・8歳（未就学）

出身国 アメリカ
現住所 ベルディングスビル
言語 英語
家族構成 叔母
特技 よかった探し

元気な割には病気や怪我が多いポリアンナ。意外にも成績は優秀。

Profile 赤毛のアン

アン・シャーリー

年齢・11歳（4学年）

出身国 カナダ
現住所 プリンスエドワード島、アボンリー村
言語 英語
家族構成 カスバート兄妹
特技 朗読、創作、子守り、走ること





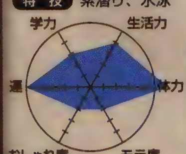
本人はおしゃれだが、コンプレックスがある為に諦めている部分もある。

Profile 七つの海のティコ

ナナミ・シンプソン

年齢・11歳（未就学）

出身国 アメリカ
現住所 不定
言語 不明
家族構成 父
特技 素潜り、水泳





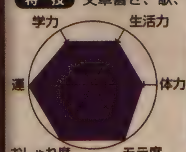
ヒカリクジラに選ばれるのは最高の運か？ 体力は超人レベル。

Profile 私のあしながおじさん

ジュディ・アボット

年齢・13歳（リンカーン女子記念学園）

出身国 アメリカ
現住所 プリンストン
言語 英語
家族構成 なし
特技 文章書き、歌、似顔絵





ほぼ全項目で高得点をマークしたジュディ。主人公は顔じゃない？

Profile あらいぐまラスカル

スターリング・ノース

年齢・11歳（小学生）

出身国 アメリカ
現住所 ブレールスフォード
言語 英語
家族構成 父、母、姉2人
特技 料理、園芸、木工、動物の飼育





頭も良くてけんかも強い。11歳にして自活しているしっかり者！

※物語のスタート時は変動が大きいため、年齢、住所などは第10話の時点を基準にしている。



南の虹のルーシー



放映期間 ● 1982/01/10～1982/12/26

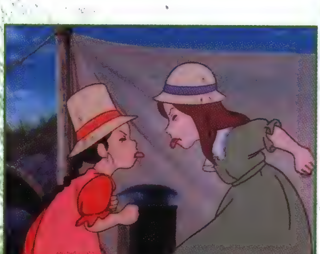
オーストラリアの開拓史を描いた『南の虹のルーシー』。登場人物たち、特にルーシー・メイとケイト、ふたりの織りなす軽快な会話が、なんといっても一番の魅力！



「私たち、樽の中で寝まーす」。



オーストラリアに着いた一家。大地を踏んで喜びをかみしめあう。



ああいえばこういう。ふたり揃えばボケと突っ込みの応酬が始まる。

「わかったわ。じゃ、ふたりでのぞきましょう。
そう、ふたり一緒なら悪いことを半分ずつに分けることができるじゃないの」——ケイト（15話）

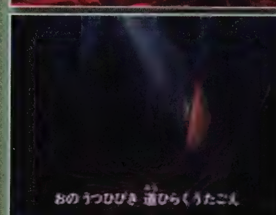
Opening













南の虹のルーシー 名場面集

「私は小さいから遊んでてもかまわないけど、
おねえちゃんお手伝いしたら」——ルーシー

「だーめ。私が働くときはあんたも働くの」
——ケイト（1話）

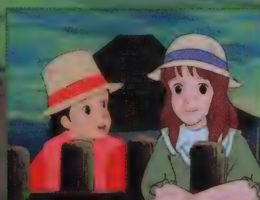
「私のうちはここよ。どんなことがあっても
私はルーシーメイ・ポップルだわ！」——ルーシー（47話）

レンガ作りで泥だらけ。川に飛び込むシーンは、必見！「やっちゃおうか？」「やっちゃおー！」。



ルーシーたちもさることながら、兄のベン、医者のデイトンなど、脇役キャラも奥が深い。味わいのあるセリフ多し！

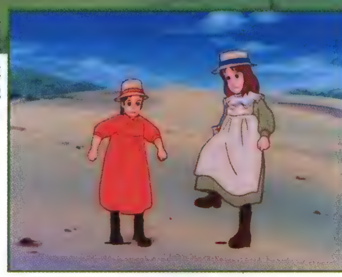






「リトル！リトル！」。ルーシーが、記憶を取り戻す感動の場面。ルーシーの事件がきっかけとなり、一家に新しい道が開けていく。

3年たっても希望の土地が手に入らず、一家は苦しい日々を送っていた。上陸した浜に再び来たふたりは、大地を踏み、夢を思い出す。





虹のたもとへ…。夢にまで見た農場へ荷馬車を進める。

「お姉ちゃんわたし死にたくない」。木槌を構えるケイトにルーシーの迷言。



メモリアル Story

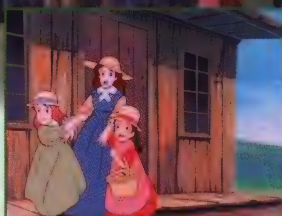
—第19話—

今日は買い物

今日は町まで買い物にいく日。楽しみではち切れそうなルーシーとケイト。そしてクララのときめき。日常生活の一コマを絶妙な心理描写で描き分け、3姉妹それぞれの魅力がたっぷり詰まった一話。



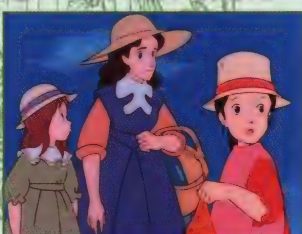
買い物リストを手に母の指示を受けるクララ。アーニーは妹達がちゃんとついていくかを心配する。



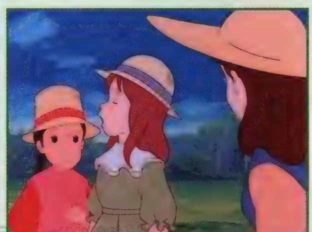


町へ行けるのが嬉しくて、待ちきれないルーシーとケイト。声を揃えてクララを呼ぶ。「おねぇーちゃーーん!!」。

どうしてって 急いで買い物に行きたいからよ。



アデレードは開発ラッシュ。道路も悪く、ルーシーは転んでモッシュを落としてしまう。ルーシーのモッシュの持ち方に注目！



なぜお父さんが家を売ったのか。クララの知らない情報をつかんでいるケイト。怒らないから教えてと頼むクララに「やっぱりやーめた」。駆け引きでケイトに勝てる者はなし。



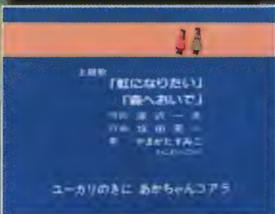
生地屋の前。ルーシーの「花嫁衣装が見える」の一言にクララの足が止まる。「中に入りましょう」という姉の許可が出てルーシー達は大喜び。

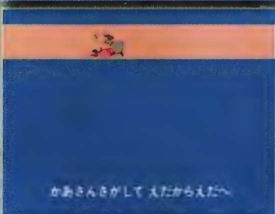


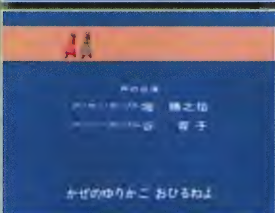
町についた途端、ショーウィンドウに張り付いて動かなくなるルーシーとケイト。クララは姉らしく先を促していたが…。

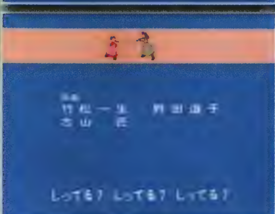
Ending

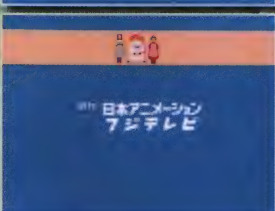
















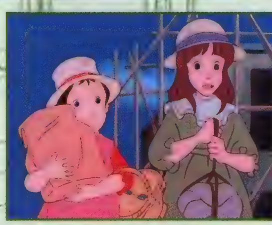
ウェディングドレスに釘付けのクララ。近くで見ようと買い物客を装う。



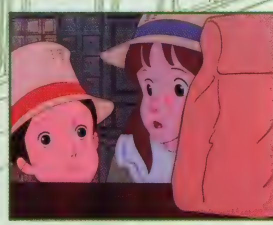
姉の大胆さに、あぜんとなるふたり。



生地屋を飛び出したクララは、顔を赤らめる。時間をかせいでじっくり花嫁衣装を見たかった、とつい本音が。そしてようやく本来の目的の食料品店へ。



塩漬け肉の臭いに文句を言うケイト。かわすルーシー。ふたりの会話がたまらない。



小麦は値上がりして小さな袋に。ルーシーは変化を見逃さない。

なんだかあたしが一番損したみたい。

子ヤギをビリーにあげる約束を果たしに、夕方出かけていくふたり。



ヤギのエピソードは、以前の話からまたがる後日談だ。『ルーシー』はこうした連続する日常が丁寧に書かれている。





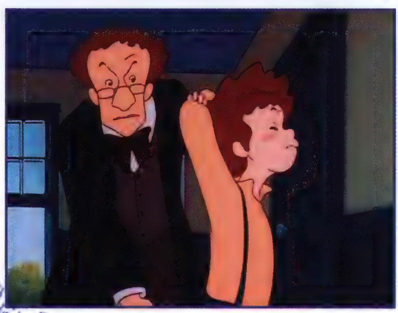
トム・ソーヤーの冒険

放映期間 ● 1980/01/06～1980/12/28

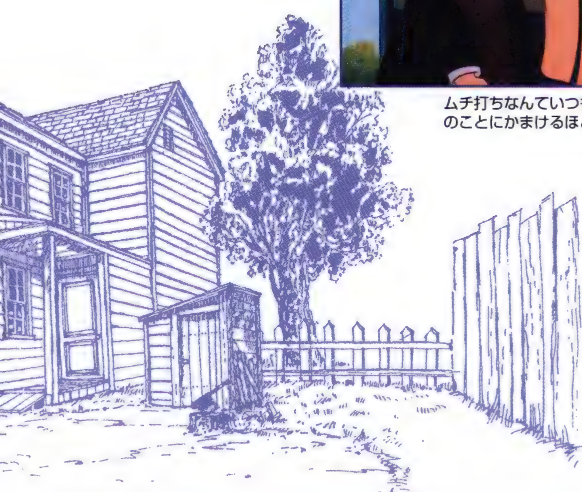
アメリカ、ミシシッピー川に面した村セントピーターズバーグ。今日もトム・ソーヤーの愉快な冒険が始まる。



トム達少年の憧れだった蒸気船。その姿はいつもトムの夢をかき立てるのだった。



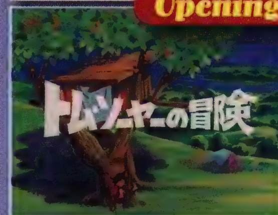
ムチ打ちなんていつものこと。トムは学校のことにかまけるほどヒマじゃないのだ！



世界名作劇場

Opening



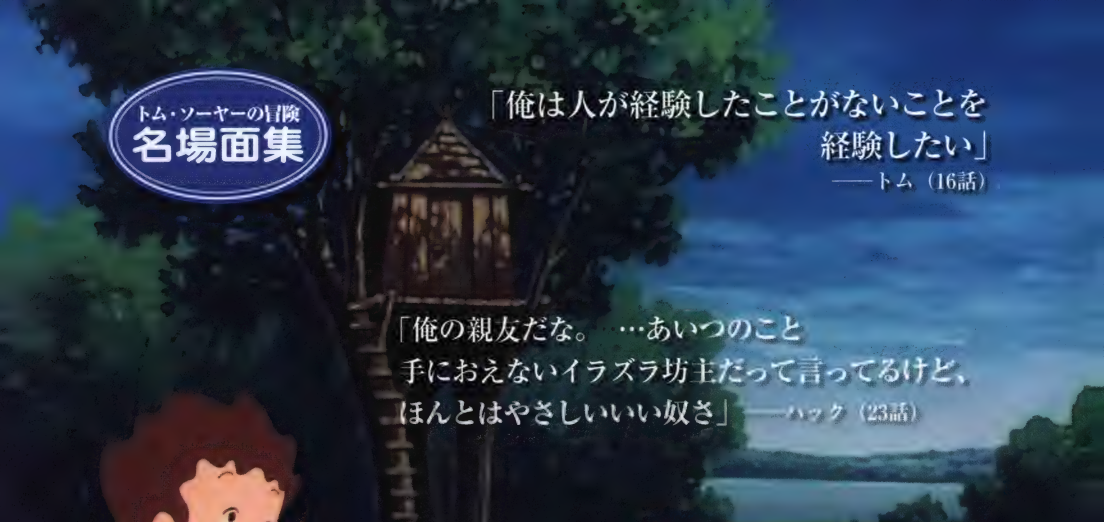












トム・ソーヤーの冒険
名場面集

「俺は人が経験したことがないことを
経験したい」
——トム（16話）

「俺の親友だな。…あいつのこと
手におえないイラズラ坊主だって言ってるけど、
ほんとはやさしいいい奴さ」——ハック（23話）



最初はトムをただのわんぱく少年だと思っていたベッキーも、次第に彼の優しさに気づいていく。



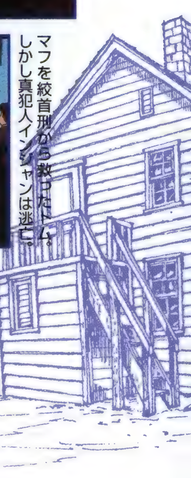
気球に乗る話は、マーク・トウェインの別の著書『トム・ソーヤー外遊記』から取り入れたサイドストーリー。







マフを絞首刑から救ったトム。しかし真犯人インジャンは逃亡。



洞窟でインジャン・ジョーと遭遇する！「ぼくを殺すつもりなのか？」と問うトムにインジャンは「まさか本気でそんなこと言ってるんじゃないだろうな」という。

メモリアル
Story

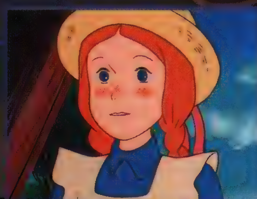
—第15話—

冒険・冒険また冒険

学校もベッキーの誤解も、家でガミガミ言われるのももうたくさんだ。「こうなったら海賊になるしかない」トムはハックとベンを誘って、ミシシッピー川の中洲にあるジャクソン島へ家出を決行した。







ベッキーは、トムとけんかした後のことだけに、行方不明のトムのことが気がかりだった。今日会ったら謝ろうと学校へ急ぐが……。



早く登校しすぎて、まだ誰も来ていない教室。がらんとした空間がベッキーの心を表現する。







学校でトムの死を告げられ泣き出すベッキー。同じ頃トム達はくったくなく遊んでいた。その心理的なギャップを映像で平行してみせる。





死体を捜す船を、のんきに見物しているトム達。やがて捜しているのは自分達の死体だと気がつく。



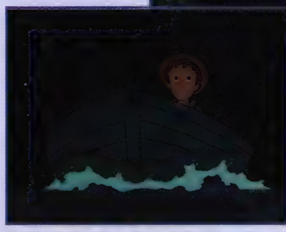
英雄か こいつは悪くないぜ。

家が恋しくなったベンは帰ろうと言い出した。ハックも帰る気になっている。しかしリーダーのトムはいまさら後に引けない。





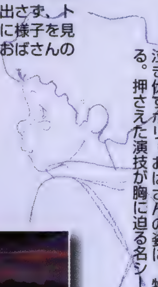
そうよ 俺たちは英雄さ。



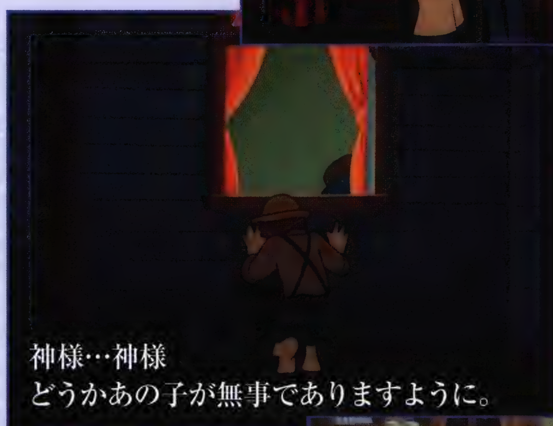
本当は自分も家に帰りたい。そんな気持ちをおくびにも出さず、トムは自分が代表して町に様子を見に行こうと提案。一目おばさんの様子を見たいのだ。



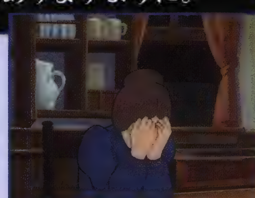
ポリーおばさんの家に保安官が訪ねて来ていた。保安官はトムが死亡した可能性があると告げる。







泣き伏すポリーおばさんの姿に、物陰でトムも声を殺して涙する。押さえた演技が胸に迫る名シーン。





愛情で胸をいっぱいにしてジャクソン島へ戻ったトム。このまますんなり帰るつもりはないものの、トムの満ち足りた表情が物語る——もうこの冒険は終えよう、と。



Ending









愛(あい)の若草(わかくさ)物語(ものがたり)



放映期間 ● 1987/01/11～1987/12/27













Opening

南北戦争中のアメリカ北東部。メグ、ジョオ、ベス、エイミー。マーチ家の四人姉妹が繰り広げる心温まるストーリー。



暖炉の前に集うマーチ家。ローリーはそれをまるで絵のようだという。



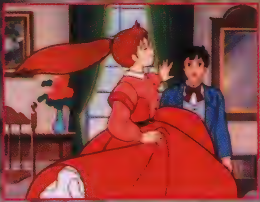
個性あふれる四姉妹。それぞれに魅力的だ。

「笑い声がここまで聞こえるんですよ。それに、ここから見えるあの部屋の暖かそうなこと」――ローリー（15話）

愛の若草物語
名場面集

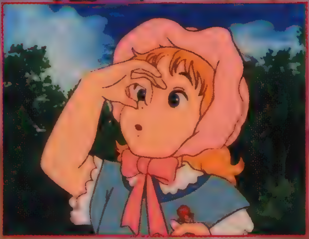
「エイミーはエイミーなんです、おば様」
——エイミー（7話）

「自分で書いた話を読んで泣ける
なんて、あんたも幸せ者ねえ」
——メグ（9話）





「くすぐったい。私の顔がそんなに甘い？」。



エイミーは鼻が低いのがコンプレックス。



「よいお嫁さんになれる」と言われ赤らむメグ。



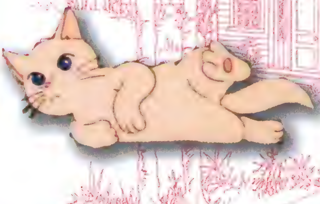
ジョオは病気の父のために髪を売った！





猩紅熱にかかったベスも次第に回復してきた。「とってもいい気持ちよ、雪が頬にあたって」。





メモリアル Story

—第26話—

怖がりベスとお隣の老紳士

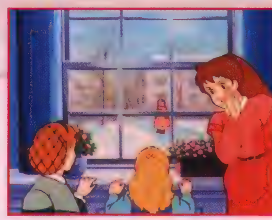
ベスから上履きをプレゼントされたローレンスはお礼に孫娘の形見のピアノを贈りたいとマーチ夫人に申し出る。四姉妹の中でも控えめで目立たない存在のベスとお隣の老人の心温まるふれあいを描いた一話。



普段内気なベスもピアノのこととなると積極的。毎日のようにお隣のローレンス邸へピアノを弾きに出かけていく。



ピアノを弾くベスは本当に幸せそう。



ベスには内緒でピアノをマーチ家に運び込むことに。ベスがピアノを弾きに行くのを見計らって計画が動き出す。





ベスが家に帰ると一同勢揃い。実はベスを驚かせようというこの計画の仕掛人は母メアリー。なかなか茶目っ気のあるお母さんだ。



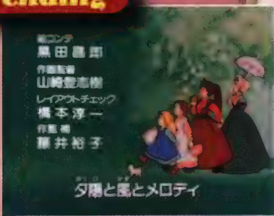
ローレンスを怖がっていたはずのベスがお礼に行くと言い、みんなを驚かせる。ローレンス邸に駆けていくベス。

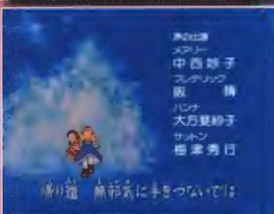


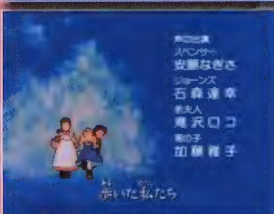
ベスはローレンスからピアノが贈られたことを知る。

私、ダメ…。手紙を読んで、ジョオ。
幸せで倒れそうなの…」。

Ending







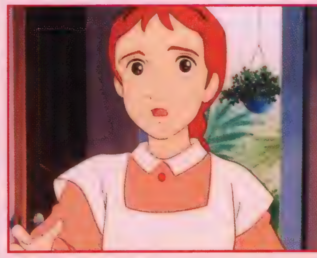




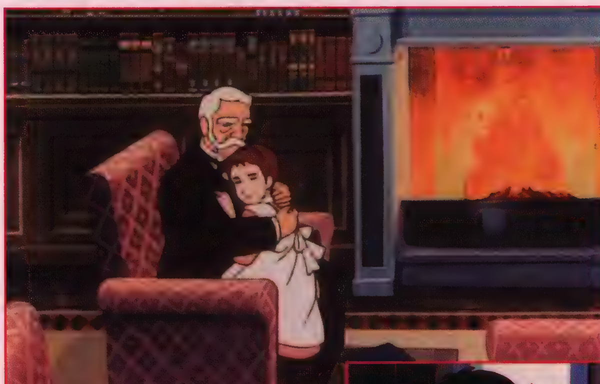


私…、私、
お礼に来たんです。
だって、あんまり、
うれしくって…。


ローレンスはベスがひとりでお礼に来るとは思ってもみなかった。




ローレンスの頬にキス。普段のベスからは想像できないような大胆な行動だ。


まるで本当のおじいさんと孫娘のよう。暖炉の明かりがふたりを優しく包む。


そっと見守るローリー。彼は何かとマーチ家に幸せを運んでくる。


マーチ家から聞こえてくるベスの弾くピアノに耳を傾け、幸せそうなローレンス。


このエピソード以降、ローレンスとベスの間には、深い絆が生まれた。



母をたずねて三千里

放映期間 ● 1976/01/04~1976/12/26

アルゼンチンに出稼ぎに行ったお母さんからの連絡が途絶えた。母を思う一心でマルコはひとり、旅に出る。



母アンナが海を渡って1年後。兄のトニオも鉄道学校へ行き、マルコは父ピエトロとふたり暮らし。マルコは家事だけでなく、自分も働いて家計を助けたいと願っていた。



「忘れずに手紙を一、
母さんに手紙を！」
——アンナ（1話）



ところが母からの手紙が途絶え、マルコは心配になる。アルゼンチンに行けたら…。マルコの思いは募った。あの日、笑顔で母を見送れなかった悔いがマルコの胸によみがえる。



不安と焦りがマルコを突き動かす。密航を企てたマルコに、ピエトロは母の消息を託し、送り出してくれた。



アルゼンチンへ行くというペッピーノ一座との出会いもつかの間、マルコは再び別れの辛さを味わうのだった。



Opening













母をたずねて三千里
名場面集

「マルコ、おまえって子は本当にどこまで…」
——ペッピーノ（36話）



バイアブランカへ——。原作にはないペッピーノ一座の登場が、マルコの一途な想いと違う視点で旅を共にし、奥行きを与えている。



ジェノバからリオへ——。



嵐の移民船。

大型船フォルゴーレ号から始まったマルコの旅。リオデジャネイロで乗り換えた移民船、バイアブランカへの馬車旅、ロサリオまでの船旅。汽車の旅、インディオの兄妹との出会い、牛車の旅……どれほどたくさんの出会いがマルコを支えたのだろう。



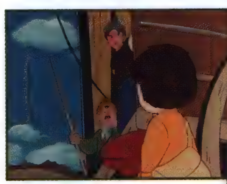
ロサリオ——移民船で一緒だったフェデリコ爺さんとの偶然の出会いが、絶望の淵にいたマルコを救う。マルコを支えた市井の人々のなんと逞しく、血の通う人であることか。



ブエノスからロサリオまでの船旅。



コルドバで。



牛車の旅、そして——。



はるかな北へ。

「素晴らしかったんだ、
ぼくの旅」
——マルコ（52話）

ジェノバへ帰る途中、旅で出会った人達と次々に再会していくという、嬉しい大団円が用意されている。





全てはこの瞬間のために——。



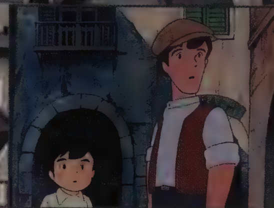
メモリアル Story

—第7話—

屋根の上の小さな海



お母さんがアルゼンチンに行って1年後のある日。マルコが生まれ育った家から引越すことが決まる。揺れるマルコの思いと、後半の人形使いのフィオリーナとの出会いを従来のTVアニメを超える映画的手法で情感豊かに描きあげる。



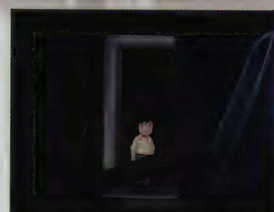
引越先は目の前の家。あれこれ想像していたマルコとトニオはきょとんとする。



マルコはやり場のない悲しみを、がむしゃらに働くことで紛らわせた。



しかし引越先の家はガラクタだらけで、屋根から望む海も小さく、マルコは失望する。



今度の家は海が見える、母と自分をつなぐ海が…。それを慰めに母の思い出が詰まった家からの引越を納得したマルコ。

途中、ジロッティの店に行っている間に片付けは終わり、父も兄も出かけ、マルコひとりが残される。

前と配置が変わった家財に寂しさを覚えたマルコは屋根へ出た。





まるで生きているように動く人形。



マルコはアメデオを追ううちに、ふしぎな人形を見つける。



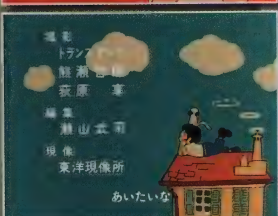
操っていたのは、以前町で見かけた人形一座の少女フィオリーナ。オルゴールのBGMが、夢の始まりを告げるように流れる。

Ending

















「どうぞ」と部屋に招くフィオリーナ。鏡に映る芝居が心憎い。



アメデオが落とした人形を取ろうとするマルコ。フィオリーナがほうきを差し出す。

マリオネットの腕をほめるマルコに、フィオリーナは自分なんかダメなのだとつぶやく。



だから私はいつでもジュリエッタのお守り。



突然、屋根から現れた少年に、次々に自分のことを当てられ驚くフィオリーナ。やがてマルコの笑顔につられるようにフィオリーナにも微笑みが浮かんだ。





屋根の上、そこには大海原が広がっていた。

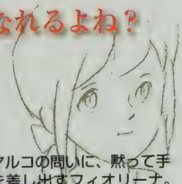


母を呼ぶマルコ。母に捨てられた過去を持つフィオリーナはふしぎそうにマルコを見つめる。

ぼくたち、友だちになれるよね、…なれるよね？







マルコの問いに、黙って手を差し出すフィオリーナ。彼女にとって生まれて初めての友だちだった。



若草物語
ナンとジョー先生

放映期間 ● 1993/01/17～1993/12/19

若草物語のジョーが開いた学校プラムフィールドに、かつてのジョーに負けないおてんば娘、ナンがやってきた。



ひとりでコンコードへやってきたナン。約束よりも1時間も前だ。迎えを待たずに意気揚々とプラムフィールドへ向かう。鞄から覗くバットが持ち主を雄弁にアピール。



運動神経抜群のナン。好きなことは野球にサッカー、走ること。



ボストンで出会ったダン。ナンの第一印象は「あんな奴大嫌い！」。



Opening













ナンとジョー先生
名場面集



向こう見ずで意地っ張りなナンを、ジョーは自分と重ね合わせて慈しみ導く。

「大人になると誰もが忘れてしまう。自分がかつては子どもだったことを」
——ナン（1、40話）

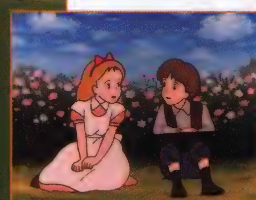
「……ただいま、お母さん」
——ダン（23話）





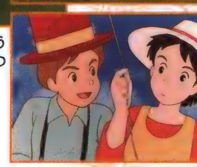
挫折や試練をひとつずつ乗り越えながら、成長していく子供達。





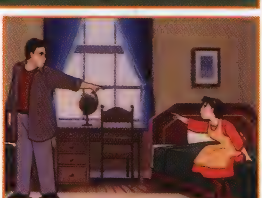


プラムフィールドの小さなロマンス。それは恋というにはあまりにも不器用で幼い想いだった。やがていつしかナンもダンに惹かれていく。

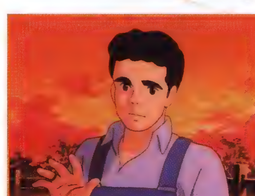


「わたしは別れが好きです」
——ジョー（40話）





ダンとの別れの朝。この日を境に、子供達は自分の夢へ歩き始めた。



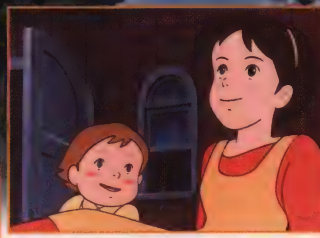
ナンがダンに託した指輪。ダンはもうかつての「無法者」ではなかった。信じる人の存在がダンに勇気を与える。

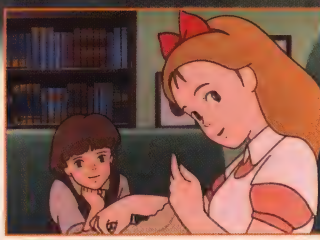
メモリアル
Story

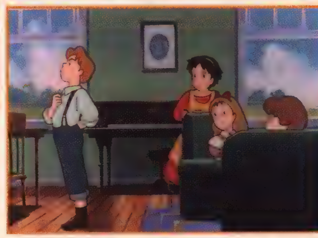
—第20話—
大きくなったら何になる？

ナンの夢。それは消防士だったり機関助手だったり。みんなはそれを笑うが、たったひとり、かつてのおてんば娘ジョーだけは本気で受け止める。
胸をすくようなナンの言動に加えて、演出のテンポの良さと台詞の妙。そしてあの若草物語時代のジョー再来が嬉しい痛快な一話。


ナンとロブとテディは雲が何に見えるか当てっこ。のんびりしたいつもの朝だった。


子どもの時はクジラになりたかったとナン。ナン達はそれぞれ将来の夢を語り出す。

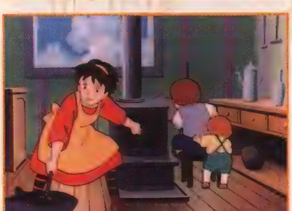

「私はすてきなお母さんになりたい」デーズィの言葉にうっとり聞き入るナット。そしてナットは世界的なバイオリニストだとデーズィ。

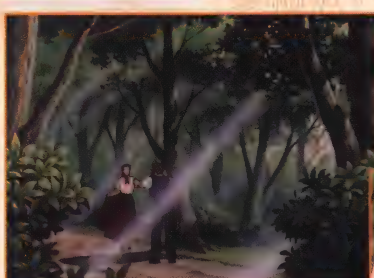

トミーの夢は億万長者。トミーの計算によると、ニワトリの卵がやがて豪邸になるらしい。




ナンの夢は一昨日までの夢は消防士だった。トミーの豪邸を消火するナン消防士の勇姿！

そして今は機関助手。機関助手なら機関車に石炭がくべられるから。これがナンによるイメージ。かっこいい！

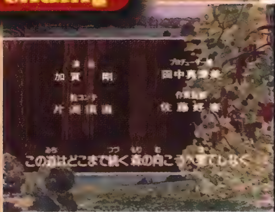

有言即実行？　さっそく釜焚きの特訓を始めるナン。石炭の入れすぎであわれストーブは壊れてしまう…。

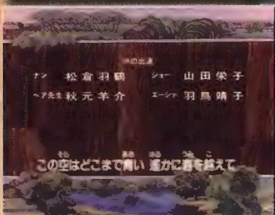


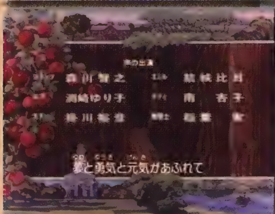
子供達の将来への夢を語るジョーとフリッツ。穏やかで優しい物腰のジョーが、後半と好対照に描かれる。



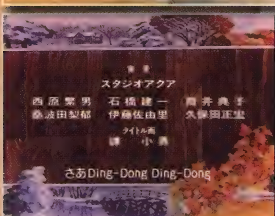
Ending

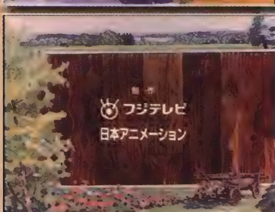


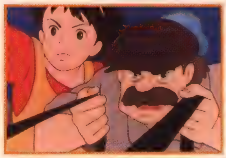












「駅へ向かって！」人生の一大事というナンの剣幕に通りすがりの農民はすっかり乗せられる。



女の子は機関助手になれない。笑われたナンは強い決意をみなぎらせ学校を後にする。

機関車に石炭くべたいっていうあたしの気持ちは変わらないわ！





事の全容を知るやジョーの態度は一変。フリッツから馬車を強奪すると、全力疾走で駅へ！

「甘いわ！」。ナンを知るジョーだけが本気だった。



慌てて報告に来たトミー達に、落ち着いて対応するジョー先生だったが…。



強引な運転で荷馬車と接触。トミー達を降ろすと「この場は任せたわよ！」。

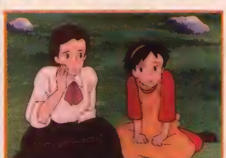


唖然とするふたり。「…前から思ってたけど、ジョー先生とナンって似てない？」「…似てる」。



本物の機関車にナンは大喜び。鮮やかな手つきに機関士も気づかず駅を出発。

世界中が笑ったっていいじゃない。私はナンの夢を支えるわ。

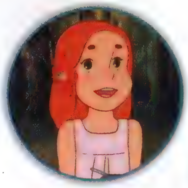




ふたりして機関士に叱られる。でも機関士はナンの釜焚きを認めた。また石炭くべに来い！



危機一髪で汽車から転落するナンを受け止めたジョー。ジョーはここへ来る間中ワクワクしてたとナンに白状する。



ふしぎな島のフローネ

家族ロビンソン漂流記



放映期間 ● 1981/01/04～1981/12/27

オーストラリアへ向かう途中で遭難したフローネ達一家がたどり着いたのは無人島。無事に島を脱出する日まで、力を合わせて生きていくサバイバルストーリー。

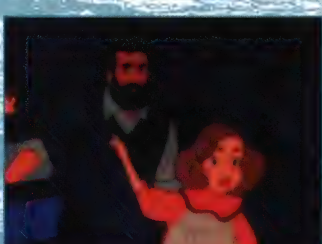


見るもの、体験するもの、すべて初めて。無人島の暮らしは好奇心旺盛な少女フローネをわくわくさせる。



事の起こりは、オーストラリアからの一通の手紙だった。

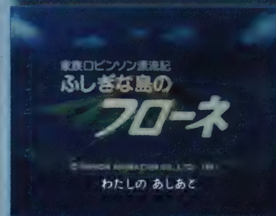
「あったかい
地面っていいな」
――フローネ（[illegible]）



一家の乗ったブラックバーン・ロック号は、大嵐に巻き込まれた。フローネたちは、救命ボートに乗り遅れてしまう。

Opening













ふしぎな島のフローネ

名場面集

「あたしたちは家族5人も
一緒にいるのよ。
助け合うことができるわ」
――フローネ（35話）



嵐は収まり一家は全員無事。浜辺に着いたフローネは、寝転んで大地の感触を確かめる。

上陸したのは無人島だった。一家は力を合わせて木の家をはじめ、道具や畑を作り、島で暮らすことにする。

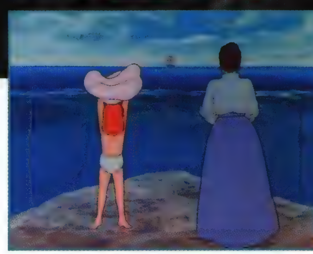




医者という職業ながら何でもできるお父さん。この父がいれば無人島でも無敵。



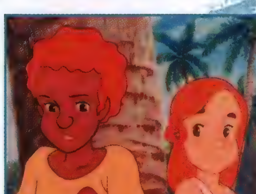
雨期を迎え、一家はは住まいを洞窟に移す。洞窟内の川の温度変化で、火山島の噴火が近いことを知る。



見張り台から沖を通る船を見て合図を送るフローネたち。しかし船は無情に遠ざかる。島での暮らしは長くなりそうだった。



噴火を前に島を脱出する。船乗りモートンの知恵が一家を救う。

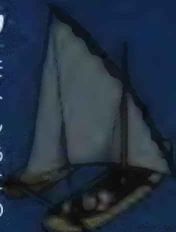


後から漂着したタムタムとモートン。タムタムはフローネにオーストラリアに来る白人はみんな嫌いだと語った。モートンはただひとり自分に親切だった人だという。



―第43話―
戻ってきたモートンさん

フローネ達の後から島に漂着したモートンとタムタム。気難しいモートンは何かと一家とぶつかった。そしてある日モートンは大事なカヌーもろとも消えてしまう。失意と困惑に沈む一家だったが、後にモートンの真意を知る。



メモリアル Story

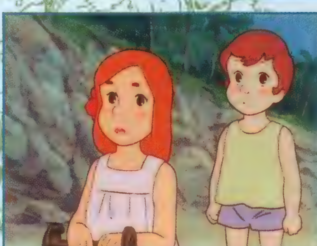


タムタムを置いて消えたモートン。困惑する両親らをよそにタムタムに教わったブーメランの練習をするフローネとジャック。





モートンの帰りを信じてじっと海を見つめるタムタム。タムタムのモートンへの信頼は何があっても揺るがなかった。





数日後、沖にモートンが乗っていったカヌーが漂流しているのを発見。カヌーには衰弱しきったモートンが…。命に別状はないものの脱水症状を起こし、強い日差しでひどい火傷を負っていた。

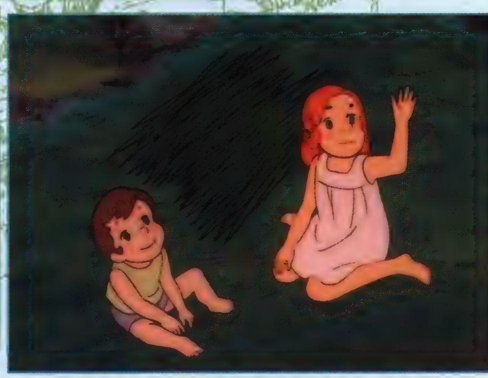
モートンに冷たい水を運んできたフローネ達。エルンストは急にたくさん飲ませてはダメだと言う。

こんな俺でもいた方がいいか？



自分がいない間ロビンソン一家は親切だったかと尋ねるモートン。やっぱりモートンにいてほしいとタムタム。彼はモートンの本当の優しさを知っている。

俺 モートンさんと いた方がいい。



モートンの看護のために、以前作った別の木の上の家を使えるように修繕する一家。フローネはタムタムに笑顔が戻ったのを喜ぶが、アンナは早くもモートンと険悪ムード。

Ending



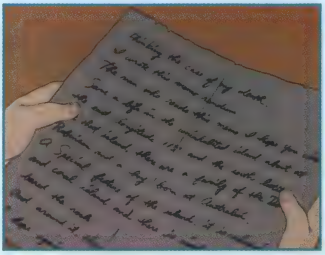














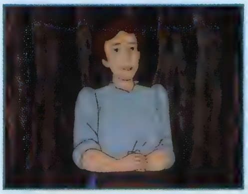
モートンとはうまくやっていけないとこぼすアンナにエルンストは浜で拾ったモートンの手紙を見せる。

一重ねて言う 至急救助に向かってほしい一

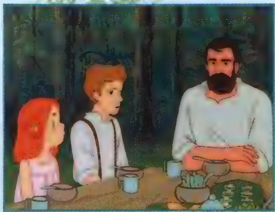




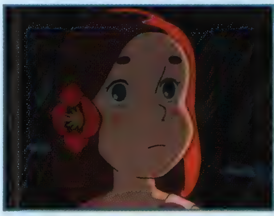
モートンはひとりではるか沖合を通る船に救助を求めに行ったのだ。持参した手紙にはもし自分が助からなかった場合、至急ロビンソン一家とタムタムの救助に向かうよう書かれていた。



モートンと何かとぶつかるアンナも、自分の料理をモートンがタムタムの分まで平らげたと聞き、表情が和らぐ。



ぶっきらぼうな態度とは裏腹に、シャイで心優しいモートンの真意を知った一家。タムタムがあんなにもモートンを慕う理由を理解する。



何が話し合われているのだろうかと、見守るフローネ。ついに翌日からモートンの指揮で新たな脱出計画が動き出す。



その晩、エルンストはモートンに呼ばれ、島からの脱出方法を話し合った。



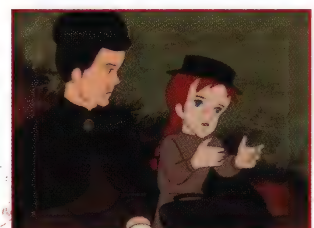
赤毛のアン

放映期間 ● 1979/01/07 ~ 1979/12/30

孤児院の手違いでグリーンゲイブルズに来た、燃えるような赤い髪の少女アン・シャーリー。その大きな瞳は溢れんばかりの希望と想像力をたたえて輝いていた。



駅にいたのは望んでいた男の子ではなく女の子だった。しかし内気ではにかみ屋のはずのマシュウも、いつしかアンという少女に不思議な魅力を感じ始める。



しかしアンの生い立ちを聞くうちにマリラの心は揺れた。やがてマリラはアンを引き取ろうと決心する。



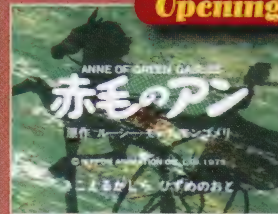
兄のマシュウと違ってマリラは現実家だった。アンに手違いであるときっぱり告げる。

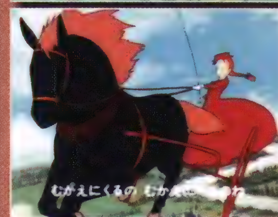
「実のところあたしも
あの子が好きなんだよ」
——マリラ（7話）





Opening







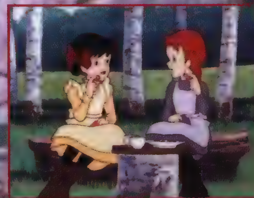






赤毛のアン
名場面集

「何かを楽しみに待つところに喜びの半分があるんだわ」
——アン（11話）



「明日という日は
何一つ間違いが起こっていない
新しい日だって思うと素敵じゃない？」
——アン（22話）



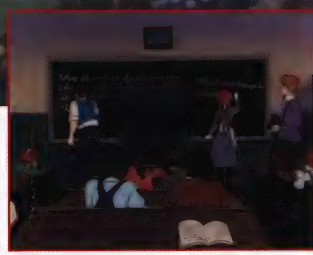
「にんじん、にんじん」。赤毛のことを言われてアンは激高。ギルバートとはこれを境に絶交するが、やがてその怒りはライバル心へと変化していく。



何事にも思い入れたっぷりに取り組むアン。しかしそのひたむきさがとんでもない失敗を次々に呼び寄せてしまう。



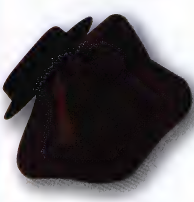
「1ダースの男の子より
お前にいてもらう方がいいよ。
いいかい、1ダースの男の子よりもだよ」
——マシュウ（46話）

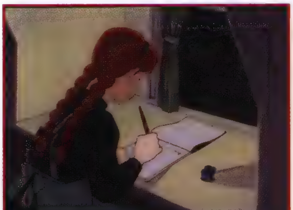




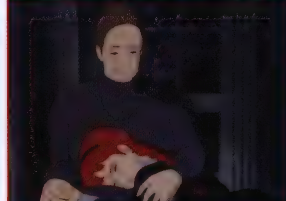
愛情に包まれた家庭、よきライバル、よき友、よき師に囲まれ、アンは美しく花開いていく。

—神は天にいまし、
すべて世は事もなし—





人生の曲がり角を迎えて、アンは後悔なく安らぎに満ちた思いで友に宛てて今の抱負を綴った…。



最愛のマシュウを失ったグリーンゲイブルズ。悲しみの中でマリラは封印していた心を解くようにアンへ愛を注ぎだす。

メモリアル Story

—第32話—

生涯の一大事

アンはシャーロットタウンに住むダイアナの叔母、ミス・ジョセフィンの招待を受ける。シャーロットタウンで開催される博覧会を見においでというのだ。娯楽と縁がないグリーンゲイブルズを離れ、島一番の都会でダイアナと暮らす夢のような数日…アンにとって、それは生涯の一大事ともいえる出来事だった。



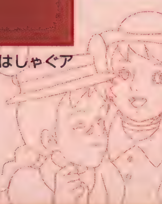
シャーロットタウンには、以前島へ来るとき通過しただけ。見る物すべてがアンには新鮮。



屋敷の豪華な調度品に、まるで宮殿みたい！とはしゃぐアン。こんな住まいをどれほど憧れただろう。



ジョセフィンは賢く機知に富み愛情深いアンが好きだった。歓迎の印にアンのためにとっておきの客間を用意してくれる。

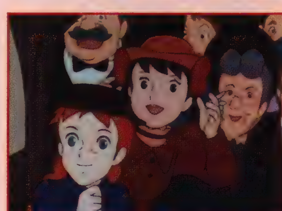




プリンスエドワード島の大多数の住民はスコットランド系の移民。博覧会のバグパイプの演奏に、母国への忠誠と誇りが表れている。演奏曲は『スコットランド・ザ・ブレイブ』。



熱狂と興奮のうちに終わった第一夜。しかし「小さい頃ほしいと思ったものでも、大きくなっていざ手に入るとその半分も素敵じゃない」。夢が現実になってみると、たちまちその色を失っていく事実にアンは困惑していた。





早速、博覧会見物に出かけるアンとダイアナ達。娯楽をほとんど知らずに育ったアンのみならず、こういったイベントは島中を熱気に包む。そこかしこにおらが村意識が垣間見えて面白い。



自分には都会の生活が合うというダイアナ。しかしアンはどこか違和感を感じる。ふたりの価値観の違いが、この話以後次第に明確になっていく。



アンはジョセフィンに心から感謝しつつも、都会はどうかとの問いに「私は田舎の方が好き」と打ち明ける。



あんな子をいつも手元においておけるなら……
あたしだってもっと幸せな人間になれるだろうに。





アンを見送るジョセフィンの顔が悲しみの色に変わる。アンの不在が、何物でも埋まらない心をいやでも思い起こさせた。



孤独なジョセフィンにグリーンゲイブルズのマリラの映像が重なる。温かい灯を点し、迎える準備が整ったその家は、そこにいるべき少女を待ち望んでいた。



バリー家への挨拶ももどかしく、我が家へ駈けていくアン。





帰路。徐々に夕闇に包まれていくアボンリー。木々の隙間から懐かしいグリーンゲイブルズの明かりが見え、アンの焦がれる思いを映像化する。

でも、一番よかったのは…、一番よかったのは、
うちに帰ってくることだったわ。

Ending





マリラはアンのその言葉にうれしそうに頷く。グリーンゲイブルズの普段通りの暮らし。そこに幸せを見いだしたアン。そしてそれは生涯揺るぐことのないアンの強さになる。





あらいぐま ラスカル

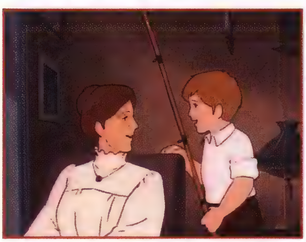


放映期間 ● 1977/01/02 ~ 1977/12/25

あの5月の晴れた日、ウェントワースの森でラスカルと出会った。黒いマスクの可愛いやつ——。ラスカルと過ごした日々を描いたスターリングの自伝的物語。



ある日、オスカーとウェントワースの森に釣りに出かけたスターリングは、そこでアライグマの赤ん坊に出会う。



ミルウォーキーの病院に入院していた母が退院する。喜ぶスターリングだったが、母のガンはすでに手遅れの状態だった。



スターリングは母親を亡くしたアライグマにラスカルと名付けた。ラスカルのやんちゃぶりに手を焼きながらも懸命に世話をする





突然母は帰らぬ人に。葬式が終わり、ひとりぼっちの夜、スターリングはこらえきれずに泣き出す。そばに来て慰めたのはラスカルだった。

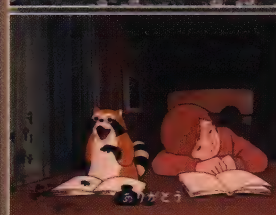
Opening















一度はラスカルとの別れを決意するスターリング。しかしラスカルはスターリングを追いかけてきた。





トウモロコシの味を知ってしまったラスカルは近所の畑を荒らすようになる。スターリングがラスカルと無邪気に過ごす自由な日々は終わろうとしていた。



「僕はオスカーの友情が何よりもうれしかった」。



おませでかわいいアリス。周囲の人間ドラマも『ラスカル』の魅力。



ラスカルの檻での生活が始まった。スターリングはできるだけ一緒に過ごそうとする。





父の経営していた農場が全滅。家も人手に渡ることに。スターリングは父と農場で働くか、ミルウォーキーに進学するか決断を迫られる。

「おまえは僕の本当の友だちだね、ラスカル」
――スターリング（14話）

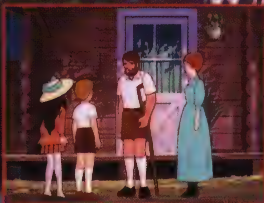
あらいぐまラスカル
名場面集



ミルウォーキーへ出発する前夜、とうとう恐れていた別れの時が訪れる。一瞬ためらうラスカルに、スターリングはそっと促す。

「いいんだよ、ラスカル。行っていいんだ。僕らの別れるときがとうとう来たんだ」
――スターリング（52話）

メモリアル Story



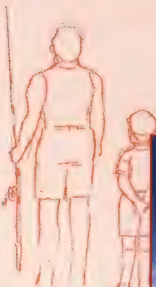
森を案内するはずだったカールは、小熊をかばって足をけがしてしまった。

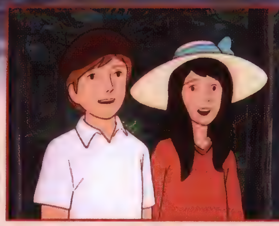


—第24話—

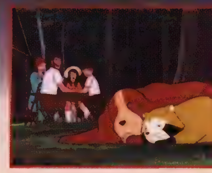
走れ走れぼくらのカヌー

“ラスカルの檻を作ること”大人達との取り決めはスターリングを苦しめていた。そこにカールからスリーレイクスへの招待状が舞い込む。アリス達とスリーレイクスを訪れたスターリングは、人間と動物が仲良く暮らす生活にすっかり魅了される。





動けないカールは、スターリングに自分だけで湖を探検してみないかと提案。アリスはすかさず「私もいく！」。

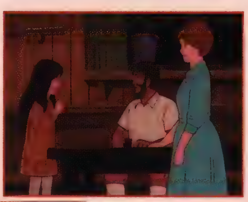


ラスカルはすっかり犬のジンジャーと意気投合。





それなら、と、カールの鬼の特訓が始まった。カヌーのこぎ方やテントの設営の仕方をみっちり学ぶ。



食事は全部自分で作ると張り切るアリス。でも実はパンを焼いたこともない。姉のフローラが笑って助け船を出す。



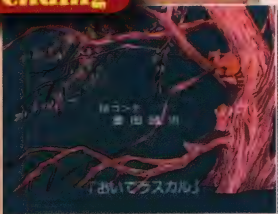
なにやら怪しげなアリスの料理の腕に、スターリングはちょっと不安気。ともかく準備は整った。

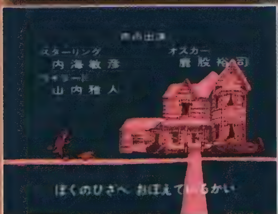


一方、クラリッサはウィラードとスリーレイクスに向かっていた。

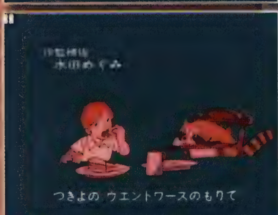


Ending

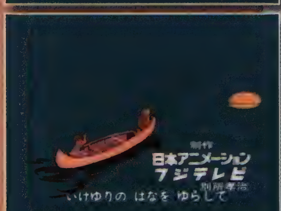




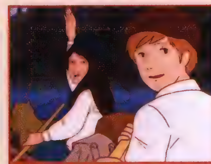












翌朝カヌーで出発するふたり。さっそく釣りを始めると、いきなりアリスの竿に当たりが…。





竿はスターリングに代わり、アリスはタモを握りしめる。揺れるカヌー、暴れる魚。しかも大物だ！

何でもない
何でもないの。
だからほっといて。



無我夢中で釣り上げたふたり。張り詰めていた緊張が解け、アリスが泣き出す。何が何だかわからず戸惑うスターリング。



釣ったマスを慣れた手つきで料理するスターリング。アリスは案の定パンを焼き忘れてしまう。



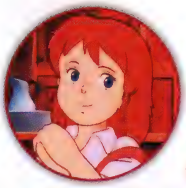
「やれやれ今日のパンクは4回だよ。おかげで私は腹ぺこさ」クラリッサご到着。





夜、涙のわけを話すアリス。言葉が途切れ、そっとハモニカを口に当てるスターリング。台詞と間が、まるで映画のワンシーンのようだ。静かにカメラは引いていく。

だからね
泣いていてとっても気持ちがよかったの。



愛少女ポリアンナ物語（ストーリー）

放映期間 ● 1986/01/05～1986/12/28



Opening





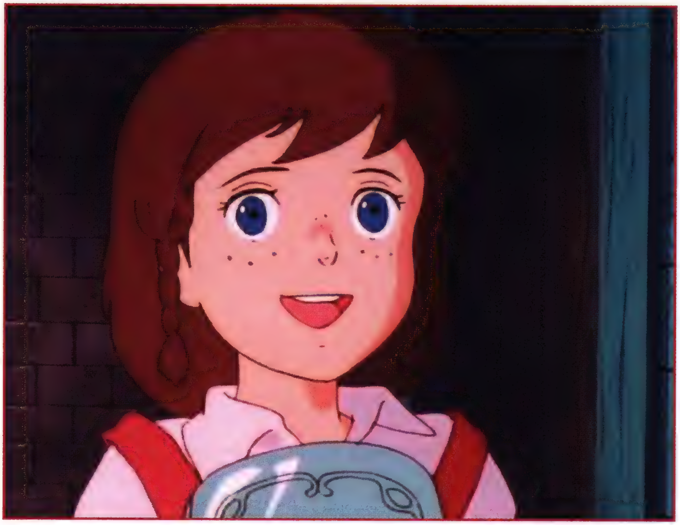








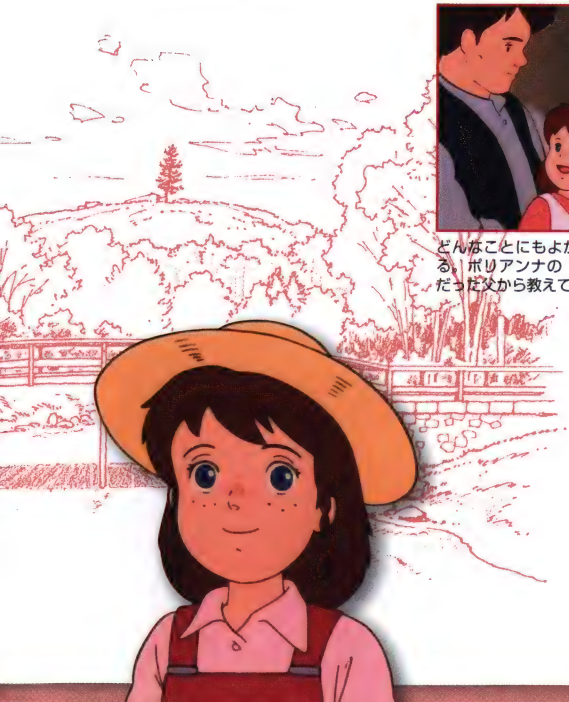
**どんなことからも「よかった」を探しだしてしまうポリアンナ。
幸福と喜びがポリアンナからあふれ出す！**



明るく元気な少女、ポリアンナ。父も母も亡くしたこの少女は、遠い東部の見知らぬ叔母パレーの元に引き取られることになった。

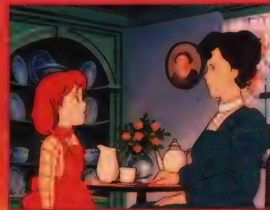


どんなことにもよかったと思えることがある。ポリアンナの「よかった探し」は牧師だった父から教えてもらった遊びだった。



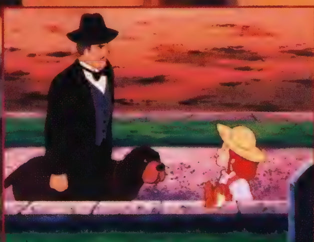
愛少女ポリアンナ物語
名場面集

「わ〜い！　よかった!!」
——ポリアンナ

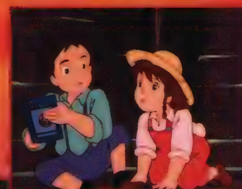


ハリントン家は大きな屋敷だった。叔母に会えて喜ぶポリアンナに、パレーは冷たく当たる。

「家庭には婦人の手と心と、
子どもの存在が必要なんだよ」
——ペンデルトン（19話）



気むずかし屋ペンデルトンの心を開くポリアンナ。ポリアンナとの出会いが、人々と運命を少しずつ変えていく。



ポリアンナは孤児院を飛び出した少年ジミーに家庭を見つけてあげようと奔走する。



ポリアンナをおそった不幸なはずの事故が、もつれた糸を一気にほどいてしまう。一番救われたのはパレーだった。



チルトン先生の寂しさに心痛めるポリアンナ。彼女は人の悲しみを放っておけないのだ。





最後に明かされる大きな秘密。そして大団円を迎える。



車いすの少年ジェミーこそカリウ夫人の行方不明の甥だと信じるポリアンナ。



ボストンの名家の主人カリウ。不本意ながらポリアンナを預かる羽目になる。

メモリアル
Story

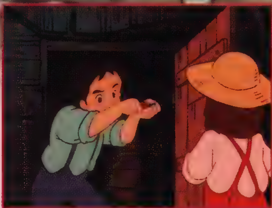
—第18話—

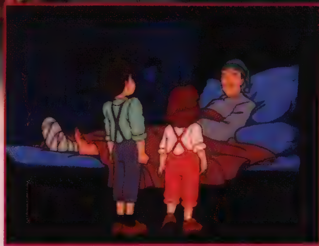
ペンデルトンの謎

困っている人を放っておけないポリアンナ。ポリアンナは孤児のジミーに家庭を見つけてあげようと方々を当たるが、誰もジミーを引き取ろうとしない。ジミーは森に家を作ろうと決意。ポリアンナも一緒に手伝うのだった。



最後のネジを締め、ついにジミーの小屋が完成した。お城ができたと大喜びのポリアンナとジミーだが、その森はペンデルトンのものだった。





変人の噂を知るジミーはペンデルトンが怖い。しかしペンデルトンは笑って家のことを認めてくれた。

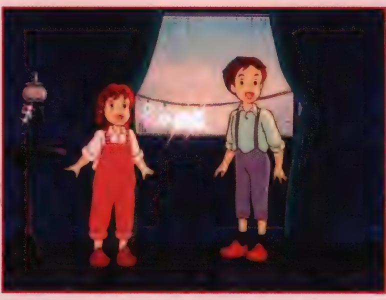
「おじさま、ジミーったらねえ、この家は今にも骸骨かミイラが出てきそうだって、すごく怖がってたのよ」。



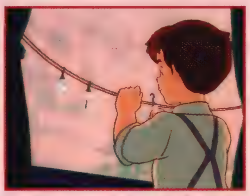
わあ、虹の赤ちゃんよ。



ポリアンナとジミーは部屋の中で虹色の光を見つけた。







誰とも口をきかなかったペンデルトンもポリアンナとの出会いを機に、柔らかい表情を見せるようになっていた。

ペンデルトンの言うとおりに燭台の飾りを窓辺に吊してポリアンナとジミーが部屋の中を振り返ると、そこには…。

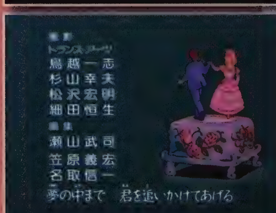
Ending







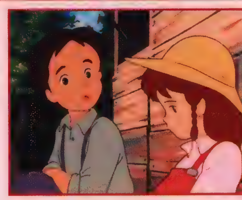








まるで虹の国にいるみたい！
私この虹をみんなに
あげたいわ。



だが、ペンデルトンはパレーの名前を耳にした途端、不機嫌になった。ポリアンナにはなにがなんだかわからない。



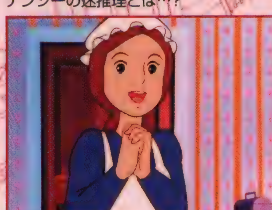
その日、ポリアンナは熱を出して寝込んでしまった。しだいにポリアンナに愛情を感じ始めていたパレーは優しく看護するのだが…。

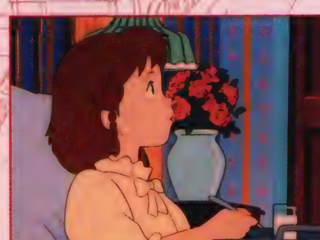




パレーもチルトンの名を聞いた途端、顔色を変える。

ポリアンナの話を聞いたナンシーはペンデルトンの秘密は解けたと目を輝かす。ナンシーの迷推理とは…？





複雑な大人の事情がよく飲み込めないポリアンナ。



私のあしながおじさん



放映期間 ● 1990/01/14～1990/12/23

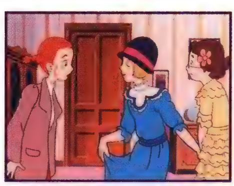
拝啓、あしながおじさま――。ユーモアと想像力に溢れたジュディ。3年間の学園生活は今、始まったばかり。



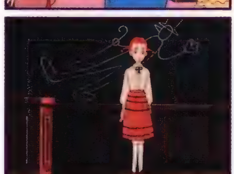
生まれてすぐニューヨークのスラムに捨てられ、ジョングリア孤児院で育ったジュディ。ハイスクールの奨学金のチャンスをつかもうと張り切るが失敗ばかり。



ジュディの作文が目に留まりハイスクール行きが決まった。しかしその人の名前は明かされない。追いかけるジュディに長い影が伸びる。



同室のジュリアとサリー。孤児院育ちのジュディは、マナーも常識も知らない。



どこにいっても浮いてしまうジュディはひとり教室で孤児院を思い出していた。



ただひとりの身内はおじ様。

Opening







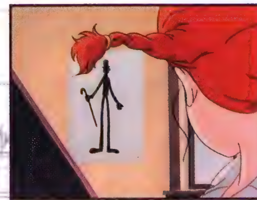


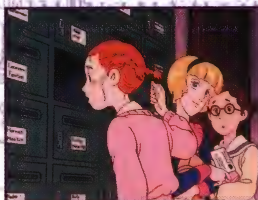




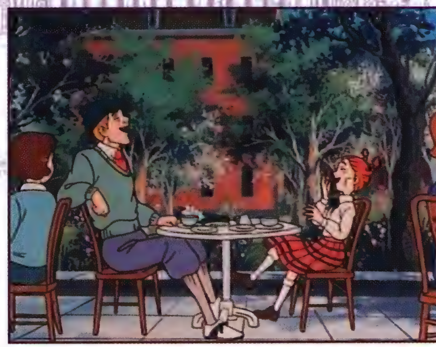
私のあしながおじさん
名場面集

「アイスクリームだけで
太ってみたい！」
――ジュディ（4話）

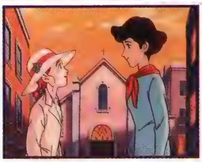




手紙にはいっさい返事はしない。それがおじ様からの条件。それは愛情に飢えたジュディには時に酷な事でもあった。



ジュリアの叔父ジャービス。自然体で“金持ちらしくない”彼に会ううちジュディは次第に惹かれていく。



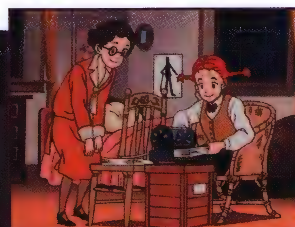
生まれた町を訪ねて知り合ったマーゴ。スラムで生きる彼女にジュディは励まされる。

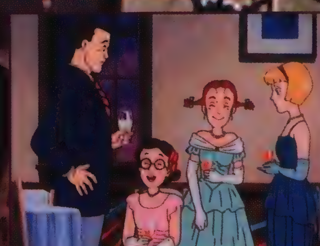


「今なら叔父様の気持ちもわかる」恋を通してジュリアも成長していく。



「私のあしながおじさん」の魅力は、ジュディ、サリー、ジュリアの友情と彼女らの成長だ。







「あしながおじさま、
聞いていらっしゃいますよね」
――ジュディ（39話）

卒業式の日、ジュディはついに隠し続けた自分の過去を明らかにする。過去から卒業するために…。そしてついにおじ様の元へ。

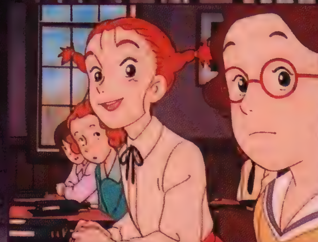


メモリアル
Story

—第6話—

嘘つきは嫌いですか？

リンカーン記念女子学園に入学したジュディ。今日は初めての授業の日。国語のメルノア先生は、「家族について」の作文を書くようにと宿題を出す。孤児院で育ったジュディは、何を書けばいいかと悩む。



どんな先生だろう。ジュディは期待に胸をふくらませ、ドアに注目する。

しかし、ジュディは『青い鳥』の作者は誰という質問に答えられず、初日から廊下に立たされてしまう。



もっと本を読まなくちゃ！　ジュディはサリーと図書室へ。ずらりと本が並ぶ壮観な眺めにジュディは感激。



ジュディの答えられなかった質問に明快に答えるジュリア。メルノア先生は「家族について」という作文を宿題に出した。



宝の山に踏み込んだ海賊の気持ちがよくわかるわ。



さっそくジュディは今までの人生を取り戻すべく多読！　乱読！

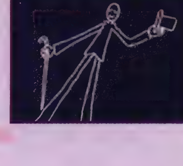
しかし返事はなかった。





作文について悩むジュディ。家族と呼べるのはおじ様だけ。でもおじ様のことは何ひとつ知らない。
「一度だけお答えください。おじ様はどんな方ですか？　ジュディにとっては大事なことなんです」





Ending













『家族について』。ジュディは悩んだあげく、事実に大いに脚色を加えて物語ることにした。ジョングリア孤児院を、親戚の屋敷、といった具合に。





…両親が亡くなったのはニューヨークにその冬初めて雪が降った夜…

…私の絵の才能を伸ばしてくれたのは使用人のリベット…。

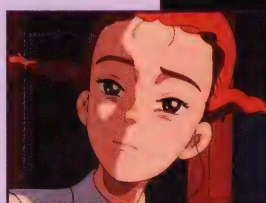


…私が引き取られた親戚の家は広い屋敷で、庭師たちがいつも掃除してくれ…。



…そんな使用人達を取り仕切るのはおじ様。おじ様はやさしくて、私のドレスも選んでくださる…。



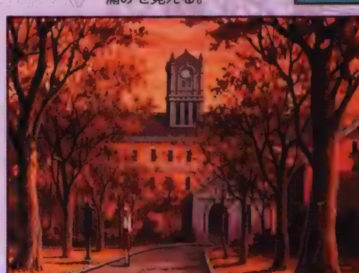


"おじさまが服を選んでくれる" そうよジュディ、それは本当のことだわ。これでいいですよね？　おじさま…。

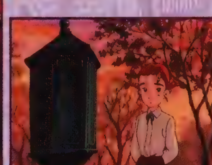
まるで私の…私の…
…パパみたいな
おじ様なのです。



ジュディの作文は、メルノア先生の絶賛を浴びた。ジュディは戸惑い、心に軽い痛みを覚える。



作文のことを手紙に書いたジュディ。「お願いです、返事をください――嘘つきのジュディ・アボットより」。





大草原の小さな天使

ブッシュベイビー

放映期間 ● 1992/01/12～1992/12/20



Opening





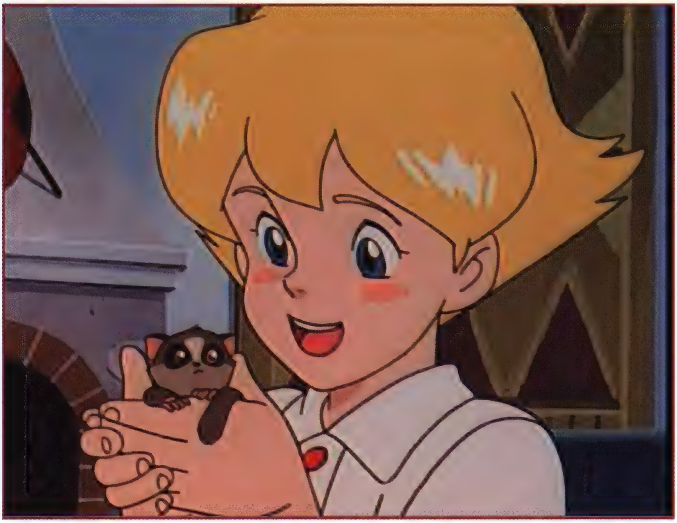








さようならアフリカ。マーフィを野生に返すため、ジャッキーはカンバ族の戦士テンボと旅に出る！



親をなくしたブッシュベイビーは育たないという。しかし苦心の末、ジャッキーはとうとうミルクを飲ませるのに成功する。





前半はケニアの自然保護の実情を追いつつ、マーフィの成長とジャッキーの日常生活がコミカルに展開する。



帰国を目前にしたある日、密猟者に遭遇したジャッキー。思わずバケツをかぶって身を隠す!?

ブッシュベイビー
名場面集

「私はここで生きてきましたから」
——テンボ（28話）



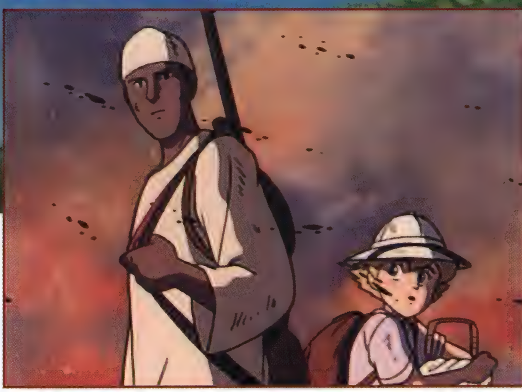
「信頼してるわ、テンボ」
——ジャッキー（32話）



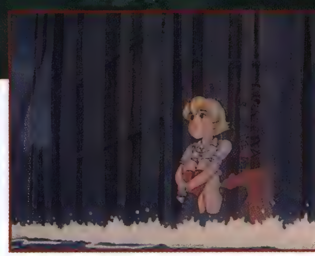
不運が重なり、ひとりアフリカに取り残されてしまったジャッキーは、密猟者に追われていたテンボと行動を共にする。



国外持ち出し許可証を無くしたジャッキーは船を降り、マーフィと別れようと決意するが…。

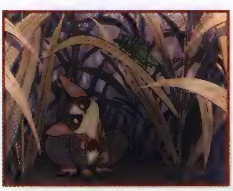


野生動物や密猟者に追われ、野火や洪水に遭う中で、ジャッキーはサバンナでの掟を知る。ジャッキーを支えたのはテンボとの絆とマーフィへの愛情だった。



マサイ族の少女サフィナと、降り続く雨を見つめる。旅はまもなく終わろうとしていた。

「もう大丈夫だわ、マーフィ。
あんたは一人で生きていける」——ジャッキー（34話）





最後に出てきた許可証。しかしジャッキーの心は決まっていた。



決壊した線路を救うため、マーフィに手紙を託す。怖がるマーフィに、ジャッキーは心を痛める。

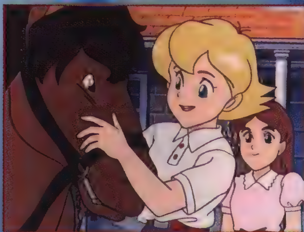


メモリアル
Story

—第21話—

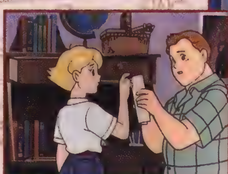
さよならケイト

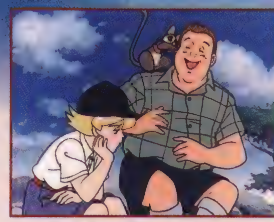
ケニア独立とともに、次々とイギリス人はアフリカを離れていた。そして野生動物保護官のジャッキーの父は仕事をやめなくてはならなくなり、とうとう本国へ帰ることになった。ジャッキーたちのケニアを離れる日が近づいていた。

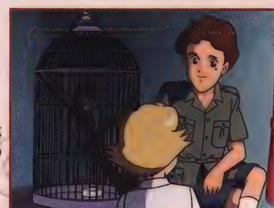

愛馬マンダリンをケイトに託すジャッキー。辛い別れだった。

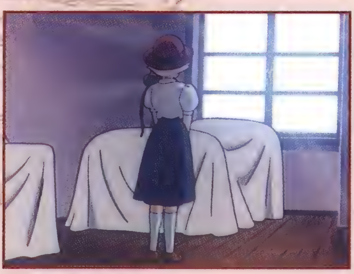




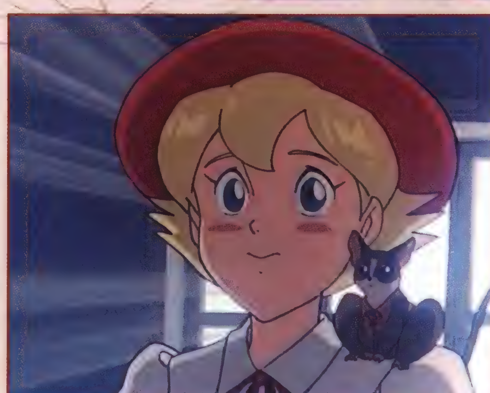

ようやく許可証がもらえた！　喜ぶジャッキー。しかしミッキーはマーフィのイギリス行きを執拗に反対する。


マーフィはまだ自分でエサもとれない。イギリスに連れていくほかないと悩むジャッキーだが、マーフィを国外に連れ出す許可書がまだ交付されない。


兄のアンドルーは、大事にしていたカメレオンのペンを野生に返すつもりだと打ち明ける。
ジャッキーは心が揺れる。

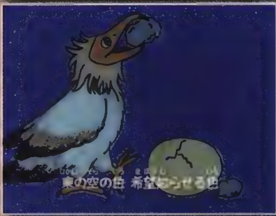

そして出発の朝が来た。


ナイロビまでジャッキーはクランクショウ博士の飛行機でいくことに。"いつか飛行機に乗せる"その約束を博士が守ったのだ。感激するジャッキー。


家具には白い布がかけられ、もう次の家の主を待っていた。ジャッキーの胸に、万感の想いがこみ上げてくる。

Ending





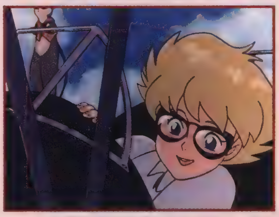


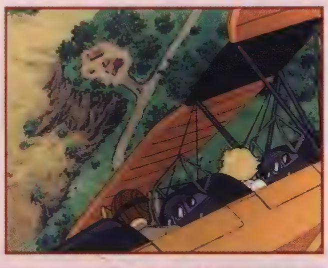






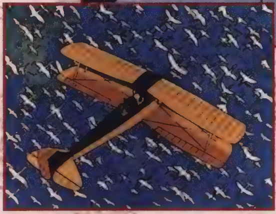
初めて見た空からの眺め。ジャッキーはもう一度我が家に別れを告げる。



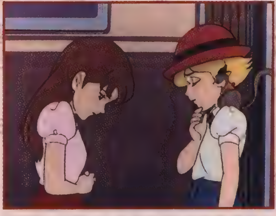


すてき、空から見るのってすごくすてき！





この日のために博士は飛行機をふたり乗りに改造してくれたのだ。出発の時間まで、飛行機はサバンナを飛んだ。音楽、映像ともに忘れがたい名場面。



「お別れは言いたくない」。伝える言葉を探すケイトとジャッキー。

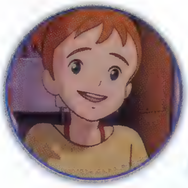


モンバサまでテンボが見送りに来てくれることになった。



ホームを離れ、見慣れたサバンナの景色が次々と飛び去っていく。誰も言葉なく立ちつくしていた。



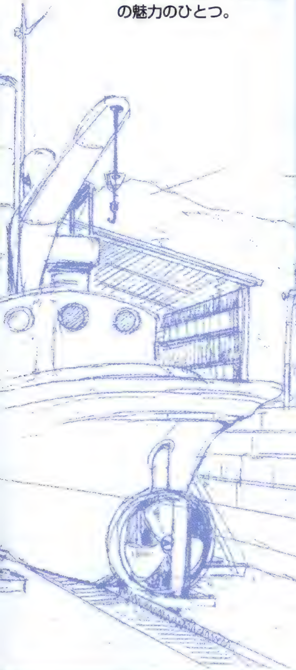


七つの海のティコ

放映期間 ● 1994/01/16～1994/12/18

ナナミとシャチのティコは生まれたときからずっと一緒。父さんとアル、そして新しい仲間達とともに、ヒカリクジラを求めて、今日もペペロンチーノ号は錨を上げる。





ティコとナナミの華麗な水中シーンは、この作品の魅力のひとつ。



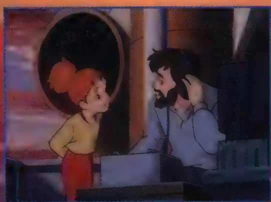
ティコの子どもジュニア。まだまだお母さんを独り占めしたい甘えっ子。

Opening



七つの海のティコ
名場面集

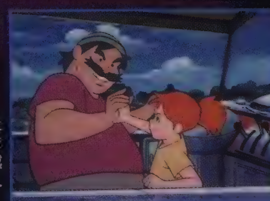
「あきらめちゃいけない。夢をあきらめたら
夢の方も私たちをあきらめてしまう…。
そんな気がするの」——ナナミ（35話）





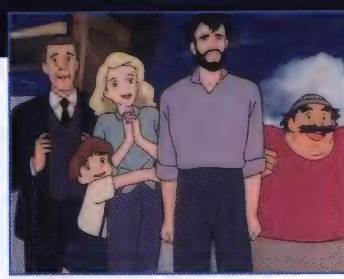
「ねえ、父さん、これからジュニアを
ティコって呼んでいい？」——ナナミ（24話）





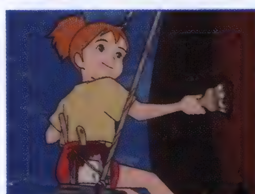
ペペロンチーノ号の上ではみんな家族。さまざまな出来事を乗り越えて、固い絆で結ばれていく。





ナナミの喜びも悲しみも、いつもそばで受け止めてくれたティコ。別れは突然訪れた。







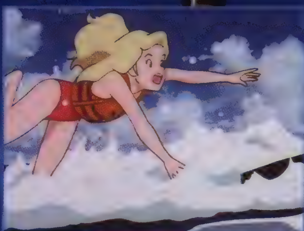
父の夢、そしてそれはナナミの夢。ヒカリクジラを求める旅の終わりに、奇跡が起こる。

メモリアル Story

—第31話—

シェリルとスコット 無人島の一夜

本放送時、特別番組の関係で放映されなかったという逸話を持つ31話。ほとんどティコとナナミが出てこない単発エピソードながら、シェリルの内面の変化が興味深く描かれている。

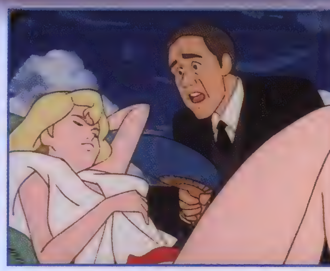


ゲイルが持ち込んだジェットマシン。ナナミはすぐに乗りこなせるようになるが、シェリルはまるでだめ。

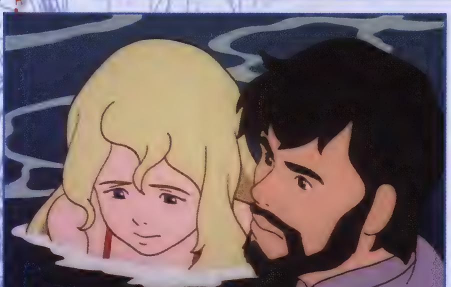


あたしが助手席で満足するような女に見えて？





シェリルはすっかりおかんむり。飛行機なら操縦できると、ゲイルの飛行機を無断借用。



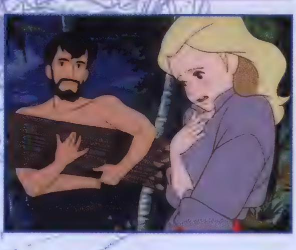


ところが飛行機がバランスを失い、迷走をはじめる。すぐにスコットが救出に向かうが、着水できずに墜落してしまい、ふたりはペペロンチーノ号から遠く離れた島に流れ着く。

名家の一人娘として我がまま放題だった彼女も、今は心から自分を恥じ、詫びた。

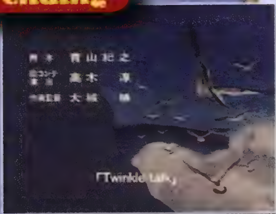


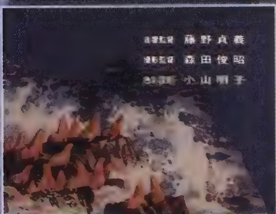
スコットは救出の準備に余念がない。ひとり浜辺に残され所在ないシェリルはスコットの服に袖を通してみた。

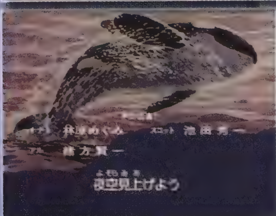


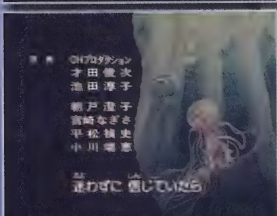
スコットの服を着たところを見られ、思わず赤面。スコットは「?」。

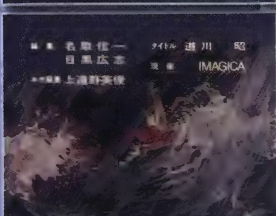
Ending

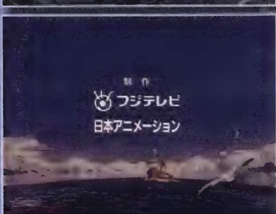




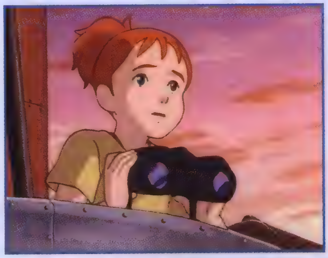


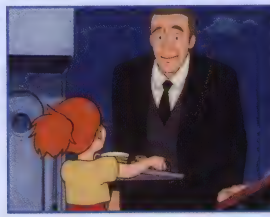






心配で何も手に着かないジェームス。いつもと逆にナナミからお茶をサービスされて思わず笑顔が戻る。

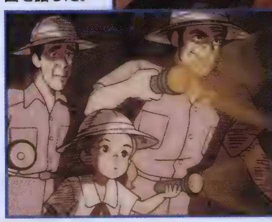




とはいえ、ナナミも戻らないふたりが心配なのだ。とうとう日が沈んでいく。

シェリルはスコットに、幼い頃父と行った探検の思い出を話した。

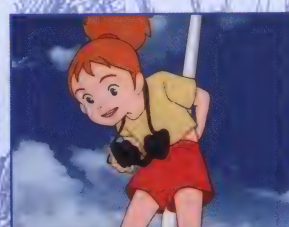




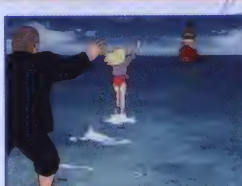
火を焚いて焼いた魚を食べるふたり。おいしいと喜ぶシェリルは、スコットに「やっといつもの君に戻った」と言われて赤らむ。

ほんとに夢中なのね、ヒカリクジラに…。
ヒカリクジラは子どもの頃からのあこがれだからね。





見つけた！翌朝ペペロンチーノ号の仲間に明るさが戻る。



ゲイルの愛の言葉も、ジェームスの涙も、今のシェリルには上の空。ときめく気持ちのままに駆け出していく18歳！



名作劇場に登場する動物たち アメリカ・ワールド編



母をたずねて三千里

アメデオ

ブラジル原産のサル。別れても別れてもついてくる、可愛いヤツ。おとぼけ度も最高。





あらいぐまラスカル

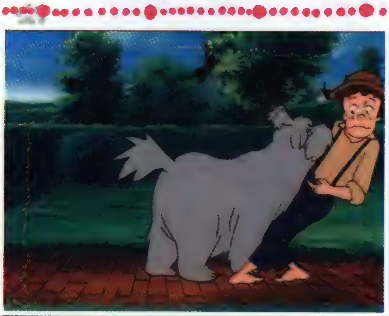
ラスカル

どこまでも人間くさい愛すべきあらいぐま。あの声でミャーと啼かれたらといたずらも許す?!





ラスカルの宿敵ポー。



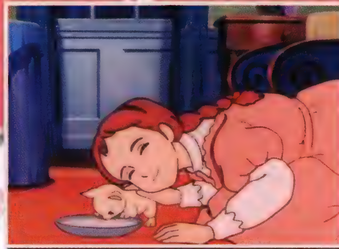
トム・ソーヤーの冒険

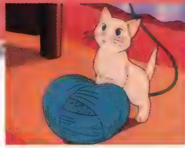
シーザー

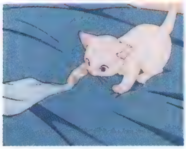
ベッキーの愛犬シーザー。トムはにっくき恋敵。



ポリー叔母さんの飼い猫、ピーター。









愛の若草物語

ミルキーアン

ストーリーに絡まないサブキャラながら、可愛い仕草で目が離せない、万年子猫。




ティコジュニアもよろしく。

七つの海のティコ

ティコ

テレビのフレームに入りきれない大きな体！ ティコのジャンプは何度見ても美しくて爽快！




『ふしぎな島のフローネ』メルクル（左）ジョン（上）



『愛少女ポリアンナ物語』チップマック

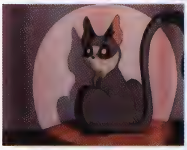
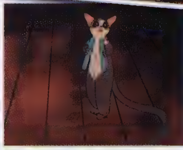


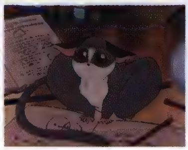
『南の虹のルーシー』リトル（左）モッシュ（右）



『ナンとジョー先生』クリストファー・コロンバス





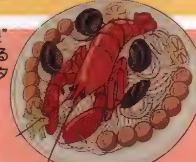

ブッシュベイビー

マーフィ

坊ちゃん育ちの甘えん坊。主人公を困らせるのは、名作ペットのお家芸。

おいしい名作劇場♪ アメリカ・ワールド編





"イタリアの星"でマルコに振る舞われたパスタ（40話）。

食のイタリア！『母をたずねて三千里』では、イタリア北部リグーリア地方の海鮮料理、パスタ、チーズにワインがテーブルに並んだ。











アルゼンチンに渡ればワイルドなガウチョ風肉料理ばかり。ソーセージ（27話）と特大ステーキ（22話）、以上『母をたずねて三千里』でした。





『七つの海のティコ』はイタリア南部シチリア風。北部と違ってトマト料理が多いのが特徴。もちろんペペロンチーノも山盛りで登場（14話）。

『トム・ソーヤーの冒険』（14話）





（4話）



（34話）



船弁拝見！『七つの海のティコ』の場合。魚介類は不自由しないが、野菜は保存の利くイモや果物中心。でも味は食通イタリア人のアル担当で、かなり期待できるハズ。

アメリカ中南部に住むトムの食卓は、南部風（？）チキン料理がよく食卓に上った。
野性味溢れるナマズやマス料理もアメリカの少年の物語には欠かせない。料理が得意なスターリングなら、キャンプ料理もちょっと手が込んでいる。



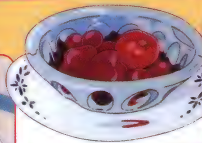
『あらいぐまラスカル』（24話）



『南の虹のルーシー』は出身地イギリス、ヨークシャーの料理。当時スポンサーだった食品会社への計らいか、物語中にマヨネーズを作る場面がある。油は少しずつ入れるのがコツ（32話）。

★あのシーンに出てきたとっておきのスイーツ★

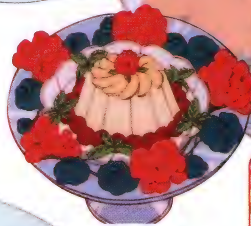




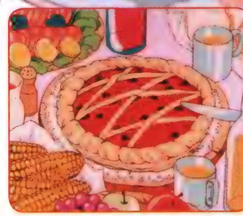
『赤毛のアン』
バリー家のお茶で
（18話）



『ブッシュベイビー』
ケニア流フルーツ盛り合わせ
（22話）



『愛の若草物語』
ジョーの元気なお見舞い
（20話）



『愛の若草物語』
パパのお帰りピクニック
メニュー（1話）









『赤毛のアン』
アラン牧師夫妻を招いて
のお茶会メニュー
（22話）

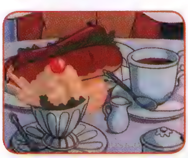




『愛少女ポリアンナ物語』
アイスクリーム（1話）

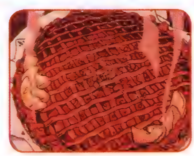


『あらいぐまラスカル』
フローラのフルーツゼリー
（34話）



『私のあしながおじさん』
ホットドッグとパフェ
（15話）





『ナンとジョー先生』 舞踏会のための手作りお菓子（左、19話）とデーズィの涙のアップルパイ（右、27話）。

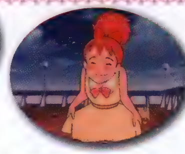
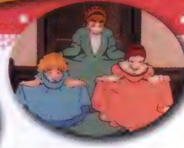


『私のあしながおじさん』ラブラブアイスクリーム（9話）



おしゃれな名作劇場♪ アメリカ・ワールド編



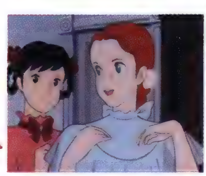




19世紀半ばのヨーロッパから20世紀末まで、名作劇場の時代設定は多彩である。日常生活を描く時に欠かせないのが服飾。少女たちを、若いご婦人方をコーディネートしてくれるのが、キャラクターデザイナーだ。服に時代を映しながら、美しく装う彼女たち。その姿はまさに名作劇場の華！

なかでもこだわりを見せてくれたのが近藤喜文氏。『赤毛のアン』『愛の若草物語』では、小物に至るまで正確に考証されている。



キャラクター設定では単に服のデザインを決めるだけではなく、動きや見せ方まで想定した絵が起こされる。

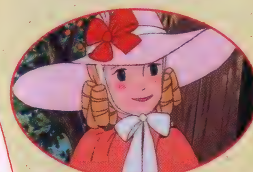
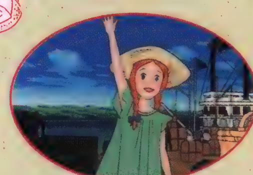
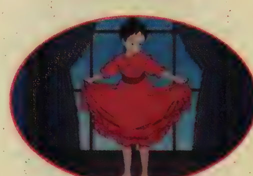
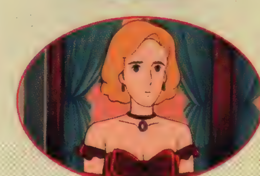



『赤毛のアン』（左40話、右41話）。

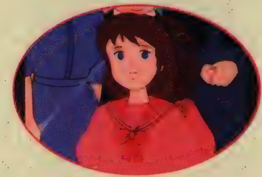


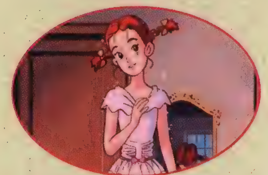
1914年の設定だった『あらいぐまラスカル』のアリスは、衝撃的なスカート丈で登場。（遠藤政治氏デザイン）。

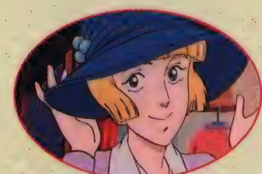


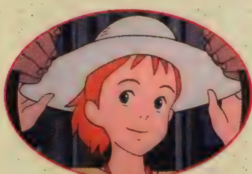





















服飾の資料は、アメリカで発行されたシアーズなどの当時の通信カタログなどが参考になっている。スタッフは作品の設定年をもとに、靴や帽子などの小物まで調べた。



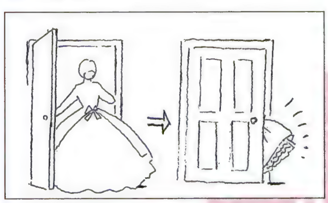
19世紀後半～20世紀初頭、子供服にセーラーカラーが大流行。



『私のあしながおじさん』は1920年代の物語。年頃の女学生らしく、ジュディらは当時の最新流行スタイルを着用。

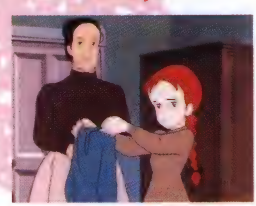


『愛の若草物語』の舞台となる1860年代には、スカートをふくらませるためクリノリンというかご形の下着をつけていたが、作画上の都合であえて省略。ペチコートの重ね着でふくらませている設定にした。裾の長いパンツも、当時の流行である。









服へのこだわりの描写が絶妙だった『赤毛のアン』。

ロケーションハンティング（ロケハン）

名作劇場のクオリティを支えていたのが、作品の舞台を訪ねて取材するロケハンだった。まだ海外旅行が珍しかった時代、監督以下スタッフを伴い綿密に現地を回った。ロケハン当時の写真から、スタッフが実際に見た風景を見てほしい。改めてアニメの背景の力、再構築の技に驚かされる。

あらいぐまラスカル

『あらいぐまラスカル』は実話である。スタッフが訪ねたのは、アメリカ、ウィスコンシン州の原作者ノースが少年時代を過ごした家と町。豊かな自然を描くため、ウィスコンシン州北部にも足を伸ばした。（1976年取材）





原作者スターリング・ノースが少年時代を過ごした家。外観はそのままアニメで使用。当時人が住んでおり、内部のほとんどはアニメのオリジナルとしてデザイン。



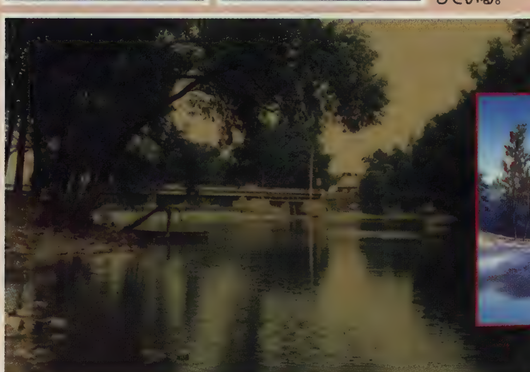




1. 近くの森で、ラスカルがいたような樫の大木を見つけた。
2. ノースの家の隣にあるメソジスト教会も、アニメではほぼそのままで登場している。



3. ノース家の中庭から教会方向を見たところ。この角度はアニメでよく使用された。 4. スペリオル湖で見かけた手作りカヌー。北部の自然は、北海道出身の井岡雅宏氏（美術監督）にはなじみ深い景色だったという。





ロックリバーのインディアンフォードダム。アニメに描かれた赤い鉄橋は取材時にはすでになく、昔の写真が参考にされた。

赤毛のアン

現在『赤毛のアン』の舞台として有名なカナダ、プリンスエドワード島。日本での人気に一役買ったのがこのアニメ。『ラスカル』同様、美術監督の井岡雅宏氏の詩情溢れるタッチが、島の魅力を余すことなく描き出した。（1978年取材）





あまりにも有名なグリーンゲイブルズ。原作のモデルの家といわれ、取材時にはすでにミュージアムとして公開されていた。





1. グリーンゲイブルズ2階のアンの部屋。アニメでは出窓の部屋に変え、装飾類を取り除いた。　2. プリンスエドワード島の風景。なだらかな丘を縫うように赤い道が見える。







3. グリーンゲイブルズの台所。ドアなどの位置は変えてあるがポンプ式の洗い場は、アニメで使用された。
4. 原作者モンゴメリを記念して建てられた郵便局が、アニメでも郵便局として登場。
5. 実際に農家を訪ね農作業や暮らしを取材するスタッフ。

取材時は鉄道の旅客部門は廃止されていた。そのため島の東端エルマイラに残っていた駅舎をアンが降り立ったハンターリバーの駅のモデルにしている。





ふしぎな島のフローネ





1. フローネの頭を飾ったハイビスカス。
2. フローネたちが流れ着いた浜を連想させる美しい入り江。





現地にあったフローネたちの木の家を連想させる大きなガジュマルの木。



『フローネ』のロケ先に選んだのは、ニューカレドニアとバヌアツ。バヌアツはロケハンの年に独立。政変下の1980年に取材。

南の虹のルーシー

南オーストラリアのアデレードがロケ地。すっかり近代的な都市に生まれ変わったアデレードから、初期の開拓時代のイメージを求めて、当時の家や道具を探す取材となった。(1981年取材)







3. アデレードを測量したライト大佐の像。彼はアニメにも登場している。アデレード市内。　4. 開拓当時の暮らしは博物館の取材が役に立ったという。

愛少女ポリアンナ物語

監督の楠葉宏三氏がファンだったという若草物語の舞台、アメリカ、マサチューセッツ州コンコードがロケ先に選ばれた。町のイメージは、アニメの画面に生かされている。(1985年取材)





翌年の『愛の若草物語』では、舞台が原作にない海辺の町に変更されている。『ポリアンナ』でコンコードを舞台にしたためだろうか。下は若草物語の作者オルコットの家（コンコード）。



南の虹のルーシー

SOUTHERN RAINBOW





南の虹のルーシー



放映期間	1982/01/10〜1982/12/26
話数	50話
原作	フィリス・ピディングトン「南の虹」
備考	82年文化庁こども向けテレビ用優秀映画作品賞受賞

History

まだ未開拓の南オーストラリア。もっとも初期の頃の移民の生活が描かれた物語である。

19C	1824	大陸名ニューホランドからオーストラリアに
	1825	蒸気機関車実用化(英)
	1836	南オーストラリアで入植開始
	▶1837	ビクトリア女王即位(英)
	1851	オーストラリアでゴールドラッシュ
	1868	明治維新(日)
	1869	スエズ運河開通(埃)
20C	1901	オーストラリア連邦成立
	1903	ライト兄弟飛行機を発明(米)
	1914	第1次世界大戦(〜1918)
	1929	世界恐慌
	1939	第2次世界大戦(〜1945)
	1967	アボリジニ、正規の市民権を獲得
	1969	アポロ11号月面着陸(米)
21C		

物語の舞台



オーストラリア最南部。まだ測量中で入植が始まったばかりのアデレードが舞台。



1837年

11月7日
- 南オーストラリアに到着

12月
- アデレードへ

1838年
- 家を建てる
- デイトン先生開業
- リトルを拾う

1840年
- アデレード橋開通
- ルーシー、記憶喪失に

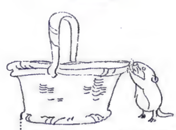
1841年

5月
- クララの結婚
- 農場を手にする

ストーリー解説

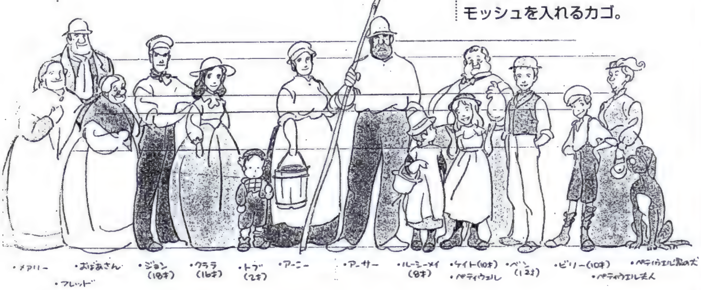
19世紀中頃、オーストラリア南部にあるアデレード。そこに理想の町を作ろうとイギリス人たちが入植を始めた頃の話。ポップル一家は、イギリスのヨークシャーから、農場を作ろうと夢見て上陸する。ところがたどり着いたアデレードはまだ測量が始まったばかりで、土地の取得もままならない。それでもポップル一家の娘、ルーシー・メイとケイトはすぐに新しい土地での暮らしに慣れていく。家の手伝いはたくさんあったが、オーストラリアのめずらしい動物や毎日の出来事は、好奇心おう盛なふたりにとって興味が尽きることがなかった。

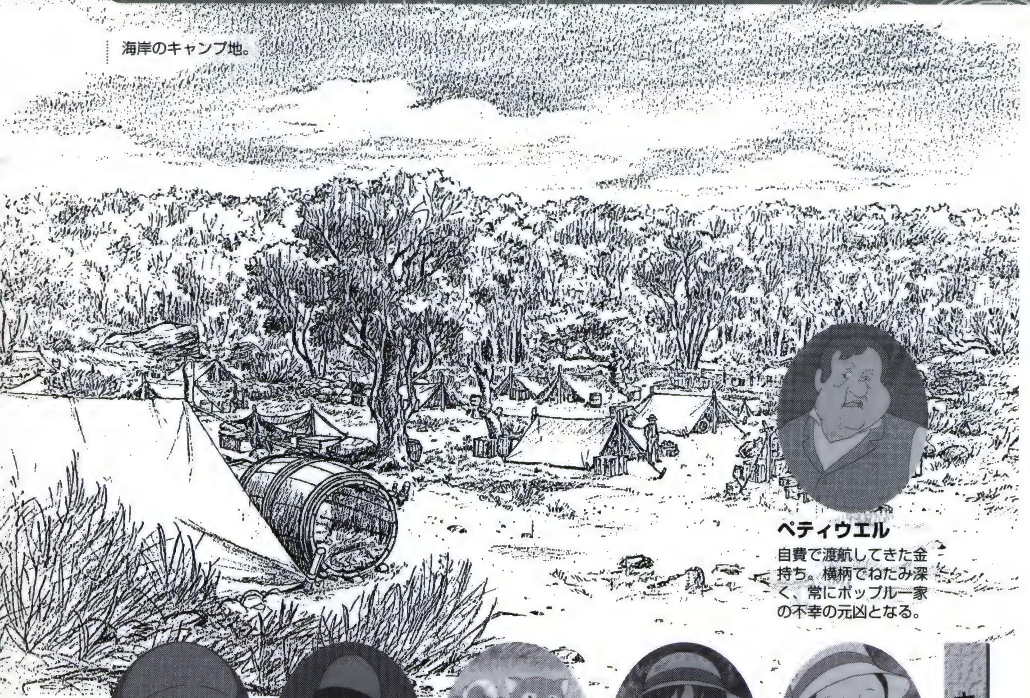
　しかし、いつになっても希望の農場が手に入らず、その日の生活に追われるうちに、いつしか一家の夢は遠のいていた。



モッシュを入れるカゴ。

メインキャラクター比較表。





海岸のキャンプ地。

ペティウエル

自費で渡航してきた金持ち。横柄でねたみ深く、常にポップル一家の不幸の元凶となる。

キャラクター紹介



アーニー

しっかり者で、理論よりだまって実行する主義。



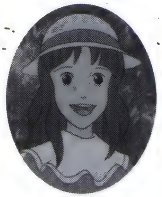
アーサー

広い農場を持つことを夢見てアデレードに来た農夫。頑固で酒には弱い。



リトル

小さい頃、ベンが見つけて保護したディンゴ。優しく賢いルーシーの親友。



ケイト

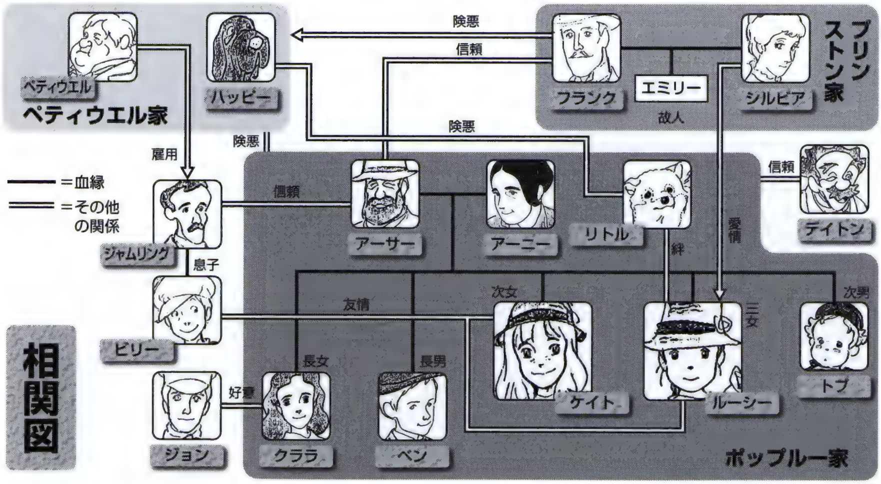
賢くて冷静なポップル家の次女。言動のはっきりした勝ち気な性格。



ルーシー・メイ

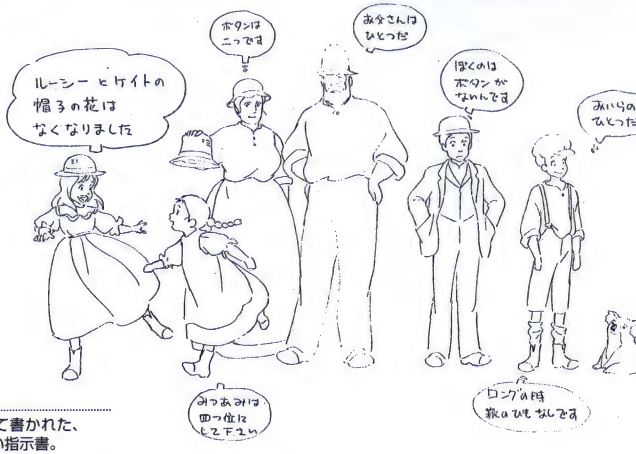
動物が大好きで好奇心がおう盛な、ポップル家の三女。なんでも飼いたがる。

相関図



ポップルー家

家族で南オーストラリアに移住してきたポップルー家。わずか2歳のトブから年頃のクララまで、年の離れた5人の兄弟姉妹がいる。そのなかでもルーシーとケイトは年も近く、いつも一緒に行動している。

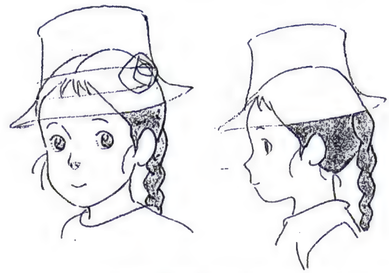


服の設定について書かれた、
制作当時の楽しい指示書。

ルーシー・メイ

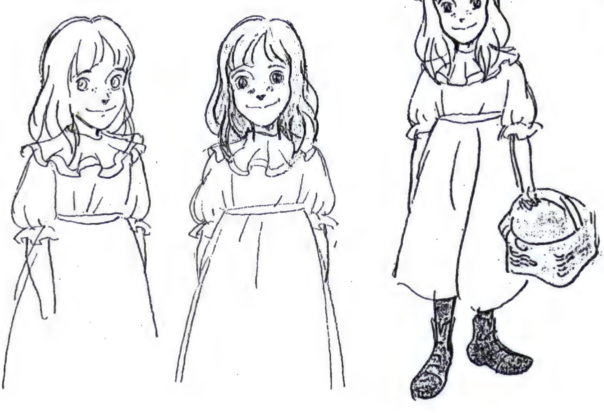


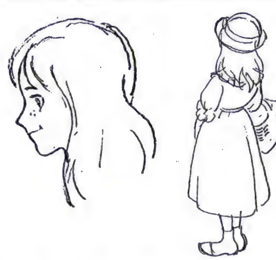




好奇心旺盛で何でも見たがり知りたがる、ポップル家の三女。動物が大好きで、イギリスからペットのハムスターを持ってきた。新大陸で出会う動物を、次々と興味を持ち、人に馴れないとされたディンゴを育てる。手先は器用だが、算数は苦手。すべてにおいてマイペースだが、実は鋭い観察眼を持っている。上陸時は7歳。（声：松島みのり）

ケイト

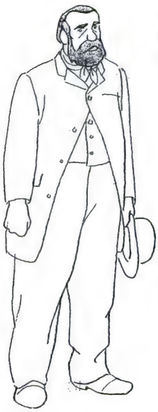




ポップル家の最強の次女。頭がよく口も達者。話術と駆け引きに関しては、たとえ相手がペティウエルだろうと、所詮ケイトの敵ではない。ルーシーのボケにツッコミを入れるケイトの会話シーンは、声の魅力もさることながら、この作品の魅力に大いに貢献している。物語はこのケイトのナレーションで語られている。上陸時は10歳。（声：吉田理保子）

アーサー

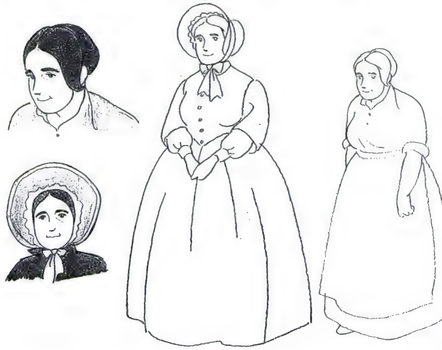
広い土地を持つことを夢見て、一家を引き連れ南オーストラリアへの移住を決める。しつけにはうるさい昔気質の頑固親父。でも夢が遠のくにつれ酒におぼれてしまう、名作劇場一人間くさいお父さんでもある。（声：堀勝之祐）





アーニー

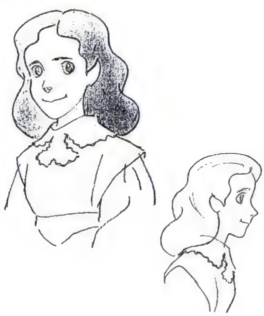
おっとりして優しく頼りがいのあるお母さん。どっしりとした存在感は、農場を得られず沈みがちな家族をもり立て勇気づける。一度農場を入手しそびれたときの「いつか虹のたもとへいける」は彼女の言葉。（声：谷育子）



クララ

ポップル家の長女で16歳。しっかり者で母を助け、妹弟たちの面倒をみる。一家が困窮したときは、パン屋で働いた。妹たちと違い、すでに大人として行動しており、密かにジョンとの結婚を夢見ている。
（声：玉川砂記子）





ベン

ポップル家の長男。14歳。力仕事は父にかなわないが、まじめで働き者のベンは、家族からも頼りにされている。でも本当は勉強が好きで、農業を継ぐより、医者になりたいと願っている。（声：松田辰也）



デイトン

（声：肝付兼太）

医者。元は船医としてオーストラリアまで乗船していたのだが、酔っぱらって帰りの船に乗り遅れ、そのままポップル家に居候する。







トブ

ポップル家の末っ子で上陸時は2歳。大家族のせいか放って置かれることも多いが、ひとりで面白いことを見つけて楽しんでいたりする。3年後、トブは見違えるほど可愛い少年に成長する！（声：鈴木三枝（現：一龍斎貞友））

設定ではトヴとなっていた。





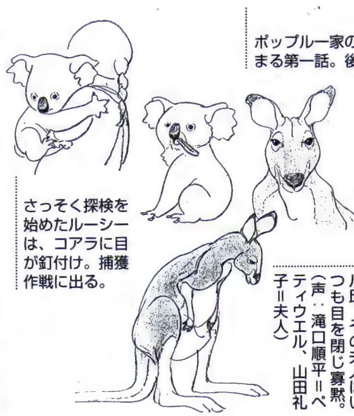
オーストラリアへ向かった子や孫たちを気遣う祖母達。もう二度と彼らに会うことはないのだろう。



ポップル一家の故郷イギリスの冬の農村風景から、叙情的に始まる第一話。後のオーストラリアの風景との対比が印象深い。



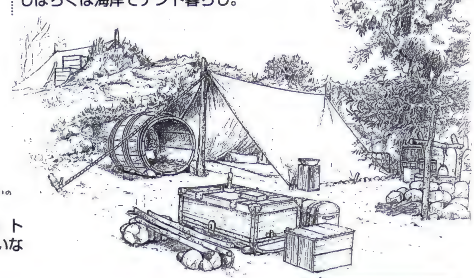
ルーシーが出会った原住民。英語は通じない模様。



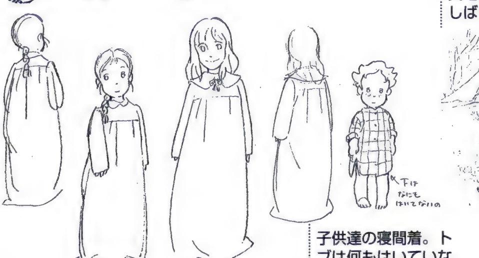
さっそく探検を始めたルーシーは、コアラに目が釘付け。捕獲作戦に出る。



初登場から一家の邪魔をするペティウエル氏。その夫人はいつも目を閉じ寡黙。（声：滝口順平＝ペティウエル、山田礼子＝夫人）



奥地の測量が済んでおらず、上陸してしばらくは海岸でテント暮らし。



子供達の寝間着。トブは何もはいていないらしい。

ストーリー紹介 1〜4話

1話 新しい土地へ

広い農地を求め、移住することを決意したポップル一家は、イギリスから3ヶ月の船旅の末、南オーストラリアの首都アデレード近くの海岸に到着した。

2話 可愛いヤツ

森へ水を汲みにやってきたルーシーとケイトとビリーは木の上で眠るかわいらしい動物を見つける。ルーシーはビリーにその動物を捕まえてほしいと頼む。

3話 かわり者

パーカーのテントを建て直してあげたアーサーとベンはお礼に羊の肉をもらうが、ちょっと目を離した隙にその肉をペティウエルの犬に盗られてしまう。

4話 はじめての探検

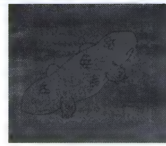
アデレードへ行く途中アーサーとベンは、森で怪我をして動けなくなったジャムリングを助ける。一方ルーシーとケイトはビリーと海岸を探検に出かけた。



アシカのいた浜辺。よく見ると中央に人物が描かれており、岩場の大きさがわかるようになっている。

オーストラリアの動物たち

マツカサトカゲ



オーストラリア東部や南部にすむトカゲ。全長30センチ。どちらが頭かわからないのは、敵におそわれたとき混乱させるため。



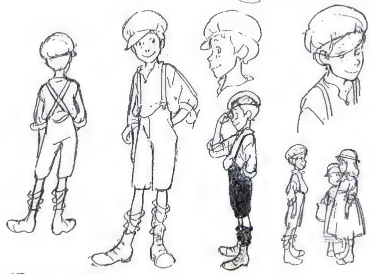
探検に出かけた入り江で、ルーシーたちは初めてアシカを見る。



ジャムリング夫妻。ポップルー家の隣人。
（声：水鳥鉄夫＝夫、花形恵子＝妻）



マツサカトカゲ。
ケイト、知らずに踏んづける。



ビリー
ケイトと同じ年で遊び友達。（声：鈴木三枝）



ルーシー達が上陸した海岸。浜には上陸者たちの家財が置かれ、うち捨てられた荷物まで描かれている。



ジョン
船内で何かと一家に親切にしてくれた水夫。クララに恋し、必ずオーストラリアに戻ると約束する。18歳。
（声：井上和彦）

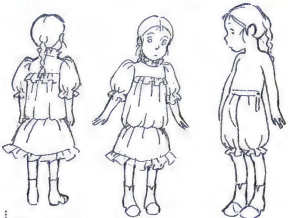
ストーリー紹介 5～8話

5話 雨のち晴
ジャムリングを助けて大雨の中、テントに戻ったアーサーは、沖に停泊する船から医者を連れてくるため、荒れる海へボートを漕ぎ出す。

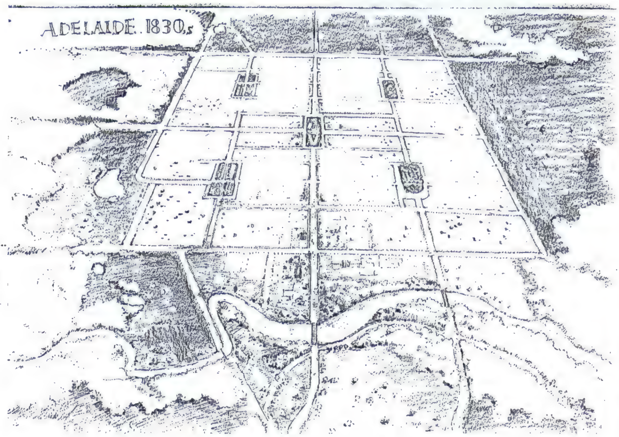
6話 アデレードという町
土地を探しにアデレードの測量事務所にやってきたアーサーとベンは、そこで、測量が遅れているため農地はいつ手に入るかわからないと告げられる。

7話 ベンの災難
夜になってもアデレードから戻らないアーサーとベンを心配するルーシー達。ふたりが帰り着いたのは夜遅くだった。翌日、ベンは海に流された樽を見つける。

8話 出発の前夜
荷物を運べるだけの牛車を雇うことができないため、アーサーは組立式の家を手放すことにする。パーカーの仲介でその家を買ったのはペティウエルだった。



川に流されずぶ濡れになったルーシーが着替えた服。12話のみの着用。



ライト大佐の都市計画に沿って開発中の1830年代のアデレード。手前がトーレンス川。



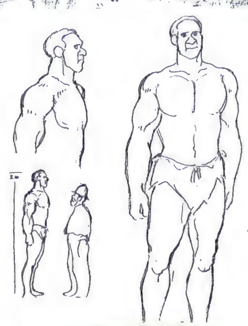


スティッキー
海岸近くの森でルーシーが見つけたヤギ。飼い主が見つからず、ルーシーが飼うことに。





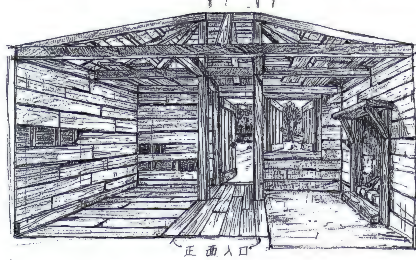
クララとケイトのバック。ルーシー達は海岸からアデレードまで10キロの道のりを歩く。



ルーシーは力持ちの彼を「ヘラクレスさん」と呼ぶことにする。身長2メートルの大男。（声：長堀芳夫）



海岸から家具だけは運んだが、牛車を借りるお金がなく、イギリスから持ってきた組立式の住居は売ってしまう。



アデレードの待望の新居。小さい粗末な小屋で、初めてこの家を見たルーシーたちはあまりのボロさに泣きだす。

ストーリー紹介 9～12話

9話　アデレードへの道
いよいよアデレードへ出発することになったポップル一家。荷物に付きそうアーサー達より先にクララ、ケイト、それにルーシーがアデレードへと向かう。

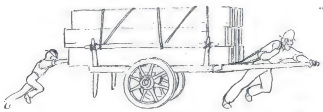
10話　緑の町
アデレードへ向かう途中、森の中で道に迷ってしまったルーシーたち。そんな時ケイトは何か獣が自分達の後をつけてきているのに気がつく。

11話　小さなわが家
アデレードに着いたルーシー達は、新しい家のみすぼらしさにショックを受ける。だが隣に住むジェーン・マックはルーシーたちを心から歓迎してくれた。

12話　アデレードの夜
川に流されたルーシーとスティッキーは原住民の男に助けられる。ルーシー達が無事で一家が安心したのもつかの間、今度はトブがいなくなってしまう。



美術設定に描かれた木を切るお父さん。単なる背景画ではなく、人物の所作やスケールまで伝わってくる。



すべてを自分達の手で運び、作る、開拓者の動作まで設計。



重い荷物を運ぶルーシー達。荷の重さが伝わる。

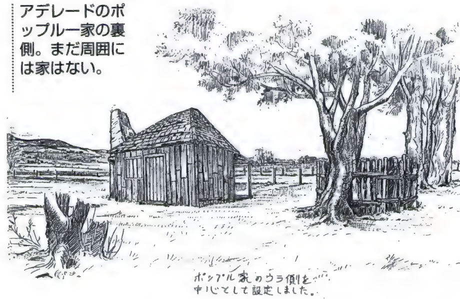
オーストラリアの動物たち

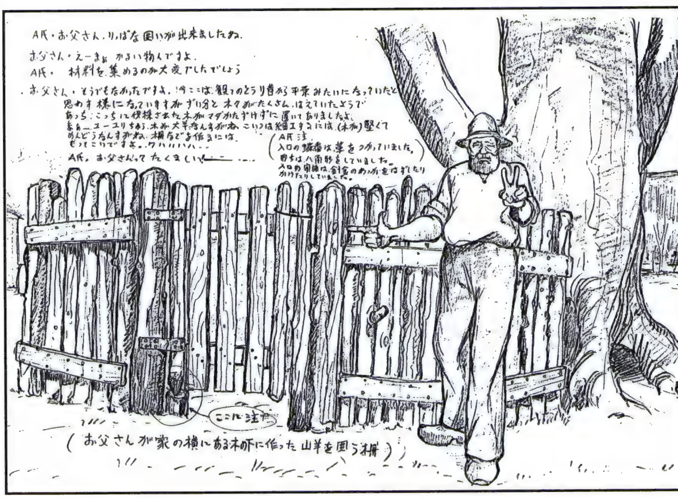
ディンゴ



元々オーストラリアの犬ではなく、一説によると4000年前に、アジアから連れてこられた犬。体長50センチ。いつも耳を立てており、うなることはあっても吠えないのが特徴。

アデレードのポップル一家の裏側。まだ周囲には家はない。





スティッキーの産んだヤギ。3匹生まれるが1匹はペティウエルの犬にかみ殺された。



こちらも楽しい設定画。お父さんとA氏（美術監督の阿部氏）の会話文に注目。『ルーシー』の美術は、ストーリーに絡まない細部まで凝っており、作品への愛情が感じられる。

ストーリー紹介 13～16話

13話 ベンがやって来た！

スティッキーが子供を産んだ。ルーシは子ヤギを見て大喜び。その頃浜ではパーカーの手配した牛車でベンとデイトンがアデレードに向かおうとしていた。

14話 たくましい男

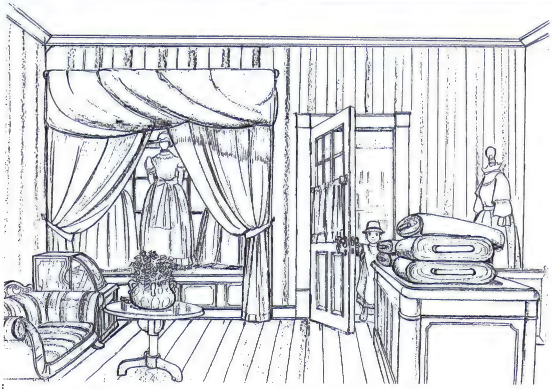
森に薪を拾いに出かけたルーシーは、以前溺れそうになったところを助けてくれた「ヘラクレスさん」に出会う。ルーシーはお礼をするため、彼を家に案内する。

15話 二つの家

家の増築は思うように捗らない。一方、ペティウエルの組立式住宅は着々と工事が進んでいた。そんな時、ルーシーとケイトはビリーと再会する。

16話 ずぶぬれのお医者さん

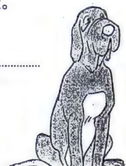
ジャムリングの協力を得て、家造りは少しずつ進み始めていた。一方、酔っぱらったデイトンのもとに小さな子供が急病で運ばれてくる。



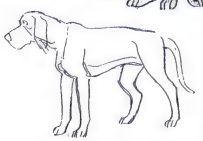
クララが長女の特権で店に入るOKを出した仕立屋。この店に花嫁衣装が展示されていた。



しっかり者のクララも、まだ17歳。密かに憧れていた花嫁衣装に目が釘付け！

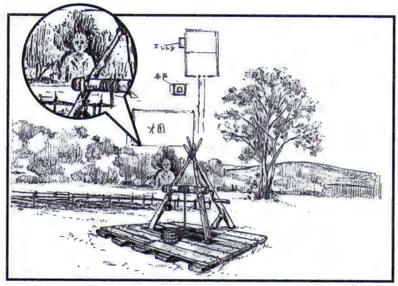


ペティウエルの飼い犬、ハッピー。だがあまり幸せではなさそう…。





パーカー
商売上手。ペティウエルに組立式住居を売る。（声：増山弘）



ポップル家の井戸。中央部の木立になにやら、ぼわ～っと人影らしきものが!?



畑を耕すルーシーとケイト。子供といえども家の手伝いで忙しい。

ワライカワセミ。モッシュをおそう。



モッシュ
ルーシーがイギリスから連れてきたゴールデンハムスター。後半になるにつれルーシーの関心がオーストラリア産の動物へ移り出番が減る…。

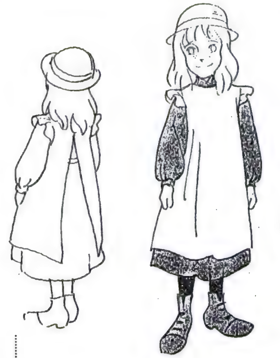
ストーリー紹介 17～20話

17話 不幸な出来事
ジャムリングに、井戸掘りを頼む報酬として子やぎをあげることになった。だがちょっと目を離した隙に子ヤギはペティウエルの犬に襲われてしまう。

18話 木登り
木の上で眠るコアラを何としても捕まえたいルーシーは木登りの練習をすることにする。さっそくルーシーは練習するが、木から落ちてお尻を打ってしまう。

19話 今日は買い物
ルーシーとケイトはクララの買い物について、チャリングトン・ストリートにやってくる。そこで偶然覗いたお店には素敵なウエディングドレスが飾ってあった。

20話 井戸の水
コアラを捕まえようと森へやってきたルーシーとケイトは、道に迷ってしまう。そこでふたりは群れからはぐれた羊を狙うディンゴに遭遇する。





マック
奥地に測量に出ていた。ルーシーたちはどんな人か想像していたが、やっと登場と思ったら熱病で瀕死状態だった。

レンガ造りで泥だらけになったふたりが着替えた服。24話だけのゲスト服で、いつもと色味が違う点がポイント高し。



リトル
リトルはベンが見つけた犬。「リトル」という名前は、大きくなっても小さい時と同じように無邪気でかわいい犬であってほしいと願いを込めて、ベンが名付けた。





ライト大佐
実在したアデレードの町の設計者。（声：若本紀昭）

ウサギ。ルーシーたちが捕まえようとするがディンゴに横取りされた。



オーストラリアの動物たち

コアラ



オーストラリアだけにすむ有袋類。ユーカリの葉が主食。水は飲まない。コアラとは、アボリジニの言葉で「水を飲まない」という意味。天敵がいないオーストラリアでは、めったにに動かず寝てばかり。



ケイトの構える木槌に、ルーシーは恐れをなす…。



家を建てるにもレンガから手作り。

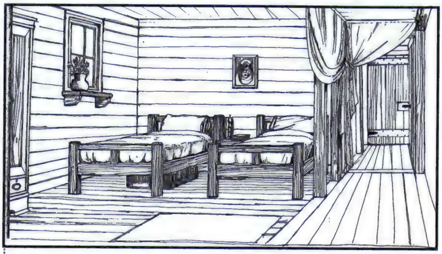
ストーリー紹介 21～24話

21話 アデレードの設計者
マックの葬儀の後、ベンはライト大佐に出会う。ライトはベンにアデレードを世界で一番きれいで落ち着いた町にしてみせると語るのだった。

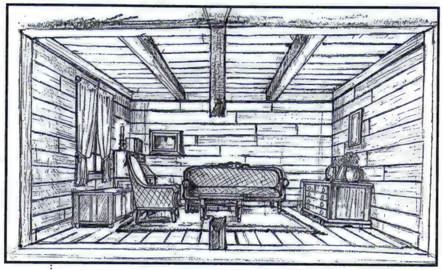
22話 レンガとディンゴの子
ベンが猟師に親を殺されたディンゴの子を見つけた。ベンとルーシーはふたりで育てるというが、周りの大人はどう猛なディンゴの子を飼うことに猛反対する。

23話 お前の名はリトル
ベンはディンゴの子を捨てられなかった。アーサーは人や家畜を傷つけたら殺すという条件で飼うことを許してくれた。ベンはディンゴにリトルと名付ける。

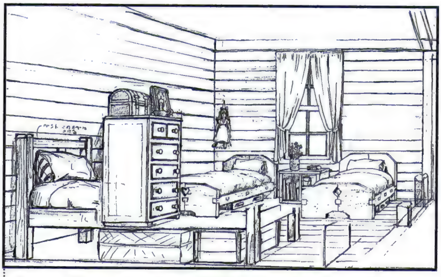
24話 夏の終わりの日
レンガ造りの手伝いをしたルーシーとケイトはすっかり泥だらけ。季節はもう秋。将来医者になりたいベンはデイトンにラテン語を教えて欲しいと頼む。



父と母、トブの寝室。荷物も少なくごく簡素。



ポップル家の居間。買った当初に比べ補修され、家らしくなった。



ルーシーとケイト、クララの寝室。小さな家なので部屋も3人で共用。

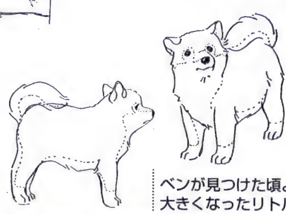


アーニーとクララの帽子姿。この時代、婦人に帽子はかかせない。家族みんなデザインが違う。



デイトンが患者からもらったキャンディー。デイトンはルーシーにあげ、ルーシーはリトルにやる。

ベンが病気になったルーシーのために作った凧。イギリスにいた時に作ってあげると約束していた。



ベンが見つけた頃よりも大きくなったリトル。



ペティウエルは虫歯だらけ。デイトンに間違えて痛くない歯を抜かれた。

ストーリー紹介 25～28話

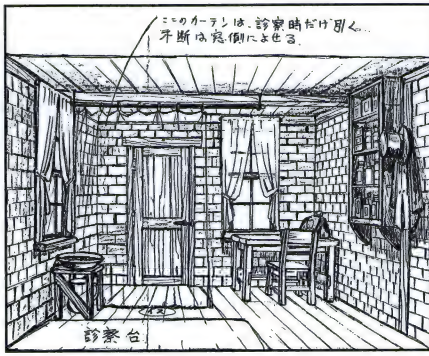
25話 ついてない時は…
毎週土曜日の午後ルーシーとケイトは勉強することになった。クララがふたりの勉強を見てくれるのだが、算数が苦手なルーシーは簡単な問題も間違えてばかり。

26話 病気になった!
ルーシーが急に高い熱を出した。熱にうなされたルーシーはベンの本を落としたことの謝罪の言葉を繰り返す。それを聞いたベンは心を痛めるのだった。

27話 凧に乗って
ルーシーの病気はなかなかよくならない。そんな時、子ヤギがペティウエルの飼い犬に襲われ、それを助けようとしたリトルもひどい怪我を負ってしまう。

28話 川の向う岸
元気になったルーシーはケイトやビリーと、凧あげをしていた。糸の切れた凧を探して川を渡ったルーシー達は、そこで原住民の子供達と出会う。

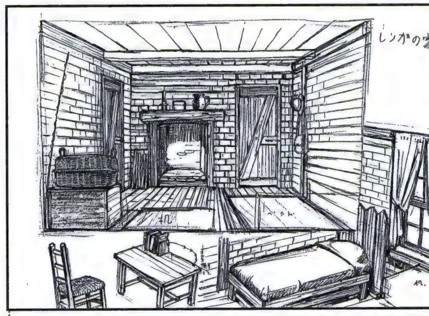




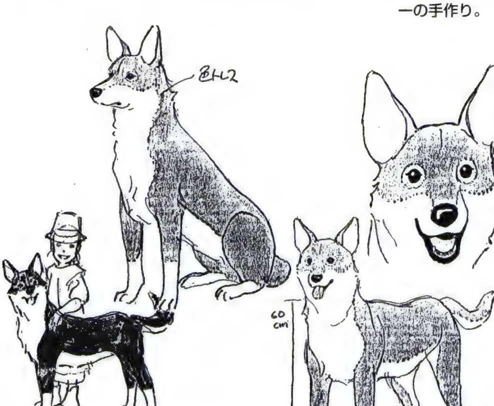
ポップル家の敷地内に建てられたデイトン先生の診療所兼住居。長いテント暮らしからようやくちゃんとした家に移る。レンガはルーシーたちの手作り！



ルーシーの誕生ケーキ。アーニーの手作り。



診療所内にベンの部屋もある。ベンにとってデイトン先生は自分の夢を語れる大切な相談相手だ。



成長したリトル。家畜を襲うどころか、スノーフレイクとは大の仲良し。



スノーフレイク。ルーシーが誕生プレゼントにもらった羊。クララ曰く「あんたは大きくなってもお乳は出せないわね。でもおいしいお肉になってくれるわ」。

ストーリー紹介 29〜32話

29話 リトルの訓練

いつかリトルの野生が目覚めるのでは？ それを誰よりも心配していたのはルーシーだった。ルーシーは人や家畜と共存できるよう、リトルを訓練することにする。

30話 誕生日のおくりもの

ある日、ルーシー達は病気で動けなくなっていた羊飼いのロングを助けた。数日後のルーシーの誕生日。ルーシーにロングから子羊がプレゼントされる。

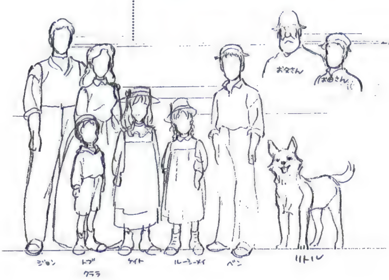
31話 リトルと黒い犬

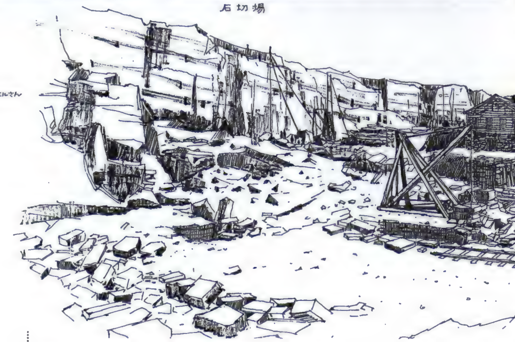
農場を買うことになったポップル一家は、下見に出かける。その頃ペティウエルに八つ当たりされた犬がルーシーの子羊スノーフレイクを狙っていた。

32話 虹の橋のたもと

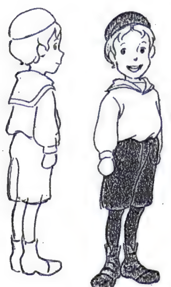
ポップル一家が南オーストラリアにやってきてちょうど1年。念願の農場を契約する日、ペティウエルが、ポップル一家の農場を横取りしてしまう。

一家が上陸して3年の月日が流れた。ずいぶん成長した子供達。





農場は手に入らず、アーサーは生活のために石切場の労働者になっていた。





これがあのちっちゃかったトブ。5歳。今や愛くるしい少年へと成長。

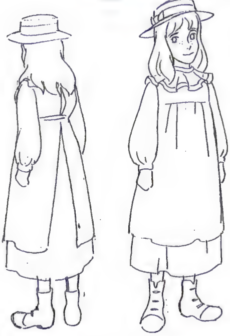


5シリング。ルーシーが公園の木の上で見つけた。結局クララの花嫁衣装の代金の一部になる。



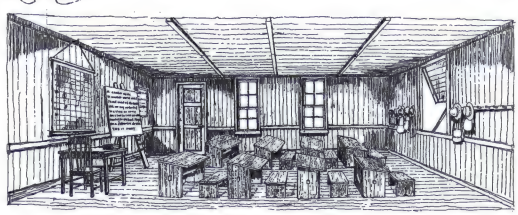


11歳になったルーシーメイ。動物好きで算数が苦手なのは変わらない。





13歳になったケイト。もはや子供と呼べる年齢ではない。表情も思慮深さと落ち着きを増している。



3年前にはまだ測量も済んでいなかったアデレードにも学校ができた。町中に引越したルーシーは学校に通うことになる。



マッケンジー先生。ルーシーの学校の先生。

ストーリー紹介 33～36話

33話 失われた夢

アデレードに来て3年。町は大きく発展していた。だがポップル一家は未だに農場を持てず、失意のアーサーは石切場や道路工事で生活費を稼いでいた。

34話 リトルと学校

学校に通うようになっていたルーシーは算数が大の苦手。ある日リトルがルーシーの学校についてきた。リトルは先生がルーシーをいじめていると思い込む。

35話 対決

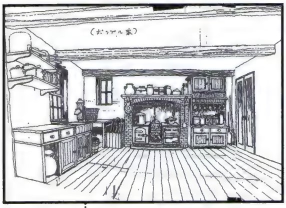
アーサーの働く石切場で山崩れが起きた。アーサーは足に怪我をしていた。デイトンを呼びに行ったルーシー達は以前住んでいた家が燃えているのを見る。

36話 巣の中の五シリング

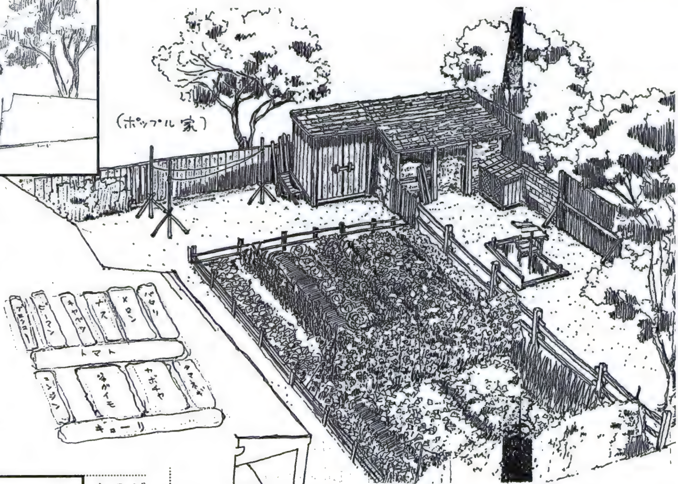
学校の帰り道、ルーシーは鳥の巣の中に五シリングを見つける。何か買おうと町へ出たルーシーとケイトは、落ち着かない様子のクララを見かけ、後をつける。



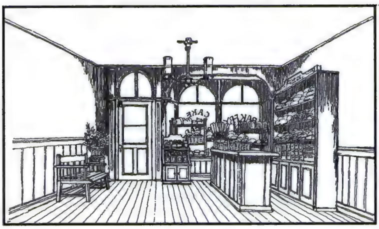
新しい家。町の中心に近いアンガス通り沿いにある。



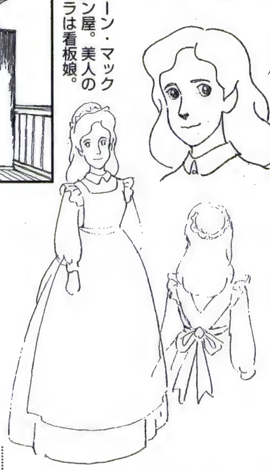
ポップル家の台所。アニメではテーブルが置かれている。



新しい家の庭。小さな畑で細々と野菜を育てる。家庭菜園としては立派！

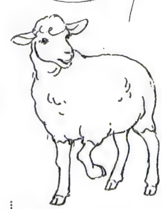


ジェーン・マックのパン屋。美人のクララは看板娘。

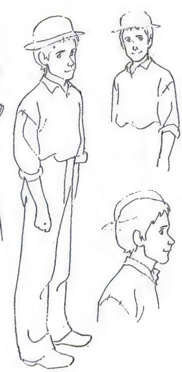


20歳になったクララ。ジェーン・マックのパン屋で働く。エプロンはパン屋の店員スタイル。





成長したスノーフレイク。食肉にはされなかったが、ルーシーに内緒で売られてしまう。



17歳になったベン。もう、すっかり一人前。家族と離れ、港の税関で働く。



ジョン。水夫をやめ、弟のポールとクララの元にやってきた。今は大工。

ストーリー紹介 37〜40話

37話 草原の強盗団

ベンに馬車に乗せてもらい、港にきたルーシーとケイトは、帰りの乗合馬車で偶然ペティウエルと乗り合わせる。ところが馬車が突然、強盗団に襲われる。

38話 ルーシーは名探偵

ペティウエルの召使いアダムが強盗団の仲間であることを偶然知ったルーシー。だが警察はルーシーの言うことを信じてくれない。そこでルーシーは……。

39話 二つの別れ

デイトンはゴーラーの町に診療所の医師として迎えられることになる。一方、アーサーは怪我が治ったものの、相次ぐ不運に働く気力を失い酒に溺れていた。

40話 わたしは誰？

アデレード橋で馬車にはねられたルーシーは、通りかかったフランクに保護される。だが昏睡から覚めたルーシーは自分の名前も住所も思い出せなかった。



新しく用意された寝間着。キャロルに着せてもらい「私なんだか女王さまになったみたい」。



シルビアが買ってくれた青い服。馬子にも衣装！ルーシーも本物のお嬢様に見える。立ち振る舞いもどこかおしとやかに。

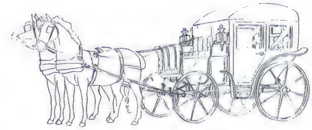


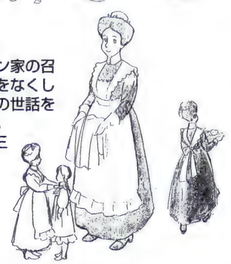
アデレード橋。トーレンス川にかかるアデレード中心部と北アデレードを結ぶ橋。1840年10月開通。ルーシーはここで馬車にはねられる。





ルーシーがプリンストンの屋敷で最初に目を覚ました時に着ていた寝間着。

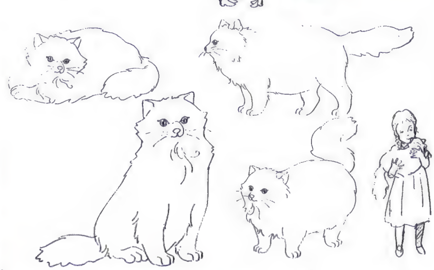




キャロル
プリンストン家の召使い。記憶をなくしたルーシーの世話をしてくれる。
（声：信沢三恵子）



天蓋付のベッド。まさしくお姫様待遇。



プロスペロー。お金持ちといえばやっぱりペルシャ猫！名前の由来はシェイクスピアの劇から。

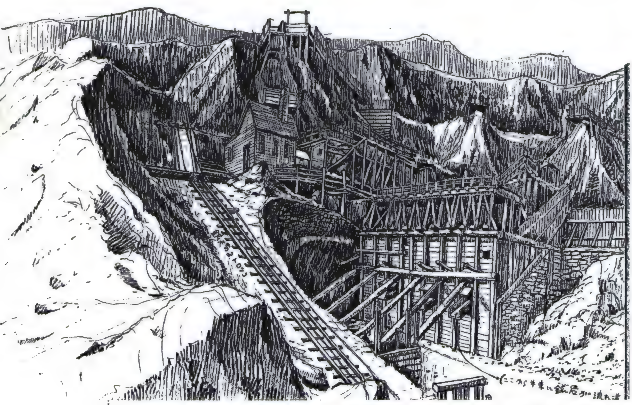
ストーリー紹介 41～44話

41話 見知らぬ町 見知らぬ人
翌日になっても記憶が戻らないルーシー。プリンストン夫妻は何かを思い出すきっかけにと、ルーシーとアデレードを馬車で回る。その馬車をトブが偶然見かけるが・・・。

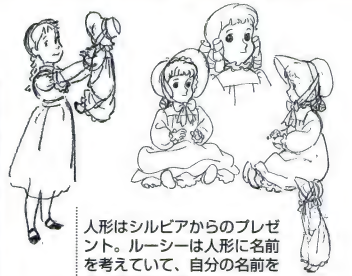
42話 エミリーと呼ばれる子
シルビアはルーシーを亡くした娘の名「エミリー」と呼びかわいがる。その様子にフランクは不安を覚える。一方、心配するアーサーとベンは警察に相談に向かう。

43話 すれ違い
ルーシーはその晩も帰らず、翌朝リトルも姿を消した。アーサーはスノーフレイクを売ったことを後悔していた。フランクの方も新聞に広告を出そうとしていた。

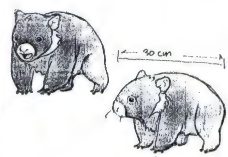
44話 リトル！リトル！
記憶を失って丸3日。ルーシーは事故現場のアデレード橋で馬車を止めてもらう。橋の上で必死に記憶を手繰るルーシーに、リトルが駆け寄っていく。



パーカー山の鉱山。アーサーは一家で引越してくるつもりで下見に行った。「ここなら学校はないわ」と、ルーシーは妙な期待をしている様子。背景の完成度の高さにも注目。



人形はシルビアからのプレゼント。ルーシーは人形に名前を考えていて、自分の名前を思い出しかける。



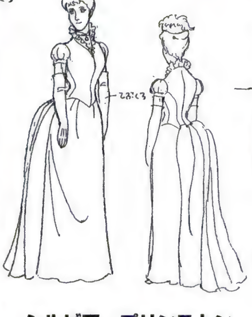
パーカー山の鉱山でケイトが出会ったウォンバットの子供。ルーシーはさっそく連れて帰る。名前はファニー。



フランク・プリンストン
農場経営者。パーカー山の鉱山も権利を所有。アデレード橋で倒れていたルーシーを自宅へ連れ帰る。
（声：小島敏彦）



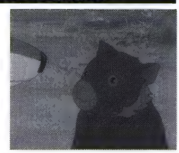
ヨーク公爵夫人
夫のヨーク公は宗主国イギリス国王名代で、南オーストラリア地域を統括している。つまり現地の最高責任者。
（声：荘司美代子）



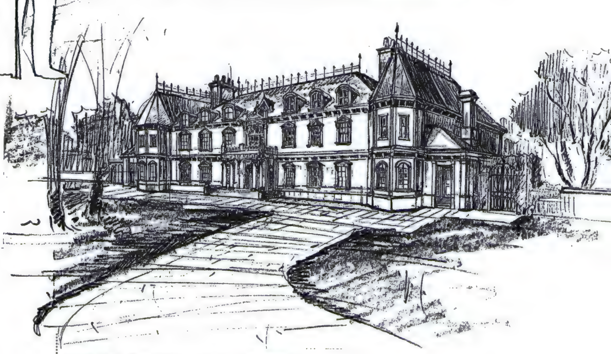
シルビア・プリンストン
ルーシーに亡き娘の面影を見、自分をお母さんと呼ばせ、愛情を注ぐ。（声：坪井章子）

オーストラリアの動物たち

ウォンバット



タスマニアとオーストラリア南東部だけに住む有袋類。ウォンバットとはアボリジニの言葉で鼻が平たいという意味。草食。



お城のようなプリンストンの屋敷。

ストーリー紹介 45～48話

45話 トブが消えた
アーサーは土地を買うため、給料のいい鉱山で働くという。一家は鉱山の社宅を見にパーカー山に行くが、ワラビーを見つけたルーシーは、すっかり夢中になる。

46話 穴の中のウォンバット
いなくなったトブを探すうちに、ケイトまで姿を消してしまう。ふたりを探すルーシーは深い穴からケイトの声がするのに気が付く。それは鉱石の試堀跡だった。

47話 とうさんの決意
フランクからプリンストン農場で働いて欲しいと言われたアーサー。だが、自分の農場を持つことを願うアーサーは、断るつもりでプリンストン家に向かった。

48話 大金持ちの子に…
フランクの案内でプリンストン農場を見に行くことになったポップル一家。だが当日の朝、シルビアが病気になったため、予定を延期して欲しいと連絡が入る。



フランクは資産家だが、ペティウエルとは大違いの“紳士”。妻の為、記憶を取り戻したルーシーを養女にしたいと申し出るが…。



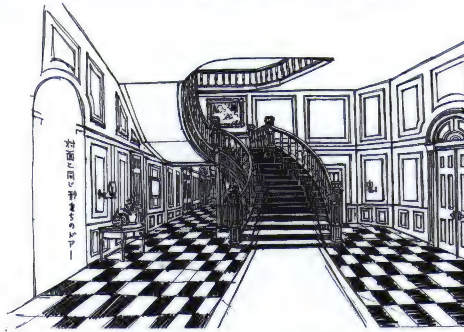
シルビアは、ルーシーが記憶を取り戻して屋敷を去った後、体調を崩してしまう。



花婿ジョンの隣にいるのは、あのビリー！　結婚式で久々登場。ケイトと踊る。



クララとジョンの結婚式の衣装。ようやくアーサーのお許しが出て、3年越しの恋を成就。



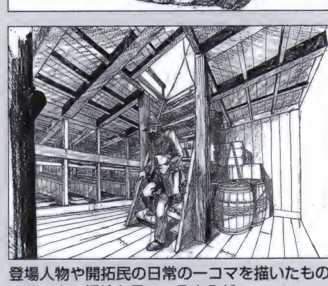
プリンストン邸のロビー。ルーシーはこの場所でプリンストン夫妻に自分を養女にして欲しいと頼む。

作品コラム

美術設定について

作品ごとに準備される美術設定は、ただ背景を描くための目安にするだけでなく、作画や演出の基本設定でもある。『南の虹のルーシー』の舞台、南オーストラリア。１８３０年代というごく初期の開拓時代の美術設定を担当したのは阿部泰三郎氏。彼の描く設定は、鉛筆画やペンタッチのものまで非常に密度の高い絵であるが、美術設定には珍しく、頻繁に人物が描き込まれている。それが単なる背景ではなく、住む人々の生活まで感じられる味わい深い絵にしている。そしてその視点がなんとも温かいのだ。





登場人物や開拓民の日常の一コマを描いたもの。まるで本の挿絵を見ているようだ。

ストーリー紹介 49～50話

49話　クララの結婚

ルーシーを養女にというフランクの申し出を断ったアーサーは、プリンストン農場で働くことも辞退する。やがて秋。ジョンとクララは結婚式の日を迎える。

50話　虹に向って

父に土地をプレゼントしたいと願ったルーシーは、プリンストン邸を訪れ、養女にして欲しいと申し出る。だがフランクはルーシーの決意に心を打たれ、アーサーにある話を持ちかける。

作品コラム

未完の原作だったルーシー

ボローニャ児童書見本市で入手されたこの原作は、当初オーストラリアの家庭雑誌に連載中だった。そのためアニメ制作は翻訳作業をしながら行われ、監督以下、脚本家さえも結末を知らないまま進行するといった異例の事態が起きたのである。

◉アニメとの主な相違点

原作では航海中にルーシーは妹を亡くし、さらにオーストラリアで生まれた弟アダムを事故で亡くしている。記憶喪失もアニメのみである点が大きく異なる。リトルはアニメオリジナル。原作は家族の死亡など悲惨な出来事もあるが、おおむね事件は少なく、より一家の日常に焦点をあてている。だが、アーサーは原作でもやはり自暴自棄に…。

〈原作者〉

フィリス・ピディングトン

オーストラリア、メルボルン出身の作家で、イギリス、オーストラリアで教師を務めた後、南オーストラリアで演劇の講師をする。退職後、創作を始める。

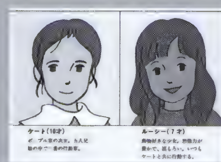
出発前のポップル一家

オーストラリアに移住する前のルーシーたちについて、当時物語を連載していたサンケイリビングブックには、このように紹介されている。

アーサー・ポップルは、ヨークシャーの平凡な農家で、小さいながらもよく肥えた農場を持っていた。しかし、近代的な農場経営への夢と同時に政治的、宗教的自由が保証されている南オーストラリアは、自分にも家族にも幸せが待ちうけていると考え、移住する決心をした。妻のアーニーは、反対はしなかったが、夫ほど単純に豊かな生活が実現できるとは考えていなかった。ポップル家には、長女クララ（15歳）、長男ベン（12歳）、次女ケイト（10歳）、3女ルーシー・メイ（7歳）、トブ（3歳）の5人の子供がいた。（中略）百日の航海ののち、船は南オーストラリアのセントビンセント湾に錨を降ろした。アーサーは、神に心から感謝した。ところが、町は海岸から約10キロ奥に建設中で、移民の受入れの準備はまったくできていなかった……。

サンケイリビングブック
連載第1回目の紹介文より

Pick UP



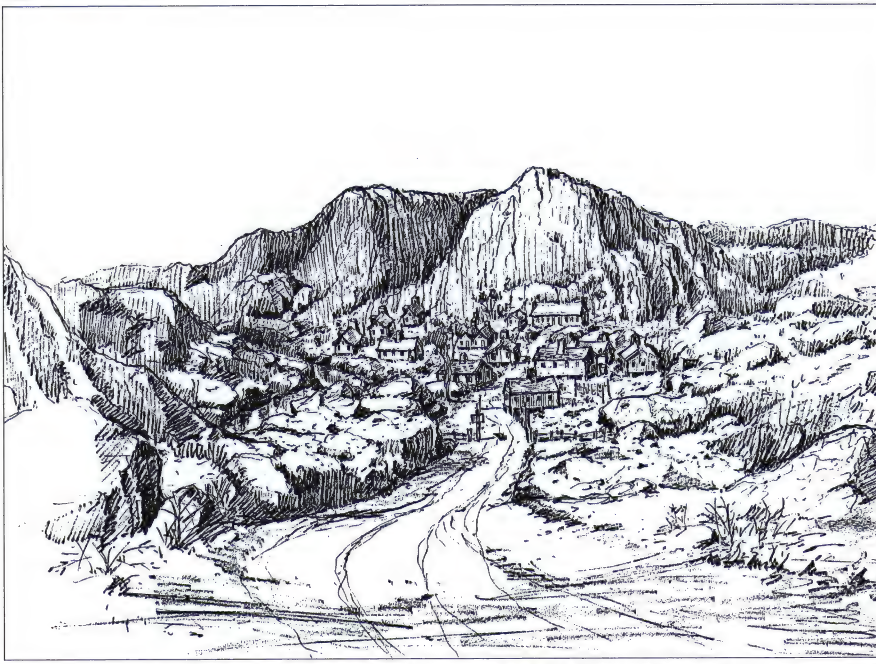
初期設定より、左がケート（ケイト）、右がルーシー。決定稿ではケイトとルーシーの髪型が入れ替わった。『南の虹のルーシー』番組紹介用のパンフレットより。

ルーシーが見た南オーストラリアの開拓史

オーストラリアは1770年に英国領となり、長年流刑開拓地とされていたが、1836年12月末、南オーストラリア植民地が設立。オーストラリアで初めての流刑囚によらない自由移民の町として、アデレードは都市計画された。

そのころ本国イギリスの経済不況から、多くの人が新しい土地を夢見て海を渡った。だがルーシー達が到着した1837年はまだ測量が始まったばかりで、期待された土地は影も形もなく、テント住まいを余儀なくされる。ルーシーが体験したのは、まさに南オーストラリアの開拓が始まった直後の暮らしだった。





ルーシー一家が引っ越す予定だったパーカー山鉱山遠景（45話）より／阿部泰三郎

メインスタッフ

脚本	宮崎晃
音楽	坂田晃一
キャラクターデザイン	関修一
絵コンテ	清瀬二郎／楠葉宏三／鈴木孝義／腰繁男
作画監督	前田英美／村田耕一／森友典子／高野登
美術監督	阿部泰三郎
撮影監督	黒木敬七
録音監督	斯波重治
原画	竹松一生／古山匠／松本昌代／束田久美子／保田夏代／朝戸澄子／野田道子　ほか
タイトル	道川昭
プロデューサー	松土隆二
監督	斎藤博

オープニングテーマ「虹になりたい」
作詞：深沢一夫
作曲・編曲：坂田晃一
歌：やまがたすみこ

エンディングテーマ「森へおいで」
作詞：深沢一夫
作曲・編曲：坂田晃一
歌：やまがたすみこ

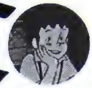


トム・ソーヤーの冒険

The Adventures of Tom Sawyer

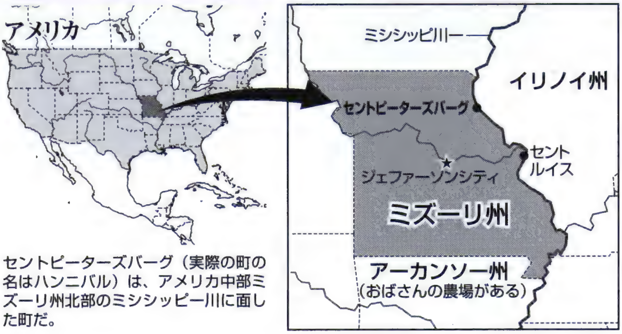


トム・ソーヤーの冒険



放映期間	1980/01/06～1980/12/28
話　数	49話
原　作	マーク・トウェイン「トム・ソーヤーの冒険」
備　考	80年文化庁こども向けテレビ用優秀映画作品賞受賞

物語の舞台



セントピーターズバーグ（実際の町の名はハンニバル）は、アメリカ中部ミズーリ州北部のミシシッピー川に面した町だ。

ストーリー解説

アメリカ中西部、ミシシッピー川に面した小さな町セントピーターズバーグ。そこに住むトム・ソーヤーは何よりわくわくするような冒険が大好きだ。両親を早く亡くしたトムは、弟のシッドとおばのポリーの家で暮らしているが、そんな境遇もなんのその。めっぽう楽しく愉快に暮らしている。親友の宿なしハックやクラスメートを誘い出し、面白いことを探しては騒動を引き起こすトムに、ポリーおばさんもすっかり手を焼いていた。

ある日、町にベッキーという少女が越してきた。たちまちトムは彼女に夢中になる。やがて待ちに待った夏休みがやってきた！　退屈な学校ともおさらばだ。宝探しに気球乗り、洞窟探検…胸躍る冒険がトムを待っていた。

1845年頃

6月
- ベッキー・サッチャー転校
- ジャクソン島へ探検、トムの葬式

夏休み2日前
- ドビンズ先生のハゲ判明

夏休み初日
- シッド、おたふく風邪

7月から8月
- アルフレッドの誕生生パーティ
- 旅芸人一座来る
- 気球に乗る
- マフ・ポッターの裁判
- アーカンソーの農場へ
- 洞窟でインジャンジョーに会う

9月
- 新しい先生が赴任

History

トム・ソーヤーの時代背景は、まだ奴隷制が残るアメリカ中部だ。ミシシッピーの河川交通が最も盛んだった時代でもある。

19C	1811	ミシシッピー川に最初の蒸気船就航
	1821	ミズーリ、合衆国24番目の州となる
	1825	蒸気機関車実用化(英)
	1837	ビクトリア女王即位(英)
	1830	インディアン強制移住法成立
	1848	カリフォルニアでゴールドラッシュ
	1861	アメリカ南北戦争(～1865)
	1863	ゲティスバーグの戦い、奴隷解放宣言
	1868	明治維新(日)
	1869	最初のアメリカ大陸横断鉄道完成
20C	1903	ライト兄弟飛行機を発明
	1908	T型フォード発売
	1914	第1次世界大戦(～1918)
	1929	世界恐慌
	1939	第2次世界大戦(～1945)
	1969	アポロ11号月面着陸
21C		



教会に行くときの服装。



トムの住む家（ポリー叔母宅）正面玄関から。

キャラクター紹介



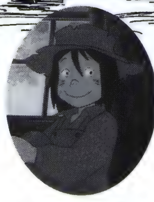
ベッキー・サッチャー
セントルイスから引っ越してきた判事の娘。トムの「婚約者」になる。



ポリー
トムとシッドの叔母。情に厚いが規律はきっちり守るタイプ。トムにはほとほと手を焼く。



シッド・ソーヤー
トムの弟。トムとは正反対に勉強好きで生真面目、少々冷淡な一面もある。

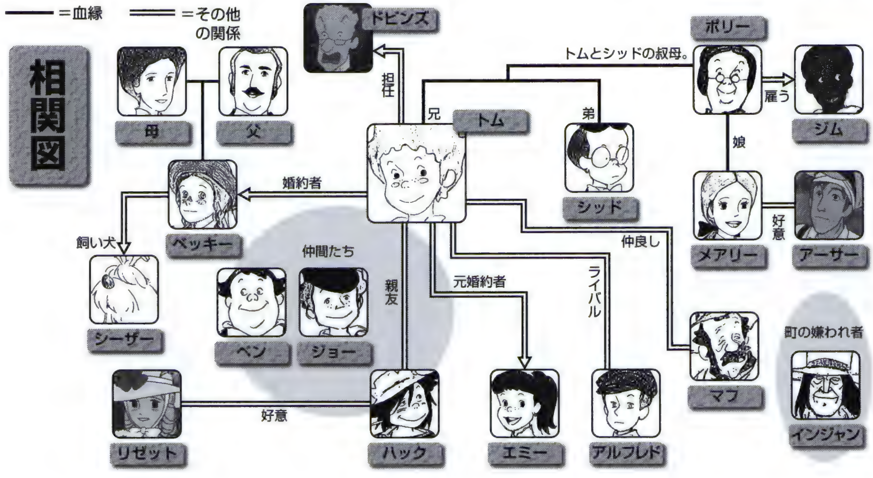


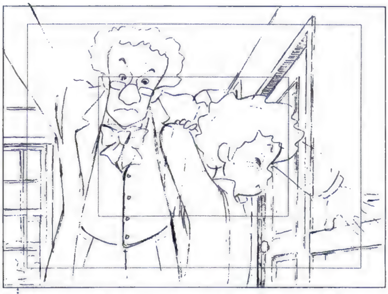
ハック（ハックルベリー）・フィン
酔っぱらいの父から逃れて、ひとり暮らしをしている。トムの大親友。



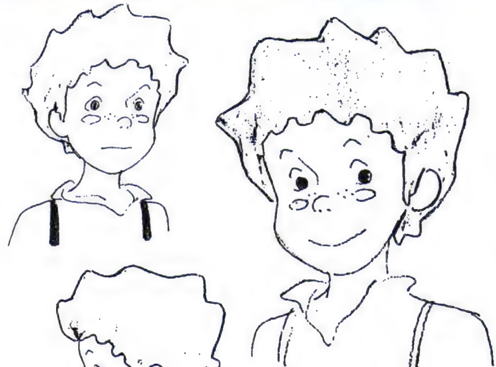
トム（トマス）・ソーヤー
両親を亡くし叔母のポリーの家に住む。自由と冒険を心から愛する少年。

相関図





1話のレイアウト。ドビンズ先生のムチ打ちは、悪趣味としかいいようがない…。





トム（トマス）・ソーヤー

町一番の腕白少年。カタブツの大人からすると札付きの悪ガキだが、義理人情に厚く、少年仲間の人望は高い。勇気と思いやりに溢れた愉快な少年。両親を亡くし、叔母のポリーのもとで暮らしている。（声：野沢雅子）

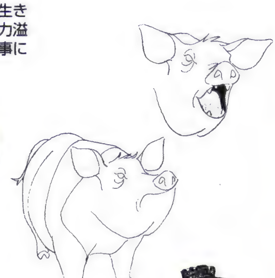




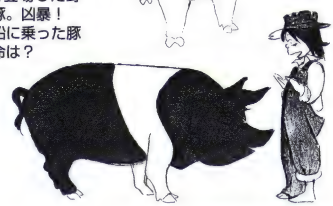
関修一氏によるトムのキャラクターデザイン。関氏の生き生きとしたラインが、活力溢れたトムという少年を見事に表現している。







1話で登場した野生の豚。凶暴！蒸気船に乗った豚の運命は？



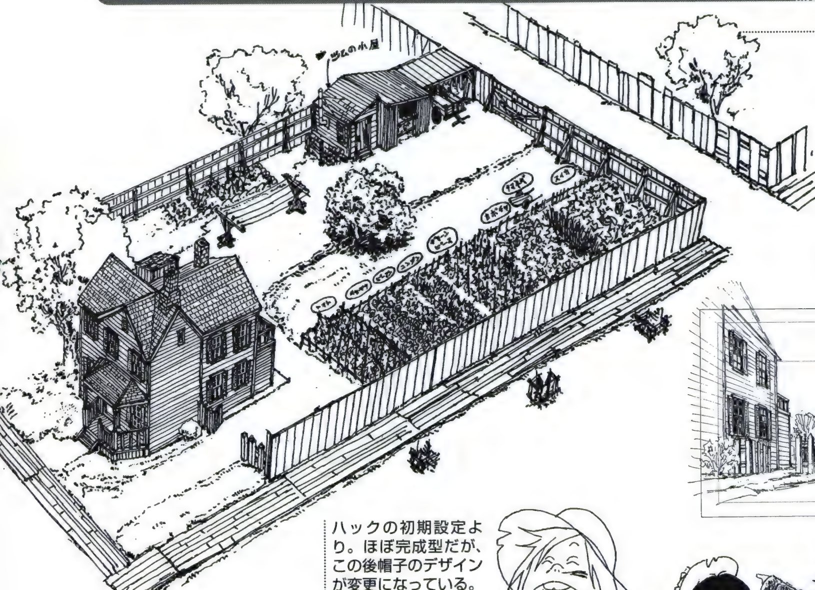
ストーリー紹介 1〜4話

1話 トムとハックとブタ騒動
学校の授業が退屈なトムは、ハックに誘われて教室の窓を抜け出した。森に野生の豚が出たというのだ。トムとハックは捕まえて豚を売ろうと計画する。

2話 ごきげんなペンキ塗り
ポリーおばさんに塀をペンキで塗れといわれたトムは、しぶしぶ作業にかかるが、機転を効かせて通りかかる友だちに次々に代わりをさせてしまう。

3話 トム一目ぼれをする
メアリーを迎えに行ったトムは、桟橋で新しく町に越してきた少女に一目惚れ。少女の家を訪ねると、あの手この手で関心をひこうとする。

4話 サムじいさんのおまじない
憧れの少女の名前はベッキー。トムはベッキー会いたさに苦手な教会へ出席する。ところがベッキーはトムの顔を覚えていない様子だった。



ポリーおばさんの家全容。ジムは別棟の貧しい小屋に住み、奴隷制度が残るこの時代を思わせる。食卓にのぼる野菜は敷地内の畑で栽培している。



トム・ソーヤーで最も有名なペンキ塗りシーン（レイアウトより）。

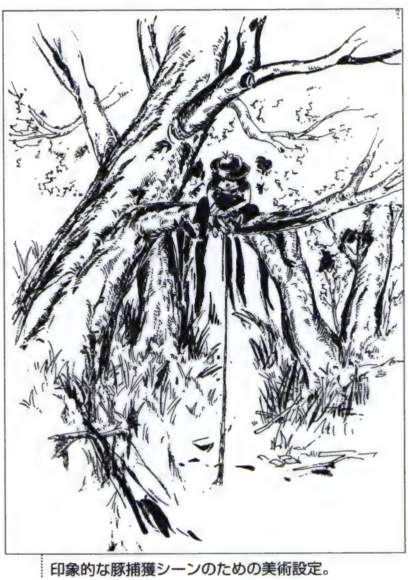


ハックの初期設定より。ほぼ完成型だが、この後帽子のデザインが変更になっている。



ハック(ハックルベリー)・フィン

働き者で優しかった母が亡くなって以来、父は酒に溺れハックに暴力を振るうように。ついに父から逃れて、ハックはひとりで暮らすようになった。自活しているせいか、時折年齢以上に大人っぽい分別をみせる。（声：青木和代）



印象的な豚捕獲シーンのための美術設定。

ストーリー紹介 5～6話

5話 恋は異なもの味なもの

憂鬱な月曜日。仮病も見破られたトムは渋々学校へ行く。ところがあのベッキーが自分と同じクラスだとわかると、トムは俄然やる気が湧いてくる。

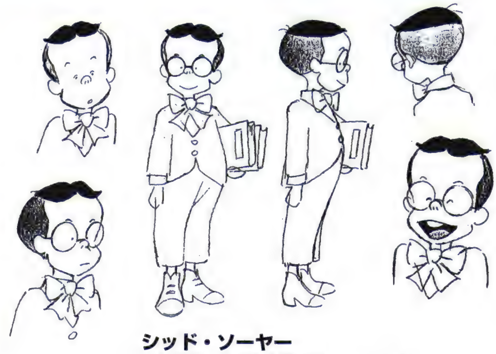
6話 ハックの家づくり

ハックの新しい家造りを手伝う約束を忘れていたトム。夜、ハックがやってきた。怒ったハックにトムは今度こそ手伝う約束をする。トム達はジムにも手伝ってもらいながら家造りを進める。





9話でハックに飲ませるひまし油。結局トムが飲んでおなかを壊す。



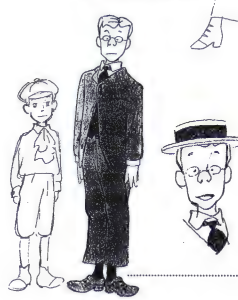
シッド・ソーヤー
トムの弟。メガネ必須の優等生タイプ。計算高くやや冷淡な一面もある。トムの監視役のつもりが、逆に振り回されっぱなし。
（声：白川澄子）



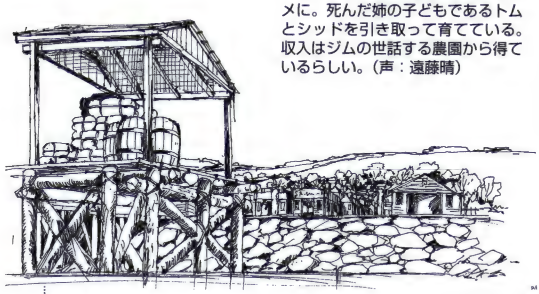
ポリー
本当はめっぽう情の厚い夫人だが、トムのいたずらに連日声を荒げるハメに。死んだ姉の子どもであるトムとシッドを引き取って育てている。収入はジムの世話する農園から得ているらしい。（声：遠藤晴）



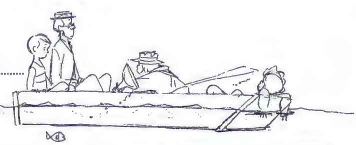
メアリー
ポリーおばさんの最愛の一人娘。賢くて気だてもよく、町一番の美人と評判（保安官談）。
（声：小沢かおる）



ライバルであるアルフレッドとその家庭教師。



町の桟橋。一日1回ここに蒸気船が到着すると、普段は死んだような町が活気づく。その時間が何よりもトムは好きだった。



ボクシングの腕前を持つが、実はかなづちだったと判明…。

ストーリー紹介 7～10話

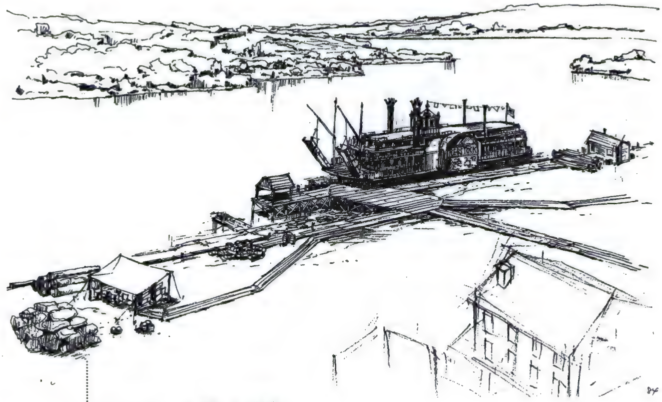
7話 ライバル登場
トムのクラスに転校生がやってきた。その名はアルフレッド。きざなアルフレッドの振る舞いがトムは気に入らない。さっそく決闘を申し込むのだが…。

8話 あこがれの蒸気船
憧れのリバークイーン号が夜に寄港すると聞いて、トムは仲間を誘いかける。ところが桟橋に来たのはトムだけ。たまたま居合わせたハックと一緒に蒸気船に乗り込む。

9話 ポリーおばさんの子供たち
ハックが体調をくずしていた。一緒に釣りに行こうとトムはハックに薬を飲ませる。家に帰るとポリーおばさんも体調を崩して寝込んでいた。

10話 村の嫌われ者
酔っぱらいマフから、村に海賊の宝が埋まっているという話を聞いたトムは、ハックを説得して宝探しを持ちかける。そこにインジャン・ジョーが現れた。





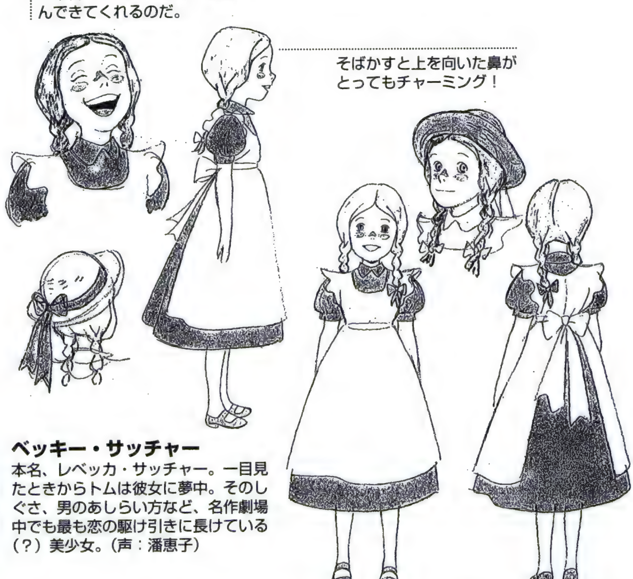
ミシシッピーに面した桟橋と蒸気船。蒸気船は様々な物資と乗客、そして「事件」を運んできてくれるのだ。



水夫達。トムとハックが乗り込んで船中大騒動になるが、ほんのわずかしか登場しない船員ひとりひとりまで細かく設定されている。



トムの夢は蒸気船のパイロットになることだ。



そばかすと上を向いた鼻がとってもチャーミング！

ベッキー・サッチャー

本名、レベッカ・サッチャー。一目見たときからトムは彼女に夢中。そのしぐさ、男のあしらい方など、名作劇場中でも最も恋の駆け引きに長けている（？）美少女。（声：潘恵子）

ストーリー紹介 11～14話

11話 海賊の宝

トムはハックと宝探しの相談をしていた。どうもインジャンも宝を探しているらしい。インジャンと鉢合わせしないように、ふたりは夜を待って宝探しに出かけた。

12話 ベッキー・サッチャー怒る

夜中の宝探しのおかげでトムは眠くてたまらない。授業は何とか切り抜けたものの、うっかりベッキーに前はエミーと婚約していたことを話してしまう。

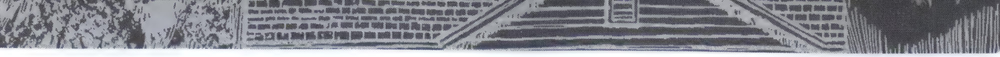
13話 海賊になるんだ

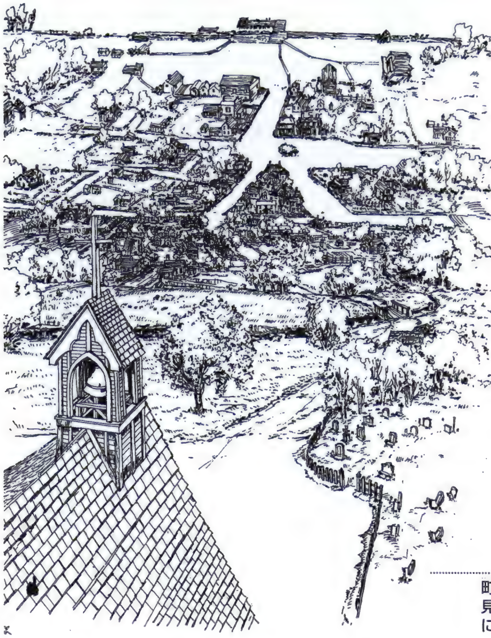
ベッキーは5日も口をきいてくれない。さすがのトムもそれには参ってしまった。めんどうな学校、家の手伝い……。ついにトムは海賊になって家出する決意をする。

14話 海賊には学校はない

ジャクソン島で目覚めたトム、ハック、ベンはさっそく島の探検に出かけた。一方、村では壊れた筏が見つかったことで、トム達の安否が気遣われていた。









雑貨店を営むベンの父。情報通でもある。



町の牧師。トム達の葬式で彼の感動的なメッセージで観衆を泣かせるが…。

町の教会。町を見下ろす丘の上に立っている。

ベン・ロジャース
トムの友だち。ジャクソン島へ一緒に家出をした仲間。気が小さいが、いつかヒーローになりたいと思っている。（声：峰あつ子）





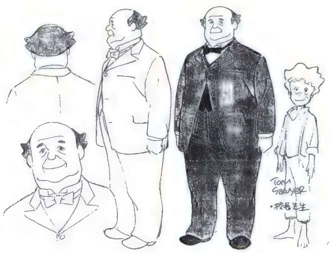
ストーリー紹介 15〜18話

15話 冒険・冒険また冒険
トム達の行方不明の噂で学校は大騒ぎ。ベッキーは自分のせいではと胸を痛めていた。村の様子を見に帰ったトムは、悲しみに打ちひしがれるポリーの姿に思わず涙ぐむのだった。

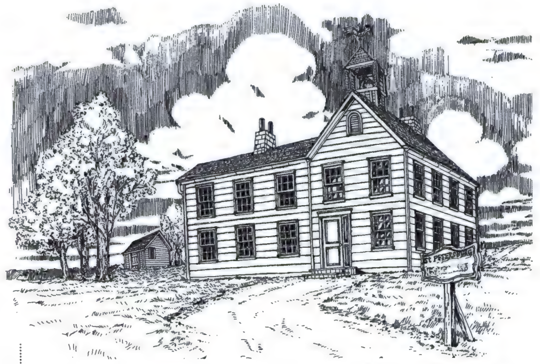
16話 トム・ソーヤーの葬式
家に帰りたがるベンを引き留め、トムは自分達の葬式の日に村へ戻る計画を立てた。牧師の弔いの言葉の最中、3人はおずおずと教会の中へ姿を見せる。

17話 運の悪い日
一夜明けてトムは英雄、のはずだったが、待っていたのはドビンズ先生の怒りのムチ。先生の誤解と同級生のねたみで、トムはさんざんな目に遭う。

18話 痛い仲直り
昨日のムチ打ちのあとがまだ痛むトム。さらにベッキーをかばって代わりに罰を受けるのだった。しかしそれがきっかけでようやくベッキーと仲直りできた。

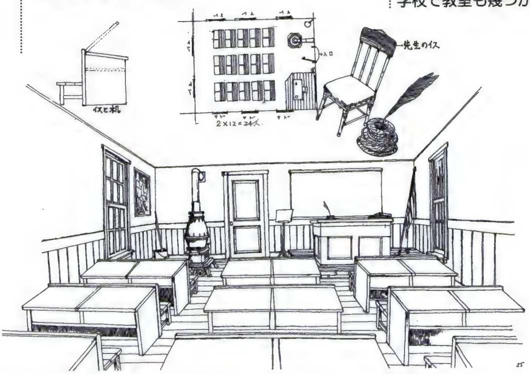


校長先生。温厚な人物。トムに寛大な処置をとドビンズ先生に諭すが、それを受け入れるドビンズ先生ではなかった。

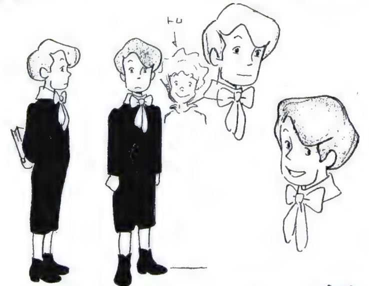


トムの通うセントピーターズバーグ小学校。この時代にしては大規模な学校で教室も幾つかある。

教室内。たびたびドビンズ先生の私怨解消の場と化す。



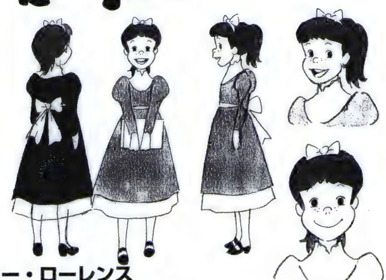
ジェフ・サッチャー
ちょっときどったベッキーのいとこ。（声：中谷ゆみ）



注目キャラ



ドビンズ先生
ヒステリックでサディスティックで猜疑心と偏見に満ちた教師といったらいい過ぎか？　彼のムチは男女問わず振り降ろされ、しばし教室は私刑の場となってしまう。本当は医学者を希望していたというところがまた怖い。最後にトムによって最大の秘密が暴かれる。永井一郎の演じた最高の悪役はこの人だったのかも。（声：永井一郎）



エミー・ローレンス
パン屋の娘。トム曰く「パンもエミーも好き」トムの最初の婚約者だったが、トムの気がベッキーに移っても嫉妬する様子はなかった…？（声：高木早苗）

ストーリー紹介 19～22話

19話　蛙の戦い
トムはチャーリーの挑戦を受け、カエル飛ばし競争をすることにした。チャーリーのずるで負けたトムは、別の勝負でチャーリーに挑む。

20話　ドビンズ先生の秘密
今日もムチで打たれたトムは、学校帰りに偶然ドビンズ先生がハゲであることを知る。終業式、トムはクラスメートの前でドビンズ先生の秘密を暴いてみせる。

21話　夏休みの始まり
待ちに待った夏休み。ところがその初日にシッドがおたふく風邪にかかってしまう。夏休みを病気で台無しにしたくないトムは大いにあわてる。

22話　病気にならない薬
病気にならないという薬を売るふたり組から、トムは安く売ってもらおうと手伝いを申し出る。その甲斐あって残らず売り切れた日、男らは姿を消した。





ベッキーの夏服。露出度が高く悩殺的に可愛いサマードレス。トム、思わず惚れ直す。麦わら帽子はその後ナマズ釣りで水浸しに…。







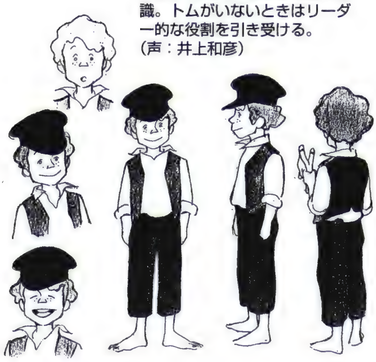


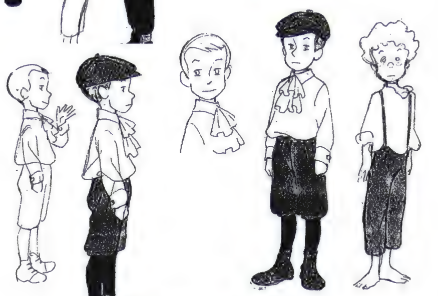
ビリー・フィッシャー（右）
ジョニー・ミラー（左）
大抵はその他大勢で登場。



シーザー
ベッキーの飼い犬。ベッキーのいうことは聞くが、ことトムに関してはその限りではない。本能的にトムをライバルと感じとり心を許さないのだ。

ジョー・ハーパー
トムの仲間内では割と冷静で博識。トムがいないときはリーダー的な役割を引き受ける。
（声：井上和彦）





アルフレッド
初めて会ったときから気に入らないトムだが、彼の負けず嫌いに最後は折れる。
（声：菅谷政子）

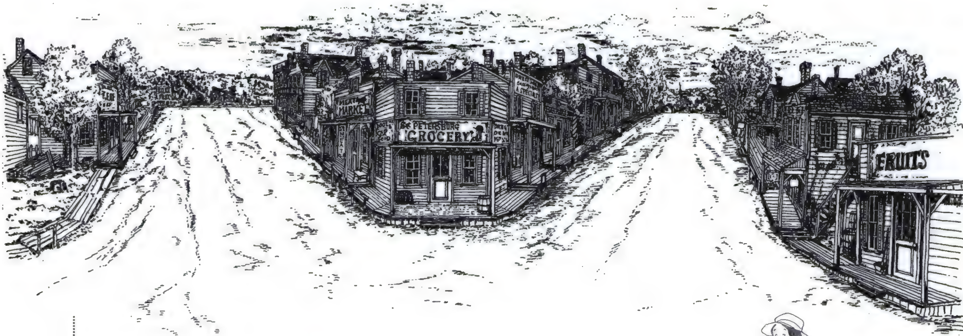
ストーリー紹介 23〜26話

23話 ナマズ釣りの日
トムはハックとナマズ釣りに出かけた。ベッキーも一緒だ。ハックから「あいつはイイやつだ」と聞いたベッキーはトムを改めて見直すのだった。

24話 ネクタイをしたハック
ハックの事を聞いたベッキーの大叔母さんが、ハックを養子にしたいと申し出た。トムとベッキーの作戦によって大叔母さんと引き合わされたハックだったが…。

25話 意地っぱり野郎
特に事件もなく退屈していたトムに、アルフレッドから誕生パーティの招待が来た。トムへのライバル心を燃やすアルフレッドはトムを競技に誘う…。

26話 子役のリセット
村に旅の一座がやってきた。ところが芝居を見るにはお小遣いが足りない。その上、ハックの分までチケットを約束したトムは小遣い集めに奔走する。

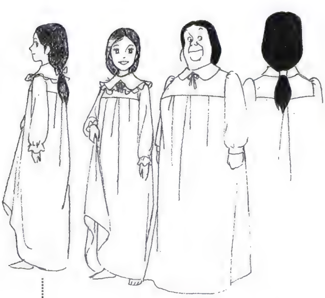


町の広場から山側に向かって2筋あるメインストリート。
中央に見える店がベンの父の雑貨屋





広場中央部にある井戸。
早朝は使用人達の情報交換の場となる。



メアリーとポリーの寝間着姿。関修一氏の描くキャラの寝間着の定番デザイン。



まだ水道の設備がない時代、水くみは子どもや使用人の仕事だった。



トムの友達。トム曰く、男の友情で結ばれている仲間。誰とでも分け隔て無く付き合うトムは、いつも遊びの中心だ。

注目キャラ



リゼット

旅芸人の一座の子役を務める、ニューオーリンズ出身の少女。親を亡くし苦労した境遇を知ったハックは、彼女に想いを寄せるようになる。ハックとリゼット。その余りに淡く切ない幕切れは胸を打たれる。
（声：三輪勝恵）

ストーリー紹介 27〜30話

27話 お芝居の始まるまで

ハックは旅芸人の少女リゼットの身の上を聞き、想いを寄せるようになる。開演の時間が迫る中、トムはハックのチケット代を手に全力で村に向かって走っていた。

28話 リゼットを助けろ！

芝居に夢中になる余りハックは思わず舞台に飛び出し、芝居を台無しにしてしまった。その夜あやまりに来たハックに、リゼットはありがとうとほほえむのだった。

29話 突然のさようなら

団員が夜逃げしてしまい、急遽一座は出発することになった。リゼットを招待する準備していたハックへ「必ず戻る」と伝言を残しリゼットは船に乗り込む。

30話 ハックの父親

リゼットが去ってから家に閉じこもり気味だったハックを誘い、トムは漂着ものを拾いに出かけた。ところが川でハックの父親らしい死体を見つけてしまう。





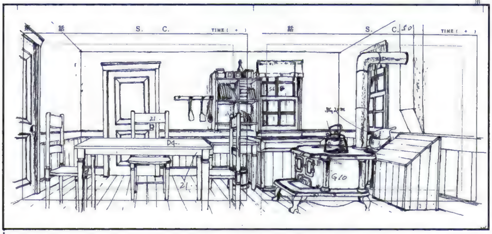
ポリーの家に住む猫、ピーター。自由気ままに暮らしている。



ポリーおばさんの家裏手より。トムの部屋は2階の手前の角部屋。2階外のドアは小部屋に通じる。



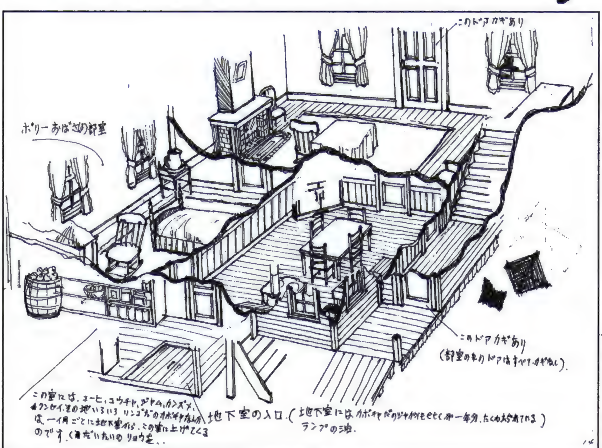
ジム
ポリーの家の召使い。ポリーが所有する農園の管理を全部任されている。町の黒人仲間の信望も厚い若者。
(声：西川幾雄)



台所と食堂は兼用。トムの部屋と同様、よく物語に登場する場所。



敷地内のジムの小屋。質素だが、奴隷解放前のアメリカ中南部ではごく一般的なものだった。食事もトム達とは別にとる



ポリーおばさんの家1階部分。表玄関に居間、ポリーおばさんの寝室、それから台所の3室があり、地下室の設定まで描き添えられている。これによるとコーヒーやじゃがいもなど月に一度地下の食料庫から取ってくるとある。

ストーリー紹介 31〜34話

31話 数を数えろ
ハックの母親の命日が来る。その日だけはハックも祈りを捧げるのだった。そんなハックのためにトムはポリーおばさんの燭台を持ち出そうと策を練る。

32話 黄金を見つけた!
釣りに出かけたトムは、偶然川で光る石を拾う。店で鑑定して金と分かった途端、すぐに噂が町中に広がり、誰もが川を目指して走り出すのだった。

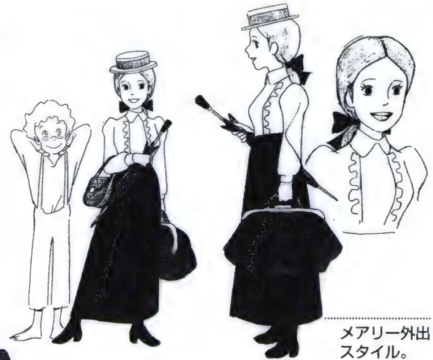
33話 自由に向かって逃げろ
ポリーおばさんの家にジムを頼ってモーリスという奴隷が逃げ込んできた。ジムは仲間の奴隷に声をかけ、追っ手からモーリスを逃がす計画を立てる。

34話 天から降ってきた男
メアリーが医者のミッチェル先生のところに手伝いに行くことになった。その日、町へ何かが空から降りてきた。それは誰もが初めて見た気球だった。

注目キャラ



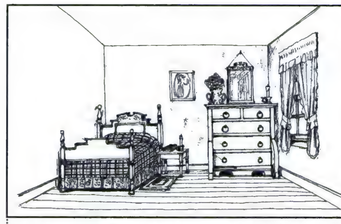
アーサー
気球の設計技師。軍の要請を受けて気球を整備中にあやまって飛ばし、セントピーターズバーグへ不時着した。ミッチェル先生の診察中メアリーと知り合い親しくなる。最終回、彼は忘れずにメアリーの元に現れる！（声：森功至）



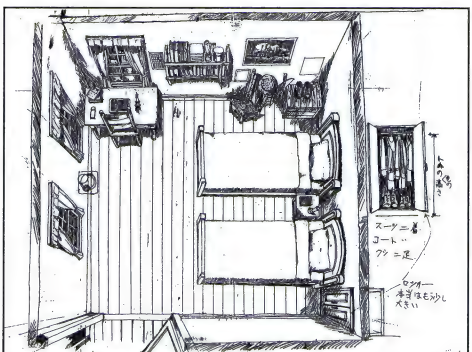
メアリー外出スタイル。

ミッチェル先生
若きロビンソン先生の登場で閑古鳥が鳴いている開業医。ポリーおばさんの主治医でもある。後にメアリーが助手として通うことになる。酒飲みだが、洞察力に優れている。
（声：二見忠男）

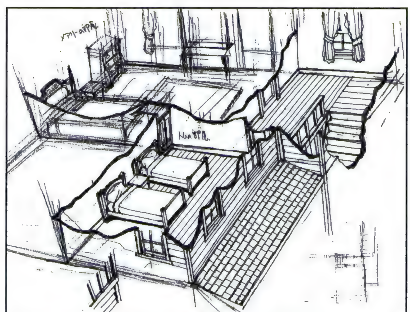




メアリーの部屋。トムがお小遣いをねだるシーンで登場。



トムとシッドの部屋の俯瞰図。ひとつしかない机はふたりで共有している。机に近い方がトムのベッド。ふたりとも持ち物は少なくいたって質素。



2階の見取り図。手前がトムとシッドの部屋。奥がメアリーの寝室。外付け階段の部屋はここに描かれていない。

ストーリー紹介 35～38話

35話 空を飛びたい
不時着したのは陸軍の気球だった。居合わせたトムは、操縦していた青年アーサーと親しくなる。その夜アーサーはトムの家に泊まることになった。

36話 気球を直そう
どうしても空を飛んでみたいトムは、アーサーに気球を直そうと提案する。しかしようやく気球が直ったとき、保安官から中止を求められる。

37話 空からの眺め
トムはどうしても気球に乗りたくて、アーサーに黙って、ハックとベッキーの3人で夜中に気球を飛ばす準備に入る。そしてついに憧れの空へ舞い上がるのだった。

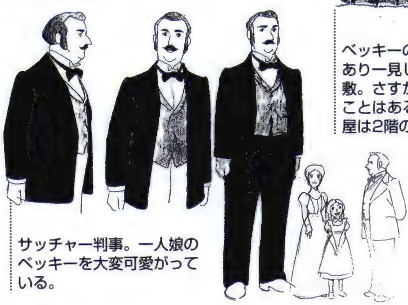
38話 おそろしい出来事
ベッキーに肝試しの約束したトムは、ハックを誘い、真夜中の化け物屋敷に向かった。ところが途中の墓地でインジャンが人を殺すところを見てしまう。



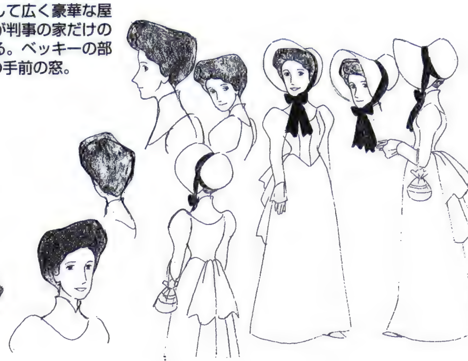
ベッキーの家の召使い。植木鉢を両手いっぱいもって初登場。



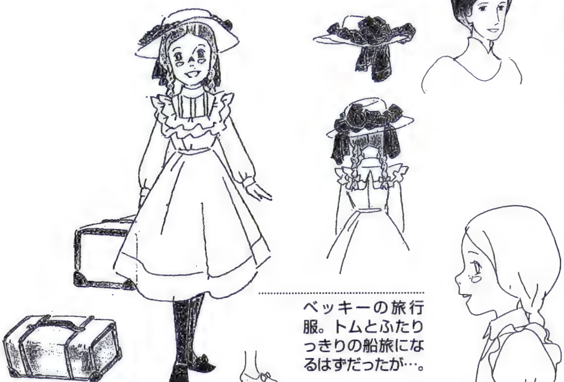
ベッキーの家。丘の中腹にあり一見して広く豪華な屋敷。さすが判事の家だけのことはある。ベッキーの部屋は2階の手前の窓。



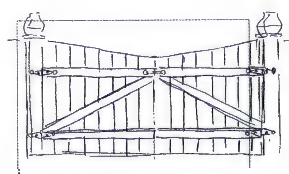
サッチャー判事。一人娘のベッキーを大変可愛がっている。



ベッキーの母。おっとりして静かで上品な女性。



ベッキーの旅行服。トムとふたりっきりの船旅になるはずだったが…。



サッチャー家の門。トムはこの門をくぐるためにどれほどいつも苦心したか。

ストーリー紹介 39〜42話

39話 良心の痛み

インジャンの代わりにマフが犯人として検挙された。牢屋に入れられたマフの姿に、真犯人を知るトムとハックは心を痛めるのだった。

40話 マフ・ポッターの裁判

マフの裁判の日が近づいた。裁判ではおそらく死刑が言い渡される。トムは意を決し真実をうち明ける覚悟をする。そして裁判の日、トムはインジャンが目の前にいる証人席に立った。

41話 インジャン・ジョーの行方

トムの証言でマフの無罪が決まった。しかし裁判所から逃げ出したインジャンの行方は誰にも分からない。依頼した探偵も頼りなく、トムは不安な日々を送る。

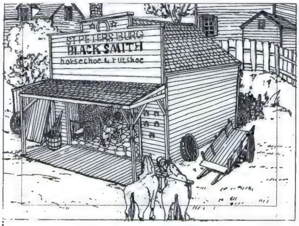
42話 楽しい船の旅

トムはポリーおばさんの依頼で、アーカンソーの親戚まで書類を届けることになった。しかもセントルイスへ行くベッキーと一緒の船旅というおまけつきだった。

南の虹のルーシー
トム・ソーヤーの冒険 1845
愛の若草物語
母をたずねて三千里
ナンとジョー先生
ふしぎな島のフローネ
赤毛のアン
あらいぐまラスカル
愛少女ポリアンナ物語
私のあしながおじさん
ブッシュベイビー
七つの海のティコ



町のはずれ。町を抜けるとあとはずっと畑と森が続く。



町のはずれにある鍛冶屋。馬が中心のこの時代に欠かせない存在だった。

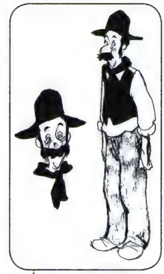


ベンの父の店の内部。鍋やボール、菓子、食料まで大抵のものは置いてあった。

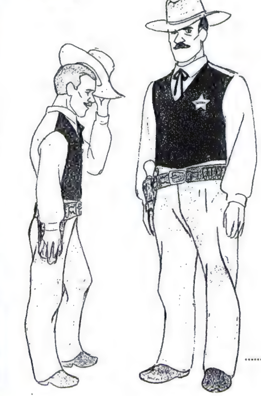




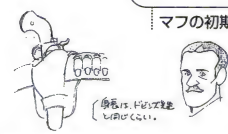
マフ・ポッター
お人好しだがいつでも酔っぱらっている村のおじさん。嫌われ者だが、トムとハックとは仲が良い。（声：峰恵研）



マフの初期設定。







保安官。無法者を町から守る頼もしい存在。インジャンには勇敢に立ち向かうが、意外にも迷信に弱いのであった。





注目キャラ

ベニー（左）
トムのいとこでサイラス農場の娘。しっかり者で、誰に対しても優しく接する。トム達の嘘を見抜き、稲妻を逃がす計画を立てたのも彼女。

稲妻（右）
その美しさと誇り高さでトムを魅了した野生の白馬。インディアンやサイラスおじさん達が捕まえようとするが、容易に姿を見せない。

ストーリー紹介 43〜46話

43話 白い馬を見た
船にもぐりこんでいたハックと二人で親戚を訪ねることになったトム。ハックを弟のシッドだということにして親戚の農場に滞在することにした。

44話 稲妻をつかまえろ
農場近くに出没する美しい白い馬。サイラスおじさんはその馬を追っていた。ある夜おじさんに同行したトムとハックは、ひなく白い馬を目の当たりにする。

45話 さらば白馬よ
捕らえた白い馬「稲妻」をめぐって、インディアンとの緊張が高まっていた。その騒ぎに乗じ、いとこのベニーはトムと協力して馬を逃がすのだった。

46話 化物屋敷で
アーカンソーから帰ってきたトムとハックは、化け物屋敷で変装したインジャンを見かける。そしてそこでインジャンが金貨を掘り出すのを目撃する。



インジャン・ジョーの
初期設定。凶悪さは感
じられるが、やや貧相
な印象がある。





インディアンとの混血児という設定。
この圧倒的な存在感！

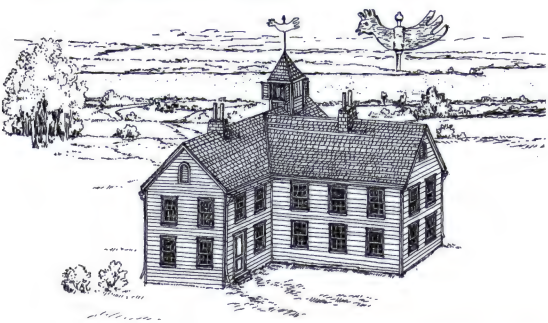


ハックを引き取
った未亡人。

インジャン・ジョー
町の無法者として悪い噂は絶えなかったが、遂にトムに殺人現場を見られ、指名手配の身となる。トムは彼の存在に怯え続けるが…。
（声：蟹江栄司、内海賢二）







学校から町の方向を見たところ。トムの物語は学校で始まり学校で終わる。

ストーリー紹介 47〜49話

47話 マクドウガルの洞窟
夏休み最後のピクニック。トムはベッキーを誘って近くの洞窟に足を踏み入れた。道に迷ったふたりが出会ったのはなんとあのインジャンだった。

48話 インジャン・ジョーの最後
インジャンはトムに危害を加えることなく立ち去ると、保安官に追われて洞窟の中の深い谷間へ落ちてしまう。ふたりは無事に助け出されるのだった。

49話 格好のわるい終りかた
インジャンが洞窟に埋めた金貨を取り出したトムとハック。一夜にして大金持ちになったハックは未亡人の家に引き取られ教育を受けるハメになる。

作品コラム

インジャン・ジョーをどう描くか

　インジャン・ジョーという人物をどう描くか。これはかなり難航したという。監督の斎藤博氏は、絵として怖いのではなく、もっと内面的な怖さ、ごく普通の人間の中に潜む怖さを表現しようと考えたが、最終的に大きな体とすごみのある表情をもつ〝悪の象徴〟といった風貌になった。デザインした関氏も「かっこよくなりすぎてしまったかも」と振り返る。

　しかし、斎藤氏の意図は反映されたのではないだろうか？　実はインジャンは、トムに対していっさい手を出していない。それどころか、トムに対しては、最後まで親近感すら抱いていたと感じられる態度で接するのである。

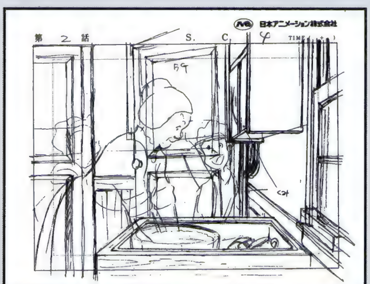
　狭い地域社会の中で漠然と生まれる、〝よそ者〟への差別と恐怖。「インジャン＝injun」は、実は名前でなく、インディアンの蔑称だ。そこに重い事実が見えてくる。ジムやマフに対して友好的なトムでさえ、インジャンに対してだけは、なぜか始終恐れを抱き続ける。トムの視点で語られる物語ゆえに、どこまでもインジャンは怖いのである。

洞窟の中でインジャンがトムにかける言葉は印象的だ。

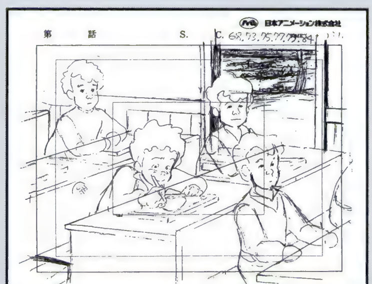


『トム・ソーヤーの冒険』レイアウト

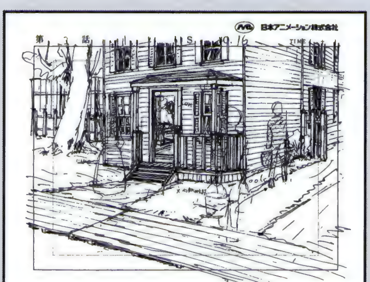
優れた脚本とレイアウトがあれば、その作品は成功したといっても過言ではない、アニメ制作の根幹を支える作業がこのレイアウト設計。ここでアニメーションの動きや演出がほぼ決められる。



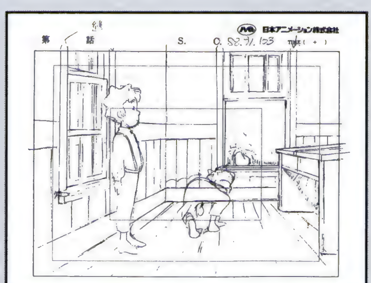
ポリーの横を走り抜けていくトム。どの位置でポリーの顔を見るか、ポイントになる動作が描き込まれる。



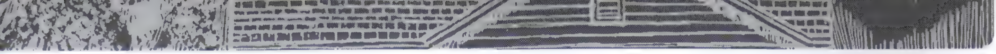
トムの動作や表情、周りの人物との位置関係が設定されている。（トムはせっせと落書き中！）



わずか数秒のカットのために、設定段階でここまできっちり背景を描き込んでいる。



立たされたトムが窓から抜け出す一連の動作を指定。



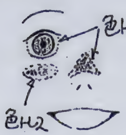
作品コラム

キャラクターデザインのこだわり

きゅっと上を向いたかわいい鼻。そばかすだらけの美少女ベッキーのデザインは一度見たら忘れられない。「アニメーションだから、画面で動かしてかわいくみせたいと思いました」と、キャラクターデザインの関修一氏。

通常、人の顔には光が上から射すので、鼻の上に影はできない。しかし、あえて上を向いた鼻の感じを出したくて、色トレスで影を表現してみたのだそうだ。『トム』は一番思い出に残る作品だという関氏。こだわったのは顔だけでない。アニメでは難しい服のしわも、あえて重力を感じさせるダブダブ感を意識して描いてみた。このこだわりを設定画で再確認したい。





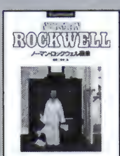




サムじいさんとトム。つりズボンからはみ出すシャツのダブダブ感がいい。

Pick UP

ノーマン・ロックウェルとトム・ソーヤー



ノーマン・ロックウェル画集
監修：松本 猛
発行：白泉社

『トム』のデザインを描き起こす上で、関氏が参考にしたのが、ノーマン・ロックウェルのイラストレーション。ゲストキャラのイメージもそこから生まれたという。ノーマン自身も『トム・ソーヤー』の挿絵を手がけている。

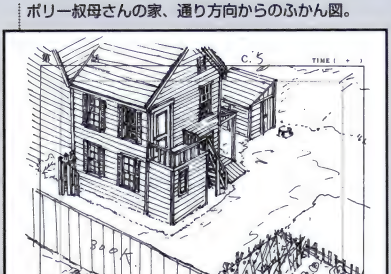
セントピーターズバーグはどこにある？

トム達の住む町セントピーターズバーグは、マーク・トウェインが、少年時代を過ごした町、ミズーリ州ハンニバルが舞台である。ロケハンは、アニメの舞台作りのため、この町を訪ねた。

ハンニバルにはマーク・トウェインが過ごしたゆかりの場所や、物語で登場した舞台が町中に保存されているのだ。

彼の住んでいた家がアニメでポリー叔母さんの家として登場しているほか、町並みや風景などは、大いに参考になったという。ミシシッピに浮かぶジャクソン島、カーディフの丘やマクドゥガルの洞窟など、物語の重要な場所のほとんどが、ハンニバルの町の周辺にある。

ポリー叔母さんの家、通り方向からのふかん図。



原作について

『トム・ソーヤーの冒険』（1876年発表）は、腕白少年トムと自然児ハックの痛快冒険物語。マーク・トウェインの少年時代を、彼の住んだ町を舞台に描いた自伝的作品。後年書かれた『ハックルベリー・フィンの冒険』（1885年発表）と共に、アメリカ児童文学の金字塔と言われる名作。



トム・ソーヤーの冒険
訳　：大塚勇三
発行：福音館書店



コネチカット州ハートフォードに残るマーク・トウェインの屋敷（現在博物館）。ここで『トム・ソーヤーの冒険』が書かれた。

photo：Kaori Chiba

〈原作者〉
マーク・トウェイン
1835－1910

アメリカ中南部にあるミズーリ州出身。（本名、サミュエル・ラングホーン・クレメンズ）。4歳の時ハンニバルに引越、植字工や蒸気船の水先案内人、新聞記者を経て、『キャンベラス郡の有名なとびがえる』で一躍有名になる。『トム・ソーヤーの冒険』、『王子と乞食』『ハックルベリー・フィンの冒険』などの著作の他、世界中で講演活動を行った。晩年、破産や相次いで愛する家族を亡くしたことで、作品を暗い調子に変えていくが、常に社会の現実と理想、人々の姿を観察、報道することに情熱を傾けた。生涯に30以上の小説、何百ものエッセーや短編を発表。アメリカを代表する作家である。

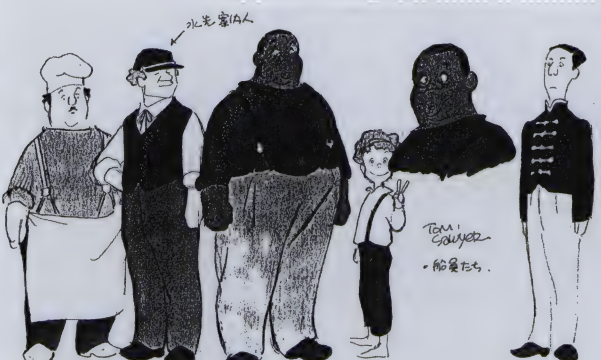
アニメ『トム・ソーヤーの冒険』の時代を考証する

『トム・ソーヤーの冒険』は、マーク・トウェインの自伝的な物語である。従って時代設定は、彼が10歳前後だった1845頃だとみてよいだろう。

アニメでも描かれていたように、当時は、連日のように蒸気船が接岸し、流通で大変賑わっていた。急激に人口が増えてハンニバルは、1845年に市に昇格している。

ハンニバルの町とマーク・トウェイン

1819年	ハンニバルの町が設立
1830年	人口が30人になる
1831年	イリノイ州に渡る渡し船が就航
1835年	マーク・トウェイン、近隣のフロリダで生まれる
1839年	マーク・トウェイン、4歳の時ハンニバルに引越
1845年	ハンニバルが市になる
1860年	ハンニバルに鉄道が来る
1871年	ミシシッピ川を渡る橋が架けられる



蒸気船の乗組員達。トム曰く、蒸気船が来ると、とたんに「死んだような町が生き返る」のだった。



1話「トムとハックのブタ騒動」用に作られた美術設定／阿部泰三郎

メインスタッフ

脚本	宮崎晃／加藤盟／太田省吾／磯見忠彦／富田義朗／神山征二郎／清瀬武　ほか
音楽	服部克久
レイアウト	坂巻貞彦
キャラクターデザイン	関修一
絵コンテ	竹田のびる／横田和善／腰繁男／馬場健一／鈴木孝義
作画監督	こさこ吉重／後上義高／高野登／桜井美知代／杉野昭夫
美術監督	阿部泰三郎
撮影監督	黒木敬七
録音監督	浦上靖夫
プロデューサー	松土隆二
演出	斎藤博

オープニングテーマ「誰よりも遠くへ」
作詞：山川啓介
作曲・編曲：服部克久
歌：日下まろん

エンディングテーマ「ぼくのミシシッピー」
作詞：山川啓介
作曲・編曲：服部克久
歌：日下まろん

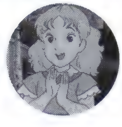


愛(あい)の若草(わかくさ)物語(ものがたり)

Little Women

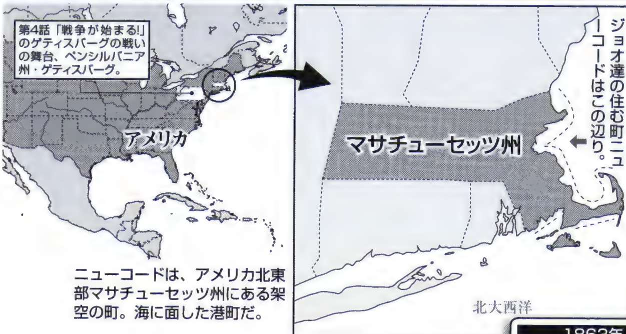


愛(あい)の若草物語(わかくさものがたり)



放映期間	1987/01/11 ～1987/12/27
話　数	48話
原　作	ルイザ・メイ・オルコット 「若草物語」 「続 若草物語」
備　考	87年文化庁こども向けテレビ用優秀映画作品賞受賞

物語の舞台



ニューコードは、アメリカ北東部マサチューセッツ州にある架空の町。海に面した港町だ。

History

時は南北戦争のさなか。若草物語は、戦争に夫を送り出して留守を待つ家族の物語だ。温かな物語にも戦争の影が見え隠れする。

19C

1825 蒸気機関車実用化(英)
1837 ビクトリア女王即位(英)
1830 インディアン強制移住法成立
1848 カリフォルニアでゴールドラッシュ
1861 アメリカ南北戦争(～1865)
1863 ゲティスバーグの戦い、奴隷解放宣言
1868 明治維新(日)
1869 最初のアメリカ大陸横断鉄道完成
1897 ボストンに最初の地下鉄開通

20C

1903 ライト兄弟飛行機を発明
1904 ニューヨークに最初の地下鉄開通
1908 T型フォード発売
1914 第1次世界大戦(～1918)
1929 世界恐慌
1939 第2次世界大戦(～1945)
1969 アポロ11号月面着陸

21C

1863年

6月
- フレデリック一時帰宅

7月
- ゲティスバーグの戦い
- マーチ家ニューコードへ

秋
- ローリーと知り合う

1864年

冬
- ベス、ピアノを贈られる
- エイミー、ジョオの原稿を燃やす
- エイミー川に落ちる

11月
- フレデリック重体
- ジョオ、髪を売る
- ベス、猩紅熱にかかる

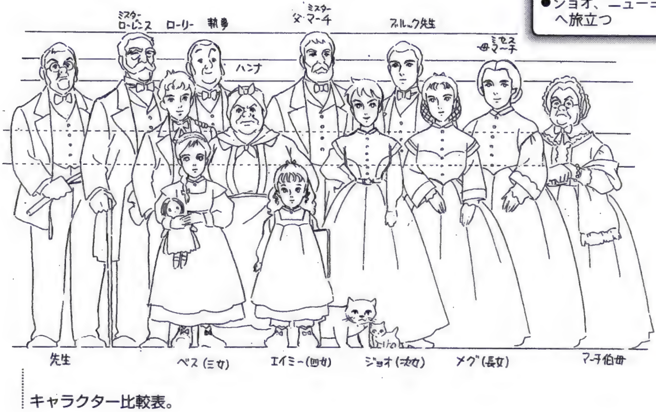
12月25日
- フレデリック帰宅

1865年

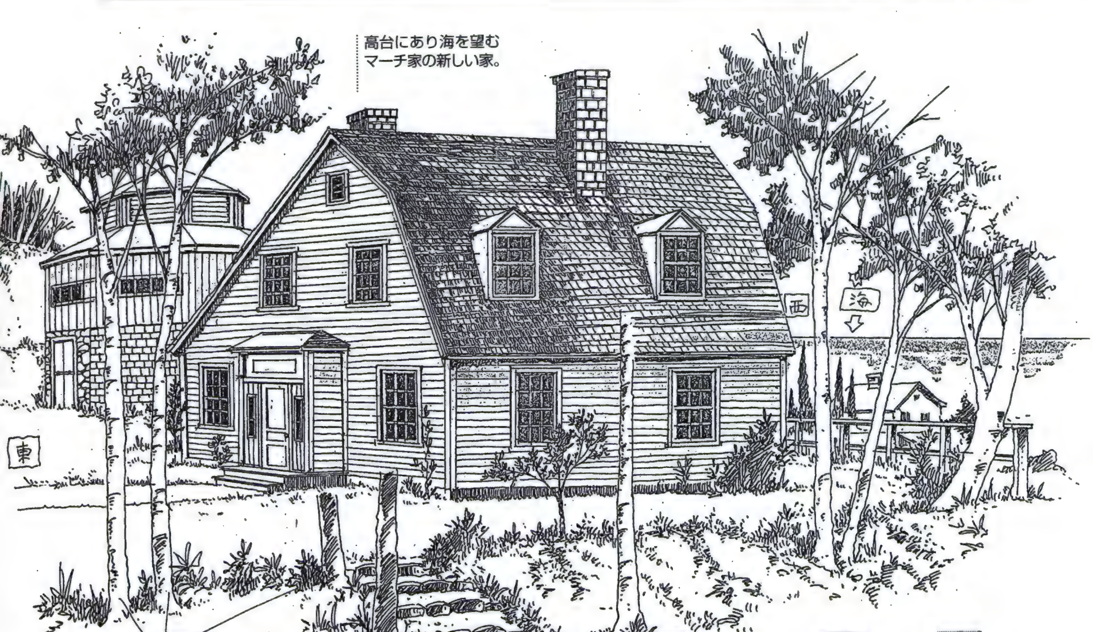
4月
- 南北戦争終結
- メグ、ブルックと婚約
- ジョオ、ニューヨークへ旅立つ

ストーリー解説

大西洋に面したマサチューセッツ州のある港町ニューコード。ここがメグ、ジョオ、ベス、エイミーの四姉妹と母メアリーが、戦火を避けて新しく住むことになった土地だった。父フレデリックは北軍に従軍しており、もう長い間、一家は留守を守ってつつましく暮らしていた。ゲティスバーグ近郊の屋敷が戦争で焼け落ち、命からがら引っ越した一家は、この新しい土地でゼロからのスタートを始めるのだ。そんな中でも、四姉妹は毎日助け合い、時にはけんかをし、むつまじい日々を送る。おしゃれでおしとやかなメグ、勝ち気で男勝りのジョオ、優しく引っ込み思案なベス、おしゃまでかわいいエイミー。彼女たちの小さな事件と失敗、そして温かなエピソードを綴った物語。

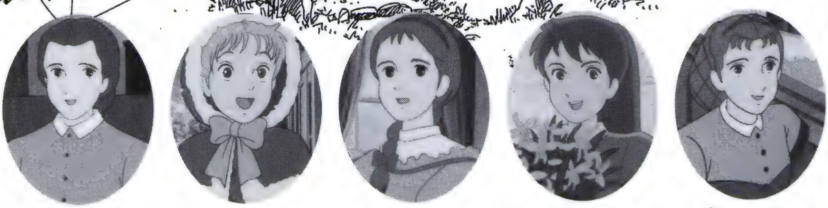


キャラクター比較表。



高台にあり海を望む
マーチ家の新しい家。

キャラクター紹介



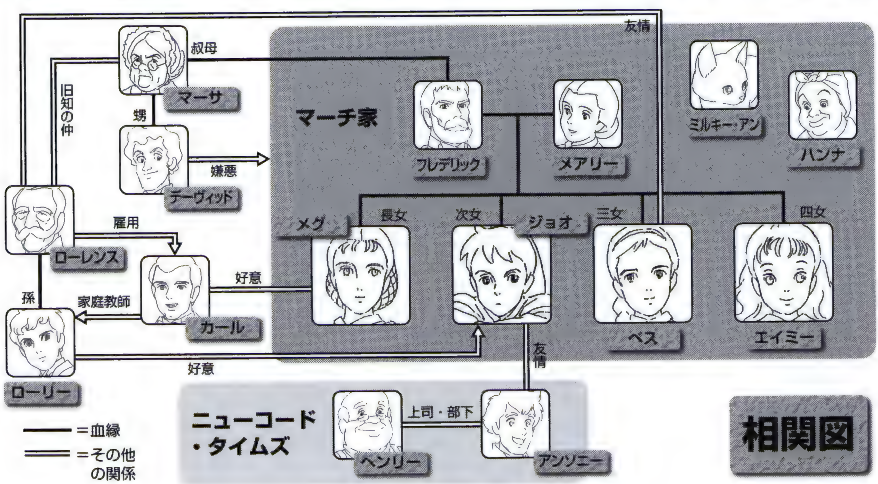
メアリー・マーチ
四姉妹の母。愛情深く、貧しくても奉仕の精神を忘れず、四姉妹の手本になっている。

エイミー
おしゃまでかわいい末っ子。絵を描くことが得意。いつも人の話を聞きたがる。

ベス（エリザベス）
体が弱く人形と猫のミルキー・アンをかわいがる。ピアノが大好きな優しい三女。

ジョオ（ジョセフィーン）
次女。小説家志望。活発で男勝り。何よりも小説が大好き。

メグ（マーガレット）
おっとりした性格だが家計を助けて働くしっかり者。舞踏会と恋に憧れるおしゃれな長女。



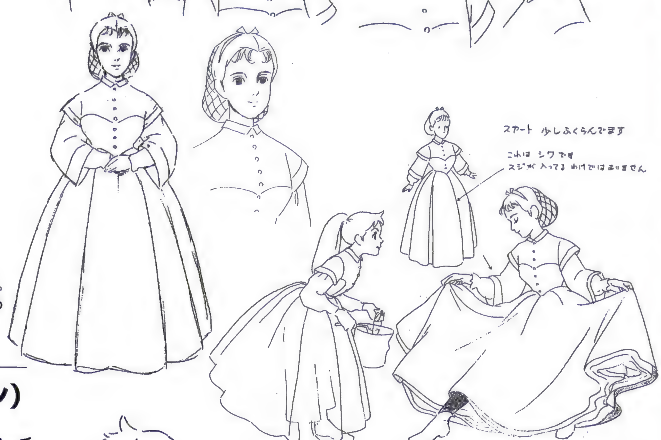
メグ(マーガレット)

マーチ家の長女。16歳。
おっとりとした性格で、家計を助けるため、キング家の子どもたちの家庭教師として働くしっかり者。ジョオのよき相談相手で、両親の不在時には、長女として姉妹をまとめた。お年頃らしく舞踏会など華やかな世界に憧れるが、彼女自身誰もが振り返るような美人。ローリーの家庭教師ブルックとは互いに惹かれ合う。(声：潘恵子)





髪は普段ネットでまとめている。前髪の後れ毛の向きまで気にするお年頃。



ジョオ(ジョセフィーン)

マーチ家の次女。15歳。
明るく活発で好奇心旺盛。父親不在のマーチ家では時に父親役を買って出ることも。本をこよなく愛し、夢はもちろん小説家。自ら新聞社に売り込みに行ったり、家計を助けるために髪を売るなど、行動力は抜群。誰からも好かれる性格で、叔母のマーサにも気に入られ、話し相手となる。情熱的な分、激しやすくもあり、その面でよく似たエイミーとは、しばしばぶつかる。(声：山田栄子)





1860年代の衣装。ペチコートやパンタロンもうまくアニメに表現。



ベス(エリザベス)

マーチ家の三女。
人形をかわいがったり、ずぶ濡れの子猫を拾ってきて世話したりする心優しき少女。時にその優しさが仇になり、母メアリーの代わりに貧しい家庭の世話に行き、そこで猩紅熱に感染し、命を落としそうになった。内気で引っ込み思案な性格だが、ピアノのこととなると性格が変わる。ピアノを何よりも愛し、ピアノを通じた縁でお隣のローレンス老人から、実の孫娘のように愛されるようになった。
(声:荘 真由美)





人形遊びが大好き。
人形も服も手作り。





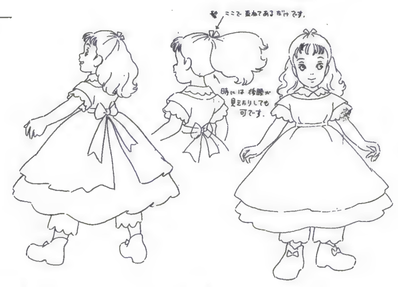


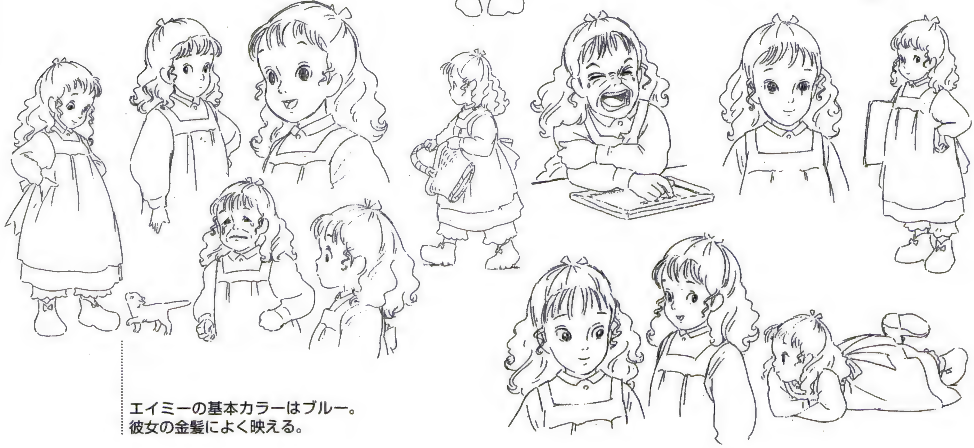
ベスが抱くのは
成長したミルキ
ーアン?

エイミー

マーチ家の四女。
おしゃまで甘えん坊の末っ子。絵が得意。鼻が低いのを気にしていて、洗濯ばさみの人形で鼻を挟んで寝ている。激情型の性格で、なにかとジョオとぶつかる。まだ幼くわがままなところもあるが、ベスが猩紅熱にかかり、叔母のマーサの屋敷に預けられた時には寂しさにじっと耐えた。マーサ曰く"将来はメグよりも美人になる"。(声:佐久間レイ)



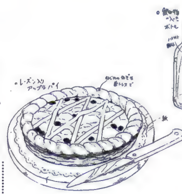




エイミーの基本カラーはブルー。
彼女の金髪によく映える。



フレデリック
父フレデリックは、元々土木技師。今は北軍の大尉を務める。
（声：阪脩）





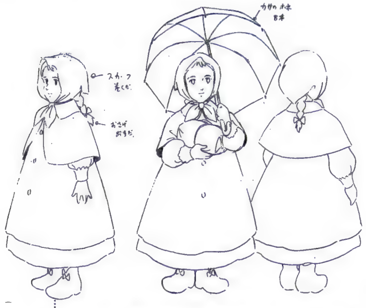
フレデリックが帰宅。久しぶりにピクニックに出かけた。おいしそうなレーズン入りアップルパイ！



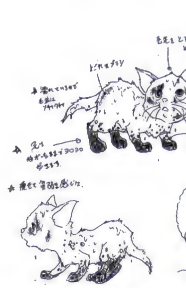
めずらしいジョオのネット髪。



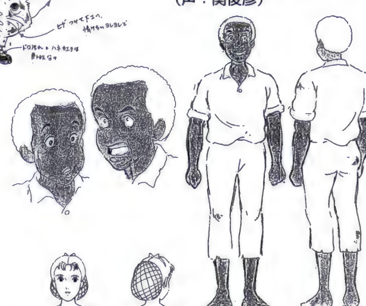
エイミーの通学スタイル。

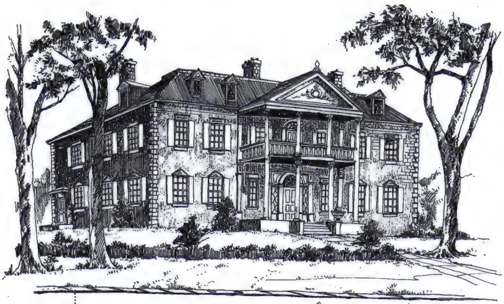


雨の日、ずぶ濡れの子猫を拾うベス（2話）。

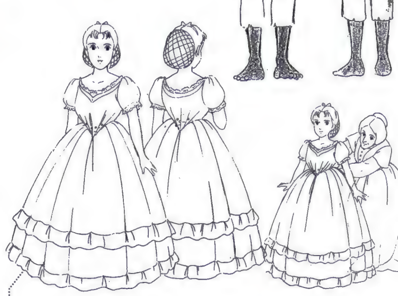


ジョン
逃亡してマーチ家にかくまわれた奴隷の青年。
（声：関俊彦）





豪華だったゲティスバーグ郊外のかつてのマーチ家。いったい何部屋あるの？



メグのドレスの仮縫い姿。ドレスも火の海に消えた。

ストーリー紹介 1〜4話

1話 パパが帰ってきた!!
南北戦争の最中、マーチ家の四姉妹は、戦争に行った父の無事を祈りながら、互いに支え合う日々を送っていた。そんなある日、父から一通の手紙が届く。

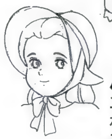
2話 ミルキー・アンを拾った
久しぶりに帰宅した父は町に南軍が近づいているのを知り、叔母の家に引越すよう伝言して軍に戻っていった。数日後の雨の日、ベスが子猫を拾ってくる。

3話 あぶない！早く逃げて!!
朝になると町は南軍に占領されていた。南軍から逃げてきた奴隷ジョンは、マーチ家に逃げ込む。ジョンから話を聞いたメアリーは彼をかくまうことにした。

4話 戦争が始まる！
ジョンを追い南軍の兵隊がマーチ家にも来たが、どうにかやり過ごして彼を助ける事ができた。翌日、メアリーは町を離れる決意をする。そしてこの日、ゲティスバーグの戦いが始まったのだった。



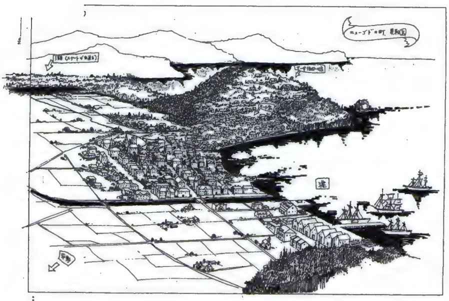
ベスの人形達。ピートだけが焼け残った。

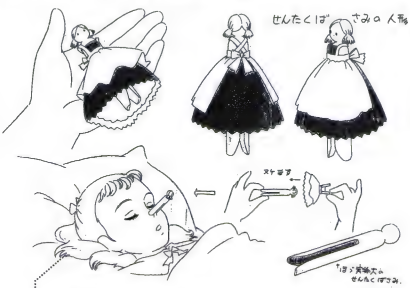
バーバラ
エイミーの友達。別れの記念に洗濯ばさみの人形をくれる。




メアリー・マーチ
四姉妹の母で聡明な優しい女性。夫の留守を守るのみならず、ボランティアにまで心を砕く。若い頃はジョオのような気性だったらしい。（声：中西妙子）



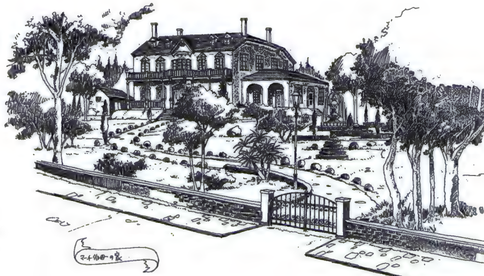
引っ越し先のニューコードの町、ふかん図。



鼻の低いことを気にしているエイミーは、毎晩洗濯ばさみを鼻に止めて眠る。




マーサ・フォレット
フレデリックの叔母に当たる女性。（声：水城蘭子）



マーサ叔母の屋敷。丘の上にあり、噴水もある豪邸。ひとり暮らしの上に部屋数も多い。身を寄せてきたマーチ家は2部屋を使う。

ストーリー紹介 5〜8話

5話 町が燃えてしまう！
町の近くでも大砲の音が響くようになり、町を離れる人が増えてきた。エイミーと仲良しのバーバラも引越すことになった。

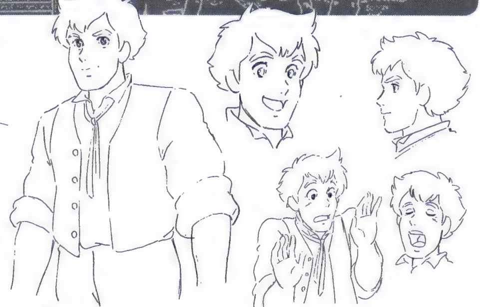
6話 さよなら ふるさと！
南軍を避けて、町はずれの丘に避難したマーチ一家。やがて町に火の手が上がる。家を焼かれ、家財を失った一家は汽車で叔母の住むニューコードへ向かう。

7話 おば様はいじわる！
ニューコードに着いたマーチ一家はマーサの屋敷を訪ねた。だがマーサは一家をあまり歓迎しない様子。そこへマーサの甥のデーヴィッドがやってくる。

8話 お家を貸して下さい！
家を探す間、一家はマーサの屋敷に滞在することになった。その間、皆で仕事を受け持つのだ。掃除を始めたジョオは、たくさん本が並ぶ書斎を見つける。



ヘンリー
ニューコード・タイムズの編集長。ジョオの才能を買っている。
（声：槐柳二）

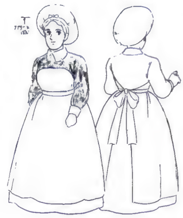


アンソニー
ニューコード・タイムズの記者。ジョオの小説を読まないうちから、「くだらない」と言いジョオを激怒させる。（声:曽我部和恭）





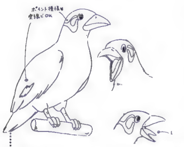
マーサの犬の設定画。本編では登場していない。



エスター
マーサの屋敷のメイド。ジョオたちにも親切。
（声:鵜飼るみ子）



左から2番目がニューコード・タイムズの入った建物。ニューコード・タイムズは階段を上がった2階にある。



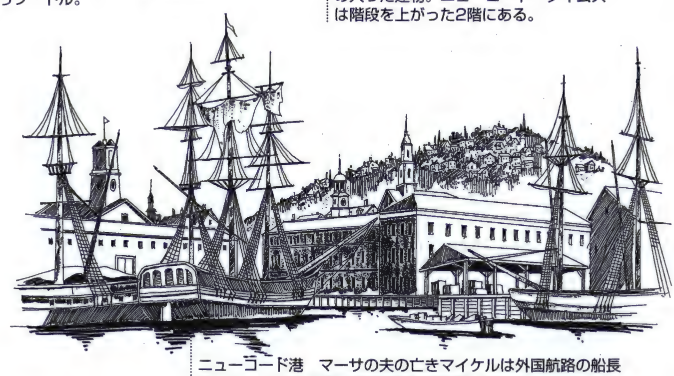
ポリー。マーサの九官鳥。「誰も私の邪魔をしないでおくれ」が口癖。



ハリー。マーサの飼うプードル。



デーヴィッド
マーサの甥っ子。道楽者でいつもマーサに金の無心に来る。
（声：塩屋浩三）



ニューコード港　マーサの夫の亡きマイケルは外国航路の船長だった。マーサは港に6棟の倉庫を所有している

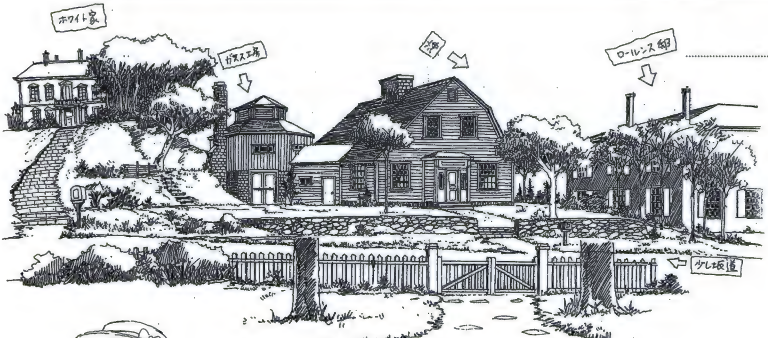
ストーリー紹介 9～12話

9話 怒りん坊のジョオ!
小説を書いたジョオは町の新聞社を訪れ、新聞に載せて欲しいと頼む。だが新聞記者のアンソニーはジョオの年を聞くと、読みもせずにくだらないと決めつける。

10話 ほめられて けなされて
マーサは、ジョオに毎日本を読んで欲しいという。ジョオは快く引き受けるが、本を読む間にマーサは眠ってしまう。そんな時、アンソニーがジョオを訪ねてきた。

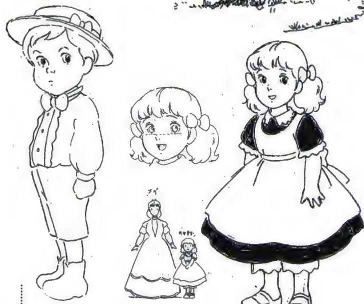
11話 マーサおば様はお気の毒!
ジョオがアンソニーに話した戦争体験がニューコード・タイムズに掲載された。それを読んだマーサはジョオを散歩に誘う。マーサはジョオに父の思い出を話した。

12話 雷なんて大嫌い!
デーヴィッドから屋敷に居座るつもりじゃないかと言われ怒ったジョオは、自分で家探しを始める。探す途中、雨宿りしていたジョオはアンソニーと出会った。

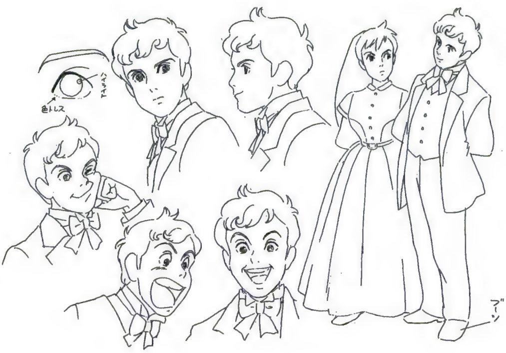


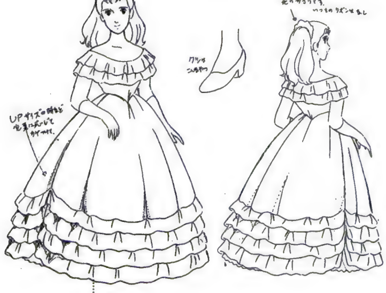
新しいマーチ家とローレンス邸の位置関係。家を探し歩いていたジョオは、ガラス工房だった八角形の建物に目を引かれた。

ローリー
マーチ家の隣に住む少年。いつもマーチ家を眺めている。ジョオとはサリーの家の舞踏会で初めて話す。
（声：飛田展男）



キャサリンとトーマス。キング家の子供達。やんちゃ盛りで家庭教師のメグの手を焼かせる。

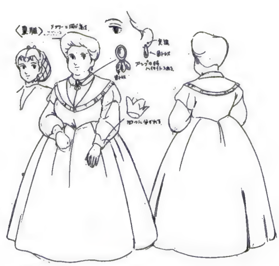




ドレス姿のメグ。最初に作ったドレスは焼けてしまい、このドレスはマーサから贈り物。



パティ
キング家の長女　兄のエドと違い、よくできた娘。メグとも分け隔てなくつきあう。



キング夫人
メグの家庭教師先の夫人。メグを泥棒と疑い、ジョオを怒らせる。

ストーリー紹介 13〜16話

13話 私たちの変な家
家を探しているジョオにアンソニーは一軒の家を紹介する。ガラス工房だったという不思議な形の家を気に入ったジョオは、家族を連れて来ることにする。

14話 エイミーと悪い友だち
エイミーが通い始めた学校では、一部の生徒が先生の目を盗みキャンデーを持ち込んでいた。そんな中、隣人のローレンスの所に彼の孫のローリーが帰ってきた。

15話 お隣からのぞく不思議な少年
祖父との暮らしになじめないローリーは、マーチ家から漏れてくる笑い声に心ひかれ、つい窓からその様子を眺めてしまうのだった。

16話 ひどい！メグは泥棒なんかじゃない!!
キング家では舞踏会にメグを招待するかどうかでもめていた。娘のパティはぜひメグを招待したいという。そこへエドを訪ねてデーヴィッドがやってくる。



メグの冬の外出着。

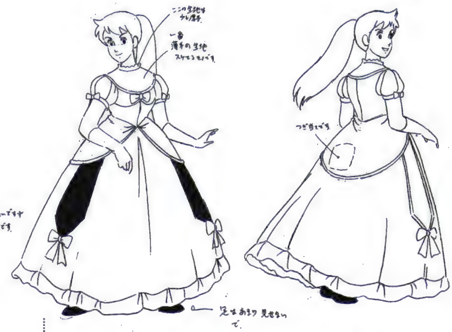




マーサは大の医者嫌いだがジョオの説得で診察を受ける。クリスティ医師はフレデリックとも旧知。



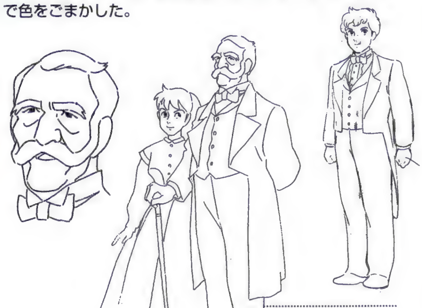
ジョオの冬の外出着。



ジョオのドレス姿。お尻のところは暖炉で焦がしてしまい接ぎ当てがしてある。目立たないようにエイミーが絵の具で色をごまかした。



ローレンス邸の書斎　ローリーが診察を受ける間ここで待っていたジョオはローレンスに出会う。壁にはローレンスの肖像画。



ジョオとローレンス氏は初対面ですっかり打ち解ける。

ストーリー紹介 17～20話

17話 ジョオとリンカーン大統領の演説!

キング家でメグが泥棒と疑われたことに憤慨したジョオは、メグに家庭教師をやめるよう言う。しかしメグは仕事は続けると決めていた。そんなある日マーサが病気で寝込でしまう。

18話 メグとジョオ舞踏会にデビュー!?

メグとジョオが舞踏会に招待された。気乗りしないジョオはカーテンの陰に隠れているが、そこでいつも隣の家から自分たちを眺めているローリーと出会う。

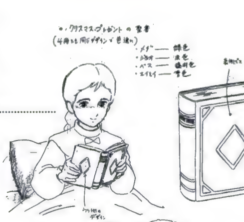
19話 おこげドレスと素敵な紳士

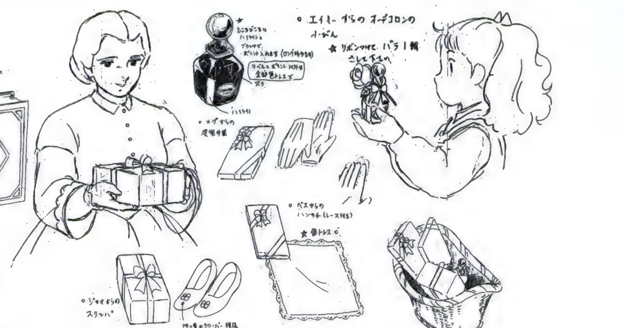
舞踏会でジョオとローリーはすぐにうち解けた。ダンスの最中に足をくじいたメグを、ローリーはジョオも一緒に馬車で家まで送り届けてくれた。

20話 ジョオのお見舞いは元気がいっぱい!

ローリーが風邪だと知って、ジョオはさっそくお見舞いに行く。ローリーが診察を受ける間にジョオはローリーの祖父のジェームス・ローレンスと出会う。

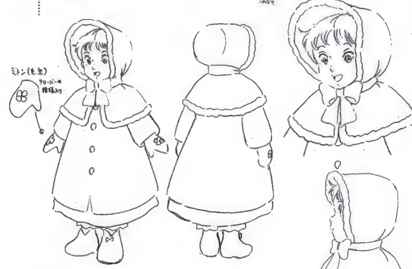
メアリーからのクリスマスプレゼントは聖書。表紙の色は四姉妹のテーマカラーと同じ！





マーサからもらったクリスマスプレゼントの１ドルで、それぞれメアリーにプレゼントを用意する。エイミーオーデコロンの小瓶、ベスはハンカチ、メグは革の手袋、ジョオはスリッパ。

エイミーの冬の外出着。



ベスの冬の外出着。

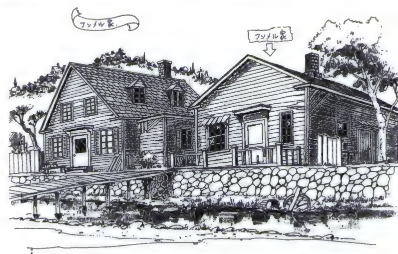




フンメルさんの家に届けた朝食。エイミーは届ける途中、空腹に耐えきれずマフィンをつまみ食い。



エイミーとフンメルさんの家の子どもたち。いつもお腹をすかせている。この他に赤ん坊もいる。



フンメル家（右）。粗末な造りの小さな家に大家族。

ストーリー紹介 21〜24話

21話 発表！はりきりジョオの自信作

クリスマスイブ。マーサがクリスマスプレゼントとして四姉妹に1ドルずつくれた。4人はそれぞれメアリーにプレゼントを買う事にした。

22話 おなかのすいたクリスマス

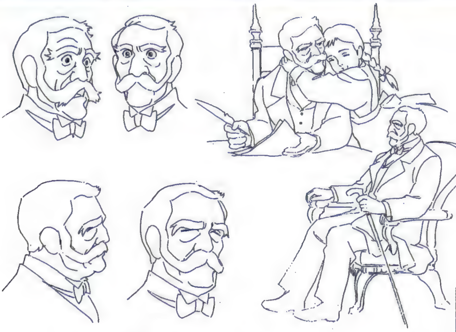
クリスマスの朝、メアリーは貧しいフンメル一家に自分たちの朝食を贈ろうと提案。全員で朝食を届けに行き、できるだけの手伝いをした。その日の午後すばらしい贈物が二つ届けられた。

23話 ベス！思いがけない贈物に大喜び！！

うまく音のでないピアノを弾きながらベスはいつも悲しい思いをしていた。ある晩マーチ家を訪ねてきたローレンスはベスにある申し出をする。

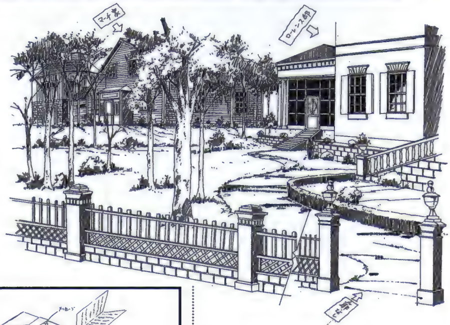
24話 メグの小さな恋の始まり？

ローレンスからいつでもピアノを弾きにおいでと言われたベス。だが内気なベスは一人で屋敷を訪ねることができない。ベスはジョオに一緒に来てほしいと頼む。

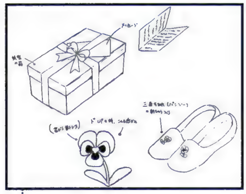


ジェームス・ローレンス

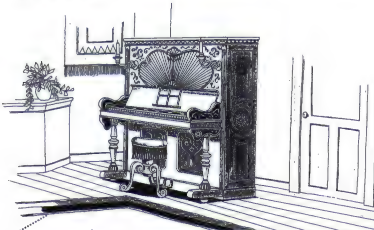
何かと頼りになるマーチ家の隣人。ローリーの祖父。頑固だが茶目っ気もある老紳士。ニューコード商船の会長。マーサとは旧知。ベスを実の孫娘のようにかわいがる。
（声：宮内幸平）



ローレンス邸の表門からマーチ家方向を眺める。表から回るとかなり距離があるがジョオたちは庭づたいに行き来している。



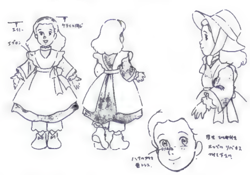
上履き　ベスがローレンスに贈ったもの。ベスの手作りで三色スミレの縫い取りがある。材料費はジョオが小説を売ったお金から出してくれた。



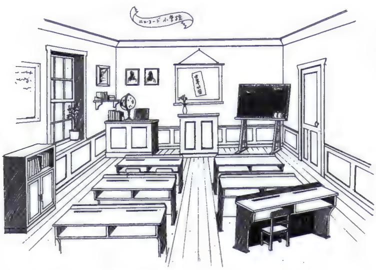
ローレンスがベスに贈ったピアノ　元はローレンスの亡くなった孫娘のものだった。



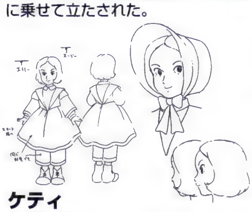
デービス先生。砂糖漬けライムを学校に持ってきたエイミーを鞭で打つ。あだなはデービスおやじ。



キャロリン・キングスレイ
10歳。秘密のキャンディパーティのメンバー。学校に遅刻して本を頭に乗せて立たされた。

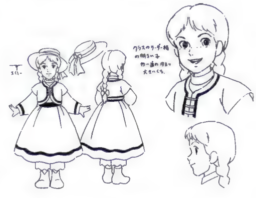


ニューコード小学校のエイミーたちの教室
エイミーの席は最前列の一番出入口寄り。



ケティ

10歳。同メンバーの一人。スージーと一緒にエイミーをからかう。



スージー・パーキンス

11歳。同メンバーのひとり。

ストーリー紹介 25～28話

25話 小説家ジョオの2ドルの傑作!

ベスはローレンスの屋敷を毎日のようにピアノを弾きに訪れていた。ベスはローレンスの親切に感謝して、手づくりの上履きを贈ることにする。

26話 怖がりベスとお隣の老紳士

ベスの贈り物を喜んだローレンスは、メアリーにある相談を持ちかける。ある日いつものようにローレンス家でピアノを弾いたベスが家に帰ると、そこには……。

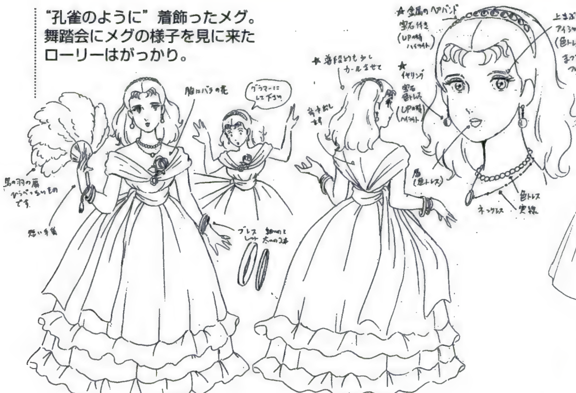
27話 学校でお仕置きされたエイミー!

ある日、エイミーは砂糖漬けのライムを持っていたのを先生に見つかった。クラスメイトの前で先生に鞭で打たれたエイミーは学校を飛び出してしまう。

28話 エイミー! なんてことするの!

メグとジョオはローリーから芝居に招待された。エイミーが一緒に連れていってと頼むが、ジョオは応じない。怒ったエイミーはジョオの原稿を暖炉で燃やしてしまう。

“孔雀のように”着飾ったメグ。
舞踏会にメグの様子を見に来たローリーはがっかり。





アニー・モファット

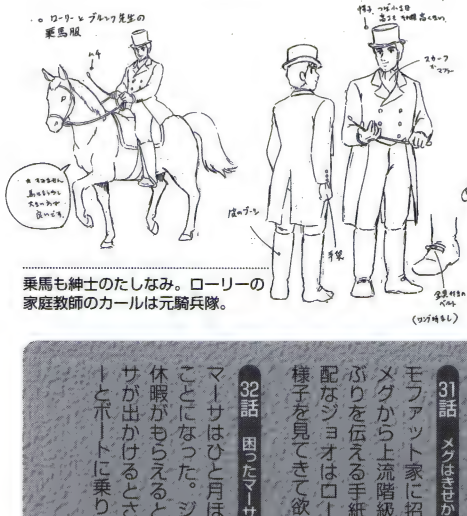
サリーの家の舞踏会で知り合ったメグをポーツマスの自宅に招待する。



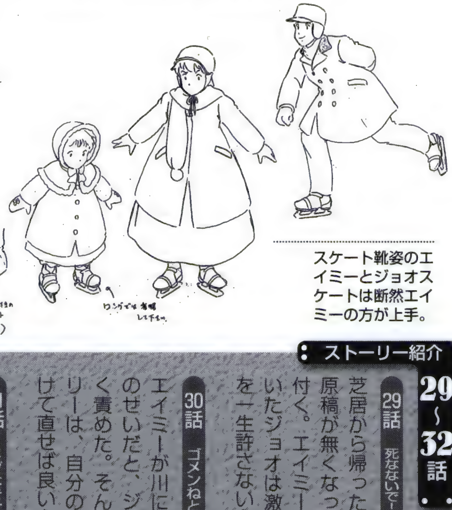
ローリーがメグに贈った花。ローリーはまめな性格。だが、この花のせいでメグはローリーとの関係を誤解される。



モファット邸。ポーツマスの上流家庭の屋敷。
メグは招待されて、ここに数週間滞在する。



乗馬も紳士のたしなみ。ローリーの家庭教師のカールは元騎兵隊。



スケート靴姿のエイミーとジョオスケートは断然エイミーの方が上手。

ストーリー紹介 29～32話

29話 死なないで! エイミーが川に落ちた!

芝居から帰ったジョオは小説の原稿が無くなっているのに気が付く。エイミーが燃やしたと聞いたジョオは激怒し、エイミーを一生許さないと言う。

30話 ゴメンねと言えたらいいのに!

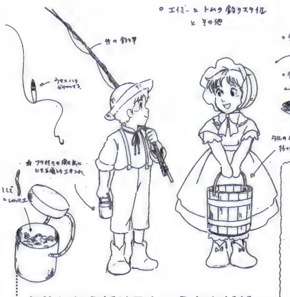
エイミーが川に落ちたのは自分のせいだと、ジョオは自分を強く責めた。そんなジョオにメアリーは、自分の欠点は時間をかけて直せば良いと励ました。

31話 メグはきせかえ人形じゃない!

モファット家に招待されているメグから上流階級の派手な生活ぶりを伝える手紙が届いた。心配なジョオはローリーにメグの様子を見てきて欲しいと頼む。

32話 困ったマーサおばさんの性格

マーサはひと月ほど療養に行くことになった。ジョオはその間休暇がもらえると大喜び。マーサが出かけるとさっそくローリーとボートに乗りに出かける。



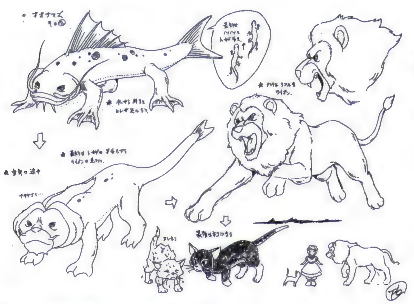


魚釣りなら任せろというトムだが…。

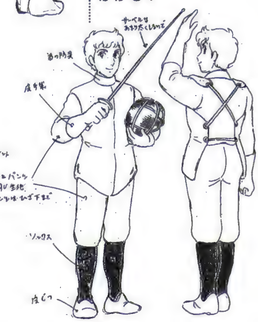


トム
カールの弟。夏休みに兄のところへ遊びに来た。年の近いエイミーとはすぐに仲良しに。

ローリーのフェンシングはなかなかの腕前。騎士道に磨きをかける！



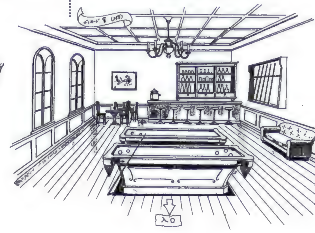




釣りの最中退屈して眠り込んだエイミーは巨大な魚やライオンに襲われる夢を見た。

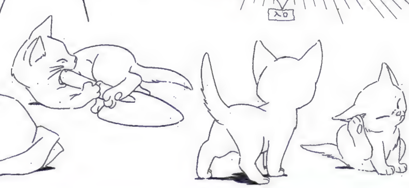
ジョンの仕事スタイル。ジョオの紹介でニューコード・タイムズの植字工になった。

デーヴィッドたちがたむろするビリヤード場。人捜しにメグが入るが、普通女性の行くところではないので、ローリーは見てびっくり。









ミルキー・アン
ベスが拾った子猫。おちゃめで賢くマーサ叔母のペットたちを手玉に取る。ずっと子猫のままだった!?

ストーリー紹介 33〜36話

33話 楽しい楽しい野外パーティだ！
エイミーは夏休み。エイミーは田舎から来たブルックの弟トムとすぐに仲良しになった。そんなある日、ローリーはジョオたちを野外パーティに招待してくれた。

34話 エイミーは悪い夢を見た！
エイミーとトムは近くの川に釣りに出かける。釣りなら任せてくれというトムだが、魚はなかなか釣れず、退屈したエイミーはいつしか眠り込んでしまう。

35話 メグ、それはやっぱり恋なのよ!!
夜中、メグがジョオの部屋を訪ねてきた。眠れないのはメグがブルックに恋しているとからだとジョオ。翌朝メグはジョオの言葉を意識せずにはいられない。

36話 ジョオの小説が新聞にのった！
ジョオはローリーとニューコードタイムズを訪れる。だが編集長は不在でジョオは拍子抜け。夕方、アンソニーが刷りあがったばかりの新聞を届けてくれた。

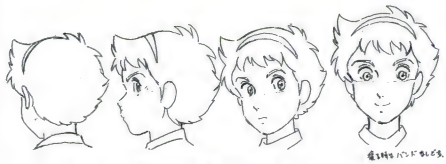
バングズ先生
ベスの主治医。猩紅熱の前には、無力だった。設定では55歳くらいとある。





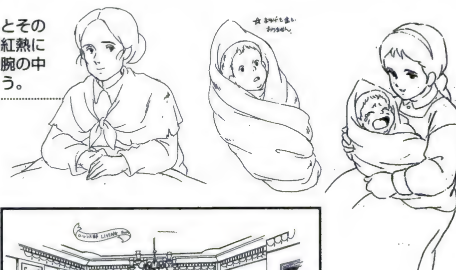
バンクス先生と一緒に来た看護師さん。

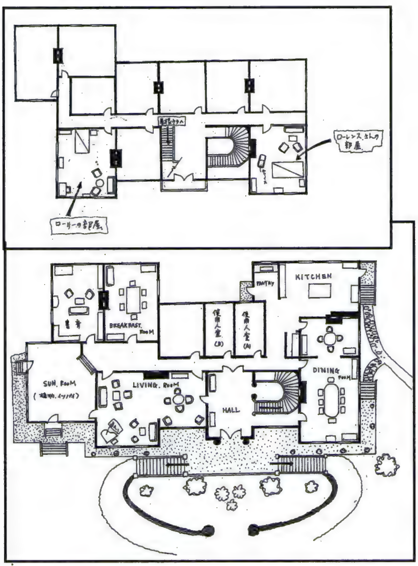
髪を切ったジョオ。男性陣の感想は…



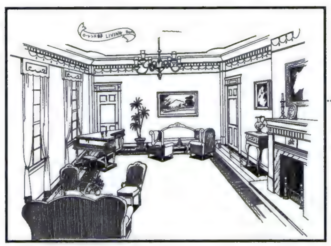
ローリー「やっぱり前の方がいいなあ」
デーヴィッド　大爆笑
アンソニー　「とてもかっこいいよ」

フンメルさんとその赤ちゃん。猩紅熱にかかりベスの腕の中で死んでしまう。

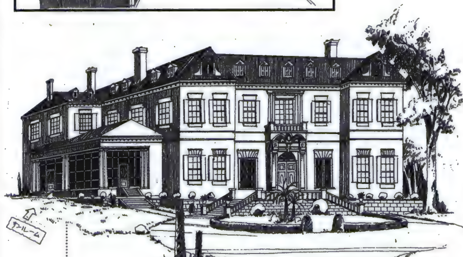




ローレンス邸見取り図。アニメには出てこない、使用人の部屋などもちゃんと設定されている。ピアノがあるのは手前のリビングルーム。



ローレンス邸のリビング。ここにあるピアノを弾きに、ベスは毎日のように通った。



ローレンス邸外観　2階の左側の一番手前の窓がよくローリーがマーチ家を眺めていた窓。

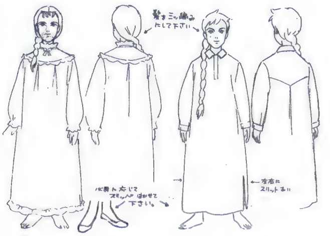
ストーリー紹介 37〜40話

37話 チチキトク…ジョオが髪を売った!
マーチ家に一通の電報が届く。父フレデリックが危篤だという。メアリーはワシントンの病院へ看病に出る事に決めた。皆で準備をする中、ジョオが大金を持って帰ってきた。

38話 悪い知らせの電報がきた!
髪を売ったジョオは、ベッドで一人泣いていた。翌日、メアリーはブルックと父の病院に向かう。残されたジョオたちは、不安を抱えたまま待つのだった。

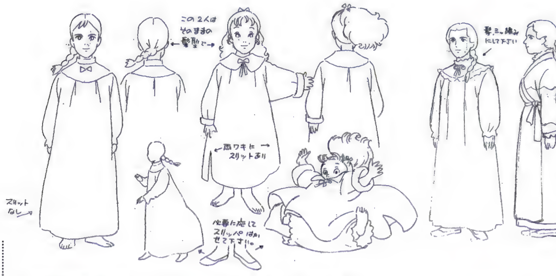
39話 みんなが書いた手紙、手紙、手紙
メアリーから、父は少しずつ回復に向かっているという手紙が来た。ジョオ達もそれぞれで手紙を書くことにする。その頃ブルックからメグ宛に手紙が届く。

40話 ベスが猩紅熱にかかった!
ある日フンメル一家の赤ん坊がベスの手の中で亡くなった。猩紅熱だったという。その日朝から具合の悪かったベスの容態も次第に悪化していく。

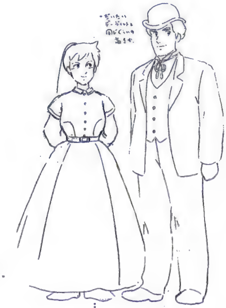




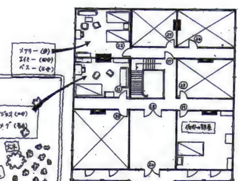
ハンナ
マーチ家の料理番。一家の信頼も厚い。猫が苦手。（声：大方斐紗子）



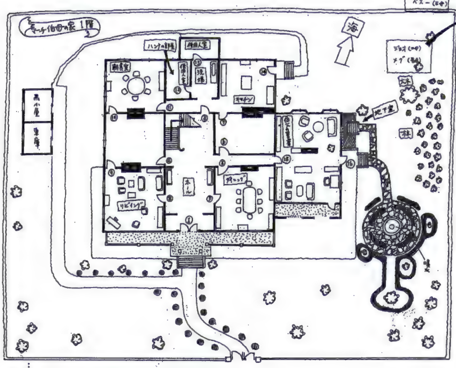
一家の寝間着姿。メグとジョオは髪を編んで眠る。エイミーとベスは同じ部屋で寝る。



ジョオとアンソニー。ニューヨークの大新聞で働くことになったアンソニーはジョオをニューヨークに誘う。









マーサの屋敷。海辺の高台に建つ。夫はすでに亡く、叔母一人暮らし。にしてもこの広さ！

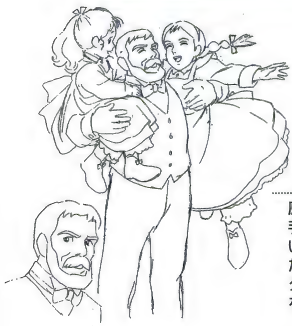
ストーリー紹介 41〜44話

41話 お母さま早く帰ってきて！
ローレンスは医者の忠告も聞き入れず、ベスを見舞う。一方ローリーは、病気がうつらないようマーサの屋敷へ預けられたエイミーを約束通り毎日訪れる。誰もがベスの回復を祈っていた。

42話 神様、どうかベスを助けて！
ベスの容態はひどくなるばかり。医者は今晩が峠だという。メアリーから今日の汽車で帰ると知らせが入るが、汽車は途中、吹雪で立ち往生してしまう。

43話 大都会ニューヨークへ行こう・ジョオ
ベスは快方へと向かっていた。ベスの回復と父が帰るという連絡をエイミーに知らせに行った。そこでジョオは、エイミーからアンソニーの伝言を聞く。

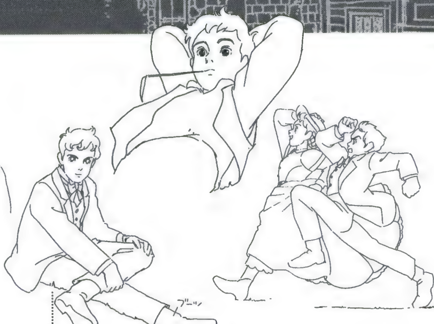
44話 ニセ手紙事件・犯人は誰か？
ベスの体調もかなりよくなり、エイミーはようやく家に帰れるが、どうも様子がおかしい。ジョオはローリーと口をきかないし、メグもぼんやりしているのだ。



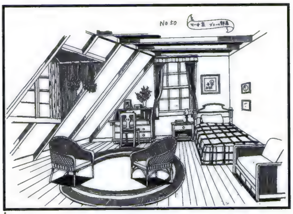
カール・ブルック
原作ではジョンという名前。ローリーの家庭教師。
（声：小島敏彦）



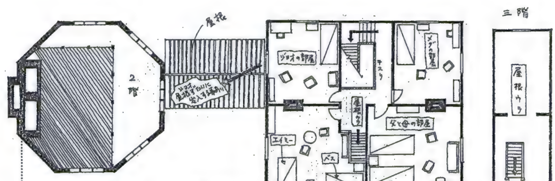
原作では絶対に子どもに手を挙げないが、OPでいきなりエイミーに尻たたきをした父フレデリック。設定も牧師だったのを土木技師に変更。



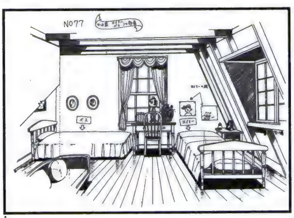
ローリーはジョオに想いを寄せているが、ジョオはまったく知らんぷり。片思いなのである。



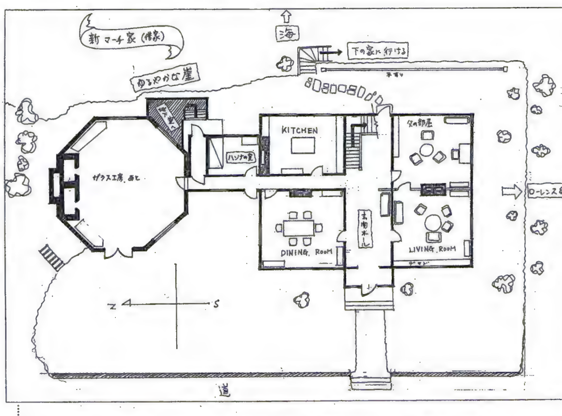
ジョオはこの部屋に籠もって小説を書く。



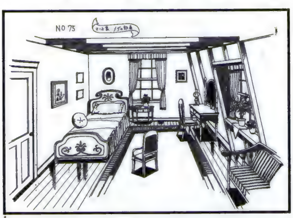
海のそばの家だが、特に海に絡むエピソードがないのが残念！



ベスとエイミーは一緒の部屋。



ニューコードの新マーチ家の見取り図。八角形のガラス工房が特徴。リビングはローレンス邸側にあり、ローリーの部屋からよく見える。これを見る限りマーチ家が貧乏とは思えない…。



メグの部屋には化粧台が置かれている。

ストーリー紹介 45〜48話

45話 おじいさまがローリーをなぐった！
ベスを見舞いに来たローレンスは、ローリーの挙動に不審を覚える。訳を尋ねても何も話さないローリーを、ローレンスは思わずなぐってしまう。

46話 思いがけないクリスマスプレゼント
ベスも今では一人で階段をおりられるほどになっていた。そしてクリスマス当日、ローリーがマーチ家にすばらしいプレゼントを届けてくれる。それは…。

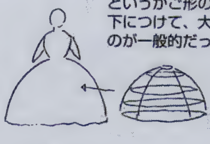
47話 さよなら！アンソニー
父が帰宅した。その夜マーチ家は素晴らしいクリスマスを過ごす。そしてクリスマス休暇のある日、ついにブルックはメグに愛の告白をする。

48話 春！それぞれの旅立ち
ついに戦争が終わった。翌日マーチ家ではベスと父の全快祝いとメグとブルックの婚約祝いのパーティが行われる。同じ日、ニューヨークへ行く事を決めていたジョオは旅立っていった。

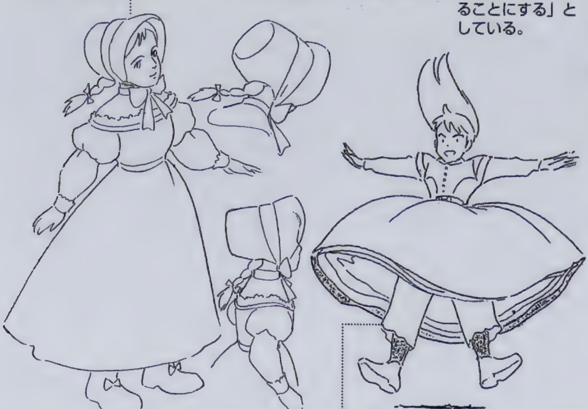
1860年代ファッション

若草物語の時代、ヴィクトリア王朝下で繁栄するヨーロッパを背景に、海を隔てたアメリカでも、生地をたっぷり使用した華麗なファッションが流行した。女性は貧富に関わらずクリノリン付きスカートにボンネットとショールを身につけたという。クリノリンはアニメでは省略されたが、メグやマーチ夫人の後半の服のように、袖の手首が広がって下の袖が見えるデザインやボンネットに、この時代らしさがよく出ている。

1860年代の女性は、クリノリンというかご形の装身具をスカートの下につけて、大きくふくらませるるのが一般的だった。アニメでは描写が困難なため、「ペチコートを何枚か重ねてスカートがふくらんでいることにする」としている。



ボンネット(帽子の一種)は、この時代の女性のたしなみ。



当時、長いパンタロン（ズボン状の下着）は見せてもよいものとされていた。

広がった袖口、ふくらんだスカートが1860年代スタイル。

前髪を真ん中で分けるスタイルも当時の流行。





パンタロンデザインを“活用”して、姉妹たちの、飛ぶ、転ぶ、逆さまになるなど、思い切ったアクションシーンがふんだんに登場。

近藤喜文（こんどうよしふみ）
Aプロダクションを経て日本アニメーションで、原画、キャラクターデザインに携わった。後にジブリへ移籍。彼の才能は、将来を期待されたが1998年病没。47歳の若さだった。

キャラクターデザインの近藤喜文氏のこと

『赤毛のアン』『愛の若草物語』で、まれに見るセンスでキャラクターを生み出した近藤喜文氏。『愛の若草物語』では基本キャラクターを彼が設計した。豊かな表情、イメージを喚起させる仕草など、単なる設定画にとどまらない魅力に溢れている。



原作について

〝少女のための物語を〟と編集者から依頼されて書いた物語。愛情深い両親と4人姉妹の、つましいながらも信頼と希望に溢れた暮らしを描いた。（1868年発表）教訓色が強かった当時の児童書にあって、ジョオをはじめ、姉妹たちの生き生きとした日常の描写が読者の心をつかみ、一大ベストセラーになった。

その好評を受けて続編が書かれ、第四若草物語まで続く。第三若草物語（little men）が『ナンとジョー先生』である。



ヒルサイドと呼ばれたこの家で暮らした数年間の幸せな思い出が、『若草物語』に盛り込まれた。



ルイザたち一家がもっとも長く住んだオーチャードハウス。ここで若草物語が書かれた。（写真は上下ともコンコードより）。
photo：Kaori Chiba（2点とも）



『若草物語』
訳　：矢川澄子
発行：福音館書店

〈原作者〉
ルイザ・メイ・オルコット
1832－1888

哲学者で教育者であった父ブロンソンと聡明な母アビゲイルの4人姉妹の次女として、1832年ペンシルバニア州に生まれる。理想を追い求め生活力のない父に代わって、作家として一家の生活を支えた。『若草物語』シリーズで一躍人気作家となる。『昔気質の一少女』『八人のいとこ』などの児童書が今日知られているが、大人向けのスリラー小説やサスペンス、恋愛ものなどの著作も多い。

どうして原作と舞台を変えたのか？

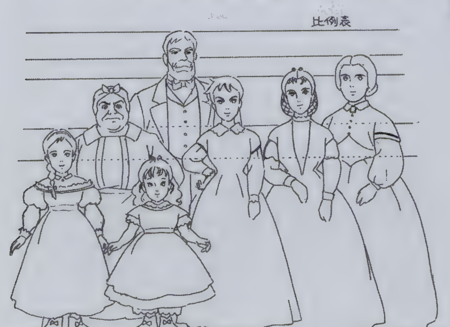
『若草物語』はオルコットの自伝的物語だ。そのため原作の舞台は、一家が住んでいたマサチューセッツ州コンコードとされる。ところがアニメでは、緑豊かなコンコードではなく、海辺にある架空の町ニューコードに舞台を設定した。

その理由は、前年放映の『愛少女ポリアンナ物語』の背景にあった。『ポリアンナ』でアメリカ東部の田舎町のモデルとしてコンコードを参考にしたため、背景が似ないよう変更したという。

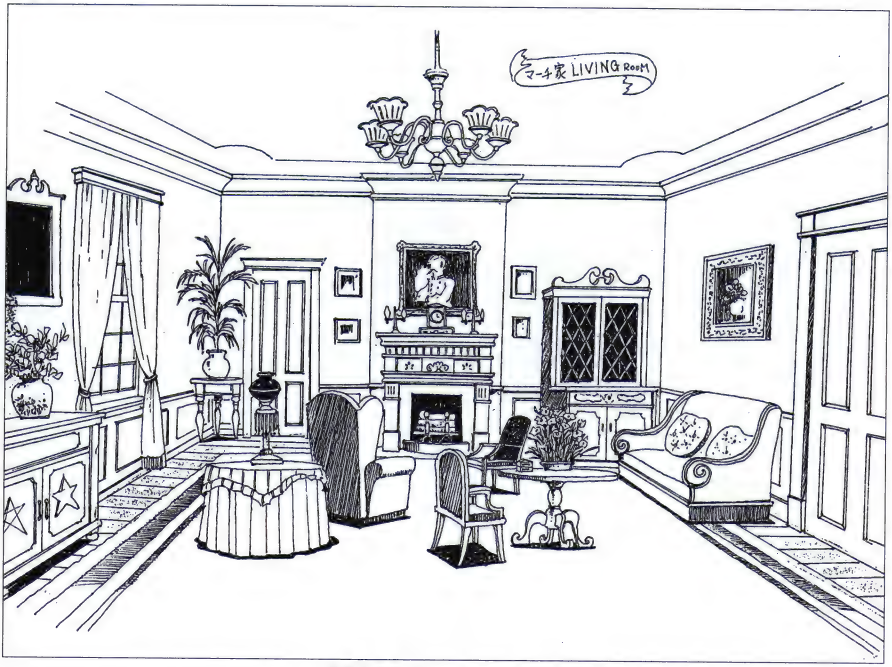
しかし原作にない設定のためか、海に絡むエピソードはほとんど無く、海辺の町という印象は薄い。あのジョオなら砂浜を駆け回ったり、海に向かって叫んだりしそうだが…。

若草四姉妹のモデルは？

ルイザが物語のモデルに選んだのは、身近にいて一番よく知る自分の家族だった。長女アンナはメグ、ジョオは自分自身、次女ベスはベス、四女アビー・メイはエイミー…（父だけは実際よりも理想化して描いている）。ベスが猩紅熱に罹ること、ジョオが自慢の髪を切ったこと、エイミーの絵の才能など、性格や特技、エピソードはほとんど事実に基づくものである。マーチ家（March）という名前は、母の実家メイ家（May）をもじったもの。ルイザがもっとも愛し、若くして亡くなったベスだけは、そのまま本名で登場させている。



Gallery



マーチ家の居間（ニューコード）／川本征平

メインスタッフ

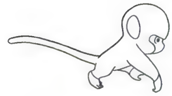
脚本	宮崎晃
音楽	大谷和夫
レイアウト監修	橋本淳一
キャラクターデザイン	近藤喜文／山崎登志樹
絵コンテ	腰重男／矢沢則夫／岡部英二／四辻孝雄／杉村博美／山口武志／松見真一／辻伸一　ほか
作画監督	山崎登志樹／古山匠／大谷敦子
作画監督補佐	藤井裕子
美術設定	川本征平
美術監督	高野正道
録音監督	山田悦司
プロデューサー	中島順三／石川泰平
監督	黒川文男

オープニングテーマ「若草の招待状」
作詞：秋元康
作曲：高見沢俊彦
編曲：佐藤準
歌：新田恵利

エンディングテーマ「夕陽と風とメロディ」
作詞：麻生圭子
作曲・編曲：松任谷正隆
歌：新田恵利

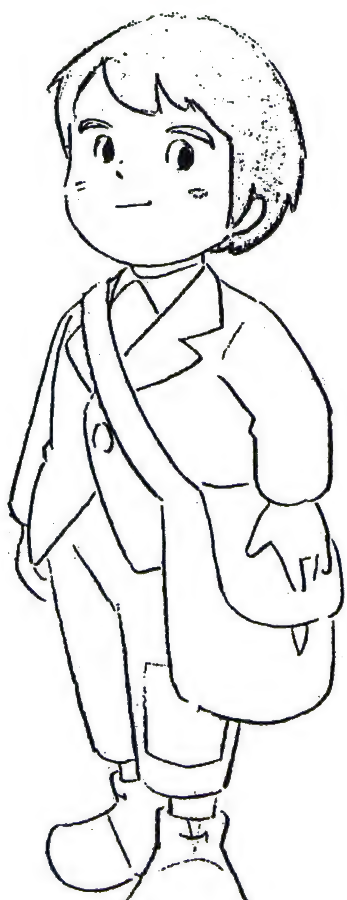
オープニングテーマ「いつかきっと!」
作詞：おおくぼ由美
作曲：森田公一
編曲：大谷和夫
歌：潘恵子／山田栄子／荘真由美／佐久間レイ

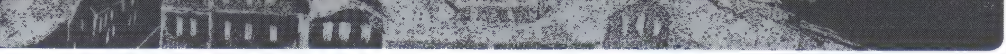
エンディングテーマ「お父さまへのララバイ」
作詞：おおくぼ由美
作曲・編曲：森田公一
歌：下成佐登子



母をたずねて三千里

From the Apennines to the Andes（Marco）





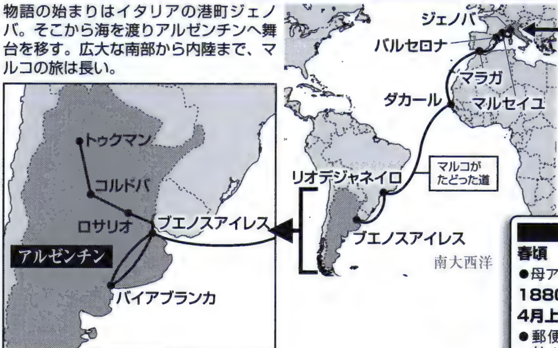
母をたずねて三千里



放映期間	1976/010/04～ 1976/12/26
話数	52話
原作	エドモンド・デ・アミーチス「クオレ 愛の学校」
備考	76年文化庁こども向けテレビ用優秀映画作品賞受賞

物語の舞台

物語の始まりはイタリアの港町ジェノバ。そこから海を渡りアルゼンチンへ舞台を移す。広大な南部から内陸まで、マルコの旅は長い。



History

イタリア統一から20年後のジェノバ。かつての誇り高き海洋国も、長引く不況にあえぎ、新天地を求め海を渡る者も多かった。

ストーリー解説

イタリアの港町ジェノバ。少年マルコの気がかりは、1年前に遠くアルゼンチンに出稼ぎに出たお母さんからの手紙が途絶えがちになったこと。母のアンナがアルゼンチンに行ったのは、父のピエトロが貧しい人達のための診療所を建てるという情熱を理解したからだ。しかし幼いマルコの不安は日々、募るばかりだった。

やがてマルコは、アルゼンチンへ行くというペッピーノ一座と知り合う。内気な少女フィオリーナとの友情の中で、一座と一緒に行けたらと願うマルコ。しかし現実は厳しく、母を見送った桟橋で再び別れを味わう。母を案じて気が気でないマルコは、ついにひとりでアルゼンチンへ行こうと決意。最終的にはピエトロも息子の強い意志を知り、マルコを旅に出すのだった。

船の乗組員達、リオで乗った移民船、そしてアルゼンチンの行く先々の町で、マルコは様々な出会いと別れ、希望と挫折を経験する。母の姿を追ってマルコの長い長い旅が続く。

1879年

春頃
- 母アルゼンチンへ

1880年

4月上旬
- 郵便配達のバイトを始める

4月下旬
- ジロッティの店で働き始める

5月下旬
- 初の月給日、引越、
- フィオリーナとの出会い

6月
- 学校が夏休みに入る

13日
- 飛行船が飛ぶ

20日
- フィオリーナアルゼンチンへ

30日
- フォルゴーレ号で出航

7月後半
- ブエノスアイレス到着、バイアブランカへ出発

8月中旬
- バイアブランカ着

18日
- ブエノスへ戻る

19日
- ロサリオへ船で出発

22日
- ロサリオ着

23日
汽車でコルドバ着

25日
- トゥクマンへ出発

9月上旬
- トゥクマンへ到着、母と再会

9月下旬～10月
- トゥクマン出立

10月下旬
- 母とジェノバへ到着

※行程や台詞などからおおよその時期を推定したもの

19C	1816	アルゼンチン独立
	1825	蒸気機関車実用化(英)、ブラジル・アルゼンチン戦争(～1828)
	1837	ビクトリア女王即位(英)
	1860	ガリバルディ、千人隊を創設
	1861	イタリア王国成立
	1862	アルゼンチン共和国成立
	1868	明治維新(日)
	1871	イタリアの首都、ローマに遷都
	1880	ブエノスアイレス、アルゼンチン共和国の首都に
20C	1903	ライト兄弟飛行機を発明(米)
	1914	第1次世界大戦(～1918)
	1929	世界恐慌
	1939	第2次世界大戦(～1945)
	1969	アポロ11号月面着陸(米)
21C		



キャラクター比例表。



マルコの新しい家。屋根の上の物干し場。

キャラクター紹介



ペッピーノ
人形一座として3人の娘を連れ旅興行をする。いかさま師的だが根は善良。



フィオリーナ
ペッピーノの次女。内気で心優しい人形使い。彼女にとってマルコが初めての友達。



アメデオ
ブラジル生まれのサル。トニオのサルだったが、後にマルコの旅に同行する。



トニオ・ロッシ
思いやりと機知に富むロッシ家の長男。機関士になるための勉強中。



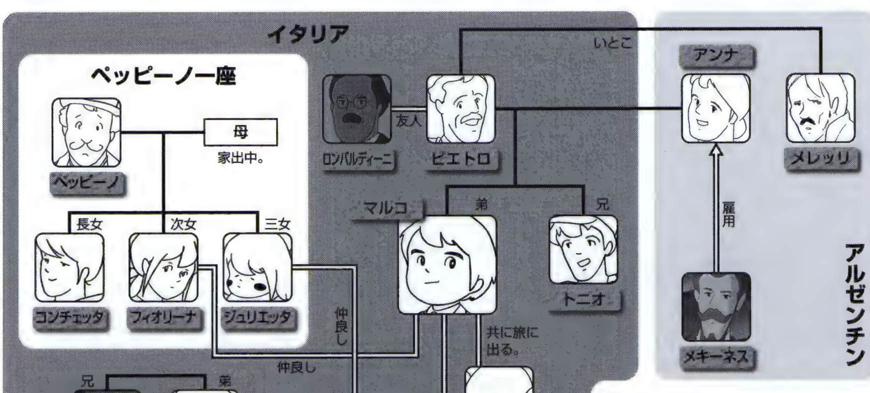
アンナ・ロッシ
ピエトロの仕事を理解し、アルゼンチンへの出稼ぎを決意。しっかり者で優しい母。



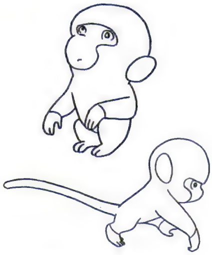
ピエトロ・ロッシ
貧しい人のための診療所を運営している。表現は不器用だが、家族思いの父。

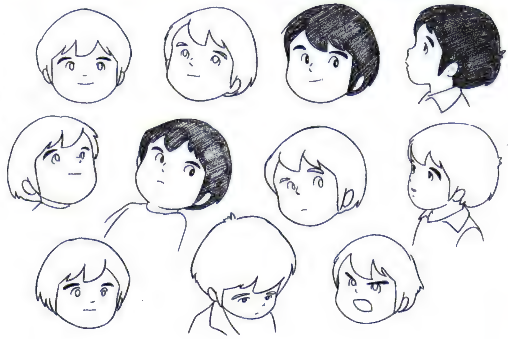


マルコ・ロッシ
元気で頑張り屋、母思いのロッシ家の次男。根性は誰にも負けないジェノバっ子。



相関図



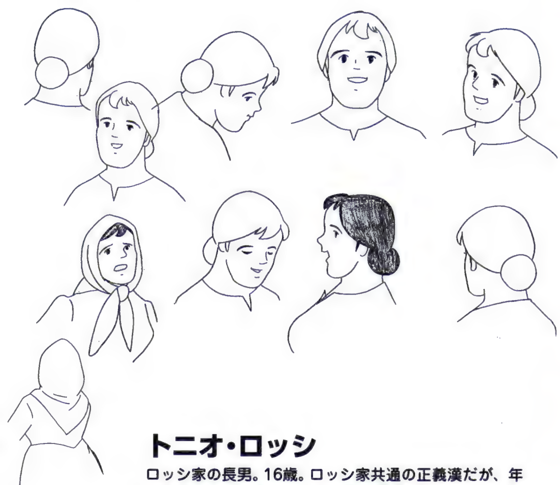


マルコ・ロッシ
ロッシ家の次男。9歳。負けず嫌いでいじっぱり。母思いの頑張り屋。母がアルゼンチンに行った後は、料理や買い物など家事の傍ら、アルバイトもするしっかり者だが、やや思い込みが激しいところがある。（声：松尾佳子）

アメデオ
アンナが出稼ぎに行った後、トニオが飼い始めたブラジル原産のサル。後にマルコに譲られ、マルコの旅の供をする。

アンナ・ロッシ
マルコの母。夫の仕事を理解し、アルゼンチンに行く。早くに父を亡くし、ジェノバに出稼ぎに来たところでピエトロに出会った。誰にでも親切で働き者。38歳。（声：二階堂有希子）





トニオ・ロッシ
ロッシ家の長男。16歳。ロッシ家共通の正義漢だが、年上なだけに、物わかりよく父母を理解しようとする。そのためか実際的な鉄道学校への進路を選んだ。どちらかと言えば一本気で生真面目なマルコとは対照的に、ユーモアがあり、ロッシ家のムードメーカー的な役割も負う。（声：曽我部和行）

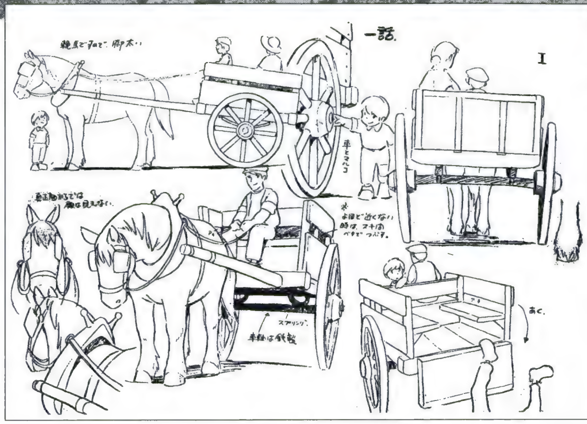




ピエトロ・ロッシ
貧困層にも医療の手をと率先して医者を集め、仲間を募ってジェノバの貧しい人のための診療所を経営している。その熱意は、他人のためなら自分の命の危険も顧みないほど。息子のマルコを医者にと願っている。45歳。（声：川久保潔）



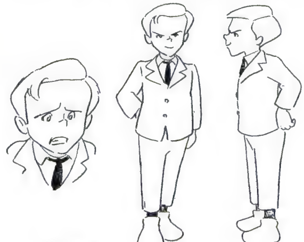
ヤコボ爺さん
窓から海が見える3階の住人で、マルコにミケランジェロ号の入港を知らせてくれる。（声：槐柳二）



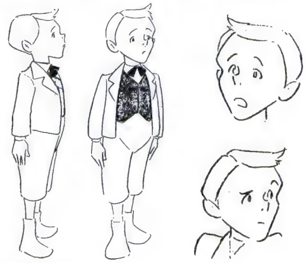
借りた馬車（二輪車）。設定画の中に、後ろの戸が開いて転げ落ちる人が見える。ピエトロか。



マルコの通う学校の教師。（声：山田俊司）



ルイジ
上級生ルイジ。ベルナルドをいじめ、止めに入ったマルコにも逆恨みする。金持ちだがやることは弱い者いじめ。（声：野沢雅子）



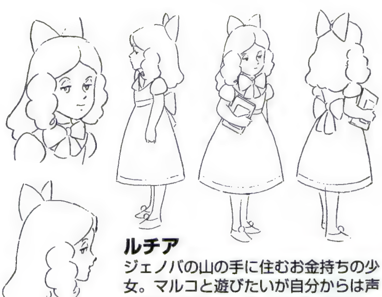
ドメニコ
マルコの隣の席で級長。本人曰く「マルコより背が高く勉強できる」が、ルチアにとってはマルコを誘うためのダシ扱い。（声：白川澄子）



ブルーノ
建具屋の親方。仕事を探すマルコが弟子にしてほしいと頼む。



ブルーノ親方のもとで働く見習い職人。親方の性格をよく把握している。



ルチア
ジェノバの山の手に住むお金持ちの少女。マルコと遊びたいが自分からは声をかけられない。（声：松金よね子）

ストーリー紹介 1～4話

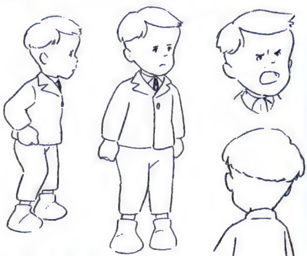
1話 いかないでおかあさん
久しぶりに一家揃ってのピクニックでマルコは大はしゃぎ。ところが母が明日遠いアルゼンチンに旅立つと知って、マルコはショックを受ける。

2話 ジェノバの少年マルコ
母が旅立って1年。父とふたり暮らしのマルコは今や家事の担当だ。今日は鉄道学校に行っている兄のトニオが、久しぶりに帰ってくる日だった。

3話 日曜日の港町
久しぶりに家族で海に出かける約束をした日曜日、マルコはジーナおばさんに郵便配達の仕事を頼まれてしまう。マルコは大急ぎで町を駆け巡る。

4話 お父さんなんか大きらい
ベルナルドをかばって上級生とケンカしてしまうマルコ。家では、母の助けになりたい気持ちを父に理解してもらえず元気をなくしてしまう。そんな時、道端でペッピーノ一座と出会う。





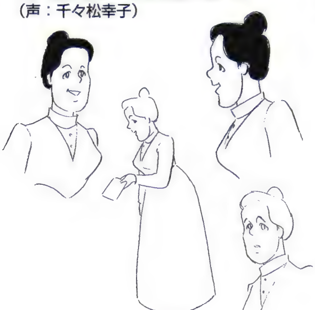
ベルナルド
エミリオの弟でおとなしく気は弱い。自分を養う兄を尊敬し慕う。（声：千々松幸子）



エミリオ
マルコより3つ年上だがマルコと学年は同じ。学校を休んで働いている。父はなく、エミリオが一家の大黒柱。（声：北川千絵、駒村クリ子）



港の市場に店を出す野菜屋のおばさん。マルコの行きつけの店。（声：北川千絵）



ジーナ・クリスティーニ
船会社のジーナ。船荷の郵便業務も行う。航海士の夫を海難事故で亡くした未亡人。沈みがちなマルコを励まし、郵便配達をマルコに依頼する。（声：坪井章子）



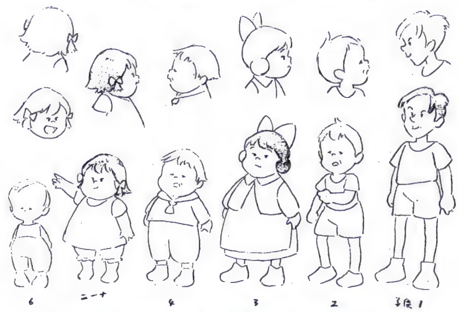
子だくさんで大忙しのベルラおばさん（左／声：友部光子）と、優しい夫フェルディナンド（右／声：松岡文雄）マルコは時々お使いを頼まれる。



カルロ
マルコの家の近くに住む。ロッシ家とは何かと助け合う間柄（声：辻村真人）



フェルディナンドの一家の教会行きのスタイル。ベルラおばさんが夫を歌うように呼ぶ声が印象深い。



ベルラおばさんの子供で全部で6人。5番目のニーナ（声：牛崎敬子）は自分が先頭でないと気がすまない。

ストーリー紹介 5〜8話

5話　なかよしエミリオ
学校を休むエミリオを見舞いに行ったマルコは、エミリオが病気でなく働いていると知る。仕事を探すマルコに、エミリオは瓶洗い屋を紹介してくれた。

6話　マルコの月給日
ジロッティの店で働くようになって1ヶ月。母の手紙が届かないことにマルコは心配を募らせていた。そんなとき、トニオから明日引越だと聞かされる。

7話　屋根の上の小さな海
新しい家への期待とは裏腹に痛み放題の部屋を見てマルコはショックを受けるが、それを紛らわそうと猛然と引越の手伝い始める。夕方、マルコは屋根の上で人形遣いの少女に出会う。

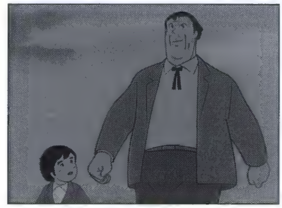
8話　ゆかいなペッピーノ一座
マルコの側を離れたアメデオはペッピーノ一座の大道芸に加わっていた。アメデオを気に入ったペッピーノが、マルコを一緒にアルゼンチンへ連れて行ってあげると誘う。



ジロッティ
瓶洗い業の主でマルコを雇う。機械化の波で、仕事が減りつつあるのが悩み。（声：塩見龍介）



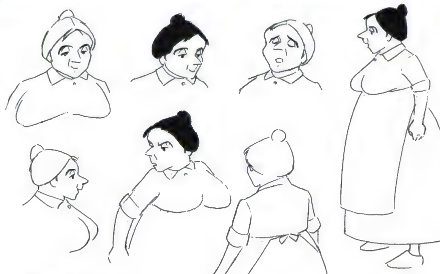
ロンバルディーニ
ピエトロの考えに賛同して診療所に携わる医者。（声：上田敏也）



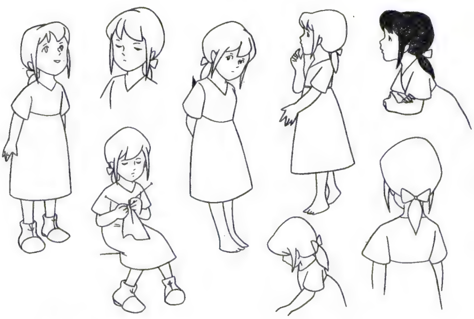
サンドロ・ゴッピ
ドイツに留学していた医者で、ピエトロの友人。（声：家弓家正）



ルキーノ
カタリナの夫で、飲んだくれ。仕事が長続きしない。彼の愚痴から、当時の長時間労働の辛さや工場の非人間性が浮き彫りにされている。（声：細井重之）



カタリナ
マルコの斜め上に住むお隣さんで、マルコを小さいときからかわいがる。世話好きでお節介なのも真に親切心からである。ルキーノの就職のことで悩みが尽きない。（声：麻生美代子）



フィオリーナ
ペッピーノの次女で、心優しいが内気な少女。学校に行かず働きながらの旅暮らし。マリオネットが上手いが、自分に自信が持てないでいる。（声：信沢三恵子）



ペッピーノ
3人娘の父で、妻には逃げられた。調子よく大風呂敷を広げ見果てぬ夢を見る男。娘を率いて人形芝居や踊りの旅興行を続け、一旗揚げようとアルゼンチンを目指す。（声：永井一郎）

ストーリー紹介 9〜12話

9話 ごめんなさいお父さん
ジロッティの店をクビになり、更にアルゼンチン行きがダメになったマルコ。家に帰ると父の友人のゴッピがいた。彼に頼まれ父の診療所まで行ったマルコは初めて父の仕事の意味を知る。

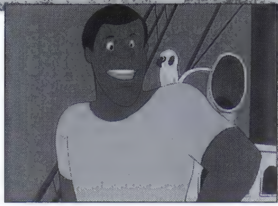
10話 かあさんのブエノスアイレス
雨の中、無理して芝居をしたコンチェッタが風邪をこじらせた。マルコがロンバルディーニ先生を呼んできてふたりを治療してくれる。

11話 おかあさんの手紙
病気の父と姉に代わり、フィオリーナはひとりで芝居をしようと町に出た。うまくいかず沈むフィオリーナに、マルコはあやつり人形を使おうと提案する。

12話 ひこう船のとぶ日
飛行船が飛ぶという日。マルコはエミリオとアイスクリーム屋をしてお金を稼ぐが、稼いだ額は移民船の切符代には足りていない。考えたエミリオはレナードに切符の手配を頼む。



レオナルド
コック長。短気で頑固が情にもろい。マルコを気に入り、別れのシーンが胸を打つ。（声：神山卓三）



ロッキー
アメリカ、ニューオリンズ出身の陽気で気のいい水夫。21歳。（声：野島昭生）



レナード
港のことに顔がきくが、黒い噂もある男。エミリオは彼に船の切符の手配を頼むが…。

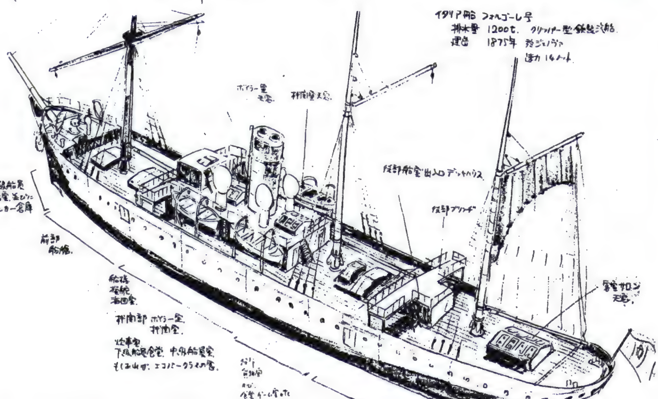


ジャコモ
フォルゴーレ号の水夫。ロッキーと一緒にいることが多い。マルコに「赤道はどうして赤道というか」と質問して、逆にきりかえされる。（声：島田彰）





ピエトロは自分でアンナを迎えに行く準備をしていた。だが、マルコの決意を知りマルコをアルゼンチンに送り出す決意をする。



当時の最新型快速商船フォルゴーレ号。クリッパー型鉄船で、動力は蒸気機関だが帆装も併用する。時速16ノット。1875年建造。船籍はイタリア。このときはジェノバとリオデジャネイロ間を航行。

ストーリー紹介 13~16話

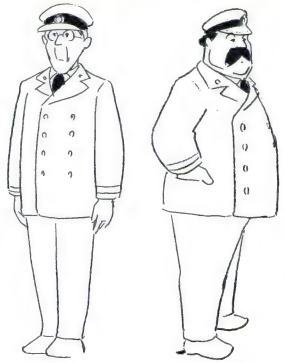
13話 さよならフィオリーナ
移民船の切符を頼んだレナートが姿を消した。レナートを探して金を取り戻した。次の日、乗船できなかったマルコは母への手紙をフィオリーナ達に託した。

14話 マルコの決意
母の手紙はまた来なかった。ピエトロは自分がアルゼンチンへ行こうと考えていた。それを知らないマルコは雨の夜、父の留守の間に家を出たマルコはブラジル行きの船に忍び込んだ。

15話 すすめフォルゴーレ号
船に忍び込んだマルコ。だが、翌朝乗組員に見つかってしまう。呼び出された父の前に連れて行かれるが、マルコの決意を知った父はアルゼンチン行きを許可するのだった。

16話 ちいさなコック長
コック長の取りなしで無事フォルオーレ号の見習いコックとして乗船を許されたマルコ。仲良くなったロッキーに教わりながら船の生活になじんでいく。



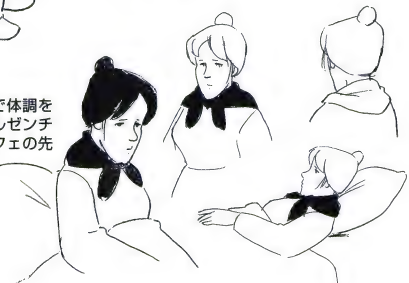




モレーニ
フォルゴーレ号事務長。杓子定規で融通の利かない常識人ぶりが、型破りな船員達の中でバランスのとれた存在になっている。
（声：三田松五郎）

フォルゴーレ号船長。レオナルドコック長に欠員の人選を任せるという心憎い演出で、マルコの乗船を認める。





レナータ
ニーノの母親で、船酔いで体調を崩している。半年前にアルゼンチンに移民した夫がサンタフェの先で待つ。移民船で知り合ったフェデリコと行動を共にする。
（声：二階堂有希子）

フェデリコ
移民船に乗り合わせた老人で、ロサリオの息子夫婦を訪ねていく途上。マルコに親身に接する。物静かだが、大嵐の中でパニックを起こしかけた移民たちをまとめる。（声：峰恵研）



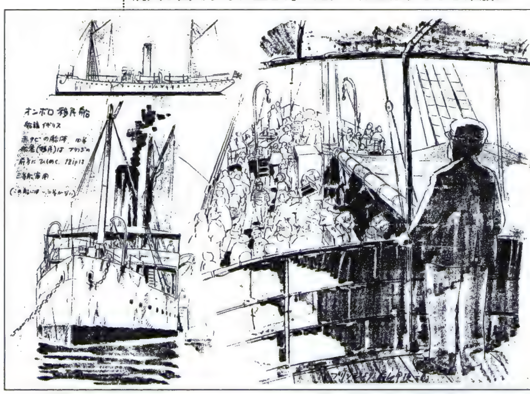


ニーノ
レナータの一人息子でアメデオがお気に入り。マルコは彼にジュリエッタの面影を見る。（声：千々松幸子）



移民船の乗客達。貧しい人が中心で、新天地に仕事を求めて海を渡るのだ。

ナポリからブエノスアイレスに行く移民船。オンボロ。途中病人が出てリオに立ち寄った。マルコはリオから乗船。



ストーリー紹介 17～20話

17話 赤道まつり
大西洋に出たフォルゴーレ号は、順調に航海を続けていた。赤道を越える日、船の仮装パーティで、レオナルドはマルコを驚かそうとある計画を立てる。

18話 リオの移民船
リオデジャネイロに到着した喜びもつかの間、乗り継ぎの船が座礁して、急遽代わりの船を探すことになる。ようやく船が見つかるが、今度はアメデオが姿を消した。

19話 かがやく南十字星
今度の船はナポリから来た移民船で貧しい移民で溢れていた。迷子のニーノを世話したのがきっかけで、マルコはフェデリコという老人と知り合う。

20話 おおあらしの夜
食糧事情が悪いながら、無事航海を続けていた移民船だが、ある夜大嵐に見舞われる。不安にかられた移民たちがあわや暴動かというとき、フェデリコが立ち上がり、皆を一喝した。



移民局の窓口担当者。何事も明日にならないとわからない。典型的な役人。



おばあさん。アンナが親身に世話をしてくれたとマルコに語る。だが耳が遠くマルコがアンナの息子だと気がつかない。（声：遠藤晴）



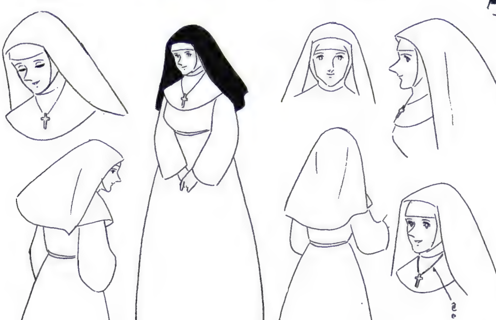
メレッリが引っ越した後に入居した婦人。雑貨屋を営む。マルコを始め何人もメレッリの行方を聞きに来てうんざり気味。（声：京田尚子）



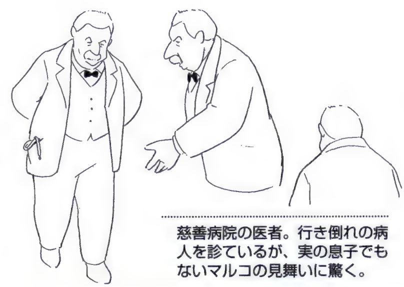
アンナ
行き倒れのアンナ。慈善病院に入院中で重体。マルチェッロという息子がいると聞かされるが、実は6年前に2歳で亡くなっていた。（声：京 千英子）



ロシータ
アンナが勤めていたロハス家で留守を預かる娘。主人の帰宅後は辞めた模様。マルコを分厚いステーキと笑顔で励ます。（声：吉田理保子）



シスター・シプリアーナ
慈善病院で病人の心のケアをしている。マルコの今後を案じ、ここで働けばと声をかける。38話で再び登場。（声：池田昌子）



慈善病院の医者。行き倒れの病人を診ているが、実の息子でもないマルコの見舞いに驚く。

ストーリー紹介 21～24話

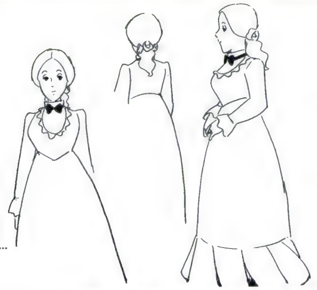
21話 ラプラタ川は銀の川
不吉な夢に目覚めたマルコは、不安におびえて機関室に駆け込む。フェデリコに付き添われ、長い夜が明けた。ついにブエノスアイレスが見えるのだった。

22話 かあさんのいる街
マルコはフェデリコ達と別れ、メレッリの元を訪ねる。しかしメレッリは行方不明で、バイアブランカにいるという噂を聞く。母の行方もわからないまま、手紙を頼りに宛名の住所を訪ねた。

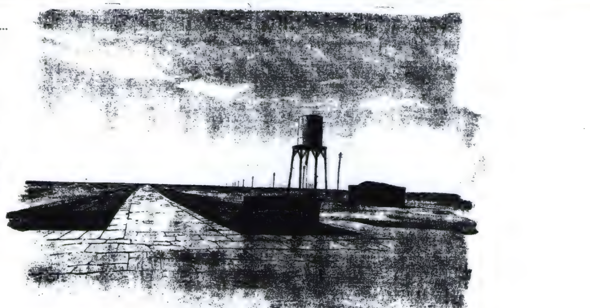
23話 もうひとりのおかあさん
持金を盗まれ途方に暮れたマルコは、移民局で慈善病院にアンナという病気の母がいることを聞く。しかし向かった病院にいたのはマルコの母ではなかった。

24話 待っててくれたフィオリーナ
イタリア移民が多いというボーカの町で、マルコはメレッリの噂を聞く。更にペッピーノ一座を見たという話を聞き、彼らを探しに出た。

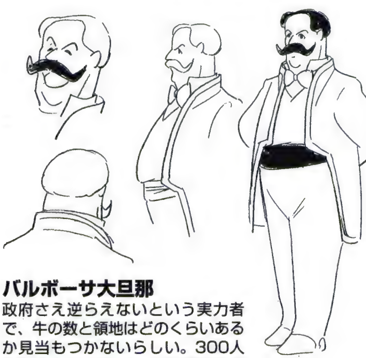




サルバドールの新妻。牧場主の娘。祝い事の内容を知ったコンチェッタは、淡い恋が消えたことを知る。



ブエノスアイレスの駅ホーム。絶望と希望の舞台であった。



バルボーサ大旦那
政府さえ逆らえないという実力者で、牛の数と領地はどのくらいあるか見当もつかないらしい。300人の牧童を使っている。剣の腕は未だ劣らず。武勇伝が大好きで、マルコを気に入る。



サルバドール・バルボーサ
バルボーサ大牧場の若旦那。一座を牧場に招待した。イタリアに滞在したこともある。（声：桑原たけし）



バイアブランカ行きの旅では、フィオリーナら一座の心模様が丁寧に描かれる。

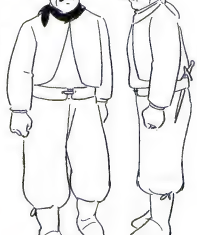
コンチェッタの踊り歌の衣装。



サルバドールに一目会ったときから、自分でも説明のつかない感情に悩むコンチェッタ。「夢を見てたのは父さんだけじゃなかったの」という台詞が切ない。



サラ
ゴンザレスの妻。一座を歓迎するが、芝居の結末だけは納得できない。



ゴンザレス
牧童頭。一座の世話を任される。自宅の隣を彼らの宿にあてがう。

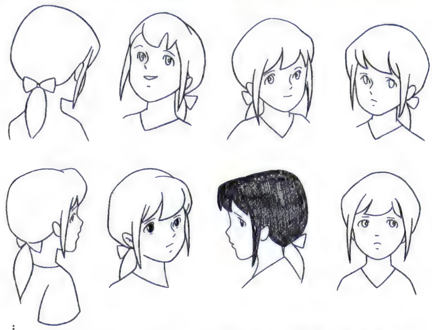
ストーリー紹介 25～28話

25話 ペッピーノ一座大あたり
一緒に母を捜しにバイアブランカへ行くことにしたペッピーノは馬と馬車を手に入れる。その夜フォスコの店で、ペッピーノ一座は公演で大当たりをとる。

26話 草原へ
早朝ブエノスアイレスを発つと、一座は遙か草原の彼方、南を目指した。最初の休憩で立ち寄った水場でマルコとフィオリーナは猟をする男に出会う。

27話 フィオリーナの涙
バルボーサ大牧場での芝居を依頼されたペッピーノは、芸術をみせるのだと、フィオリーナの作った物語をヒントに、マルコが母を捜す物語に脚色する。

28話 バルボーサ大牧場
その日は牧場の若旦那の結婚祝い。バルボーサ大牧場での予想以下の待遇に業を煮やすペッピーノは芝居に意気込みをかける。本番、客のいまいちな反応を見て親子の再会の結末を母を死なせる内容に変えてしまう。



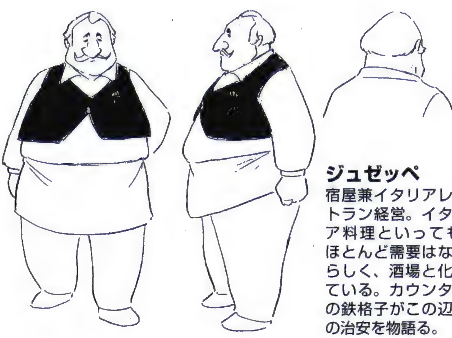
マルコとの出会いによって、明るい表情を見せるようになったフィオリーナ。マルコに自分の気持ちを託し、お母さんに会えることを心から願う。



ギターの腕前も素晴らしい。

カルロス

老ガウチョ、ドン・カルロス。無口で曲がったことが大嫌い。凄腕で、オルテガの前に圧倒的な強さを見せる。数少ない本物のガウチョと呼ばれる男。（声：宮内幸平）



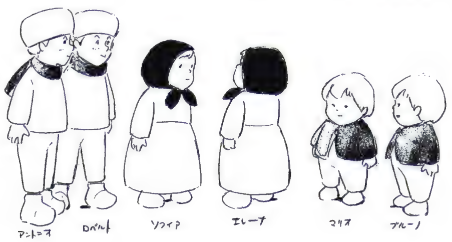
ジュゼッペ

宿屋兼イタリアレストラン経営。イタリア料理といっても、ほとんど需要はないらしく、酒場と化している。カウンターの鉄格子がこの辺りの治安を物語る。



オルテガ

旅の途中の店で酒を飲み、一座に絡む。大地主に飼い慣らされてゆく当時のガウチョの鬱積がみえてくる。名前は本編では出てこない。



シチリオ達の子供で、左からアントニオ、ロベルト、ソフィア、エレーナ、マリオ、ブルーノと3組の双子である！



バイアブランカ近くで一座と出会った一家。シチリオとルイザ夫婦。ペッピーノにバイアブランカの近況を聞かせる（32話）。

ストーリー紹介 29〜32話

29話 雪が降る

旅も10日目。単調な草原の旅に疲れが見えた頃、ジュリエッタが熱を出した。水も底をついた上、馬車も故障し立ち往生。雪も降り始めて…。

30話 老ガウチョ カルロス

カルロスに馬車の修理までしてもらい再び旅を続ける一座。立ち寄ったイタリア料理屋でコンチェッタがガウチョの男に絡まれてしまう。

31話 ながい夜

予定の宿は火事で廃屋になっていた。そこで野宿をすることにして、ペッピーノとマルコは狩りに出た。ところが鹿を追っていたふたりはピューマに遭う。

32話 さようならといえたら

道の先に白い山が見えてきた。まもなくバイアブランカ。希望に胸をふくらませるマルコの横で、フィオリーナはひとりマルコとの別れの辛さに耐えていた。

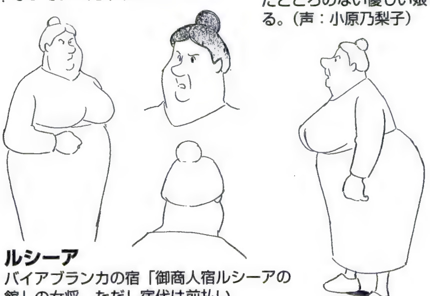


物語が進むにつれ美しくなっていったキャラ。

コンチェッタ
ペッピーノの長女で一座の花形。しっかりしているが初登場時16歳。酒場や街頭で芝居に明け暮れるものの、すれたところのない優しい娘である。（声：小原乃梨子）



ジュリエッタ
ペッピーノの三女で、まだ言葉も片言しか話せない。アメデオが大好き。ジュリエッタの年齢から、ペッピーノの妻が家出したのはそんなに昔のことではないようだ。（声：千々松幸子）



ルシーア
バイアブランカの宿「御商人宿ルシーアの館」の女将。ただし宿代は前払い。



モレッティ
バイアブランカの議員で町の実力者。マルコの尋ね人の行方は知らないが、代わりに情報屋を紹介する。一方、町に大劇場を作る計画を進めている彼は、ペッピーノに声をかけた。



マルセル・エステロン
実はフランチェスコ・メレッリ。『マルセル・エステロン』は偽名。食事に事欠くほど困窮しているが、町で出会ったマルコの境遇を聞き、ある決意をする。



ドメニコ・ノーチェ
裏の世界に通じている小男。バイアブランカのイタリア移民なら、就職先まで把握しているらしい。何か油断ならない雰囲気を持つ。

ストーリー紹介 33～36話

33話 かあさんがいない
ようやくバイアブランカに着いたペッピーノ一座だが、宿代のために急遽公演をすることになる。マルコはひとりで町の有力者モレッティの元へ行くが…。

34話 ジェノバへ帰りたい
バイアブランカで母に会えず深く失望したマルコは、ジェノバに帰ることを決めて仕事を探しに町へ出た。一方モレッティが、一座に新劇場での上演を提案。マルコも誘われるが…。

35話 かあさんのなつかしい文字
あてもなく町を歩くマルコは、エステロンという男と知り合う。エステロンはメレッリを知っているといい、マルコにお母さんの手紙を差し出した。

36話 さようならバイアブランカ
エステロンはマルコにブエノスアイレス行きの切符まで用意してくれた。駅でマルコを見送った後、エステロンは本当のことをペッピーノに打ち明ける。

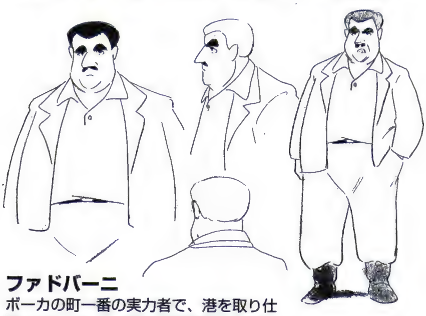




セバーリョス
ロスアロテス通り7番地に、メキーネス氏の後に引っ越してきたセバーリョス家の奥様。上品で親切な夫人で、マルコにメキーネス家の引越先を教える（37話）。（声：杉田郁子）



アメリア・セバーリョス
マグダレーナの娘で心優しい美少女。マルコはメキーネスの娘イザベルと間違えた（37話）。（声：松島みのり）



ファドバーニ
ボーカの町一番の実力者で、港を取り仕切っている。ぶっきらぼうだが心は熱いジェノバっ子。「母親には誰でも会いたいもんだ。この年になってもな」。
（声：加藤精三）



フォスコ
ボーカの町でジェノバ料理を出す居酒屋の亭主。店は25話でペッピーノ一座の大成功の舞台にもなる。ブエノスに戻ってきたマルコを励ます姿が印象深い。（声：勝田久）



ナターリア
ロハス夫人の横暴に耐える家政婦。アンナやロシータの後任。仕事として割り切って働いている様子。（声：大方斐紗子）



アデーラ・ロハス
性格の悪さは超一級。アンナの悪口を息子の前で平然と言い放つ。サル嫌い。アンナは1年も彼女の元で堪え忍んだ。（声：京田尚子）



ルイザ
フォスコの妻。夫同様マルコを親身に世話する人情家で、マルコとの別れ時には涙した。
（声：香椎くに子）

ストーリー紹介 37〜40話

37話 はてしない旅へ
ブエノスに着いたマルコは母の働く家を訪ねるが、コルドバに引越したと聞きショックを受ける。マルコはファドバーニの所へ行き、エステロンがメレッリであったことを知らされた。

38話 かあさんだってつらいのに
ファドバーニが手配してくれたロサリオ行きの船の乗組員マリオが訪ねてきた。マルコは再び旅立つ決心がつく。母の情報を少しでも得ようと母の勤め先だったロハス家を訪ねた。

39話 ばら色のよあけロサリオ
船は順調にロサリオに向かっていった。当初マルコの乗船を面白くなく思っていた船長も、マルコが同じジェノバ出身だとわかると、すっかり打ち解ける。

40話 かがやくイタリアの星一つ
ロサリオに着いたマルコは紹介状を手にバリエントス家に向かう。だが主人は留守で門前払いをされる。悔しさと失望に沈むマルコは、偶然移民船で一緒だったフェデリコと再会する。





アレクサンドル
アンドレア・ドリア号の船長。ブエノスーサンタフェ航路を行く。短気で酔っぱらいだが人情は厚い。ジェノバ出身。（声：渡部猛）

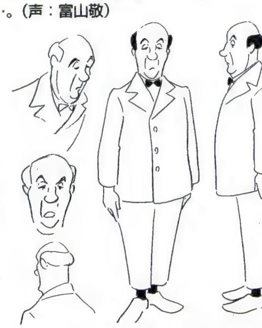
マリオ
アレクサンドル船長のもとで水運業に従事。歌が好きで陽気なジェノバっ子。水夫だが泳げない。恋人の名前はイサベリータ。船長曰く美人ではないらしい…。（声：富山敬）



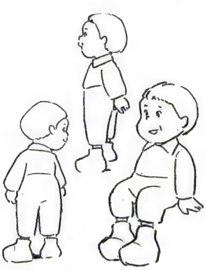
ロサリオに移民して息子夫婦と暮らすフェデリコ。「イタリアの星」で息子と共にマルコの旅費を募る。



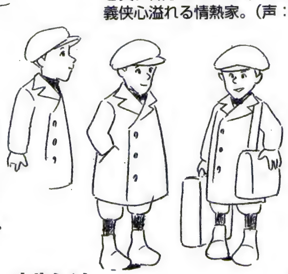
ジョバンニ
フェデリコの息子で、街でマルコに気がつき父に知らせた。口下手だが、父親同様、義侠心溢れる情熱家。（声：田中康郎）



ロサリオの大商人であるバリエントス家の執事。イタリア人を快く思っていない。主人の留守中に訪ねてきたマルコを冷たく追い返す。（声：北山年夫）



ペドロ
次男。アメデオがお気に入り。（声：桂玲子）



ナルシソ
しっかり者の長男。ちょうど歴史でコロンブスを学んでいて、ジェノバを知っていた。（声：菅谷政子）



マグダレーナ
コルドバ行きの汽車で途中駅から乗車した3人の子供達の母。カニャーダ・デ・ゴメースで乗車。マルコはこの母親にアンナの面影を重ねる（41話）。（声：花形恵子）

ストーリー紹介 41〜44話

41話 かあさんと帰れたら…
『イタリアの星』で集まったお金で、コルドバ行きの列車に乗ったマルコ。途中で乗車してきたマグダレータとその子供たちと同席になり、アメデオを通じて仲良くなる。

42話 新しい友達パブロ
メキーネス家は空き家になっていた。呆然と夜の街を彷徨うマルコはインディオの少年パブロに出会う。パブロはマルコを家に招き入れるのだった。

43話 この街のどこかに
貧しいながらも明るいパブロ。パブロと仲良くなるうち、マルコは再び希望を取り戻す。そこへパブロがメキーネスの引越先を見つけたと知らせてきた。

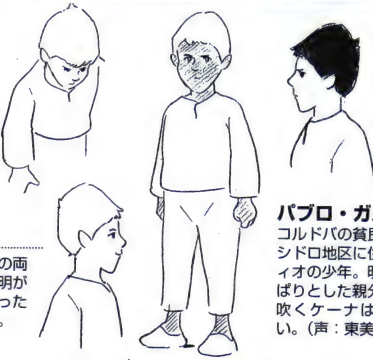
44話 ファナをたすけたい
訪ねた先はメキーネスのいとこの家だった。彼はマルコに母がいるトゥクマンまでの旅費を手渡す。ところが家に戻るとパブロの妹フアナが高熱で苦しんでいた。





ビクトル・メキーネス
メキーネスのいとこで、設計技師。コルドバ郊外に豪邸を持つ。（声：岡部政明）

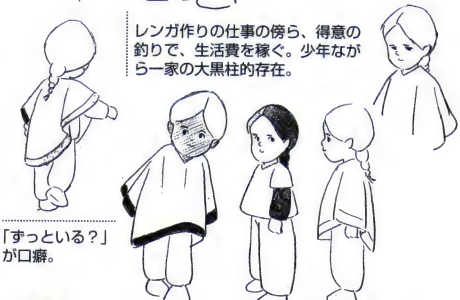




パブロとフアナの両親については説明がないが、亡くなったのかもしれない。

パブロ・ガルシア
コルドバの貧民街サンイシドロ地区に住むインディオの少年。明るくさっぱりとした親分肌。彼の吹くケーナは素晴らしい。（声：東美江）

レンガ作りの仕事の傍ら、得意の釣りで、生活費を稼ぐ。少年ながら一家の大黒柱的存在。



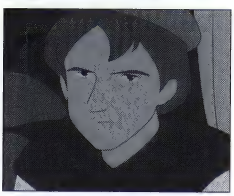
「ずっといる？」が口癖。

フアナ
パブロの妹。トウモロコシの芯で作った人形チキチータが友達。素直で辛抱強い少女。（声：横沢啓子）

牛車のキャラバンの人々



頭領
コルドバからサンチャゴ・デル・エステロまで、牛車で荷物を運ぶキャラバンの頭領。荒くれ男どもを統括する。マルコの面倒を何くれとをみる。（声：加藤精三）



マヌエル
始めは頭領に命じられて世話をしたマルコに、次第に情を持つようになる。ギターの名手。（声：古谷徹）



ミゲル
アメデオをムチであそぶなど、マルコに辛く当たるが、別れ際に食料を渡す。



ホルヘ爺さん
パブロの祖父でインディオの男。畑仕事をしながらパブロとフアナを養う。貧しく文盲で世事に疎いが、孫想いの愛情深い老人。（声：杉田敏也）

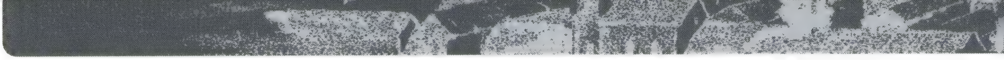
ストーリー紹介 45～48話

45話 はるかな北へ
パブロの捨て身の作戦で、トゥクマン行きの貨車に潜り込んだマルコだが、途中で見つかってしまい、大草原の真ん中で放り出されてしまう。

46話 牛車の旅
牛車のキャラバンに同行させてもらうマルコだったが、長旅の疲れから病気になってしまう。マルコを気遣う頭領は、隊の若者マヌエルに看護を命ずる。

47話 あの山の麓にかあさんが
マルコはキャラバンでの旅の中で、『ばあさま』という名のロバを頭領からもらい受ける。分かれ道。男たちに別れを告げ、マルコはロバと歩き出す。

48話 ロバよ 死なないで
トゥクマンまでロバの足で6日はかかる。しかし食料も底を尽きお金も残り少ない。マルコはとうとう野宿をするが、翌日ロバは倒れて死んでしまう。マルコは自分が急かしたからだと悔やむ。

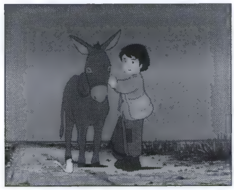




ロドリゲス先生
トゥクマン一の名医。アンナの手術を担当。マルコやピエトロに感銘を受け、一切報酬を受け取らなかった。（声：吉沢久嘉）



マルコに代わって愛嬌を振りまくアメデオの存在が、見知らぬ人との距離を近づける役割を担った。それがどれほどマルコの旅を救ったことだろう。



ばあさま
20年は生きているという老ロバ。牛車の頭領から譲ってもらうが、疲れと寒さからか、トゥクマンのずっと手前で力尽きる。



ラモン・メキーネス（左／声：木下秀雄）と妻のクリスチナ（右／声：武藤礼子）。農業技師としてトゥクマンの砂糖工場でも一番高い地位に就いている。度重なる転居のため、アンナを病気にしたと自責する。

数多の出会いがマルコの旅をつないでいく



右からマルコが納屋を借りた家の親子（47話）、倒れているマルコを介抱した男（50話）、マルコをトゥクマンまで荷馬車に乗せるよう孫に頼んでくれた老人（50話）など、『三千里』は旅の途上に、こうした忘れがたい数多の出会いがある。



マルコの思い出のアンナ。母性を象徴的に大きな胸と体として表現されている。太陽を思わせる赤とオレンジ色の服が印象深い。再会時のアンナとかなり容姿が異なる。



マルコの旅の服。旅の後半からは襟がボロボロになっている様も描きだされた。

ストーリー紹介 49～52話

49話 かあさんが呼んでいる
歩くうちに靴底が開き、ついに足先をくじいてしまうマルコ。折からの冷え込みと疲れでマルコはとうとう動けなくなってしまう。やがて雪が降り出した。

50話 走れマルコ!
旅の男に命を助けられたマルコは、再び歩き始めた。途中、トゥクマンへ行く荷馬車に乗せてもらったマルコは、ついにメキーネスの工場にたどり着く。

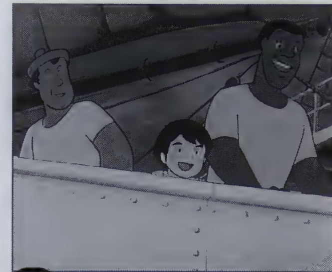
51話 とうとうかあさんに
工場で母の病気を知らされたマルコは、メキーネスの家を目指して走り続ける。一方、アンナの病は重く、手術を受けられないほど衰弱していた。

52話 かあさんとジェノバへ
母の回復を待ちながら、メキーネス家で幸せに過ごすマルコ。やがてふたりがジェノバに帰れる日が来る。マルコは医者になってこの国へ戻ろうと誓う。



マルコの旅をたどる

三千里ってどのくらい？　タイトルにもなったこの距離は、11.782キロメートル。これには実は大西洋を渡る航路も含まれている。三千里を歩いたわけではないのだ。しかし、アルゼンチンの広さを侮ってはいけない。南北の距離はなんとアメリカのニューヨークからロサンゼルスまでに相当。原作にないバイアブランカ往復を含めると、旅した距離は陸地だけで2400km！　鹿児島から青森、日本からサイパンまでに匹敵する。日本で言えば明治時代の頃のこと、マルコの旅の厳しさが想像できよう。



船　ジェノバ→リオデジャネイロ



船　①リオデジャネイロ→ブエノスアイレス



②1回目のブエノスアイレス

③ブエノスアイレス→バイアブランカ



馬車



汽車　④バイアブランカ→ブエノスアイレス



⑤2回目のブエノスアイレス



船　⑥ブエノスアイレス→ロサリオ



⑦ロサリオ



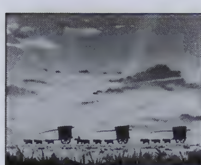
汽車　⑧ロサリオ→コルドバ



⑨コルドバ



汽車（途中まで）　⑩コルドバ→不明



牛車　⑪原野を北上



ロバ、徒歩、荷馬車　⑫原野→トゥクマン



徒歩　⑬トゥクマン→メキーネス邸



原作について

『母をたずねて三千里』はイタリア統一後の1886年、小学校の副読本として出版された『クオレ』の中に挿入された一編である。原題は『アペニン山脈からアンデス山脈へ』。

『クオレ 愛の学校』



上　下

訳　：矢崎源九郎
発行：偕成社

〈原作者〉

エドモンド・デ・アミーチス

1846－1908

1846年イタリア、リグーリア州インペリアで生まれる。少年時代からイタリア統一運動に傾倒し、14歳の時ガリバルディ率いる赤シャツ隊に志願（幼さゆえ入隊できず）。軍人として第三次イタリア独立戦争に参加。代表作『クオレ』は、統一イタリアの未来を担う子どもへ、国民の連帯意識の育成を意図して書かれた。

イタリア統一とガリバルディ将軍

小国に分かれていたイタリアが統一国家となったのは1861年。『母をたずねて三千里』は統一して20年後のジェノバが舞台。アニメでは、原作『クオレ』で語られた愛国心啓蒙や犠牲的精神を注意深く省きつつ、当時のイタリアの気分が、エピソードとして挿入されている。そのひとつに、ペッピーノ一座の演目でガリバルディ将軍の物語がある。ガリバルディ（1807－1882）は、1860年、1000人の義勇軍（赤シャツ隊）を集めて戦い、統一に大きく貢献した人物だ。不況下であえいでいた当時も、国民的な英雄として人気が高かった。

ジェノバはガリバルディが赤シャツ隊を組織して遠征に出発したゆかりの地。ペッピーノが演目に選んだのはそのためであろう。昔語りのように上演されていたが、マルコがフィオリーナと出会った頃、彼はまだ存命中であった。



コンチェッタ演じるガリバルディの進軍の場面（10話）。ガリバルディが、本人そっくり。だがコンチェッタの病気と雨のため芝居は中断してしまう。

ペッピーノ一座

原作には登場しないペッピーノ一座は、興味深い存在である。一座については、母親が家出中で、これまでローマやミラノを渡り歩いたということしか明かされない。座長で父親のペッピーノは、強い上昇志向を持ち、イタリアに愛想を尽かしている。

ペッピーノが少年時代を送った統一前のイタリアは、貧しさ故、捨て子や人身売買が日常的だったという。身寄りのない彼らは旅芸人や辻音楽で身を立てることも多かった。もしかしてペッピーノには、そんな辛い過去が隠されているのかもしれない。

監督の高畑氏が一座のモデルにしたのはイタリアのミュージカル映画『ナポリの饗宴』（1954年）に登場する辻音楽師の一家だという。こちらも併せてみてみたい。



ペッピーノ一座の設定画。ボックス型の舞台は折りたたみ式で、この絵から構造がわかる。

Gallery



マルコが住んでいる横町広場の断面図（ジェノバ）／椋尾篁

メインスタッフ

脚本	深沢一夫
音楽	坂田晃一
場面設定レイアウト	宮崎駿
キャラクターデザイン	小田部羊一
絵コンテ	奥田誠治／富野喜幸／高畑勲／黒田昌郎
作画監督	小田部羊一
作画監督補佐	奥山玲子
美術監督	椋尾篁
撮影監督	黒木敬七
録音監督	浦上靖夫
演出助手	横田和善／馬場健一／蔭山康生
プロデューサー	中島順三／松土隆二
監督	高畑勲

オープニングテーマ「草原のマルコ」
作詞：深沢一夫
作曲・編曲：坂田晃一
歌：大杉久美子

エンディングテーマ「かあさんおはよう」
作詞：高畑勲
作曲：坂田晃一
編曲：小六禮次郎
歌：大杉久美子

若草物語

ナンとジョー先生

Little Women II／Jo's Boys



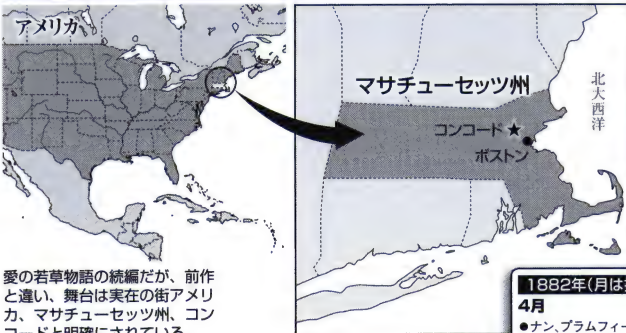
若草物語

ナンとジョー先生



放映期間	1993/01/17 ~ 1993/12/19
話数	40話
原作	ルイザ・メイ・オルコット「第三 若草物語」
備考	93年文化庁こども向けテレビ用優秀映画作品賞

物語の舞台



愛の若草物語の続編だが、前作と違い、舞台は実在の街アメリカ、マサチューセッツ州、コンコードと明確にされている。

ストーリー解説

―若草物語の四姉妹はいつしか大人になった―

物語はこのナレーションで幕が開く。あのおてんばのジョーも大人になり、夫のフリッツとともに、プラムフィールドという全寮制の学校を開いていた。隣の少年ローリーは、いまやジョーの良き友達として、プラムフィールドへ子供達を紹介する役目を担っていた。メグの双子の子供デミとデーズィも生徒の一員だ。

そんなある日、評判のおてんば娘、ナンが学校にやってきた。男の子も顔負けのナンに、ジョーはかつての自分を見いだし深い愛情を覚える。やがて小さなバイオリン弾きナットや「無法者」ダンを加え、様々な出来事を経ながら、プラムフィールドの子供達は少しずつ成長していく。

1882年(月は推定)

4月
- ナン、プラムフィールドへ

5月
- ナット、プラムフィールドへ

6月
- ダン、プラムフィールドへ

7月
- プラムフィールドぼや騒動
- ダン、ページ氏の元へ
- ナン、機関車で石炭をくべる

8月
- ダン、プラムフィールドに戻る

9月
- トミーの貯金箱盗難事件

10月
- ナットとデーズィの結婚式

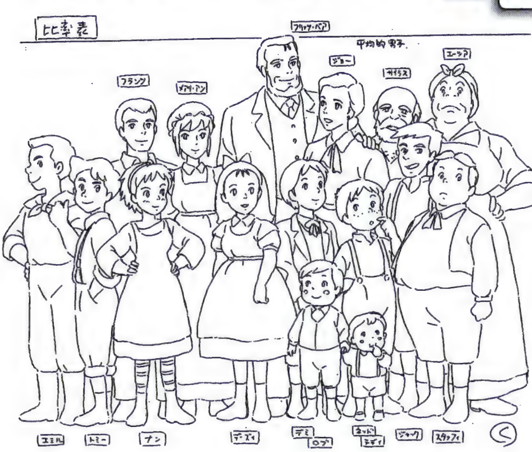
11月末
- ジョン・ブルック死去

1883年

3月
- チャーリー来る
- ジョー、自転車に乗る
- ダン、プラムフィールドを去る

1892年

初夏?
- ナン、プラムフィールドを再訪



メインキャラクターの比率表。

History

奴隷解放が謳われた南北戦争から約20年、子供達への教育や女性の自立がアメリカで芽生え、新しい世紀を待っていた時代。

19C
- 1825 蒸気機関車実用化(英)
- 1837 ビクトリア女王即位(英)
- 1849 合衆国初の大卒の女医誕生
- 1861 アメリカ南北戦争(~1865)
- 1863 ゲティスバーグの戦い、奴隷解放宣言
- 1868 明治維新(日)
- 1869 最初のアメリカ大陸横断鉄道完成
- 1897 ボストンに最初の地下鉄開通

20C
- 1903 ライト兄弟飛行機を発明
- 1908 T型フォード発売
- 1914 第1次世界大戦(~1918)
- 1929 世界恐慌
- 1939 第2次世界大戦(~1945)
- 1969 アポロ11号月面着陸

21C

キャラクター紹介



プラムフィールド母屋。



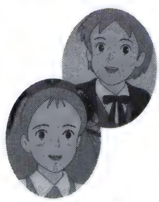
フリッツ・ベア
ジョーの夫で、教師。まじめで誠実だが、頑固なのが玉に瑕。



ジョー(ジョセフィーン)・ベア
マーチ家の次女。かつてのおてんば娘も今は優しい先生。でもたまに地が出てしまう…。



トミー・バンクズ
プラムフィールド一の腕白少年。ナンが来てからは、彼女が気になって仕方がない。



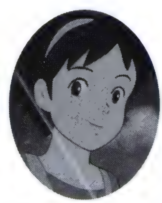
デミ(ジョン)&デーズィ(マーガレット)・ブルック
ジョーの姉メグの双子の子供。デミは読書家で、デーズィは優しく家庭的な女の子。



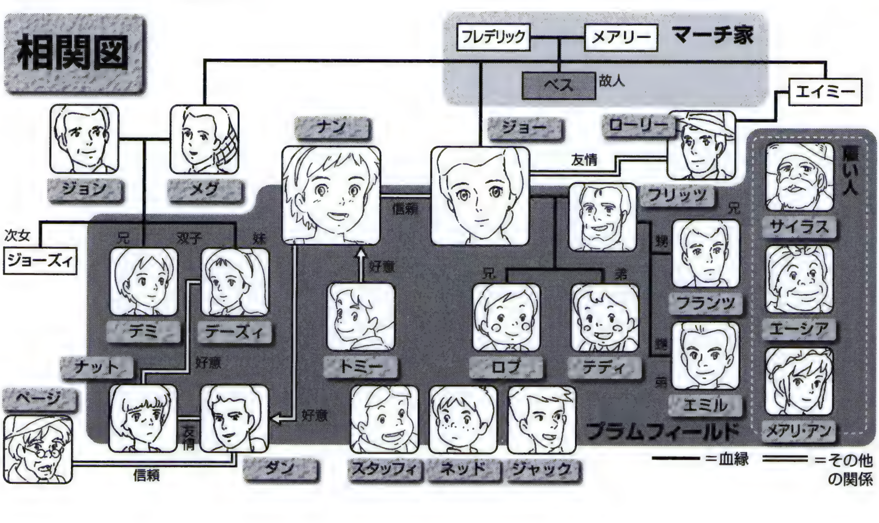
ナット・ブレイク
ローリーに見いだされてプラムフィールドに来た孤児。心優しいバイオリニスト。



ダン・キーン
ボストンから来た「無法者」。けんかが強い一匹狼。かつてのナットの友人。



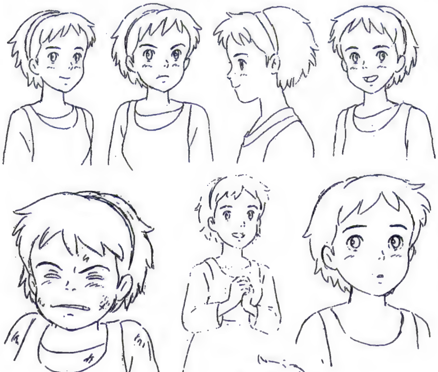
ナン(アニー)・ハーディング
男の子に負けない元気なおてんば娘。何よりもじっと待つことが大嫌い。



ナン(アニー)・ハーディング

母を亡くし父とふたり暮らしだったが、ローリーの紹介でプラムフィールドにやってくる。来た早々に男の子達を負かしてしまい、おてんばぶりを発揮。運動神経が優れ、走るのも速く、野球、サッカーも得意。思ったことはすぐ口にしないといられない。11歳。
（声：松倉羽鶴）







21歳のナン

1話の冒頭と最終話に登場。子供の頃からの夢であった医者として、ロンドンの病院に勤務している様子。



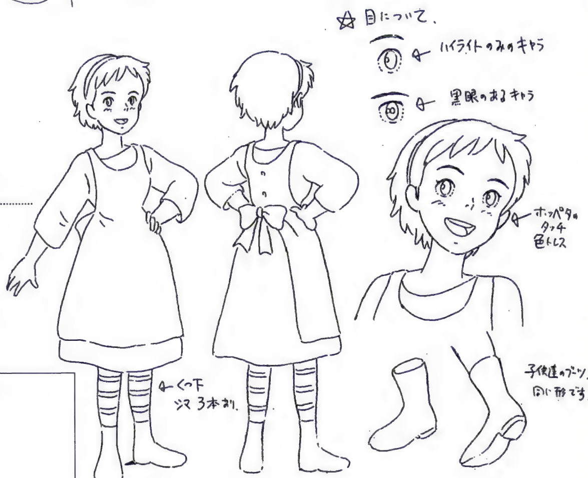


19世紀末、女性服はかかとまでのスカート丈が普通だった。だがさすがナン、現代を先取りした斬新すぎるスカートの短さ！

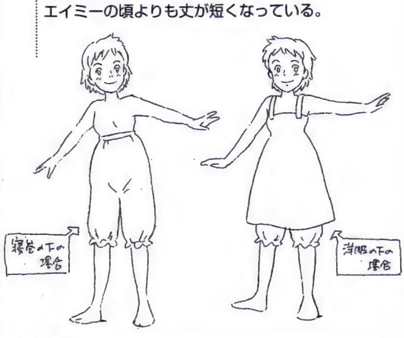
第1話冒頭、大人になった主人公の回想から始まり、視聴者の意表をついた。



男の子のような短髪のナン。ワンピース姿もナンの活動を妨げるものではない。ドロワーズ（下着）はナンにとってはズボン？　木登りも逆立ちもためらわずやってのける。



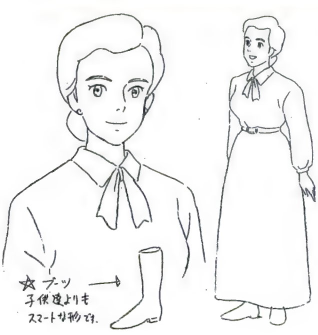
ナンのドロワーズ（左下）は、若草物語のエイミーの頃よりも丈が短くなっている。



意志が強そうな黒い瞳。ナンの強い個性がよく表れている。

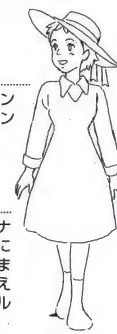








ピンクのワンピース。ナンの訪問着。



初登場シーンのナン。迎えを待てずにおもちゃや本が詰まった重い鞄を抱えて、駅から3マイルの距離を歩く！

ジョー（ジョセフィーン）・ベア
マーチ家の次女で今はベア夫人。かつてのおてんばも、今は優しい先生として、夫とともにプラムフィールドを経営する。この物語では34歳として登場。ロブとテディの母でもある。（声：山田栄子）



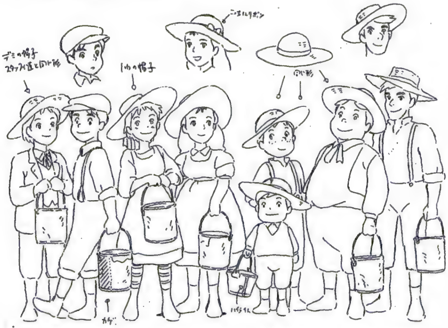
フリッツ・ベア
生粋のドイツ人で、ジョーとはニューヨークの下宿で出会った（原作）。全寮制の学校プラムフィールドの経営と勉学担当で、生徒の父親的な存在。40歳。（声：秋元羊介）

剛のフリッツに対して柔のジョー。



“泣かない”勇気を示すために壁に激突したナン。おでこにこぶを作る。（2話）





イチゴつみの支度姿。（3、4話）ナン達がつむのは木イチゴ。



2話の野外授業は池のそばで行われた。“ナン先生”は颯爽とボートに乗って登場！

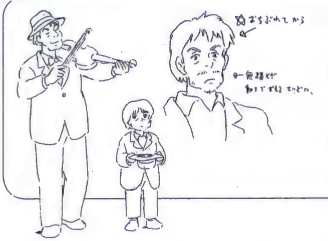
ストーリー紹介 1〜4話

1話 プラムフィールドへようこそ
ベア夫妻が開いている学校プラムフィールド。そこにおてんばな少女ナンが入学することになった。ナンの噂を聞いた生徒達は手荒い歓迎で出迎えるが…。

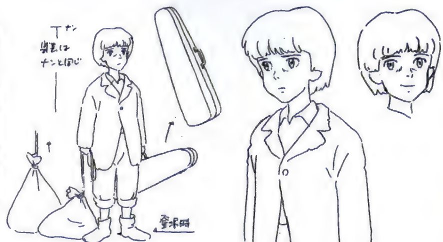
2話 川と野原はステキな教室!!
プラムフィールドに到着早々大騒動を引き起こすナン。そんなナンにジョーは変わった罰を与える。それはナンが先生として授業をするというものだった。

3話 イチゴつみと黒い森
農場にイチゴつみに行くナン達。まだ幼いロブはナンが世話をする約束で一緒に行くことになった。ところがナンはイチゴつみ競争に夢中になっていく。

4話 約束の小箱
無事助け出されたナンとロブ。しかしナンは、反省もそこそこに冒険談として自慢する始末。それを見たジョーは、ナンを部屋に呼んで、ある罰を与える。

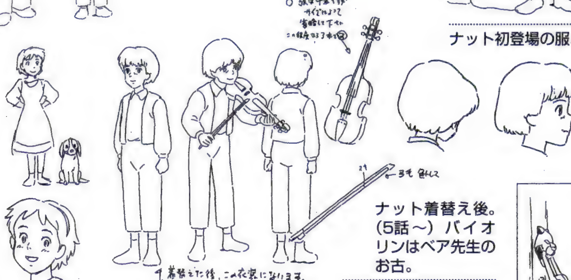


ナットの父
生前はナットとふたりで流しの音楽家で身を立てていた。正直者だったが貧しさの中で体を壊しナットを残して病没。元は金持ちで家柄も良かったという。
（第四 若草物語より）



ナット初登場の服。（5話）

ナット・ブレイク
過酷な生い立ち故、ときに気弱だが、心優しく感受性豊かな努力家。バイオリンが得意。12歳。
（声：池上麻里子）

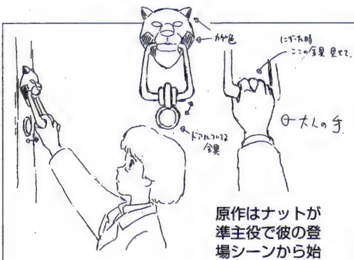


ナット着替え後。（5話～）バイオリンはベア先生のお古。

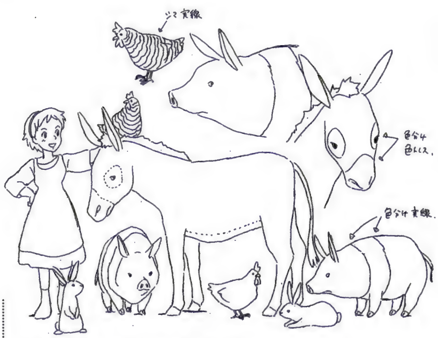




ナンの飼い犬、クリストファ・コロンバス。ヤンソンさんのところで生まれた。ちなみにクリストファ・コロンバスは15 世紀の探検家の名であるが、古いスラング英語で「Oh! my God!!」の意。飼い主ナンに似て野球が好き。



原作はナットが準主役で彼の登場シーンから始まっている。



プラムフィールドの動物達。ロバの名はトビー。

4話 回想シーンから
あの『愛の若草物語』続編というからには期待がふくらむ回想シーン。もちろん懐かしのあのキャラだ！



マーチ夫人。『愛の若草物語』の設定を踏襲している。（P111参照）声も中西妙子氏！



13歳のジョー。回想シーン時は『愛の若草物語』の2年前という設定である。

ストーリー紹介 5～6話

5話 小さなバイオリン弾き

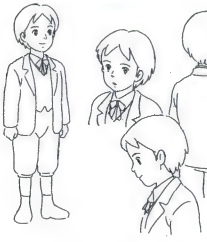
ある雨の日、ずぶ濡れの少年がプラムフィールドを訪ねてきた。身寄りのない少年ナットを出迎えたのは、生まれた初めて味わう温かい笑顔だった。

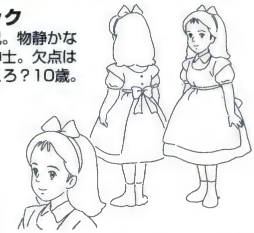
6話 トミーバングズ商会

プラムフィールドの子供達はそれぞれ動物を飼って世話し収入を得ていた。動物を飼うお金がないというナットに、トミーがある提案をする。



デミ（ジョン）・ブルック
父と同じ名前を継ぐ双子の兄。物静かな本の虫で、さながら小さな紳士。欠点は優等生タイプが鼻につくところ？10歳。（声：山田恭子）

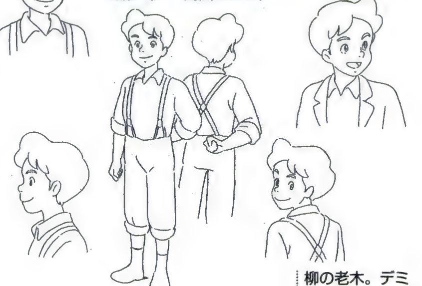


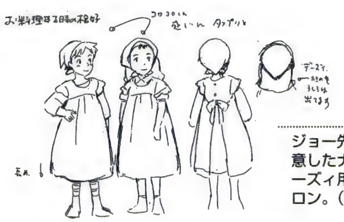


デーズィ(マーガレット)・ブルック
メグの双子の妹。おとなしくお人形遊びが好きで、あらゆる点でナンとは対照的。ナットに想いを寄せる。10歳。（声：荒木香恵）

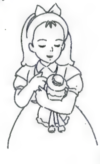


トミー・バングズ
手に負えない腕白だが、どこか憎めない明るい少年。おてんばナンがどうも気になる様子。12歳。（声：高山みなみ）



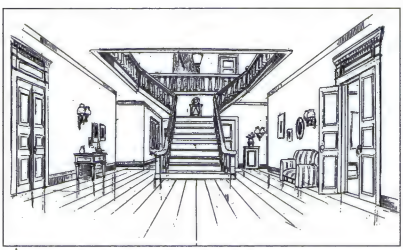


ジョー先生が用意したナンとデーズィ用のエプロン。（8話）

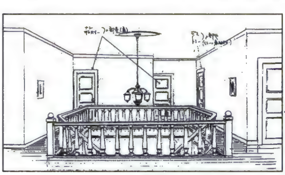




柳の老木。デミのとっておきの読書の場所で、ナットはここでロビンソン・クルーソーを読みふける。（7話）



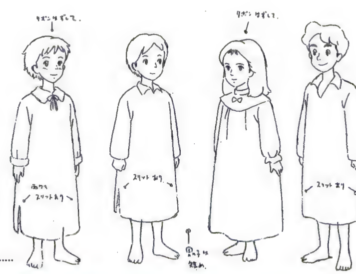
玄関ホール。5話でナットが見たアットホームな様子が印象的。でも深夜は別の表情に。（10話）



中央階段を上がった2階廊下。



ホールの大時計。12時 になると幽霊が出る？



子供達の寝間着姿。枕投げには意外にもデミやナットも参加（さすがにデーズィは見ていただけ）。10話。

ストーリー紹介 7～10話

7話 僕はロビンソン・クルーソー
これまで学校に通っていなかったナットは他の子供達と離れて文字の勉強から始める。そんなナットにナンはロビンソン・クルーソーの本を贈った。

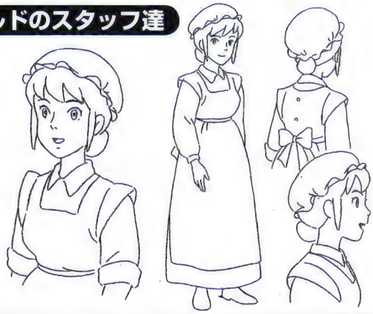
8話 はじめてのパンプキンパイ
ナンと女の子らしい遊びがしたいというデーズィの願いを聞き、ジョーはふたりの部屋にキッチンを作る。さっそくふたりの初めてのパイ作りが始まった。

9話 おもちゃの国の贈り物
ナンが気になる故に、ついちょっかいを出してしまうトミー。ある日いたずらが元でナンに怪我をさせたトミーは、お詫びにオルゴールを贈ろうと思いつく。

10話 パジャマで大戦争
就寝時間を過ぎても眠ろうとしない子供達。その夜も枕投げで大騒ぎ。翌朝、ジョーはこれからどんなに遅くまで起きていても注意しないと宣言する。

プラムフィールドのスタッフ達

メアリ・アン
主に食事の手伝いをしているメイド。専用部屋は持っておらず、近所から通ってきていると思われる。明るいしっかり者。21歳。どうやら誰かに想いを寄せられている模様。(9話)
(声：藤井佳代子)





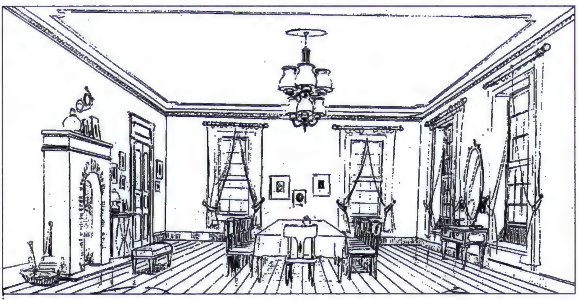
サイラス
プラムフィールド専属の農夫であり、庭師。広大な農場と牧場、庭を管理する。温厚で洞察に優れ、ベア先生の片腕ともいえる頼もしい存在。58歳。(声：槐柳二)



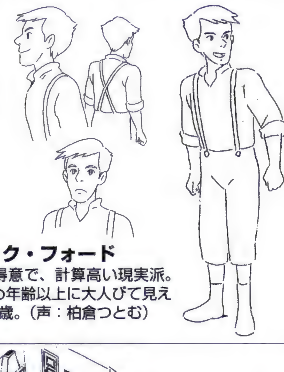
ホール正面右手の大部屋が教室。図書室も兼用。習熟度合いによって個人授業もあり。



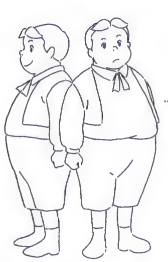
エーシア
プラムフィールドの台所および家事を取り仕切る。世話好き。曲がったことが嫌いで怒らせると怖いが、実は涙もろい。48歳。(声：羽鳥靖子)



正面左手の大部屋が食堂。3食ともここでいただく。配膳、片付けも食事のうち。



ジャック・フォード
数学が得意で、計算高い現実派。そのため年齢以上に大人びて見える。12歳。(声：柏倉つとむ)





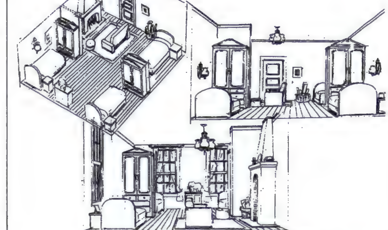


アライグマとウシガエルのベッシーを飼っている。

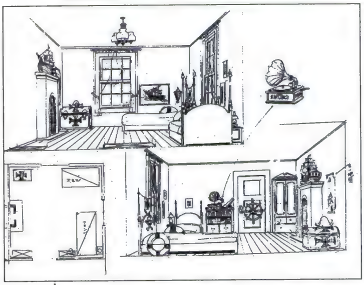
スタッフィ(ジョージ・コール)
本名はジョージ・コール。あんまり食べるのでスタッフィ(詰めこみ)と呼ばれている。運動嫌いで泣き虫。12歳。
(声：佐藤智恵)



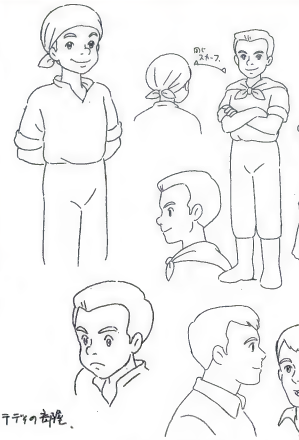
ネッド・パーカー
手先が器用で家具の修理が得意。ややそそっかしく、いたずらだが悪気はない。九官鳥を飼う。11歳。(声：愛河里花子)



ネッド、スタッフィ、ジャックの部屋。

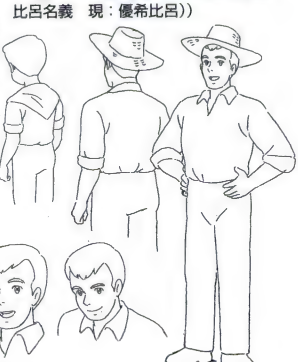


フランツとエミルの部屋。エミルの趣味で埋めつくされている。



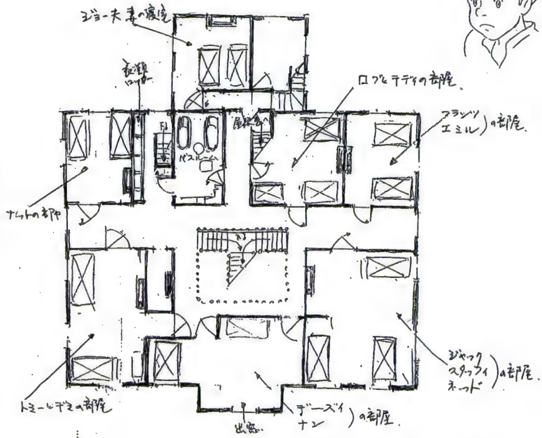
エミル・ホフマン

フランツの弟。海に憧れいつか船乗りになるのが夢。正義感溢れる熱血漢。14歳。（声：露崎照久（20話より結城比呂名義　現：優希比呂））

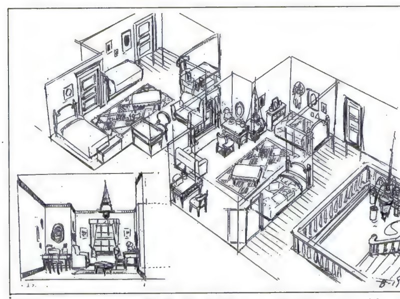


フランツ・ホフマン

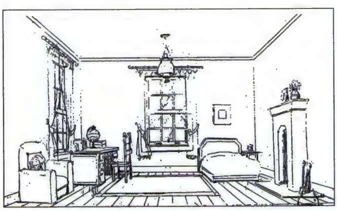
フリッツの姉の子で、姉の死により、弟のエミルとともにベアに養育される。ベア同様、生粋のドイツ人。音楽が好きでフルートが吹ける。最年長のためプラムフィールドの監督役で、ベアの助手として勉強もみる。夢は教師。16歳。（声：森川智之）



プラムフィールドの2階部分。子供達とジョー達の寝室がある。

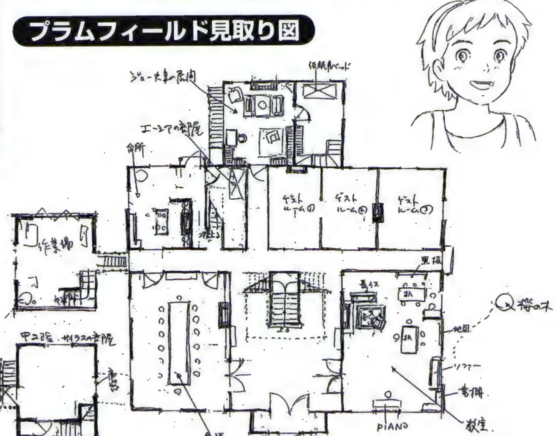


ナンとデーズィの部屋（改装前）。出窓のスペースは、8話で台所に改装される。

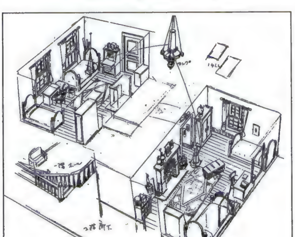


ナットの部屋。（5～11 話）もとは開かずの間だった部屋をプラムフィールドパワーで大掃除。13 話以降はダンが同室となる。

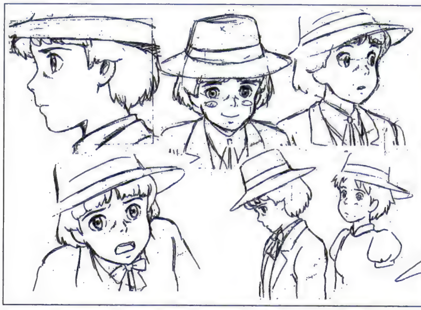
プラムフィールド見取り図



プラムフィールド1階平面図。別棟が作業場で中2階がサイラスの部屋になっている。1 階には画面に登場しなかったがゲストルームもある。



トミーとデミの部屋。後に火災現場となるが元通り復元された模様。



11話のナットの表情集（原画より）。久しぶりに再会したダンのことで、楽しみにしていたはずの音楽会は上の空だった。

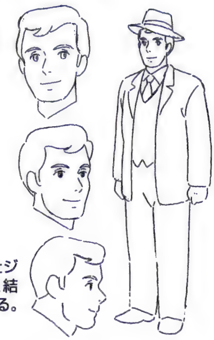




ナンの部屋に置かれた姿見。ナンは意外に衣装持ち。（11話）



ナンのボストン訪問着はピンクに決定。ナットもよそ行きを着せてもらう。



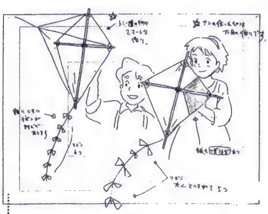
ローリー・ローレンス
かつてマーチ家の隣に住んでいたジョーの友人。その後エイミーと結婚。プラムフィールドを支援する。（声：飛田展男）



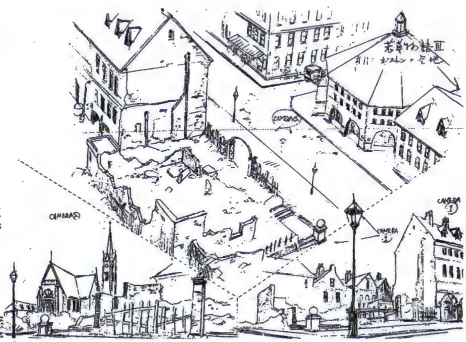
ダン登場時の表情集（原画より）。ボストンの裏町でナンが出会った少年。15歳。



ボストンの不良ボビーとマイク。圧倒的な力差でダンに負けるが…。



ナンの手作り凧とトミー達のスマートな凧。（14話）



ナットがダンと再会したボストンの裏町にある空き地。開店祝いの店でダンを見かけたナンは、彼を追ってここに行き着く。レイアウト用のカメラアングルまで設定されている。



プラムフィールドのリス。森の中にたくさんいる。ナンは凧の行方を聞くが、もちろん無言。（14話）

ストーリー紹介 11～14話

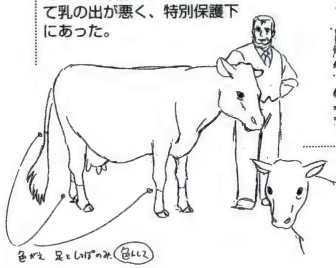
11話 街から来た無法者ダン
ナンとナットはローリーにボストンの音楽会へ招待された。街で出会ったダンという不良少年にナンは反感を持つが、ナットはダンを友達だと言う。

12話 プラムフィールドの嵐
ナットの誘いでプラムフィールドにやってきたダン。誰とも馴染もうとせず、ジョーやベアにも反抗的な態度をとり続けるダンに、ナンは反発する。

13話 決闘！ エミルが怒った
素直になれないダンは、ジョーの選んだ教科書を破り捨てた。それを見たエミルは怒り心頭。ダンに決闘を挑む。勝負はダンの圧倒的な勝ちに見えたが…。

14話 ダンとテディの秘密
テディのために凧作りをするナンだったが、ダンのことで頭がいっぱいで、ついテディにきつく当たってしまう。落ち込むテディを慰めたのはダンだった。

バタカップ。年を取った雌牛で、1ヶ月前に子牛を亡くして乳の出が悪く、特別保護下にあった。

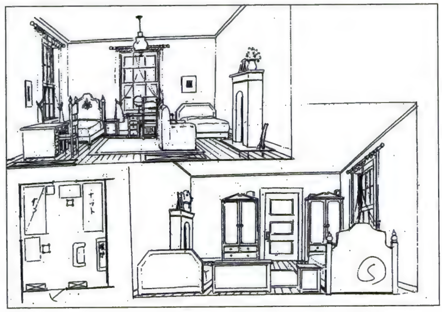


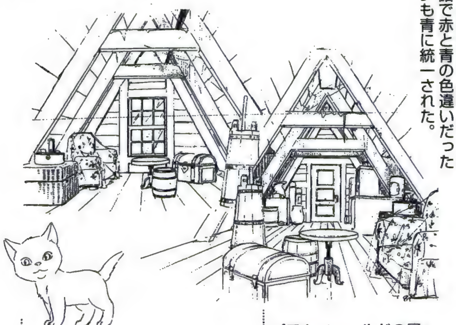


プラムフィールドの牛舎。牛の他にも別の小屋に馬が数頭いる。朝の乳搾りは当番制だ。

バタカップとはキンポウゲの意味。

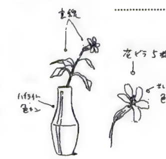
ダンと同室に改造後のナットの部屋。5話で赤と青の色違いだったカーテンも青に統一された。





プラムフィールドの子猫。名前はマーシャ。白猫ではない。

プラムフィールドの屋根部屋。ダンはここで夜の宴会を開く。



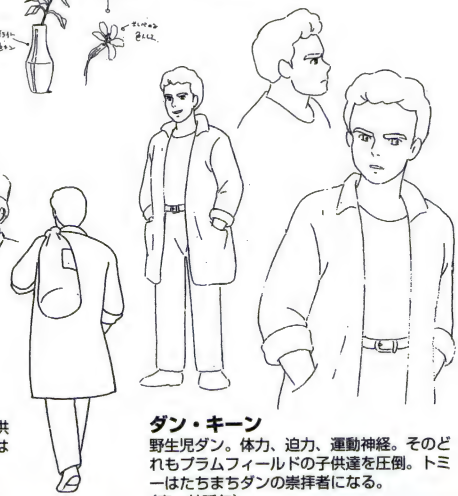
ジョーがダンのために飾る花。花にはふたりだけの約束が込められていた。



シルビア・コール
スタッフィの母。息子を溺愛する"モンスターペアレンツ"。ジョーを本気で怒らせる。（声：一城みゆ希）



郵便屋さん。子供達のいたずらには慣れっこ。
（声：高戸靖広）



ダン・キーン
野生児ダン。体力、迫力、運動神経。そのどれもプラムフィールドの子供達を圧倒。トミーはたちまちダンの崇拝者になる。
（声：林延年）

ストーリー紹介 15～18話

15話 バタカップ大騒動
デミから闘牛士の話を聞いたダン達は、療養中のバタカップを相手に闘牛ごっこを始める。だが興奮したバタカップは柵を突き破りねんざをしてしまう。

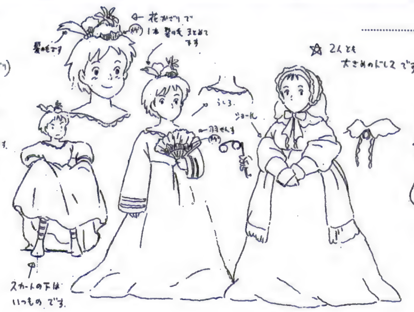
16話 学校が燃える!
ダンは次第にプラムフィールドの生活に馴染んでいくが、同時に息苦しさも感じていた。ある夜ナットとトミーを誘って屋根裏で秘密のパーティを開く。

17話 さよならダン
トミーとデミの部屋が火事になった。原因は秘密のパーティで吸った葉巻だった。それを知ったベアはダンを友人で博物学者のページに預けることにする。

18話 ママがやって来た
太り過ぎのスタッフィを痩せさせようとするナン達。それをスタッフィが母への手紙に大げさに書いたため、母がプラムフィールドに乗り込んできた。



手作りのお菓子と飲み物は糖蜜入りの水。トミーは何杯もお代わりを要求。

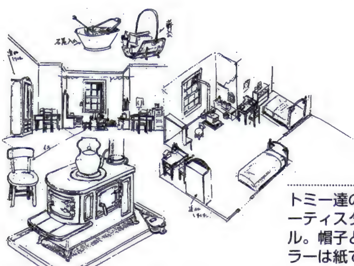


デーズィ扮するシェークスピア・スミス夫人と娘のギディギャディ（ナン）。デーズィの服はマーサ叔母様のもの？（P111参照）

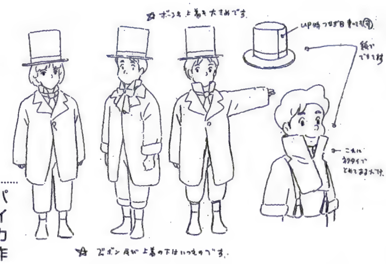
ギディギャディとは“跳ねっ返り”の意味。



舞踏会ではテディは執事役を仰せつかる。



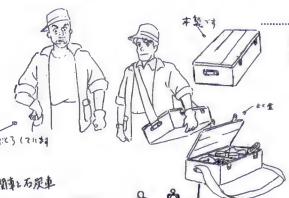
ナンとデーズィの部屋改造後。料理用ストーブは本物。ただし20話でナンが壊す。（8話〜）



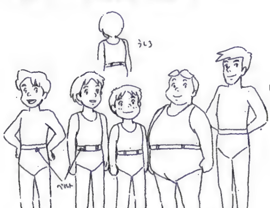
トミー達のパーティスタイル。帽子とカラーは紙で作ったお手製。



お詫びの野外パーティは、凧あげ大会。

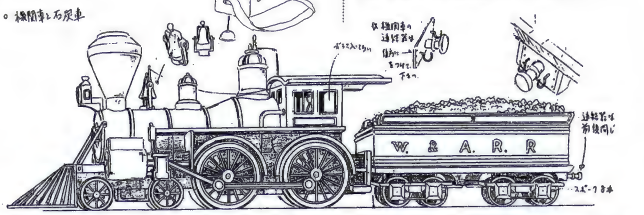


機関士（左）と機関助手。機関士はナンの石炭のくべ方のうまさに、助手だと思い込む。



男の子達の水着。当時は基本的にスーツ型のはずだがトミーらは現代に通用するパンツ型。（21話）

鉄道に詳しいスタッフによって細部まで設定された機関車。ちなみに石炭のくべ方は日本式で作画されているとのこと。



ストーリー紹介 19〜22話

19話 舞踏会へようこそ

ナンとデーズィはトミー、ナット、デミの3人を舞踏会に招待する。張り切るデーズィだが、舞踏会はトミーの企みでメチャクチャになってしまう。

20話 大きくなったら何になる?

機関助手になる夢をトミー達に笑われたナンは、絶対機関車に乗るといって学校を飛び出した。それを聞くやジョーは猛スピードで馬車を駅に走らせた。

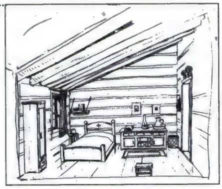
21話 先生をぶちなさい!

ナットは心の弱さから時々嘘をついてしまうことがあった。そんなナットにベアはもし今度嘘をついたら私をぶつようにと言い渡す。

22話 ページさんからの手紙

プラムフィールドにページから手紙が届いた。そこにはページの元で次第に博物学に興味を示すようになったダンの様子が書かれていた。

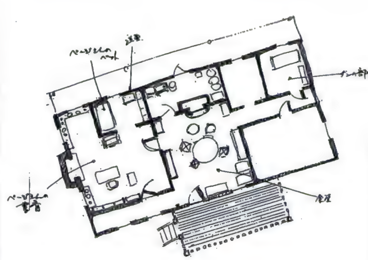
ページ宅のダンの部屋。ダンは枕元に花瓶を置き、花を飾った。



ページの書斎。博物学者らしく本の山に標本、望遠鏡が置かれている。



ページの家見取り図。



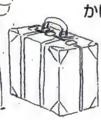
ページの家外観。平屋で開拓者の家風。プラムフィールドから何十マイルか離れている。（エーシア談）



『ナンとジョー先生』で原作と最も設定が違うのはページ氏。原作では厳格な人という記述しかない。



ページ、学会に出かけるときの服。





成長したクリストファ・コロンバス。いたずら子犬も立派な忠犬になった。

療養中のダン。銃で撃たれ大怪我を負っていた。杖はネッドのお手製





ダンはページの元で博物学に興味を覚え知識を深める。

ロブとテディの夏服。（20話〜）

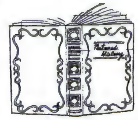






ロブ（声：渕崎ゆり子）、テディ（声：南杏子）。

帰ってきたダンを1番最初に見つけたのはテディ。猿のぬいぐるみの名はマイケル。



ページがダンに渡した自然史の本。すぐにダンは読破。

ストーリー紹介 23〜26話

23話 誰もいない庭

ページから、部屋が荒らされダンがいなくなったという手紙が届いた。ある晩テディが窓の外にダンがいたという。ジョーは慌てて外へ飛び出すが…。

24話 素直になれなくて

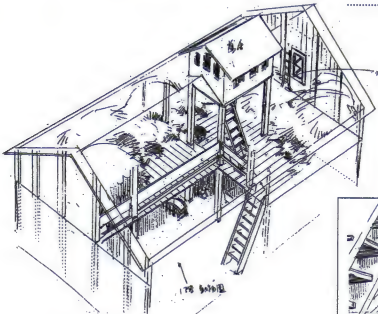
傷ついて帰ってきたダンを、プラムフィールドの子供達は温かく迎える。そんな中、ダンはベアにはまだ素直に謝まることができずにいた。

25話 博物館を作ろう

ローリーの提案で古い馬車小屋を博物館にすることになった。子供達はそれぞれ珍しいものを持ち寄ることにする。そして館長にはダンが任命された。

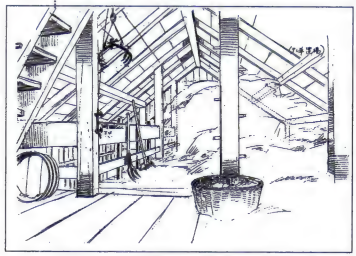
26話 泥棒は僕じゃない！

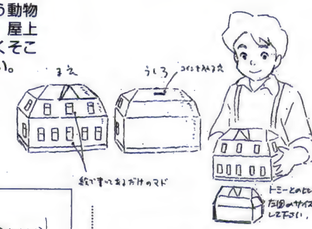
納屋に置き忘れたトミーの貯金箱からお金がなくなった。貯金箱のありかを知っていたのがナットだけだったため、ナットが犯人だと疑われてしまう。



納屋。1階は亀や豚を飼う動物園。2階は干し草置き場。屋上に鳩小屋があり、ナン曰くそこから見る朝日は最高らしい。

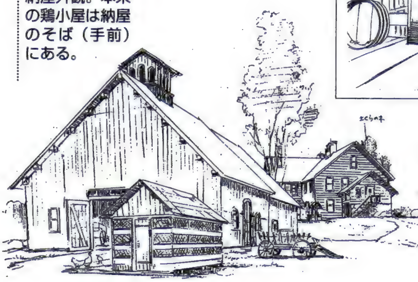
納屋2階。トミーの鶏がこの干し草によく卵を産むため、トミー・バングズ商会の拠点。柵に社名と卵の個数が書かれている。





トミーの貯金箱。ブリキ製。デザインはどことなくプラムフィールドの母屋風。この中の5ドルが事件の発端。（26～28話）

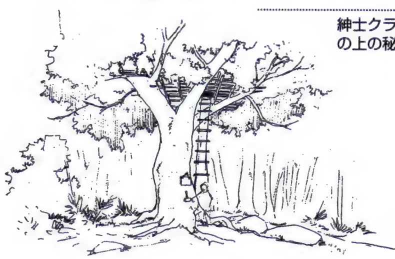
納屋外観。本来の鶏小屋は納屋のそば（手前）にある。

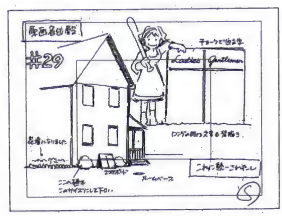




悲しみのナットのためにデーズィが作ったナット人形。誰になんと言われようと、デーズィだけはナットの味方！（27話）

紳士クラブ…といっても木の上の秘密基地。（29話）





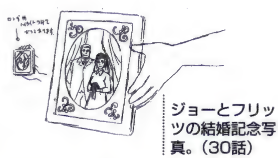
淑女チームVS紳士チームのスコアボード。





辛い気持ちで戻ってきたジャック。プラムフィールドにいたい、とベアに言う。（31話）

コンコード・ジャーナルを記事を読むジョー。コンコードの町は保守的らしい。（29話）



ジョーとフリッツの結婚記念写真。（30話）

ストーリー紹介 27～30話

27話 ひび割れた友情

盗難事件から1週間、ナットに向けられた疑いは次第に他へも向けられていく。子供達に生まれた相互不信。それはベアが最も恐れていたものだった。

28話 告白の置き手紙

ある朝トミーのお金が納屋に返されていた。置いたのはダン。だがダンは何も真相を話そうとしない。そんなときジャックが納屋の屋根から落ちそうになる。

29話 男の子には負けない！

男の子達の作った紳士クラブにナンとデーズィはいれてもらえない。それを聞いたジョーは紳士チームと淑女チームで野球の試合をすることを提案する。

30話 小さなウェディングベル

ナットはデーズィに恋心を抱いていた。それはデーズィも同じだった。だが自分の気持ちをはっきりと言葉にしないナットにデーズィは怒ってしまう。



ブルック家。原作ではメグとジョンの仲の良さから、“鳩の家”と呼ばれる。

ジョン・ブルック
ローリーの家庭教師としてローレンス家でメグと出会った。
（声：小島敏彦）



ジョンは心臓病で、自分の病は治らないと自覚。後の医学の発展のため、奨学金制度を作ろうとしていた。



昔と変わらず美しく優しいメグ。ただ夫の病気が彼女に暗い影を作っていた。

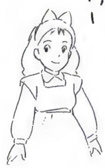


メグ（マーガレット）・ブルック
マーチ家の長女。
（声：潘恵子）



ジョーの寝室にある家族の写真。あのキャラクターが描かれている。





デミとデーズィの妹、ジョーズィ。まだ1歳未満。原作によれば将来彼女もプラムフィールドの生徒になる。



コンコードの教会と併設された墓地。ジョンの葬儀が営まれた。



デミとデーズィの誕生日のお祝いに行くときのコート姿。

ストーリー紹介 31〜34話

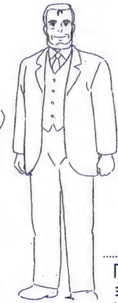
31話 素敵な5ドルの使い方
秋になり、盗難事件の後プラムフィールドを離れていたジャックが帰ってきた。だがナン達はジャックとどう接していいかわからないでいた。

32話 私、お医者さんになる！
最近すっかりお医者さん気取りのナンに正しい知識を身につけさせようとジョーは医学書を読むよう勧める。だがナンは本を放り出し薬作りに熱中する。

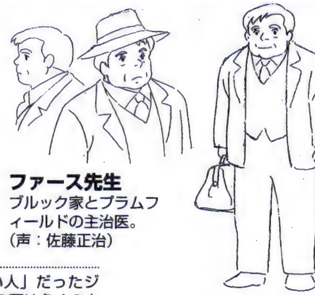
33話 お父さんとの約束
デミとデーズィの誕生日にブルック家へ招待されたナン達。そこでナン達はデミ達の両親ジョンとメグと一緒に楽しいパーティの一時を過ごす。

34話 雪の日の使者
深夜ブルック家へ出向いたまま帰らないベアとジョー。不安を覚えるプラムフィールドの子供達は、いつも通り授業をしてふたりの帰りを待っていた。





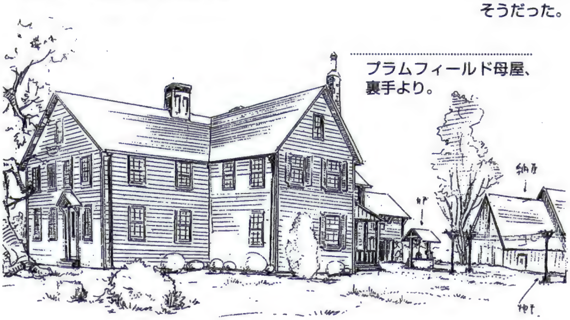
いざというときに頼りになる年長組と常駐スタッフ組の寝間着姿。ジョーとフリッツが葬儀で不在の夜も、心強い助っ人である。



ファース先生
ブルック家とプラムフィールドの主治医。
（声：佐藤正治）

「いい人」だったジョンの死は多くの人に大きなショックを与える。フリッツもそうだった。





プラムフィールド母屋、裏手より。



ジョーとダンのコート姿。ジョーは丸い毛糸帽子に変更。



ページ
38話で初めてナンの前に現れたページ。ひょうひょうとしているが洞察力が深く、人を見る目がある。ダンの天性の才能を見抜き、自分の博物学の知識を惜しみなく与える。（声：石森達幸）



プリンス・チャーリー
ローリーが競走馬にするつもりで、一時的にプラムフィールに預けた黒馬。堂々とした体格だが実はまだ子馬。人を乗せたことがなく、気性が荒いが、やがてダンに心を開いていく。

ストーリー紹介 35〜38話

35話 吹雪の中で
医者になることを夢見ていたナンは、医学がジョンの病気を治せなかったことにショックを受けていた。その夜ナンは、吹雪の中へ姿を消してしまう。

36話 ダンの荒馬ならし
力を持てあますダン。そんなときローリーがチャーリーという気性の荒い馬を連れてやってきた。ダンとナンは早速乗りこなそうと試みる。

37話 旅立ちへの予感
まだ見たことのない遠い世界に憧れるダン。そんなダンに、ナンはチャーリーのしっぽで作った指輪を贈り、どこへも行かないと約束して欲しいと頼む。

38話 それぞれの決心
ページからブラジルへの研究旅行の誘いを受けたダンは、未知の世界への憧れとプラムフィールドへの愛着で心が揺れていた。そこにページが訪ねてくる。



ジョーが挑戦した自転車乗り。オーディナリー型という前輪が極端に大きいタイプで、乗るのに大変熟練を要する。さすがジョー先生は1日でマスター！ズボンはフリッツのを拝借。



ナンが直訴に行く市庁舎。コンコード中心ロータリー付近。向かって右が市庁舎。



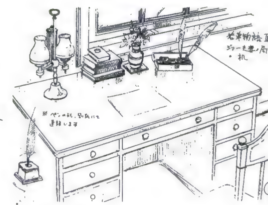
市長。派手な靴下をはいて最新自転車を乗り回す。意外と運動神経は良いらしい。でも頭の中は古典的。（声：藤本譲）



21歳のナンが帰郷した際、乗車した馬車

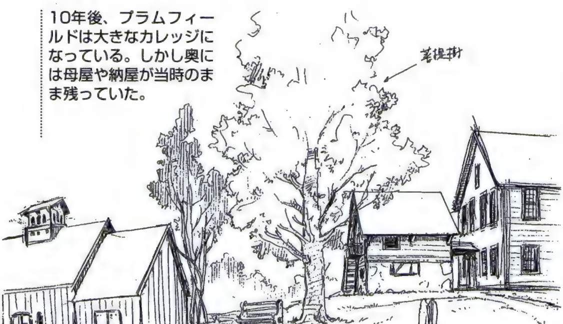


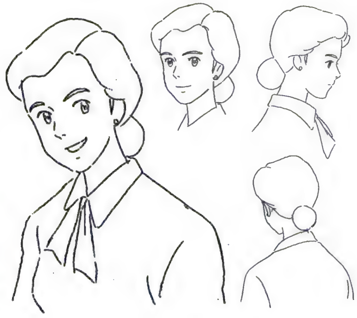
子供達の行いを記録する良心手帳。ジョーの宝物でもあった。



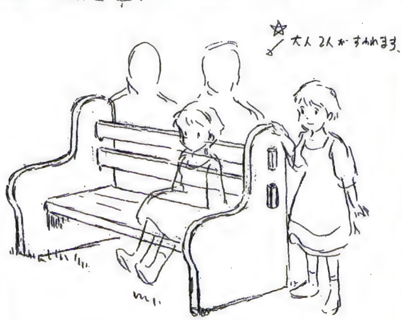
ベア夫妻の机。

10年後、プラムフィールドは大きなカレッジになっている。しかし奥には母屋や納屋が当時のまま残っていた。





フリッツと出会って学校を始め、たくさんの腕白達の母となったジョー。もうひとつの夢だった小説家も、彼女はかなえることになる。ただしそれは『第四 若草物語』での話。



ラストシーンのベンチとプラムフィールドの前庭。このベンチは数々のエピソードの舞台でもある。

ストーリー紹介

39〜40話

39話 おてんばジョー自転車に乗る

医者を目指す若者のための奨学金制度ができると聞いてナンは大喜び。だがファース先生から奨学金を受けられるのは男の子だけと聞きショックを受ける。

40話 さよならプラムフィールド

ダンがブラジルへ旅立つ日がきた。みんなが別れを惜しむ中、ナンは出発の時間になっても姿を見せない。汽車の時間が迫りダンを乗せた馬車は走り出す。

作品コラム

ナンとジョー先生は愛の若草物語の続編か？

『ナンとジョー先生』の1話から3話まで、冒頭に流れたナレーションはこうだった。

「若草物語の四姉妹 メグ ジョー ベス エイミー 月日は流れ 夢見る少女たちも いつしか大人になりました。あの勝ち気なジョーも結婚し、希望にあふれる人生を歩みだしたのです」

——懐かしいあの家族の肖像が大人のジョーに重なっていく映像は、明確に『愛の若草物語』の続編であることをアピールしていた。声優のキャスティングまで前作と揃えたこだわりに、制作者の念の入れようがわかる。

それなら続編であるとして問題はないのだが、困ったことに、実は肝心の舞台が違っているのである。『愛の若草物語』は、海辺の町ニューコード。そうなったいきさつはP123の通り。原作通りにマーサ叔母様の家がプラムフィールドになるのなら、ニューコードが舞台のはずだ。ところが『ナンとジョー先生』では、本来の舞台であるコンコードを用いたため、冒頭の家族写真のような違いが出てしまった。

細かいことを言えば『愛の若草物語』のメグの婚約者カールが、こちらではジョンという名に変更されているなど、相違点は多い。

結論から言えば『ナンとジョー先生』の方が原作に忠実な設定である。舞台を変え、キャラクターの名前を変えた前作を引き継ぐか、原作に戻るのか、その判断は難しいものがあったに違いない。



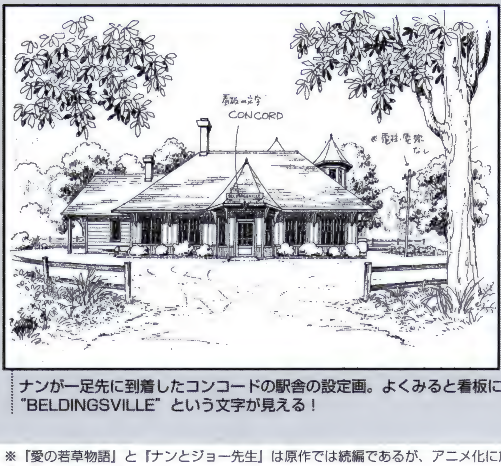


『愛の若草物語』（左）と『ナンとジョー先生』（右）のオープニングの絵から。一見同じに思えた家族写真も、こうして並べると背景の家が異なることに気づく。『ナンとジョー先生』の背景は、原作者オルコットが住んだコンコードのオーチャードハウス（現在オルコット博物館）である。

『ポリアンナ』と『ナンとジョー先生』の意外な関係

『ポリアンナ物語』でロケハンしたのは、アメリカ、マサチューセッツ州コンコード。上の記事の通り、『ナンとジョー先生』も同じコンコードなのである。

そのため設定画はポリアンナのものを一部流用する事態も起きた。注意深く見ると両者の背景がそっくりなところもある。どこなのか見つけてみるのも、シリーズならではの楽しみ方だろう。



ナンが一足先に到着したコンコードの駅舎の設定画。よくみると看板に“BELDINGSVILLE”という文字が見える！

※『愛の若草物語』と『ナンとジョー先生』は原作では続編であるが、アニメ化に於いてそれぞれひとつの作品として描かれている。この本では名前（例：ジョオ、ジョー）も作品に沿って表記した。

『第三 若草物語』

大人になったジョーは結婚して学校を作った――。『ナンとジョー先生』の原作である『第三若草物語』は、四姉妹の物語に続くその後の若草物語。シリーズ第3作目にあたる。

ルイザは2回目のヨーロッパ旅行の最中、姉アンナの夫ジョンの死の報を受けた。悲しみにくれながらも、残された家族の生活を助けるため、続編を書こうと決意する。ジョンの人柄とその死は、第三若草物語の中に、デミとデーズィの父ジョンとして1章割かれている。1871年作品。



『第三 若草物語』
著：ルイザ・メイ・オルコット
訳：吉田勝江
発行：角川書店

ジョーの夢はルイザの夢

『若草物語』はルイザが自分の家族をモデルに書き起こした、自伝的物語。ルイザは、実際に自分たち一家が体験した出来事をエピソードにちりばめている。

しかし、やがて四人姉妹が大人になり、ロマンス的な要素が入ってきたところで、生涯独身だったルイザは、自身のあのままの姿を書くことをためらう。

物書きマシンと自嘲気味に自分を語り、貧乏と戦い、一家を養うことに終生追われたルイザは、自分の分身ジョーには幸福な結婚をさせ、理想的な学校を経営させることにした。

優しいベアに、尊敬する父の面影と伴侶に求める願望を映し、父ができなかった学校経営の成功をさせた。同じくもうひとりの自分の分身ナンには、そこで生き生きとした暮らしをさせる。プラムフィールドこそ、ルイザの夢の実現であり集大成だったのではないだろうか。



ジョーとベアの写真の設定より

女性が医者になること

医者を目指すナン。当時女性が医者になることは珍しかったのだろうか?

アメリカで女性で最初に医大を卒業したのは、エリザベス・ブラックウェルで1849年のこと。彼女は大多数の医学校から入学を拒否され、国内で不許可だった実地臨床はロンドンで行った。同じく1849年、ボストンに女子医学校が開設、翌1850年にもフィラデルフィアに開設され、女性が医者になる道が少しずつ開かれていた。

それから30年後を生きるナンに、道が険しいとは思えない。しかしナンなら、エリザベスのような困難も乗り越えたに違いない。

1話の冒頭シーンレイアウトより、プラムフィールドに里帰りをする成長したナン。



Gallery



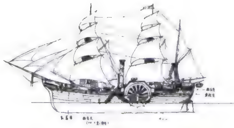
プラムフィールドの母屋遠景／伊藤主計

メインスタッフ

脚本	島田満
音楽	デービッド・シービルズ
キャラクターデザイン	佐藤好春
絵コンテ・演出	加賀剛／中西伸彰／酒井伸次／高木淳／則座誠
作画監督	佐藤好春／鷲田敏弥／田中穣／松本清／井上鋭／高野登
美術設定	伊藤主計
美術監督	川口正明
音響監督	藤野貞義
色彩設定	小山明子／小酒井久代／諸澤千恵子
原画	石川哲也／朝戸澄子／大城勝／橋本聡子／ふるたしょうじ／三浦辰夫　ほか
プロデューサー	中島順三／鈴木吉弘
プロデューサー補	田中真津美
監督	楠葉宏三

オープニングテーマ「明日もお天気」
作詞・作曲：小坂明子
編曲：信田かずお
歌：小坂明子

エンディングテーマ「青空のDing-Dong」
作詞・作曲：伊藤薫
編曲：信田かずお
歌：伊藤薫／森の木児童合唱団



ふしぎな島のフローネ

家族ロビンソン漂流記

Flone on the Marvelous Island



ふしぎな島のフローネ

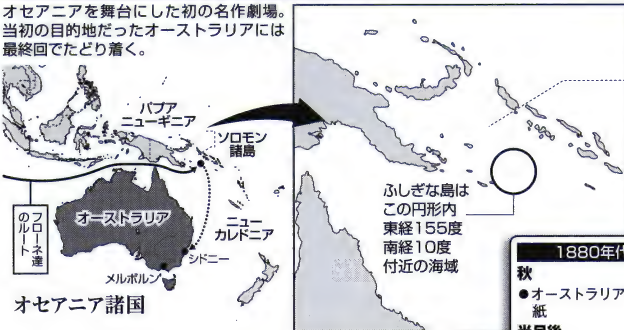
家族ロビンソン漂流記



放映期間	1981/01/04〜 1981/12/27
話　　数	50話
原　　作	ヨハン・ダビット・ウィース 「スイスのロビンソン」
備　　考	81年文化庁こども向けテレビ用優秀映画作品賞受賞

物語の舞台

オセアニアを舞台にした初の名作劇場。当初の目的地だったオーストラリアには最終回でたどり着く。



1880年代

秋
- オーストラリアから手紙

半月後
- オーストラリア行きが決定

10月末
- イギリス出発

12月24日
- 嵐が始まる

12月29日
- 明け方嵐が収まる

12月30日
- ふしぎな島に上陸

1月23日
- 木の上に家を造る

3月6日
- アンナ、畑を作る決意

4月21日
- 沖を船が通る

9月13日
- フローネ11歳の誕生日

翌年4月頃
- 島を出発

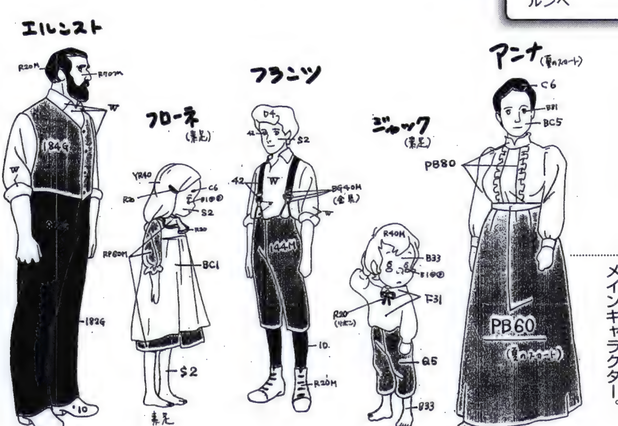
3週間後
- シドニーの北部に到着

5月
- シドニーからメルボルンへ

ストーリー解説

ある日フローネは、郵便屋さんから一通の手紙を受け取る。その封筒には見たこともない切手が貼られていた――。

オーストラリアには医者が足りないので来てほしいという親友からの依頼を受け、悩んだ末にエルンストは一家でオーストラリアへの移住を決意する。ところが、途中オーストラリアへ向かう船が嵐に遭い、フローネ達は船に取り残されてしまった。何日も続いた嵐が静まり、幸い船は沈没を免れる。島影に喜んだのもつかの間、一家がたどり着いたのは、四方を海に囲まれた絶海の孤島だと知る。襲いかかる野獣に、原因不明の病、食糧の確保…。家族は力を合わせてこの未知の困難を乗り越えようとする。



メインキャラクター。

History

開拓時代のオーストラリアへ向かう最中、ロビンソン家は遭難する。作中の出来事や事物から19世紀後半が舞台と推察される。

19C

1815 ウィーン条約　スイス永世中立国に

1824 大陸名ニューホランドからオーストラリアに

1825 蒸気機関車実用化(英)

1837 ビクトリア女王即位(英)

1851 オーストラリアでゴールドラッシュ

1868 明治維新(日)

1869 スエズ運河開通(埃)

1883 シドニー・メルボルン間鉄道開通

1901 オーストラリア連邦成立

1903 ライト兄弟飛行機を発明(米)

20C

1914 第1次世界大戦(〜1918)

1929 世界恐慌

1939 第2次世界大戦(〜1945)

1969 アポロ11号月面着陸(米)

21C



カジュマルの樹の上に造られた家。



モートン
気むずかしく口も悪い老船乗り。タムタムとともに島に漂着。



タムタム
モートンの下で水夫の見習いをするオーストラリアの少年。

キャラクター紹介



アンナ
心配性で恐がりのお母さん。ネズミが苦手だが一応農家の出身。



エルンスト
スイスで開業医をしていた。彼の博識が島で大いに役に立つ。



ジャック
いたずら好きで泣き虫。実はコレクターでもある。

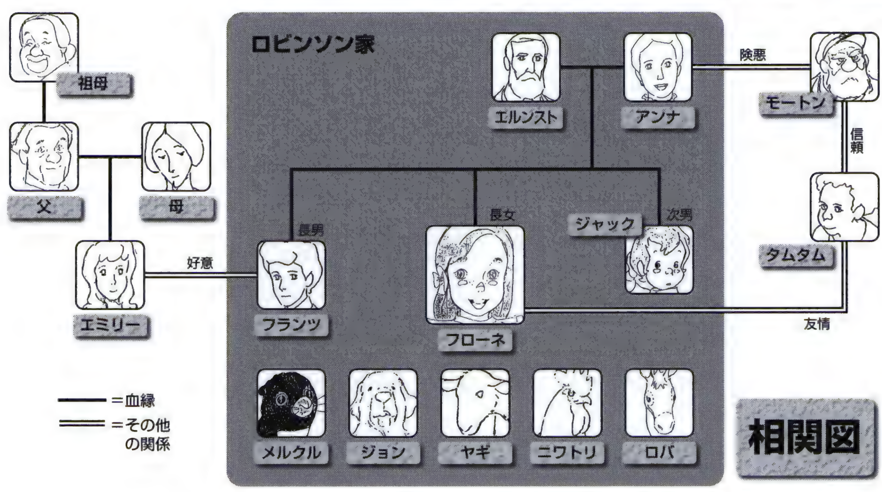


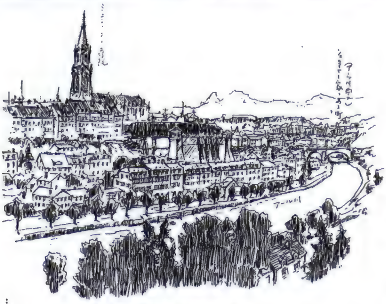
フランツ
気が優しい音楽家志望の兄。島の生活で一番たくましく成長したのは彼。



フローネ
10歳。おてんばでおっちょこちょい。元気が取り柄だがでも実はとても寂しがり屋。

相関図





アーレ川越しに望むベルン市街地。現在、世界遺産にも登録されている美しい町並み。



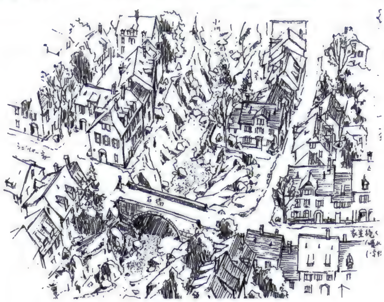
ベルン旧市街。時計台は昔の城門だった場所でベルンの観光名所の一つ。アンナが買い物に来た場所として登場。



フローネ
おてんばで木登りや逆立ち歩きが好きな少女。（声：松尾佳子）



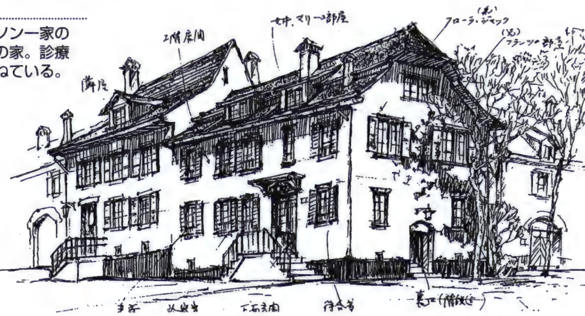
父と母の様子をさぐるため、お茶を出すフローネ。



フローネの通学路の俯瞰図。図の左手に家、右手に学校がある。

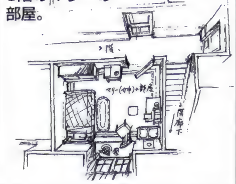


丘の上にある学校。ベルン市内が一望できる。

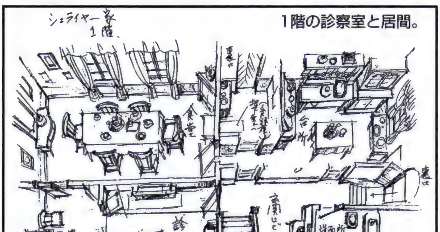


ロビンソン一家のベルンの家。診療所を兼ねている。

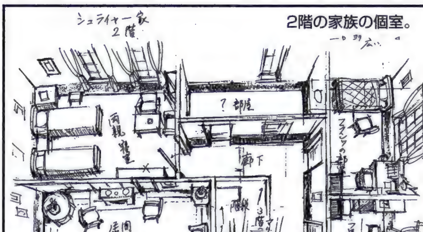
3階のマリーの部屋。



1階の診察室と居間。



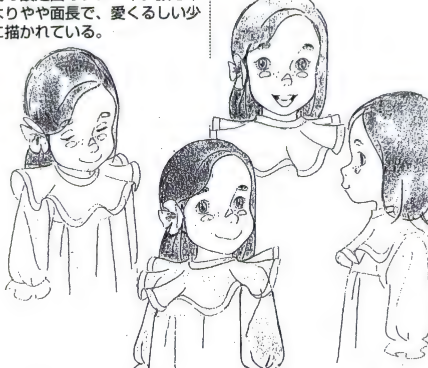
2階の家族の個室。



家の間取り図。家具の配置まで細かく設定されている。初期設定ではシュライヤーという名字だったロビンソン家。フローネも当初はフローラという名前だった。



フローネはオーストラリア行きが決らないうちから荷物を詰め始めた。



関氏の設定画のフローネ。顔も本編よりやや面長で、愛くるしい少女に描かれている。



ロビンソン家のお手伝いマリー。彼女の子守歌はフローネの精神安定剤。ただひとりの身内である叔母が病気でオーストラリア行きを断念。



寝間着のフランツ。寝ながら指揮をする特技あり。



フローネとジャックの共用部屋。ドールハウスなども置かれ、比較的裕福な生活が垣間見える。



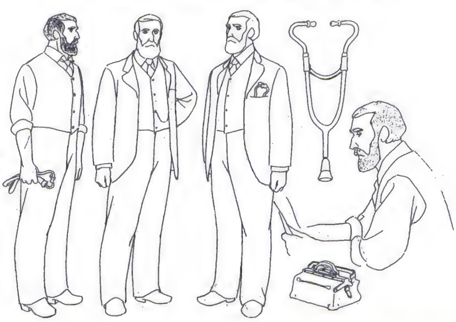
フローネたちの寝間着。



ゲルハルト。自称作曲家の詐欺師。



ルイーゼ・コップ
ウィーン歌劇のプリマドンナ。フローネたちの船に乗り合わせる。(声:花形恵子)



エルンスト
開業医として週に5日家で診察し、週に1日下町で無料診察を行う。スイス発祥の赤十字の精神を地でいく男。(声:小林勝彦・小林修)

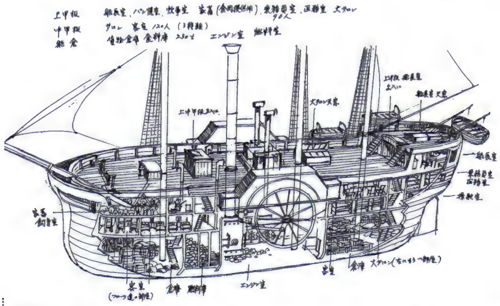
ストーリー紹介 1~4話

1話 一通の手紙
スイスの首都ベルン。ロビンソン家の長女フローネはおてんば少女。ある日医者である父エルンストの元にオーストラリアの友人から一通の手紙が届く。

2話 旅立ち
誰かひとりでも反対したらオーストラリアへは行かないというエルンスト。フローネは移住に大賛成だが、音楽家になりたいフランツは迷っていた。

3話 フローネの心変り
ライン川を下る船の中で、音楽家だと名乗る男に歌をほめられたフローネは、突然、自分はオーストラリアには行かず、オペラ歌手になると言い出した。

4話 オーストラリアめざして
イギリスからオーストラリアに向かう大型船ブラックバーン号に乗り込んだロビンソン一家。フランツは甲板でエミリーという少女と知り合う。



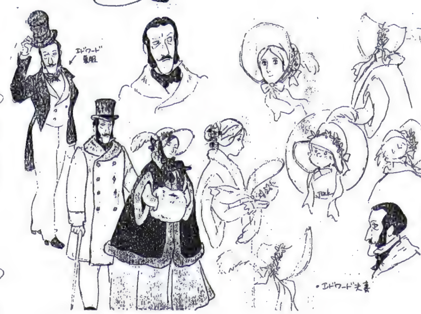
ブラックバーン・ロック号透視図。家畜の飼育室まで設定されている。家畜室が前方にあったため、動物たちを連れ出すことができた。



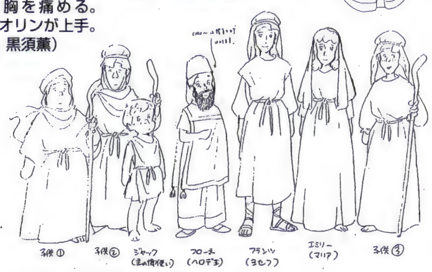
キャサリン
エドワードの妻。船の中で赤ん坊を産む。



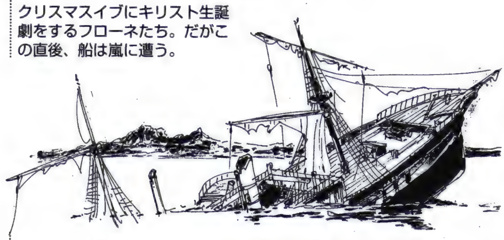
エミリー
船で出会った少女。14歳。両親の諍いに胸を痛める。バイオリンが上手。(声：黒須薫)



エドワード
オーストラリア総督の秘書官。最初は傲慢だったが、エルンストに妻の出産を助けられ、態度を改める。



クリスマスイブにキリスト生誕劇をするフローネたち。だがこの直後、船は嵐に遭う。



難破して、座礁したブラックバーン・ロック号。



一日船長になったフローネ。禁酒令を出し、船中を支配下に置いて、フローネによる恐怖政治が始まった…!? 次に狙ったのはもちろんコック長の座。

ストーリー紹介 5〜8話

5話 フローネ船長
喜望峰を過ぎると、穏やかな航海が続いた。一方船内では、エミリーの両親が大荒れ。大喧嘩の挙げ句、エミリーの母は次の港で船を下りると言い出す。

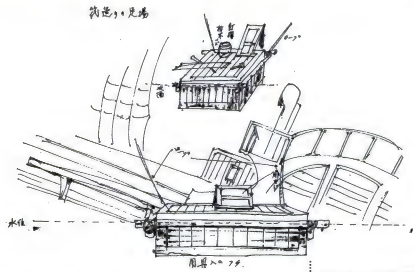
6話 こわい嵐
クリスマスイブ、船は突然嵐に襲われた。エルンストはケガ人の治療中、過労で倒れてしまう。そんな中、フランツが嵐の海に投げ出されてしまった。

7話 なんでもできるおとうさん
座礁した船に取り残されてしまったロビンソン一家。仕方なく船室へ戻った一家は行方のわからないフランツを案じながら、不安な夜を過ごす。

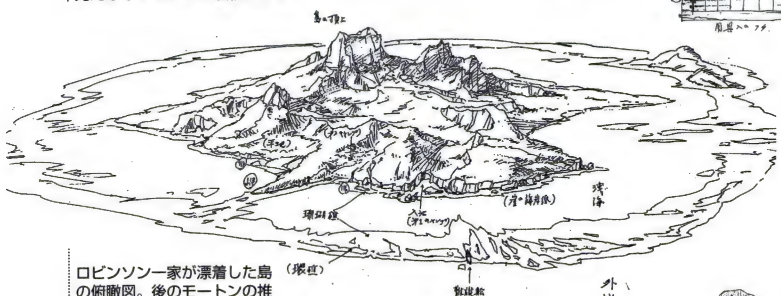
8話 島をめざして
筏を作る為に樽を見つけに船内を探検に出たフローネは、ブドウ酒ですっかりいい気分…。ようやく筏が完成し、ロビンソン一家は近くに見える島を目指すことにする。



座礁した船から島の方角を望む。島は見えるもののかなり距離がある。



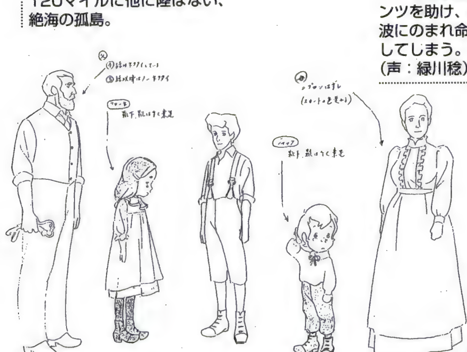
筏作りの足場。エルンストは樽を利用して脱出用の筏を作る。



ロビンソン一家が漂着した島の俯瞰図。後のモートンの推定によると東経155°南緯10°付近。周囲少なくとも120マイルに他に陸はない、絶海の孤島。



ブラックバーン・ロック号の船長。フランツを助け、自らは波にのまれ命を落としてしまう。(声：緑川稔)



船の上で着ていた服。島に上陸した時もほぼ同じ。島ではさらに簡素な服に替えて生活するが、基本的に着の身着のまま。



ロビンソン一家の最初に上陸した浜。木の上の家ができるまでここで暮らす。

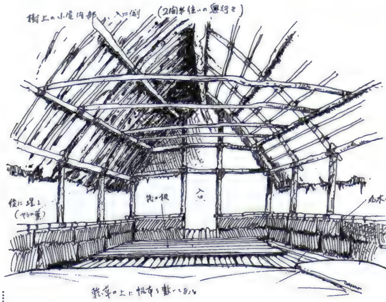
ストーリー紹介 9〜12話

9話 あたらしい家族
島に上陸した一家は、浜に帆でテントを張り、その晩はそこで休むことにした。夜番をしていたフランツは暗闇で光る目を見て思わず銃を撃ってしまう。

10話 かなしみの再会
犬のジョンの後を追うと、そこには変わり果てた船長の姿が。船長を丁重に葬るフランツたち。それと同時に沖で座礁していた船が海中へと崩れ落ちた。

11話 おばけの木
アンナやジャックと一緒に食べ物を探しに森へやってきたフローネは、そこでとても大きくて不思議な形をした木を見つける。

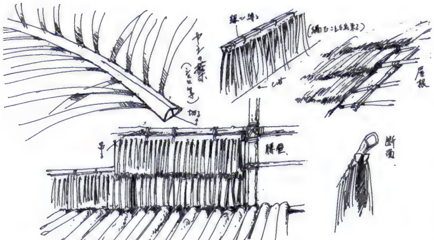
12話 おかあさんの活躍
周囲の様子を調べるため、探検に出かけたエルンストとフランツは約束の3日を過ぎても帰ってこなかった。そんな時、テントが野獣の群れに襲われる。



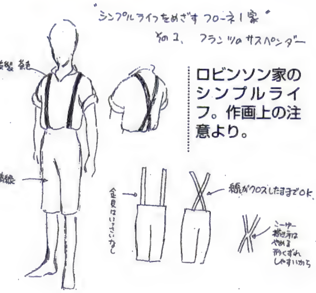
干し草の上に帆布を敷いている。板間は筏を流用。



ジャングルの奥にあった大きなガジュマルの樹。野獣の襲撃を避けるため、一家はこの木の上に家を造ることにする。



壁や屋根はヤシの葉でふいてある。



ロビンソン家のシンプルライフ。作画上の注意より。

木の上の家完成図。太い幹の中は空洞ではしごがある。



エルンストとアンナの寝間着。これはスイスでの設定。無人島では着たきりすずめ。



ストーリー紹介 13〜16話

13話 フランツの目
エルンストは探検の結果、無人島らしいことを伝え、木の上に家をつくることにした。そんな時、フランツは毒虫にやられて目が見えなくなってしまう。

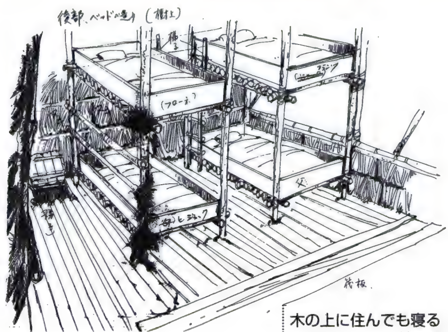
14話 貝殻の歌がきこえる
木の上に家を作る間、フローネは、ジャックと留守番することになった。退屈なフローネは、スイスの友達やマリーのことを思い出していた。

15話 木の上の家
4日後はアンナの誕生日。それぞれの想いを込めて贈り物を用意していた。だが野獣の声に、一家は予定より早く木の上の家に移ることになった。

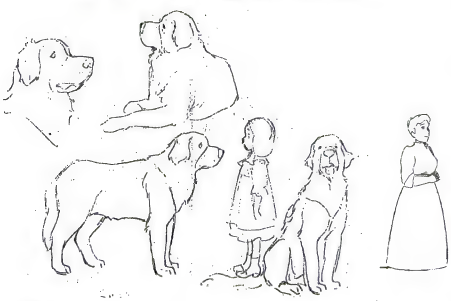
16話 我家の日課
木の上の家が完成し、ようやく落ち着いた一家は日課を決めて行動することにした。アンナは船からの食料が底をつくのを目の前に、畑を作ることにする。



メルクル
プチクスクスの子供。親はフランツが猛獣と間違えて撃ち殺してしまう。

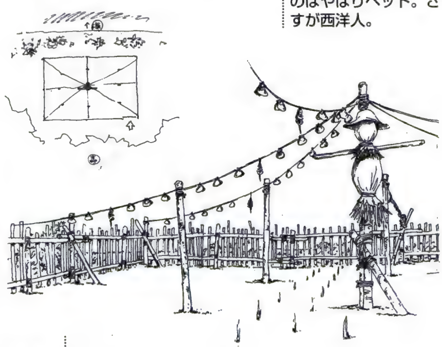


木の上に住んでも寝るのはやはりベッド。さすが西洋人。



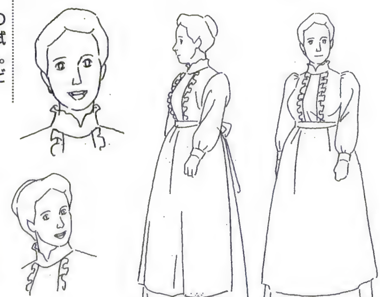
ジョン
座礁した船からフローネ達と一緒に脱出してきた。ゴールデンレトリバー種のようである。

アンナが動物や野鳥の被害を避けるため、試行錯誤して作った畑。トウモロコシや豆などを育てている。





島の岬に沖を通る船を見張る台を設置。すぐ下は外海。



アンナ
ネズミも怖がる臆病で心配性の母は、意外にも農家の出身。畑作りでその技と粘りを披露し、面子を保つ。37歳。（声：平井道子）

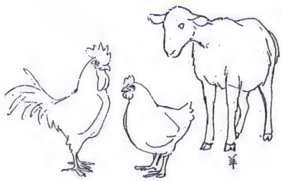
ストーリー紹介 17～20話

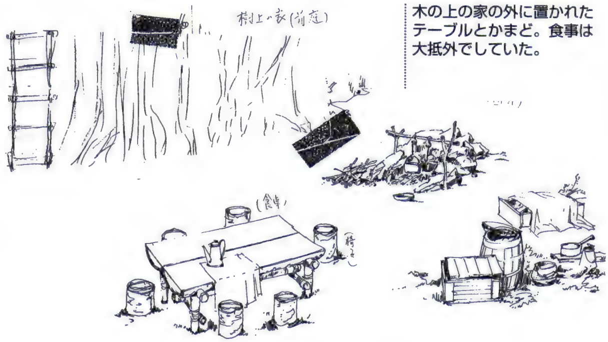
17話 おかあさんの畑
芽が出たばかりの畑を獣に荒らされ、ショックのアンナ。柵を作れば、今度は鳥に荒らされた。一方、フランツはカヌーを作るがこれもすぐに沈んでしまう。

18話 メルクルを助けて！
ようやくカヌーが完成した。さっそくジャックを連れて試乗するフランツだが、目を離した隙に、メルクルがオールとともに流されてしまう。

19話 フローネ、狩りに行く
食事は芋や果物ばかり。植物ばかりの食事に飽いたフローネは、狩りに同行させてもらう。しかし、鳥が撃たれるのを見てかわいそうになってしまう。

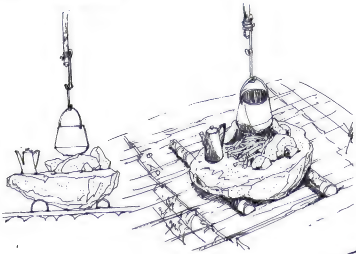
20話 船が見える
足を捻挫して動けないフランツは、ベルンでの生活を思い出していた。そんな時、ひとりで見張りに出て行ったフローネが沖に船がいるのを見つける。





木の上の家の外に置かれたテーブルとかまど。食事は大抵外でしていた。

ニワトリはオーストラリアまで連れって行ってもらうが、羊はブラックバーン・ロック号からも助け出してもらえなかった。ああ無情。

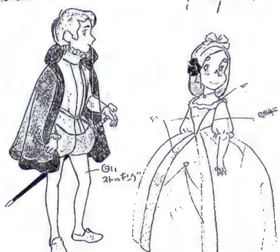


雨でも食事の支度ができるように作った、家の中用のかまど。

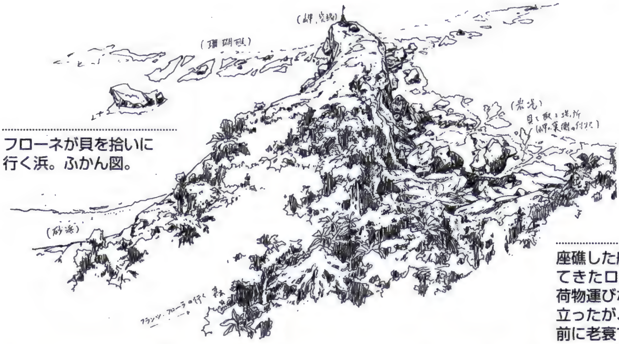




エルンストの掘った井戸。医者ながら井戸まで掘り当てるエルンストに脱帽！火山活動の影響で水位が下がる。



フローネの夢（妄想?）に出てきた王子様とお城。



フローネが貝を拾いに行く浜。ふかん図。



座礁した船から一家が連れてきたロバ。名前はない。荷物運びなど、何かと役に立ったが、島からの脱出直前に老衰で死んでしまう。

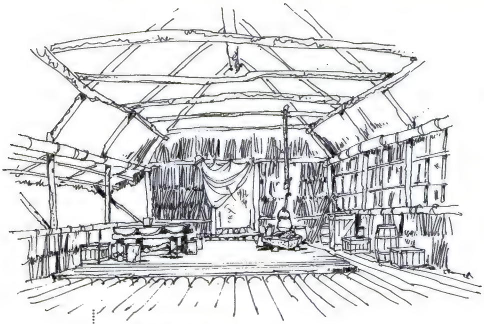
ストーリー紹介 21～24話

21話 亀の赤ちゃん
暑さに耐えかねて、一家は浜に夕涼みに来た。辺りがすっかり暗くなった頃、フローネたちは浜辺に一匹のウミガメがやってきたのを見つける。

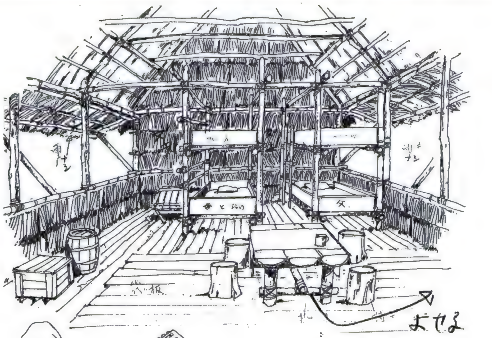
22話 ジャックはコレクター
ジャックは貝殻集めが大好き。ある日、一家はフローネの甘いものを食べたいという希望を受けて、奥地までサトウキビをとりにいくことになった。

23話 無人島の休日
フローネ達は無人島にきて初めて休日を取ることにした。みんな思い思いの休日を楽しむが、フローネは誰にも相手をしてもらえず、退屈してしまう。

24話 フローネの家出
フランツが自分のことをブスと言うのを聞き、怒ったフローネは家出する。エルンストは「人間、姿形じゃない」となだめるが、フローネは余計に怒りだす。



木の家の前方部分。

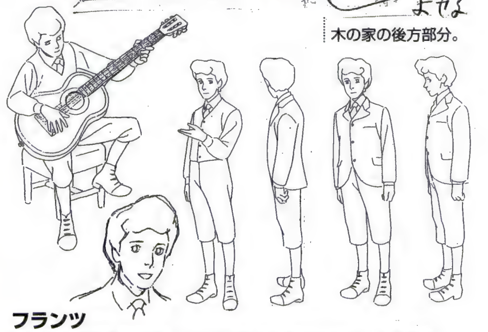


木の家の後方部分。

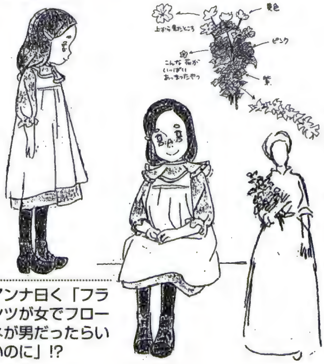


ジャック
泣き虫でいたずらっ子の弟。（声：高坂真琴）

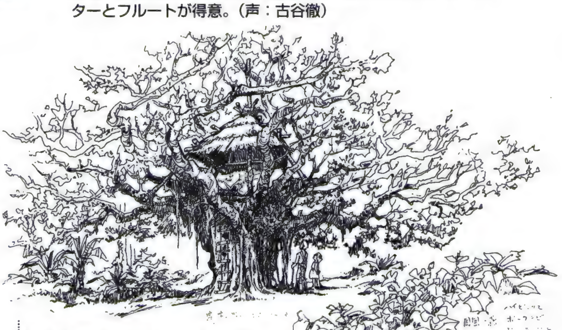




フランツ
作曲家か指揮者を志望しスイスに残る予定だったが、土壇場で変心。船に飛び乗る。多少神経質だが心優しいお兄ちゃん。ギターとフルートが得意。（声：古谷徹）



アンナ曰く「フランツが女でフローネが男だったらいいのに」!?



結婚20周年を祝って、フローネが家出した時住んでいた木の家を改装して両親にプレゼント。

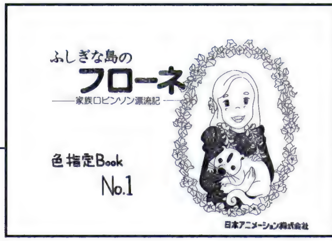
ストーリー紹介 25~28話

25話 無人島の夜はまっくらやみ
とうとうマッチを使い切ってしまった。真っ暗な夜を過ごすフローネ達。翌朝エルンストはマッチを使わずに火をおこすことに挑戦する。

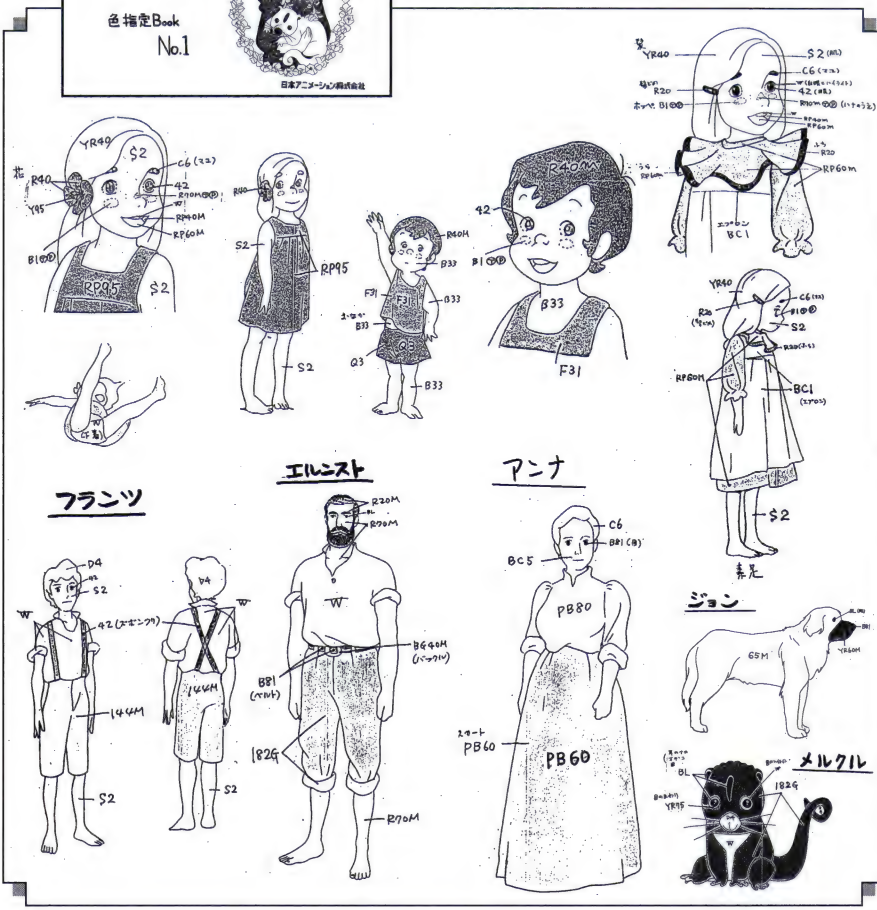
26話 おにいちゃんは弓の名手?
銃の弾が少なくなってきた。エルンストは狩りに使うため、弓矢を作った。フローネは矢を試しているうち、偶然ゴムの木を発見する。

27話 無人島の音楽会
アンナから今年でちょうど結婚20周年。そこでフローネはフランツやジャックと相談してエルンストとアンナに素敵なプレゼントを計画する。

28話 ジャックの病気
ジャックが高熱を出した。どうやらマラリアにかかったらしい。そこでエルンストとフランツはマラリアに効くというキナの木を探しに行くことにする。



『フローネ』はそのほとんどが無人島であるため、登場キャラクターは毎回同じ。しかも着の身着のままなので、衣装も変わらない。無人島で過ごす一家のスタイルを、色指定ブックから掲載したものがこれである。



ストーリー紹介 29〜32話

29話 フローネ行方不明となる
アンナはジャックが病気になって以来、一日も早い島からの脱出を願うようになった。エルンストは早速船の材料になりそうな木を探し始める。

30話 きついお仕置き
勉強をサボって遊びに行き、森で迷子になってしまったフローネは、翌日、アンナから厳しい罰を受ける。

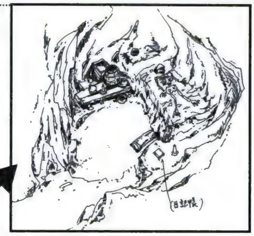
31話 わたしはのけもの?
その日フローネは家族の様子がおかしいのが気になっていた。みんなよそよそしい。だがフランツから今日の日付を聞いたフローネはすっかり納得する。

32話 船ができた!
新しい船がついに完成した。その晩一家は地図を見ながら島からの脱出計画を練るが、その夜激しい嵐に見舞われた。そして造った船も沈んでしまう。

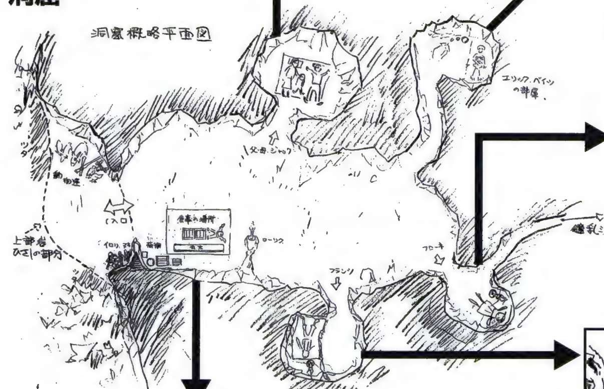
両親とジャックの部屋。



漂流者のエリック・ベイツが亡くなっていた部屋。さすがに骸骨は埋葬されたが、部屋はそのまま。おまけに幽霊騒動まで起きるし…。



洞窟



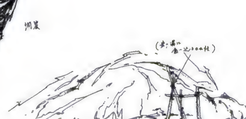


フローネの部屋。ここから鍾乳洞へ通じる入り口がある。

迷子になったフローネが偶然見つけた洞窟。雨季の間ロビンソン一家はここで暮らすことに。水場が遠いのが欠点だったが、フローネが鍾乳洞で小川を見つけ、それも解決。後に地震で壊れてしまう。







思いの外、洞窟の中は広い。各人の部屋まで確保できる。中央部が居間と台所。

フランツの部屋。久しぶりの個室を喜んだのはフローネだけではない。

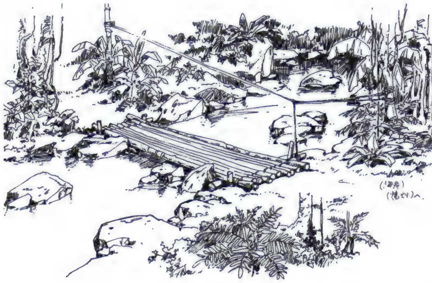
ストーリー紹介 33〜36話

33話 雨、雨、ふれふれ
島は雨季に入り、連日雨続き。外で炊事ができないため、屋内にかまどを作ることにする。久しぶりの屋内での食事にくつろぐフローネ達だった。

34話 洞窟を探せ!
連日の雨で木の上の家は、雨漏りするようになっていた。そこで一家はフローネが迷子になった時に雨宿りした洞窟を、次の住まいにするため探しに行く。

35話 洞窟の秘密
洞窟の中で白骨が見つかった。傍にあった日記を読むと一家が来る以前の漂流者だと判明。フランツはその姿に自分たちの未来を重ねて衝撃を受ける。

36話 幽霊が出る!
一家は雨を避けて洞窟に引越。フローネは洞窟の奥で小川を見つける。ある時、水を汲みに行ったフローネは、そこで人影らしいものを目撃する。



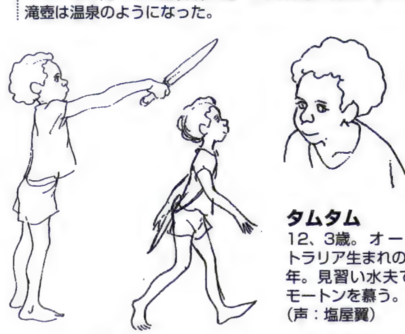
小川に架かる木の橋。木の上の家から畑までの途中にある。



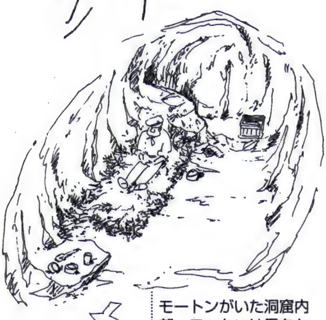
フローネが見つけた鍾乳洞の滝。火山活動が活発になって滝壺は温泉のようになった。



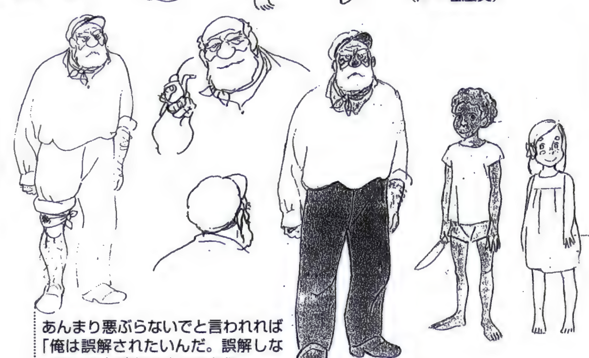
モートン
船乗り。頑固で気難しいが、心根は愛情深く優しい。(声:永井一郎)



タムタム
12、3歳。オーストラリア生まれの少年。見習い水夫で、モートンを慕う。(声：塩屋翼)



モートンがいた洞窟内部。モートンは足をケガして動けなかった。



あんまり悪ぶらないでと言われれば「俺は誤解されたいんだ。誤解しないでくれ」味なおやじである。

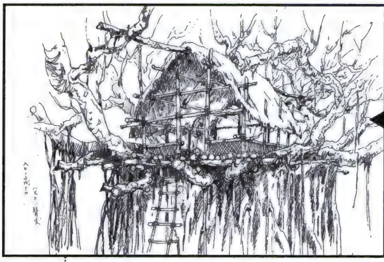
ストーリー紹介 37~40話

37話 あらたな漂流者
木の上の家に続き、畑も荒らされた。翌朝、畑を見回りに行ったフローネ達はそこでウリを盗もうとしているひとりの少年を見つける。

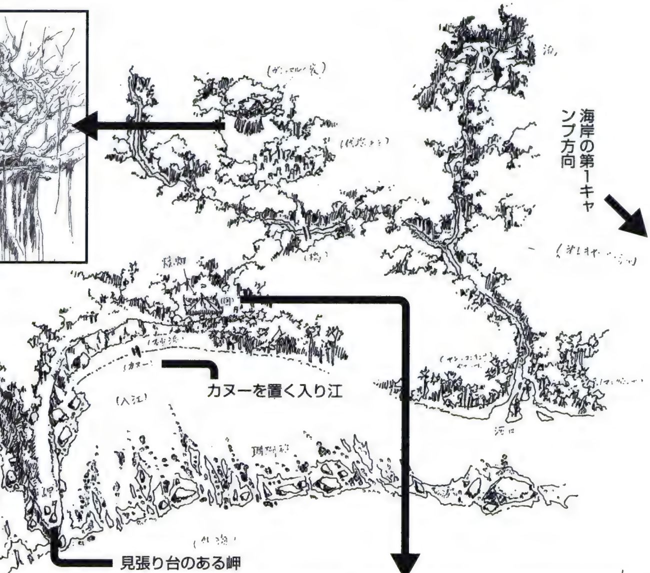
38話 男の子女の子
フローネ達と一緒に朝食を食べていたタムタムは、フローネらがオーストラリアに行く途中で遭難したと聞くと、突然、怒って飛び出していってしまう。

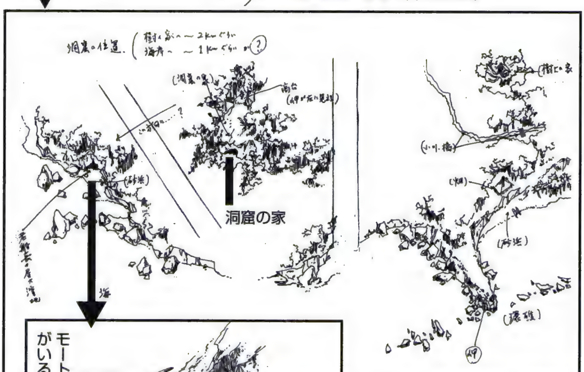
39話 ひねくれ者モートン
モートンは相変わらず、ロビンソン一家とうち解けようとしない。そんなある日、ヤシの木から降りられなくなったフローネをモートンが助けてくれた。

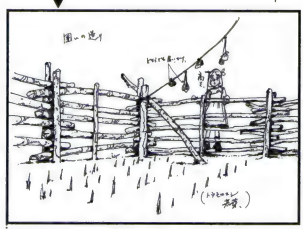
40話 少年タムタム
屋根の修理が終わり、ロビンソン一家は木の上の家に戻る。翌日はフランツの誕生日。フランツは贈り物に一日の休暇を願う。作曲がしたいというのだ。



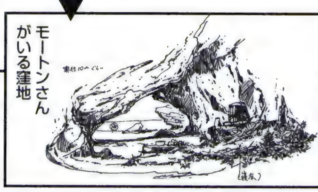
第2キャンプ地の木の上の家の場所





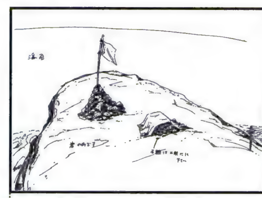


アンナの畑。



ふしぎな島の見取り図

洞窟の家から、第2キャンプ地の木の家までは2キロ、海までは1キロほどと設定されている。それぞれかなり離れており、引越も容易でなかった。



見張り台。

ストーリー紹介 41〜44話

41話 行ってしまったモートンさん

洞窟の小川が温かくなっているのを知ったモートンは島を調べて回る。そして浜でエルンスト達の作ったカヌーを見つけたモートンはある決断をする。

42話 恐ろしい地震

タムタムは海に出て行ったモートンを心配していた。その日、ジョンや島の動物達の様子がどうもおかしい。エルンストはこの島が火山島だと推察する。その晩、フローネたちを二度の大きな地震が襲った。

43話 戻ってきたモートンさん

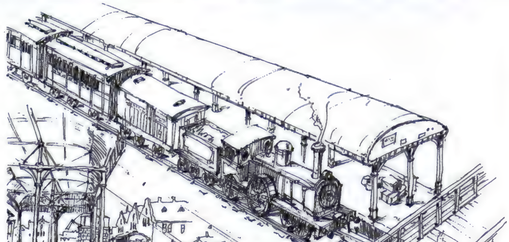
モートンが乗っていったカヌーをタムタムが見つけた。カヌーには衰弱したモートンの姿があった。そしてモートンの帽子から一通の手紙が出てくる。

44話 もう一度船を!

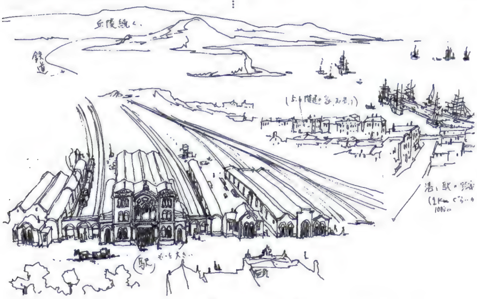
島では地震が続いていた。エルンストから以前造った船の話を聞いたモートンは、もう一度船を造ろうと提案。モートンの指揮の下、総出で作業に取り組む。



エリオット氏。エルンストの親友。この物語はこの人の手紙から始まった。



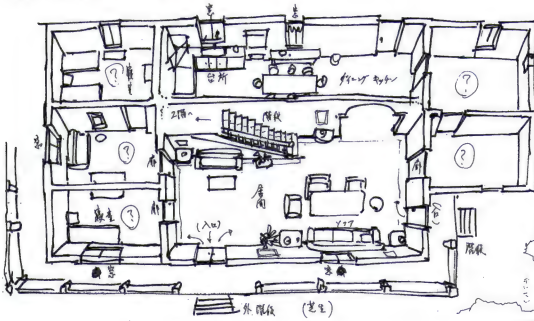
メルボルン駅に停車する汽車。フローネたちはシドニーで上陸後、汽車でメルボルンへと向かう。



高台にあるメルボルン駅舎の俯瞰図。駅から港まで約1キロ。町には5.6階建ての石造りのビルが並び、開発はかなり進んでいる模様。1885年頃の設定とある。



身なりを整えたモートンとタムタム。



新家の見取り図。わずかBパートのみの登場ながら、間取りまで細かく設定されている。



メルボルン郊外の新しい一家の住まい。用意したのはエリオット氏。彼は、ロビンソン一家をオーストラリアに呼びよせた人物。一家の生還を誰よりも喜んだであろう人である。

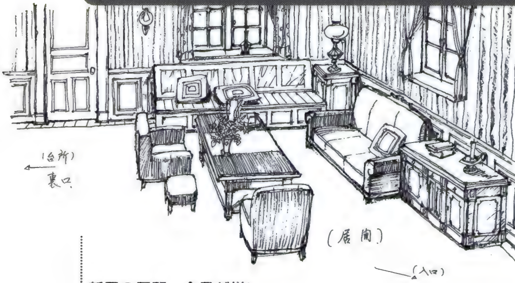
ストーリー紹介 45～48話

45話 死なないでロバさん
新しい船が完成した。あとは海に浮かべるだけ。ジョンとロバの力を借り、船は何とか無事海に浮かぶ。だが精根尽きたロバはその場で倒れてしまった。

46話 ヤギをすてないで
船は完成したが、潮の流れがよくなるまで出発はできない。モートンは、動物は船に乗せないので、今のうちに動物たちを処分するようにという。

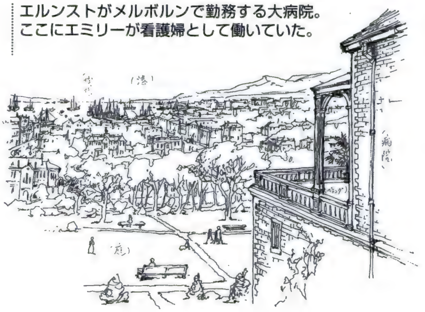
47話 続ヤギをすてないで
ヤギが戻らないのでフローネは落ち込んでいた。しかもジョンとメルクルまで姿が見えない。一方、潮の流れを見ていたモートンは、翌朝の出発を決断する。

48話 さようなら無人島
無人島での最後の晩。ロビンソン一家は、なかなか寝付けない。そこで出発まで、思い残すことのないよう、それぞれが好きなことをして過ごすことにする。



新居の居間。全員が揃い、
改めて無事を喜び合う。

エルンストがメルボルンで勤務する大病院。
ここにエミリーが看護婦として働いていた。





新居の裏庭。夕景を見て再会を誓うフランツと
エミリーのシーンが印象的。

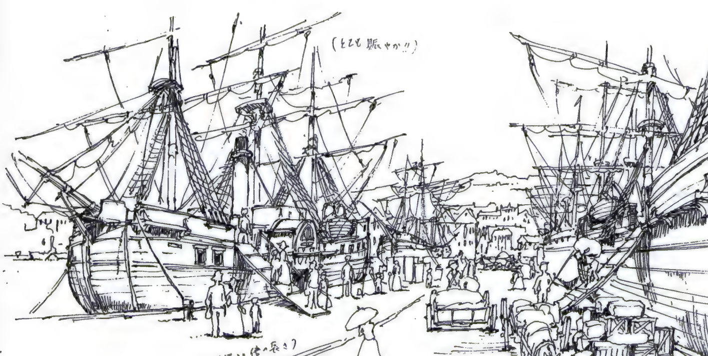


最終回のサプライズ！
エミリーが登場。





最終回のフローネ
達の服。



ラストシーンで、イギ
リスに旅立つエミリー
やモートンさん達を見
送るメルボルン港の桟
橋。

イギリス行きの船に乗るモートン
とタムタム、エミリーの服装。



ストーリー紹介　49～50話

49話　陸が見える！
航海は順調に滑り出す。フローネ達も元気いっぱい。しかし島を出て2週間を過ぎた頃から船はぱったり動かなくなった。そしてとうとう水がなくなる。

50話　また会う日まで
フローネ達は無事オーストラリアへ着いた。汽車でメルボルンへ行くと、エルンストがこれから勤める病院を訪ねる。そこで思いもかけない人と出会う。

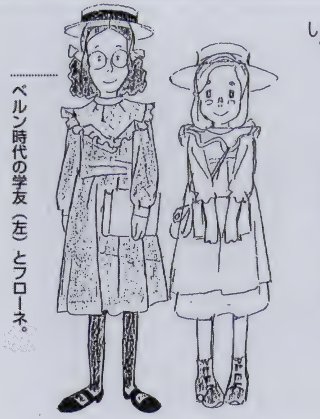
かわいいフローネ

本編の中で、兄フランツから「ブス」と言われ、父からも「人間は姿形ではない」とフォローにならないフォローをされるフローネ。

このフローネの容姿は、実は当時企画段階から指摘されていたらしい。キャラクターデザインの関修一氏の絵に、スポンサーなどから「もうすこし美人に」と注文がついたという。しかし設定画を見てほしい。いわゆる〝美人〟ではないかもしれないが、なんともチャーミングな女の子ではないか？

「ただかわいいだけじゃなくて、人間の臭いのするようなかわいさ」を表現したかったという関氏。担当プロデューサーが懸命にフォローして、デザインを通してくれたという。

関氏のオリジナルのかわいらしさが再現されたかどうかは、本編を観て感じ取ってもらいたい。



ベルン時代の学友（左）とフローネ。

『フローネ』の時代設定はいつ？

原作の設定はウィースが話を作った1800年前後である。

だが、アニメの設定はそんなに古い時代ではないようだ。監督の黒田氏は「感覚として理解できるのはせいぜい100年前まで」という考えから、『フローネ』の時代はおおよそ100年前に設定。つまり1880年代とみてよいだろう。

1. 郵便車の自転車の形
アニメの前輪後輪が同じ大きさで、ペダルがあるタイプの自転車が登場するのは1880年以降。

2. 友人に「オーストラリアに行く」と吹聴するフローネ
オーストラリアの名前は1814年に、探検家フリンダースが命名。

3.「オーストラリアはイギリスの植民地」と楽器屋に言われるフランツ
1829年イギリスが公式に領有宣言。オーストラリアは1901年にイギリスから独立。

4. ルイーゼ・コップがローレライを歌う
ローレライは、1838 年に作曲された。

5. 航海に要した日数
イギリスから喜望峰を回ってインドに到達した初めての汽船は1825年。イギリス → オーストラリア間は1860年頃には4ヶ月かかった。同航路を1873年には2ヶ月で到達（当時の最速記録）。アニメでは1～2ヶ月ほどでイギリスからオーストラリア付近まできている。

6. 蒸気船に乗船
蒸気船は1783年に実用化に成功。1830～1860にピーク。ただ1880年以降は衰退へ。

7.「スイスの隣の国は？」の問いに「ドイツ」と答えるフローネ
ドイツ統一は1871年。それまではドイツという国名は存在しない。

8. 一家はシドニーからメルボルンまで鉄道乗車
シドニー → メルボルン間の開通は1883年。

9. 大都会になったメルボルンに住む
1835年に最初の移住。メルボルンと命名されたのは1837年。都市化が進んだのは1850年代のゴールドラッシュ以降。



フローネたちがベルンから乗った舷側式外輪の蒸気船。



レンガのビルが建ち並ぶメルボルン市内の設定。

原作について

アニメと原作とはかなり内容が異なっている。

原作は男ばかりの４人兄弟。ウィースが自分の息子たちを主役にした寝物語が元になっているため、ペンギン、カンガルー、ダチョウ、ゾウなど、赤道近くの孤島にいるはずもない動物が次々に出てきているのも特徴。博物学的な内容も手伝って、当時の子供たちに絶大な人気を誇った。１８１２年に出版後も翻訳者や編集者らによって大幅に加筆された。１９６０年にディズニーにより実写映画化（邦題『南海漂流』）もしている。



『スイスのロビンソン』上・下
訳　：宇多五郎
発行：岩波書店
（絶版）

〈原作者〉

ヨハン・ダビット・ウィース
1742－1818

スイス、ベルン生まれ。ベルン大学で神学を学び、軍隊つきの牧師として従軍。代表作『スイスのロビンソン』は、彼の4人の息子のために創作した物語で、彼自身は本にすることを考えていなかったが、息子のヨハン・ルドルフ・ウィースが編集して出版。このヨハン・ルドルフは、旧スイス国歌の作詞者でもある。

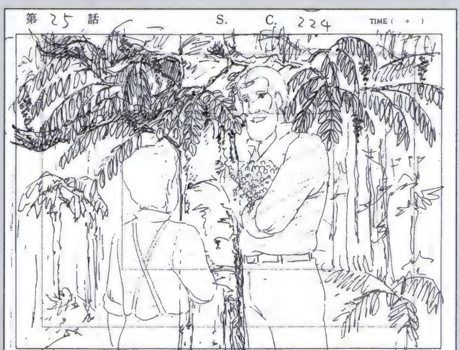
◉実話だったフローネ

『スイスのロビンソン』はウィースが聞いたあるロシア人の船長の報告が元になって生まれた。それによればニューギニア島からあまり遠くないところにある一群の豊沃な島に、スイス人の牧師一家が漂着して暮らしていたのだという。彼らは1798年にフランス軍のスイス侵攻で財産を無くし、海外伝導に旅立つが、難破してその島に漂着したのだそうだ。もちろん実話。その後その一家はどうなったのだろうか？

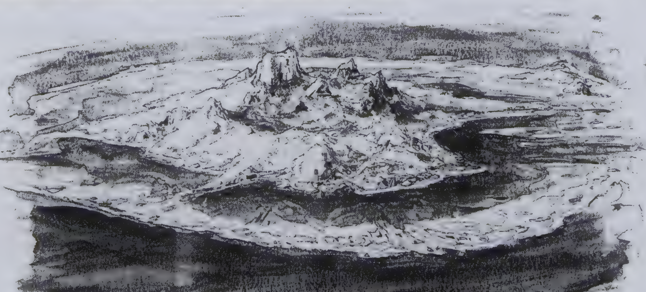
『フローネ』の島はどこにある？

フローネたちが漂着した島。それはいったいどこだろう？　アニメの中で、船乗りモートンが「東経155度　南緯10度、120マイル四方に陸地はない」と、島の位置をメモしていることから、ニューギニア島とソロモン諸島の間の海域だとわかる。メルボルンを目指していたはずの船は、嵐の為に大きく逸れて東へ進んだようだ。

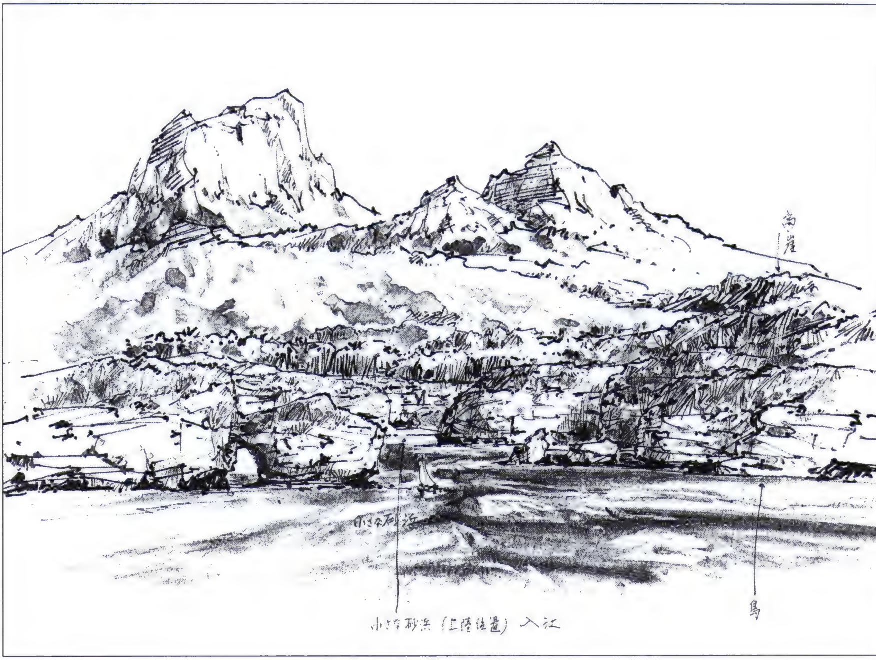
※別の台詞で東経115度ともあるが、155度の間違いであると思われる。



『ふしぎな島フローネ』のレイアウトより（25話）。



孤島は珊瑚礁に囲まれた火山島だった。



海から見た無人島／井岡雅宏

メインスタッフ

脚本	松田昭三
音楽	坂田晃一
レイアウト	坂井俊一
キャラクターデザイン	関修一
絵コンテ	黒田昌郎／奥田誠治／斎藤　博／楠葉宏三／桜井美知代／横田和善　ほか
作画監督	岡豊／前田英美／村田耕一／桜井美知代／森友典子
美術監督	井岡雅宏
撮影監督	黒木敬七
録音監督	小松亘弘
プロデューサー	松土隆二
監督	黒田昌郎

オープニングテーマ「裸足のフローネ」
作詞・作曲：井上かつお
編曲：青木望
歌：潘恵子

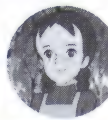
エンディングテーマ「フローネの夢」
作詞・作曲：井上かつお
編曲：青木望
歌：潘恵子

赤毛のアン

Anne of Green Gables



赤毛のアン



放映期間	1979/01/07〜1979/12/30
話数	50話
原作	ルーシー・モード・モンゴメリ「赤毛のアン」
備考	79年厚生省児童福祉文化賞受賞

物語の舞台





カナダ東部。アトランティックカナダと呼ばれる地域。その形から"波間のゆりかごの島"と別名を持つプリンスエドワード島が物語の舞台。

History

20世紀を間近に控えたカナダの農村。家事や労働がまだ人の手と技だけを頼りに行われていた最後の時代である。

ストーリー解説

グリーンゲイブルズに住むマリラとマシュウの兄妹は、農作業の手伝いのために孤児院から男の子をもらう手はずを整えていた。ところが駅で待っていたのは赤い髪の少女アン・シャーリーだった…。

すぐに送り返されるはずのアンを真っ先に気に入ったのは、女性や子供の前で口もきけないほどはにかみ屋だったマシュウ。果てしない想像やおしゃべりにふけるものの、なんとも抗しがたい魅力に満ちた少女アンを、いつしかマリラも好きになっていた。月日は流れ、やがてマシュウとマリラにとってアンは大切な存在となっていく。そしてアン自身も少女から大人へ美しく成長する。

美しいプリンスエドワード島の自然を背景に、カスバート家の愛情に包まれて花開くアンと、アンを巡る人々を描いた、監督である高畑勲氏の最高傑作のひとつ。

1886〜1902年

1886年3月23日
- アン誕生

1897年(11歳)

6月
- アン、カスバート家へ

8月
- 紫水晶のブローチ事件

9月
- 石板事件

10月
- イチゴ水事件

1898年(12歳)

1月
- ミニー・メイ喉頭炎

8月
- アン骨折

9月
- ステイシー先生着任

12月
- クリスマスコンサート

1899年(13歳)

3月
- 物語クラブ発足

4月
- 緑の髪事件

7月
- 白百合姫事件

11月
- クイーン組編成

1900年(14歳)

秋
- 物語クラブ解散

1901年(15歳)

6月
- ステイシー先生退任

7月
- クイーン学院入試

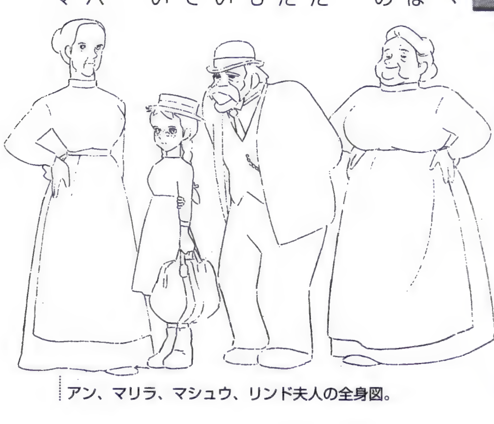
9月
クイーン学院入学

1902年(16歳)

6月
- クイーン学院卒業、
- エイヴォリー奨学金授与
- マシュウ亡くなる

9月
- アン、アボンリーで教職

19C
1825 蒸気機関車実用化(英)
1837 ビクトリア女王即位(英)
1861 アメリカ南北戦争(〜1865)(米)
1867 カナダ自治領成立
1868 明治維新(日)
1873 プリンスエドワード島、カナダ連邦の州となる
20C
1903 ライト兄弟飛行機を発明(米)
1914 第1次世界大戦(〜1918)
1929 世界恐慌
1939 第2次世界大戦(〜1945)
1968 プリンスエドワード島最後の旅客鉄道廃止
1969 アポロ11号月面着陸(米)
21C



アン、マリラ、マシュウ、リンド夫人の全身図。

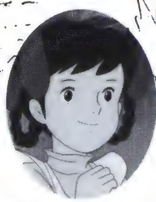
グリーンゲイブルズ（正面）。



キャラクター紹介



ギルバート・ブライス
明朗でクラスの人気者。アンのライバル。



ダイアナ・バリー
カスバート家の隣に住む少女。アンの心の友となる。



マシュウ・カスバート
マリラの兄。極度のはにかみ屋で60歳になっても独身でいる。

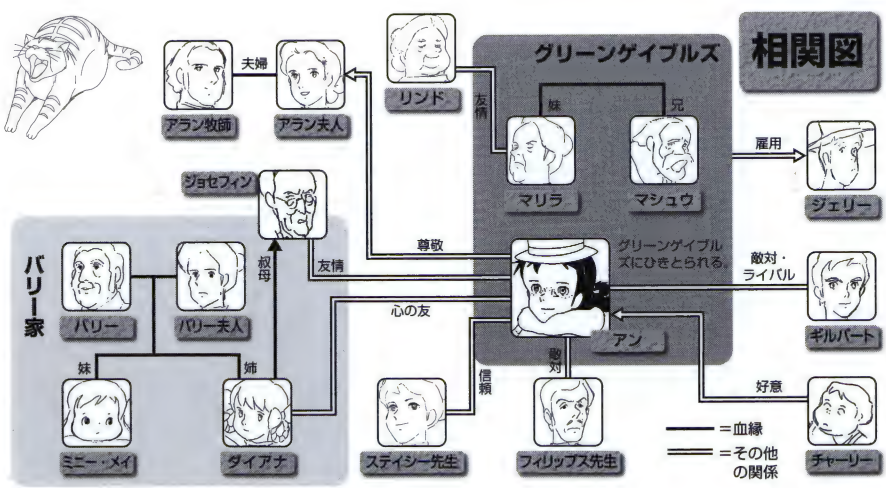


マリラ・カスバート
率直で間違ったことを嫌うが情には厚い。兄とふたり暮らし。



アン・シャーリー
想像力豊かな赤毛の少女。グリーンゲイブルズに来たときは11歳。

相関図







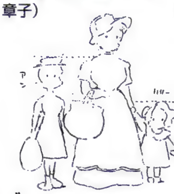


アン・シャーリー
やせっぽちで、そばかすだらけ。しかし夢見る大きな瞳と考え深そうな広い額を持つ。人とは違う何かを予感させる魅力的なデザインだ。（声：山田栄子）

ブライトリバー駅に降りたアンは、迎えに来るはずの誰かを待っていた。




スペンサー夫人
アンを孤児院から連れてきた夫人。カスバート家の依頼を受けて"女の子"を連れてきてしまう。（声：坪井章子）

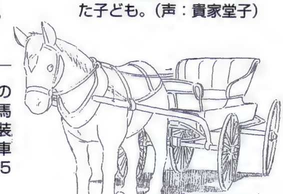
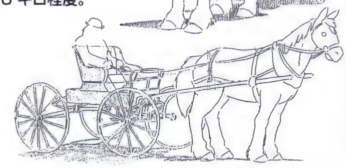



リリー・ジョーンズ
スペンサー家の養女として、孤児院から引き取られた子ども。（声：貴家堂子）




ブライトリバー駅長
駅で待つアンの印象をおぼろげながら後年も忘れない。（声：塩見竜介）

マシュウの外出着姿。時計が止まっているのに気づかず、すっかり迎えが遅くなってしまう。

カスバート家の一頭立ての二輪馬車。当時の未舗装の道路だと、馬車の速度は時速15～6キロ程度。

マシュウの掛け声「ギタップ」は「get up」。馬への掛け声で、"行け、進め"の意味。

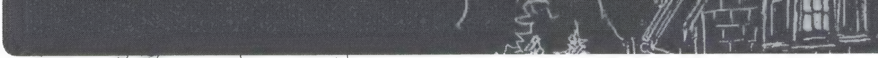
ストーリー紹介 1～4章

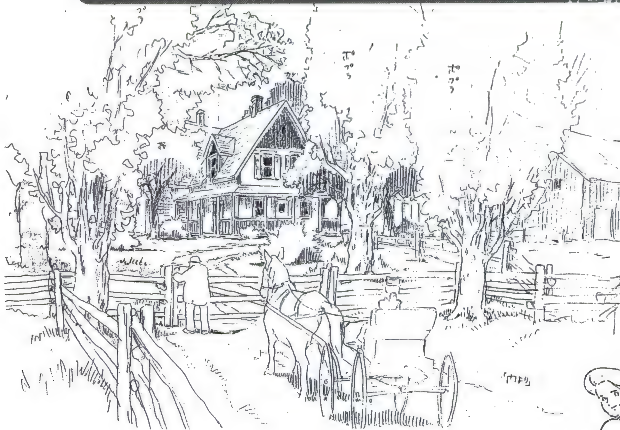
1章 マシュウ・カスバート驚く
マシュウは孤児院から来る男の子を迎えに、駅に向かっていた。ところがそこで待っていたのは、赤い髪をした女の子。少女はマシュウを見つけると、嬉しそうに声をかけてきた。

2章 マリラ・カスバート驚く
マシュウは自分でも驚くほど少女のおしゃべりに聞き入っていた。しかし家に着き、マリラから、間違いだったと知らされた少女は身を震わせて泣き伏す。

3章 グリーン・ゲイブルズの朝
次の日、アンはしばし悲しみを忘れて朝の美しさに魅了されていた。しかしこの午後、アンはこの家を去るのだ。マシュウもそのことで胸を痛めていた。

4章 アン・生い立ちを語る
アンを帰すため、マリラはスペンサー夫人に事情を聞きに行く。道中マリラはアンに生い立ちを尋ねた。ようやくアンは重い口を開き辛い過去を語った。

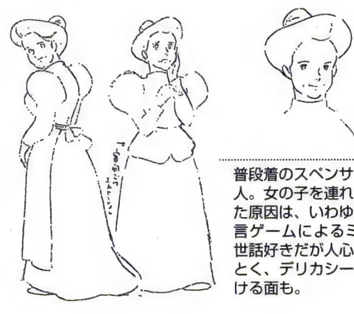




フローラ・ジェーン
スペンサー夫人の娘。ミニー・メイとすぐ打ち解ける素直で優しげな少女。（声：吉田理保子）



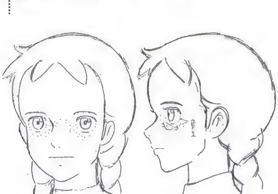
グリーンゲイブルズの門。マシュウがたたずむ3章のラストシーンが印象的。



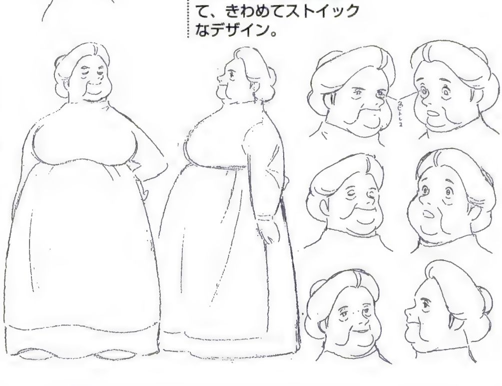
普段着のスペンサー夫人。女の子を連れてきた原因は、いわゆる伝言ゲームによるミス。世話好きだが人心にうとく、デリカシーに欠ける面も。



教会に行くアンの服。マリラの考え方を反映して、きわめてストイックなデザイン。



形のいいあごと鼻、広い額。アンの強い個性がよく表現されている。



レイチェル・リンド
グリーンゲイブルズの隣に住む夫人。マリラと性格は正反対ながら古くからの友人。何事にも一家言を持ち手厳しいが、基本は保守的でお人好し。10人の子供を育てた自信から、マリラの育児指導？に当たる。（声：麻生美代子）



ブリュエット夫人
一見老婆だが、赤ん坊がいる。大家族なため、手伝いの女の子を欲しがっている。その冷酷そうな容貌はアンを震え上がらせた。（声：京田尚子）

ストーリー紹介 5〜8章

5章 マリラ決心する

アンの新しい引き取り手として紹介されたブリュエット夫人は冷酷そうな人だった。マリラは、悲痛にゆがむアンの顔を見るうち、アンを連れて帰ろうと決意する。

6章 グリーン・ゲイブルズのアン

再びグリーンゲイブルズに戻ったアンを見て、何より喜んだのはマシュウだった。しかしマリラは不安そうなアンに、引き取ることにしたと告げずにいた。

7章 レイチェル夫人恐れをなす

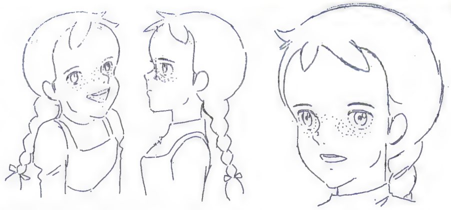
グリーンゲイブルズに訪ねてきたリンド夫人は、アンの器量を遠慮なく講評した。怒りを爆発させたアンに、マリラは部屋で反省するよう言いつける。

8章 アン 日曜学校へ行く

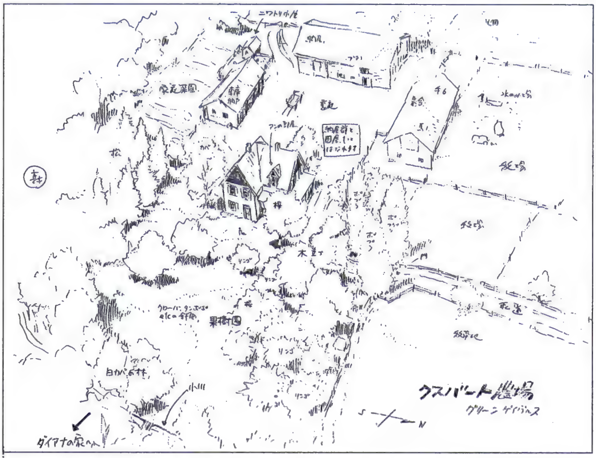
マリラが用意した服は、アンの期待を大いにしぼませた。頭痛がするマリラに、ひとりで教会に行くようにいわれたアンは、野の花や草で帽子を飾ることを思いつく。

アンとグリーンゲイブルズ

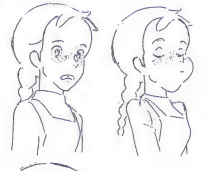
アン・シャーリーの両親は、彼女が生後3ヶ月の時に相次いで熱病で死んでしまう。その時点で誰もアンを引き取りたがらなかったという。以後、アンはトマスのおばさん、ハモンドのおばさんの家を経て、孤児院へ。大きな木に囲まれ、小川のある家、グリーンゲイブルズ（緑の切り妻屋根）は、アンにとって初めて持つ“自分の家”であった。



グリーンゲイブルズに来た頃の11歳のアン。



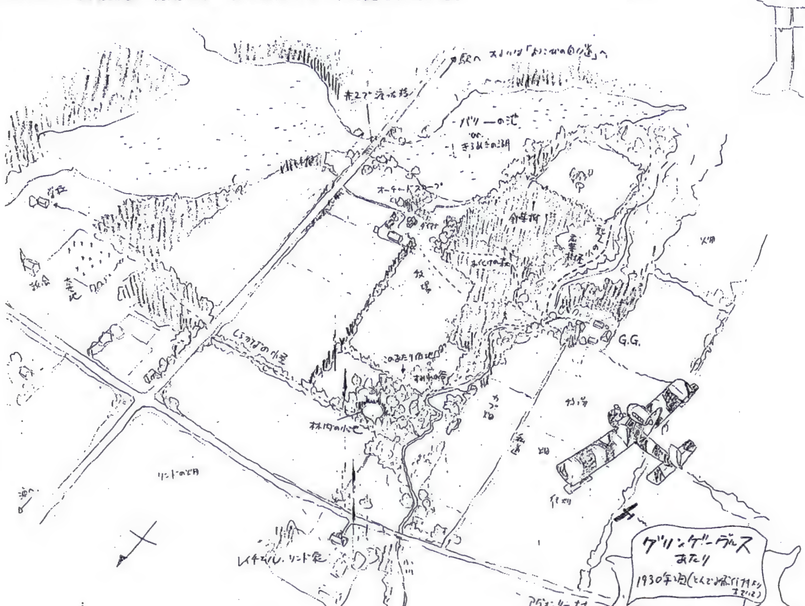
カスバート農場全景。初期のボードではクスバートと記されている。







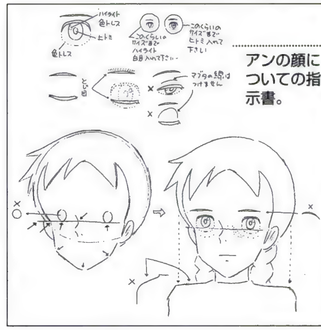
アンはお気に入りの木々や風景に、ふさわしい名前を考え出すのが好きだった。



グリーンゲイブルズ周辺図。リンド夫人の家とダイアナの家、学校などの位置関係が分かる。方位もこれで明確にされ、背景や演出に欠かせない太陽の方向や影はこれを元に組み立てられる。



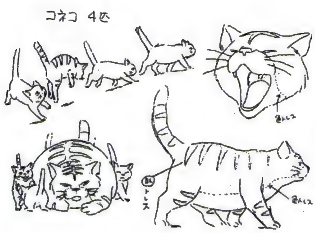
マリラ・カスバート
兄とふたりでグリーンゲイブルズを守っている。長年使わなかった愛情表現は“さび付いて”いるものの、マシュウに劣らずアンを愛す。実直でしっかり者。頭痛持ち。（声：北原文枝）



アンの顔についての指示書。

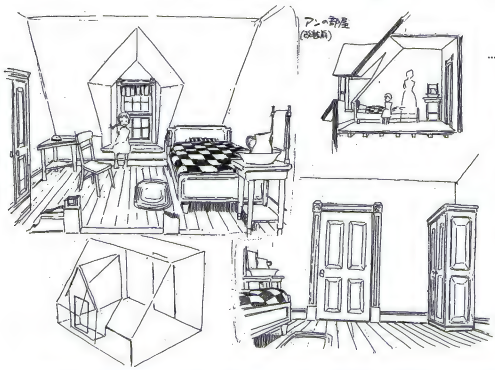
マシュウ・カスバート
極度のはにかみ屋が元で、この年まで独身。寡黙だが一度言い出したら後に引かない。口癖は「そうさのう」。（声：槐柳二）





グリーンゲイブルズの猫一家。話の中でアクセント的に登場。物語に絡まないが、存在感あり。





アンの部屋。白塗りの壁、三角の小さな机と椅子、洗面台の他、何の飾りもない。掛け布団はパッチワークが施されている。



10章以降のアンとダイアナのエプロン姿。アンのそれは質素で実用一点張り。

ストーリー紹介 9～12章

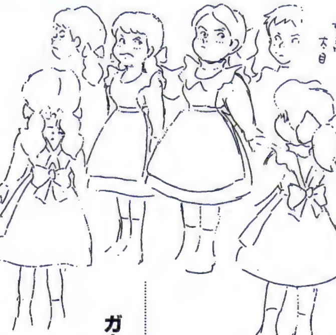
9章 おごそかな誓い
隣のバリー家に挨拶に行くと聞いて、緊張するアン。アンはそこに住む同じ歳の少女ダイアナと、互いに心の友となる誓いを立てる。アンは幸せだった。

10章 アン・心の友と遊ぶ
生まれて初めて想像ではない友達を持ったアン。アンとダイアナは白樺の木立をアイドルワイルドと名付け、忘れられない楽しい一日を過ごす。

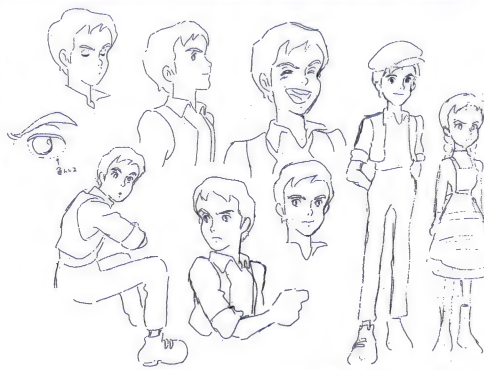
11章 マリラ・ブローチをなくす
明日の日曜学校のピクニックに胸を弾ませるアン。ところがブローチを紛失したマリラはアンの仕業と疑い、アンに部屋から出てはならないと言い渡す。

12章 アン・告白する
翌日アンは、ある決心をしてマリラにブローチを取ったと告白する。しかし話を聞いたマリラは、余計に腹を立ててピクニックを禁止し、アンを絶望させる。





ジョーシー・パイ
何でも皮肉を付け加えるのを忘れない。金持ちでかなりのうぬぼれ屋。体のバランスを取る才能がある。（声：堀絢子）



ギルバート・ブライス
アンより2歳年上。4年前に病気の父とアルバータ州へ行き、昨年島に戻る。教科書もまだアンと同じ4の巻。
（声：井上和彦）

ガーティ・パイ
石筆をキーキーいわせる。
（声：間嶋里美）

パイ家の存在理由は「アザミの効用」といったところか。

ルビー・ギリス
美人でおしゃれ。男の子には大いに関心あり。ややヒステリックな性質で、気が高ぶると泣きだす。（声：小山まみ、高阪真琴）



ソフィア・スローン
アンの友達。正直者スローン家の一員。
（声：つるたきみこ）



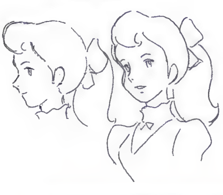




ジェーン・アンドリューズ
しっかり者で現実派。家庭科が得意コンサートでは妖精の女王役を射止める。（声：高木早苗）

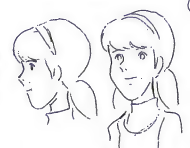
ミニー・アンドリュース
アンのクラスの模範生。まじめでおとなしい。一時期アンは隣の席に。

プリシー・アンドリュース
クイーン受験組の最上級生。
（声：江川菜子）





テディ・フィリップス
リンドにいわせれば教師としては失格。原作によると理事の叔父のコネで、特別に任期を延長させたという。理由はプリシー。職権乱用である。（声：清川元夢）



テリー・ボールダー
アンの友達。アンにフィリップよけのおまじないの指輪を貸してくれる。（声：川島千代子、向殿あさみ）



サム・スローン
討論会で“滑稽もの”を演じ、アンに大いに受ける。

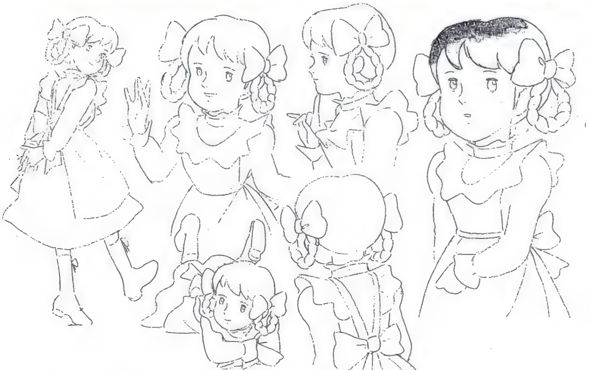
ストーリー紹介 13～16章

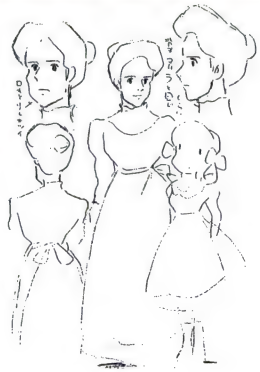
13章 アン・学校へ行く
新学期、アンはダイアナからクラスメートに紹介してもらい、皆とすぐに打ち解けた。しかし担任のフィリップス先生とはどうも馬が合いそうになかった。

14章 教室騒動
3週遅れでギルバートが学校に戻ってきた。女の子をからかうギルバート。そしてアンにも「にんじん」とささやいた。それを聞くやアンは激高する。

15章 秋の訪れ
ギルバートとの件でフィリップス先生の仕打ちから学校に戻らないと決意したアン。ダイアナは毎日アンを訪ね、学校での様子を話して聞かせるのだった。

16章 ダイアナをお茶に招く
マリラから留守中ダイアナをお茶に招く許可をもらい、アンは大喜び。心を込めてダイアナを迎えるが、イチゴ水だと思って振るまったのはぶどう酒だった。



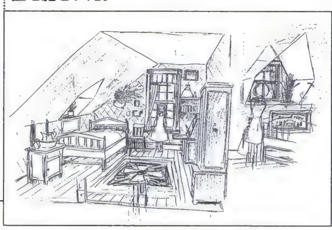


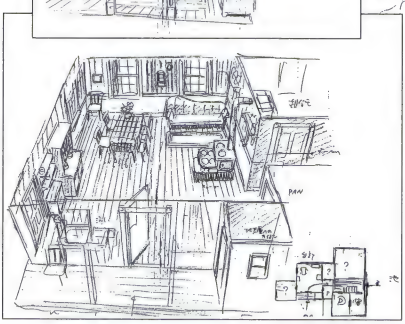
バリー夫人
ダイアナの母。頑固さにかけてはマリラ以上で、教育熱心で評判。黒髪の美人だがキツイ性格であるが…。（声：武藤礼子、中谷ゆみ）

ダイアナ・バリー
グリーンゲイブルズの隣に住むアンと同じ歳の黒髪の少女。アンの心の友となる。読書家でアンと同様、物語が好きだが現実家で想像力は今イチ。歌が上手く服のセンスには定評がある。（声：高島雅羅）



バリー家遠望。





バリー家の台所（下）とダイアナの部屋(上) 18章で、ミニー・メイは台所のソファで寝かされて、アンに応急処置を施された。



ミニー・メイ
初登場時3歳のダイアナの妹。ほっぺたが落ちそうな可愛い子。（声：小山まみ）



メアリー・ジョー
バリー家のお手伝い。フランス人。（声：中谷ゆみ）

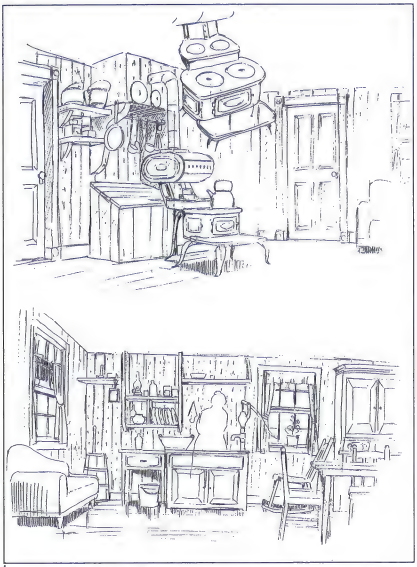
ストーリー紹介 17～20章

17章 アン、学校に戻る
ダイアナを酔わせたことでバリー夫人はダイアナにアンと遊ぶのを禁じた。アンはせめてダイアナの近くにいようと、学校へ戻る決意をする。

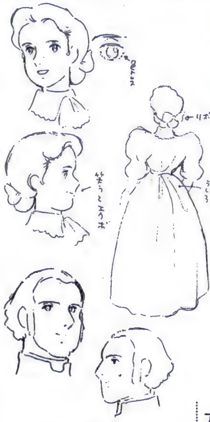
18章 アン、ミニー・メイを救う
マリラがシャーロットタウンに出かけた日の晩、グリーンゲイブルズにダイアナが飛び込んできた。ミニー・メイが喉頭炎にかかったらしいというのだ。

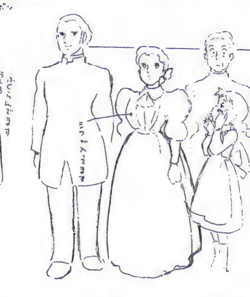
19章 ダイアナの誕生日
ダイアナの誕生日にバリー家へお泊まりの招待を受けたアン。夜の討論会へも、マシュウの後押しで行けることになり、アンは至福の喜びに包まれる。

20章 再び春が来て
アンがグリーンゲイブルズに来て一年目。その日アンは学校を休みふたりへ感謝を込めて家事をする。やがて気づいたマリラにも去年のことが胸に去来する。



カスバート家の台所。大きなオーブンが置かれ、水回りにはポンプがある。アン達は一日のほとんどこの部屋で過ごす。





アラン夫人
パフスリーブでアンを感激させる。以後アンの相談相手となる。えくぼが愛らしい。（声：江川菜子）

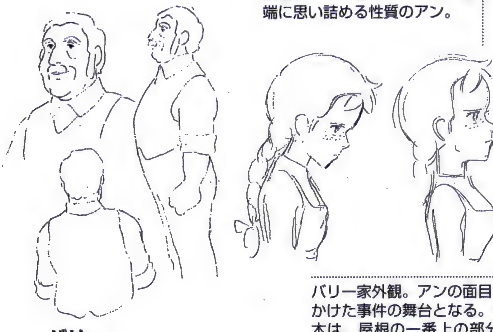
アラン牧師
（声：曽我部和行）

アボンリーに新しく着任した牧師夫妻。若く情熱的な牧師と、優しく思慮に満ちた美しい夫人。アンのみならず、村中の関心の的となる。

ロレッタ・ブラッドリー
ホワイトサンドの日曜学校の生徒。アンとともにアラン夫人に招かれた。
（声：松岡洋子）



愛情にしても怒りにしても、極端に思い詰める性質のアン。



バリー
ダイアナの父。カスバート家同様、農業を営む。（声：依田英助）



バリー家外観。アンの面目をかけた事件の舞台となる。棟木は、屋根の一番上の部分。バリー家の急斜面の切り妻を見ると、よくアンが足の怪我だけですんだといえる。

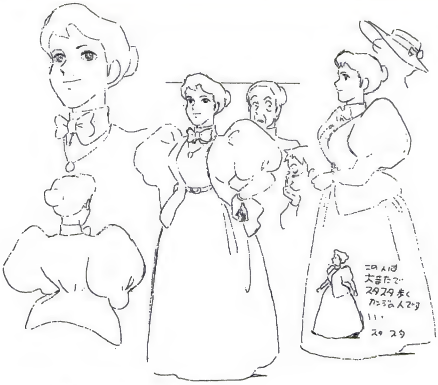
ストーリー紹介 21～24章

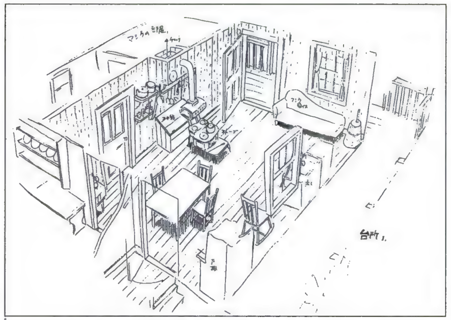
21章 新しい牧師夫妻
6月最後の日、フィリップス先生の退任に、心ならずもアン達女生徒は涙に暮れた。その帰り道、アンはアボンリーに新しく着任した牧師夫妻に出会う。

22章 香料ちがい
アラン牧師夫妻をお茶に招くことになったカスバート家は、その準備に余念がなかった。アンもレアケーキでもてなすべく風邪をおして、腕をふるうが……。

23章 アン お茶によばれる
アラン夫人からお茶に呼ばれたアンは、心配された天気も晴れ、天にも昇る気持ちで牧師館に向かった。アラン夫人とのお茶を、アンは心から楽しむ。

24章 面目をかけた大事件
今、アン達の間では、命令ごっこが流行っていた。「棟木の上を歩け」というジョーシーの命令を受けてたったアンは、バリー家の屋根に立った。





カスバート家台所、ふかん俯瞰図。家の者や親しい友人らは普段台所から出入りする。ソファはマシュウのお気に入りの場所。

ミュウリエル・ステイシー
フィリップス先生の後任で、アボンリー小学校初の女性教師。アボンリーで誰よりも大きく優雅な袖の持ち主。進歩的で快活、生徒のよいところを引き出す授業は、たちどころにアン及び、クラス中を魅了する。（声：鈴木弘子）

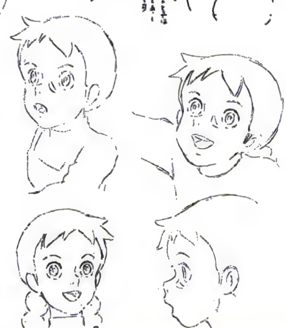
ハリス
サミュエル・ローソンの店の"魅惑的"な店員。主人のサムの応対を期待して入ったマシュウは恐怖に落とされるが、後に克服した模様。サムの妻の姪。
（声：松尾佳子）





クリスマスプレゼントとしてマシュウが用意した、ふくらんだ袖の服を着たアン。生地はアンには濃茶（リンド談）ということで選ばれた。仕立てもリンド夫人。





12歳の頃のアン。引き取られた頃の硬い線はとれ、充実した毎日を示すように、表情も丸く豊かになってきている。

ストーリー紹介 26〜28章

25章 ダイアナへの手紙
新学期が始まった。アンの足の治療は時間を要し、床につく日々を余儀なくされていた。ところがふいにダイアナの見舞いが途絶え、アンは不安になる。

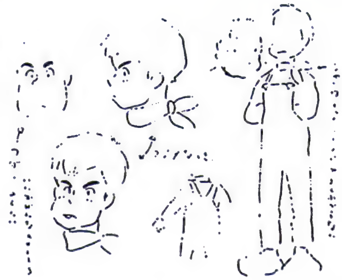
26章 コンサートの計画
新しい担任のステイシー先生は、明るくはつらつとした女性で、アンをすっかり魅了させた。ステイシー先生は生徒にコンサートを開く提案する。

27章 マシュウとふくらんだ袖
アン達はコンサートの出し物の練習で大忙し。ある日マシュウは家に来ていたアンの友達を見て、何かがアンと違うと気づく。それはアンの地味な服装だった。

28章 クリスマスのコンサート
コンサートは大盛況だった。思いがけずマリラとマシュウの出席を受け、マシュウから贈られた服を着けた幸せのアンは、想いを込めて朗読を発表する。



トミー・スローン
フィリップスの元では単なるいたずら少年。しかしステイシーの授業で花開き昆虫の研究が認められた。（声：門谷美佐）



ムーディ・スパージョン
ダイアナとの仲を噂されるが、ダイアナは興味なしの様子。クイーン組で将来の夢は牧師。緊張したときは九九を唱えると落ち着くらしい。（声：塩屋翼）



アリス・ベル（左）とジュリア・ベル（右）。ともにベル一族。コンサート後はスローン家と対立。名字を見るとおり、生徒達はいずれも村社会らしく親戚関係同士だったりする。



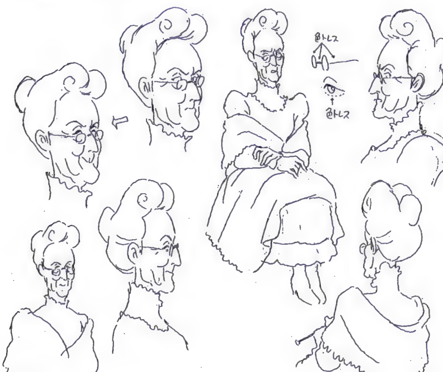
哀れにも緑に染まったアンの髪の毛。これはその色指定表。



エラメイ・スパージョン
兄ムーディVS チャーリーの争いに妹として加勢し、冬中アンと口をきかなかった。



チャーリー・スローン
出会った頃からアンに熱を上げている。でもアン曰く「ぎょろ目の男なんて我慢できない」。同じくクイーン組で、夢は政治家。（声：青木和代）



ミス・ジョセフィン・バリー
シャーロットタウン郊外に屋敷（通称、ブナ屋敷）を構える資産家で、年齢は70歳。ダイアナの叔母で音楽レッスン費の提供者。アンを気に入り、よき友人となる。（声：川路夏子）



シャーロットタウンの博覧会で行われた馬車競馬。一番熱狂したのは10セント賭けたダイアナだった。博覧会は実際1888年より、現在も行われているイベントで、競馬や農産物品評会をはじめ、様々な出し物が目白押し。

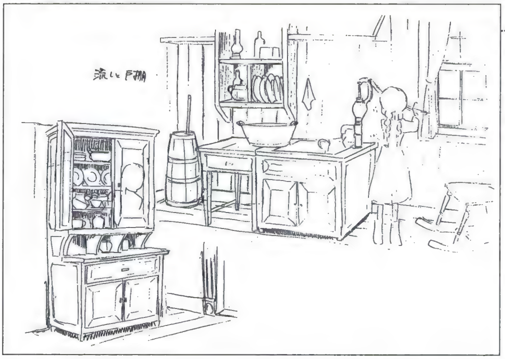
ストーリー紹介 29～32章

29章 アン、物語クラブを作る
コンサートの興奮が冷めやらぬアンは、自分でロマンス物語を作ってすっかり夢中になっていた。やがてアンを中心に物語クラブが発足する。

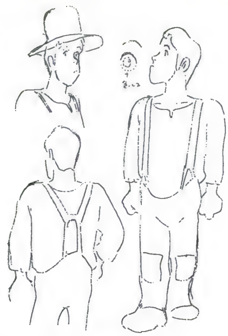
30章 虚栄と心痛
ある日アンは行商人から髪染めを買う。黒髪になる自分を思い描き、ときめくアンだったが、現れたのは緑色の髪。アンは泣く泣く髪を切ることにする。

31章 不運な白百合姫
湖で白百合姫の物語を演じようと提案するアン。ダイアナ達はさっそく小舟にアンを横たえ、向こうの岸で待つが、アンの船は途中で沈み始めた。

32章 生涯の一大事
ジョセフィン叔母さんにシャーロットタウンに招待されたアンは、博覧会やコンサート、憧れの客間でのお泊まりという、夢のような時間を過ごす。



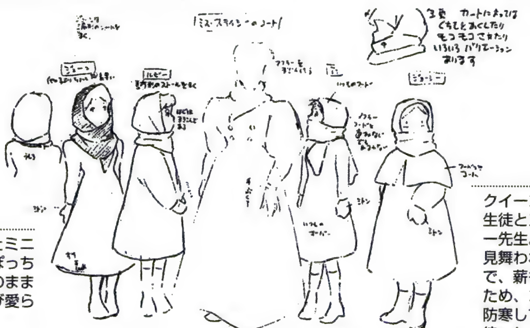
グリーンゲイブルズの台所。きちんとすることを旨としたマリラの指導は徹底している。学校から帰るとすぐミルクの瓶を洗うこと。皿洗いが済んだら、付近を熱湯で消毒することなど、決められた日課があった。



ジェリー・ブート
フランス人の青年。マシュウの手伝いで夏の間雇われる。（声：田中亮一）



6歳になったミニー・メイ。ぽっちゃり顔はそのままに、背も伸び愛らしく成長。



クイーン組の女生徒とステイシー先生。吹雪に見舞われた教室で、薪も尽きたため、コートで防寒して助けを待った。34章。



ミニー・メイの新学期のスタイル。布製のバッグの中身はお弁当とミルク！



吹雪の中へ助けを呼びに行くクイーン組の男子生徒。チャーリーがギルバートに「アンとペアルック」と突っ込んでいる。

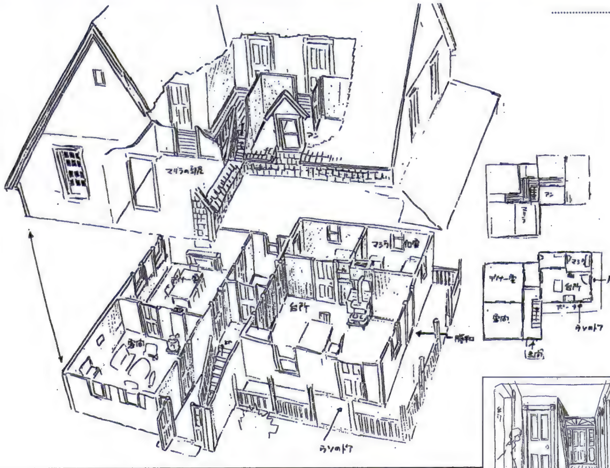
ストーリー紹介 33～36章

33章 クイーン組の呼びかけ
ある日ダイアナと些細なことで行き違ったアンは、ひょんなことから毒リンゴを食べたと思い込み、死を覚悟する。そしてダイアナへ涙ながらに手紙を綴る。

34章 ダイアナとクイーン組の仲間
クイーン学院への進学を決め、希望にふくらむアン。だが、ダイアナは進学しないことを決めていた。それを聞いたアンはショックを受け、ダイアナに理由を聞くが……。

35章 夏休み前の思わく
夏休み。アンは思い切って教科書を仕舞い、ダイアナと思う存分楽しく過ごそうと決める。一方、アンの知らぬ間にマシュウは発作を起こし倒れてしまう。

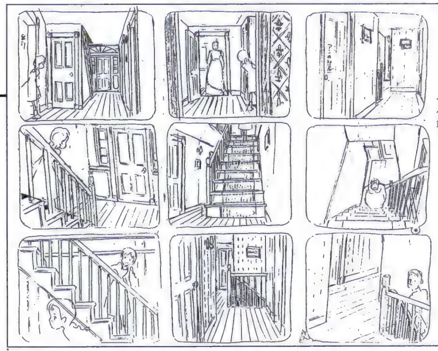
36章 物語クラブのゆくえ
新学期になり、クイーン組では受験勉強が本格化してきた。物語クラブの日、ダイアナの到着を待つアンに、ルビーはクラブの存続に疑問を投げかける。



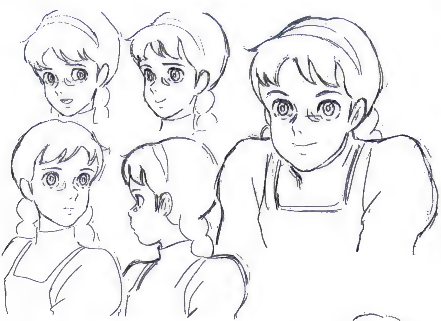
グリーンゲイブルズの見取り図。



37章の冒頭に登場する少女。あの日のアンと同じようにブライトリバーの駅でひとり誰かを待つ姿は、駅長に何かを思い出させる。



グリーンゲイブルズ内部。様々な角度から玄関、階段付近を見たところ。



15歳になったアン。少女はある日突然殻を破る。この春のアンがそうだ。一気に背が伸び、大人びた雰囲気を漂わせる。だがマリラは美しく成長していくアンに、昔の面影を重ね、奇妙な落胆を感じていた。



アン同様、ダイアナの等身も大きく変更されている。



受験時のアンの服の色指定。英数字は色の番号である。濃い青に白襟という、清楚な印象だ。

ストーリー紹介 37～40章

37章 15歳の春

この春、カーモディまで支線が伸びることになった。アンがカスバート家に来て4年。マリラは急に大人びてきたアンに、奇妙な寂しさを覚えるのだった。

38章 受験番号は13番

6月も終わり、試験はもう目前。十分準備をしたものの、アンはすっかり自信を失っていた。当日ステイシー先生につき添われ、アン達は試験に臨む。

39章 合格発表

新聞に掲載される合格発表は、なぜか予定の2週間を過ぎてもなく、アン達受験生の不安をあおった。焦燥感に駆られたアンはアラン夫人のところへ行く。

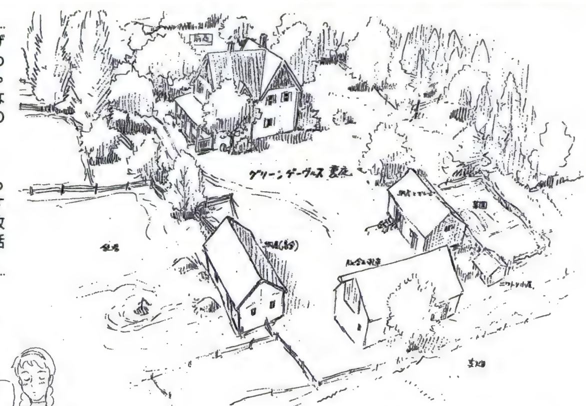
40章 ホテルのコンサート

島で一番で合格したアンは、生涯でもっとも解放された夏休みを送っていた。そんなアンに、ホテルでのチャリティコンサートに出演依頼が来る。



「以前ほど大げさな言葉を使わないし、おしゃべりもしなくなった」15歳のアン。

マリラに代わって家事もこなすアン。昔の失敗も今は思い出話になっていた。

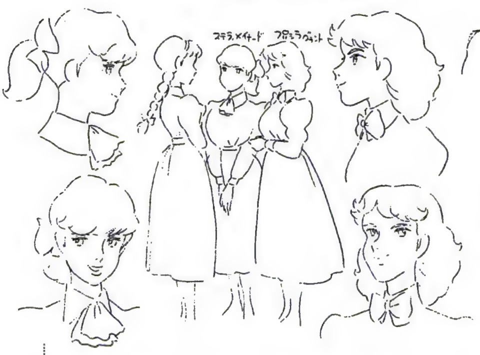


グリーンゲイブルズ裏庭と納屋。カスバート家は、ニワトリ、豚、牛を飼育している。



“ギルとその一味”と題された設定画。37話以降のクイーン組男子の等身や服装の指定だが、なぜかアンは“一味”に連なり、ギルバートの隣に陣取っている。





クイーン学院で知り合ったアンの新しい友、ステラ・メイナード（左）（声：松原雅子）とプリシラ・グラント(右)。

こちらは“花のエプロン軍団”と題された、アン達女子のクイーン受験の頃のコスチューム設定。全体に等身が小さく、年頃の少女らしく衣服も華やぎが加味されている。

ストーリー紹介 41〜44章

41章 クイーン学園への旅立ち

アンの入学準備が進むカスバート家に、ひょっこりスペンサー夫人が訪ねてきた。夫人は、アンを養子にというアメリカの富豪の申し出を持ってきたのだ。

42章 新しい学園生活

アンはマシュウとシャーロットタウンに向かった。マシュウと別れ、下宿でひとりになったアン、そしてアボンリーのマリラとマシュウも、寂しさに包まれる。

43章 週末の休暇

アンは金曜ごとにアボンリーへ帰ってきた。日ごとに老いを感じるようになったマシュウとマリラにとって、アンの帰宅は何よりの楽しみとなっていた。

44章 クイーン学院の冬

冬が来てアンの勉強もいよいよ熱を帯びてきた。卒業試験に向けて張り切るアンに、マシュウが倒れたという知らせが入る。アンはすぐに駅に向かった。

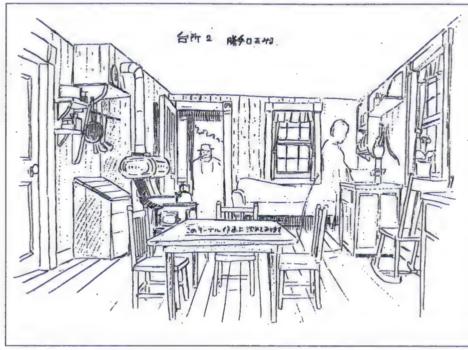


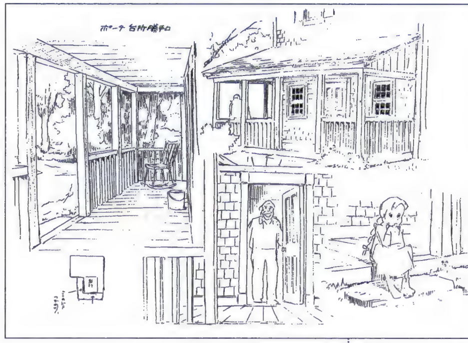
めがねをかけたマリラ。黒かった髪もこの頃から白みがかってくる。マリラの頭痛の原因は、目から来たものだった。医者の薦めでめがねをかけるが、目はマリラが思う以上に深刻な状態だと後に判明。





もともと心臓が弱かったマシュウ。ショックを与えないようにと医者から注意を受けていたが…。

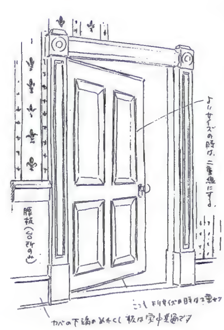




グリーンゲイブルズの台所兼食堂（上）と、台所に通じる勝手口とポーチ（下）。



マシュウが手塩にかけて育てた農場や家畜。そこにいるはずの主を亡くした空間は、アンの胸に耐えがたい鈍い痛みを起こさせた。



勝手口の扉を室内側から見たところ。マシュウは勝手口で突然意識を失った。

ストーリー紹介 45〜48章

45章 栄光と夢

アンは見事卒業試験にパスした。それもエイブリー奨学金受賞という栄誉とともにだ。卒業式が済み、久しぶりに3人は揃って家路についていた。

46章 マシュウの愛

アンは久しぶりの我が家を思う存分満喫していた。アベイ銀行の噂をリンド夫人が知らせに来る。その夕方、アンは牧場でマシュウと静かに語り合った。

47章 死と呼ばれる刈り入れ人

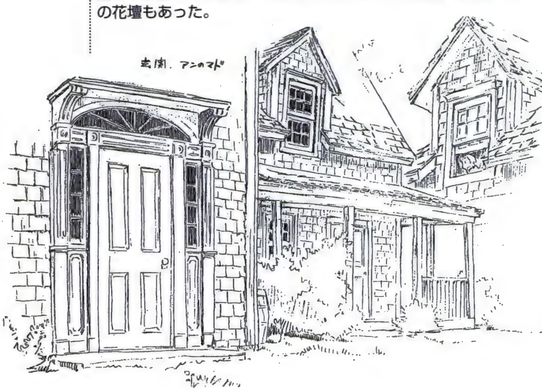
いつもと変わらない朝。普段の日課が営まれるカスバート家に届いた新聞が、突然マシュウの命を奪い去っていく。それはあまりに突然の出来事だった。

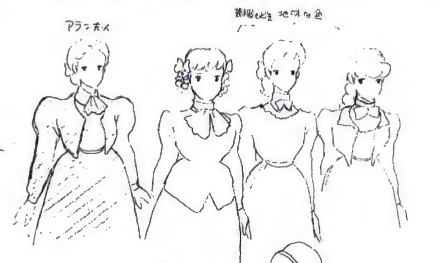
48章 マシュウ我が家を去る

悲しみのグリーンゲイブルズに、弔問客が次々と訪れた。二日後、マシュウは住み慣れた家から永遠に去った。ある日の夜。アンはマリラから、過去にあったというギルバートの父ジョンとのロマンスの話を聞く。



グリーンゲイブルズの玄関とアンの部屋の出窓マシュウ亡き後、マリラとアンは夕暮れにこのグリーンゲイブルズの玄関に座っていることが多かった。そこにはマシュウの愛した白バラの花壇もあった。

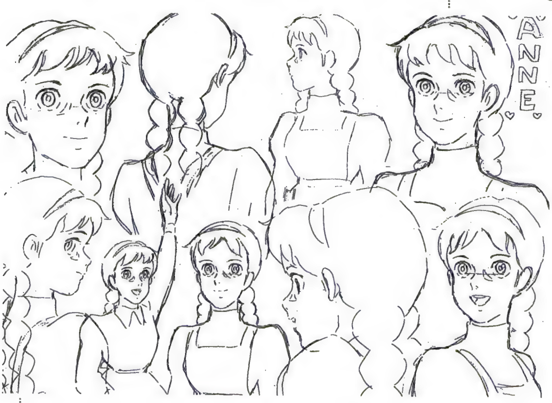


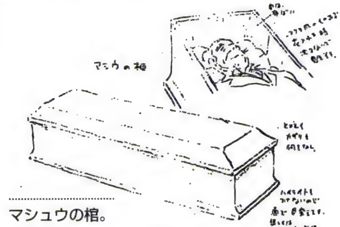




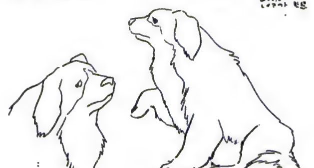
「私たち二人ほどここが好きな人間はいないわ」。グリーンゲイブルズを売ってリンドのところで下宿すると言い出すマリラを、アンは優しく止めた。アンは進学をやめ、近くの村で教師になろうと決意をしていた。

マシュウの葬儀参列者達。「おまえはいい奴だった」と泣きだす、友人とおぼしき老人が印象深い。





マシュウの棺。



美しく成長したアン。赤毛は金褐色に変わり、そばかすは消えた。ここにいるのは思慮深い瞳を湛えた美しい女性だ。

ギルバートの飼い犬。最終話、アンに「見送ろう」と申し出るご主人ギルに、気を利かせて（？）姿を消す忠犬。



『赤毛のアン』ラストシーン。カメラはグリーンゲイブルズの灯を愛しむようにゆっくり離れてゆき、グリーンゲイブルズに向かう小道のカットで終わる。

ストーリー紹介

49〜50章

49章 曲り角

マリラはシャーロットタウンの眼科医に診てもらいに行く。しかしその診断は、失明の危険を告げるものだった。アンは自分のなすべきことを静かに考えた。

50章 神は天にいまし すべて世は事もなし

奨学金を断り、大学行きを断念したアンは、教師という新しい希望に燃える。そんなアンに、ギルバートは地元の教職枠を譲った。アンは心より感謝する。

アンの憧れ〝ふくらんだ袖〟

アンが憧れた〝ふくらんだ袖〟は、肩の部分にギャザーを寄せてふくらませ、袖口に向かって細くなるデザインの袖で、その形から羊の足〝レッグ・オブ・マトンスリーブ〟と呼ばれたものだ。19世紀には1830年代と、このアンの時代の1890年代半ばに大流行するが、現在はウェディングドレスのデザインなどに、わずかに残るのみである。

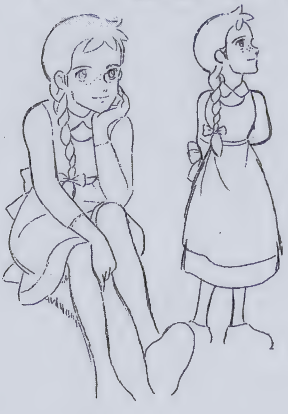
　また、ステイシー先生が授業に体育を取り入れたように、この時代から女性がスポーツに積極的に参加するようになっていく。そうした活動の妨げにならないデザインがファッションにも反映されはじめる。ふくらんだ袖の流行が終わりを迎える20世紀、女性のファッションは機能性を求めてさらに劇的に変化していくのである。



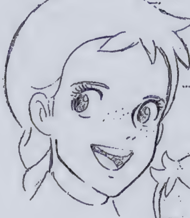
マシュウがアンに贈ったのは、半袖のパフスリーブに腕に細身の袖が続くデザイン。ウエストが細くくびれ、袖山が大きくふくらんだ1890年代ファッションをよく表している。制作、デザインはリンド夫人。なかなかのセンスである。（色指定より）

アンの初期デザインから

企画段階のスケッチには、数多くのアンがいた。初期に描かれたアンを見てみよう。



かなり初期の段階で描かれたアン（左）。まじめそうでどこか大人びた表情をしてみえる。少女漫画を思わせるまつげや髪型は、やや古風な印象だ。アンというキャラクターをつかむまで、こうしたスケッチが何枚も描かれたのだろう。



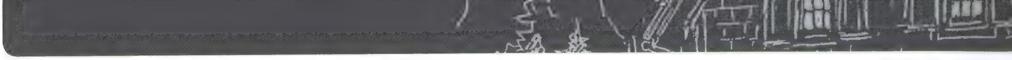




下はやや本編の絵に近づいた段階のアンとダイアナ。アニメを意識したのか、やや低年齢向けのデザインになっている。この時に描かれた設定画がキャラクター商品に使用され、本編の格調高い作風とのギャップを感じさせることとなった。



アンの怒る様子が、漫画のようなオーバーな表現で描かれている。キャラクターデザインは、単に顔や服を決めるだけではない。どういう人物なのか、どう演出するのかも、絵を決める重要な要素だ。



原作について

いわずと知れた『赤毛のアン』。各社から翻訳本が出ている。『赤毛のアン』を第1作として、アンの青春時代と結婚、その子供達の物語まで全10巻のシリーズである。

〈原作者〉
ルーシー・モード・モンゴメリ
1874－1942

カナダ、プリンスエドワード島で生まれる。2歳になる前に母を亡くし、厳格な祖父母のもとで成長する。ハリファクスのダルハウジー大学を卒業後、島に戻り祖母の世話をしながら教鞭を執った。1908年に『赤毛のアン』を発表。結婚後はトロントに移り、牧師の妻として夫を支えながら執筆を続けた。

プリンスエドワード島の人々

『赤毛のアン』の舞台になったプリンスエドワード島は、スコットランドからの入植者が多い土地だ。もともと先住民ミクマク人が暮らす島だったが、後にアカディアと呼ばれるフランス系移民が移住。7年戦争（1756〜63）でフランスが撤退した後は、イギリス領として、主にスコットランドからの入植者を迎えていた。原作者モンゴメリの先祖もそうした一族だった。

スコットランド気質という言葉がある。ケチ（金銭への敬意？）で頑固、自尊心の高さと誠実さというものである。そういう気質に加え、島に移住した人達は、長老派というプロテスタントの中でも厳格な教えを守る一派の人々。そんな村社会で、実直に生きてきたマリラにとっては、自由人アンの登場は、青天の霹靂（へきれき）だったに違いない。



高畑氏が「アン」のアニメ化に際し、参考にしたという本『スコッチ気質』。カナダの経済学者によるカナダのスコットランド人たちの生活と気質を描いた社会人類学的な書である。

『スコッチ気質』
著：J.K.ガルブレイス
訳：土屋哲
発行：河出書房新社
（絶版）

『赤毛のアン』の音楽

作品中で流れる曲や主題歌は、音楽にこだわり持つ監督、高畑勲氏の意向もあり、クオリティの高いものとなっている。主題歌はクラシック界の大御所、三善晃氏による作曲。三善氏は合唱曲や声楽、管弦楽を数多く手がけた。オープニング、エンディングの壮大な構成は、アニメ主題歌の常識を変える聴き応えのあるものになっている。

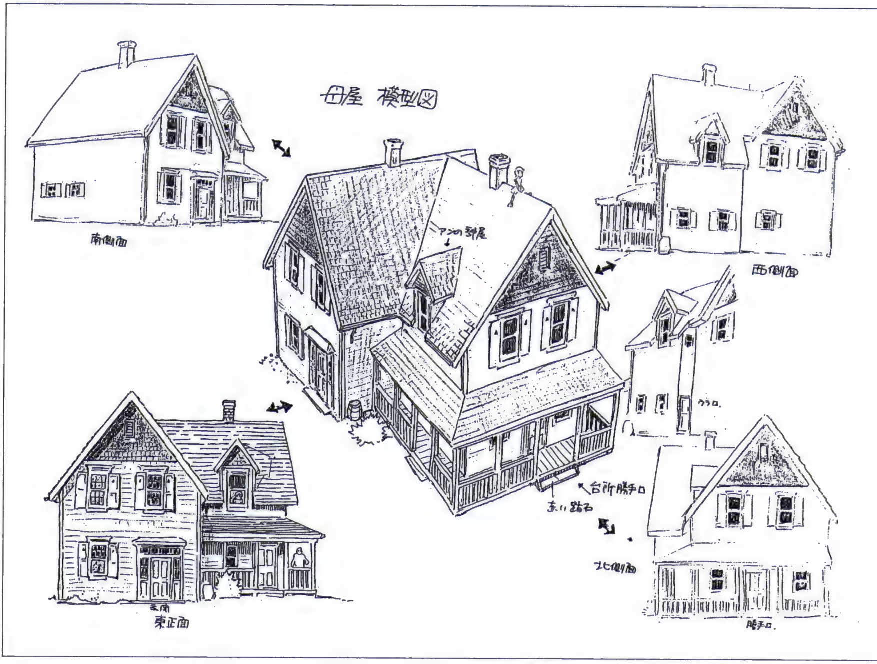
通常はLPの数あわせ的に作られることもある挿入歌だが、『アン』はいずれも名曲揃いだ。単にLPに収録するに終わらず、作品中で登場人物の心情を謳うモノローグとなって流れる。

劇中で流れるスコットランドを代表する曲「スコットランド・ザ・ブレイブ」が、こっけいな（しかし本人たちは大真面目な）シーンに使われ、スコットランド気質をユーモラスに客観的な視点で見せている。



ダイアナが歌う「はしばみ谷のネリー」の原曲は聖歌396番。作詞は高畑氏自ら行っている。

Gallery



グリーンゲイブルズの模型図／宮崎駿

メインスタッフ

脚本	千葉茂樹／高畑勲／神山征二郎／荒木芳久／磯村愛子／高野丈邦　他
音楽	毛利蔵人
場面設定・画面構成	宮崎駿
場面構成	桜井美知子
キャラクターデザイン	近藤喜文
絵コンテ	富野喜幸／奥田誠治／楠葉宏三／斎藤博／横田和善／腰繁男　他
作画監督	近藤喜文
美術監督	井岡雅宏
撮影監督	黒木敬七
録音監督	浦上靖夫
色彩設定	保田道世／小山明子
プロデューサー	中島順三／遠藤重夫
演出	高畑勲

オープニングテーマ「きこえるかしら」
作詞：岸田衿子
作曲・編曲：三善晃
歌：大和田りつこ

エンディングテーマ「さめない夢」
作詞：岸田衿子
作曲・編曲：三善晃
歌：大和田りつこ



あらいぐま ラスカル

Rascal



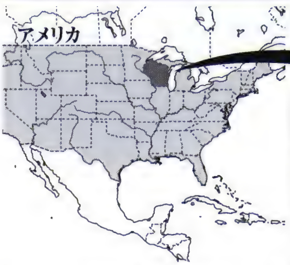


あらいぐま ラスカル



放映期間	1977/01/02～1977/12/25
話数	52話
原作	スターリング・ノース「はるかなるわがラスカル」
備考	77年文化庁こども向けテレビ用優秀映画作品賞受賞 77年厚生省児童福祉文化奨励賞受賞

物語の舞台





スターリングが住む、アメリカ中部のウィスコンシン州南部が舞台。農業と酪農が盛んな州で、特にスリーレイクスなど北部には豊かな自然が残り、野生動物も多く生息している。

History

T型フォードが村社会まで入ってきた20世紀初頭。物語は第1次世界大戦の始まる暗い時代だが、アメリカの田舎町では戦争は遠い世界の出来事だった。

ストーリー解説

スターリングは父とふたり暮らし。大好きな母は遠いミルウォーキーの病院に入院していた。5月のある日、スターリングはウェントワースの森でアライグマの赤ん坊を見つける。母親を亡くして啼くアライグマを見たスターリングは、その赤ん坊を自分で育てようと決心する。そして、アライグマを『ラスカル』と名付けた。その夏、最愛の母はスターリングを残して世を去る。孤独な少年の心を慰めたのはラスカルだった。ラスカルはスターリングのかけがえのない存在になっていく。

青年カールやアリスたちとの出会い、大自然の中での暮らし、働く喜び…スターリングはたくましく成長していく。一方で、近隣の畑を荒らすようになったラスカルのことで、野生動物との共存の難しさも知るのだった。

やがて再び巡ってきた春、スターリングに人生の岐路が訪れる。ラスカルもいつしか一人前になっていた……。

1914年

5月
- ラスカルと出会う

6月
- 蛙飛ばし競争

7月
- 母亡くなる

8月
- アリスと友達になる
- ラスカルトウモロコシを荒らしはじめる
- スリーレイクスへ

9月
- ラスカルに首輪をつける

秋
- アイリッシュピクニック
- 馬と自動車、競争する
- カールとフローラ結婚
- スペイン風邪流行しだす
- スターリングバイトを始める
- フレッド農場へ

11月
- スターリング12歳の誕生日

12月
- ラスカル病気になる

1915年

冬
- 父、雪の中で遭難する
- 再びフレッド農場へ
- 雪の家の誓い

3月
- カヌー完成

4月
- ラスカルとの別れ
- ミルウォーキーへ

19C
1825 蒸気機関車実用化(英)
1837 ビクトリア女王即位(英)
1861 アメリカ南北戦争(～1865)
1863 奴隷解放宣言
1868 明治維新(日)
1869 最初のアメリカ大陸横断鉄道完成
1903 ライト兄弟飛行機を発明
1908 T型フォード発売
1914 第1次世界大戦(～1918)
20C
1929 世界恐慌
1939 第2次世界大戦(～1945)
1969 アポロ11号月面着陸
21C



キャラクター比較図。

ノース家裏庭の赤樫。
（ラスカルの巣穴がある）



キャラクター紹介



ウィラード・ノース
農場を経営する実業家だが、生活面はめっぽう不器用でおちゃめなお父さん。



アリス・スティーブンソン
町に転校してきた少女。少年たちの憧れの的となる。



オスカー・サンダーランド
農家の一人息子でスターリングの親友。何事も明るく考えるイイ奴。

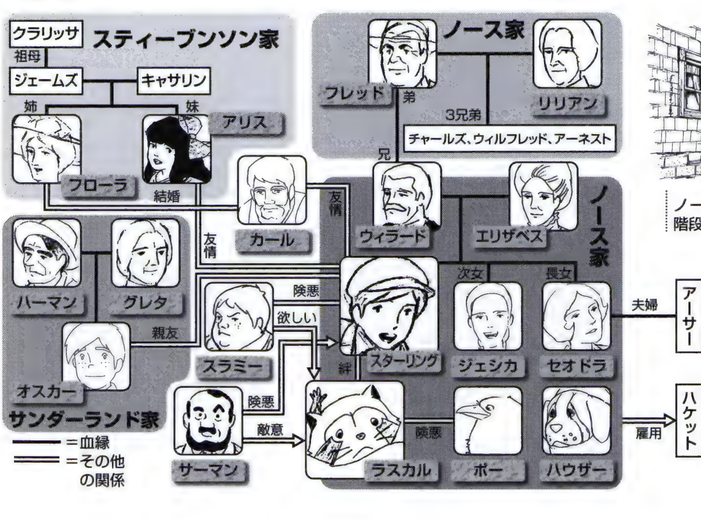


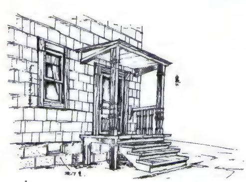
ラスカル
母親を亡くしたアライグマ。スターリングに育てられる。



スターリング・ノース
動物好きの少年。一見優等生風だがけんかも負けない11歳。

相関図

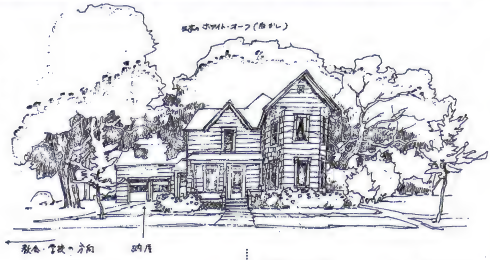




ノース家裏出口（初期設定）。
階段の向きが本編とは異なる。

スターリング・ノース

ラスカルと出会ったときは11歳。学校ではまじめで勉強もできる優等生。動物の世話が大好き。父とふたり暮らしで家事もこなしているせいか、年齢以上に大人びた印象がある。でも取っ組みあいもするし、家出だってする。恋愛ごともさっぱり疎く、まだまだ子供。ユーモアのセンスたっぷりのおちゃめで愛すべき少年である。（声：内海敏彦）



正面から見たノース家。向かって左側に納屋兼車庫がある。



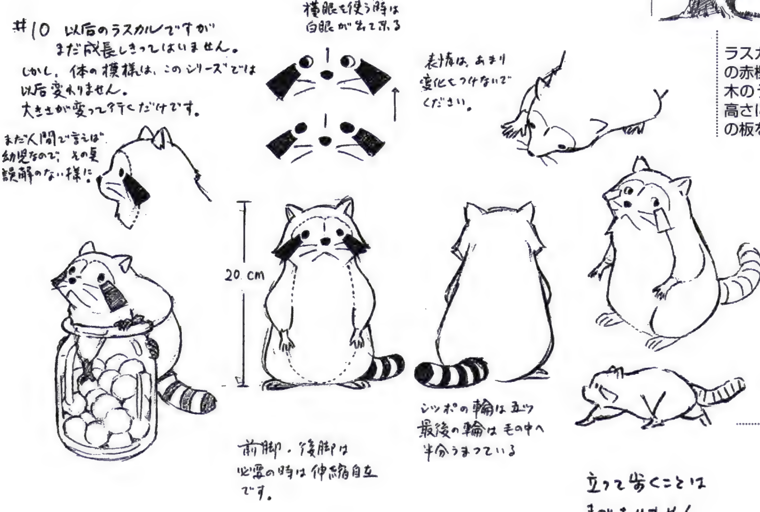
通学服。原作のノーフォークジャケットの簡略化したデザイン。ニッカボッカーと組み合わせたもの。

ラスカル

ウェントワースの森で生まれた雄のアライグマ。好奇心旺盛で、賢く、一度教えたことは忘れない。食事は人間と同じもので、中でもアメやイチゴソーダが大好物の甘党。でもトウモロコシの前ではすべてが色あせてしまうようである。（声：野沢雅子）



ラスカルの巣穴がある裏庭の赤樫の大木。巣穴にした木のうろは地上約2.5mの高さにあり、木に足がかりの板を取り付けてある。



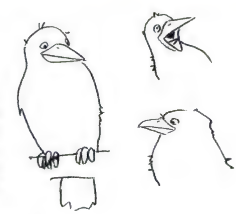
10話以降のラスカルの設定画。まだ成長途中で「まだ人間でいうと幼児」だとある。



ノース家の裏庭から教会の方角を望む。



ハウザー
セントバーナード犬。近所で彼にかなう犬はない。ラスカルのおもり役。



ポー
カラス。スターリングのペットだが本人にはそのつもりはないらしい。スターリングになにかと面倒を持ち込む。



オスカー・サンダーランド
明るく気のいいスターリングの親友。貧しい農家の一人息子として農作業に従事。仕事に誇りを持っており、さばけた実際家でもある。
（声：鹿股裕司）

オスカーは畑の手伝いで学校を休むこともしばしば。



森で保護した当初のラスカル。生後一ヶ月くらい。



ラスカルの母。猟師に撃たれる。

アーサー
セオドラの夫でまじめでいつも笑顔の好青年。若いがミルウォーキーの製紙工場主。
（声：桑原たけし）





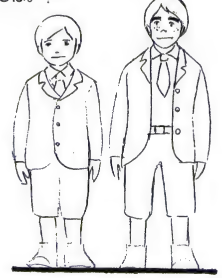
エリザベス
入院中の博識で優しいスターリングの母。
（声：香椎くに子）



セオドラ
勝ち気で世話好き。そしてそそっかしいノース家の長女。スポーツカーも乗り回すが高所恐怖症。
（声：松尾佳子）



ハケット
母の入院中ノース家の家事手伝いに通うお手伝いさん。動物嫌い。
（声：麻生美代子）





ネクタイはスターリングが赤でオスカーは緑。オスカーの着こなしはラフで、ふたりの性格の違いが見える。

ストーリー紹介

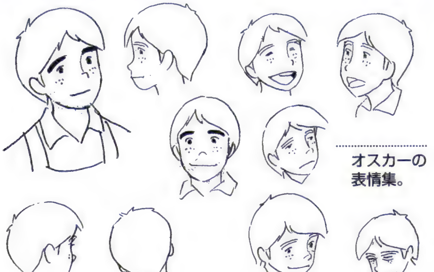
1～4話

1話　黒いマスクの可愛いやつ
ウェントワースの森へ釣りに来たスターリングは、アライグマの親子に出会った。ところがそこに現れた猟師が、母親を鉄砲で撃ってしまう。

2話　ぼくの新しい友達
スターリングは、後に残されたアライグマの子を育てようと決心する。そしてその帰り道、オスカーの母グレタに、ミルクを与える方法を教えてもらう。

3話　友情
母の手術のため、スターリングは父と見舞いに行くことになる。心配されたラスカルや動物達の世話は、オスカーが面倒を見てくれることになった。

4話　ミルウォーキーのお月さま
3ヶ月ぶりに会う母の笑顔に、スターリングは安心する。スターリングは母にラスカルの話を話して聞かせた。しかし母はガンの疑いがもたれていた。



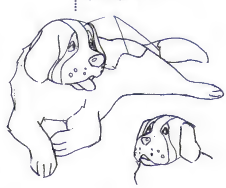
オスカーの表情集。



スターリングの部屋、初期設定。机や天井の形、窓の数などが本編と異なっている。



オスカーの自慢の蛙の名はラッキー。しかし名付けた2匹とも不慮の死。あまりラッキーじゃなかった。



ハウザーの苦手は自動車に乗ること。



スラミー・スティルマン
ラスカルを自分のものにしようと狙う。（声：滝雅也）

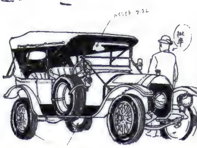


庭でスターリングにボクシングの手ほどきをするスタイル。

マーチン・ラッセル
全盛期を過ぎ落ち目のボクサー。そのフットワークから「蛙」とあだ名される。アニメオリジナルのエピソード。（声：飯塚昭三）



ヘンリー
マーチンのマネージャーでウィラードの友人。（声：緑川稔）



マーチン達の自動車。故障して立ち往生していた。



スターリングの飼うスカンク。名前はない。



納屋とスカンク小屋の位置関係。スカンク小屋は本編ではリンゴ箱に変更されている

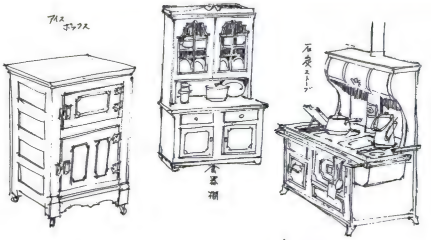
ストーリー紹介 5～8話

5話 オスカーへの贈り物
幸いエリザベスの手術は成功し、スターリングはほっとして家路につく。そして留守を守ったオスカーに感謝を込めて、大切な自分の釣り竿を差し出す。

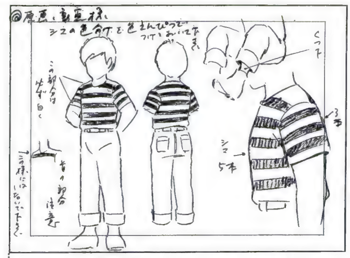
6話 さようならスカンクたち
ラスカルを狙うスラミーは、犬をけしかける。ところが犬はスターリングの飼うスカンクに吠えかかってしまう。折しも隣の教会では結婚式の最中だった。

7話 馬と自動車はどちらが速いか
大の自動車嫌いのコンウェイと自動車を乗り回すサーマン。道で出会ったふたりは、馬車と自動車とで競争を始める。スターリングはその争いに巻き込まれ……。

8話 蛙とボクシング
ラスカルを賭けて、スラミーとの蛙競争を受けて立つスターリング。その日、ノース家の客人となった黒人のボクサーに、スターリングはボクシングを教わる。



ノース家の台所より左から冷蔵庫、食器棚、コンロ。コンロの下はオーブンになっていてパンが焼ける



スターリングの夏の普段着に対する作画担当への注意事項。アメリカの少年らしい縞のTシャツは、縞の位置など細かく指定されている



ジェシカ
ノース家の次女。19歳。シカゴ大学に在学。詩の才能に秀で、ユーモアのある姉。（声：芳香みちる）



退院したエリザベス。本編には描かれないが生物学者でもある才気溢れる女性。回復したように見えたが…。



ソートン
スラミーの父。菓子屋。息子には手を焼いている
（声：緒方賢一）



マイク・コンウェイ
ノース家の隣人で愛馬ドニイブルックの持ち主。昔気質で自動車が大嫌い。サーマンとは犬猿の仲。
（声：村瀬正彦）



マーサ
4歳くらい。コンウェイ家の一人娘。設定によると「ブスッとしていて愛嬌のない変な女の子」。スターリングを慕ってつきまとう。
（声：貴家堂子）



ウィラード・ノース
スターリングの父。ノースダコタとモンタナの農場を経営。何事につけても鷹揚で、マイペース。スターリングを温かく見守る。（声：山内雅人）

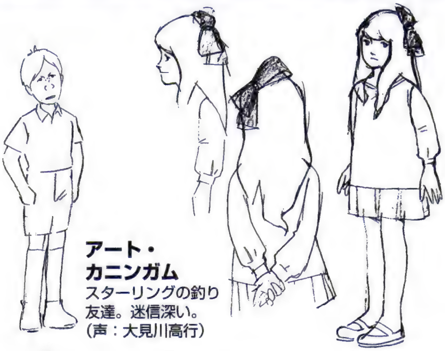
ストーリー紹介 9〜12話

9話 お母さんの帰宅
母の退院が決まり、スターリングは授業も上の空。駅で母を出迎え、久しぶりにふたりで語らうのだった。スターリングはさっそく母にラスカルを紹介する。

10話 はじめての探検
雨上がりの午後、ラスカルははじめてひとりで巣穴から出ると、庭中を探検するように歩き回った。その様子をスターリングは母と一緒に見守っていた。

11話 消えた角砂糖
子供椅子を出し、ラスカルをテーブルにつかせたスターリング。賢いラスカルのしぐさに微笑む母を見て、スターリングは心から母の回復を喜ぶ。

12話 本と1セント銅貨
シカゴ大学に通う姉のジェシカが、夏休みのため家に帰ってきた。スターリングはおみやげの動物図鑑に大喜び。時間も忘れて本を読みふけるのだった。



アート・カニンガム
スターリングの釣り友達。迷信深い。
（声：大見川高行）

ポーとラスカルはライバル同士。しかもどちらも光り物に目がない。



ポーの巣があるメソジスト教会。

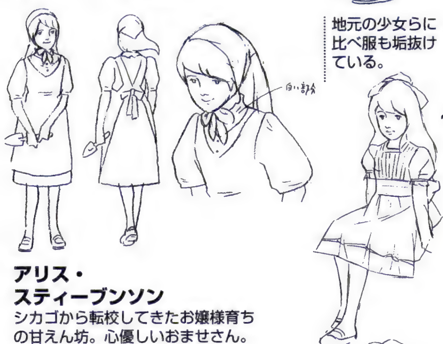


「あの日教会の鐘は47回鳴った。お母さんの年と同じ数だ…」14話は衝撃的なスターリングのモノローグで始まる。



アリスの人形の服を着せられたラスカル。

地元の少女らに比べ服も垢抜けている。



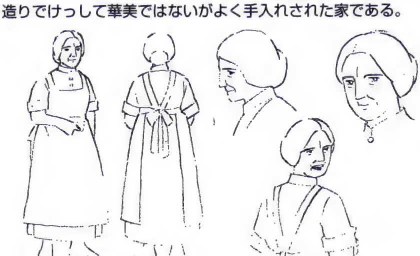
アリス・スティーブンソン
シカゴから転校してきたお嬢様育ちの甘えん坊。心優しいおませさん。
（声：富永美子）



サンダーランド家外観。ウェントワースの森のそばにある。石造りでけっして華美ではないがよく手入れされた家である。



ハーマン
オスカーの父。頑固で厳格。彼もまた誇り高い農夫である。ぶっきらぼうだが、たまに意外な一面を見せる。（声：石森達幸）



グレタ
オスカーの母。穏やかで思慮深い女性。貧しくても農婦としての誇りがある。気むずかしい夫の扱いも心得ている。動物の知識も豊富でアライグマの育て方を教える。（声：野沢雅子）

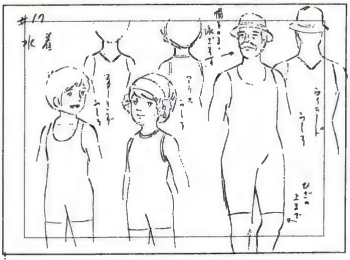
ストーリー紹介 13～16話

13話 夏休みの第一日
今日から夏休み。スターリングは、母の好物のナマズを釣ろうと秘密の釣り場へ向かう。見事大物を釣り上げ、母の喜ぶ顔を浮かべながら帰宅するが…。

14話 母のない子
その日教会の鐘はお母さんの年と同じ数だけ鳴った。丘の上での葬儀が終わった後、独りになったスターリングを慰めてくれたのはラスカルだった。

15話 アリスと友達になれたらなぁ
釣りに出かけたスターリングは、森で動けなくなっていたクラリッサを助ける。翌日、スターリングの所にアリスが祖母を助けたお礼をいいにきた。

16話 楽しいパーティの夜
スターリングはポーのいたずらをわびに、アリスの家を訪ねた。クラリッサは森で助けてくれたお礼にとスターリングとオスカーをパーティを提案する。



スターリング達の水着。ウィラードは帽子のまま泳ぐ！　シュコノング湖、スリーレイクスでの水遊び時に着用。

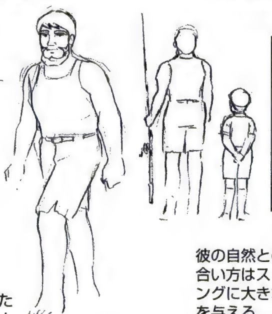


アリスのセーラー服（17話、24話、25話）当時の少女の流行服だ。



アリスの姉フローラ（声：阪本真澄）母キャサリン。アリスも含め町中で評判になる美人一家である。





カール・マーティの設定より

――キビキビとした動作と何をするにも懇切丁寧であることが肝心。どんな小さな日常の作業でも熱心さと真剣さを表現するようにしてください――



彼の自然との付き合い方はスターリングに大きな影響を与える。

カール・マーティ
ウィラードの親友の息子で、スターリングたちに忘れがたい印象を残す。普段は州の北部、スリーレイクスにあるホテルで働いている。（声：野島昭生）



フートン牧師
ノース家と地続きにあるメソジスト教会の牧師。カラスのポーのいたずらに頭を痛める温厚な人物。（声：上田敏也）



クラリッサ
アリスの祖母。おしゃべりと冒険が大好きで、気だけは永遠に若いアリスの祖母。恐ろしくそそっかしいが、本人は全く気にしない。特技は逆立ち!?（声：京田尚子）

ストーリー紹介　17～20話

17話　ラスカルの冒険
母を亡くして沈みがちなスターリングのために、ウィラードはコシュコノング湖へピクニックに行く。ところがいつのまにかラスカルの姿が見えなくなる。

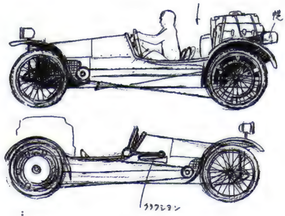
18話　森で会ったふしぎな青年
コシュコノング湖に近い森でカールという若者に出会う。山小屋に招いて気持ちよくもてなすカールを、スターリング達はすっかり好きになる。

19話　ラスカルとトウモロコシ
スラミーにラスカルを奪われたスターリングは、スラミーの裏をかきラスカルを取り戻した。喜んだオスカーは畑のトウモロコシをラスカルに与えるが……。

20話　スターリングの悲しみ
トウモロコシの味を覚えたラスカルは、近所の畑を荒らすようになる。犯人がラスカルだと知れると、大人達が家に詰めかけた。



クラリッサ阻止作戦の切り札、アンナおばさん。シカゴ時代の隣人でクラリッサの友人。（声：遠藤晴）



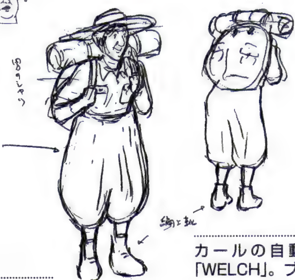
若者らが乗るクライスラー社のスポーツカー。スピード狂のラスカルがちゃっかり潜り込んでいた。



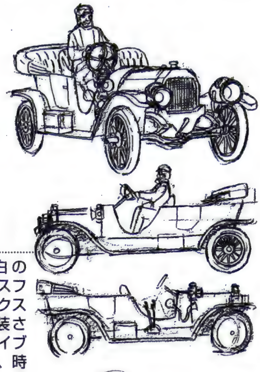
ブレールスフォード駅助役。小柄で動作は機敏。登場回数は少ないが裏設定にスタイリストとある。



通りがかりの若者達。田舎に帰省途中の兄弟らしい。



スリーレイクスキャンプのために、スカートを二日がかりでズボンに改造。一旦阻止された後だけに、気合いバリバリ！



カールの自動車、白の「WELCH」。ブレールスフォードからスリーレイクスまで約400キロ。舗装されていない当時のドライブはパンクや故障が多く、時間もかかった。





カールの運転スタイル。



タンガ
1才半になる熊の子供。いたずら好き。人になれているが、作画上で表情などを擬人化せず野生の熊として描いている点に注目したい。



カールの叔父でノーザネイルホテルの経営者。両親を亡くしたカールの育ての親でもある。経営者として時にカールと対立するが、それはあくまで仕事上のこと。表現は下手だが肉親の情を持ってカールに接する。（声：塩見竜介）

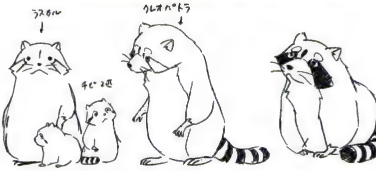
ストーリー紹介 21〜24話

21話 あぶないラスカル
スターリングのもとにカールから、スリーレイクスにあるカールが働いているホテルへの招待状が届いた。カールの車でスリーレイクスへ向かう途中、ラスカルがいなくなってしまう。

22話 森と湖と動物たち
カールが働く森のホテルは、動物が遊びに来るホテルとして知られていた。スターリングは、動物と人間が仲良く暮らす生活に、心を奪われる。

23話 カールの災難
カールの仲良しの小熊のタンガはいたずら好き。カールの叔父はいたずらにとうとう腹を立て銃を持ち出すが、弾はタンガをかばったカールに当たってしまう。

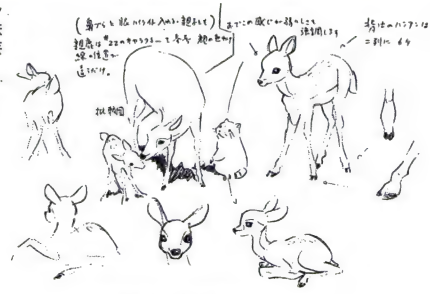
24話 走れ走れぼくらのカヌー
けがで動けないカールの提案で、スターリングとアリスはふたりだけでキャンプへ行くことに。まずはカールからカヌーの漕ぎ方やテント張りなどの特訓を受ける。



クレオパトラ。レコード鑑賞が趣味で、鐘を鳴らす芸ができる。



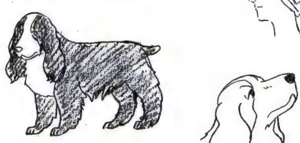
ラスカルとアライグマの母子。母アライグマの名はクレオパトラ。ラスカルに比べ、よりリアルなアライグマとして描かれている。



アリスが森で見つけた仔鹿。当初は病弱で立つこともできなかった。



フローラの水着。





カールの愛犬コッカースパニエル犬のジンジャー。彼が森の動物たちとカールを仲介する。

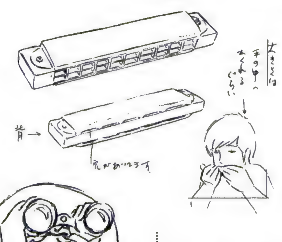




スターリングとアリスの乗るカヌー。カヌーの技術を習得するためふたりはカールの鬼のしごきを受ける。



夏まつりの時の服装（26話）。フローラは美声の持ち主。コンサートで独唱を披露。以後その時の歌はフローラのご機嫌度の目安になる。



スターリングのハーモニカ。24話で演奏するのは「峠の我が家」。



クラリッサ持参の双眼鏡。

ストーリー紹介 25～28話

25話 森で見つけた仔鹿

キャンプの朝、アリスは森で弱っている仔鹿を見つける。スターリング達はキャンプを切り上げ、急いで仔鹿をカヌーに乗せ、カールに診せに行く。

26話 森と湖の夏まつり

スターリングは、仔鹿を森に返すとき、ラスカルとも別れようと決心する。ところがラスカルは、離れていくスターリングの後を懸命に追いかけてきた。

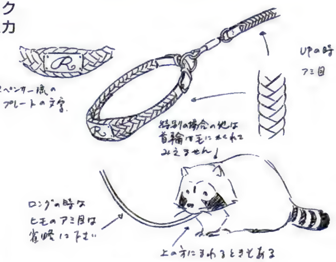
27話 首わと皮ひも

ブレールスフォードに戻ったスターリングは、檻を作る前に、馬具屋のシャドウィックに、ラスカルの首輪と皮ひもを作ってもらうことにする。

28話 檻のなか

檻は完成間近。でも少しでも長くラスカルを自由にさせていたいと願うスターリングは、扉を開けたまま、ラスカルと一緒に檻の中ですごす。

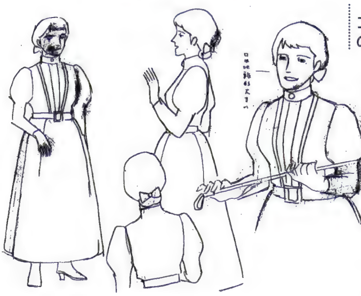




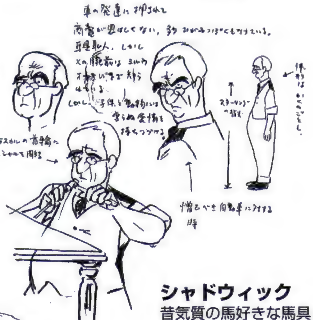
シャドウィックが作ったラスカルの首輪。



コンウェイ家側から見たノース家の裏庭。中央はラスカルの木。







シャドウィック
昔気質の馬好きな馬具職人。遠くミルウォーキーまでその腕は知られるが、自動車の登場で、すっかり不景気。コンウェイの友人。（声：北山年夫）





ホウェーレン
スターリングのクラスの先生。生物学が専門で、スターリングのよき理解者でもある。（声：杉山佳寿子）

メイクアップ中の濡れラスカル。（29話）



アリスと白鳥の雛（29話）。ずっと手元に置きたがるアリスだったが…。



通学路からみた学校。ニレの並木が美しい。

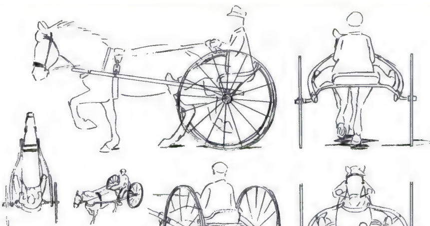
ストーリー紹介 29～32話

29話 星空をとぼう
通学途中の道で、白鳥の雛を見つけたアリスは、学校に雛を連れてきた。そこでホウェーレン先生は、生徒に自分のペットを連れてくることを提案する。

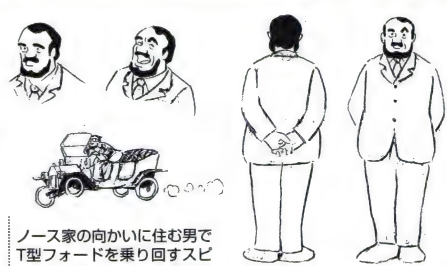
30話 ケチケチするな
スラミーにかみついたラスカルは狂犬病の疑いが晴れるまで2週間閉じ込められていた。健康そうなラスカルを見た先生は、もう大丈夫とスターリングを安心させる。

31話 花火のあがる日
オスカーとアイリッシュ・ピクニックに出かけたスターリングだが、肝心のお小遣いは心許ない。それを聞いたオスカーはうまく楽しむ作戦があるという。

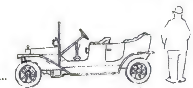
32話 わたり鳥の帰るころ
カヌー作りのヒントをオスカーの父から教えてもらったスターリングは材料のチーズ樽を集めてまわる。一方、アリスの白鳥は成長し、渡りの季節を迎えていた。



コンウェイの競技用馬車。走ることにのみ特化したひとり乗りで余計な装具は一切なし。ドニイブルックは1マイル2分で走る駿馬で、郡大会でも優勝している。



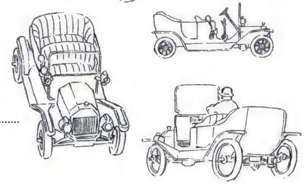
ノース家の向かいに住む男でT型フォードを乗り回すスピード狂。怒りっぽく、ラスカルを目の敵にしている。（声：永井一郎）



サーマンの自動車。



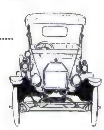
フローラの表情集。設定画では記号的な表情だけではなく、細やかな感情がつけられている。設定にあたり、その時代の代表的な美人顔をイラスト化したという。



T型フォードは1908年に発売以来、実用的な大衆車として広く普及した。実際の車体は黒一色であったが、アニメでは赤い車体にしている。



キャサリン
アリスの母。おっとりした女性。モーレツばあさんと花盛りの娘たちを陰で支える。フローラの結婚式で見せた表情は印象的。
（声：坪井章子）



フランク・アッシュの自動車。ぬかるみにはまっていたのをカールに救われる。



ハリス老人。娘や息子は遠い町で家庭を持ち、訪問者もない孤独なひとり暮らし。鐘の音で96歳だったことが判明。（声：杉田俊也）



スターリングの野菜を買ってくれる八百屋のマッコイさん。



アッシュ
サタデー・イブニング・ポストという雑誌の販売所の所長。

ストーリー紹介 33～36話

33話 ドニイブルックの勝利
スターリングは、ジャコウネズミの毛皮で小遣いを稼ごうと計画していた。その頃町では、以前から仲が悪かったコンウェイとサーマンが、馬と自動車を競走させることになり大騒ぎ。

34話 いじわるな手紙
スターリングに来たカールの手紙。ところが中身はフローラへの恋文だった。驚いたスターリングはフローラの元に走る。

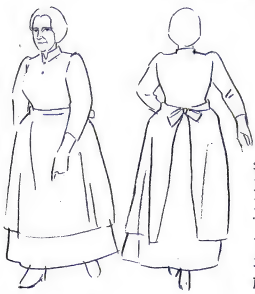
35話 カールとフローラ
カールはフローラに結婚を申し込むためブレールスフォードに向かっていた。ところが動けなくなった車を救出して遅れ、結婚指輪も無くしてしまう。

36話 待っていた老人
スターリングは、カヌーの材料費を稼ぐため、雑誌を売る仕事を始める。町の外れに住む老人ハリスは、ラスカルの芸を喜び、訪問を楽しみにしてくれた。





リリアン叔母。農場の暮らしと家族を愛し、誇り高く生きる女性。





フレッド・ノース

ウィラードの弟。陽気で逞しい農場主。頭脳ワークのウィラードとは、好対照。（声：大宮悌二）

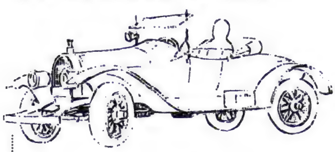


年の近いアーネストとスターリングは仲良し。

フレッドの3人の息子。左から三男アーネスト14歳、次男ウィルフレッド17歳、長男チャールズ20歳。

リリアン

フレッドの妻でスターリングの叔母。農婦らしい堂々とした体格。朝暗いうちから夜遅くまで働く。母を亡くしたスターリングを自分の息子のように愛する。（声：杉田郁子）



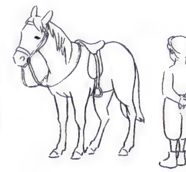
セオドラの車はスポーツカー“スピードオブスター”自動車がまだ高嶺の花だった時代に最新のスポーツカーでかっとばすセオドラはなかなかゴージャスである。

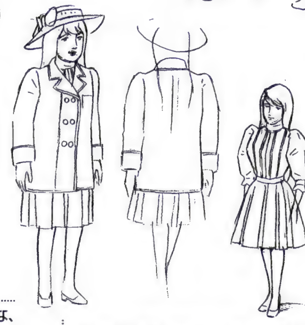


口げんかでもサーマンなんかに負けないカッコイイ、セオドラ姉さん。

テディ

乗り手を選ぶ白い馬の暴れん坊。ラスカルは乗せてもスターリングは振り落とす。





フレッド農場を訪ねたときのアリスのワンピースとコート。



「俺もその鉄砲で撃ってもらおうかな、サーマンさん」。マーサの責任をとるコンウェイの台詞がしびれる。（40話）

ストーリー紹介 37～40話

37話 朝の乳しぼり
町にスペインかぜが流行し、学校も閉鎖されたある日、ウィラードの農場が嵐で全滅。事業整理のため、その間スターリングは叔父の農場に預けられる。

38話 素敵なおもいで
スターリングは、フレッド農場で暮らすうちに働くことのすばらしさを知る。そんなスターリングの所にオスカーとアリスが訪ねてきた。

39話 忘れられた誕生日
久しぶりにセオドラが帰ってきた。今日はスターリングの12歳の誕生日。帰りが遅くなった父は、誕生日を忘れていたことに気がつく。

40話 初雪の夜
ウィラードの事業の見通しは厳しく、スターリングも自分の将来について考えるようになる。そんな折り、マーサが檻を開け、ラスカルを外に出してしまう。

ギルビィの3人の子供。長男ビリー、ミック、そして病気で寝ているリッジ。遠藤監督によると、ギルビィ家はインディアンとの混血という設定にしているとのこと。





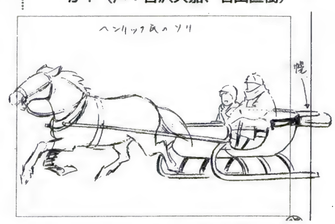
スターリングはこの家で貧困というものを知る。





ゲイン
先生（後半版）。アライグマも診察する。前半で登場した同名の先生は息子か？（声：吉沢久嘉、若山直樹）

ギルビィの家に向かう時のヘンリックの馬そり。上手に馬そりを操るヘンリックにスターリングが驚くが、自動車が町に来たのはほんの10年前のことなのだ。



ギルビィ
町外れに住む皮革職人。腕のいい職人だが、妻に先立たれ生活は困窮している。（声：辻村真人）

町の洋品店ヘンリック氏。（声：槐柳二）





居間に陣取る作りかけのカヌー。クリスマスツリーは奥の出窓に置かれ、ラスカルよけの金網が張られた。



クリスマスに帰省したジェシカ。ジェシカのプレゼントはスターリングにとって何よりの品だった。



ジェシカの詩が掲載されたシカゴジャーナル誌。

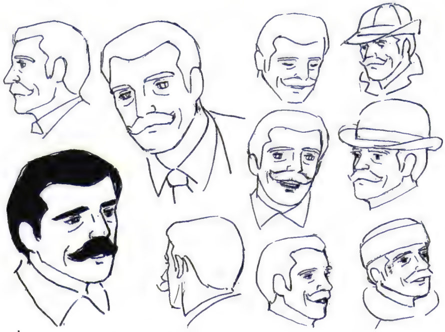
ストーリー紹介 41～44話

41話 めずらしい患者
雪の朝、いつも元気なラスカルが、食欲もなくぐったりとしていた。スターリングは、ラスカルを連れてゲイン先生の所へ行くことにする。

42話 もうすぐクリスマス
財布の中身がさびしいスターリングには、クリスマスプレゼントが悩みの種。そこに思いがけずジェシカから、小遣いとクリスマスに戻るという便りが届く。

43話 すばらしい贈り物
スターリングの注文した手袋がまだ届かない。スターリングは、ギルビィの所へ行ってみるが、彼は熱を出した娘を看護する暇もなく仕事に追われていた。

44話 氷の上の戦い
クリスマスにスケート靴をもらったスターリングは、スケートに夢中。アリスに教わり上手になったスターリングは、氷上でスラミーを負かすのだった。



ウィラードの表情集。

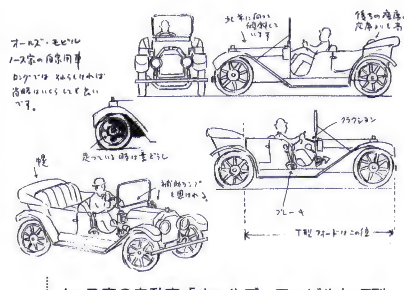
ウィラードは少年時代に隣人の博物学者に自然界の知恵を学んだ。スターリングの動物好きは親譲り。



スターリングとウィラードの寝間着。



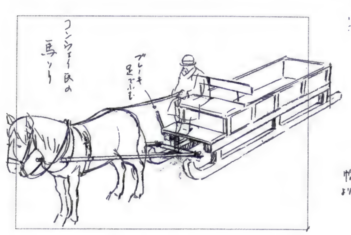
オスカーとハーマンの防寒着。



ノース家の自動車「オールズ・モービル」。T型フォードよりも一回り大きい車体。45話で雪道で遭難し立ち往生する。



デビッド
銀行家らしい。彼の用件がウィラードを打ちのめす。彼の人物像について「愛想はいいが気が小さい」と設定されている。



ウィラード救出に向かうコンウェイの馬そり。雪道で遭難したウィラードに最初に気づいたのは、ドニイブルック。この時代、雪道ではまだ馬そりが主役だった。



各家の洗濯物を回収、配達するのもジムの仕事。ノース家はお得意様。カヌーを軽々持ち上げる力持ち。



ジム・バンデバンダー
町の洗濯屋。ラスカルにあめ玉を与えるのを楽しみにしている。上は冬服バージョン。(声:今西正男)

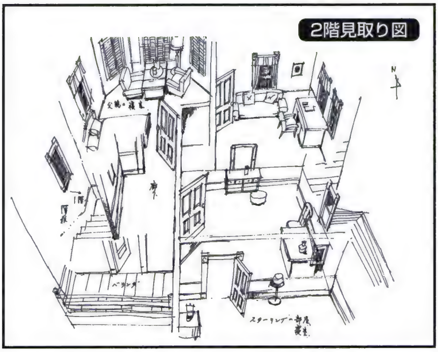
ストーリー紹介 45～48話

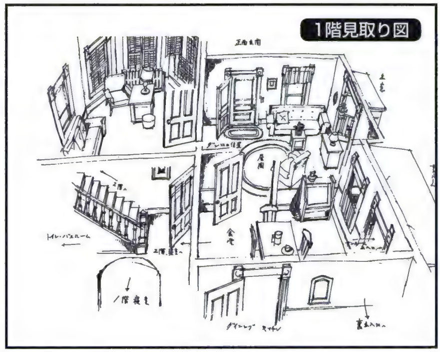
45話 お母さんの平手うち
町に吹雪が襲った日、夜になってもウィラードは帰宅しなかった。その頃、遭難して意識が混濁するウィラードは、自分を励ます妻の幻影をみる。

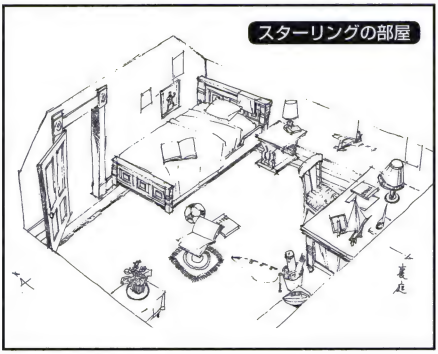
46話 お父さんのさびしい顔
当面安静が必要なウィラードだったが、無理に仕事に向かう。そんな父の姿に胸を痛めたスターリングは、クラリッサに家事の手伝いを頼んだ。

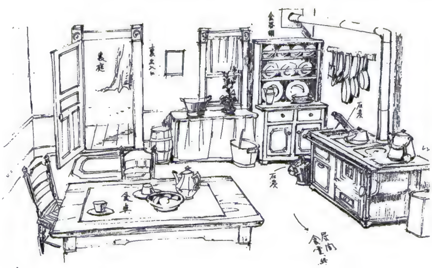
47話 立ちあがった仔牛
再び農場に預けられたスターリングに、フレッドは生まれたばかりの仔牛が立つのをみせ、勇気づける。スターリングも少しずつ農家の仕事を覚えていく。

48話 じゃじゃ馬ならし
ウィラードの手元には小さな農場がひとつだけ残された。やがてブレールスフォードに帰る日が来た。スターリングは荒馬デディを乗りこなせるようになろうと決意する。

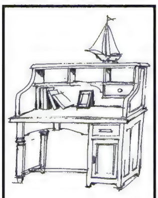








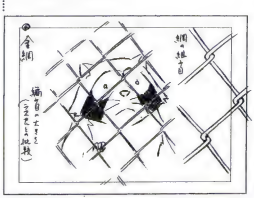
ノース家の台所。朝食はこの部屋でとる。



スターリングの机。

ノース家の間取り初期設定。スターリングの部屋のみ、本編では大きく変更されている。

金網越しに“彼女”を見つめるラスカル。春が来てラスカルはすっかり大人になっていた。





庭に訪れた雌のアライグマ。ラスカルを優しい声で魅了する。しかし無粋なハウザーのため恋は成就せず。

ストーリー紹介 49〜52話

49話 雪の家
家は人手に渡ることになり、スターリングは、ミルウォーキーで進学する決意をする。オスカーとアリスが作ってくれた雪の家で、3人は再会を固く誓う。

50話 カヌーの進水式
3月の暖かい日、ついにカヌーが完成。オスカーとアリスとサンダース川でカヌーの進水式を行うと、スターリングはふたりを交代でカヌーに乗せた。

51話 残された一週間
スターリングの旅立ちまで1週間。ある夜、ラスカルに雌のアライグマが近づいてきた。スターリングは、ラスカルが一人前の大人になったことを確信する。

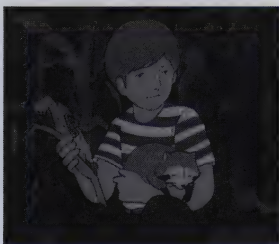
52話 別れと出発の時
スターリングはラスカルを連れ、コシュコノング湖に向かってカヌーをこいだ。スターリングの胸にはラスカルと過ごした日々が切なく思い起こされた。

害獣と呼ばれるアライグマ

日本では、『あらいぐまラスカル』が放送されて以来、アライグマをペットにするブームが起こり、そのアライグマが日本国内で繁殖して大変な社会問題になっている。当時の制作者は口をそろえて、このニュースに心が痛むと語る。

そもそも害獣とは何だろうか？　ラスカルは悪意を持ってトウモロコシを食べていたのではない。彼らは基本的に生きるために行動する。害獣という定義は、人間の都合だけが基準なのだ。

動物は棲む環境を選べない。元来の生息地である北米の森なら野生に帰れても、彼らにとって外国である日本に同じ自然はない。自力で住みよい場所を探すしかないのだ。あいにくそこが国宝の寺だったり人家だったりしただけだ。今こそ『ラスカル』を見直して、本当の自然との共生とは何かを考えたい。

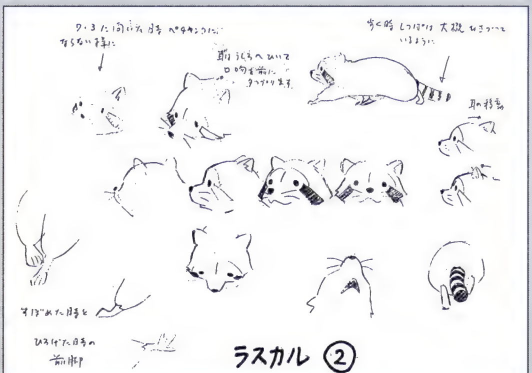


動物好きのスターリングでさえ、アライグマを飼うことは困難を極めた。

キャラクターデザイン

『ラスカル』にはキャラクターデザインがクレジットされていない。実はデザインしたのは監督の遠藤政治氏。当時オープニングやエンディングのクレジットは重複を避けたり、省略する傾向があったのだ。

遠藤氏は画家としても優れた才能を持ち、特に動物画に秀でていた。この作品では、ラスカルを始め動物キャラの動きや習性まで丁寧に設定。監督とキャラクターデザインを同時にこなすという超人的な業を行っている。



遠藤政治氏によるラスカルの設定。

ロケハンの話

『ラスカル』のロケーションハンティング（ロケハン）時のこと、参加スタッフが困ったのは、肝心の〝ブレールスフォード〟の町がどこにあるわからなかったことだった。

原作では架空の名前だったため、ヒントになるのはただひとつ、コシュコノング湖に近い町ということだけ。

わからないまま日本を出発し、車でコシュコノング湖周辺を探し回り、雇った運転手も一行も疲れてきた頃、ようやくそれらしい教会が見えてきた。それが目印になって、その町がブレールスフォード(エジャトン)だとわかったという。

しかし、苦難は続いた。到着して、これがスターリングの家ではないかと目星をつけて写真を撮っていたところ「こんなところで何をしているんだ」と警官がやってきた。その当時、スターリングの少年時代の家は二世帯アパートとして人が住んでおり、近所の人々から怪しい東洋人らがうろついていると通報されたのだ。しかし、事情を説明すると態度は一変。それならと、町の人々がこぞって協力を申し出てくれたという。そして、30年後の『ラスカルだいすき！キャンペーン』(2007年)で再びブレールスフォードに訪れた際には、以前以上に町の人々から歓迎され、地元メディアにもその様子が紹介された。

『ラスカル』は現在も町の誇りだ。少年時代の家は、スターリングを記念する博物館としてラスカルがいた当時のように修復。地元のボランティアによって、運営、公開されている。

原作について

作者スターリング・ノースの少年時代の思い出を綴った自伝的小説。11歳の夏、ウェントワースの森で見つけたアライグマにラスカルと名前をつけ、共に暮らした1年間を叙情的に描いた。ダトン動物文学賞他、数多くの賞を受賞。



はるかなるわがラスカル

訳：亀山龍樹
発行：角川書店
（絶版）

〈原作者〉

スターリング・ノース

1906－1974

ウィスコンシン州南部のコシュコノング湖近くで生まれる。新聞記者、文芸編集などジャーナリストとして活躍した。作家としても小説や絵本、児童向け物語、詩作の作品があるほか、自ら総編集長を務めた子供のための伝記シリーズがある。

『ラスカル』は本当にあった物語

主人公の少年スターリングは、実在の人物である。『ラスカル』は、彼が出会ったアライグマとの出会いと別れを、思い出という形で物語ったものだ。

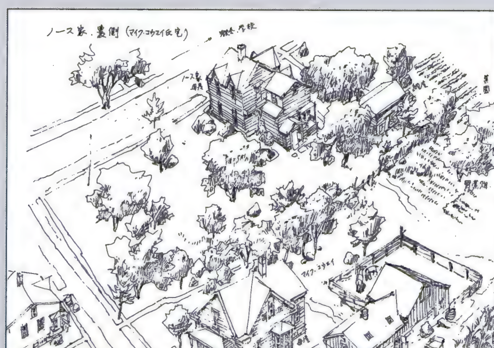
〝一部のあまり感じのよくない人だけは仮名にした〟と原作の冒頭に書かれているように、多少の脚色はあるものの、ほぼスターリング自身の体験に基づくドキュメンタリー小説で、舞台になった町も存在している。ブレールスフォードとして描かれているのは、ウィスコンシン州南部の町、エジャトン。スタッフはここで得たイメージを元にアニメの風景を創造していったのである。



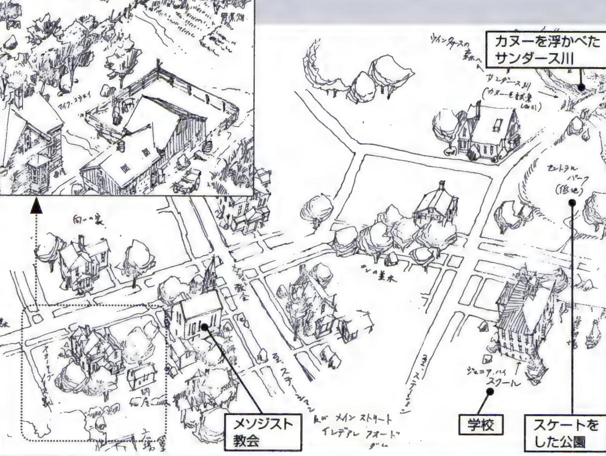
アリスとその家族は、アニメオリジナルエピソード。

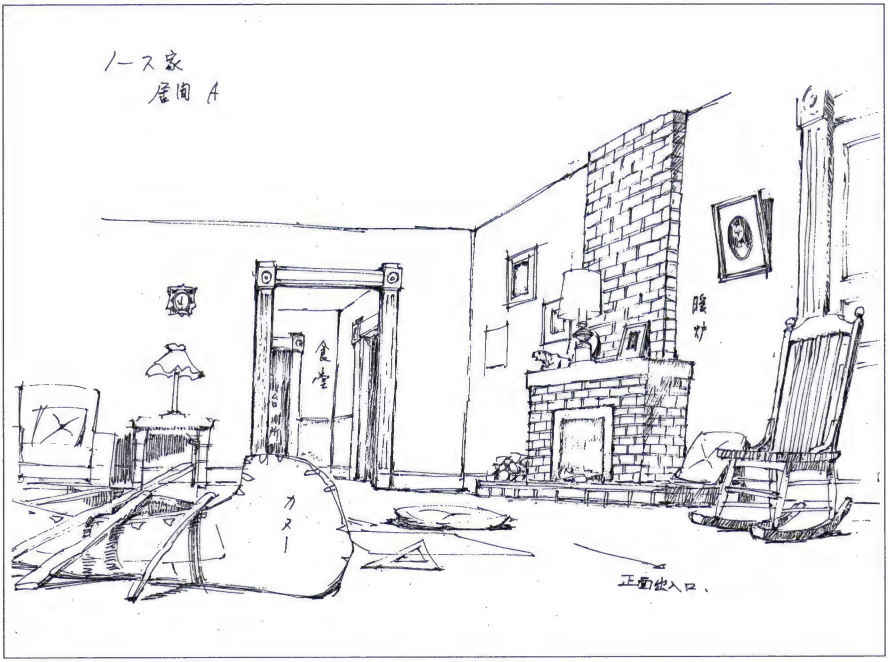
アニメの設定による ブレールスフォード

ノース家から学校、サンダース川の付近の位置関係がわかる。オスカーの家とアリスの家はこの地図の外にある。家の数などは省略されているが、ほぼ実際のエジャトンの町のとおり。



裏手から見たノース家とその周辺。通りに面してノース家が建ち、裏手はマイク・コンウェイの馬場と接している。ノース家は小さいながらも菜園がある（図左上）。





ノース家居間／井岡雅宏

メインスタッフ

脚本	宮崎晃／加藤盟／太田博／太田省吾／佐藤嘉助
音楽	渡辺岳夫
レイアウト	坂井俊一
キャラクターデザイン	遠藤政治
絵コンテ	池野文雄／奥田誠治／御厨恭輔／富野喜幸／斎藤博／山崎修二　ほか
作画監督	桜井美知代／遠藤政治／小川隆雄
作画監督補佐	水田めぐみ
美術監督	井岡雅宏
撮影監督	黒木敬七
録音監督	浦上靖夫
作画	坂井俊一／稲山昇／牛越和夫／戸倉健二／宮崎駿　ほか
プロデューサー	中島順三／加藤良雄
監督	遠藤政治／斎藤博／腰繁男

オープニングテーマ「ロックリバーへ」
作詩：岸田衿子
作曲：渡辺岳夫
編曲：松山祐士
歌：大杉久美子／セントメリーチルドレンコーラス／コロムビアゆりかご会

エンディングテーマ「おいでラスカル」
作詩：岸田衿子　作曲：渡辺岳夫
編曲：松山祐士　歌：大杉久美子

愛少女ポリアンナ物語（ストーリー）

Pollyanna

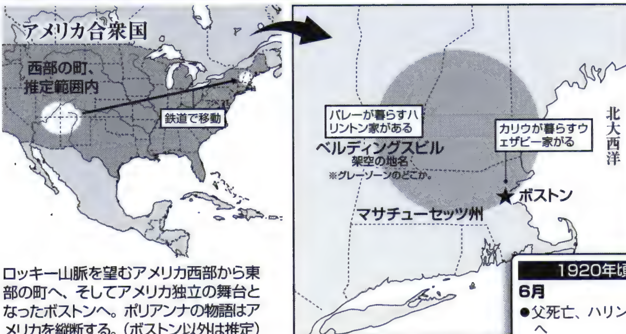




愛少女ポリアンナ物語（ストーリー）



物語の舞台



ロッキー山脈を望むアメリカ西部から東部の町へ、そしてアメリカ独立の舞台となったボストンへ。ポリアンナの物語はアメリカを縦断する。（ボストン以外は推定）

ストーリー解説

たったひとりの肉親を亡くしたポリアンナは、父の遺言から叔母に引き取られることになり、西部から遠い東部の町ベルディングスビルへと向かっていた。そこで初めて会う叔母のパレーを想い、期待で胸をふくらませるポリアンナ。ところが待っていたのは、冷たいパレーの顔と粗末な屋根裏部屋だった。

　パレーの困惑をよそに、人好きなポリアンナは朗らかに毎日を楽しんでいた。彼女の十八番はどんなときにも喜びを見つけられること。牧師だった亡き父が教えてくれた遊び「よかった探し」が、ポリアンナをいつでも明るく振る舞える少女にしていた。そんなポリアンナに接するうち、ひと癖もふた癖もある周囲の人々も少しずつ変化していく。やがて気むずかしいパレーの心さえもほぐれていくのだった。

1920年頃

6月
- 父死亡、ハリントン家へ

7月？
- ペンデルトン骨折

8月末
- 交通事故

？月
- ボストンで手術

？月
- パレー結婚式

？月
- ポリアンナボストンへ

12月
- カリウ家でパーティ

1921年

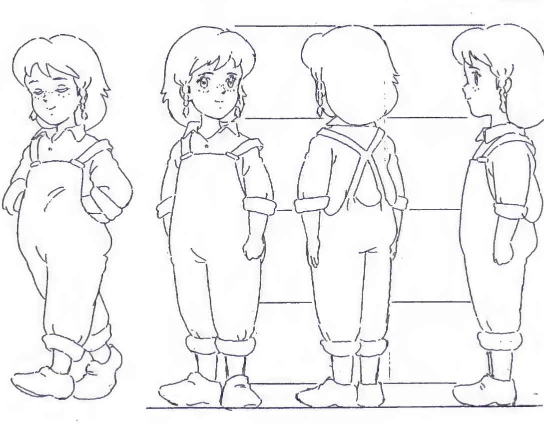
？月
- ボストンから帰宅

？月
- チルトン死亡

？月
- カリウ、ベルディングスビルへ

？月
- ジミーの正体判明

冬
- 最終回ラストシーン



ポリアンナの全身設定。

放映期間	1986/01/05～1986/12/28
話数	51話
原作	エレナ・ホグマン・ポーター「少女パレアナ」「パレアナの青春」
備考	87年日本アニメフェスティバル・アトム賞受賞

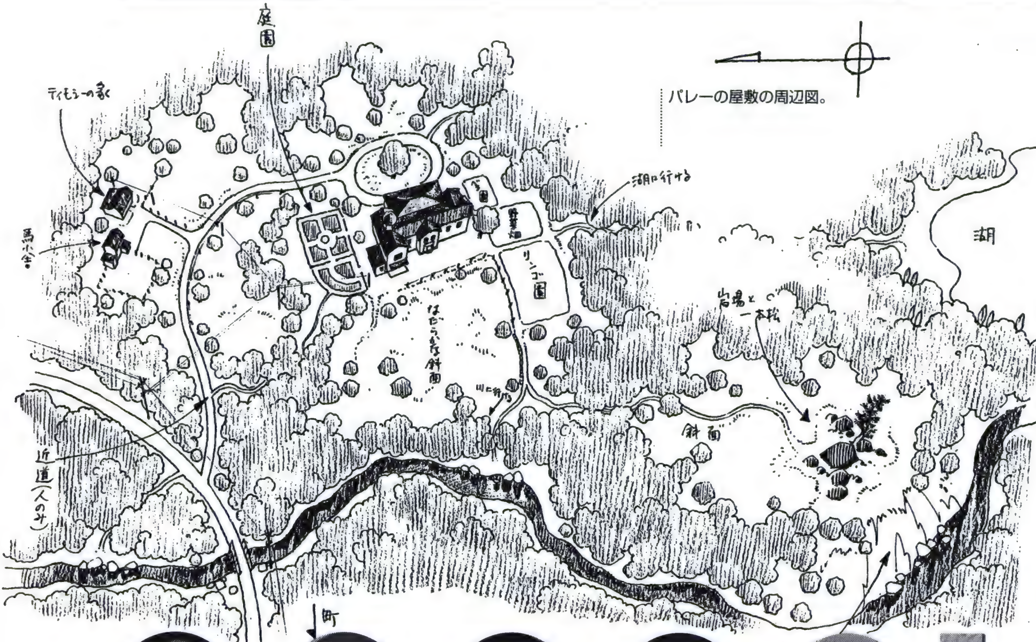
History

20世紀初頭、アメリカ西部から東部へ。町には自動車が馬車を駆逐し、世はオートモービルの時代へさしかかっていた。

19C
- 1825　蒸気機関車実用化（英）
- 1837　ビクトリア女王即位（英）
- 1861　アメリカ南北戦争（～1865）
- 1863　奴隷解放宣言
- 1868　明治維新（日）
- 1869　最初のアメリカ大陸横断鉄道完成
- 1877　スワンボートできる
- 1897　ボストンに最初の地下鉄開通

20C
- 1903　ライト兄弟飛行機を発明
- 1908　T型フォード発売
- 1914　第1次世界大戦（～1918）
- 1929　世界恐慌
- 1939　第2次世界大戦（～1945）
- 1969　アポロ11号月面着陸

21C



パレーの屋敷の周辺図。

キャラクター紹介



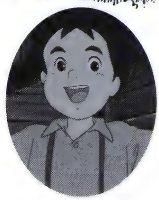
ジョン・ペンデルトン
森の奥の大きな屋敷にひとりで住む変わり者。



トーマス・チルトン
ベルディングスビルの町医者。独身。



パレー・ハリントン
"義務"からポリアンナを引き取る。ハリントン家当主。



ジミー・ビーン
孤児院から出てきた少年。短気でそそっかしい熱血漢。

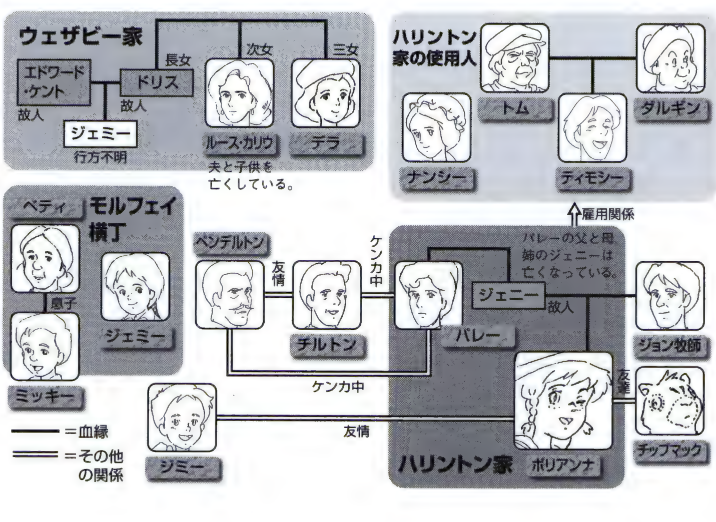


ポリアンナ・フィティア
人好きで明るい少女。十八番は父直伝の「よかった探し」。



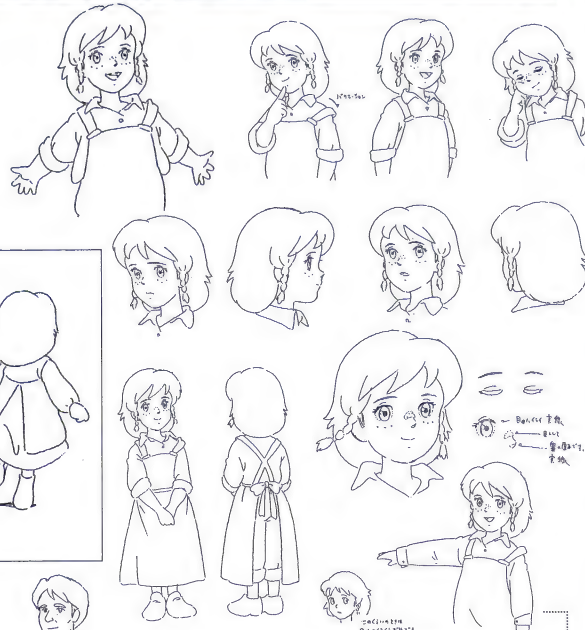
ナンシー・ハートレー
ハリントン家の召使い。ポリアンナを守るという使命に燃える。

相関図

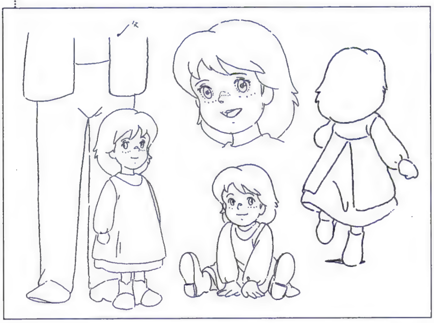


ポリアンナ・フィティア

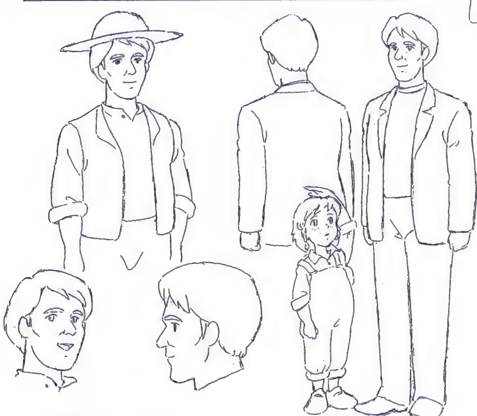
明るく元気な少女。幼い頃母を亡くし、牧師の娘として、父と婦人会の人たちに育てられた。そのため彼女の話題は婦人会のことが多い。
父の教えてくれた「よかった探し」が、後までポリアンナに大きな影響を与え彼女を元気づけていく。8歳。（声：堀江美都子）



あどけなさが残る4歳の頃のポリアンナ。



ポリアンナのオーバーオール姿。新しい服を買ってもらった後も、散歩のときはこの服を好んで着ていた。そのため泥棒に間違われたことも。もともと慰問箱に入っていた服で、ちょっとだぶだぶ。



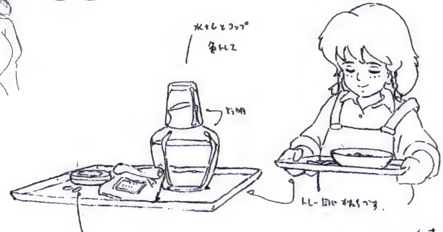
ジョン
貧しいが誠実で情熱家だったジョン牧師。ポリアンナに「よかった探し」を教える。（声：田中秀幸）



ポリアンナ西部時代のスタイル。

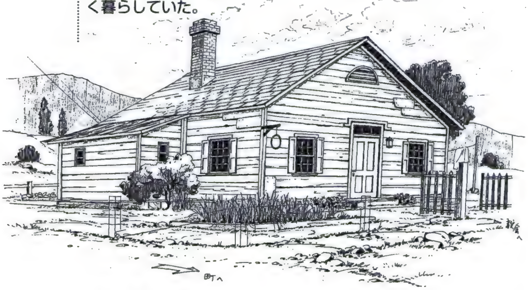


教会の隣に住んでいるホワイト夫妻。忙しい牧師に代わってたびたびポリアンナの面倒をみていたが、ポリアンナのしつけについて夫婦で意見が分かれることもしばしば。（声：阪脩／ホワイト氏、寺島信子／ホワイト夫人）





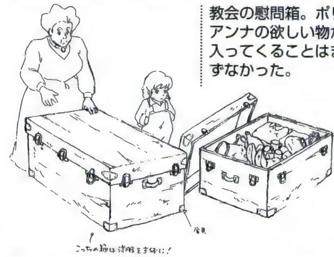
ポリアンナが倒れた父のために作ったオートミール。ホワイトのおばさんがくれたもの。西部にいた頃はパンとミルクがあれば幸せという貧しい生活だった。



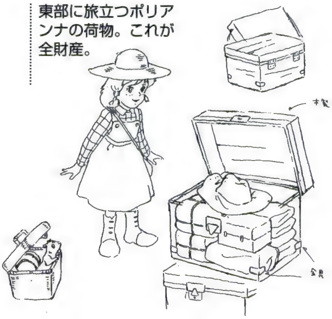
西部の町の牧師館。ここで父娘はつましく暮らしていた。

よかった探しとは？

ポリアンナが4歳の頃、母が亡くなり父とふたりきりの寂しい毎日が始まった。そんなとき、ふたりは聖書の中から「喜べ」や「楽しめ」の言葉を探し出す。喜びの言葉を800回も見つけてはしゃぐポリアンナに、父は「毎日のいろいろなことの中から喜びを探してごらん。きっとどんなことにも“ああうれしい”“ああよかった”って思えることがあるはずだよ」と言う。その日からポリアンナのよかった探しが始まった。



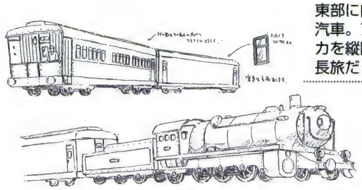
教会の慰問箱。ポリアンナの欲しい物が入ってくることはまずなかった。



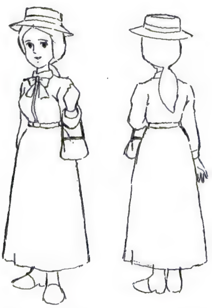
東部に旅立つポリアンナの荷物。これが全財産。



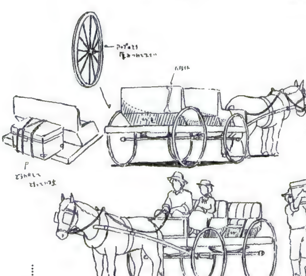
ポリアンナの喪服。



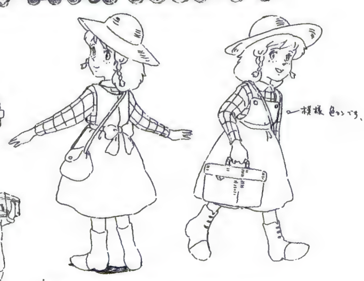
東部に向かう汽車。アメリカを縦断する長旅だった。



ナンシー。パレーに代わりポリアンナを迎えに行くときのスタイル。パレーに間違えられ、大慌て。



ハリントン家の馬車。都会は自動車が走る時代だが、田舎はまだ馬車が現役。



東部へ出立するときの服。赤のチェックのブラウスに麦わら帽子。アニメで格子柄を描くのは大変難しいが、原作の描写に忠実に描写されている。

ストーリー紹介 1〜4話

1話　教会の小さな娘
幼い頃に母を亡くしたポリアンナは、アメリカ西部の小さな町に牧師の父とふたりで暮らしていた。ポリアンナの心配事は父が病気がちなことだった。

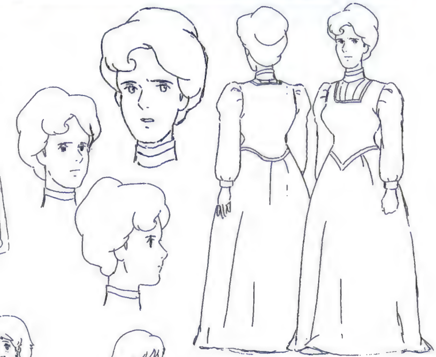
2話　死なないで父さん
ポリアンナの願いもむなしく、父は二度目の発作を起こした。そして「よかったを探すんだ」とポリアンナに言い残し、帰らぬ人になってしまう。

3話　丘の上の賛美歌
悲しみのポリアンナは、東部のベルディングスビルに叔母がいると知らされる。そこへ行くようにという父の願いを知ったポリアンナは出立の決意をした。

4話　見知らぬ町へ
ポリアンナはベルディングスビルのパレー叔母さんと暮らす事になった。ポリアンナはパレーの綺麗な屋敷を見て感激し、さらに叔母と対面して大喜び。だが、パレーは冷たい表情を見せる。



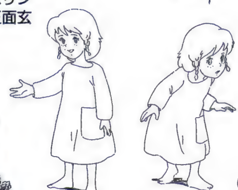
ナンシー・ハートレー
ハリントン家の新米のお手伝いさん。パレーの冷たさにハリントン家をやめようとするが、ポリアンナを守るため残ることを決意する。
（声：藩恵子）



パレー・ハリントン
ハリントン家の現当主。両親も姉も亡く、ひとりで家を守っている。（声：野沢雅子）



パレー・ハリントン家の正面玄関側。



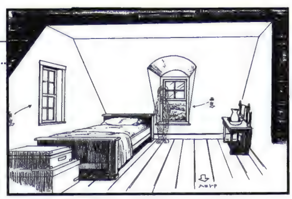
ポリアンナの寝間着。西部から持ってきたお古。



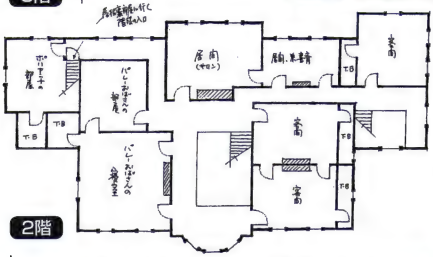
姉の忘れ形見ポリアンナを引き取ったのは、生来の義務感からのはずだった。



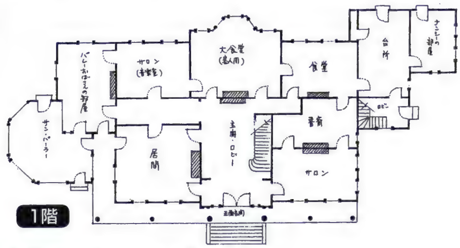
3階



ポリアンナの部屋。



2階



1階

ハリントン家見取り図。ポリアンナにあてがわれたのは3階の屋根裏部屋。いくら義務で引き取ったとはいえ、これだけ部屋があるのに屋根裏とは、露骨な拒否の表明に他ならない。

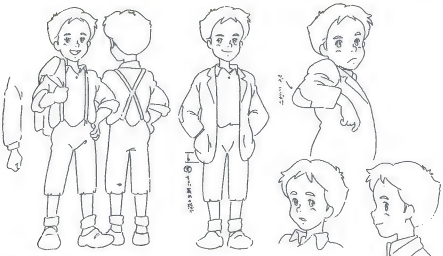
ストーリー紹介 5～8話

5話 ナンシーの約束
ポリアンナは寂しさからひとり丘の上に来ていた。探し回ってようやくポリアンナを見つけたナンシーは、ポリアンナからよかった探しの話を聞く。

6話 新しい服騒動
ポリアンナは母のことを知る庭師のトムに会って大喜び。午後、パレーはポリアンナの身支度を整えるため、ポリアンナをつれて町へ出かけるのだが……。

7話 うれしいおしおき
パレーはポリアンナにハリントン家にふさわしい教養を身につけさせようと日課を出す。その日、日課を終えて散歩に出たポリアンナはひとりの少年と出会う。

8話 不思議な紳士
ポリアンナは散歩に出では道行く人に声をかけて回っていた。ある日、不機嫌そうな顔をした紳士に出会ったポリアンナは、さっそく話しかけるが……。



ジミー・ビーン
孤児院で暮らす、短気だが正義感あふれる少年。ポリアンナと出会ったことで大きく人生が変わることに…。（声：山田栄子）



トム・ペイソン
ハリントン家に昔から仕える庭師。まだ幼かった頃のポリアンナの母ジェニーのこともよく知っている。（声：緒方賢一）





ペンデルトンの愛犬タリム。主人と顔までそっくり。

ジョン・ペンデルトン
10年以上も町の誰とも口を利かず暮らす変わり者。ポリアンナに話しかけられても無視していたのだが…。（声：銀河万丈）

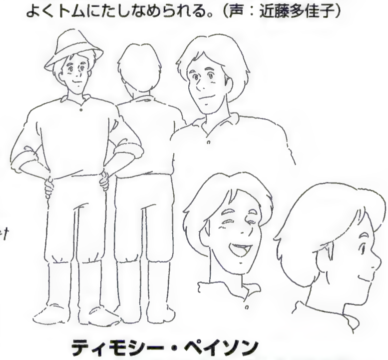


ダルギン・ペイソン
トムの妻。ナンシー共々、うわさ話が大好きで、よくトムにたしなめられる。（声：近藤多佳子）





スノー夫人
常に目の前にない物を欲しがる偏屈な老婦人。娘のミリー(右）が裁縫で生計を立てている。



ティモシー・ペイソン
トムとダルギンの息子。働き者の好青年。特技はトランペット。（声：堀秀行）

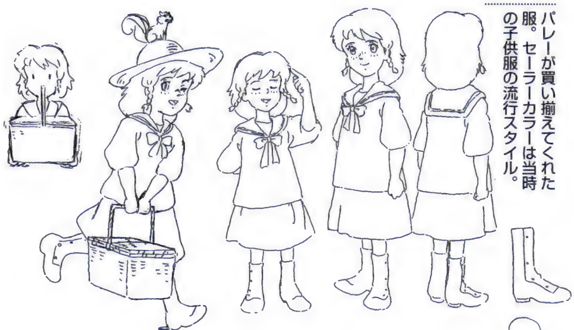
ストーリー紹介 9～12話

9話　放っておけないわ
寝たきりのスノー夫人の所へお見舞いに行ったポリアンナは、ひがみっぽい夫人に「よかった探し」をすすめる。町で、前に森で出会った少年ジミーと再会した。

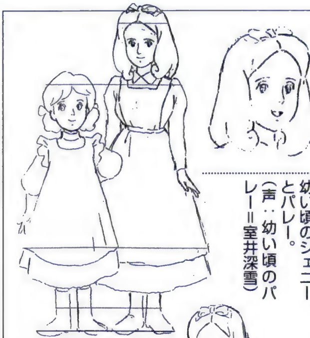
10話　何とかしなくちゃ
ジミーをハリントン家の子供にしてもらおうと考えたポリアンナだったが、ジミーを見たパレーは冷たく追い返し、ジミーも怒ってしまう。

11話　ペンデルトンの森で
ペンデルトンの犬を追って森の奥へ入ったポリアンナ。そこでケガをして動けないペンデルトンに出会い、助けを呼んでほしいと頼まれるのだった。

12話　スノー夫人の驚き
ジミーは、誰にも頼らず小屋を建てて生活することにした。一方、スノー夫人にスープを届けに行ったポリアンナは夫人を喜ばせようと、ある工夫をしていた。



パレーが買い揃えてくれた服。セーラーカラーは当時の子供服の流行スタイル。



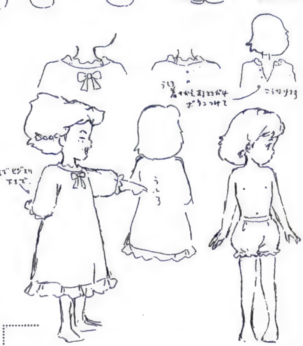
幼い頃のジェニーとパレー。（声：幼い頃のパレー＝室井深雪）



ジェニーは泥だらけの子犬を拾ってくるような優しい子だった。その気立てはポリアンナに受け継がれている。（声：佐々木るん）



母ジェニーの形見の手鏡。

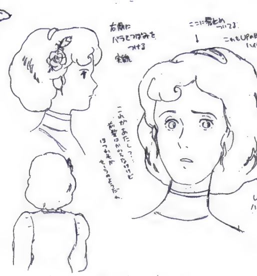


ポリアンナの新しい寝間着。服と顔のせいでぽっちゃりして見えるポリアンナだが、実はかなりきゃしゃ。

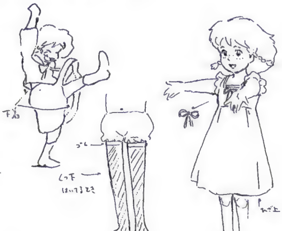


トーマス・チルトン

ベルディングスビルの町医者。ペンデルトンのただひとりの友。ポリアンナと親しくなるがパレーとはいろいろと訳ありらしい。（声：田中秀幸）



ポリアンナに髪を結わされたパレー。美しさにポリアンナは感激するが、その姿をチルトンに見られたとたんパレーは態度を一変、怒り出す。



活発に動きまわるポリアンナの性格を描写するため、下着まで丁寧に設定されている。

ストーリー紹介 13～16話

13話 おば様はお気の毒

チップマックの姿が見えなくなってしまう。ポリアンナと一緒に必死でチップマックを探すナンシーやトムの姿を見てパレーは孤独感を覚える。

14話 手鏡の思い出

ポリアンナの母の形見の手鏡を見たパレー。その手鏡はパレーにとっても思い出深いものだった。パレーの胸に姉のジェニーや両親との楽しい日々が甦る。

15話 不思議な特効薬？

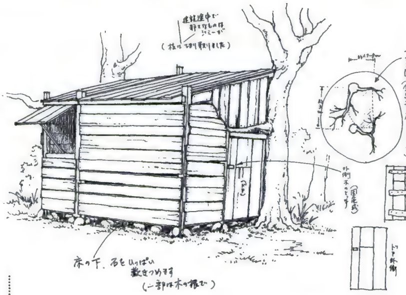
ペンデルトンの見舞いに来たポリアンナ。ペンデルトンはポリアンナが来たことで心を和ませるが、ポリアンナがパレーの姪だと知ると、急に表情を曇らせた。

16話 怒らないで！おば様

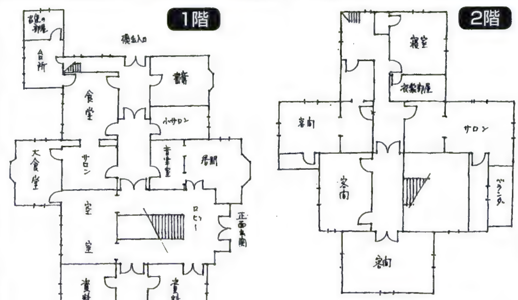
ポリアンナは、パレーに髪を結わせて欲しいと頼む。ポリアンナに乗せられ、髪を結い、ショールを纏ったパレーは遠い昔の心のときめきを思い起こす。



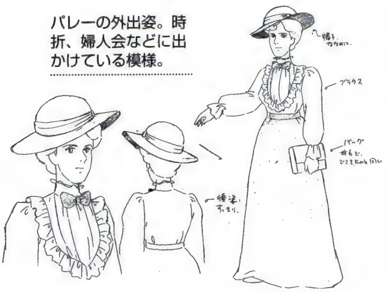
ペンデルトンの屋敷　森の奥にあり、骸骨が隠してあると噂されているが…。



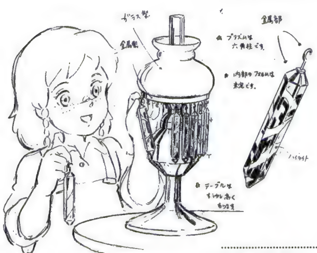
ペンデルトンの森にジミーとポリアンナが建てた小屋。材料はトムからもらった廃材。ふたりはお城ができたと大喜び。



ペンデルトンの屋敷の見取り図。ペンデルトンはこの広い屋敷にエズラとたったふたりで暮らしている。



パレーの外出姿。時折、婦人会などに出かけている模様。



ペンデルトンの寝室にあった燭台のガラスの飾り。これをプリズムにして虹を作った。



岩から落ち骨折したペンデルトン。チルトン曰く、特効薬はポリアンナ。



エズラ
ペンデルトンの使用人。耳が遠いが自分の悪口だけはよく聞こえる。(声：京田尚子)

ストーリー紹介 17〜20話

17話 チルトン先生大好き!
見舞いに来たポリアンナに、ペンデルトンは自分の過去と孤独を語り、また来て欲しいと頼んだ。その帰り道、ポリアンナはチルトンの悲しみを知る。

18話 ペンデルトンの謎
ジミーが作っていた森の小屋が完成した。だが森はペンデルトンの所有地。許可をもらう為にポリアンナはジミーを連れてペンデルトンの屋敷に向かった。

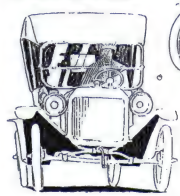
19話 驚くべき秘密
ナンシーからペンデルトンがパレーの昔の恋人に違いないと聞いたポリアンナ。ほどなくペンデルトンから自分と一緒に暮らさないかと持ちかけられる。

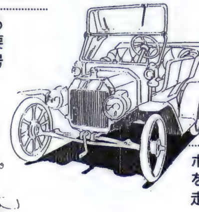
20話 危ない!ポリアンナ
ペンデルトンが昔、恋したのはポリアンナの母だった。ポリアンナを養女にと望むペンデルトン。ポリアンナは悩んだあげくジミーを代わりに養子にしてと頼むが…。



ポリアンナが自動車にはねられたロータリー。ポリアンナはジミーの素性のわかる書類を取りに行く途中、ケガをした小鳥を助けようとしてはねられた。

まだ自動車を運転するのにライセンスは必要なく、速度規制も信号もない時代だった。





ポリアンナをはねた暴走自動車。



ポリアンナの見舞いに訪れたスノー夫人と娘のミリー。一生寝たきりのはずだったスノー夫人。彼女の場合“病は気から”であった。



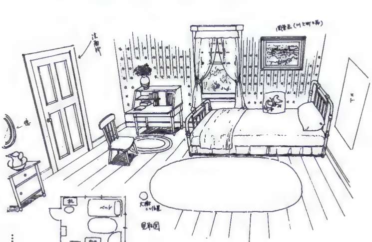
ポリアンナのケガをきっかけにペンデルトンは仲違いしていたパレーを14年ぶりに訪問する。

ウォーレン医師
ハリントン家のかかりつけ医。





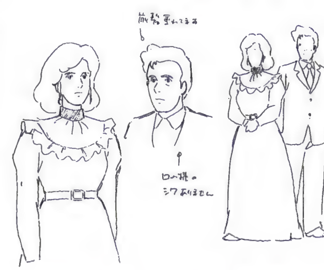
ミード博士
ニューヨークの著名な医師。ポリアンナの足は一生治らないと診断し、パレーたちを奈落の底に突き落とす。



ポリアンナの寝室。最初屋根裏に用意されたが、いつしかパレーの隣部屋に移動。パレーのポリアンナに対する愛情の変化が感じられる。



ジョン牧師とジェニー。家族の反対を押し切り結婚し西部へ旅立つ。いわゆる駆け落ち。



若き日のパレーとチルトン。恋人同士だったが些細なことから大喧嘩！　怒ったパレーは怖い。その後14年に渡り断交。

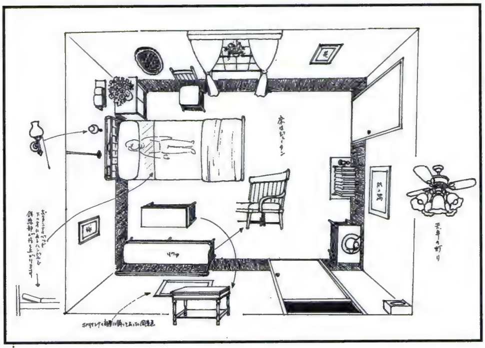
ストーリー紹介 21〜24話

21話　恐ろしい宣告
ジミーの素性がわかる書類を取りに孤児院へ向かったポリアンナは町で自動車にはねられてしまう。診察した医者はパレーにポリアンナの足は一生治らないだろうと告げた。

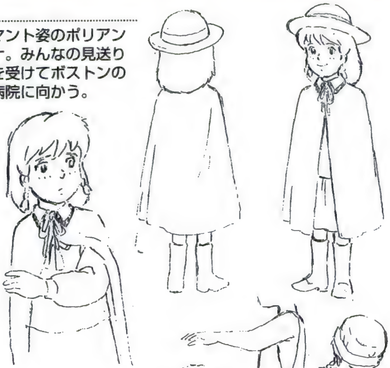
22話　足が動かない!!
パレーと医者の話を聞いてしまったポリアンナはすっかり希望を失い、パレーやナンシーの慰めも受けつけない。一方ジミーは激しく自分を責めていた。

23話　よかったが探せない!
ペンデルトンが突然パレーを訪ねてきた。ジミーを養子にするのでポリアンナに伝えて欲しいという。その話を聞きポリアンナは久しぶりに笑顔を見せた。

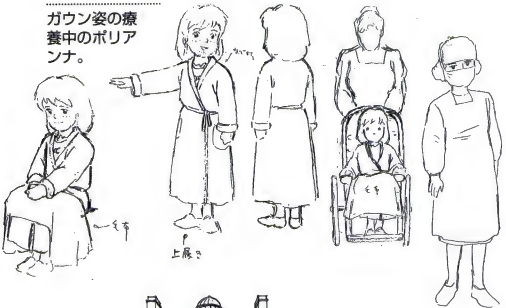
24話　もう一度歩きたい!
ジミーから話を聞いたチルトンは、手術を受ければポリアンナの足が治る可能性があると突き止める。だが、パレーとはケンカ別れをした恋人だった為、安易に連絡ができず苦悩していた。



ポリアンナの病室。看護用部屋も併設された特別室。さすがハリントン家のお嬢様！



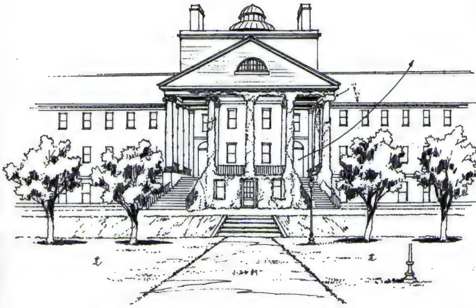
マント姿のポリアンナ。みんなの見送りを受けてボストンの病院に向かう。



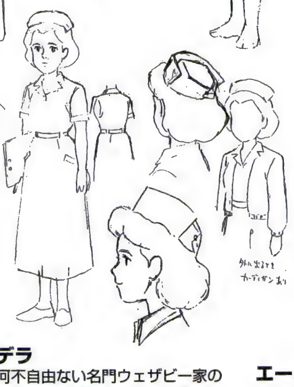
ガウン姿の療養中のポリアンナ。



手術用の服を着けたポリアンナ。手術の成功率はわずか20%だった。



ボストンの病院。第一部の最大の見せ場、幸せに包まれるポリアンナとパレーのシーンの舞台である。



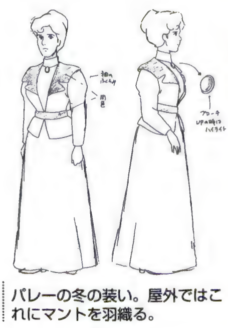
デラ

何不自由ない名門ウェザビー家の子女ながら働く女性。ポリアンナ担当の看護師でエームス博士の信頼も厚い。（声：吉田理保子）



エームス博士

チルトンの大学の先輩。ポリアンナとよく似た症例をいくつも治している。



パレーの冬の装い。屋外ではこれにマントを羽織る。

ストーリー紹介 25～27話

25話 危険な手術

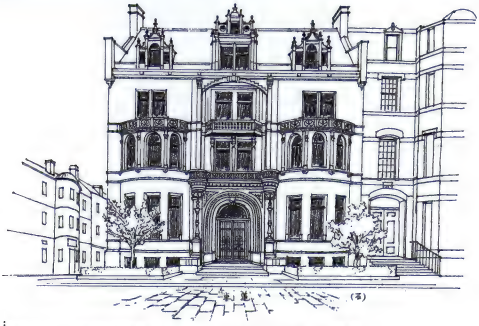
エームス博士の診断を受けることになったポリアンナはボストンの病院へやってきた。手術の成功率は20%。だが、ポリアンナは手術を受ける決意する。

26話 死なないでポリアンナ

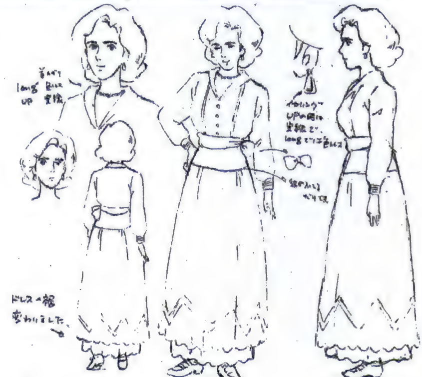
ポリアンナの手術が始まった。見守るパレーの脳裏にはポリアンナが初めてパレーの元にやってきた日からの出来事が走馬燈のように思い起こされていた。

27話 第1部完・愛になりたい

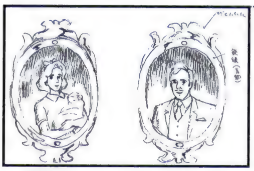
ポリアンナの手術が無事終わり、チルトンはベルディングスビルへ帰る。パレーとチルトンが愛しあっていると知ったポリアンナはある計画を思いつく。



ボストンでも有数の大富豪というカリウ夫人の屋敷。
ポリアンナはその豪華さに圧倒される。



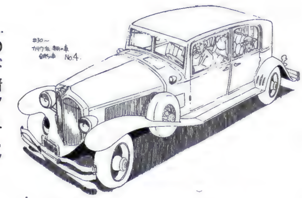
ルース・カリウ
デラの姉。心を病み、6年も家に閉じこもった生活をしている。（声：池田昌子）



カリウ夫人の亡くなった夫と子ども。この他、両親と姉も立て続けに亡くした。



カリウ夫人のイブニングドレス。到着早々のポリアンナに頼まれ着るはめに。早くもポリアンナペース！



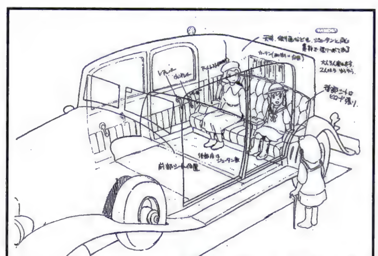
カリウ夫人の自家用車。初めて乗ったポリアンナはタクシーと間違えた。



ポリアンナにボストンの姉の家から通院するよう提案したのはデラ。それは家に閉じこもったきりの姉のためにもなると考えたのだ。



カリウ家の使用人。右から運転手のパーキンス。メイドのメアリ、スーシー、ブリジット。ポリアンナの世話係はメアリ。



乗用車内部。大量生産時代に入っていたとはいえ、このような高級車を持てるのは特権階級に限られていた。

ストーリー紹介 28〜31話

28話 忍びよる影
手術から半年、ようやくポリアンナはベルディングスビルへ帰ってきた。喜ぶパレーだが、ポリアンナのリハビリと診療所の仕事とで疲労が重なっていた。

29話 さよなら！ベルディングスビル
パレーが過労で倒れた。責任を感じ心痛めるポリアンナ。そんなとき、エームス博士からボストンに住むデラの姉の家から通院することを勧める手紙が届く。

30話 大都会ボストンの生活
デラに連れられボストンにきたポリアンナは自動車や豪華な屋敷にただ驚くばかり。中でもポリアンナを驚かせたのはデラの姉、カリウ夫人の美しさだった。

31話 チップマックがいない！
チップマックがいなくなった。リハビリから帰ってもチップマックの姿はない。ポリアンナはチップマックを捜そうとひとりで屋敷を抜け出した。



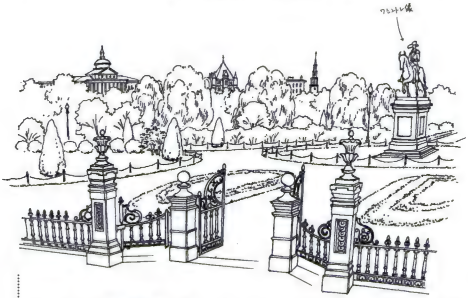
使用人のベス。（声：高木早苗）



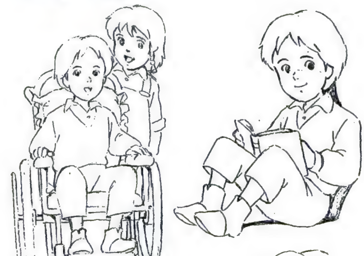
サディ・ディーン
カリウ家の隣に住むお嬢様。初めポリアンナを泥棒と間違えるが、オーバーオール姿のポリアンナを見れば当然か？（声：佐久間レイ）



カリウ夫人の屋敷の俯瞰図。カリウ夫人の屋敷はボストンの高級住宅街コモンウェルス並木通の一角に立つ。

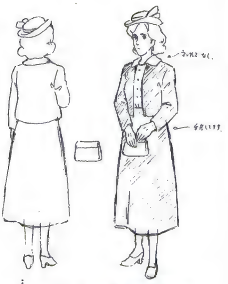


ボストン公園に隣接するパブリックガーデン。コモンウェルス並木通はこの公園前から始まる。奥に見えるのはワシントン像。





ジェミー
両親は亡く、名字も不明。ボストン公園でリスにエサをやる心優しい車イスの少年。本が大好きで、あだ名は“若君ジェームス”。（声：渡辺菜生子）



カリウ夫人の外出着。ポリアンナと教会に行ったときに着ていたもの。



カリウ夫人の両親。フランク・ウェザビーと妻グロリア。



カリウ夫人と姉のドリス。ドリスの病死後夫は息子をつれて消えた。



カリウ夫人の姉の夫エドワード・ケントと息子のジェミー。ふたりは突然行方不明になる。

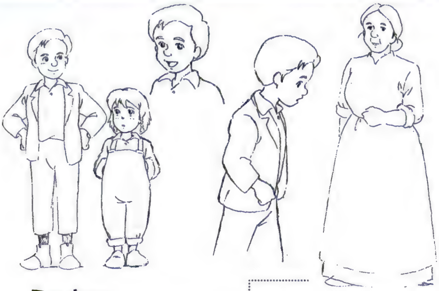
ストーリー紹介 32〜35話

32話 迷子のポリアンナ
チップマックを捜しに屋敷を出たポリアンナは、道に迷ってしまう。疲れて動けなくなったポリアンナを助けてくれたのは、新聞売りの少年ミッキーだった。

33話 チップマックはどこ?
チップマックは公園でリスの世話をしている車イスの少年の元にいた。少年と仲良くなったポリアンナは毎日チップマックを連れて来ると約束をする。

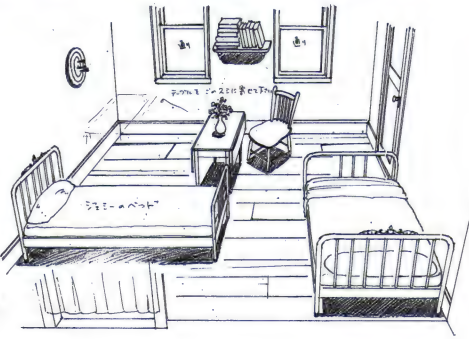
34話 カリウ夫人の悲しい秘密
お金持ちで何不自由なく暮らすカリウ夫人に、よかった探しはできないと言うポリアンナ。それを聞いたカリウ夫人は自分の辛い過去を語って聞かせた。

35話 若君ジェームス
カリウ夫人から行方不明の甥ジェミーの話を聞いたポリアンナは、何とかジェミーを見つけようと決心。さっそくミッキーに相談に出かけるのだった。

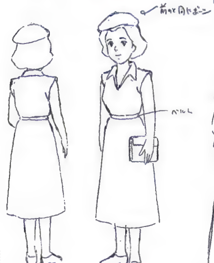


ミッキー
迷子のポリアンナを家まで送ってくれた気のいい新聞売りの少年。（声：頓宮恭子）

かあや。ミッキーの母。身寄りのなくなったジェミーを引き取って育てている。貧しくとも誇りを失わない。



モルフェイ横丁にあるジェミーやミッキーの暮らすボロアパート。カリウ夫人は自分の所有する物件だと知りショックを受ける。



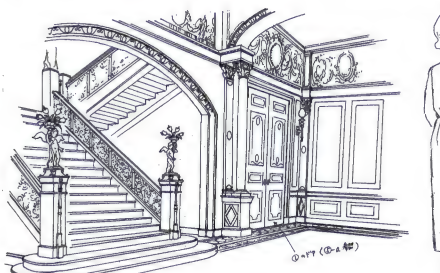
デラの夏服。彼女の服はお嬢様らしからぬ実用重視。姉とは好対照である。



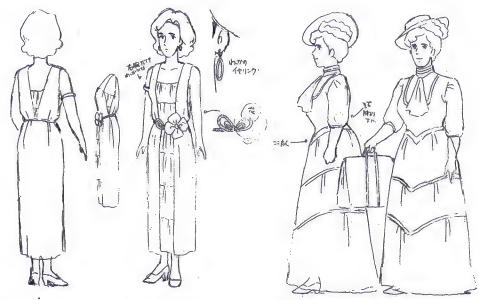
カリウ夫人の寝間着。



都会で暮らすカリウ夫人と田舎で暮らすパレーとでは装いにかなりの違いがある。カリウのそれは1920年代の最新流行スタイル。



玄関方向から見た中央階段。カリウの初登場シーンが印象的。ポリアンナはときどきこの階段に腰掛ける。



ポリアンナを訪ねてきたパレーとカリウ夫人はすっかり意気投合。それもそのはず？　実はふたりの声は鉄郎とメーテル。

ストーリー紹介 36～39話

36話 路地裏の天使
車イスのジェミーが、甥のジェミー・ケントか確かめるため、カリウ夫人はポリアンナとジェミーのアパートを訪ねる。だが手がかりは何も得られなかった。

37話 本当のジェミーが欲しい!!
ジェミーを引き取ればというポリアンナ。悩むカリウ夫人はジェミー・ケントを知るデラとブリジットを連れて再度ジェミーの住むアパートを訪れる。

38話 どうして幸福になれないの?
引き取りたいという申し出をジェミーに断られ、腹を立てるカリウ夫人。一方、ポリアンナの治療は終わりベルディングスビルへ帰る日が迫っていた。

39話 さよならパーティ事件
ポリアンナのさよならパーティが開かれることになった。ジェミーやミッキーも招待された。そんなとき、パレーがカリウ夫人の屋敷を訪ねてきた。

カリウ邸



チルトンの診療所を手伝うパレー。彼女にとっては初めての勤労体験。

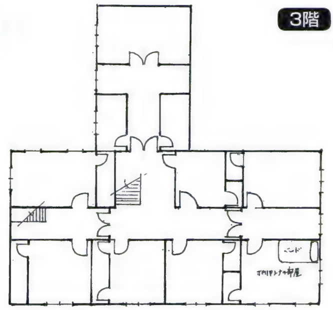
往診の帰り、チルトンは雷雨の中、帰宅を急ぎ馬車を走らせるが…。

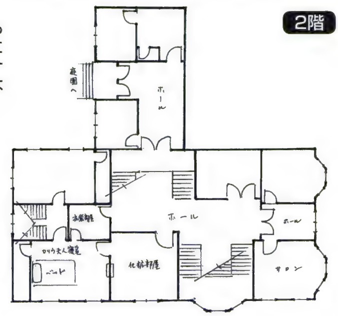






喪服姿のポリアンナたち。悲劇は前触れもなく襲いかかった。

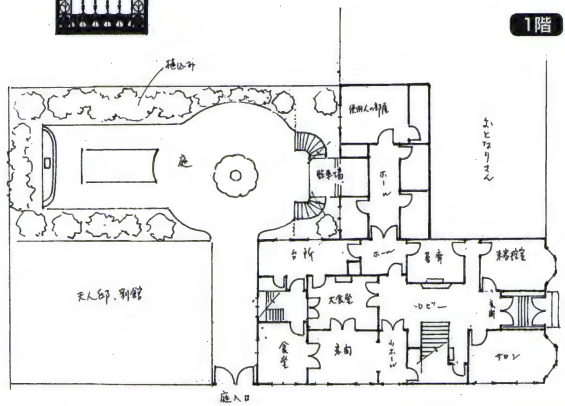




カリウ邸の見取り図。外観から見るより中はずっと広い。本宅に隣接して別館もある。ポリアンナの部屋は本館3階。中庭はさよならパーティの会場になった。



屋敷のドアのデザイン



ストーリー紹介 40～43話

40話 たのしいボストン見物

パーティ以来ポリアンナとすっかり打ち解けたサディとジェミー。ボストン滞在の記念にカリウ夫人はポリアンナらを誘いボストン見物に出かけた。

41話 嵐のはじまり

ベルディングスビルへ帰ってきたポリアンナの全快祝いのパーティが開かれることになった。トムやナンシーらの使用人も招かれ、パーティはあたたかな雰囲気に包まれた。

42話 失われた帰り道

パーティの最中、患者から電話が入り、嵐の中チルトンは往診に出る。その帰り道、落雷で馬車を失ったチルトンは徒歩で家に向かうが、再び雷鳴が轟き…。

43話 死なないでチルトン先生!

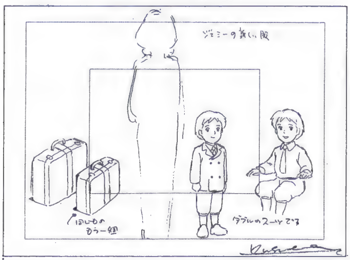
崖から転落したチルトンは、助け出されてパレーとポリアンナの待つ家に戻るが、その命は尽きようとしていた。それはあまりにも突然の別れだった。



パレーの屋敷の居間兼客間。奥のドアはサンパーラーへ続いている。



パレーの屋敷の正面玄関。第一部のOPでポリアンナが飛び出してくるのがここだ。



もともと品のあるジェミーだったが、カリウ夫人に対する振る舞いは、貧しい育ちを一切感じさせない。



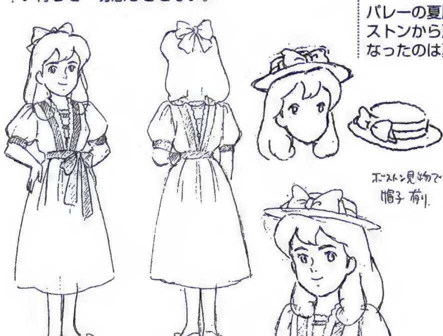
パレーの夏服。ポリアンナがボストンから戻りチルトンが亡くなったのは夏のことだった。



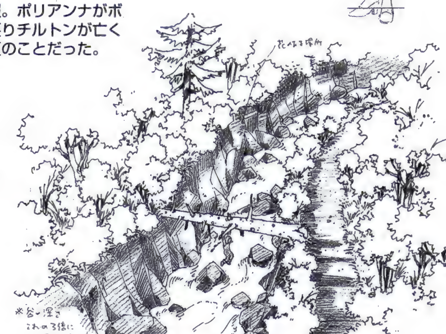
ボストンへ帰る前日のカリウ夫人の服。



カリウ夫人がパレーの屋敷を訪問したときの服。パーティドレスからスーツまでカリウ夫人はTPOに合わせ様々な衣装を着こなす。



サディはいつしかポリアンナたちとすっかり仲良しに。デラに連れられベルディングスビルへやってきた。



ポリアンナが落ちそうになった谷川。ポリアンナは向こう岸の花を摘もうと中央の倒木を渡ろうとして足を滑らせた。

ストーリー紹介 44～47話

44話 悲しみをのりこえて

チルトンを失って悲しみに暮れるパレー。ポリアンナは何とか元気づけようと明るく振る舞うが、ポリアンナの心遣いも今のパレーには届かないのだった。

45話 荒れた花園

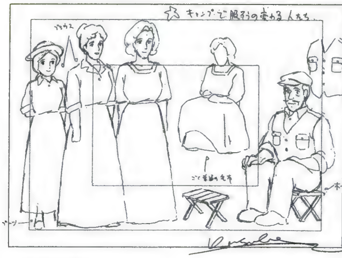
ポリアンナとパレーを励まそうとカリウ夫人とジェミーが訪ねてきた。ジェミーに庭を案内していたポリアンナはバラ園が荒れ放題になっているのに驚く。

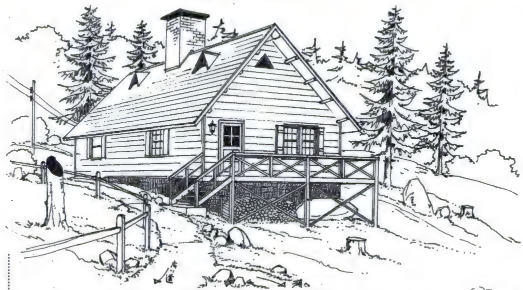
46話 ジェミー・ケントの謎

カリウ夫人の励ましにパレーは少しずつ悲しみを乗り越えていく。そんなときジミーを見たカリウ夫人は、ジミーに見覚えがある気がするという。

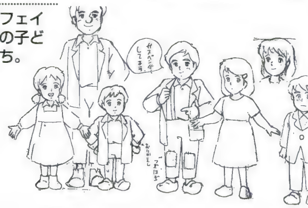
47話 危険な遊び

ジミーはジェミーと会うと、たちまち仲良くなった。そこへサディも訪ねてきた。ジミーとサディもすぐに打ち解け、４人の楽しい休暇が始まった。





ポリアンナたちが夏の最後の思い出作りに訪れた山荘。若き日のチルトンやペンデルトンも利用した思いで深い場所。



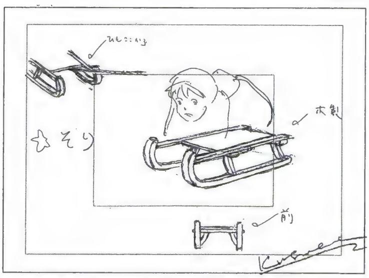
モルフェイ横丁の子どもたち。



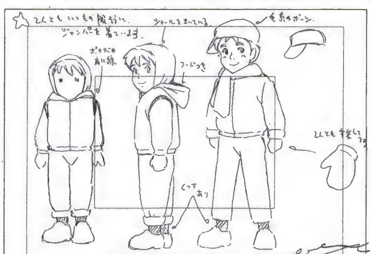
カリウ邸のクリスマスツリー。クリスマスパーティにはミッキーやモルフェイ横丁の子どもたちも招かれた。



カリウ夫人のクリスマス時の衣装。



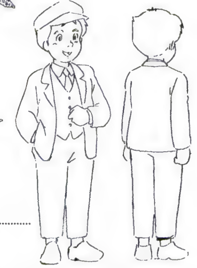




最終回。冬を迎えたベルディングスビルでポリアンナとジミーのソリ遊びで物語の幕を閉じる。



パレーのクリスマスの時の服。



ペンデルトンの養子になり、ジミーも今やすっかりおぼっちゃま。

ストーリー紹介

48～51話

48話 助けて！ ジミー

ポリアンナが深い谷に落ちそうになった。ジミーがポリアンナを助け上げるが、何もできなかったジミーは深い悲しみと自分の無力さを覚えていた。

49話 解きあかされた過去

カリウ夫人はジミーが甥のジェミー・ケントではないかという。ポリアンナはジミーの素性がわかるかも知れない書類についてパレーに相談することにした。

50話 ボクがジェミーだ！

開封した書類にはジミーがジェミー・ケントだと書かれていた。悩むジミーだったが、この先もジミー・ペンデルトンとして生きることを決意する。

51話 幸福はすぐそばに

ジミーがジェミー・ケントだとジェミーに知られそうになるが、機転を利かせて場を納めたのはペンデルトンだった。皆でパレーの山小屋へ行くことになった。

作品コラム

ポリアンナの楽しいボストン見物

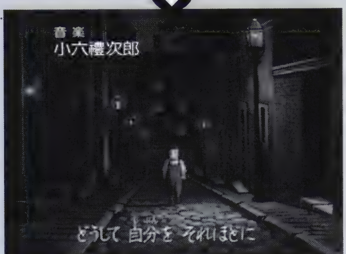
第2部のオープニングでポリアンナが彷徨う町の景色。実はこれ、マサチューセッツ州ボストンの観光名所のオンパレード。ポリアンナのボストン案内は、アニメ『サザエさん』のオープニング西洋版ともいえるだろう。

本編でも、迷子になったポリアンナがボストン中を歩き回ったり、カリウ夫人を伴ってボストン見物したりと、たっぷり町を案内してくれる。かなり正確に描かれているので、ポリアンナを見ながらボストン見物はいかがだろう？

第2部オープニングより



ポリアンナの背後は、ノースエンドにある独立戦争の立役者、ポール・リビアの銅像。



ビーコンヒルにあるエーコンストリートの石畳。観光ポスターにもよく登場する場所だ。



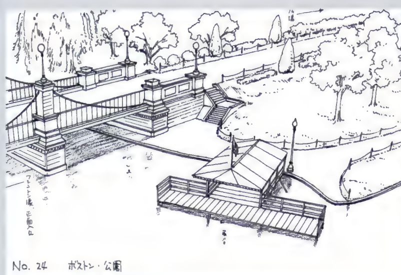
白鳥に乗って旋回するのは旧税関の建物。



チャールズ川を越えるポリアンナ。対岸はハーバード大学があるケンブリッジ地区。



カリウ邸の向かいにある通りはコモンウェルス並木通り。ポリアンナが散歩したのは道の中央にある遊歩道。



ボストンコモンに隣接するパブリックガーデンのスワンボート乗り場。現在でも営業しており、休日は家族連れの長い列ができる。



本編中に出てきたボストン公園はアメリカ最古の植物園でもあるパブリックガーデン。スワンボートはここの名物。手前のカモの親子は、同じくパブリックガーデンを舞台にした絵本、『カモさんお通り』を連想させる。

原作について

パレーとの和解までを描いた『少女パレアナ（1913）』の好評を受けて、1915年『パレアナの青春』を発表。発表当時は社会現象になるほどの人気となり、別の作家により外伝が次々に作られた。



少女パレアナ
訳：村岡花子
発行：角川書店



パレアナの青春
訳：村岡花子
発行：角川書店

©角川書店

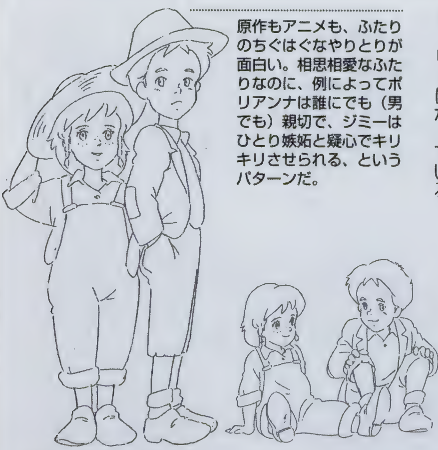
〈原作者〉
エレナ・ホグマン・ポータ
1868－1920

ニューハンプシャー州リトルトン出身。幼い頃から病弱だったが、音楽の才能に優れ、ボストンの音楽学校で学ぶ。結婚後発表した『金髪のマーガレット』で、作家デビュー。恋愛小説や児童向けの物語を書いていたが、『パレアナ』で一躍有名になった。

青春編のはずだった？ 第2部

『ポリアンナ』では、名作シリーズ初の前後編として、原作の続編『パレアナの青春』が後半に挿入された。しかし、スタッフはポリアンナの成長した姿を出すことには抵抗を覚えたという。

「ポリアンナは子供のままでも十分に癒される幸せな子ではないか？」という楠葉監督の判断もあり、ポリアンナとジミー、ジェミーとサディの恋と人間模様は、子供のまま、表現もあくまで子供らしい範囲で描かれることとなった。時間経過を短縮したため、ポリアンナの治癒からすぐチルトン先生の死が訪れるなど、ややたたみかけるような展開になってしまったが、焦点を後半のジミーを巡る謎解きにしぼり、子供にもわかりやすいストーリーになっている。



原作もアニメも、ふたりのちぐはぐなやりとりが面白い。相思相愛なふたりなのに、例によってポリアンナは誰にでも（男でも）親切で、ジミーはひとり嫉妬と疑心でキリキリさせられる、というパターンだ。

◉辞書に載ったポリアンナ

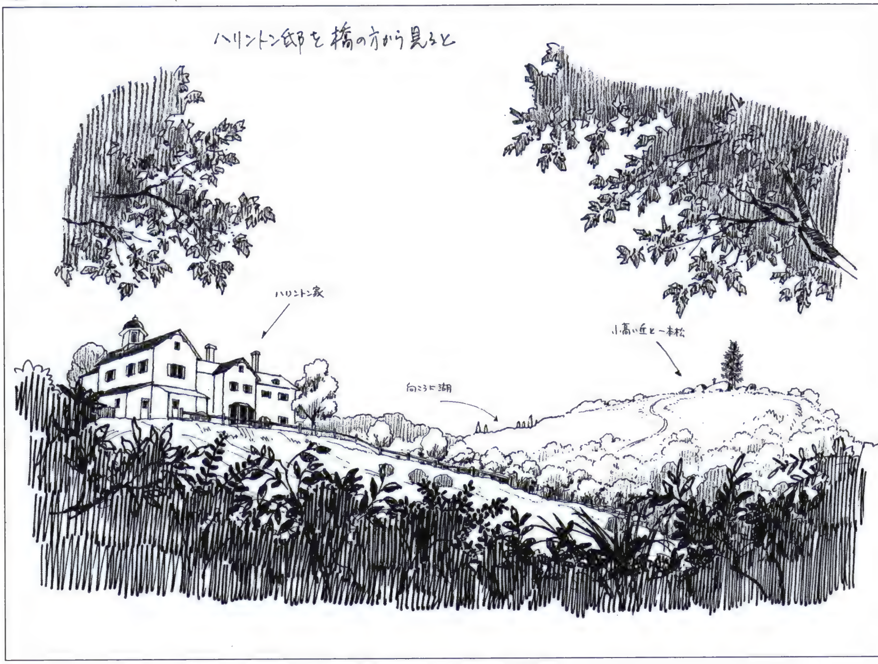
Pollyanna: 非常な楽天家



何事にもポジティブなポリアンナ。原作が発表された当時、「ポリアンナ」の名は一躍社会現象となり、楽天家という意味として辞書にも掲載された。現在は心理学用語にもなっている。活用としてとしてPollyannaish（形）、Pollyannaism（名）などがある。用法：She was no Pollyanna.

ポリアンナとパレアナ

アニメの原作はパレアナでは？　と思うかもしれないが、このPollyannaは、pàlicenəと発音。パともポとも聞こえる。例えばパリヤナやポリアナと訳しても間違いではない。アニメでは子供が呼びやすいことを基準にポリアンナに決定したのだ。ただそのためパレー叔母さんの名前を一部もらったという原作のエピソードは省かれることとなった。なるほどポリー叔母さんだと、どこかの腕白少年の保護者と間違われそうである。



橋から見たハリントン邸／川井憲

メインスタッフ

脚本	久貫千彩子
音楽	小六禮次郎
レイアウト監修	古山匠
キャラクターデザイン	佐藤好春
絵コンテ	矢沢則夫／腰重男／杉村博美／黒川文男／吉田健二郎／片渕須直 ほか
作画監督	佐藤好春
美術監督	川井憲
撮影監督	森田俊昭
録音監督	山田悦司
色指定検査	小山明子
動画チェック	立石良子／中田博文／箕輪博子／林浩一
編集	瀬山武司／笠原義宏／名取信一
プロデューサー	中島順三／石川泰平
監督	楠葉宏三

オープニングテーマ「し・あ・わ・せカーニバル」
作詞：岩里祐穂
作曲：芹沢廣明
編曲：和泉一弥
歌：工藤夕貴

エンディングテーマ「愛になりたい」
作詞：岩里祐穂
作曲：芹沢廣明
編曲：和泉一弥
歌：工藤夕貴

オープニングテーマ「微笑むあなたにあいたい」
作詞：浅見純
作曲：鈴木キサブロー
編曲：矢野立美
歌：工藤夕貴

エンディングテーマ「幸福」
作詞：三浦徳子
作曲：小杉保夫
編曲：矢野立美
歌：工藤夕貴

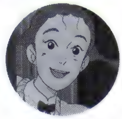


私のあしながおじさん

Daddy-Long-Legs

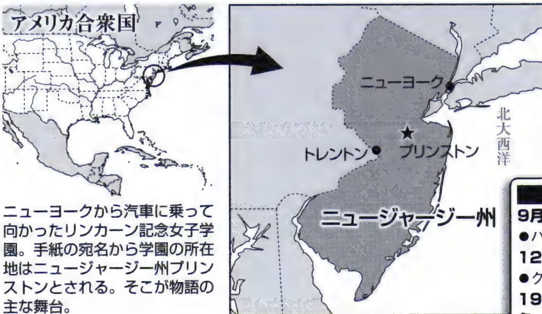


私のあしながおじさん



放映期間	1990/01/14～ 1990/12/23
話　数	40話
原　作	ジーン・ウエブスター 「あしながおじさん」

物語の舞台



ニューヨークから汽車に乗って向かったリンカーン記念女子学園。手紙の宛名から学園の所在地はニュージャージー州プリンストンとされる。そこが物語の主な舞台。

History

第一次世界大戦後のアメリカ。ニューヨークに高層ビルが建ちはじめ、女性のスカートが歴史的に短くなった頃の物語。

ストーリー解説

ジョングリア孤児院で暮らすジュディ・アボット。ある日、ジュディの書いた反省文がある運営委員の目に留まったことから、ジュディのハイスクール行きが決まる。ジュディに課された条件は、月に一度手紙を書くこと、その運営委員の名前は決して明かされないこと、返事は一切もらえないこと。そんな約束事に戸惑いながらも、ジュディは憧れのハイスクールに行ける期待で胸をふくらませる。そして彼に「あしながおじさん」と名付け、心から感謝するのだった。

リンカーン女子記念学園に入学したジュディは、誰ひとり知り合いもない世界で不安と孤独に満たされるが、持ち前の明るさとユーモアで切り抜けようとする。寮で同室となったサリーとジュリアとの友情、ジュリアの叔父ジャーヴィスとの出会い…学院生活のさまざまな出来事を「あしながおじさん」へと綴りながら、ジュディは悩み成長していく。

1920年

9月
- ハイスクールに入学

12月
- クリスマスに金貨5枚

1921年

冬
- おたふく風邪に罹る

4月
- ジャーヴィスに初対面

夏
- ロックウィローへ

9月
- 2年生。サリーの選挙

秋
- 学校創立50周年

10月
- セントジョージ孤児院へ

11月
- レオノラ復学

12月
- レオノラ転校
- サリー宅でクリスマス

1922年

春
- ニューヨーク訪問

6月頃
- 家庭教師のアルバイト

夏
- ロックウィローへ

9月
- 3年生

秋
- ジュリアの家出

12月
- ジュリア宅でパーティ

1923年

冬
- アマサイとキャリーの結婚式

6月

ジュディ卒業式

1927年

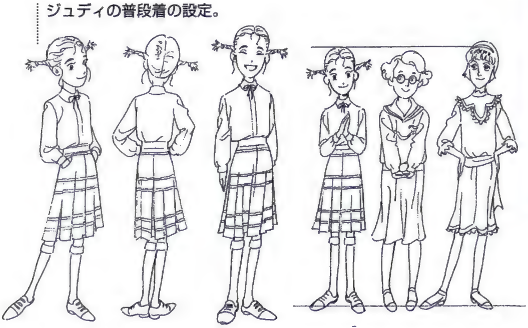
春頃
- ジュディとジャービス結婚式

※手紙の日付から推定

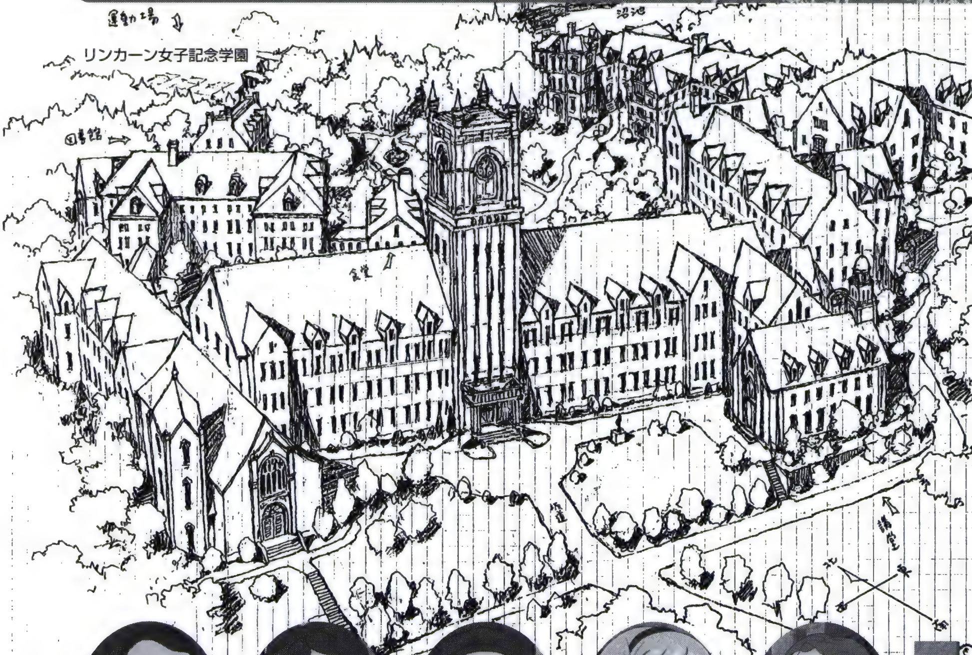
19C
- 1825　蒸気機関車実用化(英)
- 1837　ビクトリア女王即位(英)
- 1861　アメリカ南北戦争(～1865)
- 1863　奴隷解放宣言
- 1868　明治維新(日)
- 1869　最初のアメリカ大陸横断鉄道完成

20C
- 1903　ライト兄弟飛行機を発明
- 1904　ニューヨークに最初の地下鉄開通
- 1908　T型フォード発売
- 1914　第1次世界大戦(～1918)
- 1929　世界恐慌
- 1939　第2次世界大戦(～1945)
- 1969　アポロ11号月面着陸

21C



ジュディの普段着の設定。



キャラクター紹介



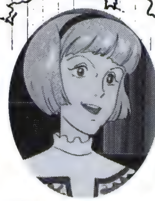
ジミー・マクブライト
サリーの兄で、プリンストン大学在学。フットボールの花形選手。



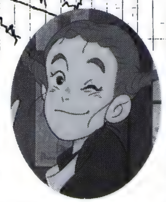
サリー・マクブライト
ジュディの初めての友達。おっとりしているが実は行動派。



ジャーヴィス・ペンデルトン
ジュリアの変わり者の叔父様。お金持ちらしくない美点がある。



ジュリア・ルートレッジ・ペンデルトン
資産家の娘で、気取り屋の自信家だが、彼女も成長していく。

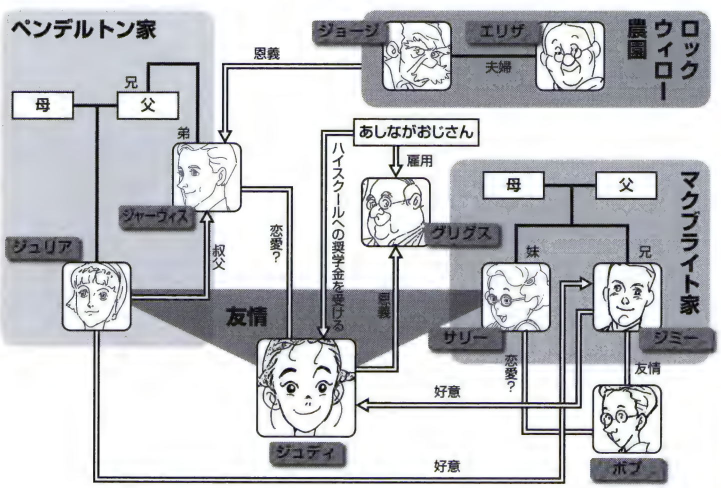


ジュディ・アボット
あしながおじさんの厚意で孤児院から入学。明るくユーモアのある少女。



あしながおじさん
ジュディをハイスクールに通わせてくれる、正体不明のお金持ち。

相関図



——＝血縁
＝＝＝＝その他の関係

ジュディ・アボットとジョングリア孤児院

ニューヨーク下町に捨てられていたジュディが養育されたジョングリア孤児院。ジュディはそこで13歳まで暮らした。ジュディ・アボットの名前は、リペット院長が墓地と電話帳から見つけた名前だという。
（声：堀江美都子）





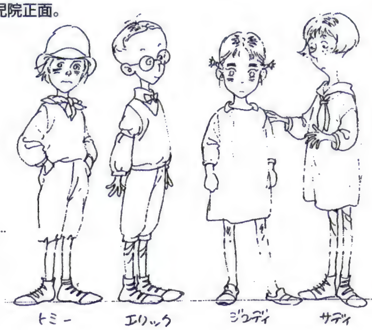
ジョングリア孤児院正面。





ジュディ旅立ちのときのスタイルと幼い頃のジュディ。

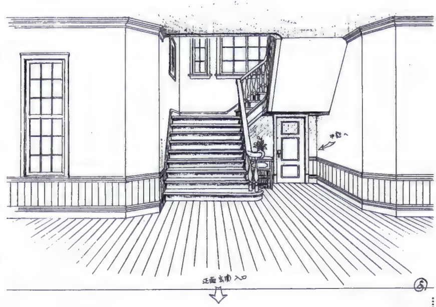




幼い頃のトミー、エリック、ジュディ、サディ（左から）。数年後、この中でジュディだけが奨学金をつかむが…。

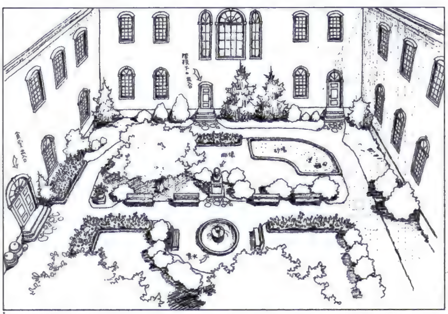


ジョングリア孤児院の寝室。個室どころかプライベートな場所もなく、年頃の少女にはさぞや息苦しさがあっただろう。





ジュディを選んでくれた評議員の影が玄関ホールに長く伸びた。“あしながおじさん”の名前はその影に由来する。



ジョングリア孤児院中庭。子供達が掃除も担当している。



ジュディ5歳の頃（中央）。右から若き日のリペット院長（27歳）とエステル（43歳）。



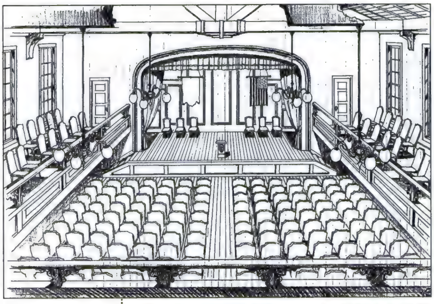
おじ様から届いたドレスで、間一髪で歓迎パーティの衣装が無事整ったジュディ。



支度金を孤児院の友達に使い果たしたジュディ。後から届いたおじ様の荷物に支度の品。もちろんドレスも。



ウォルター・グリッグス
あしながおじさんの代理人。（声：増岡弘）



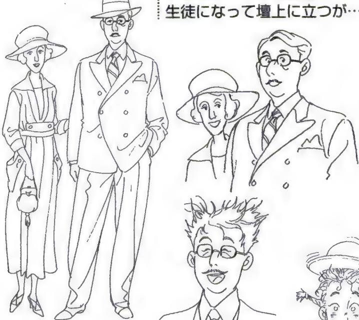
入学式が行われた講堂。サリーは新入生代表生徒になって壇上に立つが…。



ジュリアの両親とサリーの両親。ジュリアの家は大富豪で、サリーの家も裕福そうである。



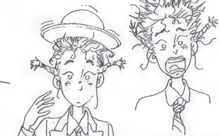
側でジュディの生活を見守り支える彼こそ実務上のあしながおじさん？



サリーの両親。父は東部一の衣料工場を経営、お茶目で優しく髪は相当な癖毛。サリーの他に息子（ジミー）がいる。



おじ様を迎えるため名前を書いたスケッチブック。後にサリーへのカンペとして利用される。



ジュディの髪の寝癖は、帽子をはじき飛ばすほどの威力がある！



入学式の3人娘。サリーが黄系、ジュディが赤、ジュリアは青系。服色は以後もこれが基調となっている。

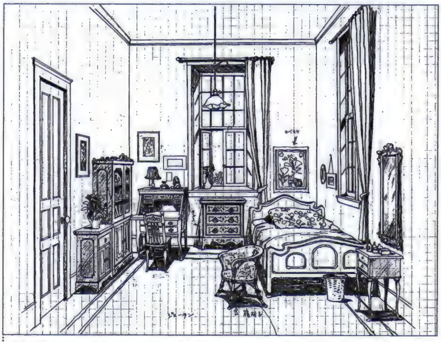
ストーリー紹介 1～4話

1話 運命を変えた月曜日
ジョングリア孤児院のジュディは、次の運営委員会でハイスクールの奨学金を受ける子が決まると知る。張り切るジュディだが、やること全て失敗ばかり。

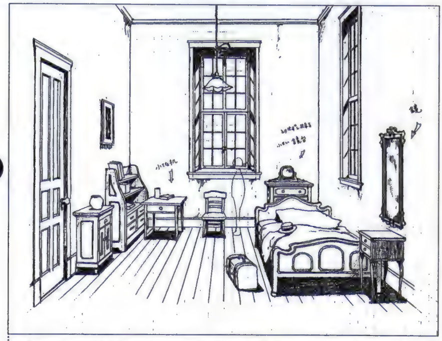
2話 ひとりぼっちの旅立ち
奨学金を受けるのはジュディに決まった。自分ひとりだけの幸運に胸を痛めたジュディは、入学支度金でみんなにプレゼントをすることにするが…。

3話 憧れのリンカーン記念女子学園
リンカーン記念女子学園に着いたジュディは寮で同室になるサリーとジュリアに会う。だが支度金を使ったジュディは、新入生の歓迎会に出る服もなかった。

4話 てんやわんやの入学式
入学式。ジュディはあしながおじさんが来てくれると、期待に胸を膨らませる。一方サリーは新入生代表として挨拶することになり、壇上に立ったが緊張のあまり挨拶を忘れてしまった。



ジュディの部屋。改装後。上級生が不要になった家具をバザーで買い、すっかり若い娘の部屋に。



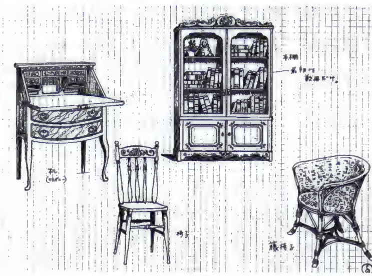
ジュディの部屋。改造前。質素だが個室を初めて持ったジュディには夢のようだった。



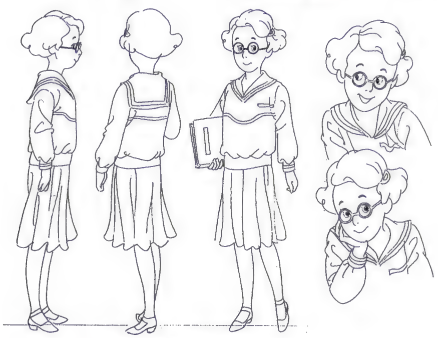
教室のジュディ。

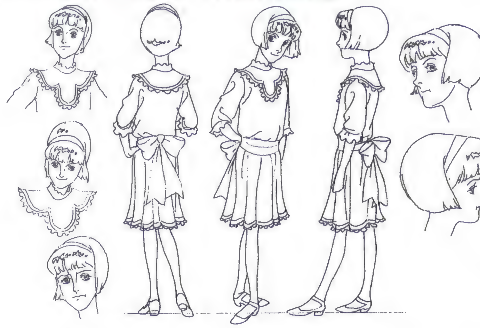


ジュディの部屋に貼られたあしながおじさんの似顔絵。



ジュディの買った家具。配達にすると3日かかると言われ、早く家具を部屋に入れたかったジュディは自力で運ぼうとして大変な目に遭う。





サリー・マクブライト
赤いめがねが可愛いぽちゃり顔。おっとりして気のいい娘で頑張り屋だがあがり症。ジュディと一番の友達になる。（声：佐藤智恵）

ジュリア・ルートレッジ・ペンデルトン
ニューヨークの資産家ペンデルトン家のひとり娘。ジュディの第一印象は"鼻持ちならないお金持ち"。（声：天野由梨）

ミス・ジョアンナ・スローン
ファーゲッセン寮の管理人。規則に厳しいが若い美男に弱い。（声：鳳芳野）



独身だが時折男性より電話がかかってくる様子。人から「奥さん」と呼ばれることに過激に反応する。



ジュディが描いた似顔絵（寮の規則）規則は下に小さく書かれている。

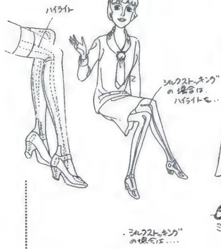
ストーリー紹介 5～6話

5話 お部屋の素敵な飾り方
お小遣いで家具を買ったジュディ。部屋に運び込もうと奮闘中、新しくやってきた寮の管理人ミス・スローンに見つかり大目玉を食らう。

6話 嘘つきは嫌いですか?
授業が始まった。国語のメルノア先生は「家族のことについて」作文に書くように宿題に出す。だが、孤児院出身で家族のいないジュディは困ってしまう。

ハイスクールに来て初めての冬。サリー、ジュディ、ジュリアの3人娘の冬のスタイル。





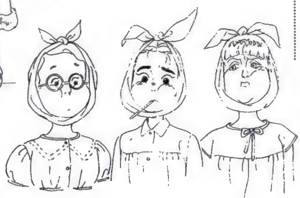
ジュリアのシルクストッキング。ジュディは羨ましくてたまらない。



スローンと国語のハーマン先生。ジュディ1年生時の背の比較。



コート着用時。



結局3人娘は仲良く感染（8話）。



おたふく風邪にかかったジュディ（8話）。体調の悪さも重なって、ジュディの精神状態は最悪に…。



ジャーヴィスから贈られたチョコにデレデレのジュディ…（10話）。

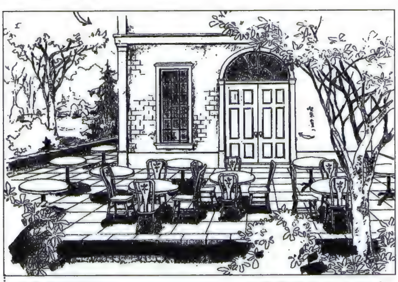


ジャーヴィス・ペンデルトン

“金持ちらしくない”ジャーヴィスにジュディはすっかり意気投合。ふたりで学生寮の屋根に登ってしまう。
（声：田中秀幸）

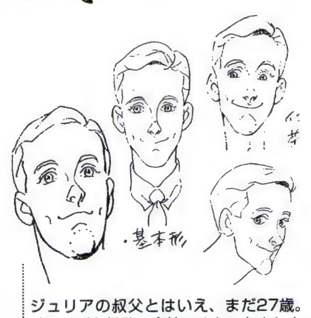


ジュディが予想したペンデルトン氏。あのジュリアの叔父なら…無理もない？



学園内のカフェ。アイスクリームをご馳走するはずが、財布を忘れたジャーヴィス。ジュディがおごる羽目に。





ジュリアの叔父とはいえ、まだ27歳。若いながら祖父の会社のひとつをまかされている社長なのである。

ストーリー紹介 7～10話

7話 金貨の上手な使いみち
もうすぐクリスマス。ジュディはジュリア達とプレゼントを見せ合うことになってしまう。弱るジュディに、あしながおじさんから金貨が送られてくる。

8話 屑籠に捨てられた手紙
ジュディの詩が校内誌に掲載された。あしながおじさんに手紙で報告するが、何の反応もない。寂しいジュディは体調を崩し試験で落第点を取ってしまう。

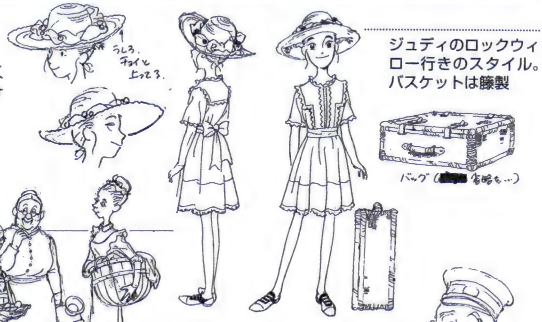
9話 ジュリアの叔父様は変り者？
ジュディはジュリアの代わりに、学園を訪ねてくる叔父の案内を頼まれる。変わり者だという叔父のジャーヴィスと会ったジュディは、お金持ちらしくない性格に好感を抱く。

10話 裏切ってごめんなさい
ジャーヴィスと知り合い、舞い上がったジュディは試験で落第点を取ってしまう。調子に乗っていた自分に反省したジュディにあしながおじさんから夏休みのご褒美が与えられた。

ロックウィロー農園

ロックウィロー編の登場人物で駅員や農場で働く面々。キャラクターは個性に合わせてかなりデフォルメ気味にデザインされている。





ジュディのロックウィロー行きのスタイル。バスケットは籐製



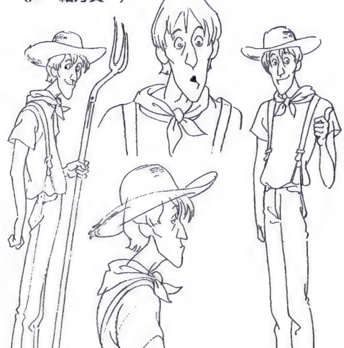
汽車が着いても居眠りしているロックウィローの駅員。
（声：増岡弘）



ジョージ・センプル
頑固で融通の利かない昔気質の男。滅多に笑わない。ジャーヴィスからロックウィロー農園を譲り受けた。
（声：緒方賢一）



エリザ・センプル
ジョージの妻でいつも夫婦げんかが絶えないが、世話好きの人情家。ジュディを歓迎する。
（声：京田尚子）



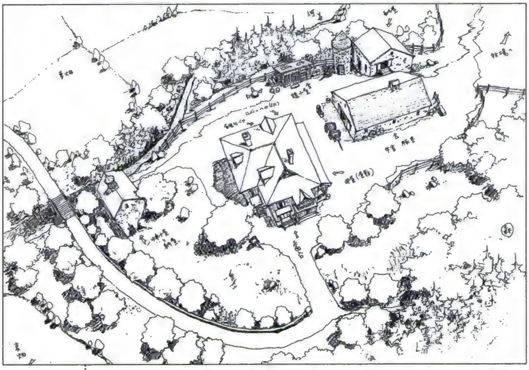
アマサイ
主に農場の手伝いに雇われている青年。ネズミ取りの名人。（声：小林通孝）



キャリー
ロックウィローの
家事全般を担当。
（声：小林優子）



チャーリー
見かけによらずジョージを何より恐れている。
（声：郷里大輔）



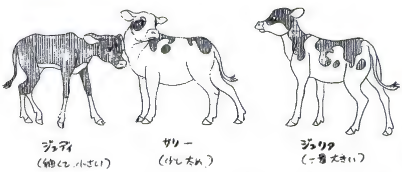
ロックウィロー農園俯瞰図。母屋を中心に水車や納屋、牛舎などがある。



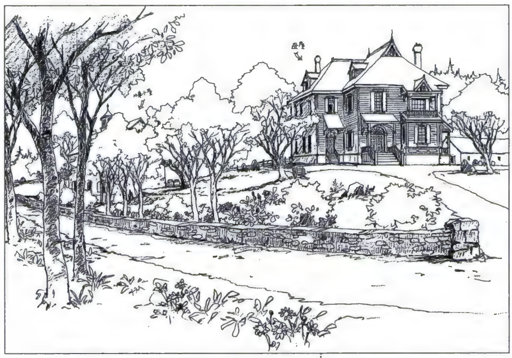
幼い頃のジャーヴィス（ジャービィ坊ちゃん）。いたずらっ子で、ジュディそっくり、らしい。



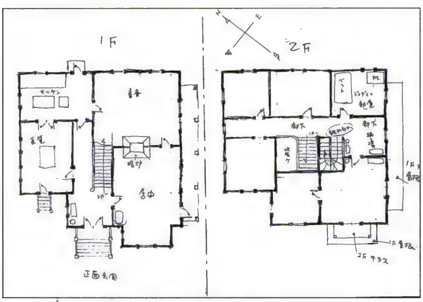
オーバーオールに着替えた農園のジュディ。色といい声といい、まるでポリアンナ？



農場の仔牛。左からやせっぽちのジュディ、ぽっちゃりのサリー、意地悪な（！）ジュリア。見た目と性格に合わせてジュディが命名。



ロックウィロー農園外観。



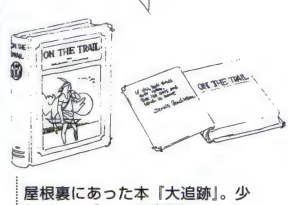
ロックウィロー母屋の見取り図。ジュディの部屋は2階の東角。



ナマズ釣りでずぶ濡れジュディのガウン姿。



ロックウィロー農園の元の持ち主はジャーヴィスだった。その偶然に驚くジュディ。この辺でおじ様の正体に気がついてもよさそうだが…。



屋根裏にあった本『大追跡』。少年ジャーヴィスの愛読書だった。

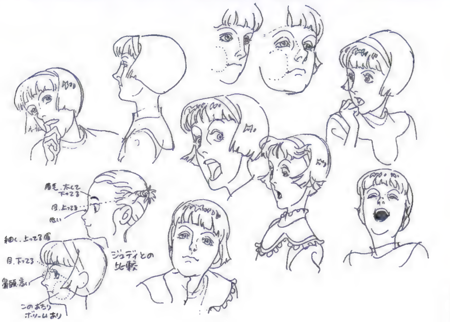
ストーリー紹介　11～12話

11話　おもいがけない人の名

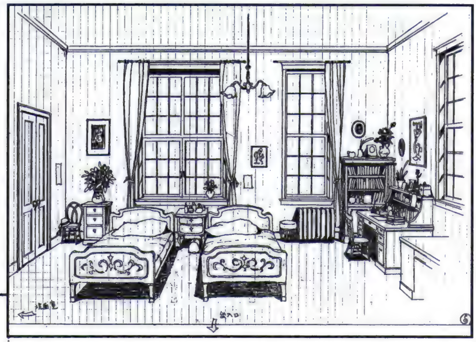
あしながおじさんの提案でジュディは夏休みをロックウィロー農園で過ごすこととなった。ところが主人のセンプルはジュディのことが気に入らない様子だ。

12話　奇妙な偶然

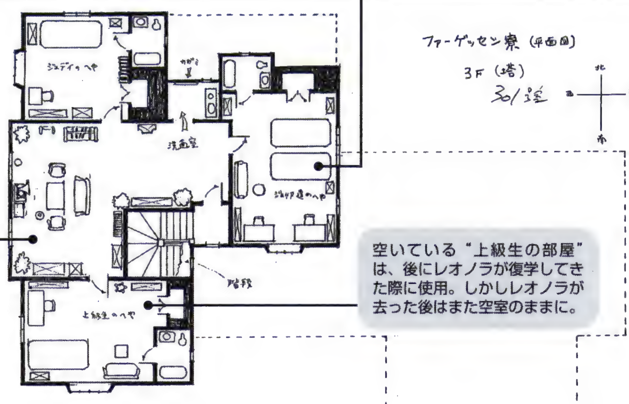
屋根裏の本にはジャーヴィスの名があった。彼が農園の元の持ち主だったのだ。ジュディがジャーヴィスの知り合いならとセンプル夫妻は手厚くもてなす。



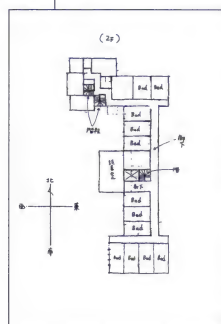
裕福な家庭でわがまま放題に育ったジュリア。気位が高く苦労知らずの彼女も、学園生活の中で成長していく。作品中もっとも変化を見せたのはジュリアかもしれない。



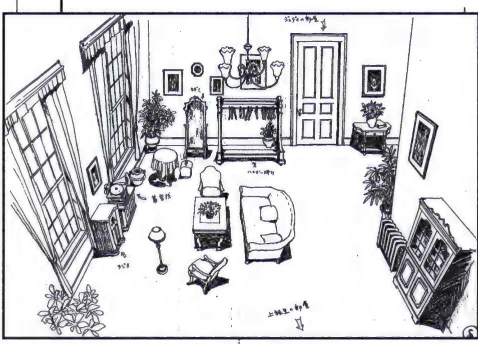
ジュリアとサリーの部屋。サリーはともかく、何事にもこだわりを持つジュリアがふたり部屋に甘んじているのは謎。



ファーゲッセン寮の全体見取り図（3階）ジュディ達の部屋は301号室。



空いている“上級生の部屋”は、後にレオノラが復学してきた際に使用。しかしレオノラが去った後はまた空室のままに。



3部屋の共有スペースになっている居間。蓄音機とラジオが置かれているが、アニメでは使用シーンなし。



創立50周年記念小説コンクールで佳作を取ったジュディ。入賞品は万年筆（14話）。

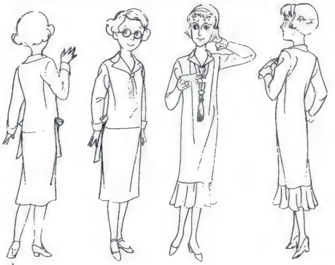
普段は内気でおっとりしているサリー。大のお人好しだ。



新入生代表を勤め、生徒会にも立候補するサリー。見かけによらず行動派。しかも粘り強さを合わせ持つ。最優秀卒業生はジュディに譲ったが、実はかなりの秀才と思われる。



一方、ジュディはスカートをやめて活動重視のニッカボッカスタイル。



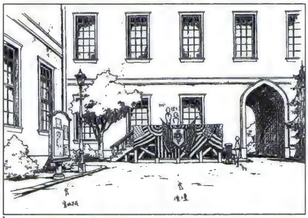
秋。2年生になったジュディ達の新しい服。背も若干伸びている。デザインもより大人っぽく、しかも当時の最新モードでキメている。



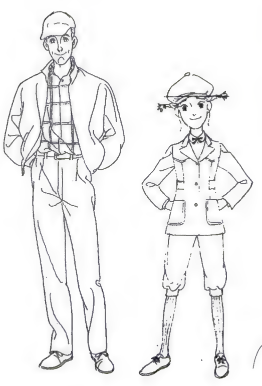
生徒会に立候補するサリーを応援するジュディ達。プラカードはジュディのお手製。



ジミーがバイトをしていたパーラー。



サリーの選挙演説会場。サリーはかろうじて最下位で当選。

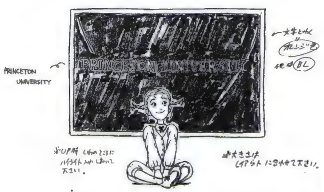


ピクニックに行くときのジャーヴィスとジュディ（17話）。



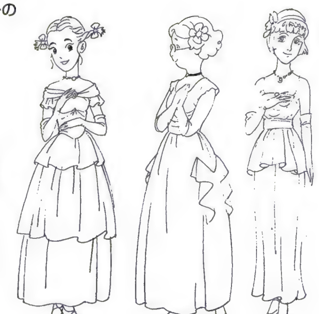
名門プリンストン大の名クォーターバックでサリーの兄。19歳。

ジミー・マクブライト
明るく爽やかなスポーツマン。ジュディに好意を持つが…。（声：島田敏）



ジミーからジュディへプレゼントされた、プリンストン大学の旗。





創立50周年記念パーティのドレス。2年生になって新調したもの。

ストーリー紹介 13～16話

13話 サリーの勇気ある挑戦
ジュディ達は2年生になった。ジュリアは勉強で学年トップを目指すと言って猛勉強を始める。一方、サリーは自治会委員選挙の候補に推薦された。

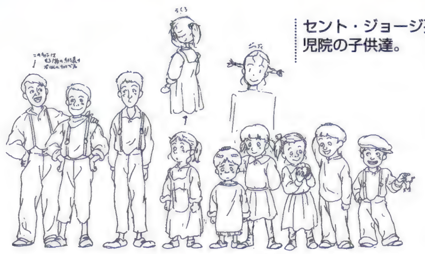
14話 初めての小説が盗作?
学内の懸賞小説に応募しようと初めて小説を書いたジュディ。ところが小説を読んだメルノア先生に盗作だと言われ、ジュディはすっかりめげてしまう。

15話 ホットドッグと壁の花
学園で創立50周年記念のダンスパーティーが開かれる。だがジュディにはダンスパートナーのあてがない。ジュディは壁際に立っている他なかったが…。

16話 クォーターバックからの贈り物
ダンスパーティー以来ジュリアはウキウキ。どうやらサリーの兄、ジミーに恋をしたらしい。だがジミーが関心を持っていたのはジュディの方だった。



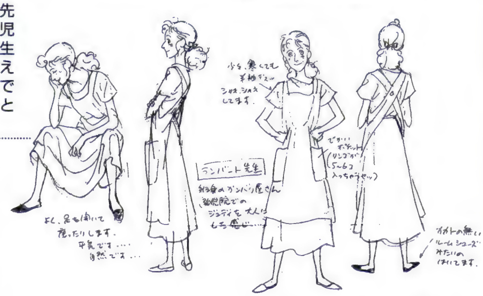
メアリー・ランバート
セント・ジョージ孤児院の先生。訪問スタイル時は仕事着姿と同一人物と思えない。おしゃれすぎてジュディの反感を買う。（声：勝生真沙子）



セント・ジョージ孤児院の子供達。



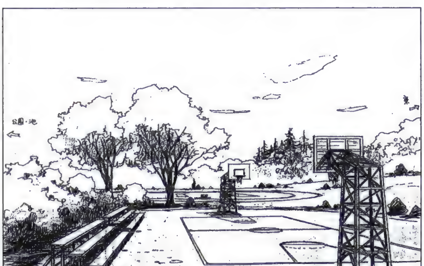
感謝祭での3人娘の衣装。



孤児院でのランバート先生の普段の仕事着。孤児院の生徒達に現実的に生きる力をつけたいと考えている。ざっくばらんでナチュラルでさっぱりとした女性である。



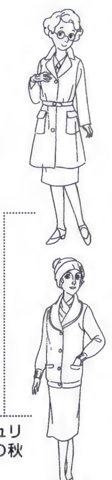
ランバート先生勤めるセント・ジョージ孤児院外観。



物語でたびたび登場したバスケットコート。レオノラは東部では有名なバスケットボールの選手だった。



レオノラ・フェントン
造船所主の一人娘だが病気で1年休学していたため、ジュディよりひとつ年上。詩も上手いしファッションセンスもよく、たちまちジュリアの心までつかむ。（声：鶴ひろみ）



サリーとジュリア、2年次の秋の装い。

ストーリー紹介 17〜20話

17話 打ちあけられない心
孤児であることを隠し続けるジュディは、周りの友人の好意に本当の自分を打ち明けられないことに悩んでいた。そんなとき、ジャーヴィスがジュディ達をピクニックへ誘う。

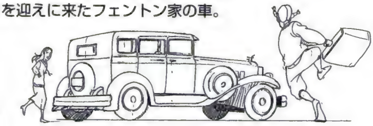
18話 感謝祭への招待状
感謝祭の準備で買い物出たジュディ達は、街角で歌を歌う孤児達を見かけた。それを見たサリーは孤児達を学園の感謝祭に招待することを思いつく。

19話 友よ、ともに歌わん
孤児院を訪ねたジュディは、ランバートに孤児達をお金持ちの虚栄心を満足させる道具にしないでと頼む。しかしランバートの思いは違っていた。

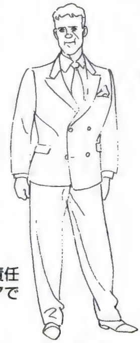
20話 年上の同級生
休学していたレオノラが復学してきた。ジュディは自分の詩をレオノラに酷評され怒ってしまう。だがレオノラの詩を読んで、その力強さに圧倒される。



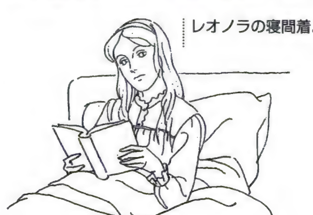
マクブライト家外観。



レオノラを迎えに来たフェントン家の車。



ジョージ・フェントン
レオノラの父。娘思いで、責任感も強い。フィラデルフィアでフェントン造船所を経営。
（声：島俊介）



レオノラの寝間着。



サリーの家では工場の従業員の家族を自宅に招待してクリスマスパーティーを開いた。そのときのジミーのサンタ姿。



ジュディの別バージョンのニッカボッカ。



しぶしぶニューヨークの家でクリスマスを迎えるジュリア。社交界デビューのドレス。



胸の病気で、手術が必要なレオノラは、精密検査のために病院を移る間復学した。



『お気に召すまま』に参加することになったジュディ達。サリーは大道具係で活躍。



ジュディは森の羊飼い、シルヴィアス役。

フィービ役のジュリア。不器量な森の羊飼いの娘役に初めは不満たらたらだったが…。



ハーマン・メルノア
国語の教師。強面だが実は感激屋。
（声：石森達幸）

ストーリー紹介 21～24話

21話 美しさとかなしみと
バスケットボールをしていたレオノラが突然倒れた。病室に付きそったジュディ、ジュリア、サリーはレオノラが病気だったと知る。その後、ジュリア達4人はようやくルームメイトとして打ち解ける。

22話 窓に降る雪
詩の朗読会に来ると約束したレオノラの父は、経営する造船所で事故があり来られなくなってしまった。ショックのレオノラは雪の中へ飛び出してしまう。

23話 それぞれのクリスマス
ジュディとジュリアはジミーからマクブライド家のクリスマスパーティに招待された。ジュリアはジミーへ手編みのマフラーを贈ろうと思いつく。

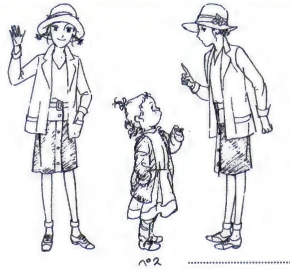
24話 お気に召すまま
シェイクスピアに夢中のジュディ達。メルノア先生に演劇部の芝居に出てみないかと声をかけられ、ジュディ達は芝居に挑戦することになった。



マーゴット扮するオフィーリア。



マーゴット・フォスター
ブロードウェイマーゴットと知り合う。有名な女優ながら、スラムを愛し、そこで暮らす。ジャーヴィスの友人でもある。（声：藤田淑子）



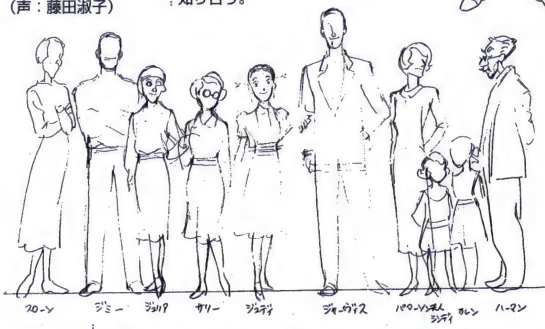
ニューヨークを訪ねたジュディ。ペスに帽子を盗られたことから、マーゴットと知り合う。



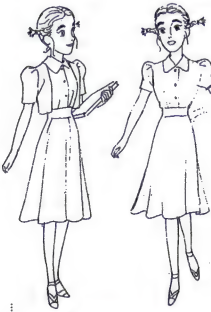
24、25話 のジャーヴィスの正装。



スラムのリトルギャング団、ペス（中央（声：鈴木富子）とその仲間達。



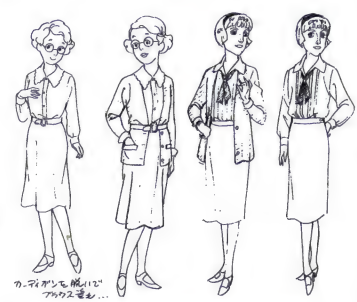
26話以降の新比較表。1年前と比べるとその成長に驚かされる。



ジュディ家庭教師の頃の服。パンツスタイルはやめて、ぐっと大人っぽく変身。



パターソン夫人と娘シンディとカレン。ジュディいじめに母娘で取り組む？



ジュリアとサリーの2年学年末頃の春服。

ストーリー紹介 25～28話

25話 ふるさと・ニューヨーク
ジャーヴィスがニューヨークのオペラに招待してくれた。ニューヨークに着いたジュディは、自分が捨てられていたというスラムに向かう。

26話 明日に架ける橋
ジュリアが進む大学を決めたという。これ以上あしながおじさんの援助を頼るわけにはいかないと悩んだジュディは、アルバイトをしようと思い立つ。

27話 家庭教師は楽じゃない
家庭教師のアルバイトをする事になったジュディ。生徒のシンディとカレンに手を焼きながらも自分なりの方法で子供達と打ち解けていき、充実した毎日を過ごしていた。

28話 無慈悲な命令
ジュディは夏休みをサリーの別荘で過ごそうと誘われた。喜ぶジュディだが、あしながおじさんの返事は今年もロックウィロー農園に行くようにという命令だった。

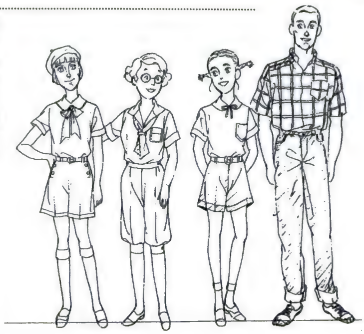


ジャーヴィスと釣りに行って崖から落ちドレスはボロボロ。



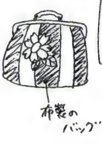
ロックウィローを訪ねるジャーヴィスのラフなジーンズ姿（30話）。

サリーの家の別荘アディロンダックへ出かける服装。しかしおじ様から無慈悲にもロックウィロー行きを指示される…。それってパワハラでは？



アトランタの工場で働くことになったサディ。ハイスクール行きに選ばれなかった彼女だが、強く生きていこうとする。
（声：山田栄子）





夏のバカンスへ出かけるスローン。

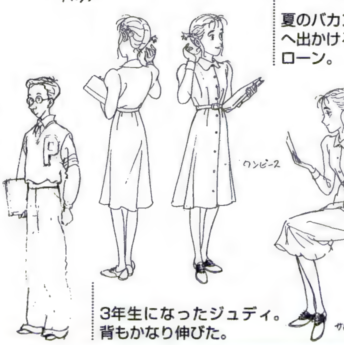


ジャーヴィスとジュディがふたりで星を見たロックウィロー農園のテラス。奥は鶏小屋。

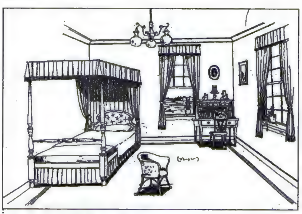
ボブ
ジミーの大学の友人でフットボール部のキャプテンで名キッカー。アディロンダック訪問中にサリーと知り合う。
（声：塩屋翼）







3年生になったジュディ。背もかなり伸びた。



東向きで農場の景色が素晴らしい、2階のジュディの部屋。

ストーリー紹介 29～32話

29話　思い出がいっぱい
夏休み、寮に残っていたジュディをサディが訪ねてきた。これから紡績工場に働きに行くのだという。サディの話にジュディは気持ちを新たにする。

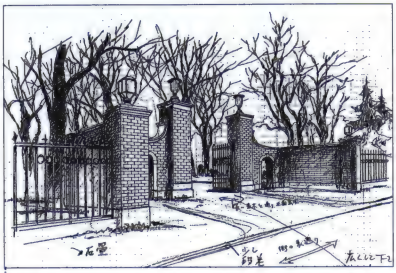
30話　夏の日の恋
ロックウィロー農園のジュディの元に突然ジャーヴィスが訪れた。ジュディは自立を願う気持ちをあしながおじさんに理解してもらえない苦しさを訴える。

31話　花ざかりの娘たち
ジュディ達は3年生になった。ある日サリーはアディロンダックで知り合ったジミーの友人のボブに映画に誘われる。不安いっぱいのサリーは…。

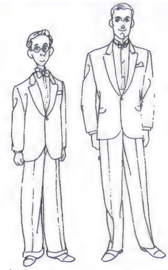
32話　黄昏の駅にて
ジュディは奨学金が受けられることになった。ところが奨学金を辞退するようにと手紙が来る。憤るジュディにジャーヴィスが会いたいと連絡してきた。



ジャーヴィスの革ジャンスタイル（36話）。

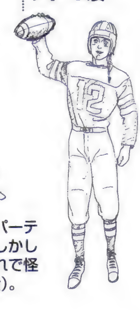


ジュディとジャーヴィスのキスシーンが印象深い校門。



プリンストン大学のパーティのジミーとボブ。しかしパーティは恋のもつれで怪しい雲行きに（33話）。

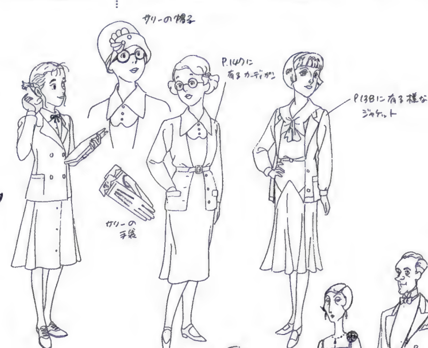
ジミーのユニフォーム姿





ジュリア家出の服装。しかし汽車に乗る前に発見され、未遂に終わる。

3人娘、3年次の冬の装い。



ジュリアはエレガントなロングドレス。



サリーもこのパーティが社交界デビュー！





社交界デビューのジュディのドレスはパリのクリスチャンディオールの特注品！　色はちゃっかりジャーヴィスの好み。真珠のネックレス、リバティスカーフ、赤い靴、絹の手袋が、全ておじ様名義で送られてきた。



ジャーヴィスはジュリアの父の弟という間柄。



キャサリン
ジャーヴィスの縁談の相手で、シティバンクの頭取の娘。



ジュリアの母の陰謀渦巻く？　クリスマスパーティ。ジュリアの両親のパーティ服。

ストーリー紹介　33～36話

33話　すれちがう思い
ジュディは駅で別れたジャーヴィスに、もう一度会うかどうか迷っていた。一方、ジュリアも自分の想いがジミーに届かないことで傷ついていた。

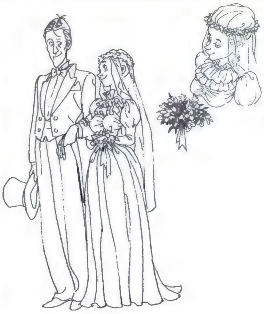
34話　この胸のときめきを
所詮住む世界が違うのだとジュディはジャーヴィスのことを忘れようとする。そんなときあしながおじさんから奨学金を受けてもよいという手紙が届いた。

35話　孤独な青春
ジュリアはお見合いをさせられることになった。悩んだジュリアはジュディとサリーに相談しようとするが、ふたりともデートのことで頭がいっぱいだった。

36話　今を生きるために
寮を飛び出したジュリアは、ジミーに会いお見合いのことを話す。だがジミーはジュリアの本当の気持ちをまるで理解してくれない。



最終回に登場するニューヨークの摩天楼。



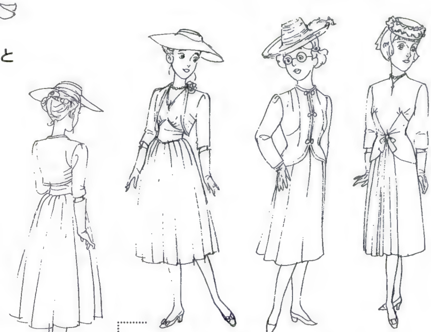
結婚式のアマサイとキャリー。



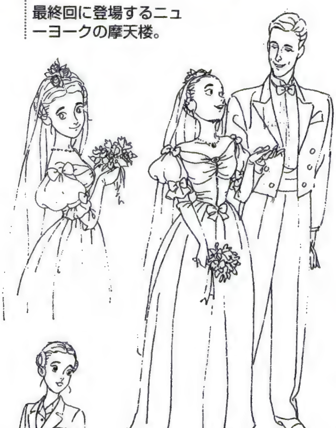
アマサイとキャリーの結婚式に参列するロックウィローの面々。



失恋して旅に出て、病気になったジャーヴィス。病気は重いらしいが、室内の歩行は可能。



アマサイの結婚式時の3人娘の服。サリーとジュリアはすっかりロックウィローが気に入る。

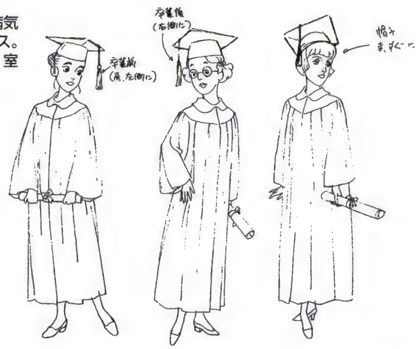


ハイスクール卒業から4年後、ジュディとジャーヴィスの結婚式。





3人娘の大学在学中のスタイル。



ハイスクールの卒業式、ジュディは最優秀卒業生として答辞を読んだ。

ストーリー紹介 37〜40話

37話 聖夜のさようなら

ジュディとサリーはペンデルトン家のパーティに招待された。社交界デビューに気後れを覚えるジュディには、ジャーヴィスの存在だけが頼りだった。

38話 悲しいプロポーズ

年が明け、ジュディはロックウィロー農園のアマサイとキャリーから結婚式に招待される。そこでジュディはジャーヴィスからプロポーズされるのだが…。

39話 過去からの卒業

最優秀卒業生に選ばれたジュディは卒業式で答辞を読むことになった。ジャーヴィスが倒れたと知り動揺しつつ、壇上で自分が孤児であることを明かす。

40話 はじめましておじさま

あしながおじさんが倒れたと聞かされたジュディはニューヨークにある屋敷へ向かった。ようやくたどり着いたあしながおじさんの屋敷。そこでジュディを待っていたのは…。

作品コラム

原作の舞台になった学校

原作の舞台になったのは、ニューヨーク州にあるバッサーカレッジ。ジーンが学んだ大学である。アニメでもジュディが合格した大学名として登場した。

ジーンはここで過ごした学園生活を、作品に反映させている。ジュディ・アボットのモデルは、大学生活を通して仲のよかったアデレード・クラプシー。彼女は豊かな文学才能を持ち、後に詩人として知られるようになる。

現在は共学だが、かつては女子大学で、セブンシスターズと呼ばれた名門大学。広大な敷地の中には、寮や図書館、森、池が点在し、狭い日本の大学を見慣れた目には、どこかのリゾート地ではないかと思うほどだ。



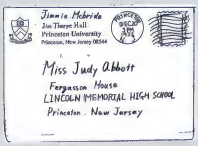
バッサーカレッジの図書館。まるで城のような荘厳な作り。



今にもジュディが飛び出してきそうな、赤煉瓦の校舎。バッサーカレッジ内

photo：Kaori Chiba（2点とも）

黄金の1920年代
～『あしながおじさん』の時代を考察する～



ジミーからのパーティ招待状

『あしながおじさん』の作中年は、きわめて明解である。なぜならそこに手紙の消印が介在するからだ。ジュディが手にする手紙から、時の経過を把握できる。右の表は手紙を元に起こした年表である。

アニメで起こる出来事や事物はこれで追えばよいのだが、ところが、途中「?」となる場面が出てくるのだ。枝葉末節ではあるが、例えば、リンドバーグの無着陸飛行成功のパレード（1927年）や、NYのクライスラービル（1930年建築）の登場だ。本筋に関係のない場面に、わざわざ実在で年代が特定できるものが挿入されているのは矛盾がある。

このような細かい点はともかく、『あしながおじさん』の時代は、アメリカ経済が空前の繁栄を迎え「黄金の20年代」と呼ばれた時代。ジュディたちのファッションや浮き足だったその時代の空気が、画面からも伝わってくる。

だが、その後にはあの暗黒の木曜日、世界恐慌（1929年）が待っているのだが…。ジュディ達は無事に切り抜けられたのだろうか?

年	月日	学年	ジュディの年齢	出来事
1907年	冬		0歳	ジュディ生まれる
1912年			5歳	孤児院脱走を試み失敗
1920年	夏		13歳	ハイスクール行きが決まる
	9月	1年生		リンカーン記念女学院入学式
	12月後半		14歳	クリスマスに金貨5枚
1921年	4月			ジャーヴィスに初めて会う
	6～8月			ロックウィロー農園で夏の休暇を過ごす
	9月	2年生		サリー自治会役員当選
	10月			感謝祭、セントジョージ孤児院との出会い
	11月頃			レオノラ登場
	クリスマス		15歳	サリーの家でクリスマスパーティ
1922年	5月頃			ニューヨークへ観劇
	6月頃			家庭教師のアルバイト
	6～8月			ロックウィロー農園で夏の休暇を過ごす
	秋	3年生		ジャーヴィスとファーストキス
	晩秋			ジュリア家出
	12月後半		16歳	ジミーのパーティ
	クリスマス			ジュリア邸にてクリスマスパーティ。ジュディ失恋
1923年	1～2月			アマサイとキャリーの結婚式
	6月			卒業式、あしながおじさんと対面
1927年	6月頃		20歳	ジュディ大学卒業、結婚

アニメの手紙の日付による

原作について

ジーンが取り組んでいた社会問題に着想を得て書かれた小説。原作はジュディの手紙形式で綴られる。続編の『続・あしながおじさん（Dear Enemy)』では、サリー・マクブライトが主役。



あしながおじさん
訳：坪井郁美
発行：福音館書店

〈原作者〉
ジーン・ウエブスター
1876－1916

ニューヨーク州フレドニア生まれ。父チャールズはマーク・トウェインの甥で、共同で出版事業を経営。後に事業に失敗した。文学的な雰囲気の中で育ち、バッサー大学に入学。卒業後はフリーのライターとして働きながら、児童養護施設や女性の権利に興味を持ち、社会事業に没頭する。7年の婚約期間を経て1915年に結婚。女児を出産後に40歳の若さで死去。

恋愛ドラマだったあしながおじさん

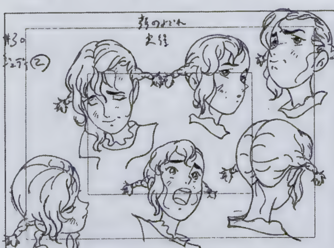
『私のあしながおじさん』では、ついに主人公が結婚するまでが描かれた。放映当初の子ども子どもしたジュディは、後半で等身も変わり、ジャーヴィスと本格的な恋愛ドラマを繰り広げる（三角関係や別れ話、痴話げんかもあり…）。

名作劇場シリーズは、それまで10歳前後の少年少女が主人公で、視聴者も同じ年頃の子供とその家族が想定されていた。ところが、シリーズ開始16作品目の『あしながおじさん』は、対象年齢を一気に引き上げたかのようなドラマ内容。一家団欒のお茶の間は面食らったに違いない。（その翌年のトラップ一家のマリアも恋愛の末、結婚）

だが、当初は『あしながおじさん』を〝ミュージカル風で〟〝コミカルな〟作品にしようと企画していたという。しかしどうしても後半はシリアスな展開になり、当初の思惑通りにはいかなかったのだそうだ。子供から大人の女性へ。少女は3年間でかくも成長する。前半のコミカルさと後半の恋愛ドラマの作風の違いに注目したい。



ハイスクール入学から卒業まで、わずか3年間の間に、ジュディは大きく成長する。



嵐の中のジュディ（30話）。ジャーヴィスとの考えの食い違いに怒り戸惑うジュディの表情（設定画より）。



ティーンの女の子に振られ失恋旅行のジャーヴィス。30目前の男の悲劇。その後心労から病気に…（38話）。

◎あしながおじさんを地でいく男

あしながおじさんを地でいく男がいた。それはなんとアメリカ第22代、24代大統領、グローバー・クリーブランド氏。死んだ親友の娘フランシスの後見人となり、彼女の大学卒業後すぐに結婚。その時花嫁はわずか21歳。史上初のホワイトハウスでの結婚式だったという。この19世紀末のホワイトハウスロマンスが、原作者にインスピレーションを与えたとも言われている。

Gallery



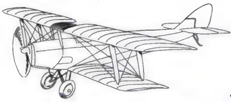
キャンパスの道。手前にポスト、遠方にファーガッセン寮を望む／工藤剛一

メインスタッフ

脚本	藤本信行
音楽	若草恵
キャラクターデザイン	関修一
絵コンテ	鈴木孝義／楠葉宏三／松見真一／斉藤次郎／加賀剛　他
作画監督	ふるたしょうじ／菊池晃／大城勝／入江篤
美術設定	工藤剛一
美術監督	森元茂
撮影監督	森田俊昭
音響監督	藤野貞義
色彩設定	小山明子／唐沢伸彦／小酒井久代
整音	佐藤千明
彩画	スタジオロビン
背景	アトリエローク／スタジオアクア
プロデューサー	松土隆二／立川善久
監督	横田和善

オープニングテーマ「グローイング・アップ」
作詞：来生えつこ
作曲：来生たかお
編曲：信田かずお
歌：堀江美都子

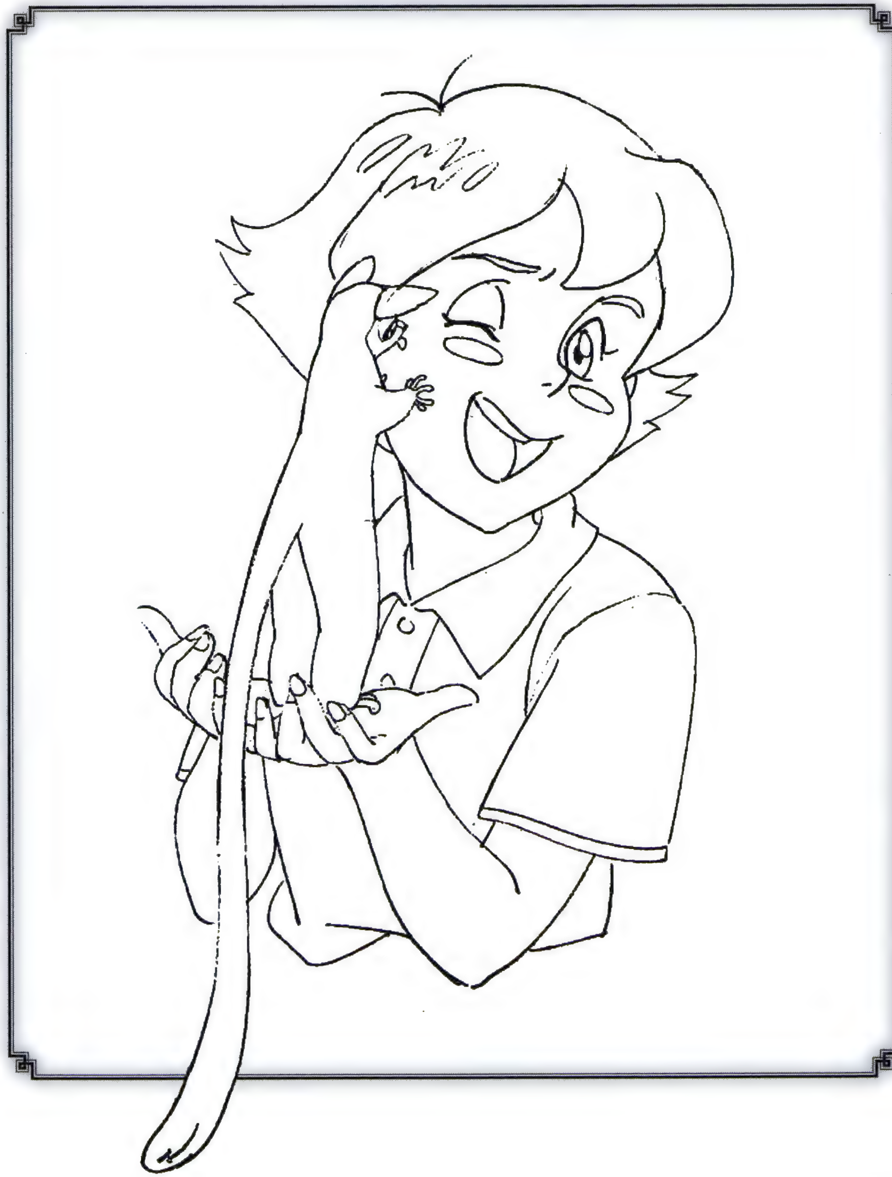
エンディングテーマ「キミの風」
作詞：来生えつこ
作曲：来生たかお
編曲：信田かずお
歌：堀江美都子／ SHINES



大草原の小さな天使

ブッシュベイビー

The Bush Baby



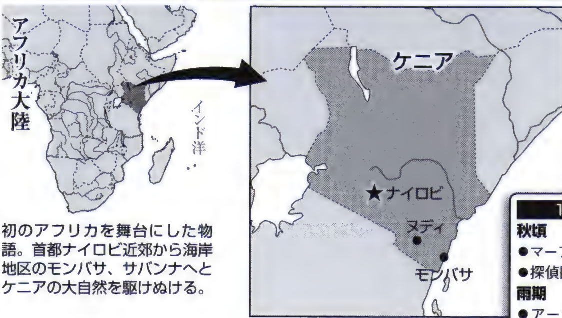
大草原の小さな天使

ブッシュベイビー



放映期間	1992/01/12～1992/12/20
話数	40話
原作	ウィリアム・スチーブンソン「カバの国への旅」

物語の舞台



初のアフリカを舞台にした物語。首都ナイロビ近郊から海岸地区のモンバサ、サバンナへとケニアの大自然を駆けぬける。

History

イギリスからの独立を果たしたばかりのケニアが舞台。イギリス側の視点で見た当時のケニアが描かれている。

19C

- 1825 蒸気機関車実用化(英)
- 1837 ビクトリア女王即位(英)
- 1868 明治維新(日)
- 1869 スエズ運河開通(埃)
- 1884 ベルリン会議でアフリカ分割
- 1895 イギリス、現ケニアを東アフリカ保護領に
- 1899 モンバサ・ナイロビ間の鉄道完成

20C

- 1903 ライト兄弟飛行機を発明(米)
- 1914 第1次世界大戦(～1918)
- 1920 イギリス、ケニアを植民地化
- 1929 世界恐慌
- 1939 第2次世界大戦(～1945)
- 1952 マウマウ団の乱
- 1963 ケニア独立
- 1969 アポロ11号月面着陸(米)

21C

1965年頃

秋頃
- マーフィを保護する
- 探偵団結成

雨期
- アーサーが保護官をやめることに

乾期
- キリマンジャロ登山

雨期
- 帰国のためモンバサへ

1日目
- ジャッキー下船
- ヴィピンゴ別荘へ

2日目
- ミッキー合流

3日目
- カヌーで上流へ

4日目
- サバンナを歩く

5日目
- 密猟者に捕まる

6日目
- 野火を超えてマサイの地へ

7日目
- ジャッキー熱を出す

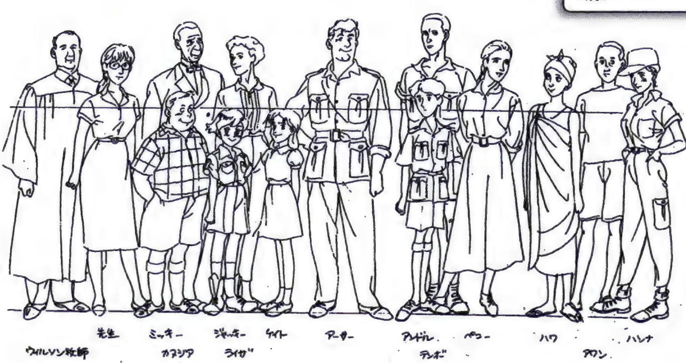
11日目
- ヌディ駅到着
- 数日後マーフィとの別れ

ストーリー解説

ジャッキーは12歳。3歳のときからアフリカのケニアで暮らしている。野生動物保護官をしている父アーサーとその助手テンボは、密猟者を取り締まっていた。

そんなある日、父とパトロールに出かけた兄アンドルーが、ブッシュベイビーの赤ちゃんを保護した。ジャッキーは赤ちゃんにマーフィと名付け、苦心の末ミルクを飲ませることに成功。無事に育て上げる。

独立を果たしたケニアでは、イギリス人が徐々にアフリカを離れていた。そして、ついにアーサーも保護官をやめて本国へ帰ることになった。ジャッキーは悩んだ末、マーフィをイギリスに連れていくことにするが……。



メインキャラクター比較表。

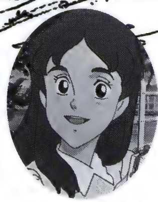


ジャッキーの家の前より。学校方向を望む。

キャラクター紹介



ミッキー・ディル
ジャッキーの同級生。マーフィに強く愛着を持つ。



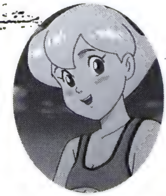
ケイト・アドルトン
コーヒー農園の娘でジャッキーの親友。



テンボ
野生動物保護官アーサーの助手を勤める。カンバ族の出身。

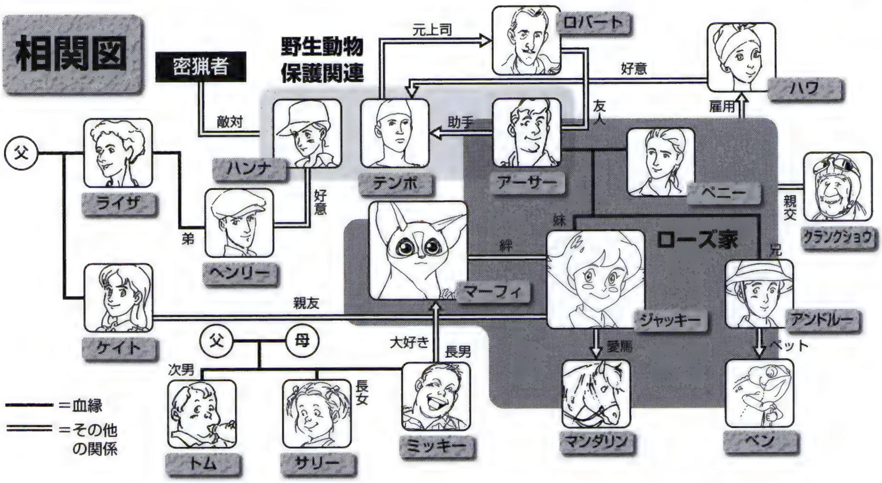


マーフィ
母親を亡くしたブッシュベイビー。ジャッキーが育てる。



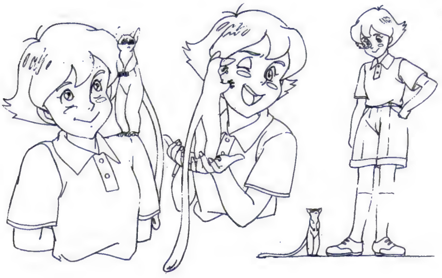
ジャッキー（ジャクリーヌ）・ローズ
野生動物保護官を父に持つ、元気で明るいイギリス人の少女。

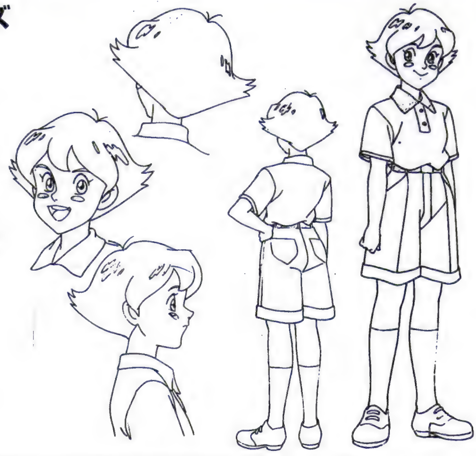
相関図



ジャッキー(ジャクリーヌ)・ローズ

ケニアの野生動物保護官の娘。イギリス生まれで3歳のときからケニアで暮らしている。12歳。先生曰く“物忘れの名人”明るく前向きで、さっぱりした性格。いつか空からアフリカを見たいという夢は、意外なときにかなう。
(声：岡本麻弥)





マーフィ

アーサーらが密猟者に手負いにされたサイを捜索しているときに保護したブッシュベイビーの赤ちゃん。見つかったとき、既に母親は死んでいた。たまたま事務所を訪れたジャッキーがもらい受ける。名付け親もジャッキー。
(声：白鳥由里)

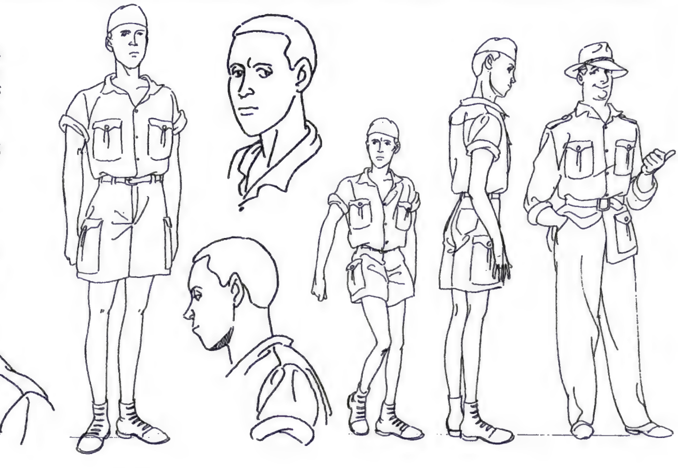




夜行性で、昆虫のほか、果物やお菓子も大好き。なぜかハッカアメをなめると酔って寝てしまう！

テンボ

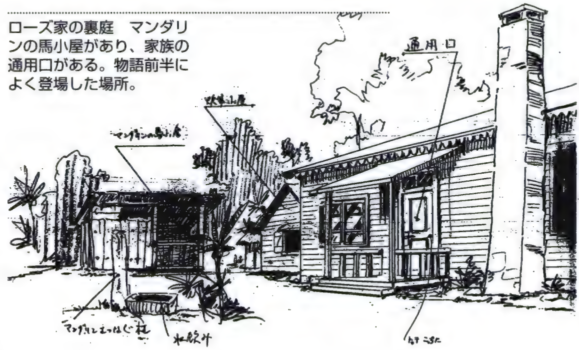
カンバ族の出身で、保護官の助手を務める。アーサーや仲間からの信頼も厚く、誠実で優しい。足が速く銃の腕前も確かだが、実はカナヅチ。
以前ロイヤルアフリカライフル部隊に所属しており、ロバート・アイアランド少佐は上司だった。
(声：小杉十郎太)



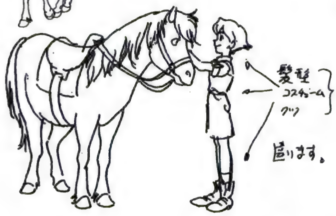




ジャッキーの愛馬マンダリン。チョウが好きで見かけるとついていく。でもカマキリは苦手。足の速さは自転車並み？



ローズ家の裏庭　マンダリンの馬小屋があり、家族の通用口がある。物語前半によく登場した場所。

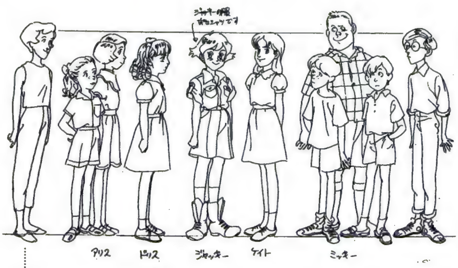




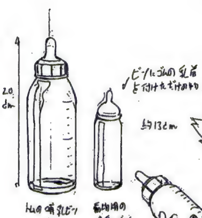
ジャッキーの人形。ミルクを飲ませる時のマーフィの母親代わりに使用。



赤ちゃんマーフィのベッドは段ボール箱。



ジャッキーのクラスメイト。

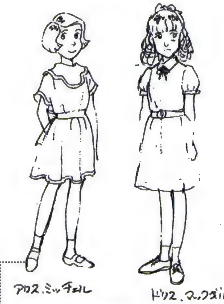




ミッキーから借りた哺乳瓶はマーフィに大き過ぎ。結局、ハンナからもらった動物用の哺乳瓶を使う。



ミッキーとその弟妹。3歳にして哺乳瓶必須のトムと、しっかりもののサリー。（声：國府田マリ子＝トム、頓宮恭子＝サリー）



イギリス帰国が決まったドリス（右）は金髪の巻き毛が可愛い少女。左はクラスメイトのアリス。（声：久川　綾＝ドリス、白鳥由里＝アリス）

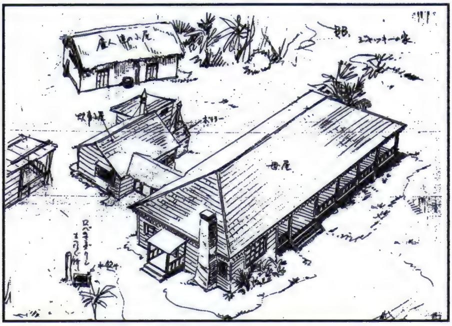
ストーリー紹介　1～4話

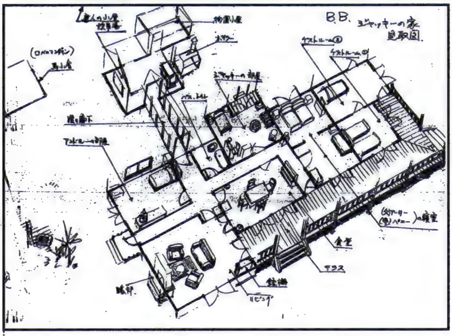
1話　草原で拾った赤ちゃん
父の事務所で保護されていたブッシュベイビーの赤ちゃんを見たジャッキー。母親がいないから死ぬだろうと聞き、なんとか自分で育てようと決心する。

2話　死なないでマーフィ
ジャッキーは赤ちゃんにマーフィと名付ける。しかし朝になってもマーフィはミルクを飲まない。思いがけないヒントをくれたのはテンボだった。

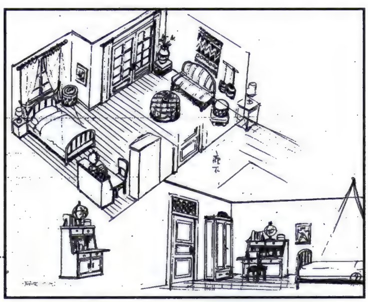
3話　しかけやローズ
密猟者に手負いにされたサイを追って、アーサーはアンドルーとサバンナへ出る。一方、ジャッキーは、食欲の出てきたマーフィの世話に追われていた。

4話　哺乳ビンをさがせ
マーフィにミルクを与えるのにスポイトでは間に合わなくなった。ミッキーから弟のトムの哺乳瓶をかりるが、人間の哺乳瓶ではマーフィには大き過ぎてしまい…。





ローズ家の間取り
宗主国イギリスから派遣された身分とはいえ、部屋がキッチンの他に8つもある豪華なお屋敷。家事を手伝う使用人までおり、離れの小屋に住み込ませている。ジャッキーは一応“お嬢さん”なのだ。



ジャッキーの部屋。

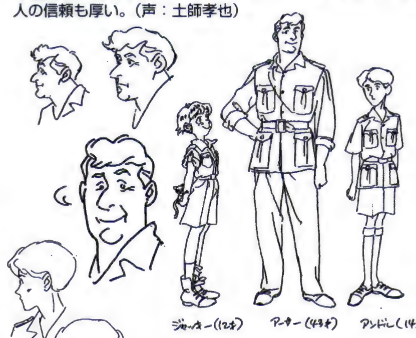
ストーリー紹介 5〜6話

5話 傷ついた象
密猟によって手負いになった象が村を襲った。やむなくアーサーは象を撃つ決意をする。翌日ジャッキーは、ケイトの父が帰ってこないと聞かされる。

6話 マーフィの病気
ケイトの父の葬儀から数日後、ケイトからイギリスに帰国しないと聞いたジャッキーは一安心する。ところが家に帰るとマーフィの様子がどうもおかしい。

ジャッキーの家族

アーサー・ローズ
野生動物保護官を勤める父。43歳。かなりの熱血漢。現地人の信頼も厚い。（声：土師孝也）





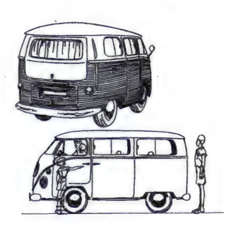


アンドルー・ローズ
父のような野生動物保護官を目指す14歳の兄。気が小さいが、勇気は人一倍。そのために先走って失敗をすることも。カメレオンのベンを飼っている。（声：金丸淳一）

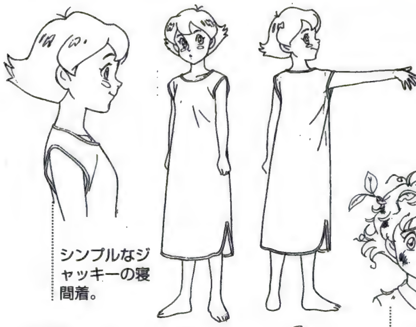


ペニー・ローズ
ジャッキーとアンドルーの母。絵を描くのが好き。おっとりしているが、アンドルーにはイギリスに行って勉強してもらいたいと考えているなど、意外に教育熱心。（声:滝沢久美子）

ローズ家の車
1962年型フォルクスワーゲンT1タイプ。





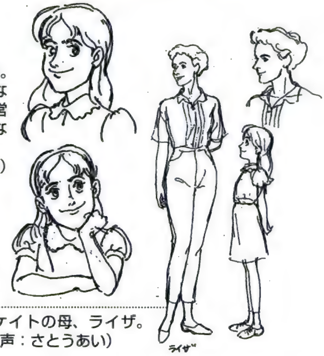


シンプルなジャッキーの寝間着。

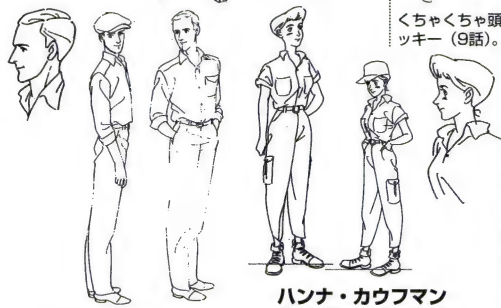
ケイト・アドルトン
ジャッキーの親友。ケイトの家は広大なコーヒー農園を経営しており、実はかなりのお嬢様。
（声：松下美由紀）



くちゃくちゃ頭のジャッキー（9話）。



ケイトの母、ライザ。（声：さとうあい）

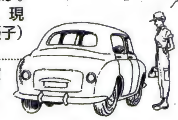


ヘンリー・ラザフォード
亡くなったケイトの父に代わって農場の経営を手伝う為にケニアに来た。ライザの弟で、元航空技師。（声：島田敏）

ハンナ・カウフマン
新任の獣医だが腕は確か。明るくはつらつとした、現代女性。（声：佐々木優子）

ケイトとの待ち合わせの場所だったパイナップルの看板。



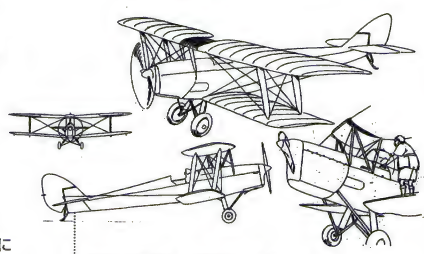


ハンナのオンボロ自家用車。ドアを閉めるとバンパーが開く！

クランクショウ博士
有名な考古学者で、ケニアに拠点を置いて活動している。ジャッキーとは親しく、彼女の母の手料理が大好物。（声：緒方賢一）



タウマ
博士の使用人。博士に振り回されっぱなし。
（声：置鮎龍太郎）



博士の飛行機。整備も自身で行う。
得意技はエンジンを止めるグライダー飛行。



ストーリー紹介 7〜10話

7話 女性獣医ハンナ
マーフィが病気になった。心配したジャッキーは獣医のハンナに診てもらう。ジャッキーの看病の甲斐もあって、マーフィに再び食欲が戻ってくる。

8話 博士の飛行機
大きくなったマーフィは昆虫を食べられるようになった。ある日マーフィを散歩に連れ出したジャッキーは、クランクショウ博士の飛行機に気がつく。

9話 真夜中のお散歩
このところジャッキーは寝不足気味。夜行性のマーフィが夜中に動き出すからだ。ある朝、マーフィの姿が見あたらず、ジャッキーは慌てて外に飛び出す。

10話 修理屋ダン・ムーア
ポンプの修理に来たダンの様子に、ジャッキーは不審を抱くようになる。数日後、パトロールに出ていたアーサーが帰ってきた。そこへ象が殺されたという情報が入る。

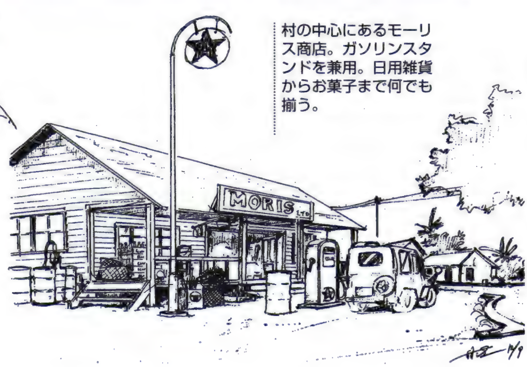


ミッキーの母。
(声：峰あつ子)



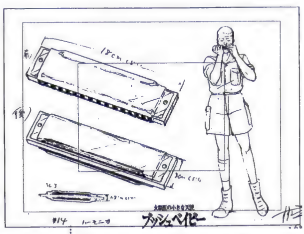
ミッキー・ディル
ジャッキーの同級生でケンカ友達。なぜかマーフィに執着する。実は泣き虫。12歳。
(声：松岡洋子)

村の中心にあるモーリス商店。ガソリンスタンドを兼用。日用雑貨からお菓子まで何でも揃う。





警察で暴行を受けたテンボ。彼はこのことで警察不信になる。



テンボのハーモニカ。ロイヤルアフリカライフル部隊に所属中に覚えた。「聖者が町にやってくる」が吹ける。



ハワ
テンボに密かに想いを寄せる、ローズ家の使用人。20歳。
(声：松井摩味)



アワン
テンボの部下。27歳。
(声：掛川裕彦)



モーリス
ツケで買う客に頭を痛める、インド系の店主。
(声：佐藤浩之)

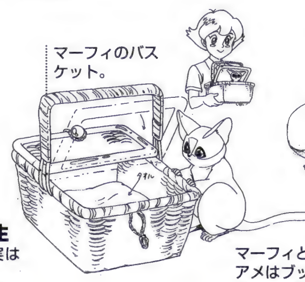


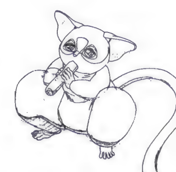
ジャッキーとケイト、ミッキー。ミッキーは典型的ないたずら少年。なにかとジャッキーにちょっかいをかける。



ノルダム先生
ユニークで実は鋭い担任。
(声:川島千代子)

マーフィのバスケット。





マーフィとハッカアメ。ハッカアメはブッシュベイビーに催眠作用があるらしい…。

ストーリー紹介 11～14話

11話 探偵団結成！
保護区内で象が殺された。パトロールの隙をつかれたアーサーの怒りは大きい。ジャッキーはダンが怪しいと思い、ケイトらを誘って調べることにする。

12話 ハッカアメと密猟者
今回の密猟の嫌疑がかけられ、テンボが逮捕された。ジャッキー達は真犯人の証拠をつかもうと奔走するが、なかなか上手くいかないでいた。

13話 探偵団プラス1
アーサー達は釈放されたテンボとともに密猟者の捜索に動き出す。一方、ジャッキー達は真犯人さがしの為、ケイトの叔父ヘンリーに探偵団に入ってもらうよう頼む。

14話 ヒヒの襲撃
ジャッキーとテンボはマーフィのエサをとりに出た。日曜日、ヘンリーとジャッキー達はクランクショウから密猟者がいた場所を聞き、一緒に森に向かう。



バオバブの木。博士の家から5〜6キロ先にある。



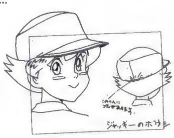
左からダン、ジョン・ケンドール、マイケル・ピーターソン（ヒゲの男で主犯格）、ゴト。ジョンとマイケルは最後までジャッキーに関わってくる。（声：佐藤正治＝ダン、田中和実＝ジョン、沢木郁也＝マイケル）



ジャッキーの乗馬帽子。



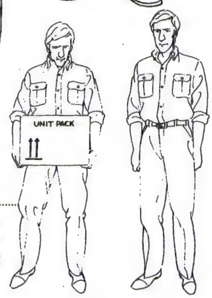
ジャッキーの懐中電灯（16、17話）。



バオバブの木にいくときのジャッキーの帽子。

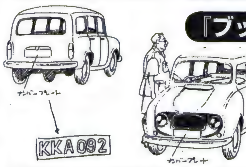


博士の訪問着。



ダン・ムーア。家電の修理屋。裏で密猟を手伝う。しかし…。

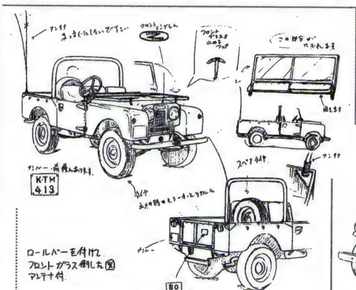
『ブッシュベイビー』に登場した車



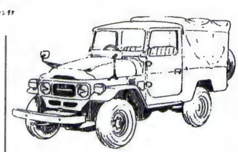
博士の車。



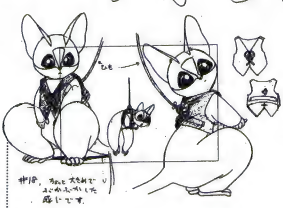
ダンの車。30km範囲を傍受する無線機を搭載。



保護事務所のランドローバー。



密猟者達の車。



マーフィのチョッキ。完成当初はまだぶかぶかだった。

ストーリー紹介 15〜18話

15話 ふしぎな木バオバブ

森でヒヒの大群に襲われるジャッキー達。ジャッキーはマーフィの敵の多さを知る。リフトバレーからの帰り道、大きなバオバブの木を見つける。

16話 秘密のほらあな

バオバブの木に磁石を落としたことに気づいたジャッキーは、愛馬に乗って出かけていく。バオバブの洞穴でジャッキーが見たのは密猟された象牙の山だった。

17話 密猟団現わる

密猟者らに追い詰められたジャッキーを救ったのはダンだった。危機一髪、クランクショウの車でその場を逃れるが、密猟者らは執拗に追いかけてくる。

18話 チョッキ騒動

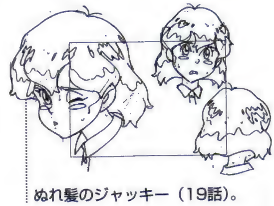
ハッカアメを取ろうとマーフィがモーリスの店で大騒ぎ。店に被害を出してしまったジャッキーは、マーフィに縄をつけるため、チョッキを作る。



ペニーの登山服。

モシの町のバケツ屋。ジャッキーが密猟者から身を隠すのに利用。





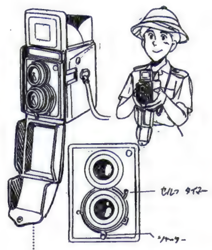
ぬれ髪のジャッキー（19話）。



ロバート・アイアランド少佐
アーサーの友人。ロイヤルアフリカライフル部隊でテンボの上司だった。（声：銀河万丈）



キリマンジャロ登山用の杖。



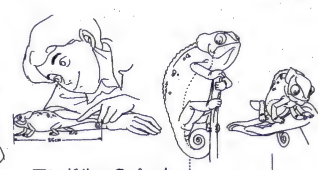
実はカメラ小僧だったアンドルー。父から借りたカメラはセルフタイマーつきの二眼レフ。



キリマンジャロ中腹、標高3000メートルにあるマンダラ小屋。テンボとジャッキーは霧で迷い、その先まで登ってしまった。



ジャッキーの旅立ちの服。



アンドルーのペット、カメレオンのベン。途中のヌディ駅で放す。





ナイロビ駅正面。実際の駅舎に忠実に描かれている。

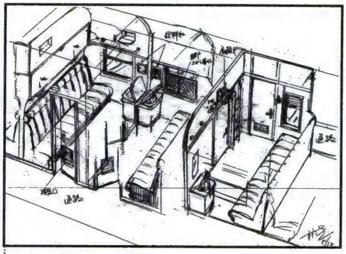
ストーリー紹介 19～22話

19話 運命のはじまり
雨期に入り、マーフィのエサさがしも困難になった。増水した川に落ち、救出されたジャッキーは、その夜、父が保護官を辞めてイギリスに帰ることになったと知らされる。

20話 霧のキリマンジャロ
イギリスへ帰る前に、一家はアフリカ生活の記念にキリマンジャロに登山に出かけた。途中のモシの町でジャッキーは、いつかの密猟者の姿を見る。

21話 さようならケイト
マーフィの国外持ち出し許可書がようやく出た。出発の朝、住み慣れた家に別れを告げると、ジャッキーは博士の計らいで、飛行機でナイロビへ向かう。

22話 無くなった許可証
列車は一晩かけてモンバサへ向かった。見送りにきてくれたテンボと波止場で別れ、船に乗るジャッキーだったが、ふと許可書がないことに気がつく。

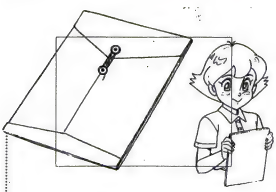


一家が乗った一等車両の寝台車内部。

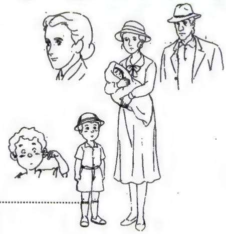
ローズ家の旅立ちの服。







マーフィの国外持ち出し許可書を入れていた封筒。学校関係の書類と一緒に入っていた筈だったのだが…。



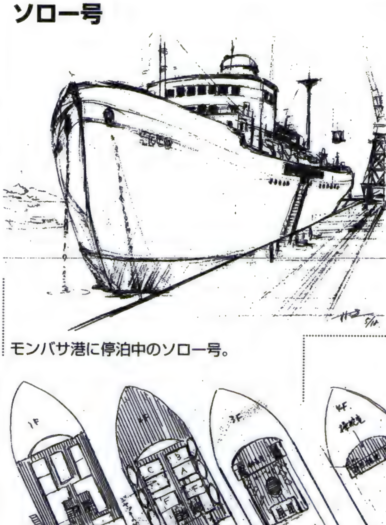
ダン一家。国外追放となり南アフリカへ向かう途中、アーサー達と偶然会う。彼の託した情報がジャッキーとテンボの運命を変えていく。



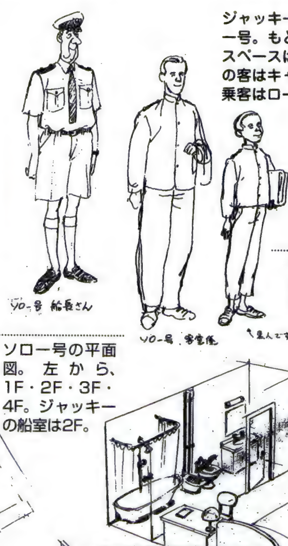
テンボの見送りときの服。見送りが済んだら、病気の父を見舞いに故郷に帰る予定だったが…。

ソロー号

ジャッキーが乗る予定だったソロー号。もともと貨物船で、旅客用スペースは少ない。ローズ家以外の客はキャンセルされ、乗船時の乗客はローズ家のみ。

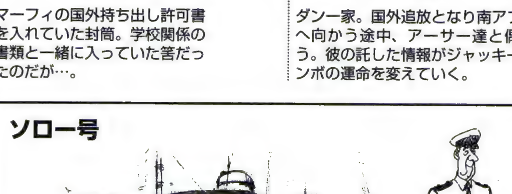


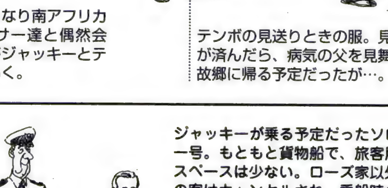
モンバサ港に停泊中のソロー号。



ボーイの少年の何気ない一言が、ジャッキーを不安に陥れる。

ソロー号の平面図。左から、1F・2F・3F・4F。ジャッキーの船室は2F。

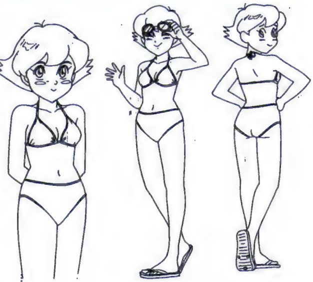




ジャッキーの船室。



決定前のデザイン。確かにフリルは似合わない？



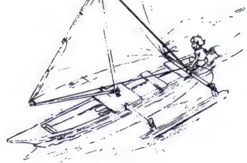
ジャッキーの水着。別荘に残しておいたものを着用。



モンバサ港近くの公園。ジャッキーはここでマーフィと別れようと決心するが…。

偶然にもミッキーが家族と一緒にヴィビンゴーの新しい別荘に来ていた。ことの次第を聞いたミッキーはついていくと言い出し、テンボとジャッキーを大いに慌てさせる。

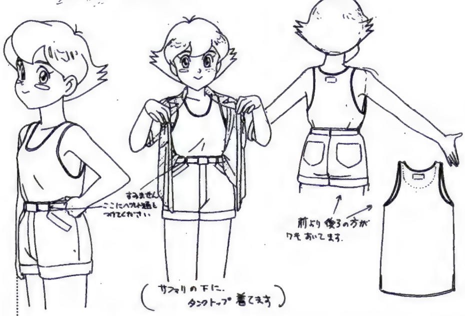




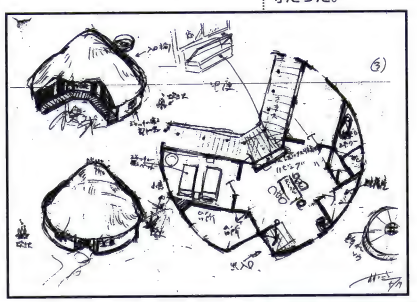
ローズ家のカヌー。



ヴィビンゴーのローズ家の別荘。隣がロバート少佐の家で、それを頼りに来たものの、あいにくの留守だった。



ジャッキーの旅の服。サファリウエアの下は赤いタンクトップ。



ストーリー紹介 23～26話

23話 波止場の大事件
許可書がないとマーフィを捨てられる！ ジャッキーは船を降り、マーフィと別れる決心をして公園に向かった。そこで密猟者に追われるテンボに出会う。

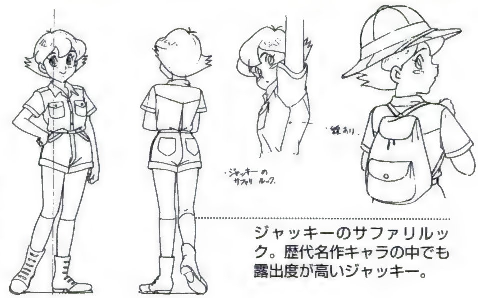
24話 アフリカひとりぼっち
テンボは密猟の証拠を入手していた。ふたりは一緒に港に戻るが、船は予定より早く出航。途方に暮れたジャッキーはひとまず別荘のあるヴィビンゴーに向かう。

25話 テンボに逮捕状!?
別荘の隣に住む少佐はあいにく不在。船に連絡しようと、村へ電報を打ちに行ったジャッキー達は、テンボが誘拐犯として指名手配されたと知り驚く。

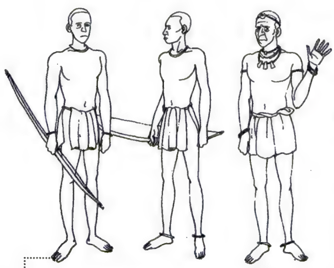
26話 マーフィの災難
テンボが密猟の証拠を渡すためヌディに向かうと聞き、同行してマーフィを野生に返そうと決意するジャッキー。ところがミッキーが強引に仲間に加わり…。



一行が野宿した木。



ジャッキーのサファリルック。歴代名作キャラの中でも露出度が高いジャッキー。



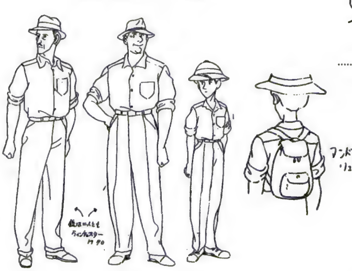
ジャッキー達を監視し続けるワランガ族。



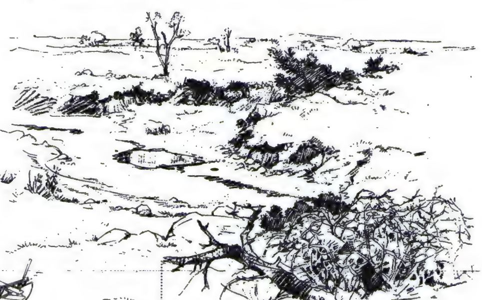
テンボのタンガ（鉈）と旅のスタイル。



ワランガ族の水袋。牛の膀胱で出来ている。



ジャッキーとテンボを追うアーサー達の旅スタイル。アーサーと少佐はライフル（ウィンチェスターM70）を持つ。



動物達の塩なめ場。ジャッキー達は手前のいばらに潜んで、動物達の水争いをやり過ごす。



ケニア軍のヘリコプター。ジャッキー達の捜索は国を挙げて行われた。

ストーリー紹介 27～30話

27話 追う人、追われる人

カヌーで旅を始めたジャッキー達を、密猟者が追っていた。そして船を降りた両親らもジャッキーの行方をさがしてヴィビンゴーまで来ていた。

28話 密林の象たち

川上でカヌーを下りたジャッキー達は象に遭遇、荷物を失う。一方、アーサーはジャッキーが密猟者に追われていると考え、少佐とともに上流に向かった。

29話 野性を取りもどせ!!

サバンナでの厳しい生存競争を目の当たりにしたジャッキーは、マーフィにエサを与えるのをやめる。飢えたマーフィはついに自分で昆虫を捕らえた。

30話 サバンナのおきて

ジャッキー達をワランガ族が追跡していた。塩なめ場に来たジャッキー達は、そこで野生動物たちが生きるための戦いを繰り広げる姿を目の当たりにする。



ミッキーが転落し、ジャッキー達が密猟者達に拘束された枯れ川。



ジャッキーと話すうちに情が移ってしまうジョン。完全に悪になりきれず、もろさを露呈する人間臭いキャラである。



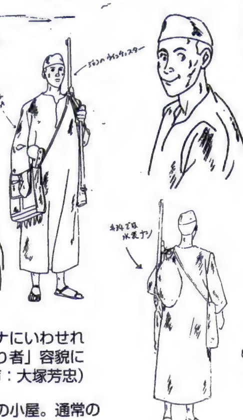
怪我をしたミッキー、とうとう泣き出す「おかあさ～ん！」とかなり情けない。



テンボとジャッキーを猛火から救う事になった子象。



アトマニ
マサイの戦士。サフィナにいわせれば「お兄ちゃんは変わり者」容貌に反して実は怖がり。（声：大塚芳忠）



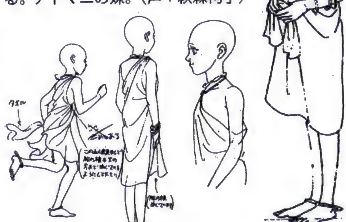
コゲコゲテンボ。



野火をくぐり抜けたときのコゲコゲジャッキー。



岩山にあるマサイの小屋。通常のマサイは牛糞で丸い家を造る。



サフィナ
気だての優しい13歳の少女。白人の牧師が教える学校に通ったこともある。アトマニの妹。（声：萩森侚子）

ストーリー紹介 31～34話

31話 毒矢とハーモニカ
ミッキーのマーフィへの愛情は次第に度を超し、ジャッキーは心配していた。ところが森に入ったミッキーは、誤ってワランガ族の矢に当たってしまう。

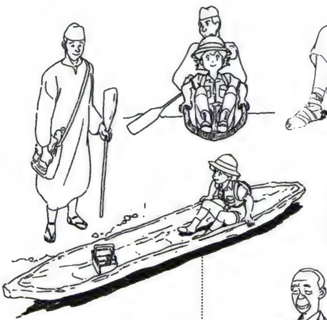
32話 やさしい戦士・テンボ
怪我をしたミッキーは家に帰りたいと泣き出した。そこに密猟者が現れ、ジャッキー達が拘束される。ジャッキーはテンボの助けを信じて待つのだった。

33話 炎に向かって走れ！
テンボは密猟者をかわし、クランクショウ博士の助けを呼んだ。無事救出されたジャッキーは、ミッキーを博士の飛行機に託し、再びサバンナへ向かった。

34話 マサイ族の小屋
マサイの野火は予想以上の猛火でサバンナを焼きつくしていた。火に囲まれたジャッキーらは決死の覚悟で脱出。マサイの小屋のある岩山へたどり着く。

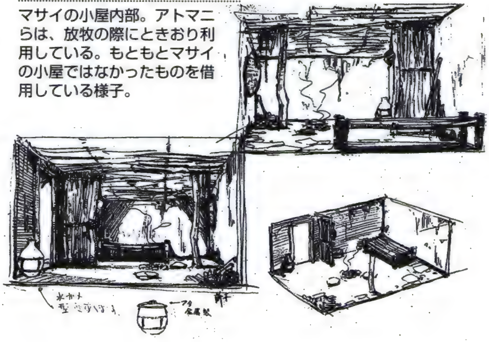
ヒョウを追ううち谷川でねんざしたテンボ。しかし水に落ちながらも見事ライフルでヒョウをしとめる。





アトマニが譲ってくれた丸木舟。泳げないテンボは朽ちたボロ船に恐怖を覚える。

マサイの小屋内部。アトマニらは、放牧の際にときおり利用している。もともとマサイの小屋ではなかったものを借用している様子。

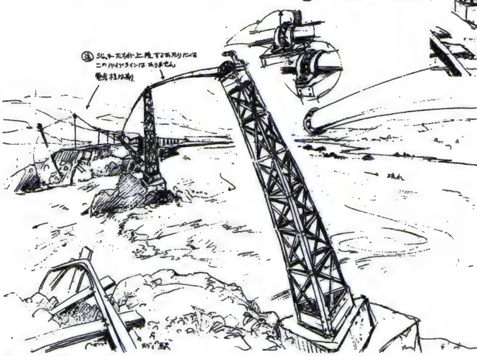




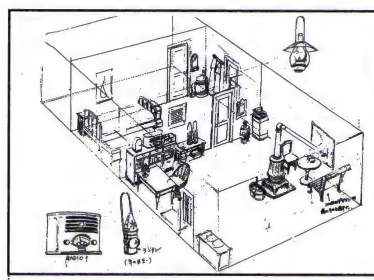
ギデオン
ヌディの駅長兼、雑務係。つまり駅は彼ひとり。密猟者の奇襲に逆襲してみせる。
（声：増岡弘）

ヌディは機関車の給水所になっている。ここはかつてアンドルーがベンを放した場所でもあった。





鉄道線路決壊場所。わずかにパイプラインだけで対岸につながっている。マーフィにパイプを渡らせようと決意するが…。



ヌディ駅舎内部。執務室と休憩室に分かれている。ギデオンがジャッキーに風呂桶を用意したのは休憩室。

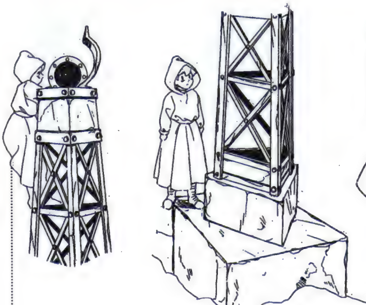
ストーリー紹介 35～38話

35話 ジャッキー倒れる!!
旅の疲れから熱を出したジャッキーは、マサイの兄妹から手当を受けていた。ジャッキーを追っていたアーサーらは野火に阻まれ、前に進むのを断念する。

36話 豹と二人の戦士
ようやくジャッキーは回復するが、足を痛めたテンボを気遣い滞在を延ばすことにした。そんな折り、マサイの小屋の近くにヒョウが現れ、牛が襲われた。

37話 雨の日の思い出
雨期が始まった。何時間も降り続く激しい雨で身動きが取れなくなったジャッキーは、マサイの少女サフィナと長い時間、語り明かすのだった。

38話 列車が流される!?
ジャッキー達は、雨で水没したサバンナを丸木舟でヌディへと向かった。ところが線路のある土手が決壊し流されていた。



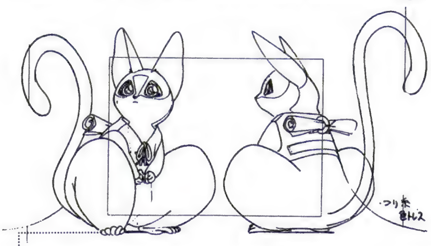
パイプとジャッキー。パイプの先は暗くマーフィの姿は見えない。ジャッキーに出来るのは祈ることだけ。



雨具姿のアーサーとアンドルー。



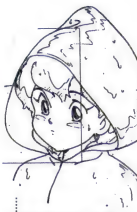
ギデオンから借りた雨具ジャッキーにはだぶだぶ！



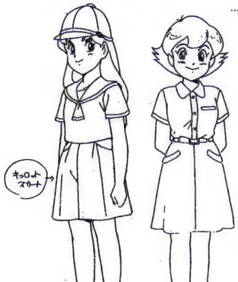
手紙を運ぶマーフィ。怖がるマーフィに何度もパイプを行き来させることは、ジャッキーにも辛いことだった。



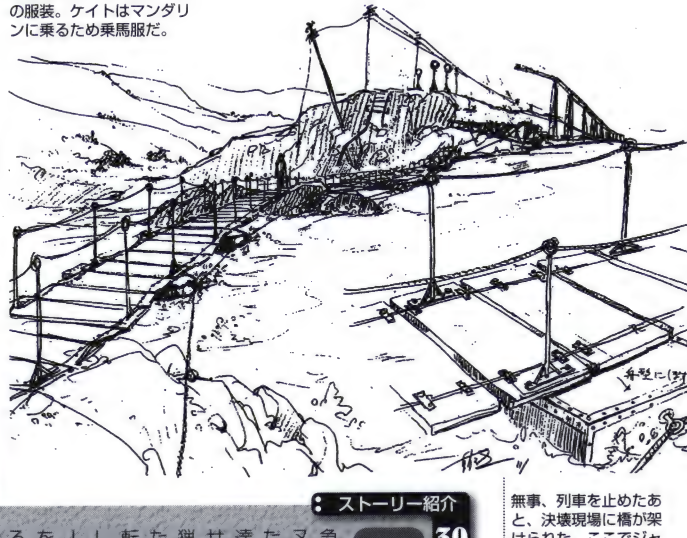
最終話のマーフィ用の新しいバスケット。



濡れジャッキー。



マーフィを野に帰しにいくときのジャッキーとケイトの服装。ケイトはマンダリンに乗るため乗馬服だ。



無事、列車を止めたあと、決壊現場に橋が架けられた。ここでジャッキーは父と兄に再会する。

40話 マーフィのさようなら

決壊現場の対岸には父と兄の姿があった。列車を止めるため、ジャッキーは父への伝言をマーフィに託す。間に伝うパイプだけが頼みの綱だった。

ストーリー紹介 39～40話

39話 駆けぬけろマーフィ

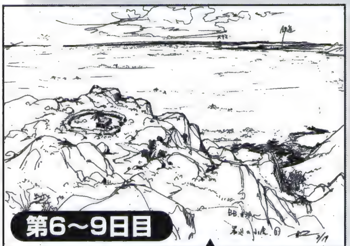
急を知らせにヌディ駅に来たジャッキー達は、待ち伏せしていた密猟者に捕らえた。駅長の機転で危機を脱したジャッキーらは、列車を救いに走る。

作品コラム

ジャッキーとテンボの歩いた道

モンバサで船を降りた日から、ヌディ駅にたどり着くまで、『ブッシュベイビー』の山場となる冒険は、実はわずか10日間の出来事である。バスで到着したヴィピンゴーからヌディまで、直線で140km。途中カヌーを使い距離を稼いだとはいえ、徒歩でサバンナをいく旅は、たとえ覚悟のできた少女でも厳しいものだったに違いない。ジャッキーの足跡をたどってみよう。

野火を逃れてたどり着いた岩山（マサイの小屋がある）安堵もつかの間、野火を逃れた野獣が待ち受けていた。



第6〜9日目



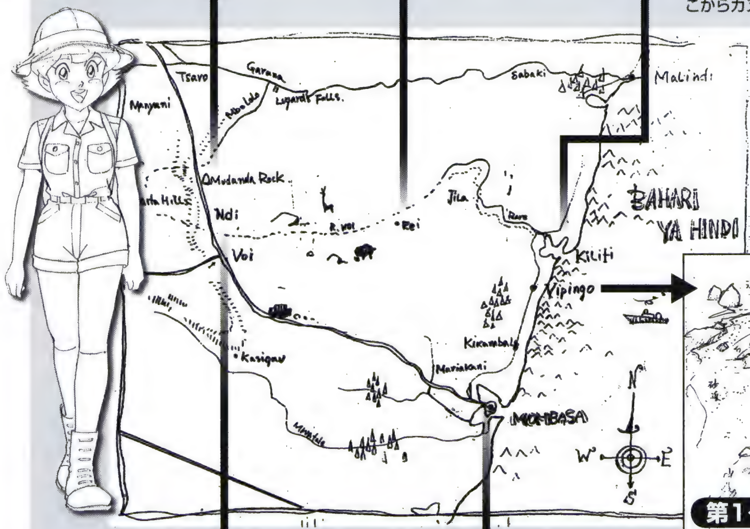
第3〜5日目

サバンナをひたすら歩く。



第3日目

ヴィピンゴの村と河口。ジャッキー達は警察と密猟者に追われ、ここからカヌーに乗り、奥地へ。

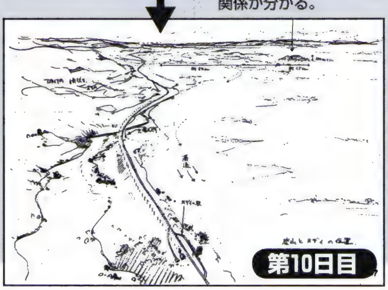


船に乗り遅れたジャッキーはひとまずローズ家の別荘のあったヴィピンゴーへバスで向かう。珊瑚礁の入り江があり、隣が少佐の家。



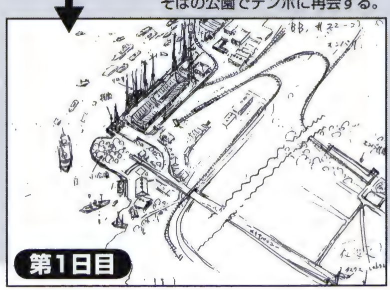
第1〜3日目

旅の目的地ヌディ。決壊現場や岩山との位置関係が分かる。



第10日目

ケニア第二の都市モンバサ。港のそばの公園でテンボに再会する。



第1日目

1963年、ケニア独立！

ジャッキー達がイギリスに帰る背景に、ケニアの独立があった。1888年以来イギリスの植民地であったケニアは1963年12月に念願の独立を果たす。だがジャッキーたちにしてみれば住み慣れた土地を追い出され、野生動物保護管の職を失うこと。アニメは一貫して追われる白人側の視点で描かれている。

独立の原因を作ったマウマウ団の乱。それを弾圧したイギリス、ようやく勝ち得た独立の喜び、その時代の熱い息吹はアニメからは見えてこない。だが、多民族国家であるケニアの人種間の力関係は、かなり突っ込んでみせてくれた。ケニアの歴史を知って作品を見直せば味わいも深くなるはずだ。



テンボを取り調べるケニア人警官。独立後のケニアをめぐるインド人、キクユ人、マサイ人、そしてテンボと白人たちの微妙な力関係がよく描かれていた。

3人いた？キャラクターデザイン

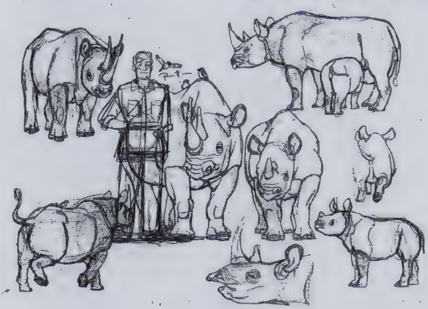
『ブッシュベイビー』のオープニングとエンディングにクレジットされているキャラクターデザイナーが複数いることに気がついただろうか？

実はこの作品、サブキャラクターを関修一氏、主人公ジャッキーとマーフィを加藤裕美氏、動物は譚小勇氏の3人が、それぞれで担当してデザインしている。

関氏には「主人公に絵柄をあわせる必要はないから、関さんの感じでサブキャラクターを描いて」と注文されたそうだ。動物は、動物画の実力派、譚氏を起用。迫力ある野生動物が描かれた。

実はこの『ブッシュベイビー』という作品にはもう一つのキャラクターデザインが存在する。『ブッシュベイビー』が企画されたのは、日本アニメーション(株)ができて間もない頃のこと。あの森やすじ氏がデザインして企画書が作られていたのである。なんとも豪華で奥深い作品ではないか。

譚小勇氏によるサイのスケッチ画。マーフィとカメレオンのベン以外の野生動物をデザインした。





加藤裕美氏のジャッキー。従来の名作劇場の線を残しつつ、現代的風の明るいデザイン。関氏の絵と並べても違和感がない。


関修一氏によるキャラクターデザイン。ジャッキーとマーフィ以外のすべてのキャラクターを担当。中央は関氏作画のジャッキー。

南の虹のルーシー
トム・ソーヤーの冒険
愛の若草物語
母をたずねて三千里
ナンとジョー先生
ふしぎな島のフローネ
赤毛のアン
あらいぐまラスカル
愛少女ポリアンナ物語
私のあしながおじさん
1965 ブッシュベイビー
七つの海のティコ

原作について

アニメ化以前の1971年には『カバの国への旅』というタイトルで出版された。原作ではマーフィではなくカマウ。1965年発表作品。

〈原作者〉

ウィリアム・スティーブンソン

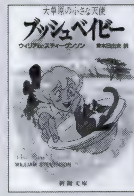
1925−



エンテベの90分

訳：北詰洋一
発行：サンケイ出版
（絶版）

ロンドン生まれ。第二次世界大戦時には空軍、イギリスの諜報部員として活動。戦後は海外特派員として世界を回り取材した。ジャーナリストであると共に、作家としても知られ、『暗号名はイントレピッド』『エンテベの90分』など、戦争や中東問題を扱うノンフィクションものを手がけている。近年の作品に『The Revolutionary King（2001）』『The Life of Vera Atkins（2006）』がある。
第二次世界大戦中、対ドイツの諜報活動やアメリカの参戦工作に関わった暗号名イントレピッドこと同姓同名のサー・ウィリアム・スティーブンソンは、彼の上司である。



大草原の小さな天使ブッシュベイビー

訳：青木日出夫
発行：新潮社
（絶版）

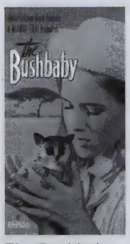
『ブッシュベイビー』は、スティーブンソンが娘のために書いた物語

ウィリアム・スティーブンソンが新聞社の海外特派員だった頃、彼の一人娘ジャックリーヌ（愛称はジャッキー）のために書いた物語が本作だ。

彼ら一家がケニアに駐在している頃、娘ジャッキーはカマウという名前のブッシュベイビーを飼ってかわいがっていた。その実体験を元にこの物語が生まれたという。

アニメのマーフィとは違い、カマウは野生に帰されることはなく、ケニアを去った後も一家と一緒に世界中を回ったという。カマウは様々な環境や食事にも順応したそうだ。それはひとえにジャッキーの愛情と献身のおかげであろうと、本書はジャッキーに献呈されている。

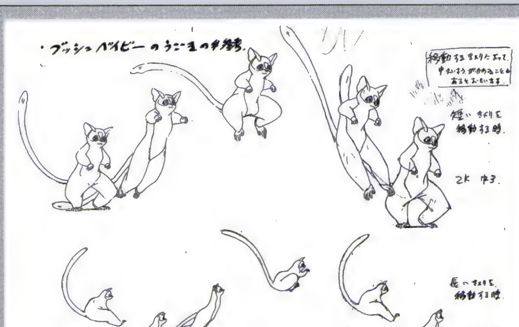
自ら諜報部員の過去を持ち、作家としてもハードなドキュメントを書き続けた〝強面〟スティーブンソンの、ほとんど唯一といえる、心温まる児童向けの作品である。



The Bushbaby

配給MGM
1970年作品

吠えるライオンのオープニングで有名なMGMで映画化された『ブッシュベイビー』。スティーブンソンは脚本でも参加している。

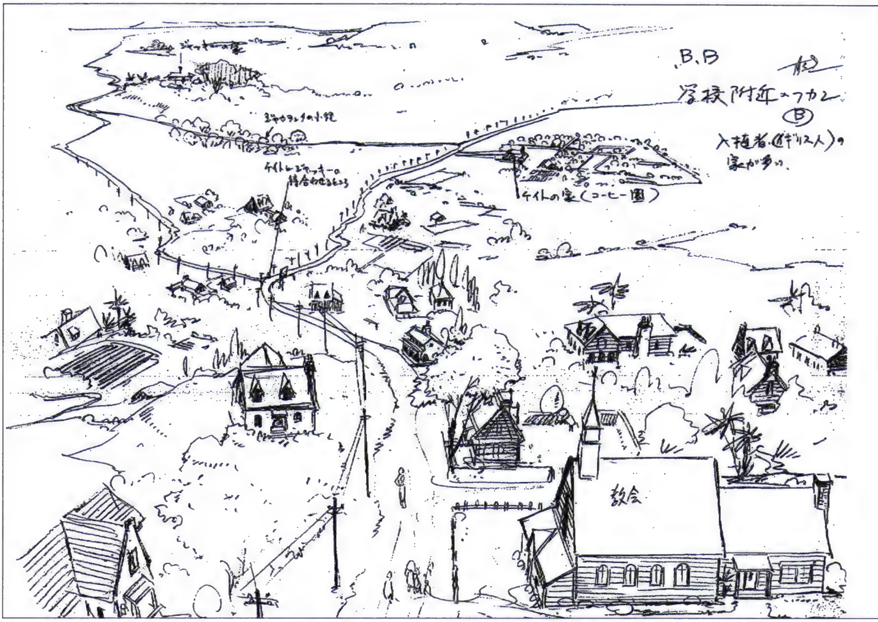


◉ブッシュベイビーとは

アフリカ中南部の森林に生息する小型のサルで、ガラゴ属ショウガラゴ。夜行性で大きな耳と長い尾、丸い大きな目が特徴。ジャンプ力もあり2メートル以上飛ぶ。鳴き声からブッシュベイビーともいう。

アニメでも描かれていたように、通常は群れで暮らしている。好物はバッタなどの虫の他、果物や種子など。

Gallery



学校付近からの俯瞰。遠くにジャッキーとケイトの家を望む／伊藤主計

メインスタッフ

脚本	宮崎晃
音楽	宮川彬良
キャラクターデザイン	関修一／加藤裕美
絵コンテ	鈴木孝義／加賀剛／中西伸彰／則座誠／楠葉宏三／斎藤博
作画監督	加藤裕美／細井信宏／伊藤広治／田中穣／鷲田敏弥
美術設定	伊藤主計
美術監督	森元茂
撮影監督	森田俊昭
音響監督	藤野貞義
色指定	小山明子／小酒井久代／諸澤千恵子
原画	石川哲也／朝戸澄子／大城勝／橋本聡子／ふるたしょうじ／三浦辰夫　他
プロデューサー	松土隆二／和田実
監督	鈴木孝義

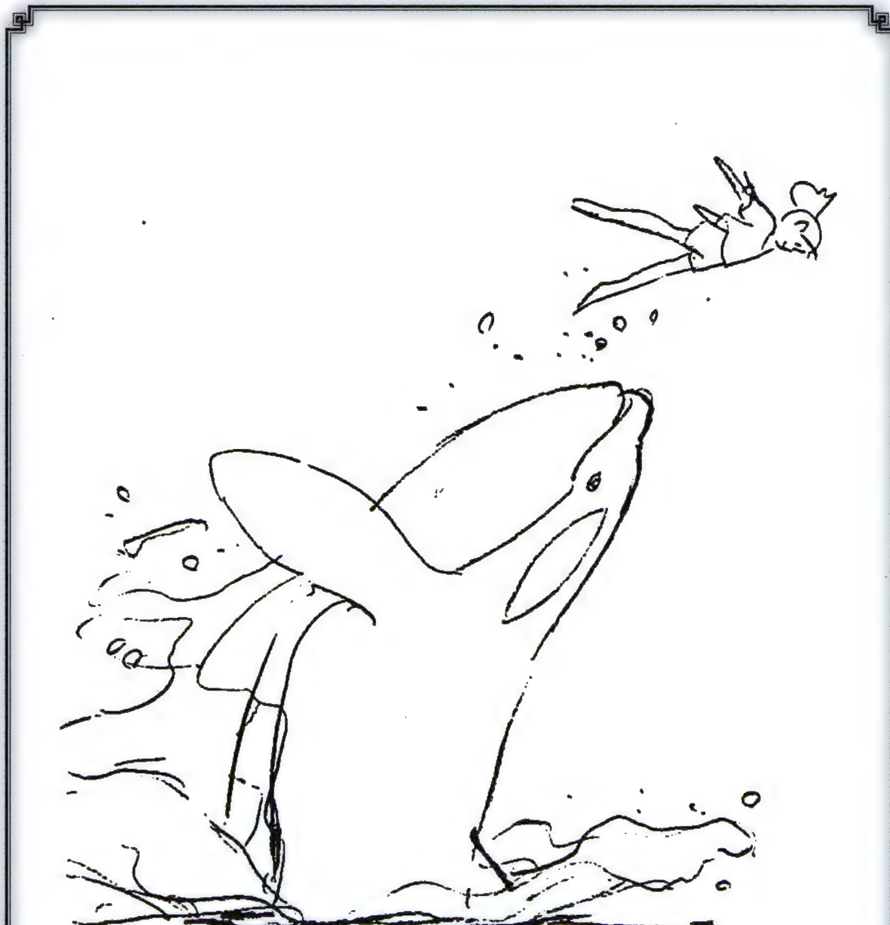
オープニングテーマ「APOLLO」
作詞・作曲：谷村新司　　編曲：佐藤康夫
歌：沢靖英

オープニングテーマ「微笑でプロローグ」
作詞：及川眠子　　作曲：岸正之
編曲：信田かずお　　歌：山野さと子

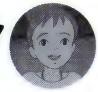
エンディングテーマ「鳥になる」
作詞・作曲：谷村新司　　編曲：佐藤康夫
歌：岡本麻弥

七つの海のティコ

Tico and Friends

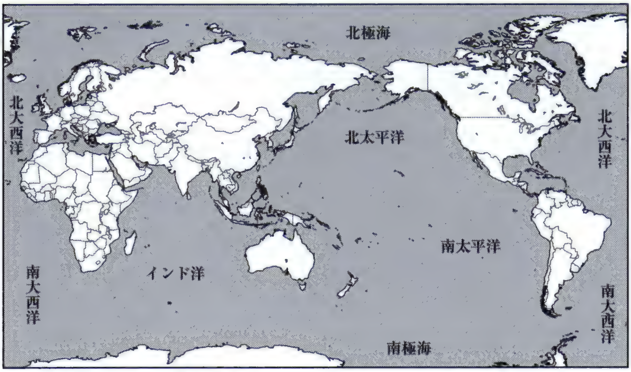


七つの海のティコ



放映期間	1994/01/16～ 1994/12/18
話　数	39話（テレビ未放映1話分含む）
原　案	広尾明
備　考	94年中央児童福祉審議会特別推薦

物語の舞台



ナナミ達は作品中で主な海をすべて制覇している。まさに七つの海の物語。

History

世界名作劇場の中で、唯一現代を舞台にした作品。小道具にパソコンも登場する。

19C

1825 蒸気機関車実用化(英)

1837 ビクトリア女王即位(英)

1868 明治維新(日)

1903 ライト兄弟飛行機を発明(米)

20C

1911 アムンゼン、人類初の南極点到達

1914 第1次世界大戦(～1918)

1929 世界恐慌

1939 第2次世界大戦(～1945)

1969 アポロ11号月面着陸(米)

1989 世界初のノートパソコン発売

ストーリー解説

幼い頃から海で育ったナナミ。彼女に寄り添うように泳ぐシャチのティコはナナミが生まれたときからの仲良しだ。ナナミとティコは、伝説のクジラ〝ヒカリクジラ〟を追う海洋生物学者の父スコットと一緒に世界中を旅していた。仲間のアルは、儲け話には目がないが、めっぽう気のいい頼れる相棒だ。冒険に憧れて船に押しかけてきたメルビル財閥の一人娘シェリル、そして彼女の執事ジェームス。さらに、内気だがコンピューターが得意な少年トーマスを加え、一行は世界の海を航海していく。

彼らのいく先々に現れる謎の国際組織の目的は？　ナナミ達はヒカリクジラを探す旅の中で、数々の出会いと別れを重ねながら様々な経験をしていく。

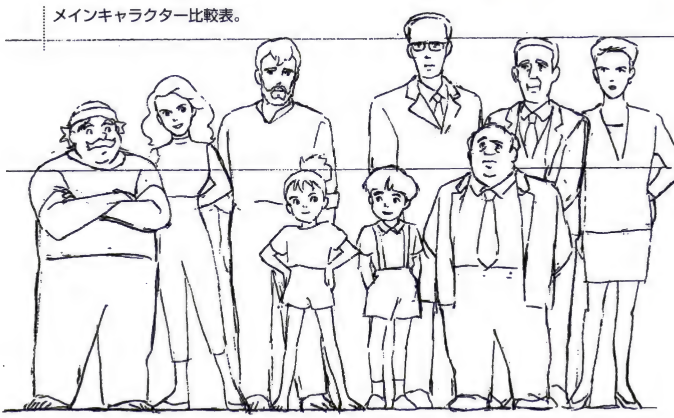
1990年代?

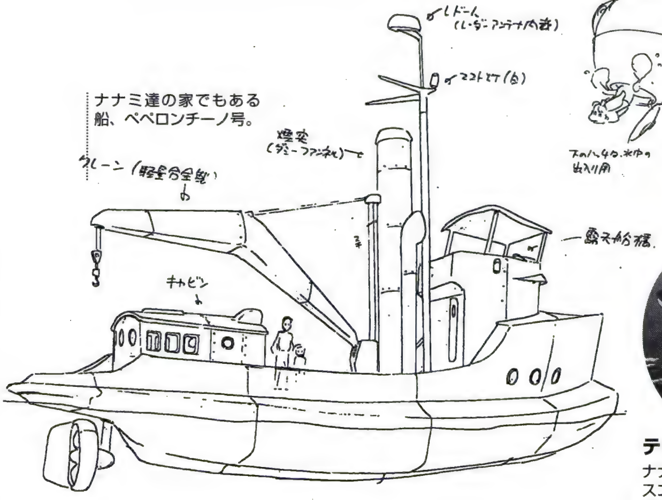
- カリフォルニア
- リオデジャネイロ
- ザイール川
- 地中海
- アルの故郷 シチリア島へ
- ティコ出産
- シェリル婚約騒動

翌年

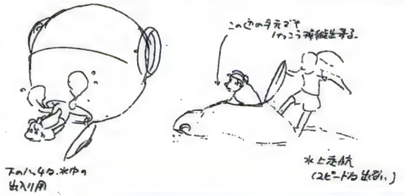
- グリーンランド
- 北極海 ティコ死亡
- ナナミの母の故郷日本へ
- シドニーで学会
- コモロ諸島へ
- 南極に向かう

メインキャラクター比較表。

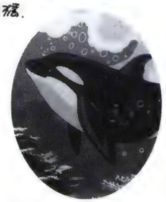




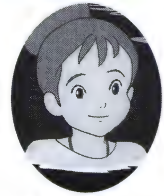
ナナミ達の家でもある船、ペペロンチーノ号。



キャラクター紹介



ティコ
ナナミが生まれた日にスコットに助けられた、雌のシャチ。以来ずっとナナミの親友。



ナナミ・シンプソン
日本人の母、米国人の父を持つ少女。3歳で母を亡くし、父とペペロンチーノ号で暮らす。



ルコント
海洋生物学者としてGMCに協力している。研究成果至上主義で対人関係は不得手。



トーマス
ルコントの一人息子。10歳。後にナナミ達の仲間に加わる。パソコンが得意。



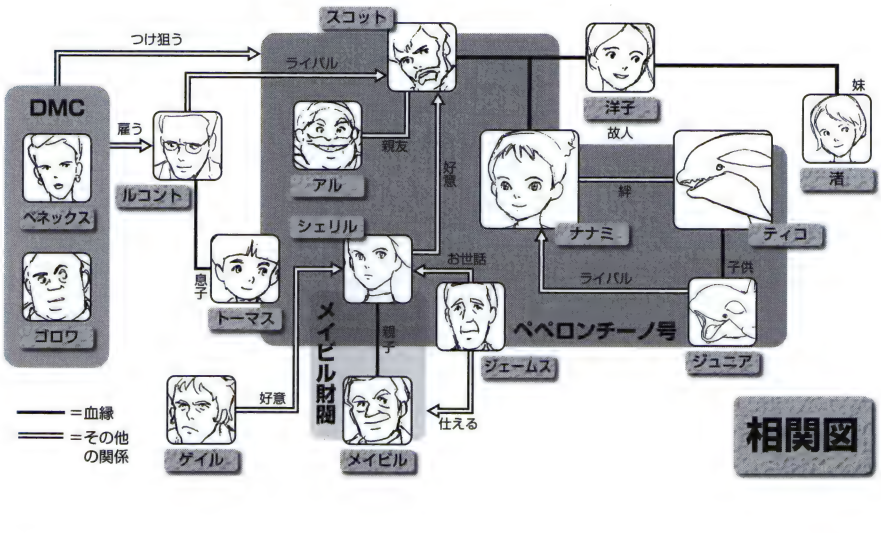
スコット・シンプソン
いつも冷静で優しいナナミの父。伝説のヒカリクジラを追っている海洋生物学者。



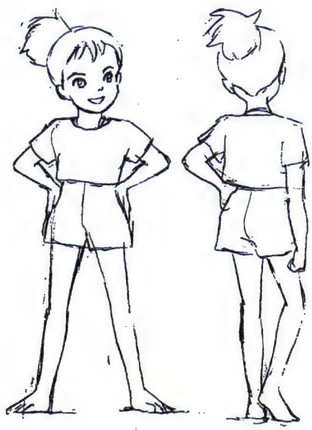
アル
イタリア出身の技術屋。船のことなら何でもOK。儲け話に弱い人情家。



シェリル
イギリスの名家メルビル財閥の一人娘。18歳。冒険好きで各種操縦免許を持つ。



ナナミ・シンプソン





シャチ笛。普段はシャツの中に入れている。

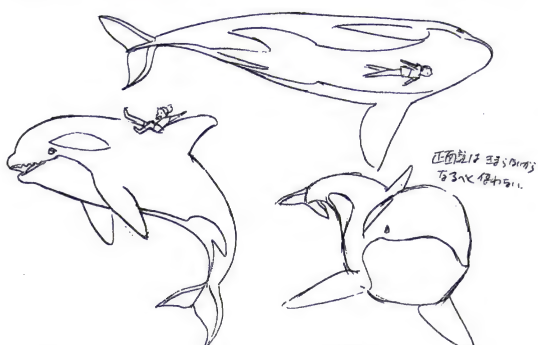






11歳。ティコがスコットに助けられた同じ頃、ナナミが生まれた。以来、ティコとは強い絆で結ばれている。3歳で母を亡くし、母の顔は知らない。生まれたときから海に親しみ、ティコから泳ぎを教わる。潜水も得意で、人体の常識を超える深さと時間に耐えられる。海では万能のナナミも、陸に上がればごく普通の少女？（声：林原めぐみ）

父の夢「ヒカリクジラ」は、ナナミの夢でもある。直感的で洞察力に優れるナナミだが、父と心理的に分離できていない幼さがあるともとれる。

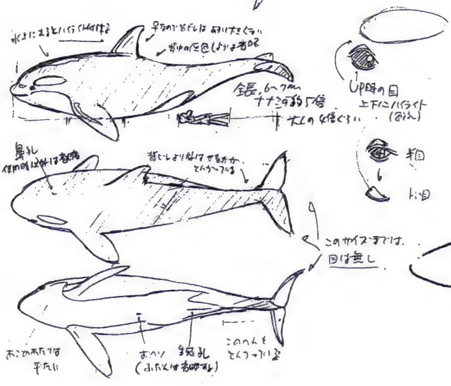


ティコ

シャチ（メス）全長6～7m。
生まれたばかりの頃、海岸に打ち上げられていたところをスコットに助けられる。ナナミの笛を聞き分け、どこからでも駆けつける。



シャチは淡水でも生きていけるが、皮膚が乾くとやけどした状態になり、死んでしまう。



スコット・シンプソン

ナナミの父。35歳。カルフォルニア大学バークリー校で海洋生物学を専攻していたが、研究室の実験を中心とした研究と方針を分ち、妻の死を契機に大学をやめる。当時ナナミ3歳。ナナミを連れてペペロンチーノ号に乗り、以来7年間フィールドワークの傍ら、ヒカリクジラを追う。普段は冷静で優しいが、研究になると我を忘れる。
（声：池田秀一）



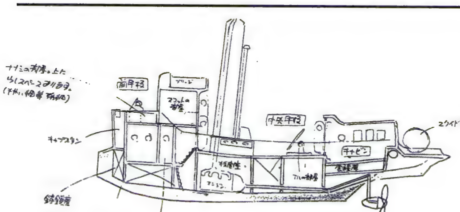
女性を愛したら一途なタイプ。ナナミに母の写真も遺品も残さなかったのも、彼にとって思い出は辛すぎるだけだから。

アル

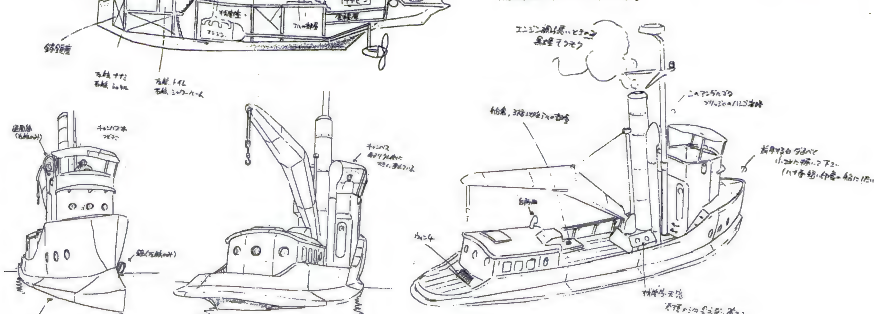
フルネームはアルフォンゾ・アンドレッティ。イタリア、シチリア島出身。40歳。独身。幼いときに両親に死なれ、祖母に育てられた。スコットとはヨーロッパの港で意気投合して以来の仲間らしい。船に関することなら何でもわかる技術屋。もちろん料理の腕も抜群。儲け話には目がないが、陽気で歌が好きなペペロンチーノ号のムードメーカーでもある。意外に現実派で、研究で周りが見えなくなるスコットに代わって冷静な判断を下せる、頼りになる奴！
（声：緒方賢一）

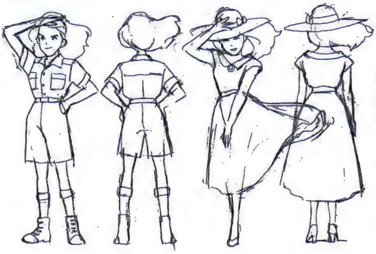


ペペロンチーノ号

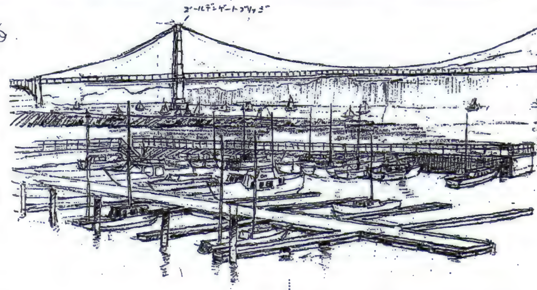


全長17メートル。排水量38トン。速力不明（設定より）設定初期には「オイルサーディン号」と名付けられていた。ネーミングから、アルが調達、改造した船だと思われる。途中で極地用に改造。小さいながらも生活必需品はそろっている。





シェリル
世の中はすべて意のまま。それが登場時のシェリルだった。メルビル財閥の一人娘でケンフォード大学生。18歳。(声：水谷優子)



1話冒頭に登場したサンフランシスコ、ゴールデンゲートブリッジ。





トーマス
アメリカ出身の男の子。初めてナナミ達の前に現れたトーマスは"弱虫の嘘つき小僧"。(声：松井摩味)



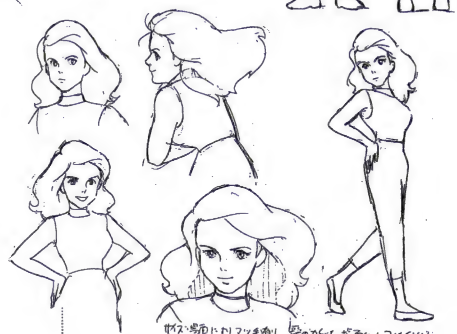
ジェームス
メルビル家に30年仕える執事でシェリルのお守役。おいしいお茶とお菓子の名人。船とフランス製品が苦手。ピンチのときは「マリア様！」が口癖。(声：増岡弘)



家出用のバックの中はほとんどゲームソフト？



TVレポーターまで設定されている。

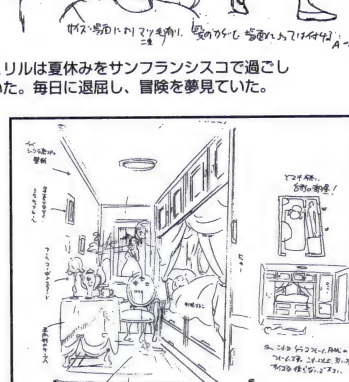


シェリルは夏休みをサンフランシスコで過ごしていた。毎日に退屈し、冒険を夢見ていた。

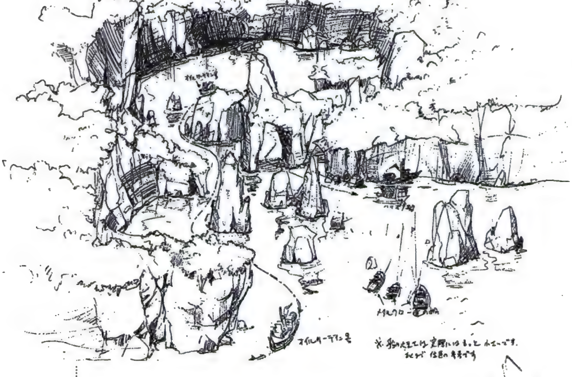
ストーリー紹介 1～2話

1話 シャチをつれた少女 冒険者ナナミ
サンフランシスコ近海に巨大なサメが出た。サメ退治の途中で遭難したシェリルを助けるナナミ達。水中のナナミとティコにシェリルはすっかり魅せられる。

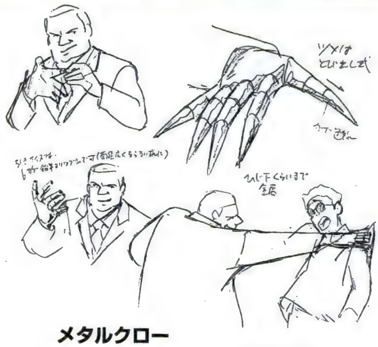
2話 カリブの海賊は子供をねらう!?
カリブ海に向うナナミ達を、シェリルが追いかけてきた。彼女を振りきって一行はバハマに到着。そこでナナミは何者かに追われているトーマスに出会う。



アルの部屋を強奪したシェリルは、自分流に改造。育ちがいいのか、意外に古典派。



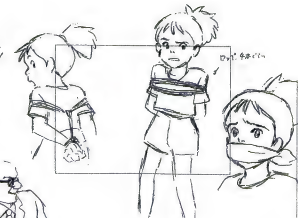
4話でナナミ達が追い込まれた入り江。



メタルクロー
ギャングの幹部。その手はいったい!?（声：郷里大輔）



リチャードの飼うオウム、ロロ。名前も覚え、敵に飛びかかる賢いヤツ。

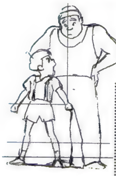




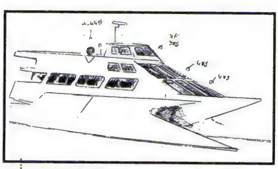
怒らせると怖いギャング。マシンガンで反撃されるのだ。



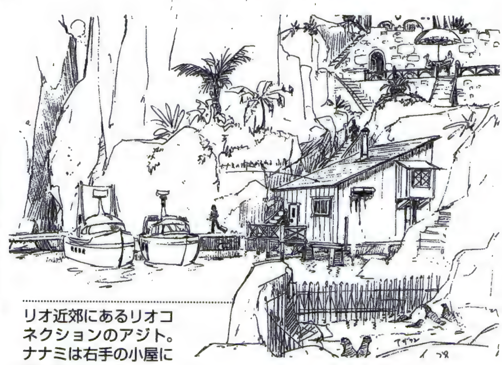
リチャード
野生動物専門のカメラマン。武器の密輸の秘密を知ったばかりに追われる身。（声：塩屋翼）



トーマスにいつもしてやられる乗組員スティーブン。



ルコントの乗るスコーピオ号。表向きはあくまで海洋調査船。従って事情を知らされていない乗組員達はいたって善良。



リオ近郊にあるリオコネクションのアジト。ナナミは右手の小屋に閉じ込められる。

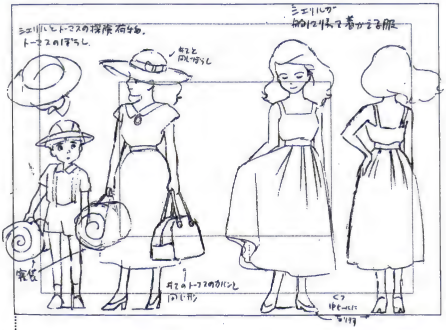
ストーリー紹介 3～6話

3話 大西洋のギャングがやって来る!?
大西洋に出たナナミ達。海面に漂う男リチャードを助けたペロンチーノ号に、ギャングが迫る。リチャードは武器密輸の秘密をつかんでいたのだ。

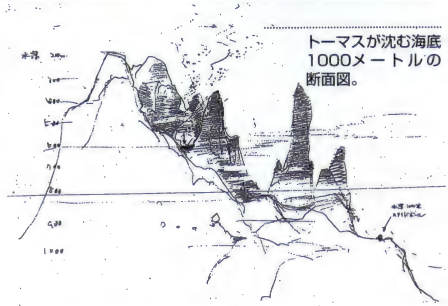
4話 逃げて逃げて逃げまくれ!!
ギャングに追われ、入り江に追い込まれたペペロンチーノ号だが、ナナミのアイデアで無事脱出。しかし立ち寄った村にもギャングの一味の姿が…。

5話 リオデジャネイロは眠らない
ナナミを助けにティコとスコットはアジトへ向かい、アル達は密輸の証拠フィルム取引の場へ臨む。スコットは奇襲攻撃でナナミを助け出す。

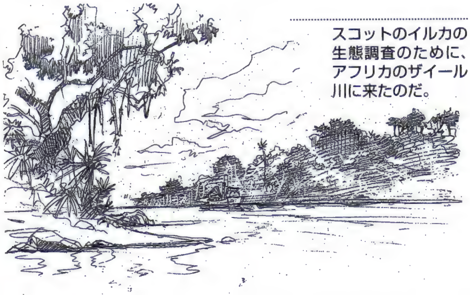
6話 シロナガスクジラに逢った日
嵐の中でナナミはシロナガスクジラに出会った。そこにルコントが乗るスコーピオ号が近づいてきた。そしてそこには、あのトーマスの姿もあった。



アルを探す口実で宝探しにいくシェリル。トーマスは本気でアルを心配しているが、シェリルはウキウキ。



トーマスが沈む海底1000メートルの断面図。



スコットのイルカの生態調査のために、アフリカのザイール川に来たのだ。



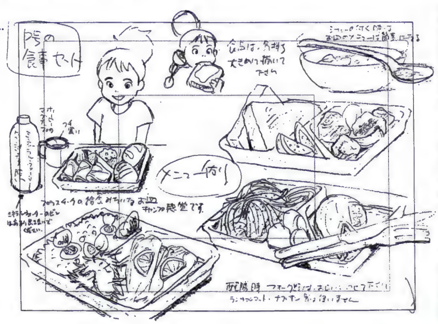
ゲイル
魚が大の苦手だが、飛行技術は一流。宝探しに人生をかける。シェリルに一目惚れ。
(声：石丸博也)

おいしいペペロンチーノの船弁

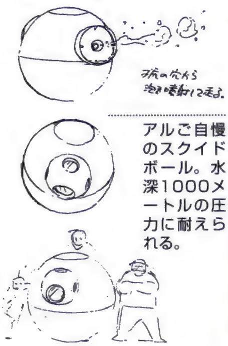




船内の食事メニューもきちんと設定されている。



もちろんティータイムはジェームスさん特製のお菓子付き。イギリス式で一日6回！



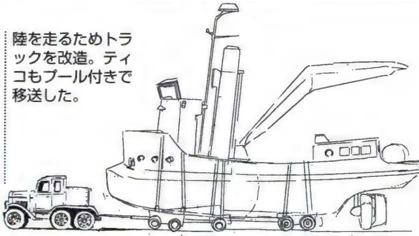
アルご自慢のスクイドボール。水深1000メートルの圧力に耐えられる。

ストーリー紹介 **7~9話**

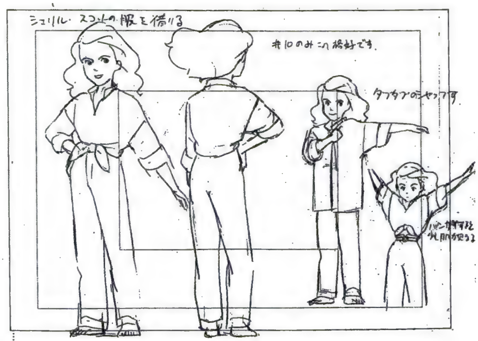
7話 大西洋の底 トーマスひとりぼっち
勝手にスクイドボールに乗ったトーマスは、海底地震のうねりを受け海に投げ出されてしまう。海底1000メートル、助かる可能性はトーマスにかかっていた。

8話 ザイール川の沈没船 秘宝の謎
一行はトーマスを仲間に加え、ザイール川をさかのぼっていた。ところが沈没船から宝の地図を見つけたアルは、ゲイルと組んで一人船を下りてしまう。

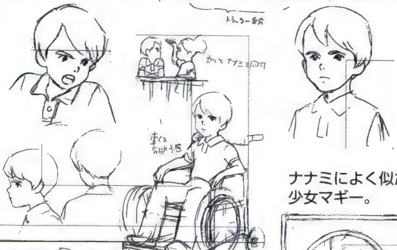
9話 幻の地底湖に浮かぶ希望の船
アルの行方を追ってシェリルとトーマスが船を降りた。宝の場所で再び全員が揃う。ナナミ達はゲイルとともに滝の奥に眠る19世紀の帆船を見つける。



陸を走るためトラックを改造。ティコもプール付きで移送した。



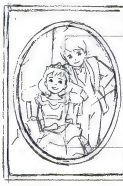
スコットに服を借りたシェリル。よほど気に入ったのかこのスタイルが定番に。11話以降はジーパンに変更し、シャツもジャストサイズになっている。シャツを直したのはジェームス？



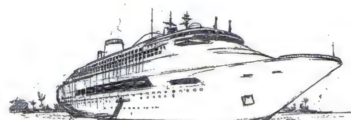
ナナミによく似た少女マギー。



テリー
マギーの兄。海難事故がもとで車いすの身になる。
(声：冬馬由美)



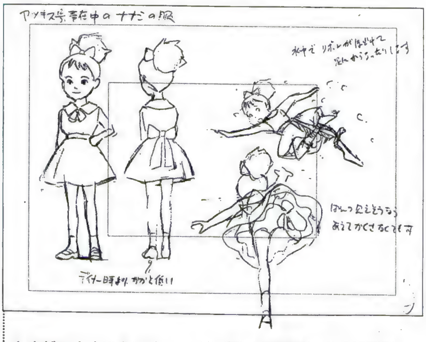
亡き娘の面影を求めてナナミを船に招待するタフト夫妻。



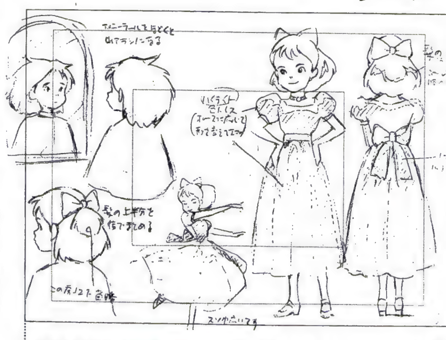
エーゲ海の豪華客船ゼメキス号。海に浮かぶホテルだ。



プリンセス・オブ・ザ・シップコンテスト。8～14歳から選ばれる。



さすがのナナミもスカートだと能力を発揮できない模様。海難救助で、みだりに水に飛び込んではキケン。



ゼメキス号に招待されたナナミ。タフト夫人に身支度を整えてもらう。"ポニーテールをほどくと山アラシになる"らしい。

ストーリー紹介 10～13話

10話 ペペロンチーノ号が陸を走る！

リオコネクションの残党が、ナナミ達を追ってザイール川まで来ていた。追いつめられたナナミ達は、陸路を使ってアフリカ横断を試みるのだった。

11話 プリンセス・ナナミエーゲ海の夢

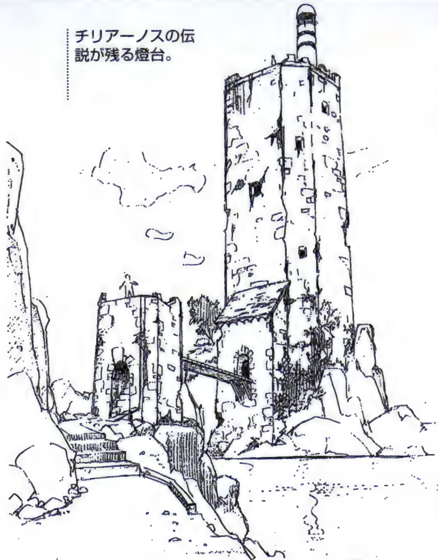
無事に地中海に出られたペペロンチーノ号。エーゲ海を航行中に、ナナミはアメリカ上院議員のタフト夫妻の客として豪華客船ゼメキス号に招待される。

12話 もうひとりのナナミと幸福な家族

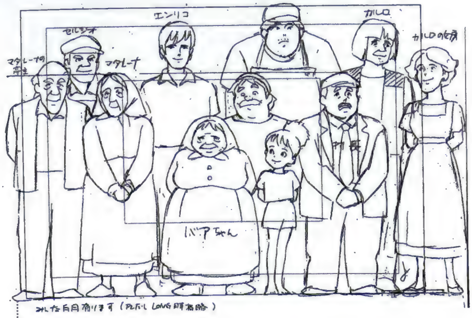
タフト夫妻と息子テリーは、娘を海難事故で亡くし、それがもとで家族崩壊しようとしていた。家族の悲しみを知ったナナミは、なんとかしようと心を砕く。

13話 ああ！ トーマス君の人生最悪の日

アルが水を吸うと何倍にもなるおもちゃを買ってきた。心配するトーマスをよそに、アルとトーマスの部屋から水が漏れ始める。しかも漏れた水の近くには例のおもちゃが！ トーマスは必死になって助けを呼ぶが…。



チリアーノスの伝説が残る燈台。



村は寂れはしたが、何かあれば一つに結束。絆は固い。

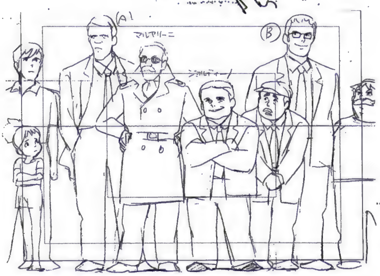




アルばあちゃんのパスタは最高！

ロザリンド

アルのおばあちゃん。マフィアをフライパンで打ちのめすモーレツばあさん。
（声：京田尚子）

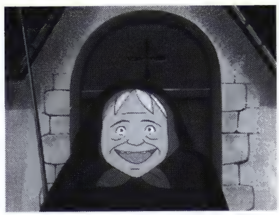


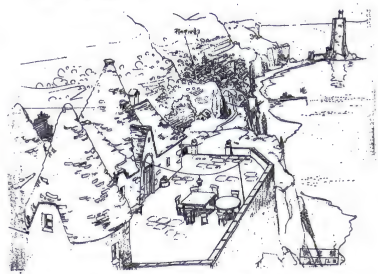
シチリアのマフィア。目的遂行のためなら笑顔もできる。

チリアーノスの伝説

by ロザリンド

よくぞ聞いてくれた。ずっと昔、エオリアの海賊が攻めて来たときのこと。英雄チリアーノスは、灯台に海賊を誘い込み、彼らを塔に閉じ込めて、空を歩いて脱出した。島を思う心を神様が見て奇跡を起こしたんじゃ。





ばあちゃんいわく“世界一の風景”というシチリア島に近い小島。オリーブと織物が特産。

ストーリー紹介 14～17話

14話 豪快！ シチリア島のアル婆ちゃん

故郷でアルを出迎えたのは、豪傑なおばあちゃん。アルばあちゃんの歓迎に大喜びのナナミ達だったが、島はリゾート開発で大揺れに揺れている最中だった。

15話 素晴らしき団結！ 空に舞うナナミ

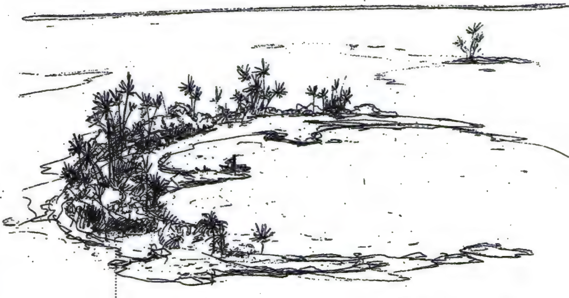
開発業者の本当の目的は、島に巨大なカジノを作ることだった。それを知ったナナミ達は村人と協力して、権利書を取り返す作戦を練る。

16話 新しい仲間!! ティコの赤ちゃん！

様子がおかしいティコを心配するナナミに、スコットはティコが妊娠していると診断した。その頃ルコント達は、ヒカリクジラとトロンチウムの関連に気づく。

17話 がんばれジュニア！ 最初の深呼吸

ティコの出産のため停泊していたペペロンチーノ号のもとに、GMCが研究費援助の申し出をする。断るスコットに対してベネックスは強硬手段に出た。



ティコの出産のため停泊したカナリア諸島の無人の珊瑚礁。



24歳のスコット。彼が浜辺でティコを見つけたのはこの頃。ほぼ同じ頃ナナミが生まれている。

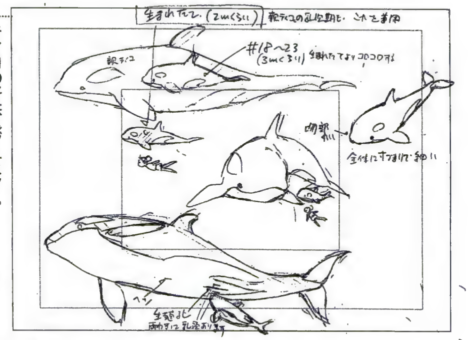


ルコント
トーマスの父親で妻とは別居中。見た目は"悪"だが、感情表現が下手なだけ。最終回のさわやかスマイルが印象的。（声：納谷六郎）



ティコの子供"ジュニア"。

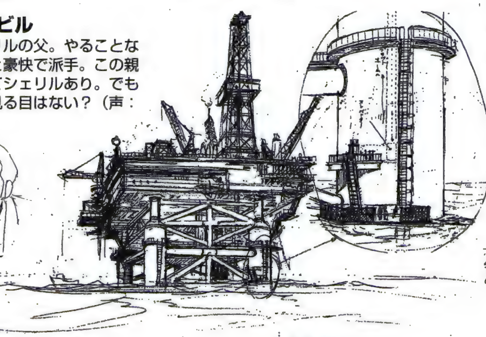
トーマスは父ルコントに自分を見てほしいと願うが。



ゴロワ
GMC幹部でルコントと行動をともにする。彼の無知無策が、悲劇を引き起こす。フランス人で保身第一主義。（声：山下啓介）



メルビル
シェリルの父。やることなすこと豪快で派手。この親にしてシェリルあり。でも人を見る目はない？（声：阪脩）



海底油田。





フィリップ
シェリルの父の目に留まり油田のトップにまで上り詰めた男。その末路は…。（声：家中宏）



父の用意した婚約発表用ドレス。

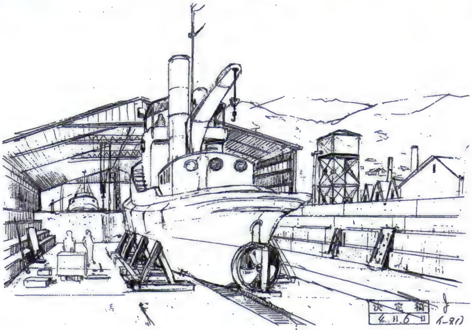
ストーリー紹介 18～19話

18話　えっ!!　シェリルさんついに婚約!?

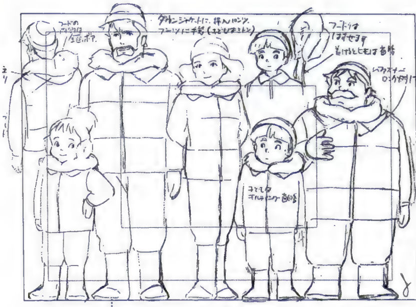
ヒカリクジラの手がかりを求めて北極海に向かった一行は、途中、シェリルの父の派手な歓迎を受ける。メルビル財閥の経営する北海油田でシェリルは責任者のフィリップと引き合わされ、彼との結婚話を父から聞かされるが……。

19話　北海油田大パニック　海鳥を守れ!

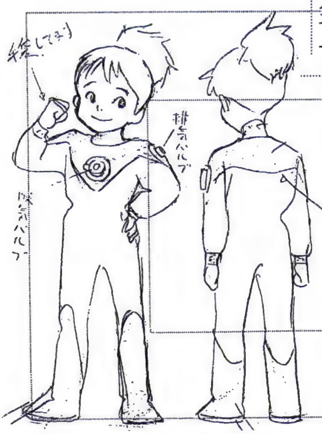
シェリルの父に油田を任され、メルビル家の娘との婚約内定まで手にしていたフィリップは得意満面。だが油田1周年記念パーティを前に、海底地震が起こる。



グリーンランドのヌークにて、ドッグを借りペペロンチーノ号を氷海用に改造。



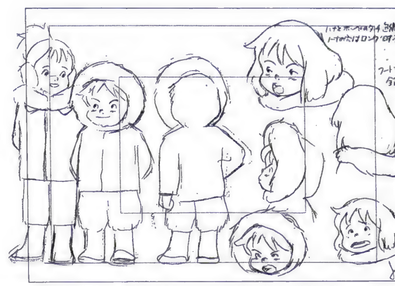
シェリルが父から餞別にもらったドレス専用船から、冬服のみ拝借。メンバー全員分のサイズが入っていたようだ。



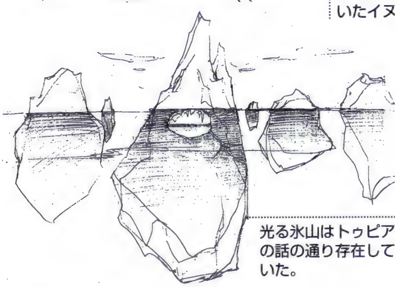
北極海。さすがのナナミもスーツを着用。



GMCから家宝を強奪されすっかり白人不信になっていたイヌイットの老人。



トゥピア
8歳。氷原を知り尽くすイヌイットの老人の孫。何かとトーマスにキツく当たる。実は…。
(声：矢島晶子)



光る氷山はトゥピアの話の通り存在していた。

イヌイットの伝説
byイヌイットの老人

七つの頭の海ヘビが空に現れ、地上に災いを振りまいた。光るクジラが海ヘビを撃退。じゃが、光るクジラも海ヘビの呪いでこの世で一番大きな氷山に閉じ込められたんじゃ。



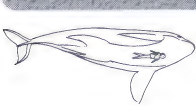
ストーリー紹介 20～23話

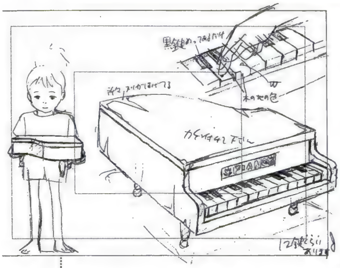
20話 ジュニアはナナミがきらいなの!?
スコット達はペペロンチーノ号が氷海で耐えられるよう、改造を加えていた。一方ナナミは、自分と打ち解けようとしないジュニアのことで悩んでいた。

21話 光る氷山！ 北極海のオーロラ伝説
ヒカリクジラの情報を求めて、スコット達はイヌイットの村に立ち寄った。村の老人から、光る氷山の話を聞いた一行は、犬ぞりに乗って氷原を進んだ。

22話 氷の迷宮！ 埋もれたままの時間
同じ頃、スコーピオ号もヒカリクジラの手がかりを追って近くに来ていた。スコットはイヌイットから教えられた氷山にヒカリクジラの秘密があると考える。

23話 さようなら永遠に！ ティコの死
氷山の中には、昔のヒカリクジラの骨が氷柱となっていた。GMCは氷山を爆破して骨を手に入れようとする。そしてナナミ達に別の氷山の群れが迫っていた。

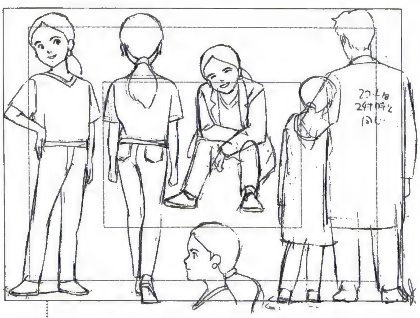




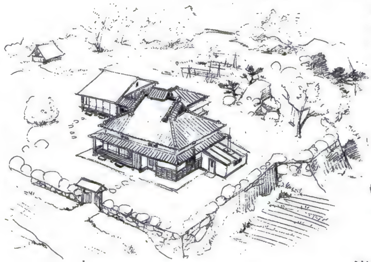
母が小さかったナナミに弾いてくれたおもちゃのピアノ。



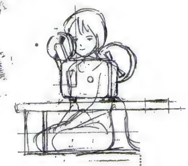
広島港から連絡船がある瀬戸内海の小島。洋子の実家は丘の上にある。



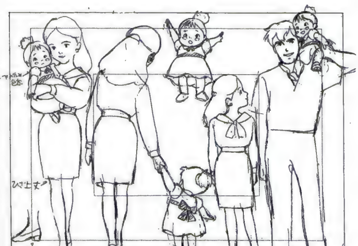
学生の頃の洋子。スコットと同じ研究所に所属。いつでもよく笑っていて、歌が好きな女性だったという。（声：藤井佳代子）



現在実家は空き家で、洋子の妹なぎさが家の手入れをしている。



渚が出して来た映写機。手慣れた操作をする渚は何者？



一度だけ帰省したときのナナミ一家。この頃のスコットにはヒゲがない。

3メートルほどになったジュニア。



注目キャラ

渚



洋子の妹。25歳。つまりナナミのおば。当時1歳のナナミが里帰りした時のことを、ナナミに話して聞かせる。時々実家の様子を見に来ているらしい。洋子にそっくりで、スコットをドキッとさせる。（声：岡本麻弥）

ストーリー紹介 24～27話

24話 命を継ぐ者 海に響くクジラの歌

氷に閉じ込められたアルを、ティコは命をかけて救った。ティコを失ってからずっと泣き暮らしていたナナミは、ある日ジュニアの悲しみに初めて気づく。

25話 日本へ！ 母さんの思い出を訪ねて

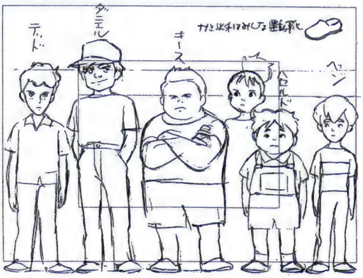
自分の母親のことを全く覚えていないというナナミの為に、アルの提案で日本へ行くことになった。ナナミとスコットはアル達と別行動をとることにし、瀬戸内海へ向かった。

26話 お母さんに会えた！ 遠い夏の日

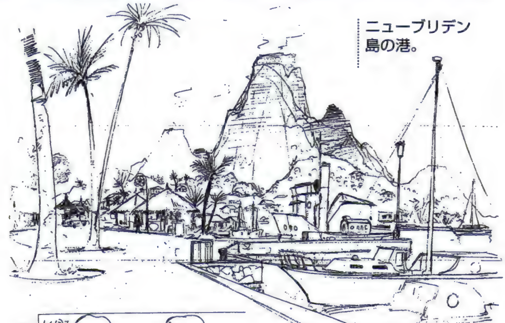
母の実家で、思いがけず母の妹、渚に会うナナミ達。母の記憶がないナナミに、渚は8ミリフィルムを見せてくれる。一方アル達は、ナナミ達との待ち合わせ場所で途方に暮れていた。

27話 霧の怪談！ セントエルモの幽霊船

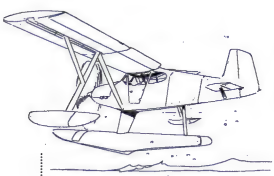
何もない海のど真ん中でエンジンの調子が悪くなり、動けなくなってしまう。にわかに出た霧に囲まれ、戸惑うナナミ達の前にこつ然と巨大な船が現れた。



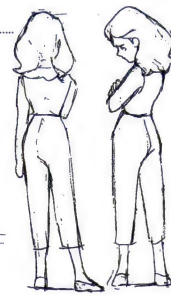
ニューブリテン島の子ども達。チョウに詳しいベンとカメラ好きのハロルド。この二人をかばってナナミはダニエル達にくってかかる。



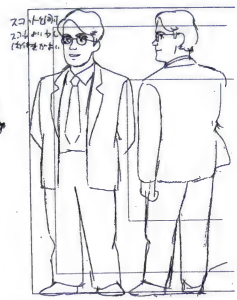
ニューブリテン島の港。



ゲイルの水上飛行機。



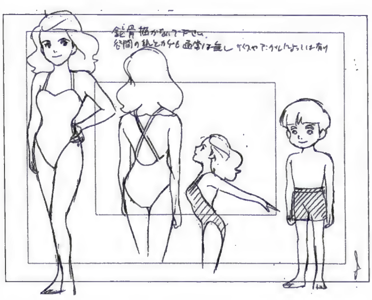
シドニーで新調した服。



エリオット
スコットの友人でシドニーの海洋研究所所長。ナナミくらいの息子がいる。スコットを自分の研究所に誘うが…。(声：堀之紀)

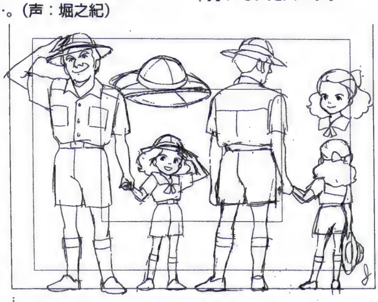


スコット、実はちゃんと持っていたスーツ。



シェリルの水着。海を舞台にしているが、意外にも水着はこの回のみの登場。





幼い頃のシェリルとメルビル氏。父の愛情表現は昔からぶっ飛んでいたようだ。

ストーリー紹介 28〜31話

28話 スクイドボール2号 深海をゆく!
マリアナ海溝に着いたスコット達は深海用に開発したスクイドボールⅡ号を使い調査を始める。その時シェリルが、メルビル家の家宝を海に落としてしまう。

29話 ナナミの冒険 チョウの舞う島!
食料調達に立ち寄ったニューブリテン島で、ナナミはいじめられていたベンとハロルドに出くわす。ナナミは彼らからケンカの理由を聞くとミイロタイマイという貴重なチョウのいる島へ行こうと提案する。

30話 永遠の美しさが手に入る奇跡の卵
スコットが学会に出席するため、一行はシドニーに滞在していた。オーストラリアの動物を見に奥地へ出たナナミは、カモノハシの密猟を見てしまう。

31話 シェリルとスコット 無人島の一夜(未放映)
シェリルは持ち前の強がりでゲイルの飛行機に乗り込むが、操縦が思い通りにならない。そして助けにいったスコットもろとも、無人島に流れ着くのだった。

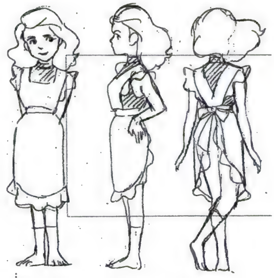
コモロの伝説



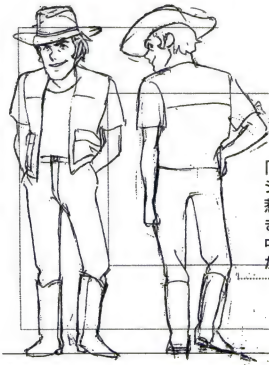
by アンジュアン
コモロの海には光る魔物と呼ばれる化け物がすんでいる。そいつはこの辺りを通る船を沈めまくった。情報料はまけとくよ。



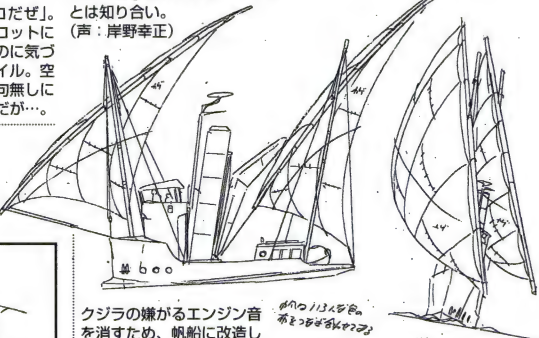
アンジュアン
コモロの酒場の主人で、情報屋のような事もしている。ゲイルとは知り合い。
（声：岸野幸正）



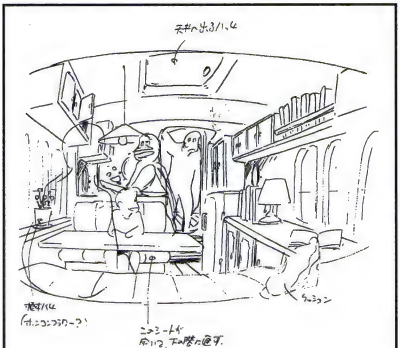
31話以来すっかりかいがいしくなったシェリル。いつの間にかエプロンまで用意。しかしパンケーキひとつろくに作れない。



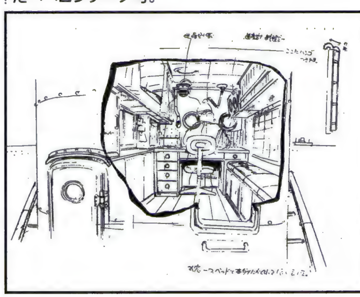
「とんだピエロだぜ」。シェリルがスコットに惹かれているのに気づき身を引くゲイル。空中戦の彼は文句無しにかっこいいのだが…。



クジラの嫌がるエンジン音を消すため、帆船に改造したペペロンチーノ号。



ペペロンチーノ号のキャビン。厨房と食堂、リビングをかねている。



ペペロンチーノ号の船首付近にあるスコットの部屋。本と実験道具が並び、研究室兼寝室となっている。

ストーリー紹介 32～35話

32話 シーラカンスの海へ 光る怪物の謎
ゲイルが教えてくれた〝光る魔物が出る〟という話を確かめようと、コモロ諸島に向かったナミ達。ゲイルは情報を提供すると、なぜか一行に別れを告げる。

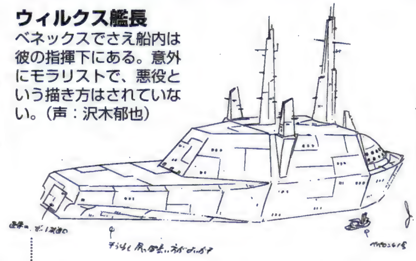
33話 スコット応答せず!! 悪魔の棲む海
光る物体をキャッチしたスコットだったが、その正体は巨大なダイオウイカ。イカに捕まったペペロンチーノ号を助けに来たのは、別れたはずのゲイルだった。

34話 帆をあげろ!! 大追跡ヒカリクジラ
ダイオウイカが去った後も、ヒカリクジラの骨は共鳴し、沖の光は輝いていた。光が示す先は南極。光に呼ばれるように、鳥やクジラの大群が船と並走を始めた。

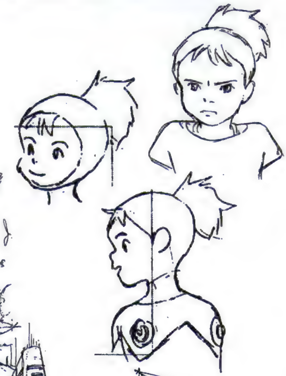
35話 ラストチャンス！ 父さんの祈り
南極での調査は思いのほか時間を要した。残り少ない食料を補給するため、一旦調査の打ち切りを進言するアル。しかしスコットはあきらめきれないでいた。

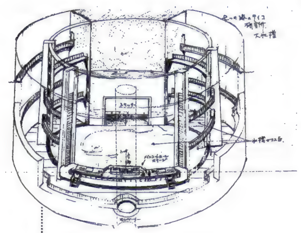


ウィルクス艦長
ベネックスでさえ船内は彼の指揮下にある。意外にモラリストで、悪役という描き方はされていない。（声：沢木郁也）

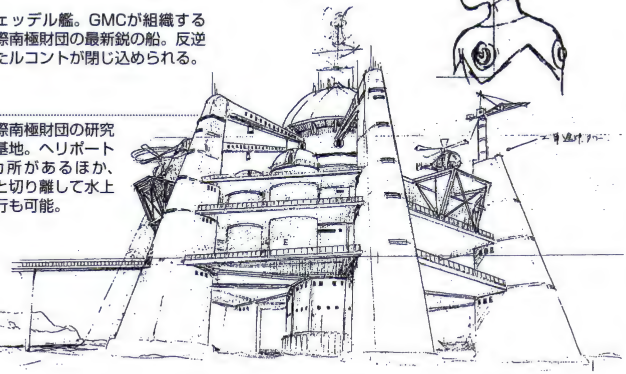


ヴェッデル艦。GMCが組織する国際南極財団の最新鋭の船。反逆したルコントが閉じ込められる。

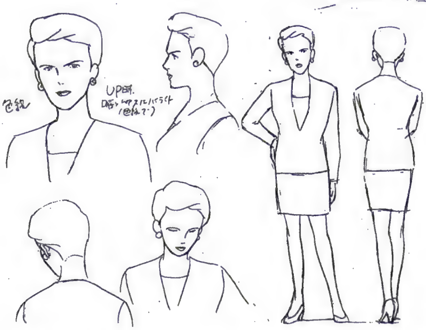




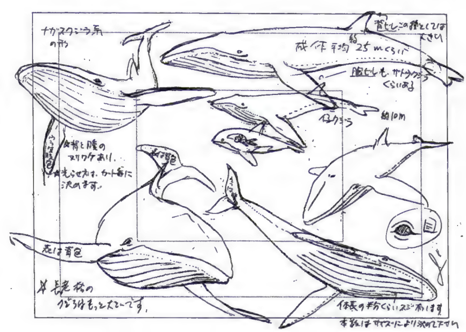
ヒカリクジラが入れられる研究所内の大水槽。



国際南極財団の研究所基地。ヘリポート3カ所があるほか、陸と切り離して水上走行も可能。



ベネックス
GMCの最高責任者といえる権限を持つ。彼女がなぜそれほどまでに冷酷に任務を遂行するのか、触れられていない。単なる悪で片付けるには惜しいキャラである。（声：川島千代子）



ヒカリクジラ
彼らはどこにでも偏在し、姿は見えたり消えたりするという。単なる生物ではなさそうである。

ストーリー紹介 36～39話

36話 ヒカリクジラが危ない 悪魔の衝撃!
ようやく目の前に現れたヒカリクジラ。見入るスコット達の背後からGMCが忍び寄る。最新の兵器でヒカリクジラを捕獲すると基地へ持ち去っていく。

37話 動きはじめた野望! 南極大陸の城
ナナミ達はGMCの基地へヒカリクジラを助けに向かう。一方ルコントもヒカリクジラの扱い方や用途についてベネックスに疑念を抱きはじめていた。

38話 ヒカリクジラの導き 鉄の城の最後
ヒカリクジラの呼ぶ声に応えたたくさんの鳥やクジラが、基地に襲いかかった。崩れる要塞からヒカリクジラを助けるため、ルコントはスコットを水槽に案内する。

39話 それぞれの旅立ち 永遠の光の輪
多くの犠牲を払い再び静けさを取り戻した海。ヒカリクジラがナナミを呼ぶ。声に従って光に入ったナナミは、そこでヒカリクジラの本当の姿を知る。

作品コラム

ペペロンチーノ号のコースは?

『七つの海のティコ』そのタイトルの通り、ナナミ達は、サンフランシスコをスタートして、太平洋、カリブ海から大西洋へ出て、地中海から北海、北極海、ベーリング海、最後はインド洋を経て南極の海へ、文字通り世界中の海を航海する。彼らの航路を追ってみた。

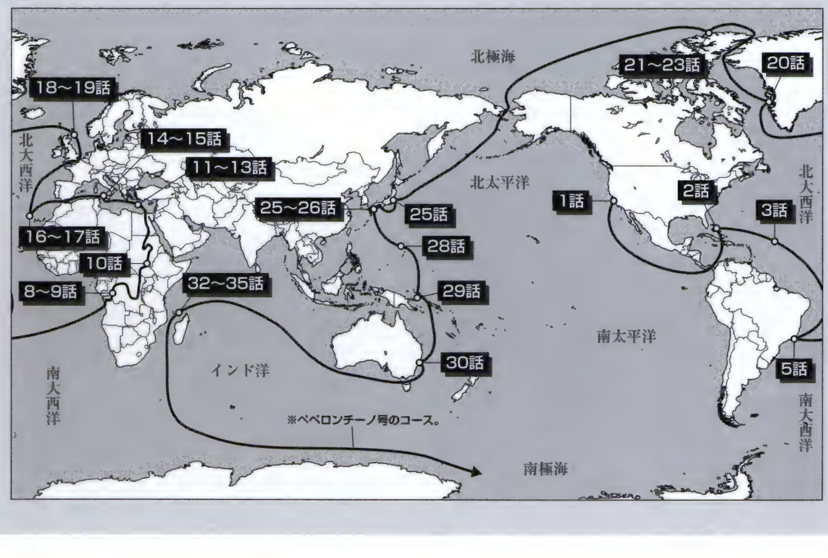
(不明箇所は原作参照)



●ペペロンチーノ号のコース

1993年　8月末	
1話	カリフォルニア州サンフランシスコ ゴールデンゲートブリッジ
2話	カリブ海　バハマ　ナッソー
3話	北緯20度西経50度の大西洋上
4話	南米のどこかの港町→リオデジャネイロ近郊
5話	リオデジャネイロ
6話	大西洋上　海底火山上
8〜10話	ザイール川から陸路でナイル川
11〜13話	エーゲ海沖→地中海
14〜15話	シチリア島
16話	リスボン
17話	カナリア諸島　ここで2ヶ月ほど過ごす
18〜19話	ドーバー海峡→北海油田
20話	グリーンランドのヌーク
21〜23話	北極圏、イヌイットの村
1994年　春	
24話	ベーリング海
同夏	
25話	東京浅草〜皇居〜都庁〜秋葉原(シェリルー行) ナナミは瀬戸内海の島へ
26話	瀬戸内海の島
27話	東シナ海上
28話	マリアナ海溝11034m海上
29話	カロリン諸島の海域から5 日かけてニューギニア、 ニューブリテン島と隣のグリッター島
30話	シドニー　研究学会出席
31話	コモロ諸島へあと4日というところ。 インド洋のどこかの島
32〜35話	コモロ諸島　その近海
36〜39話	南極
数年後	
	サンフランシスコ





シャチの生態

シャチの潜水能力は200〜300m。泳ぐ速さは時速60km。妊娠期間は17ヶ月。つまり、ティコは初登場のときにすでに妊娠していたようだ。また、シャチは大変知能が高いといわれている。寿命は50〜80年。ティコが北極海の海底に沈んだとき、わずか10歳。早すぎる死であった。



ナナミは超能力者？

「ナナミは特別さ」アルもスコットもナナミの潜水能力（※1）には、特別の才能があると感じているようだが、ナナミは浮上するのに減圧も必要なく、ティコとともに海底で長く行動をともにできる。生まれてからほとんどを海で過ごした彼女だけに説得力もある。しかし誰にも聞こえないヒカリクジラの声と交信する能力におよぶと、にわかに超能力めいてくる。ナナミは選ばれた少女なのだろうか？

（※1）

潜水能力
人類の潜水新記録　17分4秒（2008年）
人類の素潜り最深　171M（2003年）

ナナミは何語を話す？

世界中を旅するナナミ。気になるのが言葉だ。物語の中で「ナナミは日本語で七つの海という意味」というセリフもあるように、一応各言語があるという設定になっているが…。

検証してみよう。ナナミはアメリカ生まれ。アメリカ人の父だから、基本は英語で会話しているものと思われる。同じアメリカ人のトーマスもイギリス人のシェリルも英語。しかし、リオデジャネイロではスペイン語のはず。いや、ギャングは英語くらい話せるものだ。シチリアでは外国語能力ゼロそうなばあちゃんと会話。でもイタリア語はアルの母国語だ。問題ない。日本ではこれまた流暢に日本人と会話している。きっとお母さんの国の言葉をスコットから学んでいるのだ。では、イヌイットとは……。英語はイヌイットまで浸透しているようだ、たぶん。……英語、恐るべし。

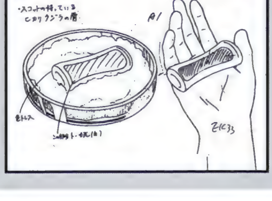
謎の物質トロンチウムとヒカリクジラ



トロンチウムは海中にごく微量含まれている新元素で、光を放ち、相互に反応し合う性質がある。スコットの追うヒカリクジラはそのトロンチウムを自己生成しているらしい。

「トロンチウムは、生物の細胞に入り込み、遺伝子をある規則に従って組み替える力がある」とルコント博士。彼はヒカリクジラを追うGMCがトロンチウムを用いて生物兵器を開発し、巨額の富を得ようとしていることに気付いていたが、科学のためには仕方がないと考えていた。

ヒカリクジラの骨は近くにトロンチウムがあると反応して光りだす。



原作について

本書が書かれた経緯は、広尾氏が次期名作劇場企画話として、フジテレビの企画担当と銀座で飲み明かすうちに生まれた構想だという。そのため、アニメの原案が先行し、放映中に順次、広尾氏により本にまとめられ刊行された経緯がある。

アニメと内容は大きく違わないが、本ではさらにエピソードが絞り込まれている。また、後半は放映前に最終巻を刊行したため、シドニーやコモロ諸島には立ち寄らず、アニメとコースが異なっている。日本編では渚の絡み方が違うほか、アニメで描かれなかった亡き母の詳細が書かれている。

＊厳密には、アニメをノベライズ化したもの。



七つの海のティコ①



七つの海のティコ②



七つの海のティコ③

著　：広尾明
発行：角川書店

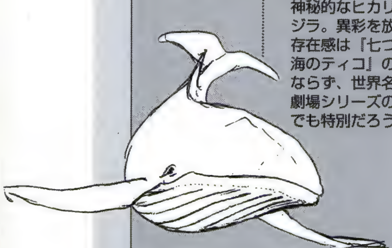
〈原作者〉
広尾 明
1958－

1991年夏から翌年秋にかけてアメリカ西海岸に滞在。そこでの体験とそれまで旅した土地での体験をもとに、書き下ろす。本書が初の著書。

Pick UP

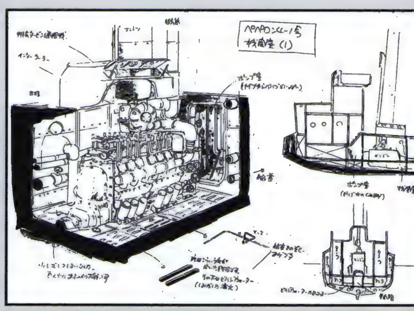
超人的なナナミの活躍や、悪を企む架空の組織、ヒカリクジラという空想的な要素、しかも書き下ろし作品だったなどから、「世界名作劇場」という枠でこのような作品を出したことには、おおいに議論が分かれるところである。

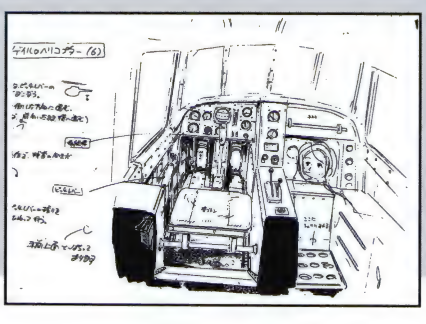
もし別枠の放映であったら、海洋ものSFファンタジーとして、別の評価がされたのではないか？

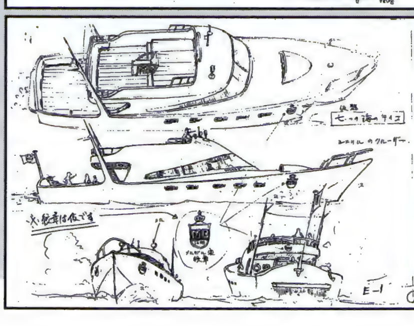

神秘的なヒカリクジラ。異彩を放つ存在感は『七つの海のティコ』のみならず、世界名作劇場シリーズの中でも特別だろう。

世界名作劇場初の本格メカ登場

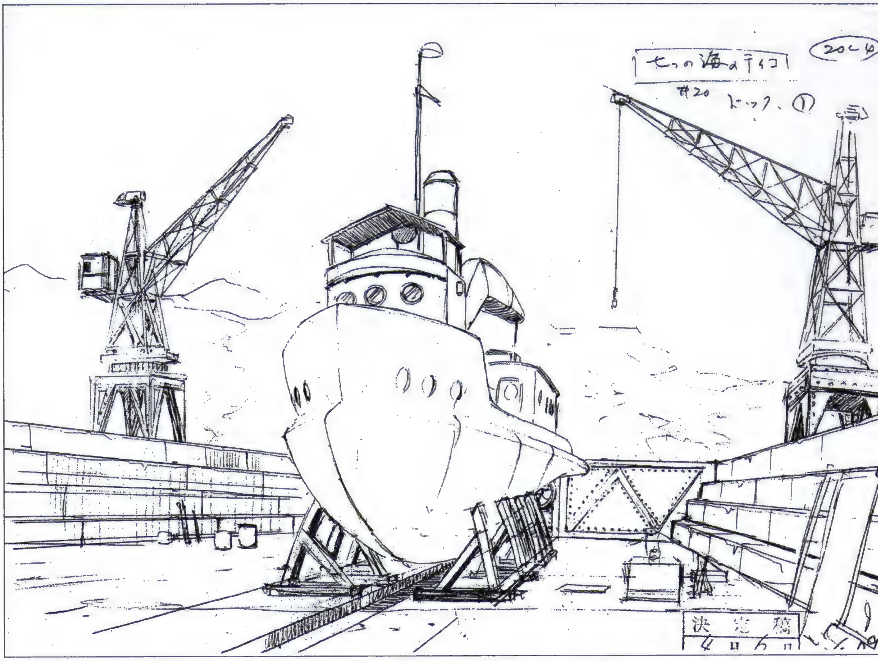
世界名作劇場初の現代物ということと、海洋冒険ものだということで、『七つの海のティコ』には、たくさんのメカが登場する。各種船、自動車、飛行機など、次々に登場するメカの設定を担当したのは航空史の研究家でもある片渕須直氏。ジブリ作品の絵コンテや映画『アリーテ姫』の監督として、演出力を高く評価されている演出家だ。







Gallery



ドッグ入りするペペロンチーノ号／伊藤主計

メインスタッフ

原案	広尾明
脚本	青山紀之／松井亜弥／三井秀樹／登戸徹／池田眞美子
音楽	美和響
キャラクターデザイン	森川聡子
絵コンテ	鈴木輪流郎／稲垣卓也／片渕須直／伊吹愛弓／加賀ツヨシ　ほか
作画監督	佐藤好春／大城勝／井上鋭／早乙女浩一朗
美術設定	伊藤主計
美術監督	森元茂
色彩設定	小山明子／小酒井久代／大城千恵子
原画	平松禎史／宮崎なぎさ／高野登／石川哲也／諸星伸司／鷲田敏弥　ほか
タイトル画	譚小勇
プロデューサー	余語昭夫／鈴木吉弘
監督	高木淳

オープニングテーマ「Sea loves you」
作詞：佐藤ありす
作曲：清岡千穂
編曲：戸塚修
歌：篠塚満由美

エンディングテーマ「Twinkle talk」
作詞：佐藤ありす
作曲：清岡千穂
編曲：戸塚修
歌：篠塚満由美

世界名作劇場 コラム

アメリカ＆ワールド編の作品に限らず、
世界名作劇場の全作品を交えたおもしろコラム!!

シリーズコラム

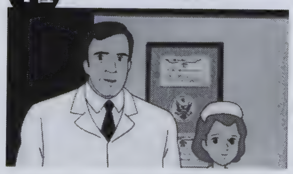
名作劇場一の名医は誰?

ドラマティックな人生を送る主人公達を、陰に日向にサポートしてくれるのがこのお医者様方。主人公を、主人公の大切な人を、守れるか否かは医者の腕次第だ。



もっとも名医!

1位 〈愛少女ポリアンナ物語〉
エームス博士



ニューヨークの著名な医師でも治せないポリアンナの足を治す、ボストンの医者。

2位 〈わたしのアンネット〉
ギベット先生



歩けないはずのダニーの足を治してみせるローザンヌの名医。その評判は遠くまで轟く。

3位 〈母をたずねて三千里〉
ロドリゲス先生



トゥクマンーの名医。マルコの母を手術。「成功したのはマルコ君のおかげ」。

次点



〈母をたずねて三千里〉
ロンバルディーニ先生

「この貧しい社会をなんとかしないと」。



〈ふしぎな島のフローネ〉
エルンスト先生

金持ちも貧乏人も診てくれる、フローネの父。



〈愛少女ポリアンナ物語〉
ミード博士

ニューヨークの著名な医師、らしい。が、ポリアンナを治せず。



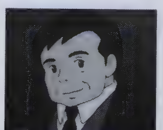
〈牧場の少女カトリ〉
ソフィア先生

小児科専門。ただし運転が荒いので要注意。



〈愛少女ポリアンナ物語〉
チルトン先生

最強の特効薬"ポリアンナ"を使いこなす。



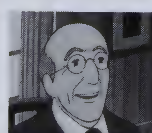
〈若草物語 ナンとジョー先生〉
ファース先生

医学生の奨学金制度にも奔走。



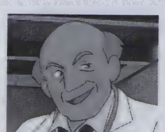
〈トム・ソーヤーの冒険〉
ロビンソン先生

研究心から死体ウォッチングに手を染める。それが命取りに…合掌。



〈あらいぐまラスカル〉
ゲイン先生

人専門だがあらいぐまもカバー。



〈名犬ラッシー〉
ホッパー先生

釣りが大好き。病院は百人力の看護師メリッサにお任せ?



〈ペリーヌ物語〉
ブルム（左）& リュション先生（左）

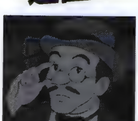
ビルフランの目を治す（ついでにバロンも）ペリーヌの恩人な方々。

…迷医?



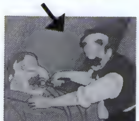
〈トム・ソーヤーの冒険〉
ミッチェル先生

消毒液とアルコールを間違える先生。病院は閑古鳥。診療時間も酒とたばこは手放さず。



〈小公女セーラ〉
ワイルド先生

酔ってセーラを伝染病と誤診。セーラが自力で回復したからいいものの…。



〈南の虹のルーシー〉
デイトン先生

飲んだくれでも開拓地では貴重な医者。歯医者だってやっちゃいます。



ヒゲ・チャンピオン

父性の象徴であり、逞しく力強い男性像を表現するヒゲ。近代の西洋という時代背景を反映して、名作劇場にはたくさんのヒゲキャラが登場する。忘れられないあのヒゲキャラをみてみよう。

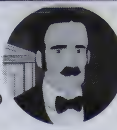


登場時のインパクトNO.1

1位 ペギンじいさん
〈わたしのアンネット〉



人を避けて山ごもり中で、眉も口ヒゲもあごヒゲも伸び放題。ボリューム（と性格）で圧倒。



息子ギベットもヒゲ。医者なので威厳に溢れるカイゼルヒゲ。

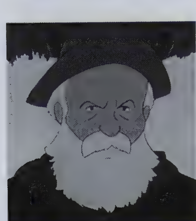
2位



〈家なき子レミ（22話）〉
ベルグヌーじいさん

Bパートのみの登場が惜しまれる、気骨のある元炭坑夫。口ヒゲの量は特筆もの。

3位



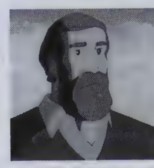
〈母をたずねて三千里（30話）〉
老ガウチョ、カルロス

気迫、強さ、正義全てにおいて超越。誇り高き白ヒゲは、王者の風格。



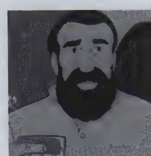
〈フランダースの犬〉
ミシェル

木こりらしいワイルドなヒゲ。数年でペギンじいさん超えか。



〈ふしぎな島のフローネ〉
エルンスト・ロビンソン

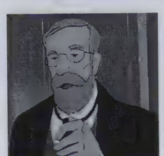
南オーストラリアで開拓農業していそうな…。



〈南の虹のルーシー〉
アーサー・ポップル

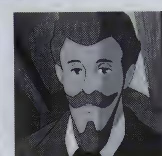
無人島に漂着していそうな…。

名作ヒゲ・バリエーション



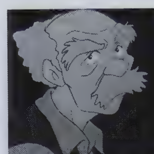
〈ペリーヌ物語〉
フィリップ弁護士

19世紀末に大流行した口＆あごヒゲ両用スタイルは名作キャラにも大人気。



〈母をたずねて三千里〉
メキーネス

長い顔を強調するコンチネンタル型。



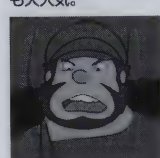
〈私のあしながおじさん〉
ジョージ

口ヒゲ暴発型。名作シリーズに多い型。



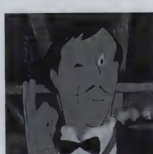
〈ポリアンナ物語〉
ペンデルトン

コールマン型ヒゲも意外に多い。



〈フランダースの犬〉
金物屋

古典的な泥棒ヒゲ！



〈母をたずねて三千里〉
ペッピーノ

どうやって整えているのか謎である。



〈ピーターパンの冒険〉
フック船長

カ～ルおじさんヒゲ。実は難易度高し。



〈トム・ソーヤーの冒険〉
インジャン・ジョー

いかにも嘘ヒゲ。変装になっていないし…。



父さんのヒゲ度は!?

リストアップするときりがないヒゲキャラ。中でも気になる名作劇場の主人公達のお父さんはヒゲか否か？　気になるヒゲの割合はヒゲ9対ヒゲなし5。養育者も含めると15：5。結論、ヒゲ度は高かった！



ヒゲあり派　9人


〈南の虹のルーシー〉
ルーシーの父**アーサー**。


〈愛の若草物語〉
ジョオの父**フレデリック**。

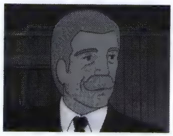

〈ペリーヌ物語〉
ペリーヌの父**エドモン**。


〈母をたずねて三千里〉
マルコの父**ピエトロ**。


〈小公女セーラ〉
セーラの父**ラルフ**。


〈ふしぎな島のフローネ〉
フローネの父**エルンスト**。


〈わたしのアンネット〉
アンネットの父**ピエール**。


〈あらいぐまラスカル〉
スターリングの父**ウィラード**。

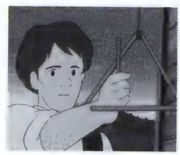

〈七つの海のティコ〉
ナナミの父**スコット**。

ヒゲなし派　5人


〈名犬ラッシー〉
ジョンの父**サム**。

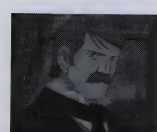

〈ロミオの青い空〉
ロミオの義父**ロベルト**。


〈小公子セディ〉
セディの父**ジェイムス**。

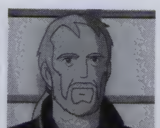

〈愛少女ポリアンナ物語〉
ポリアンナの父**ジョン牧師**。


〈ブッシュベイビー〉
ジャッキーの父**アーサー**。

番外　主人公らの養育者

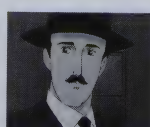

〈レ・ミゼラブル 少女コゼット〉
コゼットの養父**ジャン・ヴァルジャン**。


〈フランダースの犬〉
ネロの祖父**ジェハン**。


〈家なき子レミ〉
レミの引取主**ヴィタリス**。


〈牧場の少女カトリ〉
カトリの祖父**ユリス**。


〈赤毛のアン〉
アンの養育者**マシュウ**。


〈トラップ一家物語〉
トラップ家の父**ゲオルク**。

びみょ〜？


〈ポルフィの長い旅〉
ポルフィの父**クリストフォール**。

名作劇場史上、もっとも悪人は誰？

主人公達の夢や目標を阻み、辛い思いをさせる人物が、物語の中に必ずといっていいほど存在する。だがそんな試練があってこそ、主人公達も成長していく。そんな〝悪人〟をどう描くか？　そこに人間ドラマの本質が浮き彫りになる。

傾向として、近年の作品に〝いかにもな悪人〟が多くなってきている。それは選ばれた作品の題材にも理由があろうが、一見して人物の描き方が表面的になり、悪人はどこまでも悪人という捉え方に傾いているように思われる。初期の作品の多く、例えば『母をたずねて三千里』などは、必ずしも主人公マルコにとっていい人でない人物も多数出てくるが、各人の多面性と内面を描き出し、一方的な見方に陥ることを避けていた。悪人の描き方の変化は好みの分かれるところかもしれない。

悪度について

★の多さは悪人の度合いをイメージ。劇中で、実はいい人ほど★は少ない。なお、人選は編集部の主観によるもの。

※掲載は放送年順

悪度　★★★

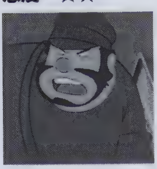


〈トラップ一家物語〉
ヒトラー
捕まったら本当に命はない…。

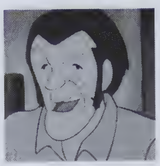


〈七つの海のティコ〉
GMC、ベネルックス
人や動物の命をなんとも思わない、地球規模の悪党。

悪度　★★



〈フランダースの犬〉
金物屋
パトラッシュ最大の敵。ジェハンを恐喝？　金も無心。



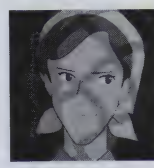
〈フランダースの犬〉
ハンス
強者におもねり弱者いじめ。陰湿で悪質。ネロを死なせた張本人。



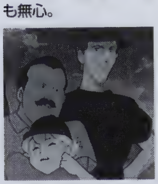
〈トム・ソーヤーの冒険〉
インジャン・ジョー
ロビンソン医師と手下の命を奪う。だが、最後にトムにかけた言葉は…。



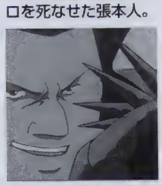
〈南の虹のルーシー〉
ペティウエル
最初から最後までポップル一家の邪魔をする悪。道化役とも？



〈牧場の少女カトリ〉
ハンナ
三悪トリオで強盗団。アベル毒殺未遂にカトリ人身売買未遂。



〈ブッシュベイビー〉
密猟者マイケル(左)とジョン(右)
相手が子供でも全く容赦せず。が、後にジョンは改心。



〈七つの海のティコ〉
リオコネクション一味
警察に追われてる身なのに、派手に復讐してくる。



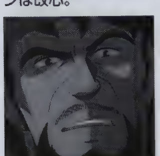
〈七つの海のティコ〉
ナポリの悪徳不動産＋マフィア
おとなしく言うことを聞かないと命が危ない。



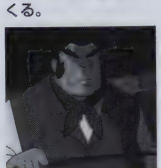
〈ロミオの青い空〉
マウリッツオ夫妻
財産のためなら身内の命もなんとも思わない。



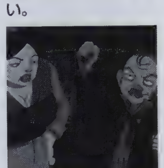
〈ロミオの青い空〉
死神ルイーニ
人買のためなら手段を選ばない。



〈家なき子レミ〉
ジェローム
レミの養父。レミを拾ったのは礼金ほしさから。金に困れば売るだけ。



〈家なき子レミ〉
ガスパール
子ども相手に暴力三昧。巨悪と呼ぶには情けない腐れ男。



〈レ・ミゼラブル　少女コゼット〉
テナルディエ夫婦
良心は皆無。実の子どもも金儲けの道具。狙った獲物は逃さない小悪党。



悪度 ★

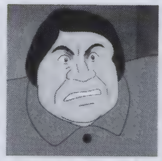
特に印象深い悪人?
をピックアップ!



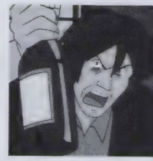
〈母をたずねて三千里〉
フランチェスコ・メレッリ
アンナの給料を横領、手紙を隠匿。ただしマルコに会い、ある決意をする。



〈小公女セーラ〉
ミンチン先生
ミンチンの人間性を見抜けない父がセーラの不幸の元凶か…。



〈ロミオの青い空〉
エッダ
親方、なんでこんなのと結婚したの?



〈ロミオの青い空〉
シトロン
乱暴はいけません。アルフレドは顔が命。

番外編

作品名	名前	悪事内容
フランダースの犬	コゼツ旦那	頑固で偏狭。ハンスのごますりを見抜けない。
母をたずねて三千里	レナード	マルコの旅費を巻き上げるが、エミリオの方が一枚上手だった。
	スリの男	彼のせいで最初から旅は難易度UP。
	コルドバの執事	名台詞「こじきをやるならイタリアでやれ」。
あらいぐまラスカル	サーマンさん	ラスカルの命を常に狙う。
	スラミー	ラスカルの横取りを狙う。たびたびスターリングと肉弾戦。
ペリーヌ物語	タルエル	立身出世を企むが、ペリーヌの賢さの前に無力。
	テオドール	身分をひけらかすが、ペリーヌの賢さの前に無能。
	パン屋のおかみ	ペリーヌから5フランをだまし取る。
赤毛のアン	フィリップス先生	精神的いたぶりを得意とする。
	ギルバート	地雷を踏んだギル。…アンは根に持つタイプらしい。
トム・ソーヤーの冒険	ドビンズ先生	ある意味、インジャンより悪質。陰険で実害多し。
ふしぎの島のフローネ	ゲルハルト	船専門の詐欺師。だが所詮小物であった。
	エドワード	エルンストいじめ。だが嵐で遭難、行方不明に。
南の虹のルーシー	強盗団	ペティウエルを懲らしめてくれるので、内心感謝。
わたしのアンネット	アンネット	ルシエンの生きる希望を奪う。主に破壊工作を中心に活動。
牧場の少女カトリ	イーネス	結局、カトリ相手だといい人になるほかない。
小公女セーラ	ラビニア	この年齢でこの邪悪ぶり。末恐ろしい。
	モーリー&ジェイムス	セーラをいじめまくるが、彼らもまたこき使われる使用人。
愛少女ポリアンナ物語	自動車の男	はねておいて歩行者のせいにする。
愛の若草物語	デイビット	彼には皆が金の亡者に見えるらしい。
小公子セディ	ミンナ	伯爵最大のピンチだが、セディにはあまりダメージはない。
ピーターパンの冒険	フック船長	所詮ピーターパンのおもちゃ?
私のあしながおじさん	ジュリアの母	ジュディの恋とコンプレックスを攻撃する。
若草物語　ナンとジョー先生	ダン	プラムフィールド内暴力、喫煙、飲酒、窃盗、家出…。
七つの海のティコ	ルコント	いかにも悪な外見とは裏腹に、不器用なだけの科学オタク。
	フィリップ	この男を娘の婚約者&油田責任者にしたのは誰?
ロミオの青い空	アンゼルモ	あの母にしてこの息子。
	狼団	結局、黒い兄弟と和解する。
	強盗団	警察署を爆破。あわやロミオも爆死寸前に…。
レ・ミゼラブル　少女コゼット	ジャヴェール警部	職務に忠実なだけ。彼の生い立ちは辛い。
ポルフィの長い旅	グイード	ポルフィを自動車泥棒の犯人に仕立てようとする。
	クロード	父の形見のポルフィの工具を盗んで逃げた。
	クサロプロース	ポルフィに店の売上金を盗んだ疑いをかける。
	カルロス	ミーナいじめ男。形見は売るは乱暴は働くは…。

一番のお金持ちは誰？

金の有無。わかりやすい尺度である。ここでは単純に誰がたくさん財産を持っているのかをランキングしてみた。なお、作品中で、自己の財産を誇示しなかった慎み深い方々は、客観的に判断して（やや過小気味に）評価させていただいた。

貧乏な主人公がお金持ちに助けられる…。かつての19世紀の児童文学には、そういった善意の金持ちが救済をもたらすという題材が好んで描かれていた。金と権力は良きにつけ悪しきにつけ主人公の運命を翻弄する。

富と貧しさのコントラストは、ストーリーに劇的な要素を作り出しやすい。どんな金持ちがいたか、主人公とどう関わっていったか。そういった視点から名作劇場を見直してみるのもまた一興である。

お金持ち度について

★　＝より多くの財産、土地、高い地位、会社社長
★★　＝莫大な財産（大富豪、大企業経営者級）
★★★　＝国家予算レベル？

※掲載は放送年順

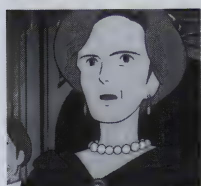
お金持ち度　★★★　国家予算レベル？



〈七つの海のティコ〉
シェリル

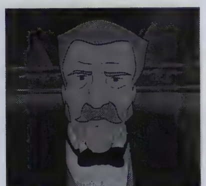
イギリスの大企業であり、名門メルビル家の一人娘。莫大な財産、油田、屋敷（全貌は金持ちすぎて不明）などを所有している。18歳にして自分用クルーズ船、衣装専用運搬船、潜水艇、ヘリ、飛行機などを持つ。世界を動かす実力あり。

お金持ち度　★★　莫大な財産、高い地位



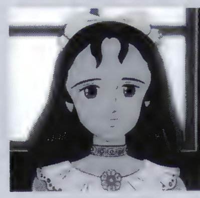
〈ロミオの青い空〉
モントバーニ伯爵夫人

恐れ多いご身分。王宮にも顔がきく。



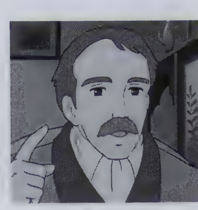
〈ペリーヌ物語〉
ビルフラン・パンダボアヌ

広大な自宅、マロクールの土地、（フランス1、2を争う工場）工場経営。



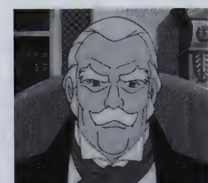
〈小公女セーラ〉
セーラ・クルー

ダイヤモンド鉱山の持ち主。ただし現時点で経営力なし。



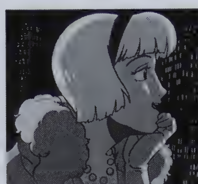
〈小公女セーラ〉
クリスフォード

セーラの父と共同開発したダイヤモンドはセーラとふたりで半分こ♪



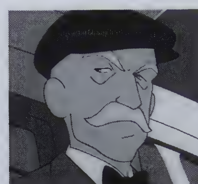
〈小公子セディ〉
ドリンコート伯爵

広大な土地、屋敷、高い地位。とても偉そうだが爵位はラドリング公爵の方が上…。



〈私のあしながおじさん〉
ジュリア・ペンデルトン

NYの名門で大富豪。マンハッタンに邸宅を持つ。



〈名犬ラッシー〉
ラドリング公爵

なんと言っても公爵様。別邸、本宅ともに大邸宅。自家用飛行機あり。



〈愛少女ポリアンナ物語〉
ルース・カリウ

ボストンの大富豪で名家ウェザビー家。

イギリスの爵位

爵位の階級

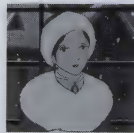
順位（上から）
- 公爵
- 侯爵
- 伯爵
- 子爵
- 男爵
- 准男爵
- [illegible]

イギリスの貴族とは、爵位を持つ家長とその家族のみ。そして爵位は最年長の子供に引き継がれる。爵位は貴族の称号で、準男爵・士爵は貴族には含まれない。爵位は古代より世襲や、君主からの授与という形で与えられた称号で、イギリスでは現在も爵位制度は存続している。しかし特権階級というのは昔の話で、先祖から受け継いだ土地や屋敷の管理に、苦労している貴族も多いそうだ。

イギリス以外のヨーロッパ各国の爵位については、多少順位が違うものの、基本的には同じ。



お金持ち度 ★　より多くの財産、土地、高い地位、会社社長



〈フランダースの犬〉
貴婦人
旅行中。地位、財産は不明だが、相当な金持ち風。



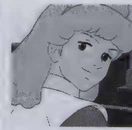
〈母をたずねて三千里〉
サルバドール
牧童300人を抱えるバルボーサ大牧場主。大統領も一目置く。



〈ふしぎな島のフローネ〉
エドワード(左)と妻
オーストラリア総督の秘書官。奥様はいい人だが…。



〈南の虹のルーシー〉
プリンストン夫妻
南オーストラリアの広大な土地を所有。



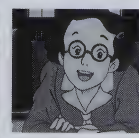
〈小公女セーラ〉
ラビニア
アメリカの富豪の娘。目指せ大統領夫人？



〈私のあしながおじさん〉
ジャーヴィス
ニューヨークに邸宅がある、NYの名門。



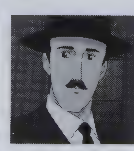
〈名犬ラッシー〉
プリシラ
ラドリング公爵自慢の孫娘。まだ少女ながら父に代わり社交の舞台に立つ。



〈私のあしながおじさん〉
サリー
父はアメリカ東部一の衣料会社経営。別荘もあり。



〈私のあしながおじさん〉
レオノラ
父は造船所経営。しかし経営は傾きつつある。



〈トラップ一家物語〉
トラップ大佐
男爵。ザルツブルグ郊外に大邸宅、使用人多数。

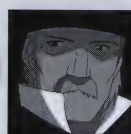


〈ロミオの青い空〉
マルティーニ子爵夫妻
アルフレドの両親。国王から勲章。ミラノに大きな屋敷。



〈家なき子レミ〉
ミリガン夫人
イギリスの名門、自家用船所有、高級ホテル暮らし。





〈レ・ミゼラブル 少女コゼット〉
ジャン・ヴァジャン
60万フラン所持、市長経験あり。



〈レ・ミゼラブル 少女コゼット〉
マリウス
男爵。祖父の財産を受け継いでいる模様。



〈ポルフィの長い旅〉
ティファニー
高級マンションに住む金持ち女優。ミーナを養育しようとする。

番外編

作品名	名前	内容
フランダースの犬	コゼツ	全財産は2000フランと風車、自宅と風車、周囲の土地。
	ステファン	コンクールで一位になる。アントワープ市の波止場主の息子。
あらいぐまラスカル	アリスの一家	父は駅長。自宅、自動車。
	ノース家	自宅、モンタナとサウスダコタに農場、自動車。
赤毛のアン	ジョセフィン・バリー	プリンスエドワード島州都に屋敷、召使い所有。
トム・ソーヤーの冒険	トム	6081ドル所有（拾得？した金貨＋金を含む5ドル相当の石）。
	ハック	6076ドル所有（拾得？した金貨）トムと山分け。
南の虹のルーシー	ペティウエル	うさんくさい金持ち。地上げで商売繁盛。
わたしのアンネット	ペギンじいさん	靴下に謎の大金を持っている。
	ギベット先生	ローザンヌに大邸宅、大病院の院長。
牧場の少女カトリ	ハルマ家	牧場を持っている。豪農程度。
	ロッタ奥様	夫は軍人、トゥルクに実家、農場持ち豪農程度。
愛少女ポリアンナ	ペンデルトン	ベルディングスビルで一番のお金持ち。
	パレー叔母さん	ペンデルトンの次くらいにお金持ち？
愛の若草物語	マーサおばさま	大きな屋敷と使用人、倉庫、馬車など。
	ローレンス家	海運業を営む。マーサと同じくらい金持ち。
ピーターパンの冒険	ピーターパン	ネバーランドの主か無一文か？
大草原の小さな天使　ブッシュベイビー	ケイト・アドルトン	広大なコーヒー農園経営者の一人娘、使用人多数。
若草物語　ナンとジョー先生	ローリー・ローレンス	祖父の財産を継いでいる模様。

シリーズコラム

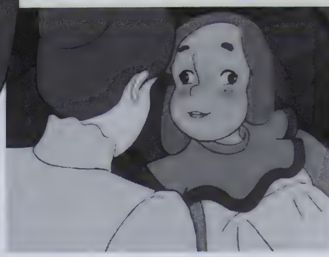
愛すべき〝困った〟酔っぱらい

昔の名作はおおらかに飲んでいた。近年の作品はめっきり飲酒シーンが減ったが、かつては酒豪がたくさんいた。たいていは上手にお酒とつきあっているが、中にはこんな困ったちゃんもいる。お酒に失敗してしまった酔っぱらい達を紹介しよう。



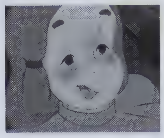
〈トム・ソーヤーの冒険〉
マフ・ポッター

酩酊中に殺人犯に仕立てられ、あわや縛り首寸前に。しかし牢屋内でも懲りずに酒を所望…。



〈ふしぎな島のフローネ〉
フローネ・ロビンソン

10歳にして一樽分(サイズは小さいが)のワインを飲み干す！結果はこの通り。



いつ沈むかわからない難破船上でのこの大失態。主人公！大丈夫か？



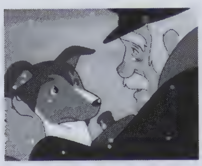
〈南の虹のルーシー〉
アーサー・ポップル

仕事もなく深酒で家族崩壊寸前。お父さん、もうその辺にしとかないと…。



〈南の虹のルーシー〉
デイトン先生

酔って寝込み、イギリスに帰る船に乗れず。へべれけで診察しようとしてルーシーの母に水をぶっかけられる。



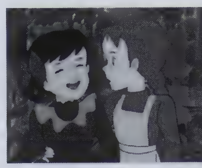
〈名犬ラッシー〉
バーンセンじいさん

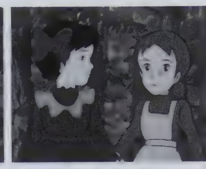
"酒は機械油のようなもの"が持論。でもラッシーに飲ませちゃダメですよ。



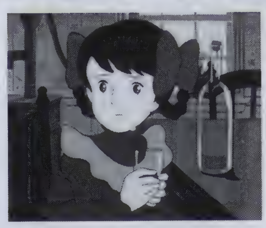
〈ペリーヌ物語〉
ギョーム

勤務中に泥酔した御者。ビルフラン様の怒りに触れ、失職。ペリーヌ出世のチャンスを広げる。





笑ったかと思うと突然キレる、しかも泣き上戸。正しい酔っぱらいぶりのダイアナさん。



〈赤毛のアン〉
ダイアナ・バーリー

11歳でワインをコップに3杯一気飲み。よく急性アルコール中毒にならずに済みました。



〈ふしぎな島のフローネ〉
ウィリアム・モートン

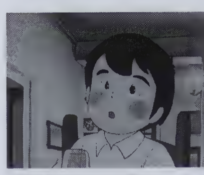
酔ったモートンは手がつけられない。アルコールなら消毒用でも何でもOKの強者。



〈ロミオの青い空〉
ロッシ親方

「エッダが怖くて酒が飲めるか!」。そんなこと言って、後はどうなっても知りませんよ、親方。

「マルコ、父さん酔ってる…」。フィオリーナは忠告するが、酔ったマルコに何言っても無駄だった。



〈母をたずねて三千里〉
マルコ・ロッシ

さすがイタリア、子供の飲酒におおらか。



〈母をたずねて三千里〉
ペッピーノ

飲んだら気が大きくなっちゃうお父さん。騒いだ挙げ句、酔いつぶれる。



酒を飲んでくだを巻く、暴れる、失敗する…。そんな大人達の(時に主人公!)なんと人間くさいことだろう。本質がさらけ出されるとき、どう人は動くのか？　酔っぱらい達は楽しい姿でそれを見せてくれる。

Special Interview Part1

歌手・声優
堀江美都子

Profile

堀江 美都子（ほりえ みつこ）

歌手、声優。1969年にテレビまんが『紅三四郎』の主題歌でアニメ歌手デビューして以来、多くの主題歌を担当し、ヒットソングを生む。声優として、世界名作劇場シリーズでは『小公女セーラ』（ドナルド役）、『愛少女ポリアンナ物語』（ポリアンナ役）、『小公子セディ』（コッキー役）、『私のあしながおじさん』（ジュディ役）、『家なき子レミ』（レミ役）、『ポルフィの長い旅』（モニカ役）、『こんにちは アン ～Before Green Gables』（ジェシー役）、ほかに『ひみつのアッコちゃん』（アッコ役）、『Dr.スランプ アラレちゃん』（オボッチャマン役）など多数ある。

私にとって名作劇場では『小公女セーラ』が初めての出演作品でした。それも歌ではなく、声優としてです。それまで名作には全く縁がなく、主題歌も歌ったことがなかったんです。

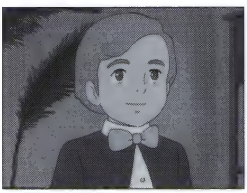
私の役はドナルド（※1）という少年でした。『鉄腕アトム』の清水マリさんみたいなイメージの男の子をやる人がほしかったということで、お声をかけてもらったんです。ドナルドが出てくるのは『セーラ』の最後の方で、スタジオもすごく盛り上がってる頃でしたから、そこへポッと入って、ちょっと気持ちが追いつけない雰囲気を感じましたが、それは次の『ポリアンナ物語』につながる布石みたいな時期だったのかなあと思います。

自分の武器を全部とられた状態でオーディションに臨みました

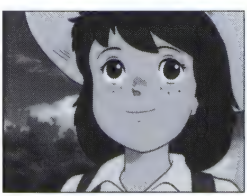
『ポリアンナ』はオーディションでした。前年の『小公女セーラ』のドナルド君が次のポリアンナ（※2）と似たところのあるキャラだったので、それでオーディションに呼ばれたのだと思います。イメージ的には天使のような子だからドナルド君のイメージで大丈夫だからって。

キャラクターを見たとき、絶対やりたいと思ったんです。それまでの名作とキャラの雰囲気も違う。アメリカが舞台だからかもしれないのですが、この子はしっかりそばかすがあって、本当にカントリーな子。だからポリアンナは、声を作るというより、自然にあんな声になってしまうような感じでしたね。

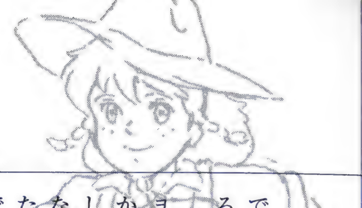
『ポリアンナ』は、声優という新しい名札をつけていったオーディション



（※1）ドナルド
1985年から放映されたシリーズ11作目『小公女セーラ』に登場。主人公セーラの亡き父の親友クリスフォードの顧問弁護士であるカーマイケルの息子で、セーラにとって重要な役割を果たす。



（※2）ポリアンナ
1986年から放映されたシリーズ12作目『愛少女ポリアンナ物語』の主人公。早くに両親を亡くしてしまうが、持ち前の明るさで前向きに生きる女の子。様々な出来事から“よかった”を見つける「よかった探し」で、周囲の人々を幸せにしていく。



で、すごく私の人生が変わったといえる作品です。

歌がなくて、声優だけでオーディションに来てと言われることは滅多になかったんです。だからとても戸惑いました。歌を歌っちゃえば早いんだけどなあ、と。…自分の武器を全部とられた状態でオーディションに臨んだので、そう言う意味では不自由で、また怖いものはない…みたいな気持ちでした。

実はあの頃、主題歌を歌うことや露出が少なくなっていて、自分は辞めたくないけれど、もしかしたら時代の流れで辞めるときが来るのかなと考えていました。大きな人生の流れでいうと、谷間に入っているような気持ちを自分で持っていたんです。そんな時期に「声だけでオーディションに来て」と言われ、すごく変な気持ちと同時に、今の自分なら何でも頑張れると思いました。

オーディションはすごく緊張しましたね。テストに行ったような雰囲気でした。でもポリアンナの台詞に助けられたんです。彼女の台詞「よかった」と言う度に、自分が本当によかったんだって、救われるような気持ちになっていくんです。「わーい、よかった！」っていう決めの台詞があって、それを言いながら落ち着いていったような気がしますね。

ポリアンナという役は難しかったですね。深く考えれば考えるほど、嫌な子になってしまうんです。最初のうち、どうしてこの子はこんなに明るいんだろうとか、こんなこと言ったら普通は嫌がるよねとか、大人の目線でこの子を見てしまう時期があったのです。でもそうすると何をやっても台詞が嘘っぽくって、いやらしくなるんです。だから考えるのはやめようと。この子は本当にこういう子。悪意がなくて、優しさで素直にその言葉を言う子なんだって。

私にとって『ポリアンナ』は人生のバイブルなんです

声優さんも、池田昌子さん、吉田理保子さん、田中秀幸さん、銀河万丈さん、とにかくすごい方ばかりでしたから、ほんとに勉強になりました。野沢雅子さんが「こういう婦人の役はあまりしたことがないから緊張する」と言ってらしたのも印象的でした。

お父さんとかチルトン先生とは、すぐに分かり合える部分が出てくるんですけど、パレーおば様とは、長い間もどかしさみたいなものがありました。だから最後に本当に分かり合えて、心から大好きだという芝居ができたときはすごく幸せでしたね。

『ポリアンナ』はけっこう悲しい場面もありますが、でも声が明るいから悲しい役ができるんだと言われたんです。暗い人が暗い役をやったら、見ている人が泣けないくらい落ち込むから、明るくやってほしいと。それは歌にも通じることで、悲しい歌は、明るく歌うから聴く人が泣ける歌になるんですね。

『ポリアンナ』の台詞は何回も「よかった」という言葉が出てくるんですが、あれは口癖になるんです。生活の中でも知らないうちに「よかった」と言っている自分がいる。そうすると生活の全てが「よかった」という言葉に引き寄せられて、そこから歯車が新しくガッと回り始めるような…。何かを頑張っていると道が開けていくという実感

を、まさにこの作品で感じました。このポリアンナという子に導かれたような気がします。そのくらい私にとってこの作品は人生のバイブルなんです。

天使のような子を演じることで、自分が成長していく

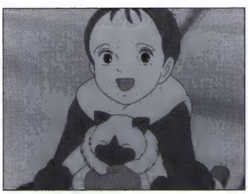
『小公子セディ』のコッキー(※3)、この子かわいいでしょう? 何かこういうエンジェルみたいなキャラを私に演じなさいといわれたような気がしました。ドナルド君もお金持ちだけれど天使のような男の子。ポリアンナも天使のような女の子。コッキーも貧しくて両親もいないけど天使のような子。こういう子を演じることで自分がどんどん成長していくみたいな…懺悔しろよとか、成長しろよとか言われてるような気がして。

主役という重責もなかったので気楽にやれましたし、その上かわいかったです。

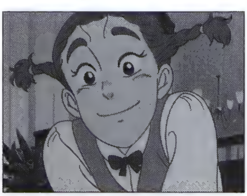
主役というのは、どうしても真面目で抑えていかないといけない部分があるから、回りがはじけることで生きてくるという部分もありますね。セディがおとなしかったから、はじけていてよかったのかな。この子は手放しで楽しかったです。このときも山田栄子さんと一緒でした。『セーラ』も一緒で、『ポリアンナ』も一緒で、ずっと一緒なんですよ。名作で知り合って、今でもとても仲良しです。

『私のあしながおじさん』はすごく魅力的な作品でした。でも最初見たとき、ジュディ(※4)は私の声じゃないような気がしたんです…。『ポリアンナ』のときは当たって砕けろ状態で、わけもわからずオーディションを受けて、がーっと頑張ってやった一年。でもそこからちょっと成長した自分がいて、精神的に〝ポリアンナのようにはできないぞ〟っていうのがありました。ジュディの年齢もローティーンからハイティーンまで幅があるし、ラブストーリーでもあるし、いろんな意味で大変だなと思いましたね。

主題歌を歌うことは最後の最後に決まりました。声の方が先に決まっていたんです。名作劇場の主題歌を歌うのは初めてだったので、それはすごくうれしかったですね。レコーディングでは、あまり消化しきれないうちに歌わないといけない状況のときもあります。それも新鮮さがあっていいのですけど、歌いこんだ方がよくなる歌というのもあって、『あしながおじさん』



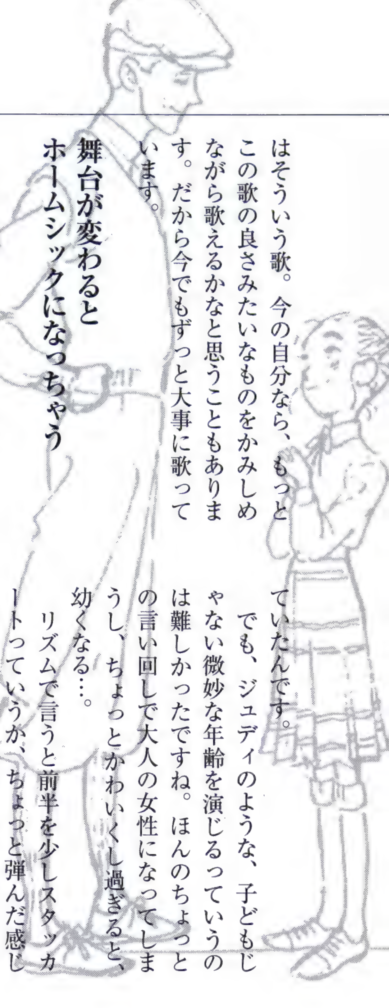
(※3)コッキー
1988年から放映されたシリーズ14作目『小公子セディ』に登場。アメリカからやってきた主人公セディの友達。祖母であるケティに育てられている。明るくおしゃまな女の子。



(※4)ジュディ
1990年から放映されたシリーズ16作目『私のあしがなおじさん』の主人公。明るく元気な女の子。父母の顔も名前も知らず、孤児院で育つが、援助金で名門リンカーン記念女学院に入学する。

はそういう歌。今の自分なら、もっとこの歌の良さみたいなものをかみしめながら歌えるかなと思うこともあります。だから今でもずっと大事に歌っています。

舞台が変わるとホームシックになっちゃう



名作劇場をやっていて辛いところは、途中で舞台が変わってしまうことです。それが私の性格上とても辛くて…。物語が始まった場所にずっといて欲しい。だから次の舞台に移っていくと、ホームシックになっちゃうんです。ポリアンナが東部へ行ったとき、すごいホームシックになって、実は（ポリアンナ以上に）私が一番戻りたかった。『あしながおじさん』のときにも孤児院に戻りたくてしょうがなかったんです。役以上に自分が、ぶきっちょなんですね。

『あしながおじさん』では、語りもしました。私、小学生のときから国語が好きで、本を読みなさいって言われるのがうれしかったんですよ。一度はああいう語りもやってみたいなって思っていたんです。

でも、ジュディのような、子どもじゃない微妙な年齢を演じるっていうのは難しかったですね。ほんのちょっとの言い回しで大人の女性になってしまうし、ちょっとかわいくし過ぎると、幼くなる…。

リズムで言うと前半を少しスタッカートっていうか、ちょっと弾んだ感じにしておいて、後半を少しレガートな感じにするとちょうどいいかな。だから声のトーンとかはあまり変えないで、リズム的に少し変化をつけようかなと。音楽のリズムみたいなので演じ分けてみようと思っていたんですね。

（恋愛シーンのある）後半は、スタジオに入ると恥ずかしくて。田中さんと二人の演技を後ろでみんなが見ていると思うと、あんまり恥ずかしいので一度カーテンしてもらったか、暗くしてもらったかしたんです。田中さんでよかったー！　と思いました。彼だとどうしてもあしながおじさんというよりはお父さんとかチルトン先生ですから（笑）。

ひとつのものを作るって、こういうことなんだろう

名作劇場という作品は、きれいに大事に作りたいという想いがスタジオ中にありました。制作側とキャストとでコミュニケーションがあって、素晴らしかったです。ひとつのものを作るって、こういうことなんだろうと思いました。キャラクターも毎週全員が揃うわけではないけど、全員で作っていこうっていう感じが見えるんですよね。泣く芝居なんかも「思いっきりやって下さい、後で絵を合わせますから」と言ってくださるとか、他ではありえないような自由なスタンスで、作品を大事にして作ってくださっていたと思いますね。

『家なき子レミ』はオーディションがなかったんです。これをいただいたときには、プロデューサーさんから「残念だけれど、これで名作が終わりになるから、最後を締めてもらいたい」といわれました。すっごく辛かったです。でも辛いけれど、そこに選んでい

ただいたことの方をすごく光栄に思って、頑張りますといってやらせていただいたんです。

　レミ（※5）という子は今までのキャラとは違って、生活感もあるし、歌を歌っているときは天使のようにきれいにやさしく歌うんだけれど、でも実際はすごく辛い子です。でも最後だからと言われて引き受ける私にとっては、ちょうど役的にも大きさとしてもいいんだろうなと。

　私、アフレコが始まる前に改めて原作を読んだんです。新幹線の中だったけどボロボロ泣いて「これやるんだあ！」と思いましたね。どれだけ〝おしん〟（※6）キャラなんだろうなあと。

最初から〝売られる〟という今までと違う別れをするんです。普通だったら知らないおじさんには絶対ついて行かない。だけどこんな怖いおじさんでも、このレミという子はついて行かざるをえない。生死を決められるようなところにいるわけだから。レミはどれだけ辛かったんだろうなあと思いながら演じました。

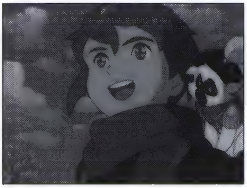
　マチアとの恋愛（?）もありましたが、でもたぶん本当に好きだったのはビタリスさんじゃないのかなと。男の人としても好き。ビタリスさんの方もレミのことを、子どもだけれど女の子としてもちょっと好きだったんじゃないかなあって、途中で思いましたね。

　冬の寒い峠を越えてきて、オオカミに襲われたり、大変な目に遭いますね。その後パリの灯りが見える丘の上で、別れが来るんですけど、あれはすごくきつかったなあ。その前に犬たちも死んじゃうし。あの最後の別れのところは「絵は気にしないでいいです。やりたいように泣きたいだけ泣いてください」と楠葉監督がおっしゃってくださったんです。

名作劇場が私の人生を導いてくれた

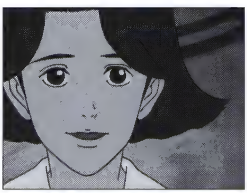
『ポルフィの長い旅』（※7）。まず一番うれしかったのは、また名作劇場が始まったの⁉　ということです。声をかけてもらえたのがまた何倍もうれしくて。今は録り方が変わって、以前とは状況も違ってましたが、でも久しぶりに楽しかったですよ。自分で勝手に決めているんですけれど。私はやっぱり名作の中で生かされてきたなって思っているから。

　名作劇場は、私に歌手という看板がなくても、声優として一人前に成長させていただいたシリーズであり、自分



（※5）レミ
1996年から放映されたシリーズ23作目『家なき子レミ』の主人公。特技は歌を歌う事。養父によって人買に売られそうになるが、フランス中を回っている旅芸人のヴィタリスに助けられる。

（※6）おしん
NHK連続テレビ小説の主人公。1983〜1984年放映。貧しさといじめに耐える少女おしんが話題を呼んだ。



（※7）『ポルフィの長い旅』
2008年から放映されたシリーズ25作目。20世紀半ばのヨーロッパが舞台。大地震によって離ればなれになってしまった兄ポルフィと妹ミーナの再会を描く。堀江さんはシチリアの青年ジャックの恋人モニカ（写真参照）を演じている。

の性格上一番居たい場所だったんだと思う。名作劇場という世界の中に、自分が一番居たい場所を見つけたんだと思います。

　それに名作劇場が私の人生を導いてくれたと思う。私には大切なんですよ、すごく。この先もずっと残ってくれれば一番うれしいです。今はDVDにもなっているので、今からもう私の老後の楽しみなんですけれど（笑）、何かお茶を飲みながら、自分の作品を見ながら「よかったね」と言って泣くんだぞって、そういう絵が見えてるんです。

　この頃思うことですが、みんな辛いのとか悲しいものを見るのが嫌でしょう。そういう気持ちになりたくないし、なっているままでいたくない。心にそれだけの強さがないんですよね。私自身もその傾向にあるなと感じているくらいです。

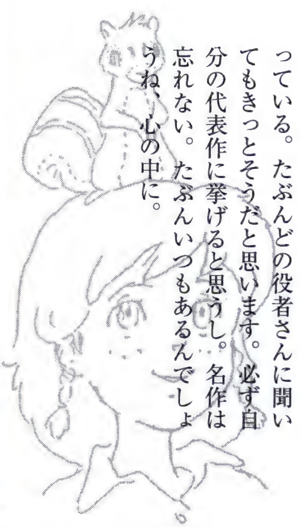
　でもそれがきっと人間には大事な気持ちなんだと思うんです。辛いとか悲しいというのに耐える気持ち、その強さが人間を育てていくのではと。でも今はテレビ番組にそういう作品が少ないから、ただ面白いで終わって過ぎていくんです。これすごく何かが欠けてしまうなって思う。だから1週間のうちに1本でいいから、名作劇場のような作品があれば、アニメ界どころか日本の良心になる気がするんだけれど。それを親が「悲しいね」って言いながら一緒になって泣いてくれる。そういう時間がなくちゃいけないような気がします。

　私たちが子どもの頃は、親がご飯の支度しながらも、どうなった？　と来ては、思わず台ふきで涙ふいちゃう。そうやって一緒に泣いて、ああ今日悲しかったねって言いながら、何かを育んでいたような気がする。今はそういう気持ちが薄れちゃったのかな……。泣くことは恥ずかしいことじゃないんだよって子どもにわかって欲しい。それにはぜひ日本アニメーションに頑張っていただきたいなと。もっと感動を普段から表現し、出せていたら、大きな意味で世界も変わると思うぐらいです。

名作は忘れられない

　私の演じたポリアンナという子は、とにかくどんなことの中からでも「よかった」を探します。「今日は雨だったからよかった。だって明日が晴れると思うとうれしいでしょ」ってね。最初、こいつぅとか思うんですよ。どうしてそういう風に考える？　なんて思うんですけれど、自分の台詞として言っていると、だんだん本当にそういう風になるんです。「雨か…。ま、いっか、明日晴れるかな」と、言っている自分がいる。これはすごい魔法ですよ。

　仕事ですからいろんな役もやるし、次をやるために忘れていくというのも大事なんだと思うけれど、どういうわけだか名作劇場は忘れられないんです。私の中でしっかり根っこを張っているみたいなところがある。名作劇場はそういう風に一仕事として割り切れないシリーズなんです。演じている本人にも何か成長があって、必ず心に残っている。たぶんどの役者さんに聞いてもきっとそうだと思います。必ず自分の代表作に挙げると思うし。名作は忘れない。たぶんいつもあるんでしょうね、心の中に。





Special Interview Part2

監督

高畑勲

難しいかもしれないけれど、やるに値するものであると

『アルプスの少女ハイジ』は子供のときに読んでいて、好きだったんですけれど、それをアニメーションにする、テレビシリーズにするということはすごく難しいんじゃないかなってまず思ったんですね。周りではスポ根が終わりかけていた時期で、メカものが台頭し始める時代でした。でも自分はそういうものはやりたくない。『ハイジ』は非常に難しいけれど、やるに値するものだし、できればやりたい。ではどうすればアニメーションとして面白く、かつ特性を生かしたものになるか、それをかなり時間をかけて考えた上でやり始めたんです。その段階で考えたことは色々あるけれど、まる1年観客に付き合ってもらうのだから、ただドラマティックに引っ張ろうとするんじゃなくて、日常的なことをしっかり描いて、登場人物やその生活環境を本当に身近に感じてもらえるようにしたい、というのが基礎にありました。

『母をたずねて三千里』をやれと言われたときはがっくり。僕も子供のときに『クオレ』全体を読んでいるんですけど、「えっまさか、『母をたずねて三千里』やるの?」というような感じ。でも、やるとなったら逆にトコトンやろうと。

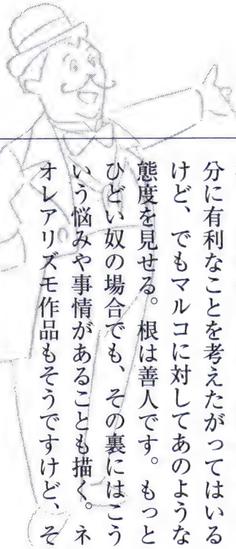
『三千里』は股旅もの(※1)にすることもできたわけです。例えば、日本のアニメは子供が大人顔負けの能力を持っているものが多いのですが、『三千里』もそういうものにすれば、お母さんを捜すことをベースにしても、一宿一飯の恩義を返しながら、つまり、その能力で人助けをしながら、行った先々で貸借対照表が常にプラスになるようにできるから、見る人は明るく見ていられるし、お母さんが見つからなくてもそれほど辛くない。でも僕らは、本当に何も持たない少年が人の世話になりながら恩義ばかり重なっていくという、借りばっかりが増えてくような話にしました。原作通り、それをちゃんとやった方がいいんじゃないかと。戦後イタリアのネオリアリズモ映画(※2)のようにね。

イタリアの敗戦の仕方は日本とは違いますけど、戦後立ち上がろうとしていた時期に現実を見据えた作品が何本も作られました。僕らは大きな影響を受けたんです。代表的な作品を挙げれば『自転車泥棒』。そこには本当に辛い体験をする子供が見事に描かれています。確かに見ていてしんどいかもしれません。だけどね。今は快くて癒しになるような作品が流行るわけだけ

Profile

高畑 勲(たかはた いさお)

映画監督、プロデューサー、文筆、翻訳家。1968年の長編アニメ『太陽の王子 ホルスの大冒険』以後、『じゃりン子チエ』『火垂るの墓』『おもひでぽろぽろ』『平成狸合戦ぽんぽこ』などを監督。世界名作劇場シリーズでは『アルプスの少女ハイジ』『母をたずねて三千里』『赤毛のアン』で演出・監督、『フランダースの犬』・『ペリーヌ物語』で絵コンテとして参加。現在はスタジオジブリに在籍している。



ど、そんなものは現実を生きていく上ではほとんど役に立たない。世の中にはそうそう上手くいかないことがあるんだと分かっていた方が、挫折を味わったときにそれを乗り越える力が身につく。ネオリアリズモ作品も、今こそ見直されるべきだ、と強く思っています。

それから、人間の両面、要するに人間をまるごと描きたかったんですね。確かに悪役は主人公を虐める徹底した悪役に描いた方が、子供は非常に強い義憤を覚える。主人公に同情しやすいでしょう。でも、悪人は悪人の事情があってこうなるんだという面も、きちんと描かないとダメなんじゃないかなと思うんです。

ペッピーノだってまあひどい男ですよ。彼は山師です。山師だけど同時に彼なりの義侠心もある。頭の中では自分に有利なことを考えたがってはいるけど、でもマルコに対してあのような態度を見せる。根は善人です。もっとひどい奴の場合でも、その裏にはこういう悩みや事情があることも描く。ネオレアリズモ作品もそうですけど、その方が真実だし、人生を生きていく上で役に立つ作品になると思うんです。そういう考えを、脚本を書いた深沢一夫さんと共有していたわけです。

でも『三千里』は辛かったですね。お母さんには全然会えないし。52話もやるのだから、お母さんに会えるのは終わりの方だろうし、途中見る必要ないなんて感じでね。視聴率的には股旅ものにすべきものなんでしょう。でもそれだったらやる必要ないと僕は思ったんです。あんなものをやるの？　と最初は言ったけど、でも子供のとき、本を読んで怖くてドキドキ興奮した覚えがあるので、「良かったね」だけじゃない辛い話というものも子供にとって意味があるのではないかと。20世紀になって、子供の気持ちを生き生きと開放する文学が出てきたのは素晴らしかった。でも場合によっては、快楽主義、癒し、慰めしかもたらさないものになります。子供の心を開放すると言えば聞こえはいいけれど、子供を甘やかして終わる場合もある。アニメはもっとそう。主人公が愛と勇気で危機を打開する。どこで修行したんだろう？　愛と勇気だけで強くなれるの？　と僕は言いたい。

僕がやったものだけじゃなくて、こういうシリーズの持っている、日常的に付き合っていく中での様々なヒダヒダを描くこと。生活していく中には耐えなくちゃいけないこともあるし、輝くときもある。生きていく上では色々あるんだっていうことを子供達に知らせる意味で、こういうシリーズは存在し続けて欲しい気がします。

客観的に描くことでそこにユーモアが生まれてくるんです

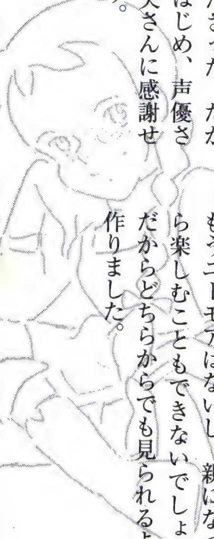
『赤毛のアン』をやれと言われたときもびっくりしたんです。『アン』は

(※1)股旅もの
各地を渡り歩き、義のために弱いものを助け、強いものをくじく人物を主人公にした、時代劇や通俗小説。

(※2)イタリア・ネオリアリズモ映画
1940〜1950年イタリアにおいて、映画や文学を社会問題や現実を直視する題材で描いた流れ。戦後の混乱の中、ファシズムやハリウッド映画に対抗した。

おしゃべりな少女の話で、それが大きな魅力ですよね。それを一体どうするつもりなの？　と思いました。アフレコなんですから、しゃべっているところはこちらの設計に合わせて声優さんはしゃべるわけで、声優さんが間合いを作ってやれるわけじゃないんです。長いセリフをどのくらいひと続きでしゃべるかとか、どのくらい呼吸をおくかなどを事前にこちらで全部計算しなきゃならない。むろん、表情や仕草もね。で、声優さんの方は、それに無理矢理合わせながら人物像の感じや気分を出さなければならない。どちらも大変なんです。

　やるならそういうところを逃げないでやろうと思ったんですが、実際には、絵が全然間に合わなくて、ただ赤や青の線が引いてあるだけの設計フィルムに向かって声優さんに声を合わせてもらわなければならなくなってしまった。こんなひどい方法でもなんとかなるのがアニメの特性ですが、みなさん実に見事にやってくださった。だから山田さん、北原さんはじめ、声優さんや録音監督の浦上靖夫さんに感謝せずにはいられないんです。



　アンは思春期の少女ですよね。マリラという育ての親が非常に大事な役割を果たすわけですけど、アンの気持ちだけじゃなくて、マリラの気持ちが、親になっている僕とか世間の親達にはとてもよく分かるわけです。そうするとアンの視点だけから描いたのではダメなわけで、両方のどちらにも立って見ても、納得できるように作らないといけない。ちょうちん袖が欲しくて、せっかく服を作ってもらったのに喜ばないとか…、アンの気持ちに寄り添ったら、〝そういう少女の気持ちを分かってくれないマリラ〟ということになる。でも、それは分かってくれないのが当然なんですね。親にしてみたら〝何バカなこと言ってるの、実用的なものが1番いいよ〟と言う。そんな両者をきちんと客観的に描く。

　客観的に描くことでそこにユーモアが生まれてくる。もしもアンの立場だけに立ってしまったら思春期の子供は感情移入するかもしれないですけど、もうユーモアはないし、親になってから楽しむこともできないでしょうね。だからどちらからでも見られるように作りました。

主人公とまるごと付き合っていく

　このシリーズでは、見る人が毎週その主人公に付き合っていくわけですから、主人公やそれを取り巻く人々だけじゃなくて、住んでいる環境やいろんなものに、まるで自分がそこに行ったことがあるような、知っている場所のような感じがしてくるように作るべきだと考えたんです。そういうことをちゃんとやれば、見ている子供達はずっと付き合っているわけだから、例えば日本の町だったら、どこを曲がってあの家の前を通ると必ず犬がわんわん吠えるとか、どこにポストがあるとか、いつの間にか地図で書けるくらいになるはずなんです。『ハイジ』だったら村があって、登って行くと途中にペーターの小屋があって、さらに林を抜ければおんじの小屋が見えてくるとかね。『三千里』のジェノバの町や『アン』もできるだけそうやったつもりです。毎週見ていくことによって、その主人公とも親しくなっていくし、その主人公がいる場所もそこに現実に生きるわ

けじゃないけど、それに近い感じが持てるようにする必要があるだろうと。

毎日何をやっているのか、生活が分かってないとその人と付き合っている感じがしないと思うんです。事件で付き合っているんじゃなくて、生きていること全体に付き合っていく。主人公とまるごと付き合わなくちゃならない。普段、朝何を食べているかとか、生計を立てる方法とか。52話延々とやるわけだから、そういうことが大事で、そのこと自体が非常に新しいシリーズになりえたと思っているわけです。テレビシリーズでしかできない、映画じゃ絶対不可能というものにね。映画にしてしまうと全部切り捨てて、刈り込んでしまわざるを得ないものが出せるんです。ごく日常的なことを積み重ねていく。実はそのなかに強いサスペンスがあるんじゃないかと。

表現に関してですが、それまでの漫画映画だったら、例えば殴り合いをしてコブが出ても、水をぶっかけられても、次の場面ではコブもなければ着物も濡れてなくて平気だった。つまりアニメだからということで許されることがたくさんあったわけですね。走るのだって考えられないようなスピードでビャーっと来る。その方がアニメらしいし、むしろ爽快感があるわけですから。

でもきちんと日常的なものに現実感を与えようとすればそうはいきません。見る人がその世界を信じ始めたとたんにそれに誠実に応えていかなければならない。例えば、屋根裏部屋に雪が降り込んできて、寝ているハイジの肩に積もる。どんなに寒かったろうかと見た子供が心配してくれるんですね。ただのお話じゃなくて、現実として受け止めるわけです。そういう気持ちを裏切らないように細部をきちんと描かなければならないし、ウソくさいドラマを作らないように心掛ける必要があります。むろん、すべてちゃんとやれたわけじゃないし、結構ひどい嘘をついたりしましたけど、でも子供がリアリティを持って受け止めてしまったら、勝手に裏切っちゃいけないことは学びました。

日本を舞台にしたい、それに意味があると思う

それから僕が非常に強く願いつつ、しかし全然できなかったのは日本のものです。日本の作品をやりたかった。こちらはアルプスやカナダで生活したわけでも何でもないのに、作品を作るにあたって細かい文化人類学的なことを真面目に調べたりしたわけです。そのくせ、日本については自分自身も含めてそういうことをまるでやってない。周りを見回すと日本の過去や生活そのものについても知らないことがいっぱいあるんです。農器具なんかは土地の資料館、民俗資料館みたいなところにたくさん置いてある。だけど一体どうやって使うのか、今の若い人は誰も知らない。僕くらいの世代は知っているんだけど、伝えていない。そんなことでいいんだろうか？『ハイジ』でチーズをあぶって食べて美味しそうだと言ってくれるのは嬉しいけど、日本のことを何も知らないままではね。

結局僕らが作っているのは、一生懸命生活を描いたとしても結果はファン

タジーとして受け取られてしまうんです。西洋への観光旅行と同じ。ヨーロッパには爆撃を受けなかったところは百年前の写真とほとんど同じにしか見えないような素晴らしい景色がいっぱいある。日本では十年後に行くとまるで変わっている。そういう日本に暮らしながら、憧れのヨーロッパでファンタジー心を癒すんですね。憧れだったら、それに学んで日本の美しい景観も破壊せずに守っていったらどうだろうかという発想につながるはずなんだけど、なかなかそうはならない。今は映像もそういう癒しの役割を負っていて、現実では満たされないから、甘美な世界を映像の中で味わおうということになってしまうんですね。

要するに日本をちゃんと調べて題材にした日常的な作品というものをやったらどうかなと。子供の心を開放して生き生きさせるような、20世紀になってイギリスを中心に世界的に起こってきた児童文学を見習いながら、できるなら日本を舞台にして。そうすれば意味のある仕事になるし、それだけの積み重ねはしてきたんじゃないかと思ったんだけど、実現しないままこのシリーズは終わってしまった。

僕自身は『赤毛のアン』が終わった後、途中でやめた『リトルニモ』を除けば、『じゃりン子チエ』以来ずっと日本を舞台にしたものしかやってない。これからやるとしてもはっきりそのつもりです。日本を舞台にしたい、それに意味があると思うんです。西洋が嫌いなんじゃないですよ。西洋に学ぶことは今もいっぱいある。

日本のものをやりたくなったもうひとつの理由は、言語と仕草の問題です。言語が変われば話すときの仕草も変わります。アンは本当は英語をしゃべっているわけです。マルコはイタリア語、ハイジはドイツ語です。ところがそれを日本語でやらなくてはいけない。そうすると日本語でやる以上、日本語をしゃべったときにおかしくないような芝居をつけるしかないんです。西洋人が西洋語をしゃべるときにつける大きなジェスチャーで日本語をしゃべったら、いやらしいだけなんですね。

それで、今度は作品を輸出してイタリア語や英語になったとき、なんで全然動かないんだ、ってなるわけね。この矛盾が僕は嫌なんですよ。言語と仕草について関心を持っている人間には耐えられないですね。西洋語でやるときは、アフレコじゃなくて、必ず先に声を録ってそれに合わせて絵を描きます。日本語みたいに事前に計算できないからです。この問題は根本矛盾であって解決しないことなんです。

『アン』は、結構よく作ったつもりです。でもやっぱり吹き替えたら、英語ならまだしも、イタリア語みたいに伸び縮みがある言語だと、ちょっと辛いだろうなと思うんですね。ただ、あの村の人達はスコットランド出身の禁欲的なクリスチャンなので、あまり表情も変えずジェスチャーもせずにしゃべる人達ですから、そうおかしくないかもしれないけれど…。

一緒にやってくれた人達に恵まれたと

このシリーズでは、脚本であれ絵コンテであれ、作画や仕上げや撮影・録音であれ、多くの方々から大きな力を借りる必要がありました。けれども同時に、統一されたひとつの作品として打ち出していくためには、僕らメイン

スタッフが大幅に介入しても許されるという状態が必要なんです。両方とも必要なんですよ。〝信頼しているからその脚本通り、絵コンテの通り現場の演出をやります〟というんじゃない。こういう話にしましょうと発注するわけですから、それが自分達の考えていたものと違っていれば、自分の考えているものに直させてもらう。でもそれはそこまでやってくれた力を大幅に借りているわけですからね。人の力をものすごく借りながら、尚かつメインスタッフがその主体性を失わないで、統一的な作品を作る。

だから1番大変だったのは、ずうずうしく言えば、むろんメインスタッフです。でも力を貸してくれた側も、その人達の持っている力を惜しみなく出してくれたわけですね。それがなかったらメインスタッフだけが頑張ったってやっぱりダメなんです。もしも悪い状態のものばかり上がってきたら、それを全部直す時間なんてないですから。

素晴らしい美術をやってくれた井岡雅宏さんでさえ、このシリーズに携わった当初は、この程度でいいかな？みたいな気持ちで入ったらしい。ところが宮崎駿さんや小田部羊一さんとかがどれだけ懸命にやっているかということを知って、これは全面的に力を出さないとダメだなって思って頑張ったと言っています。そういう力が働くんですよね。美術の下で背景を描いてくれた人も井岡さんを尊敬していたし、しかも作品を愛してくれて、そのために力を発揮しようという気持ちでやってくれるわけです。新しく発注した人なんかはそこまで考えてないけれど、だんだん集中してくる。それぞれみんなが頑張っていると自分だけ手を抜いて楽をしようなんていうことにならないんです。真面目に頑張り抜く人達がやっていれば、そこに集まってきてくれる人も染まっていって、本当に努力してくれるようになる。そういうものの成果だと思うんですね。

一言で言ってしまえば、心をひとつにして、気持ちを一致させて頑張り抜いた。これは自分にとって素晴らしい経験でした。本当にみんなに感謝しています。一緒にやってくれた人達に恵まれたと。僕の担当した3本とも、メインスタッフはもちろん、力を貸してくれた人も、今思えばよくぞ集まったと驚いてしまうような錚々たるメンバーですよね。

スケジュールがどんどん遅れて1週間に1本ずつ作るのが本当に苦しかった。前日納品になってしまう。局からすれば放映の前の日に納入するなんていうのは許されざることなんですね。プロデューサーの中島順三さんなんかは局でひどいことを言われたに決まっている。だけど中島さんは頑張り抜いて局より現場を優先してくれた。最悪の制作条件になってしまったけれど、それでもみんなギリギリまで作品に集中してくれた。プロデューサーから録音まで、全員一致して作品のために頑張ってくれた、そういうアンサンブルで生まれた幸せな作品達だと思います。



Special Interview Part3

監督

楠葉宏三

Profile

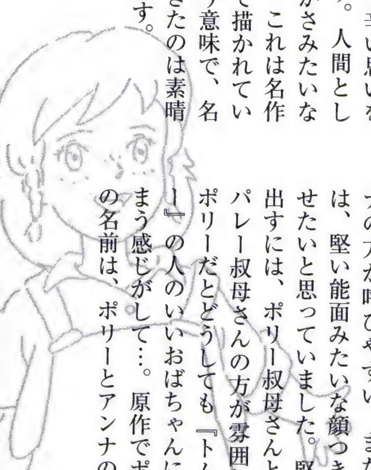
楠葉 宏三（くすば こうぞう）

1971年に東京ムービーに入社。日本アニメーションに移籍後、1981年に『フーセンのドラ太郎』で監督デビュー。世界名作劇場シリーズでは、監督として『アルプス物語 わたしのアンネット』、『愛少女ポリアンナ物語』、『小公子セディ』、『トラップ一家物語』、『若草物語 ナンとジョー先生』、『ロミオの青い空』、『家なき子レミ』のシリーズ最多7本を担当し、『七つの海のティコ』などでは絵コンテ、演出として参加。2004年からフリーランスとなり、『ドラえもん（新シリーズ）』の総監督に就任。

大人の責任はやっぱり子供を守ることだと思う

まず子供が喜ぶ作品を作りたい、それはどの監督もみんな同じ想いです。『愛少女ポリアンナ物語』が放送された当時の世相が、そういうものに飢えていた時代でした。「よかったさがし」が出たとたんに、大人がそれに飛びつきましたね。子供と一緒に見ているお父さんお母さん達が「よかったさがし」をしてくれたんです。

そういう意味で『ポリアンナ』は癒し系のお話です。日本も、そういう言葉や行動で「癒し」を求める時代になってきていた。今は子供に対する虐待など悲惨な出来事が数多くニュースになっています。僕は大人の責任はやっぱり子供を守ることだと思うんですね。どの作品を作るときも、ずいぶんそれを意識していました。アニメ作品の表現として絶対にやってはならないこと…人を殺すとか嘘をつくとか、そういうのはしたくない。『アルプス物語 わたしのアンネット』では、嘘がひとつのテーマになりましたけど、嘘をつきっぱなしだとああいう辛い思いをすると描いたつもりです。人間として、思いやりとか心の豊かさみたいなものを捨ててはいけない。これは名作劇場23作品の全部を通して描かれていたと思うんです。そういう意味で、名作劇場に携わることができたのは素晴らしいことだったと思います。



『ポリアンナ』のパレー叔母さんの役を野沢雅子さんに決めたのは私です。周囲のスタッフの皆さんに大反対されました。だって『ドラゴンボール』みたいな元気のいい男の子の声を中心に演じていましたから。でも野沢さんが映画の吹き替えですごく感じの良い女性の声を演じていたのを知っていたので、絶対できると思って推したんです。ポリアンナは自然体。自然体のポリアンナに一番影響されて変化したのがパレーなんです。感情表現を丁寧にきちんと、そして豊かに表現できる野沢さんに演じて頂いて大正解でした。

ポリアンナの名前ですが、アメリカ人が発音すると〝パレアナ〟に近いんです。でもアニメにするならポリアンナの方が呼びやすい。また、パレーは、堅い能面みたいな顔つきで登場させたいと思っていました。堅い感じを出すには、ポリー叔母さんとするよりパレー叔母さんの方が雰囲気は出る。ポリーだとどうしても『トム・ソーヤー』の人のいいおばちゃんになってしまう感じがして…。原作でポリアンナの名前は、ポリーとアンナのふたりの

楠葉宏三監督作品

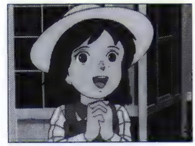
ロミオの青い空
1995年から放映されたシリーズ21作目。イタリアのミラノで煙突掃除夫として働く少年ロミオ。親友アルフレドや仲間達の深い友情と絆を描く。

家なき子レミ
1996年から放映されたシリーズ23作目。フランスの田舎町に住む少女レミは自分は拾われた子供だと知らされ、旅芸人一座と旅に出る。どんな苦難にも前を向いて立ち向かうレミの物語。

アルプス物語 わたしのアンネット
1983年から放映されたシリーズ9作目。農家の娘アンネットと親友で幼なじみでもあるルシエンの友情物語。スイスのロシニエール村が舞台。

小公子セディ
1988年から放映されたシリーズ14作目。ニューヨーク育ちの少年セディが、祖父ドリンコート伯爵と暮らすためイギリスへ渡る。ふたりの心の交流を描いた物語。

トラップ一家物語
1991年から放映されたシリーズ17作目。トラップ一家に子供達の家庭教師としてやってきた修道女マリアの物語。世界大戦前のオーストリアが舞台。



愛少女ポリアンナ物語
1986年から放映されたシリーズ12作目。(→P225)



若草物語 ナンとジョー先生
1993年から放映されたシリーズ19作目。(→P145)

姉の名前を取ってつけられたとありますが、アニメでは名前のエピソードは必要ないと思いました。それよりドラマの中で真っ直ぐに「よかったさがし」に進んでいった方がいい。

そういう意味で1年間は短いんですよ。いろんなことをやりたいと思うんですけど、決められた中で刈り込んでいかなくてはいけない。そうでなくても『ポリアンナ』の原作には、エピソードがいっぱいありますから。

『ポリアンナ』の第2部ですが、原作では成長したポリアンナなんです。でも、アニメで成長した部分を見せて、見ている子供が共感できるかどうか。原作通りに表現することが共感を得られることなのか。それは、大人の自己満足に過ぎないんじゃないか？　とずいぶん悩みました。でも、ポリアンナの場合、子供のままで描いても、いや、子供のままの方が、人に訴えかける力は強いのではないかと思いました。だからポリアンナを劇中で大人にする必要はないなと思い、子供の姿のままで大人の感情を表現してみようと試みました。

『ドラえもん』は30年間やっても、同じテーマでやれるし、話も全部違う。名作劇場はその意味でホント苦しかったですよ。1年前のことをできないわけですから。例えば、高畑さんがなさったことを、その1年後に作れるわけじゃないですか。しかも名作シリーズとしての統一感を出さなければならない。名作シリーズの軌跡ってあるんですよ。初期は高畑さんとか黒田さんとか、いろんな監督達のつけてきた道。私達の世代はそれらの方々の技を見つめた上で自分の作品を作る。でも、やっぱり世間には初期の『ラスカル』や『三千里』が名作劇場なんです。僕はそれに太刀打ちするにはどうすればいいのか考えていましたね。自分の持ち味はどこにあるんだ、と、探すのにかかりきりになっちゃうわけですよ。余裕がなかったですね。

僕は彼らがいいものを作り上げる環境作りをしようと

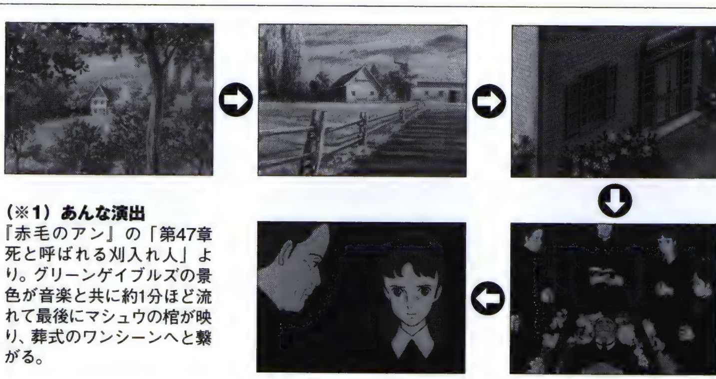
高畑監督と違って、僕には演出家に必要な創造力、想像力が欠けています。だから、自分のイメージするもの

を表現してくれるブレーンを作ろうとしました。シナリオライターとかキャラクターデザインとか美術監督とか録音監督とか…。それにはちょっとこだわりました。彼らはそれぞれのポジションでプロなわけですから、彼らがまとまっていいものを作り上げる。僕は彼らがいいものを作り上げる環境作りをしようと。

高畑さんと一緒に仕事したのは『赤毛のアン』1本でしたけど、カルチャーショックを受けました。アニメだけではなく、映像作家が演出すると言うことはどういうことなのかを教えてもらったのは高畑さんです。高畑さんの映像に向かう姿勢がすごいんです。マシュウが死んでお葬式がある話なんですが、グリーンゲイブルズの風景を何カットも積み重ねて見せて、それに音楽がずっと流れている。そして最後にマシューの棺が映り、悲しみの真っ只中にいるアンとマリラの姿が映し出される…僕には、あんな演出（※1）は恐くてできませんよ。これには「負けた」と素直に言えました。

『アン』はスケジュール的に大変な作品でした。途中からシナリオライターがいなくなっちゃってたし、レイアウトを担当なさっていた宮崎駿さんも途中で降りてしまったし、僕ら助手達4人、できの悪い奴ばかりで役に立たなかったし…色々ありましたからね。普通は絵コンテからアフレコまで8週間のスケジュールをとるんですよ。それが1週間しかないんですよ！ コンテができたらアフレコ用のセリフシートを高畑さんと助手とで作って、それでアフレコ用のフィルム編集をやるんですが、もちろん、絵はついていません。一方で、そのシートを全部アニメーターに回してこれで作画しろという、とんでもないスケジュールでやっていました。それであんなすごい作品ができ上がりましたからね。

『若草物語 ナンとジョー先生』ではオープニングの前にアバンタイトルを入れました。『愛の若草物語』の続編だと知らせるにはあの形がいいかなって。もちろん『若草物語』のその後の話として意識して作りました。声優さんも、例えばメグは潘恵子さん、ジョーも山田栄子さん以外に使うわけいかないですからね。ただエイミーが登場しなかったのは、原作でもあの学校を助けていたのはローリーでしたから。それと脚本の島田さんの好みかもしれ



（※1）あんな演出
『赤毛のアン』の「第47章 死と呼ばれる刈入れ人」より。グリーンゲイブルズの景色が音楽と共に約1分ほど流れて最後にマシュウの棺が映り、葬式のワンシーンへと繋がる。

ませんね。きっとエイミーはあのまま育って自由奔放にやっていたんでしょう。

　ナンの声優は松倉羽鶴さんで、彼女はこれが初めてでした。名作劇場は新人の声優を発掘して使うというパターンが多かったですけど。もともと舞台出身で演技が上手い方でした。でもアニメの場合は、舞台の演技と違って口の動きが決められています。演出家のタイミングで全部しゃべらなければならないから、それに合わせるのは難しい。でも僕は、いい役者がいい演技をしたときは、絵の演技や表情を役者の演技に合わせてもらいました。ただそれだけ制作費が余計にかかるわけですから怒られましたけどね。

　アニメは主たる対象が子供ですから。とても大事にしたいし、下手なものは発信できないと思っています。ひょっとしたら自分が変なものを表現して送り出した映像によって、見た子が変になるかもしれないでしょう。ゲームの悪影響もいわれますが、ゲームは自分で金を出して自分で選択して見ている映像ですから、それはある程度しようがないかなという気はあるんです。でもテレビは垂れ流しですからね。制作者側が意識していかないと。例えば人が血を流して転がっているようなものとか、エロティックなものとか、度合いもあると思いますが。私はそういうのはやりたくない。ロミオが誰かを刺したなんて表現したくないじゃないですか。

演出家ってものはみんな、サディストです

　演出上のカメラワークとかは私は下手です。カメラは一点に置く方が好きですから。目線の高さが一番安定しますからね。シチュエーションによっていろんなカメラワークはありますが、結局自分が昔観ていた映画に近い形になっている気がします。



　そういう意味では、絵を描ける人はうらやましいなと思いますね。僕は自分の表現したいものを上手く描けないんですよ。今は練習して、少しは描けるというか比較的見られるようになりましたけど、はじめはマル描いて目をちょんちょんと描くだけ。打ち合せのとき、何を描いているか分からないとさんざん言われました。これではダメだと思い、関修一さんという天才的に上手い方の絵を見本にして絵の勉強をしました。でもキャラクターだけ真似ても、人に訴えかけることはできず、パースとか表情とか基本的な構図が描けるようになるには長い時間がかかりました。せめて、自分が表現したいものはこれだと分からせることができる絵コンテのしようと祈るような気持ちで勉強しました。

　演出家ってものはみんな、何か文句を言われたら「このやろう」となる負けず嫌い揃いなんです。マゾヒストだと演出家は向いていない、というのは言い過ぎですが、少なくともサディスティックな位の決断力を持っていないといけません。誰かが一生懸命描いた絵を「これいらない」とカットしてしまう。この絵を描くために、そのアニメーターがどれだけ苦労したかっていうことは充分に知っていても「いらない」と言う場合が数多くあるのです。ほんと、サディストじゃないとやってられないですよ。でも、最終的な決断を下すのが演出家の仕事なのですからやむを得ないと思っていますが…。

Special Interview Part4

キャラクターデザイナー

関 修一

フローネのデザイン、気に入っていたので泣いてでも通そうと（笑）

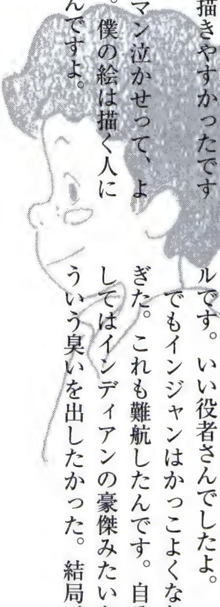
ペリーヌ物語

やっぱり初めてキャラクターデザインをしたという意気込みはありました。『ハイジ』を作られた東映出身の方が主にやっていた頃です。森やすじさんの絵とか、僕は好きだったんですよ。同じフロアで仕事していて、すごく影響を受けましたね。

でも名作劇場の絵は、僕の絵と違う感じだったんです。それまでは『ビッケ』とか、『リトル・ルル』とか、アメリカのアニメーションの影響も受けていたので、そういう系統で描いていました。ですから最初話をもらったとき、かなり緊張しましたね。自分の絵がなかなか出せなくて、かなり前作（『あらいぐまラスカル』）には引っ張られました。簡単な線でリアルな感じを表現しようとしていたんです。

主人公のペリーヌは何稿も描いたんです。初めもうちょっとリアルだったんですけど、結局はあのツルッとしたものになりました。ペリーヌには特にモデルはありません。ただ、名作劇場の流れの中で作らないといけないのかなという意識はしました。ですからゲストキャラの方が描きやすかったですね。

ペリーヌは原画マン泣かせって、よく言われたんです。僕の絵は描く人によって大分変わるんですよ。



トム・ソーヤーの冒険

『トム』の話をもらったときには、今度は自分の絵で、という気持ちが強かったですね。でもそう思いつつも前のペリーヌの形が残っていて、『トム』もなかなか難航したんですよ。最初トムももうちょっとリアルだったんです。美形というか、ちょっといい子っぽかった。ハックの方はすぐに決まったんです。

有名な原作というプレッシャーはなかったですね。ただ自分らしくデザインしようというのを心がけました。だから今、僕の中で一番思い出がある作品ですね。

イメージ作りについては、ノーマン・ロックウェルの初期の感じを、ゲストキャラなどの参考にしました。個人的にはの絵も好きだったんです。

Profile

関 修一（せき しゅういち）

アニメーター、キャラクターデザイナー。『忍風カムイ外伝』がキャラクターデザインとして初の担当作品となる。様々な作品に参加する中で、世界名作劇場シリーズでは『ペリーヌ物語』、『トム・ソーヤーの冒険』、『家族ロビンソン漂流記 ふしぎの島のフローネ』、『南の虹のルーシー』、『私のあしながおじさん』、『トラップ一家物語』、『大草原の小さな天使 ブッシュベイビー』のキャラクターデザインを担当する。現在はフリーランスとして活躍。



◀▼関氏が個人的に好きだという、「酔っ払いのマフ」ことマフ・ポッター。



▲▶人種の特徴を捉えたデザイン。ジム（右）のお尻の出っ張り具合は絶妙。

の象徴みたいでかっこよくなったんですけれど、実はこれ、監督の斎藤さんがすごく反対されてね。最後まで「こういうかっこよさじゃなくて、もっと普通ので」と。斎藤さんは普通の人間がやっているから怖いんだという感じという風に要求していました。

『トム』ではズボンのダブダブ感を意識しました。アニメーションは、割と服が体にフィットしている。それは描きやすいんですけれど…。服のしわとか、たるみという重力を感じさせるようなダブダブさっていうのかな。それはすごく意識しましたね。

　僕が描くと女の子は大抵ブスなんですね。でもやっぱりアニメーションだから、画面で動いて、かわいくしたいっていうのがあるんです。ベッキーみたいな鼻の上に影をつけたのも僕が最初なんじゃないかな。普通、光は上から来るから、鼻の上に影はできないんですけれど、上向きの感じを出したかったんです。でも描きようによっては、えらくブスになるんですね。

　ベッキーはアメリカ人の子供をすごく意識して描いたんですけれど、黒人も黒人らしく描こうと思っていました。体つきとか、お尻の出っ張り具合とかね。

ふしぎの島のフローネ

　登場人物が少なかったから楽だったです（笑）。無人島ですからね。

　フローネのデザイン、スポンサーに見せたときには評判悪くて、もうちょっと美人にならないのかと言われました。スポンサー側は、誰が見てもかわいい主人公が欲しかったんです。でもプロデューサーの松土さんが間に入ってくれて、「関さんのやりたいように描けばいいし、気にしなくていいから」と押し通して、「動いたらかわいいんです」とがんばってくれたんです。本当に評判悪かったです。僕は気に入っていたので、泣いてでも通そうと思ったんですけれどね（笑）。

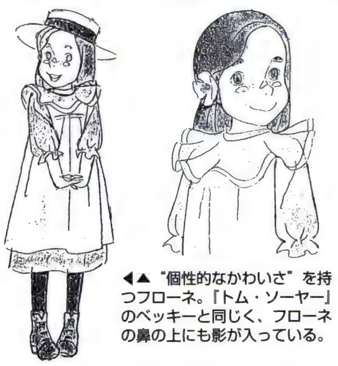
　フローネのデザインは、ただかわいいじゃなくて、人間の臭いのするようなかわいさというのを考えていたんです。それにお兄ちゃんの方が多少美形なので、美人と言うより、個性的なか

わいさを出したつもりです。スポンサーに嫌われた個性の出し方でしたけれど。

　ロケに初めて行ったのは『フローネ』です。今はバヌアツっていう島で、僕らが行ったときはまだニューヘブリデスという名前でした。ちょうど独立するというときでちょっと治安が悪かったんですけれど。

　ニューカレドニアから小さな飛行機で15分か30分くらい。その飛行機もボロかったですねえ。揺れるしね。10人か15人乗りくらいで、機長席も全部オープン。操縦しているのが見えるんですよ。低空だから珊瑚礁がすごくきれいでしたが、見ている余裕がないくらい怖かったです。

　最初はオーストラリアに1泊してニューカレドニアに渡って、ニューヘブリデスへ。もちろんロケだから写真も撮りましたが、僕はキャラクターデザインだから、ひたすら人を観察していました。『フローネ』のロケは楽しい思い出がいっぱいですね。

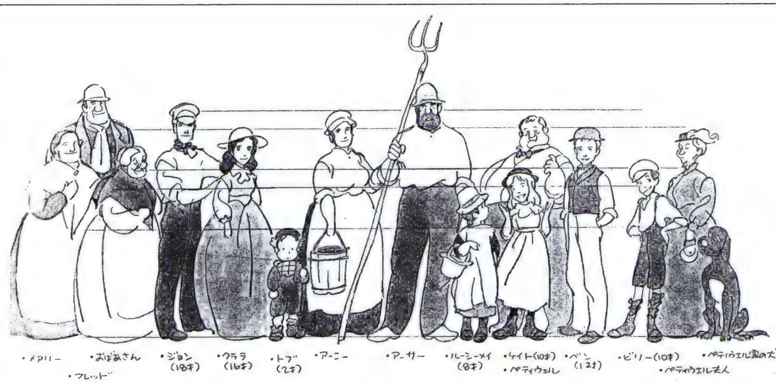


◀▲"個性的なかわいさ"を持つフローネ。『トム・ソーヤー』のベッキーと同じく、フローネの鼻の上にも影が入っている。

南の虹のルーシー

　3年連続のキャラクターデザインという苦労はありましたね。割とこの頃ディテールにこだわっていたので、『ルーシー』の話が来たときに、同じような感じになるのが嫌で、キャラクターをわざと小さく描いたんですよ。大きく描くと細かいところをこだわってしまう。だから小さく描いても個性が出るように、顔とか細かいところにこだわらない。顔だけじゃなく帽子のかぶり方ひとつでかわいさを出そう。そういう作業の仕方をしましたね。

　最初、ルーシーの方を美形、いわゆる整った顔にしていたんです。ケイトと絵が逆でしたね。でも最終的にはル



▶『南の虹のルーシー』のキャラクター比較表。「キャラクターをわざと小さく描いた」という関氏の意図がこの一枚から読み取る事ができる。

ーシーの方がおちゃめな感じになった。

私のあしながおじさん

『ルーシー』まではスタジオで仕事をしていたんですが、『あしながおじさん』は拠点を伊豆に移してからの作品です。打ち合わせには出たのですが、前のようにスタジオの中でみんなと一緒にやっているっていう感じじゃなかった。その辺が違いましたね。やっぱりみんなで一緒にワイワイやっていると、それぞれ刺激しあって熱みたいなものが出てくるんです。一緒に酒飲んだりしてね。そういうことがものを作り出すんです。アニメーションは分業作業なので、やっぱり熱みたいなのが必要だなと感じましたね。

久しぶりに来た話で、その意味では意気込みがありました。この作品は横田さんの意向でちょっとギャグっぽく設定したんです。僕はどうしても絵がリアルっぽくなるんです。だからギャグだと強調されることで、ちょうどいい形になるのでは、という思惑もあったかもしれないですね。監督から「表情集なんかも思いっきり崩して」と要望がありました。



◀子供らしい魅力に溢れる1年生のジュディ（右）と、しっとりとした女性に成長した3年生のジュディ（左）。比べてみるとその違いがよくわかる。

ジュディが孤児院にいる頃は『長靴下のピッピ』をイメージとして参考にしました。実写のピッピはかわいくて元気のいい感じで。あれがモデルですね。

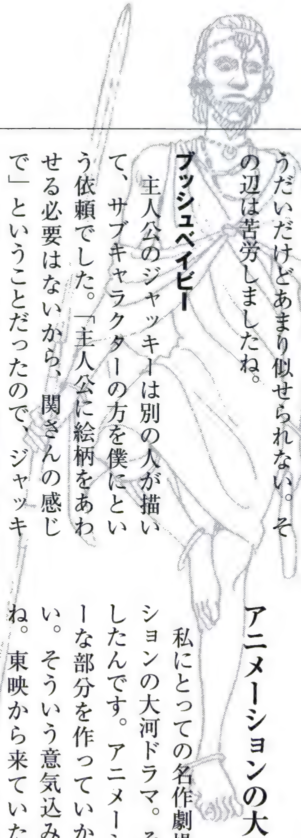
成長していくジュディは、おじさんに恋してしっとりとした女性になっていくんです。ジュディは、眉毛が太めで下がり気味のゲジゲジで、目はキッとつり上がっているんですよ。大人になったからといって目と眉の形は変えられないので、そのまましっとりとした大人になるように苦心しました。

サリーとジュリアのモデルはいないです。サリーはボワーンとした、ちょっと太めの感じ。ジュリアはおしゃれでツンとした感じ。後日打ち上げのとき、声優さん達を見て、びっくりしました。ご本人が絵とそっくりなんです。サリー役の方はやっぱり眼鏡かけていて、ほんとにあんな感じでしたね。

トラップ一家物語

『トラップ』のときは、映画『サウンド・オブ・ミュージック』を参考にしています。映画の子役を参考にした子もいます。一番下の子（アガーテ）や病弱できれいな小マリアがそうです。ジュリー・アンドリュースも元気のいいチャキチャキとした感じだけれど、ちょっと大人っぽい顔立ち。だからアニメではおちゃめで元気のいい絵に多少変えています。

子供達が多かったので、きょうだいでありながら変化をつけないといけないのが大変でした。実写だったら似通った子供を連れてきても個性を出せるんですけど、アニメーションの場合そういうわけにもいかないんです。きょ



うだいだけどあまり似せられない。その辺は苦労しましたね。

ブッシュベイビー

主人公のジャッキーは別の人が描いて、サブキャラクターの方を僕にという依頼でした。「主人公に絵柄をあわせる必要はないから、関さんの感じで」ということだったので、ジャッキーをデザインされた方（加藤裕美氏）にはお会いしていないし、伊豆で仕事をしていたので、打ち合わせにもあまり出られませんでした。

舞台がアフリカなので、アフリカ人というのを意識しましたね。テンボは黒人でかっこいい。マサイ族も整ったきれいな顔しているんです。家に結構アフリカの資料があって、部族ごとの写真集など参考にしました。

『ブッシュベイビー』は実写版の映画があったんです。その映画は観ました。

お父さんのアーサーは、実写版を参考にしています。アーサーはいつものお父さんタイプとちょっと違うでしょう？ 今までのまじめっぽいお父さんと違って結構表情が出せるんです。

アニメーションの大河ドラマ

私にとっての名作劇場は、アニメーションの大河ドラマ。そういう感じがしたんです。アニメーションのメジャーな部分を作っていかなきゃいけない。そういう意気込みもありましたね。東映から来ていた、森やすじさん、小田部羊一さん、宮崎駿さんらの仕事を見て、すごい人達だなあと思っていました。だから『ペリーヌ』のお話が来たときには〝これはきちっとやんなくちゃいけないな〟と。そういう緊張感で小さくなってしまったという反省もあるんです。次の『トム・ソーヤー』で、〝もうちょっとリラックスしてやれ。お前を出せばいいんだ〟と吹っ切れました。僕に話が来たんだから、何も宮崎さんの真似しなくてもいいだって。

できるだけ少ない線で存在感を出せたら

キャラクターは、リアルに描けば存在感が出せるというものではないんです。筆入れを少なくして存在感を出すというのは、自分の中のテーマとしてあります。僕の癖として、段々手を加えていってしまうという、自分でも嫌な部分があるんですよ。キャラクターがあたかもそこにいるように、できるだけ少ない線で存在感を出せたらと思っています。影もあまりつけないで、線だけで。

アニメーションだからという理由で線を減らしたいというのとは違う。僕が森やすじさんの絵をとても好きなのは、彼は線を整理した中で立体感のある絵を描くから。スタジオにいたときから、ああ自分はそれがやりたいことなんだなと思っていました。

一時期、ロボットものをやってみたいと思ったこともありました。でも今はまたちょっと変わってきましたね。もしデザインできるのなら、僕がちょうどガキの頃、終戦直後の子供達。彼らを主としたそういう絵を描きたいですね。

Special Interview Part5

企画・製作

佐藤昭司 × 中島順三

プロデューサー

Profile

佐藤 昭司（さとう しょうじ）

日本アニメーションの創立メンバー。日本アニメーション株式会社でながらく企画部長を務める。企画・制作として多数の作品の製作を行い、世界名作劇場シリーズは初期から参加している。現在は顧問として活躍している。

Profile

中島 順三（なかじま じゅんぞう）

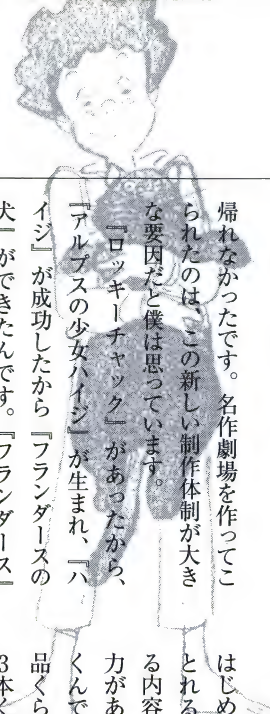
アニメーションプロデューサー。日本アニメーションの創立メンバー。1973年に『山ねずみロッキーチャック』でプロデューサーとしてデビュー。以後、多数の日本アニメーション作品の製作を行い、世界名作劇場シリーズは初期から参加している。現在は録音制作会社の有限会社サンオンキョー、代表取締役。

視聴率をとることより、いいものを見せようと

佐藤　当時、『巨人の星』だとか『アタックNo.1』とか『マジンガーZ』だとか、ああいうスポ根ものやロボットものが流行っている時期に、カルピスまんが劇場という形で『ムーミン』が登場してきたわけです。視聴率をとることより、いいものを見せようという、カルピスの会長さんの意向でした。『ムーミン』はテレビアニメーションの中で一服の清涼剤となったんです。『ムーミン』からはじまって、フジテレビの日曜日夜7時半に『アンデルセン物語』『山ねずみロッキーチャック』『アルプスの少女ハイジ』という流れができました。

『ロッキーチャック』は大変でした。あれはテレビシリーズの基本的な制作体制も含めて、それまでのアニメーションとは全然違う、後の名作シリーズの軸となる作品だと思います。いわゆる動物ものですが、それまでの擬人化されたアニメと違い、動物の基本的な動きや性質をきちんと調べて作った画期的な作品なんです。リアルな世界を動物に置き換えてやっている。そういうことを徹底してやったんですよ。

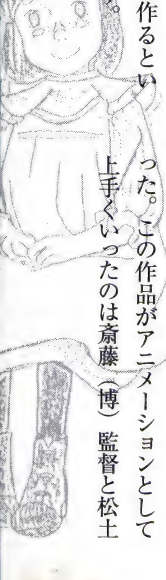
当時、高畑勲さんや黒田昌郎さん、斉藤博さんや遠藤政治さん、そういう才能のある人達が監督として上に立って、最後の仕上げまでに目を通した。各制作スタッフもそれぞれが責任を持って全部ひとりでチェックしたんです。それまでのテレビのアニメーション制作では考えられない形が『ロッキーチャック』でスタートしたんです。だから一度制作がはじまると、一年間ほとんど家へ



帰れなかったです。名作劇場を作ってこられたのは、この新しい制作体制が大きな要因だと僕は思っています。
『ロッキーチャック』があったから、『ハイジ』が成功したから『フランダースの犬』ができたんです。『フランダース』で当時平均23%というすごい高視聴率をとりました。ここで世界名作劇場が確立されたんです。そして、この名作劇場が日本アニメーションとして1997年までの23年間シリーズが続けて来られたのには、これら有能なスタッフに対して何ひとつ口を出さず、自由に作らせてくれた、本橋社長（日本アニメーション代表取締役社長）の力があったことは言うまでもありません。

名作シリーズは、シナリオと監督の力が大きかったですね

佐藤　企画を選ぶのは簡単なようで結構大変でした。だいたい5、6月あたりから来年の作品を何にするか準備をはじめるんです。フジテレビは視聴率がとれるかどうか、知名度や1年間続ける内容があるか、キャラクターとして魅力があるかというところから検討していくんです。最初に候補として10～15作品ぐらい挙げ、フジテレビと話し合って3本くらいに絞り込む。スポンサーの意向も入れて1作品に決まり、それからロケハンに行くという流れです。
　名作劇場になった作品には、原作の知名度がなかったものもたくさんあります。『あらいぐまラスカル』は遠藤政治さんという、物語の世界を作り上げる才能がある監督がいたからこそできたんです。キャラクターもとても良かったですしね。『フランダース』や『母をたずねて三千里』は児童文学として結構知られた作品ではありました。でも原作はとても1年間やれるだけの分量がなかった。監督であった高畑勲さんが原作を壊さないように、上手くオリジナルの部分を作り上げてシリーズ化してくれたんです。本（脚本）を作るという苦労は大変だったと思います。
　そういう意味で、名作劇場の20作目にあたる『七つの海のティコ』は、オリジナルというまったく違う形で作れた作品でした。『ティコ』の企画は、当時、海洋ものをやりたいという意見から生まれました。『十五少漂流記』や『海底2万里』が候補として挙がっていましたが、なかなかこれという作品がない。じゃあいっそのことオリジナルで、となったんです。設定から人物まで一から作り上げて、毎週作品作りに関われた…そういうことでいえば面白かったですね。
　『南の虹のルーシー』はまだ日本では出版されていませんでした。あれは毎年行っていたボローニャ国際児童書見本市で見つけた原作です。少女が主人公の物語で開拓時代のオーストラリアが舞台でした。内容も大雑把にしか分からなかったけど「これいいんじゃない？」と思って日本に持って帰って訳してもらったんです。でも翻訳ができあがってみると、原作自体はそんなに面白くなかった。この作品がアニメーションとして
　上手くいったのは斎藤（博）監督と松土



（隆二）プロデューサー、脚本の宮崎晃さんの力が大きかったですね。名作シリーズは、基本的にシナリオと監督の力が大きかったと思います。

『赤毛のアン』も原作で読むよりアニメーションを見た方が面白いと言ってくれた人が多いです。でも『アン』の制作は本当に大変でした。

中島　本当に胃に穴が空きそうでした。どうなるか分からなくて、心臓バクバクどころじゃなかったです。それこそ金曜日の夜中3時までに撮出しを完了して1時間で撮り終わって、朝の6時に五反田の現像（フィルムの現像所。ここでは東洋現像所のこと。（現：IMAGICA））に入れる。それまで現像機を温めて待っていてもらうんですよ。編集をつれて現像に行くんですが、時間がないからラッシュも焼かない。ラッシュなしでネガのみ。怖いどころじゃない。ちゃんと完成したのは、本当に高畑さんのおかげなんです。セルのチェックの正確さ、それがなかったら本当に穴が空いていましたね。

佐藤　完成したフィルムを持って夜行で青森まで行ったね。…もっとも『アン』だけじゃないね、大変だったのは。

中島　その頃はプリントを4、5本撮っていたんです。初号を見て焼きに入るわけ。1本上がるたびにそれを持って「四国！　青森！」と次から次へ飛んでいってもらう。あるとき青森に持って行った人が帰ってこないの。「どこにいるんだ！」と電話すると、「今、函館のスキー場にいます」って。スキー場へ遊びに行ったのがいたんですよ（笑）。それから四国に行くのに「台風でフェリーが出ないけどどうしましょう」というもありましたし。もう心臓が止まりそうなことがいっぱいありました。

この仕事をやってきて本当に良かった

佐藤　僕は、名作劇場の最初から25、6年関わってきたんです。それは僕の人生にとっては大きいことです。そして名作があったことでたくさんのいい人と知り合えたんです。この仕事をやってきて本当に良かったと思います。名作は僕にとっては、財産ですね。

中島　僕は偶然、ZUIYOという会社に行ったんです。就職試験を受けに行くという友人がいて、その頃ちょうど失業していたから、友人と一緒に行ったんです。そしたらその人が採用されなくて、僕が採用されたんです。自分のつてで遠藤さんを監督にお願いして『ロッキーチャック』が制作されたという経緯がありました。

佐藤　僕は東京新聞に入社が決まっていましたが、それを蹴ってアニメーションの世界に入りました。『鉄腕アトム』から『アタック№1』、『巨人の星』と、ずっとアニメーション製作に携わってきたけれど、僕がはじめてテレビのタイトルに名前が出たのは『ロッキーチャック』です。そういう意味でも名作劇場は思い入れが深いです。

中島　僕は名作劇場だったからずっとここにいれたと思いますよ。大変なことはいっぱいあったけど、やりがいがあり

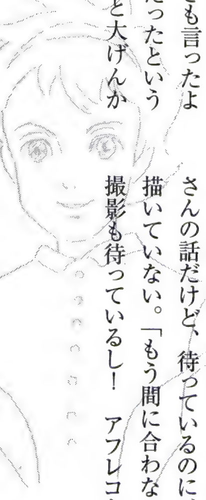
ました。今ではその苦労がみんな楽しみに、苦しさが喜びになってきています。それはやっぱり作品の内容が良かったからだと思いますね。ロボットものはあまり好きじゃないから、そういうのをやるのだったら、途中でやめていたかもしれない。

佐藤　どの仕事もみんな大変だったけど、最後は良かったなっていう思いで終わっています。そもそも作っているときに「だいたいこれでいいや」なんていう人は誰もいなかったですね。

中島　いなかったね。

佐藤　妥協しないで最後の最後まで頑張る人達ばかりでしたからね（笑）。寝ないでずっと机に座って仕事をする人もいる。そういう一生懸命なのが何人もいたんですよ。休みどころか寝る間もほとんどない（笑）、そういう感じで続いたね。

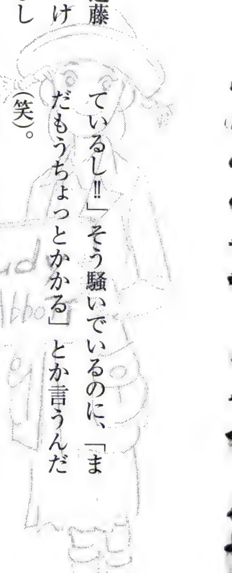
中島　僕にとって思い出深いのは、やっぱり『アン』ですね。さっきも言ったようにスケジュール的に大変だったというのもあるけど…。高畑さんと大げんかになったこともあるし、作画監督の近藤さんが病気になって、「もうできないけどどうする?」ということもありました。作品そのものとは関係ないけど、そういう思い出がいっぱいあるね。第1話で、あるシナリオライターが高畑さんに文句を言われて、鉛筆を投げ捨てて帰ったんだよね。『アン』は最初からそういう立ち上がりでした。そういった作品にまつわるその事件やエピソードがいっぱいあったから印象深いです。



佐藤　『アン』のときの話だけど。高畑さんと中島さんがふたりでシナリオを前に置いて何時間も口をきかないでじーっと腕を組んでいたことがあったでしょう。両方とも黙って何時間も座ったまま。シナリオを変える、変えないということだったと思います。「あ、まだやってるよ」って思って見ていた記憶があります。『アン』はそういう意味では現場が1番殺伐としていたな。背景の井岡さんの話だけど、待っているのに、まだ描いていない。「もう間に合わないよ！　撮影も待っているし！　アフレコも待っているし‼」「まだもうちょっとかかる」とか言うんだ（笑）。

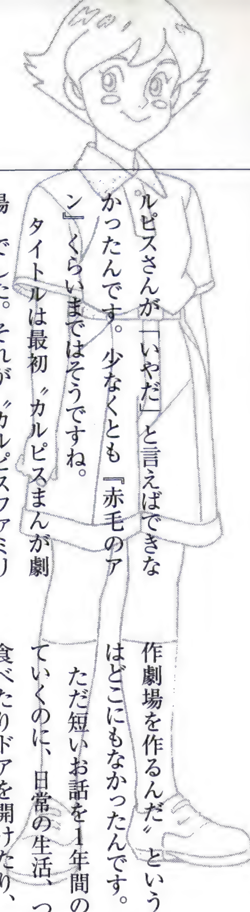
中島　アン達が吹雪で学校から帰れなくなる話があるじゃない？　吹雪の中を馬車が走る長い背景が3枚くらいあったんです。さあ撮影に持って行こうとしたときに、高畑さんがたまたま通りかかって、「あれ、直ってないね」と言うんです。それで井岡さんが「あ、ごめんなさい、すぐ直します」「何分で直るの?」「5分」「3枚もあって5分じゃ直んないでしょう⁉」と大騒ぎになったんですよ。

佐藤　高畑さんに見られなかったらそのまま撮影していましたね。



名作劇場は「偉大なるマンネリ」

中島　最初の頃、1年52話を毎週休まず放映できたのは、カルピスさん1社提供だったのがすごく大きいですね。テレビ局は当然休みも入れたい。だけどカ



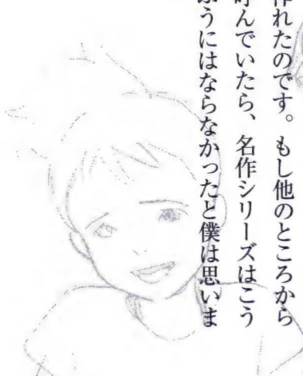
ルピスさんが「いやだ」と言えばできなかったんです。少なくとも『赤毛のアン』くらいまではそうですね。
　タイトルは最初〝カルピスまんが劇場〟でした。それが〝カルピスファミリー劇場〟になり、〝世界名作劇場〟は、ハウスさんになってからつけたんです。でもそれは日本アニメーション側から世界名作劇場と言い出したんじゃないんです。世間が「名作劇場」だと言い出したと記憶しています。
　それというのも、当初の原作は、先ほども言いましたようにけっして知名度のあるものばかりではなかったんです。『ラスカル』を作るとき、すでにディズニーが実写で映画にしていましたが、日本であまり話題になりませんでした。原作の角川文庫もこの企画がとりあげられたときには、もう絶版でしたし。僕らは1冊あった本をコピーしてみんなで読み回したんです。そういうことでは『フランダース』『三千里』『ラスカル』…これアニメにするの？　みたいな原作ばかりなんですね。だから最初は〝名作劇場を作るんだ〟というような意識はどこにもなかったんです。
　ただ短いお話を1年間の物語に作っていくのに、日常の生活、つまりご飯を食べたりドアを開けたり、窓の外をみたり、歩いたりとか、普通の生活も上手に描けば、面白いだろうと。『ハイジ』のときにそれが上手くやれて、それを引き継いで土台にしてやれたことはありますね。だから、みんなニオイとしては同じようなニオイがする。作品ごとにキャラクターは違うのに、キャラクターがみんな同じだと言われましたよ。そう言われたときには「偉大なるマンネリ」と言い返していたんだけど、今もそう思っている。



佐藤　よく言われたな。

中島　それがニオイだと思うね。

佐藤　それまでのアニメーションは、動画の枚数を少なくするために色々工夫したんですよ。でも名作の場合は制限がありませんでした。だから毎週6000~7000枚くらい使っていました。日常の細々した動きや、表情をちゃんとしたものに描くには枚数が必要なんです。他社では枚数を徹底的に規制した時期があった。それで演出家達はどう見せるか、いろんな意味で工夫して、新しい日本のアニメーションのスタイルができ上がってきた経過があるんです。
　でも、名作劇場を作るために集まった森やすじさん、高畑勲さん、小田部羊一さん、宮崎駿さん達はみんな東映の劇場アニメーションから来た人達でした。東映も初期の頃は劇場用のアニメーションを作っていて、その人達のアニメーションの作り方はテレビのシリーズものと全然違う形で進んできた。みんな非常に力がありましたしね。劇場作品をしっかりやってきた才能のある人達が集まった。だから名作劇場みたいな作品を作れたのです。もし他のところから人を呼んでいたら、名作シリーズはこういうふうにはならなかったと僕は思いますね。



※リストの作品順は本書の掲載順に準じています。
※各話スタッフリストは当時のエンディングを参考に作成しています。



南の虹のルーシー

放映期間：1982／01／10〜1982／12／26

メインスタッフ

原作：フィリス・ピディングトン「南の虹」 **製作**：本橋浩一 **企画**：佐藤昭司 **脚本**：宮崎晃 **音楽**：坂田晃一 **キャラクターデザイン**：関修一 **絵コンテ**：清瀬二郎、楠葉宏三、鈴木孝義、腰繁男 **作画監督**：前田英美、村田耕一、森友典子、高野登 **美術監督**：阿部泰三郎 **撮影監督**：黒木敬七 **録音監督**：斯波重治 **原画**：竹松一生、古山匠、松本昌代、束田久美子、保田夏代、朝戸澄子、野田道子、ほか **タイトル**：道川昭 **プロデューサー**：松土隆二 **監督**：斎藤博

メインキャスト

ルーシー・メイ：松島みのり、**ケイト**：吉田理保子、**アーサー**：掘勝之祐、**アーニー**：谷育子、**クララ**：玉川砂記子、**ベン**：松田辰也

主題歌

オープニングテーマ：「虹になりたい」、作詞：深沢一夫、作曲・編曲：坂田晃一、歌：やまがたすみこ
エンディングテーマ：「森へおいで」、作詞：深沢一夫、作曲・編曲：坂田晃一、歌：やまがたすみこ

話数	サブタイトル	脚本	絵コンテ	作画監督
1	新しい土地へ	宮崎晃	清瀬二郎	森友典子
2	可愛いヤツ	宮崎晃	楠葉宏三	森友典子
3	かわり者	宮崎晃	清瀬二郎	前田英美
4	はじめての探検	宮崎晃	楠葉宏三	森友典子
5	雨のち晴	宮崎晃	清瀬二郎	村田耕一
6	アデレードという町	宮崎晃	清瀬二郎	前田英美
7	ベンの災難	宮崎晃	楠葉宏三	森友典子
8	出発の前夜	宮崎晃	清瀬二郎	前田英美
9	アデレードへの道	宮崎晃	楠葉宏三	森友典子
10	緑の町	宮崎晃	清瀬二郎	前田英美
11	小さなわが家	宮崎晃	鈴木孝義	森友典子
12	アデレードの夜	宮崎晃	清瀬二郎	村田耕一
13	ベンがやって来た！	宮崎晃	楠葉宏三	前田英美
14	たくましい男	宮崎晃	鈴木孝義	森友典子
15	二つの家	宮崎晃	清瀬二郎	前田英美
16	ずぶぬれのお医者さん	宮崎晃	楠葉宏三	村田耕一
17	不幸な出来事	宮崎晃	鈴木孝義	森友典子
18	木登り	宮崎晃	清瀬二郎	前田英美
19	今日は買い物	宮崎晃	楠葉宏三	森友典子
20	井戸の水	宮崎晃	清瀬二郎	前田英美
21	アデレードの設計者	宮崎晃	鈴木孝義	森友典子
22	レンガとディンゴの子	宮崎晃	楠葉宏三	前田英美
23	お前の名はリトル	宮崎晃	清瀬二郎	森友典子
24	夏の終りの日	宮崎晃	鈴木孝義	前田英美
25	ついてない時は…	宮崎晃	清瀬二郎	村田耕一、高野登
26	病気になった！	宮崎晃	楠葉宏三	森友典子
27	凧に乗って	宮崎晃	清瀬二郎	前田英美
28	川の向う岸	宮崎晃	腰繁男	森友典子
29	リトルの訓練	宮崎晃	清瀬二郎	前田英美
30	誕生日のおくりもの	宮崎晃	楠葉宏三	村田耕一、高野登
31	リトルと黒い犬	宮崎晃	清瀬二郎	森友典子
32	虹の橋のたもと	宮崎晃	清瀬二郎	前田英美
33	失われた夢	宮崎晃	楠葉宏三	森友典子
34	リトルと学校	宮崎晃	清瀬二郎	前田英美
35	対決	宮崎晃	楠葉宏三	村田耕一
36	巣の中の五シリング	宮崎晃	清瀬二郎	森友典子
37	草原の強盗団	宮崎晃	楠葉宏三	前田英美
38	ルーシーは名探偵	宮崎晃	清瀬二郎	森友典子
39	二つの別れ	宮崎晃	楠葉宏三	村田耕一
40	わたしは誰？	宮崎晃	清瀬二郎	前田英美
41	見知らぬ町　見知らぬ人	宮崎晃	清瀬二郎	森友典子
42	エミリーと呼ばれる子	宮崎晃	清瀬二郎	前田英美
43	すれ違い	宮崎晃	清瀬二郎	村田耕一
44	リトル！リトル！	宮崎晃	清瀬二郎	前田英美
45	トブが消えた	宮崎晃	清瀬二郎	森友典子
46	穴の中のウォンバット	宮崎晃	清瀬二郎	前田英美
47	とうさんの決意	宮崎晃	清瀬二郎	村田耕一
48	大金持ちの子に…	宮崎晃	清瀬二郎	森友典子
49	クララの結婚	宮崎晃	清瀬二郎	前田英美
50	虹に向って	宮崎晃	清瀬二郎	森友典子

トム・ソーヤーの冒険

放映期間：1980／01／06〜1980／12／28



メインスタッフ

原作：マーク・トウェイン「トム・ソーヤーの冒険」 **製作**：本橋浩一 **企画**：佐藤昭司 **脚本**：宮崎晃、加藤盟、太田省吾、磯見忠彦、富田義朗、神山征二郎、清瀬武、ほか **音楽**：服部克久 **レイアウト**：坂巻貞彦 **キャラクターデザイン**：関修一 **絵コンテ**：竹田のびる、横田和善、腰繁男、馬場健一、鈴木孝義 **作画監督**：こさこ吉重、後上義高、高野登、桜井美知代、杉野昭夫 **美術監督**：阿部泰三郎 **撮影監督**：黒木敬七 **録音監督**：浦上靖夫 **プロデューサー**：松土隆二 **演出**：斎藤博

メインキャスト

トム・ソーヤー：野沢雅子、**ハックルベリー・フィン**：青木和代、**シッド**：白川澄子、**ポリーおばさん**：遠藤晴、**ベッキー・サッチャー**：潘恵子

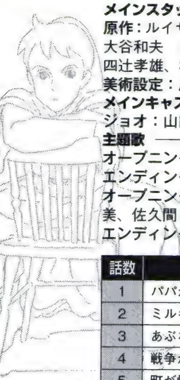
主題歌

オープニングテーマ：「誰よりも遠くへ」、作詞：山川啓介、作曲・編曲：服部克久、歌：日下まろん
エンディングテーマ：「ぼくのミシシッピー」、作詞：山川啓介、作曲・編曲：服部克久、歌：日下まろん

話数	サブタイトル	脚本	絵コンテ	作画監督	演出助手
1	ハックとトムとブタ騒動	加藤盟	竹田のびる	こさこ吉重	鈴木孝義
2	ごきげんなペンキ塗り	清瀬武	竹田のびる	こさこ吉重、関修一、後上義高	鈴木孝義
3	トム　一目ぼれをする	神山征二郎	竹田のびる	こさこ吉重	稲見邦宏
4	サムじいさんのおまじない	神山征二郎	竹田のびる	こさこ吉重	腰繁男
5	恋は異なもの味なもの	神山征二郎	腰繁男	高野登	稲見邦宏
6	ハックの家づくり	神山征二郎	竹田のびる	こさこ吉重	稲見邦宏
7	ライバル登場	富田義朗	馬場健一	こさこ吉重	馬場健一
8	あこがれの蒸気船	磯見忠彦	鈴木孝義	高野登	鈴木孝義
9	ポリーおばさんの子供たち	宮崎晃	横田和善	こさこ吉重、桜井美知代	稲見邦宏
10	村の嫌われ者	宮崎晃	腰繁男	こさこ吉重、後上義隆	腰繁男
11	海賊の宝	宮崎晃	馬場健一	こさこ吉重	馬場健一
12	ベッキー・サッチャー怒る	宮崎晃	鈴木孝義	高野登	鈴木孝義
13	海賊になるんだ	宮崎晃	横田和善	こさこ吉重	稲見邦宏
14	海賊に学校はない	宮崎晃	腰繁男	桜井美知代、後上義隆	腰繁男
15	冒険・冒険また冒険	宮崎晃	横田和善	こさこ吉重	稲見邦宏
16	トム・ソーヤーの葬式	宮崎晃	馬場健一	高野登	馬場健一
17	運の悪い日	宮崎晃	竹田のびる	杉野昭夫	腰繁男
18	痛い仲直り	宮崎晃	鈴木孝義	こさこ吉重	鈴木孝義
19	蛙の戦い	宮崎晃	横田和善	桜井美知代、後上義隆	稲見邦宏
20	ドビンズ先生の秘密	宮崎晃	腰繁男	こさこ吉重	腰繁男
21	夏休みの始まり	宮崎晃	鈴木孝義	高野登	稲見邦宏
22	病気にならない薬	宮崎晃	竹田のびる	後上義隆	馬場健一
23	ナマズ釣りの日	宮崎晃	横田和善	こさこ吉重	稲見邦宏
24	ネクタイをしたハック	宮崎晃、太田省吾	腰繁男	こさこ吉重、桜井美知代	腰繁男
25	意地っぱり野郎	宮崎晃	竹田のびる	高野登	稲見邦宏
26	子役のリゼット	宮崎晃、太田省吾	馬場健一	こさこ吉重	馬場健一
27	お芝居の始まるまで	宮崎晃、太田省吾	鈴木孝義	桜井美知代	鈴木孝義
28	リゼットを助けろ！	宮崎晃、太田省吾	横田和善	こさこ吉重	稲見邦宏
29	突然のさようなら	宮崎晃、太田省吾	腰繁男	高野登	腰繁男
30	ハックの父親	宮崎晃	馬場健一	こさこ吉重	馬場健一
31	数を数えろ	宮崎晃、太田省吾	鈴木孝義	桜井美知代	鈴木孝義
32	黄金を見つけた！	宮崎晃	腰繁男	こさこ吉重	腰繁男
33	自由に向って逃げろ	宮崎晃、太田省吾	横田和善	高野登	稲見邦宏
34	天から降って来た男	宮崎晃	竹田のびる	こさこ吉重	馬場健一
35	空を飛びたい	宮崎晃	鈴木孝義	後上義隆	鈴木孝義
36	気球を直そう	宮崎晃	横田和善	こさこ吉重、桜井美知代	稲見邦宏
37	空からの眺め	宮崎晃	竹田のびる	高野登	馬場健一
38	おそろしい出来事	宮崎晃	腰繁男	こさこ吉重	腰繁男
39	良心の痛み	宮崎晃	鈴木孝義	後上義隆	鈴木孝義
40	マフ・ポッターの裁判	宮崎晃	横田和善	こさこ吉重、桜井美知代	稲見邦宏
41	インジャン・ジョーの行方	宮崎晃	竹田のびる	高野登	稲見邦宏
42	楽しい船の旅	宮崎晃	腰繁男	こさこ吉重	腰繁男
43	白い馬を見た	宮崎晃	鈴木孝義	後上義隆	鈴木孝義
44	稲妻をつかまえろ	宮崎晃	竹田のびる	こさこ吉重、桜井美知代	稲見邦宏
45	さらば白馬よ	宮崎晃	腰繁男	高野登	腰繁男
46	化物屋敷で	宮崎晃	横田和善	こさこ吉重	稲見邦宏
47	マクドウガルの洞窟	宮崎晃	鈴木孝義	後上義隆	鈴木孝義
48	インジャン・ジョーの最後	宮崎晃	竹田のびる	こさこ吉重	稲見邦宏
49	格好のわるい終わりかた	宮崎晃	竹田のびる	こさこ吉重	腰繁男

愛の若草物語

放映期間：1987／01／11～1987／12／27



メインスタッフ

原作：ルイザ・メイ・オルコット「若草物語」「続 若草物語」 **製作**：本橋浩一 **企画**：佐藤昭司、久保田栄一 **脚本**：宮崎晃 **音楽**：大谷和夫 **レイアウト監修**：橋本淳一 **キャラクターデザイン**：近藤喜文、山崎登志樹 **絵コンテ**：腰重男、矢沢則夫、岡部英二、四辻孝雄、杉村博美、山口武志、松見真一、辻伸一、ほか **作画監督**：山崎登志樹、古山匠、大谷敦子 **作画監督補佐**：藤井裕子 **美術設定**：川本征平 **美術監督**：高野正道 **録音監督**：山田悦司 **プロデューサー**：中島順三、石川泰平 **監督**：黒川文男

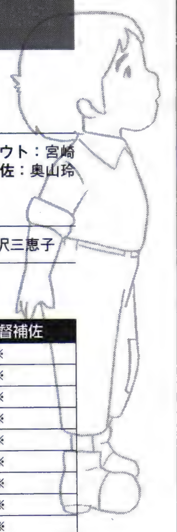
メインキャスト

ジョオ：山田栄子、**メグ**：潘恵子、**ベス**：荘真由美、**エイミー**：佐久間レイ、**メアリー**：中西妙子

主題歌

オープニングテーマ：「若草の招待状」、作詞：秋元康、作曲：高見沢俊彦、編曲：佐藤準、歌：新田恵利
エンディングテーマ：「夕陽と風とメロディ」、作詞：麻生圭子、作曲・編曲：松任谷正隆、歌：新田恵利
オープニングテーマ：「いつかきっと!」、作詞：おおくぼ由美、作曲：森田公一、編曲：大谷和夫、歌：潘恵子、山田栄子、荘真由美、佐久間レイ
エンディングテーマ：「お父さまへのララバイ」、作詞：おおくぼ由美、作曲・編曲：森田公一、歌：下成佐登子

話数	サブタイトル	脚本	絵コンテ	作画監督
1	パパが帰って来た!!	宮崎晃	黒田昌郎	山崎登志樹
2	ミルキー・アンを拾った	宮崎晃	黒川文男	山崎登志樹
3	あぶない！早く逃げて!!	宮崎晃	黒川文男	山崎登志樹
4	戦争がはじまる！	宮崎晃	矢沢則夫	山崎登志樹
5	町が燃えてしまう！	宮崎晃	辻伸一	山崎登志樹
6	さよなら　ふるさと！	宮崎晃	楠葉宏三	古山匠
7	おば様はいじわる！	宮崎晃	矢沢則夫	山崎登志樹
8	お家を貸して下さい！	宮崎晃	辻伸一	古山匠
9	怒りん坊のジョオ！	宮崎晃	矢沢則夫	山崎登志樹
10	ほめられて　けなされて	宮崎晃	杉村博美、松見真一	古山匠
11	マーサおば様はお気の毒！	宮崎晃	楠葉宏三	山崎登志樹
12	雷なんて大嫌い！	宮崎晃	辻伸一	古山匠
13	私たちの変な家	宮崎晃	杉村博美	山崎登志樹
14	エイミーと悪い友だち	宮崎晃	辻伸一	古山匠
15	お隣からのぞく不思議な少年！	宮崎晃	楠葉宏三	山崎登志樹
16	ひどい！メグは泥棒なんかじゃない!!	宮崎晃	山口武志、松見真一	古山匠
17	ジョオとリンカーン大統領の演説！	宮崎晃	楠葉宏三	山崎登志樹
18	メグとジョオ舞踏会にデビュー!?	宮崎晃	辻伸一	大谷敦子
19	おこげドレスと素敵な紳士	宮崎晃	杉村博美	古山匠
20	ジョオのお見舞いは元気がいっぱい！	宮崎晃	楠葉宏三	山崎登志樹
21	発表！はりきりジョオの自信作	宮崎晃	岡部英二	古山匠
22	おなかのすいたクリスマス	宮崎晃	辻伸一	山崎登志樹
23	ベス！思いがけない贈物に大喜び!!	宮崎晃	杉村博美、山口武志	古山匠
24	メグの小さな恋のはじまり？	宮崎晃	岡部英二	山崎登志樹
25	小説家ジョオの2ドルの傑作！	宮崎晃	楠葉宏三	古山匠
26	怖がりベスとお隣の老紳士	宮崎晃	辻伸一	山崎登志樹
27	学校でお仕置されたエイミー！	宮崎晃	八沖繁雄	古山匠
28	エイミー！なんてことするの！	宮崎晃	黒田昌郎	山崎登志樹
29	死なないで！エイミーが川に落ちた！	宮崎晃	辻伸一	古山匠
30	ゴメンねと言えたらいいのに！	宮崎晃	杉村博美	山崎登志樹
31	メグはきせかえ人形じゃない！	宮崎晃	黒田昌郎、杉村博美	古山匠
32	困ったマーサおばさんの性格	宮崎晃	辻伸一	山崎登志樹
33	楽しい楽しい野外パーティだ！	宮崎晃	八沖繁雄	古山匠
34	エイミーは悪い夢を見た！	宮崎晃	杉村博美	山崎登志樹
35	メグ、それはやっぱり恋なのよ!!	宮崎晃	辻伸一	古山匠
36	ジョオの小説が新聞にのった！	宮崎晃	四辻孝夫	山崎登志樹
37	チチキトク…ジョオが髪を売った！	宮崎晃	杉村博美	古山匠
38	悪い知らせの電報がきた！	宮崎晃	辻伸一	山崎登志樹
39	みんなが書いた手紙、手紙、手紙	宮崎晃	波岡伸	古山匠
40	ベスが猩紅熱にかかった！	宮崎晃	八沖繁雄	山崎登志樹
41	お母さま早く帰ってきて！	宮崎晃	波岡伸	古山匠
42	神様、どうかベスを助けて！	宮崎晃	辻伸一	山崎登志樹
43	大都会ニューヨークへ行こう！ジョオ	宮崎晃	池野文雄	古山匠
44	ニセ手紙事件・犯人は誰か？	宮崎晃	辻伸一	山崎登志樹
45	おじいさまがローリーをなぐった！	宮崎晃	池野文雄	古山匠
46	思いがけないクリスマスプレゼント	宮崎晃	池野文雄	山崎登志樹
47	さよなら！アンソニー	宮崎晃	辻伸一	古山匠
48	春！それぞれの旅立ち	宮崎晃	黒川文男	山崎登志樹



母をたずねて三千里

放映期間：1976／01／04〜1976／12／26

メインスタッフ

原作：エドモンド・デ・アミーチス「クオレ」 **製作**：本橋浩一 **脚本**：深沢一夫 **音楽**：坂田晃一 **場面設定レイアウト**：宮崎駿 **キャラクターデザイン・作画監督**：小田部羊一 **絵コンテ**：奥田誠治、富野喜幸、高畑勲、黒田昌郎 **作画監督補佐**：奥山玲子 **美術監督**：椋尾篁 **撮影監督**：黒木敬七 **録音監督**：浦上靖夫 **演出助手**：横田和善、馬場健一、藤山康生
プロデューサー：中島順三、松土隆二 **監督**：高畑勲

メインキャスト

マルコ・ロッシ：松尾佳子、**アンナ**：二階堂有希子、**ピエトロ**：川久保潔、**ペッピーノ**：永井一郎、**フィオリーナ**：信沢三恵子

主題歌

オープニングテーマ：「草原のマルコ」、作詞：深沢一夫、作曲・編曲：坂田晃一、歌：大杉久美子
エンディングテーマ：「かあさんおはよう」、作詞：高畑勲、作曲：坂田晃一、編曲：小六禮次郎、歌：大杉久美子

話数	サブタイトル	脚本	絵コンテ	作画監督	作画監督補佐
1	いかないでおかあさん	深沢一夫	高畑勲	小田部羊一	※
2	ジェノバの少年マルコ	深沢一夫	高畑勲	小田部羊一	※
3	日曜日の港町	深沢一夫	富野喜幸	小田部羊一	※
4	おとうさんなんか大きらい	深沢一夫	高畑勲	小田部羊一	※
5	なかよしエミリオ	深沢一夫	高畑勲	小田部羊一	※
6	マルコの月給日	深沢一夫	富野喜幸	小田部羊一	※
7	屋根の上の小さな海	深沢一夫	高畑勲	小田部羊一	※
8	ゆかいなペッピーノ一座	深沢一夫	富野喜幸	小田部羊一	※
9	ごめんなさいおとうさん	深沢一夫	奥田誠治	小田部羊一	※
10	かあさんのブエノスアイレス	深沢一夫	富野喜幸	小田部羊一	※
11	おかあさんの手紙	深沢一夫	奥田誠治	小田部羊一	※
12	ひこう船のとぶ日	深沢一夫	富野喜幸	小田部羊一	※
13	さよならフィオリーナ	深沢一夫	黒田昌郎	小田部羊一	※
14	マルコの決意	深沢一夫	富野喜幸	小田部羊一	※
15	すすめフォルゴーレ号	深沢一夫	奥田誠治	小田部羊一	※
16	ちいさなコック長	深沢一夫	黒田昌郎	小田部羊一	※
17	赤道まつり	深沢一夫	富野喜幸	小田部羊一	※
18	リオの移民船	深沢一夫	奥田誠治	小田部羊一	※
19	かがやく南十字星	深沢一夫	黒田昌郎	小田部羊一	※
20	おおあらしの夜	深沢一夫	富野喜幸	小田部羊一	※
21	ラプラタ川は銀の川	深沢一夫	奥田誠治	小田部羊一	※
22	かあさんのいる街	深沢一夫	黒田昌郎	小田部羊一	奥山玲子
23	もうひとりのおかあさん	深沢一夫	富野喜幸	小田部羊一	奥山玲子
24	待っててくれたフィオリーナ	深沢一夫	奥田誠治	小田部羊一	奥山玲子
25	ペッピーノ一座大あたり	深沢一夫	黒田昌郎	小田部羊一	奥山玲子
26	草原へ	深沢一夫	富野喜幸	小田部羊一	奥山玲子
27	フィオリーナの涙	深沢一夫	奥田誠治	小田部羊一	奥山玲子
28	バルボーサ大牧場	深沢一夫	黒田昌郎	小田部羊一	奥山玲子
29	雪がふる	深沢一夫	富野喜幸	小田部羊一	奥山玲子
30	老ガウチョ カルロス	深沢一夫	奥田誠治	小田部羊一	奥山玲子
31	ながい夜	深沢一夫	富野喜幸	小田部羊一	奥山玲子
32	さようならといえたら	深沢一夫	奥田誠治	小田部羊一	奥山玲子
33	かあさんがいない	深沢一夫	富野喜幸	小田部羊一	奥山玲子
34	ジェノバに帰りたい	深沢一夫	奥田誠治	小田部羊一	奥山玲子
35	おかあさんのなつかしい文字	深沢一夫	黒田昌郎	小田部羊一	奥山玲子
36	さようならバイアブランカ	深沢一夫	富野喜幸	小田部羊一	奥山玲子
37	はてしない旅へ	深沢一夫	奥田誠治	小田部羊一	奥山玲子
38	かあさんだってつらいのに	深沢一夫	奥田誠治	小田部羊一	奥山玲子
39	ばら色のよあけロサリオ	深沢一夫	富野喜幸	小田部羊一	奥山玲子
40	かがやくイタリアの星一つ	深沢一夫	富野喜幸	小田部羊一	奥山玲子
41	かあさんと帰れたら…	深沢一夫	奥田誠治	小田部羊一	奥山玲子
42	新しい友だちパブロ	深沢一夫	富野喜幸	小田部羊一	奥山玲子
43	この街のどこかに	深沢一夫	奥田誠治	小田部羊一	奥山玲子
44	フアナをたすけたい	深沢一夫	富野喜幸	小田部羊一	奥山玲子
45	はるかな北へ	深沢一夫	奥田誠治	小田部羊一	奥山玲子
46	牛車の旅	深沢一夫	富野喜幸	小田部羊一	奥山玲子
47	あの山の麓にかあさんが	深沢一夫	奥田誠治	小田部羊一	奥山玲子
48	ロバよ死なないで	深沢一夫	富野喜幸	小田部羊一	奥山玲子
49	かあさんが呼んでいる	深沢一夫	奥田誠治	小田部羊一	奥山玲子
50	走れマルコ！	深沢一夫	富野喜幸	小田部羊一	奥山玲子
51	とうとうかあさんに	深沢一夫	奥田誠治	小田部羊一	奥山玲子
52	かあさんとジェノバへ	深沢一夫	富野喜幸	小田部羊一	奥山玲子

※スタッフロールに表記なし。



若草物語　ナンとジョー先生

放映期間：1993／01／17～1993／12／19

メインスタッフ

原作：ルイザ・メイ・オルコット「第三若草物語」 **製作**：本橋浩一 **企画**：清水賢治、佐藤昭司、大橋益之助 **脚本**：島田満 **音楽**：デービッド・シービルズ **キャラクターデザイン**：佐藤好春 **絵コンテ・演出**：加賀剛、中西伸彰、酒井伸次、高木淳、則座誠 **作画監督**：佐藤好春、鷲田敏弥、田中穣、松本清、井上鋭、高野登 **美術設定**：伊藤主計 **美術監督**：川口正明 **音響監督**：藤野貞義 **色彩設定**：小山明子、小酒井久代、諸澤千恵子 **原画**：石川哲也、朝戸澄子、大城勝、橋本聡子、ふるたしょうじ、三浦辰夫、ほか **プロデューサー**：中島順三、鈴木吉弘 **プロデューサー補**：田中真津美 **監督**：楠葉宏三

メインキャスト

ナン：松倉羽鶴、**ジョー**：山田栄子、**ベア**：秋元洋介、**ダン**：林延年、**デーズィ**：荒木香恵、**トミー**：高山みなみ、**ナット**：池上麻里子、**デミ**：山田恭子

主題歌

オープニングテーマ：「明日もお天気」、作詞・作曲：小坂明子、編曲：信田かずお、歌：小坂明子
エンディングテーマ：「青空のDing-Dong」、作詞・作曲：伊藤薫、編曲：信田かずお、歌：伊藤薫、森の木児童合唱団

話数	サブタイトル	脚本	絵コンテ	演出	作画監督
1	プラムフィールドへようこそ	島田満	楠葉宏三	楠葉宏三	佐藤好春
2	川と野原はステキな教室!!	島田満	楠葉宏三	楠葉宏三	佐藤好春
3	イチゴつみと黒い森	島田満	則座誠	則座誠	田中穣
4	約束の小箱	島田満	楠葉宏三	楠葉宏三	佐藤好春
5	小さなバイオリン弾き	島田満	片渕須直	加賀剛	高野登
6	トミーバングズ商会	島田満	楠葉宏三	楠葉宏三	鷲田敏弥
7	僕はロビンソン・クルーソー	島田満	則座誠	則座誠	田中穣
8	はじめてのパンプキンパイ	島田満	片渕須直	中西伸彰	佐藤好春
9	おもちゃの国の贈り物	島田満	楠葉宏三、加賀剛	加賀剛	高野登
10	パジャマで大戦争	島田満	楠葉宏三	楠葉宏三	鷲田敏弥
11	街から来た無法者ダン	島田満	中西伸彰	中西伸彰	佐藤好春
12	プラムフィールドの嵐	島田満	片渕須直	則座誠	田中穣
13	決闘！エミルが怒った	島田満	加賀剛	加賀剛	佐藤好春
14	ダンとテディの秘密	島田満	楠葉宏三、中西伸彰	中西伸彰	松本清
15	バタカップ大騒動	島田満	片渕須直	加賀剛	鷲田敏弥
16	学校が燃える！	島田満	酒井伸次	酒井伸次	田中穣
17	さよならダン	島田満	加賀剛	加賀剛	佐藤好春
18	ママがやって来た	島田満	片渕須直	中西伸彰	松本清
19	舞踏会へようこそ	島田満	楠葉宏三、中西伸彰	中西伸彰	鷲田敏弥
20	大きくなったら何になる？	島田満	片渕須直	加賀剛	佐藤好春
21	先生をぶちなさい！	島田満	酒井伸次	酒井伸次	田中穣
22	ページさんからの手紙	島田満	片渕須直	中西伸彰	松本清
23	誰もいない庭	島田満	加賀剛	加賀剛	佐藤好春
24	素直になれなくて	島田満	楠葉宏三、中西伸彰	中西伸彰	鷲田敏弥
25	博物館を作ろう	島田満	酒井伸次	酒井伸次	田中穣
26	泥棒は僕じゃない！	島田満	片渕須直	楠葉宏三	松本清
27	ひび割れた友情	島田満	加賀剛	加賀剛	佐藤好春
28	告白の置き手紙	島田満	楠葉宏三、中西伸彰	中西伸彰	鷲田敏弥
29	男の子には負けない！	島田満	片渕須直	楠葉宏三	佐藤好春
30	小さなウェディングベル	島田満	楠葉宏三	中西伸彰	井上鋭
31	素敵な5ドルの使い方	島田満	片渕須直	酒井伸次	田中穣
32	私、お医者さんになる！	島田満	中西伸彰	中西伸彰	松本清
33	お父さんとの約束	島田満	楠葉宏三	高木淳	佐藤好春
34	雪の日の使者	島田満	片渕須直	中西伸彰	鷲田敏弥
35	吹雪の中で	島田満	楠葉宏三、高木淳	高木淳	井上鋭
36	ダンの荒馬ならし	島田満	片渕須直	楠葉宏三	佐藤好春
37	旅立ちへの予感	島田満	中西伸彰	中西伸彰	鷲田敏弥、井上鋭
38	それぞれの決心	島田満	楠葉宏三	楠葉宏三	佐藤好春
39	おてんばジョー自転車に乗る	島田満	楠葉宏三	楠葉宏三	佐藤好春
40	さよならプラムフィールド	島田満	楠葉宏三	楠葉宏三	佐藤好春

家族ロビンソン漂流記　ふしぎな島のフローネ



放映期間：1981／01／04～1981／12／27

メインスタッフ

原作：ヨハン・ダビット・ウィース「スイスのロビンソン」 **製作**：本橋浩一　**企画**：佐藤昭司　**脚本**：松田昭三　**音楽**：坂田晃一　**レイアウト**：坂井俊一　**キャラクターデザイン**：関修一　**絵コンテ**：黒田昌郎、奥田誠治、斎藤博、楠葉宏三、櫻井美知代、横田和善、ほか　**作画監督**：岡豊、前田英美、村田耕一、桜井美知代、森友典子　**美術監督**：井岡雅宏　**撮影監督**：黒木敬七　**録音監督**：小松亘弘　**プロデューサー**：松土隆二　**監督**：黒田昌郎

メインキャスト

フローネ：松尾佳子、**フランツ**：古谷徹、**ジャック**：高坂真琴、**アンナ**：平井道子、**エルンスト**：小林勝彦、小林修

主題歌

オープニングテーマ：「裸足のフローネ」、作詞・作曲：井上かつお、編曲：青木望、歌：潘恵子
エンディングテーマ：「フローネの夢」、作詞・作曲：井上かつお、編曲：青木望、歌：潘恵子

話数	サブタイトル	脚本	絵コンテ	作画監督
1	一通の手紙	松田昭三	黒田昌郎	桜井美知代
2	旅立ち	松田昭三	奥田誠治	村田耕一
3	フローネの心変り	松田昭三	馬場健一	桜井美知代
4	オーストラリアめざして	松田昭三	奥田誠治	村田耕一
5	フローネ船長	松田昭三	横田和善	桜井美知代
6	こわい嵐	松田昭三	奥田誠治	桜井美知代
7	なんでもできるおとうさん	松田昭三	横田和善	村田耕一
8	島をめざして	松田昭三	奥田誠治	村田耕一
9	あたらしい家族	松田昭三	腰繁男	桜井美知代
10	かなしみの再会	松田昭三	奥田誠治	村田耕一
11	おばけの木	松田昭三	横田和善、桜井美知代	桜井美知代
12	おかあさんの活躍	松田昭三	鈴木孝義	※
13	フランツの目	松田昭三	山中茂	村田耕一
14	貝殻の歌がきこえる	松田昭三	黒川文男	※
15	木の上の家	松田昭三	横田和善	※
16	我家の日課	松田昭三	黒川文男	※
17	おかあさんの畑	松田昭三	山中繁	※
18	メルクルを助けて！	松田昭三	黒田昌郎	川筋豊
19	フローネ、狩りに行く	松田昭三	古沢日出夫	※
20	船が見える	松田昭三	※	村田耕一
21	亀の赤ちゃん	松田昭三	横田和善	※
22	ジャックはコレクター	松田昭三	黒川文男	※
23	無人島の休日	松田昭三	池野文雄	村田耕一
24	フローネの家出	松田昭三	黒川文男	※
25	無人島の夜はまっくらやみ	松田昭三	横田和善	※
26	おにいちゃんは弓の名手？	松田昭三	斉藤博	村田耕一
27	無人島の音楽会	松田昭三	黒川文男	※
28	ジャックの病気	松田昭三	杉山卓	※
29	フローネ行方不明となる	松田昭三	斉藤博	村田耕一
30	きついお仕置き	松田昭三	横田和善	※
31	わたしはのけもの？	松田昭三	黒田昌郎	※
32	船ができた！	松田昭三	横田和善	岡豊
33	雨、雨、ふれふれ	松田昭三	黒田昌郎	村田耕一
34	洞窟をさがせ！	松田昭三	横田和善	前田英美
35	洞窟の秘密	松田昭三	黒田昌郎	森友典子
36	幽霊が出る！	松田昭三	楠葉宏三	岡豊
37	あらたな漂流者	松田昭三	横田和善	村田耕一
38	男の子と女の子	松田昭三	楠葉宏三	前田英美
39	ひねくれ者モートン	松田昭三	横田和善	森友典子
40	少年タムタム	松田昭三	楠葉宏三	岡豊
41	行ってしまったモートンさん	松田昭三	黒田昌郎	村田耕一
42	恐ろしい地震	松田昭三	楠葉宏三	前田英美
43	戻ってきたモートンさん	松田昭三	黒田昌郎	森友典子
44	もう一度船を！	松田昭三	楠葉宏三	岡豊
45	死なないでロバさん	松田昭三	横田和善	村田耕一
46	ヤギをすてないで	松田昭三	黒田昌郎	前田英美
47	続ヤギをすてないで	松田昭三	黒田昌郎	森友典子
48	さようなら無人島	松田昭三	岡部英二	岡豊
49	陸が見える！	松田昭三	横田和善	村田耕一
50	また会う日まで	松田昭三	黒田昌郎	前田英美

※スタッフロールに表記なし。

赤毛のアン

放映期間：1979／01／07〜1979／12／30

メインスタッフ

原作：ルーシー・モード・モンゴメリ「赤毛のアン」 **製作**：本橋浩一 **企画**：佐藤昭司 **脚本**：千葉茂樹、高畑勲、神山征二郎、荒木芳久、磯村愛子、高野丈邦、ほか **音楽**：毛利蔵人 **場面設定・画面構成**：宮崎駿 **場面構成**：桜井美知代 **キャラクターデザイン・作画監督**：近藤喜文 **絵コンテ**：富野喜幸、奥田誠治、楠葉宏三、斎藤博、横田和善、腰繁男、ほか **美術監督**：井岡雅宏 **撮影監督**：黒木敬七 **録音監督**：浦上靖夫 **色彩設定**：保田道世、小山明子 **プロデューサー**：中島順三、遠藤重夫 **演出**：高畑勲

主題歌

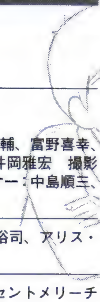
オープニングテーマ：「きこえるかしら」、作詞：岸田衿子、作曲・編曲：三善晃、歌：大和田りつこ
エンディングテーマ：「さめない夢」、作詞：岸田衿子、作曲・編曲：三善晃、歌：大和田りつこ

メインキャスト

アン・シャーリー：山田栄子、**マシュウ・カスバート**：槐柳二、**マリラ・カスバート**：北原文枝、**ダイアナ**：高島雅羅、**ギルバート**：井上和彦

話数	サブタイトル	脚本	演出	絵コンテ	作画監督	場面設定・画面構成
1	マシュウ・カスバート驚く	千葉茂樹、高畑勲	高畑勲	※	近藤喜文	宮崎駿
2	マリラ・カスバート驚く	千葉茂樹、高畑勲	高畑勲	※	近藤喜文	宮崎駿
3	グリーン・ゲイブルズの朝	磯村愛子、高畑勲	高畑勲	※	近藤喜文	宮崎駿
4	アン・生立ちを語る	高畑勲	高畑勲	※	近藤喜文	宮崎駿
5	マリラ決心する	神山征二郎	高畑勲	池野文雄	近藤喜文	宮崎駿
6	グリーン・ゲイブルズのアン	磯村愛子、高畑勲	高畑勲	池野文雄	近藤喜文	宮崎駿
7	レイチェル夫人恐れをなす	神山征二郎	高畑勲	奥田誠治	近藤喜文	宮崎駿
8	アン日曜学校へ行く	神山征二郎、高畑勲	高畑勲	とみの喜幸	近藤喜文	宮崎駿
9	おごそかな誓い	神山征二郎	高畑勲	とみの喜幸	近藤喜文	宮崎駿
10	アン・心の友と遊ぶ	神山征二郎、高畑勲	高畑勲	楠葉宏三、腰繁男	近藤喜文	宮崎駿
11	マリラ・ブローチをなくす	神山征二郎	高畑勲	奥田誠治	近藤喜文	宮崎駿
12	アン・告白する	神山征二郎、高畑勲	高畑勲	とみの喜幸	近藤喜文	宮崎駿
13	アン・学校へ行く	神山征二郎、高畑勲	高畑勲	奥田誠治	近藤喜文	宮崎駿
14	教室騒動	神山魁三	高畑勲	奥田誠治	近藤喜文	宮崎駿
15	秋の訪れ	神山征二郎	高畑勲	とみの喜幸	近藤喜文	宮崎駿
16	ダイアナをお茶に招く	高野丈邦	高畑勲	奥田誠治	近藤喜文	※
17	アン、学校にもどる	神山征二郎、高畑勲	高畑勲	とみの喜幸	近藤喜文	※
18	アン、ミニー・メイを救う	神山征二郎、高畑勲	高畑勲	奥田誠治	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）
19	ダイアナの誕生日	高野丈邦	高畑勲	横田和善	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）
20	再び春が来て	高野丈邦、高畑勲	高畑勲	腰繁男	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）
21	新しい牧師夫妻	千葉茂樹	高畑勲	楠葉宏三	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）
22	香料ちがい	千葉茂樹	高畑勲、横田和善	横田和善	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）
23	アンお茶によばれる	千葉茂樹、高畑勲	高畑勲	腰繁男	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）
24	面目をかけた大事件	千葉茂樹	高畑勲	楠葉宏三	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）
25	ダイアナへの手紙	高野丈邦、高畑勲	高畑勲、横田和善	横田和善	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）
26	コンサートの計画	千葉茂樹、高畑勲	高畑勲	奥田誠治	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）
27	マシュウとふくらんだ袖	高野丈邦、高畑勲	高畑勲	腰繁男	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）
28	クリスマスのコンサート	高野丈邦、高畑勲	高畑勲	光延博愛	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）
29	アン、物語クラブを作る	高畑勲、横田和善	高畑勲、横田和善	高畑勲	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）
30	虚栄と心痛	高野丈邦、高畑勲	高畑勲	楠葉宏三	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）
31	不運な白百合姫	荒木芳久、高畑勲	高畑勲	斉藤博	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）
32	生涯の一大事	千葉茂樹、高畑勲	高畑勲	腰繁男	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）
33	クィーン組の呼びかけ	千葉茂樹、高畑勲	高畑勲、横田和善	横田和善	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）
34	ダイアナとクィーン組の仲間	千葉茂樹、高畑勲	高畑勲	楠葉宏三	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）
35	夏休み前の思わく	荒木芳久、高畑勲	高畑勲	腰繁男	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）
36	物語クラブのゆくえ	高野丈邦、高畑勲	高畑勲、横田和善	横田和善	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）
37	十五歳の春	高野丈邦、楠葉宏三	高畑勲	楠葉宏三	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）
38	受験番号は13番	千葉茂樹、高畑勲	高畑勲	馬場健一	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）
39	合格発表	千葉茂樹、高畑勲	高畑勲	腰繁男	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）
40	ホテルのコンサート	荒木芳久、高畑勲	高畑勲、横田和善	横田和善	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）
41	クィーン学院への旅立ち	荒木芳久、高畑勲	高畑勲、楠葉宏三	楠葉宏三	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）
42	新しい学園生活	荒木芳久、高畑勲	高畑勲、馬場健一	馬場健一	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）
43	週末の休暇	神山征二郎、高畑勲	高畑勲、腰繁男	腰繁男	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）
44	クィーン学院の冬	神山征二郎、高畑勲	高畑勲、横田和善	横田和善	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）
45	栄光と夢	千葉茂樹、白石なな子	高畑勲、楠葉宏三	楠葉宏三	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）
46	マシュウの愛	千葉茂樹、白石なな子	高畑勲、馬場健一	馬場健一	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）
47	死と呼ばれる刈入れ人	荒木芳久、高畑勲	高畑勲、腰繁男	腰繁男	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）
48	マシュウ我が家を去る	荒木芳久、高畑勲	高畑勲、横田和善	横田和善	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）
49	曲り角	荒木芳久、高畑勲	高畑勲、楠葉宏三	楠葉宏三	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）
50	神は天にいましすべて世は事もなし	荒木芳久、高畑勲	高畑勲、馬場健一	馬場健一	近藤喜文	桜井美知子（場面構成）

※スタッフロールに表記なし。



あらいぐまラスカル

放映期間：1977／01／02～1977／12／25

メインスタッフ

原作：スターリング・ノース「はるかなるわがラスカル」 **製作**：本橋浩一 **企画**：佐藤昭司
脚本：宮崎晃、加藤盟、太田博、太田省吾、佐藤嘉助
音楽：渡辺岳夫 **レイアウト**：坂井俊一 **キャラクターデザイン**：遠藤政治 **絵コンテ**：池野文雄、奥田誠治、御厨恭輔、富野喜幸、斉藤博、山崎修二、ほか **作画監督**：桜井美知代、遠藤政治、小川隆雄 **作画監督補佐**：水田めぐみ **美術監督**：井岡雅宏 **撮影監督**：黒木敬七 **録音監督**：浦上靖夫 **作画**：坂井俊一、穐山昇、牛越和夫、戸倉健二、宮崎駿、ほか **プロデューサー**：中島順三、加藤良雄 **監督**：遠藤政治、斎藤博、腰繁男

メインキャスト

スターリング・ノース：内海敏彦、**ラスカル**：野沢雅子、**ウィラード**：山内雅人、**オスカー・サンダーランド**：鹿股裕司、**アリス・スティーブンソン**：富永美子

主題歌

オープニングテーマ：「ロックリバーへ」、作詩：岸田衿子、作曲：渡辺岳夫、編曲：松山祐士、歌：大杉久美子、セントメリーチルドレンコーラス、コロムビアゆりかご会
エンディングテーマ：「おいでラスカル」、作詩：岸田衿子、作曲：渡辺岳夫、編曲：松山祐士 歌：大杉久美子

話数	サブタイトル	監督	脚本	絵コンテ	作画監督
1	黒いマスクの可愛いやつ	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃	奥田誠治	桜井美知代
2	ぼくの新しい友達	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃	森光	桜井美知代
3	友情	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃	森光	桜井美知代
4	ミルウォーキーのお月さま	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃	御厨恭輔	桜井美知代
5	オスカーへの贈り物	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃	森光	桜井美知代
6	さようならスカンクたち	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃	森光	桜井美知代
7	馬と自動車はどちらが速いか	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃	森光	桜井美知代
8	蛙とボクシング	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃	富野喜幸	桜井美知代
9	お母さんの帰宅	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃	御厨恭輔	桜井美知代
10	はじめての探検	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃	富野喜幸	桜井美知代
11	消えた角砂糖	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃	富野喜幸	桜井美知代
12	本と1セント銅貨	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃	斉藤博	桜井美知代
13	夏休みの第一日	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃	とみの喜幸	桜井美知代
14	母のない子	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃	御厨恭輔	桜井美知代
15	アリスと友達になれたらなあ	遠藤政治、斉藤博	宮崎晃、佐藤嘉助	とみの喜幸	※
16	楽しいパーティの夜	遠藤政治、斉藤博	宮崎晃、佐藤嘉助	斉藤博	※
17	ラスカルの冒険	遠藤政治、斉藤博	宮崎晃、佐藤嘉助	とみの喜幸	※
18	森で会った不思議な青年	遠藤政治、斉藤博	宮崎晃、佐藤嘉助	とみの喜幸	※
19	ラスカルとトウモロコシ	遠藤政治、斉藤博	宮崎晃、佐藤嘉助	とみの喜幸	※
20	スターリングの悲しみ	遠藤政治、斉藤博	宮崎晃、佐藤嘉助	山崎修二	※
21	あぶないラスカル	遠藤政治、斉藤博	宮崎晃、佐藤嘉助	とみの喜幸	※
22	森と湖と動物たち	遠藤政治、斉藤博	宮崎晃、佐藤嘉助	池野文雄	※
23	カールの災難	遠藤政治、斉藤博	宮崎晃、佐藤嘉助	太田信	※
24	走れ走れぼくらのカヌー	遠藤政治、斉藤博	宮崎晃、佐藤嘉助	とみの喜幸	※
25	森で見つけた仔鹿	遠藤政治、斉藤博	宮崎晃、佐藤嘉助	池野文雄	※
26	森と湖の夏まつり	遠藤政治、斉藤博	宮崎晃、佐藤嘉助	とみの喜幸	※
27	首わと皮ひも	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃	池野文雄	桜井美知代
28	檻の中	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃	とみの喜幸	桜井美知代
29	星空をとぼう	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃、加藤盟	斉藤博	※
30	ケチケチするな	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃、加藤盟	とみの喜幸	※
31	花火のあがる日	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃、加藤盟	池野文雄	※
32	わたり鳥の帰るころ	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃、加藤盟	池野文雄	※
33	ドニイブルックの勝利	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃、加藤盟	とみの喜幸	※
34	いじわるな手紙	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃、加藤盟	池野文雄	※
35	カールとフローラ	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃、加藤盟	山崎博	※
36	待っていた老人	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃、加藤盟	池野文雄	※
37	朝の乳しぼり	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃、加藤盟	とみの喜幸	※
38	素敵なおもいで	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃、加藤盟	池野文雄	※
39	忘れられた誕生日	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃	とみの喜幸	桜井美知代
40	初雪の夜	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃	とみの喜幸	桜井美知代
41	めずらしい患者	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃	森光	桜井美知代
42	もうすぐクリスマス	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃、太田省吾	池野文雄	桜井美知代
43	すばらしい贈り物	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃、太田省吾	池野文雄	桜井美知代
44	氷の上の戦い	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃、太田省吾	とみの喜幸	桜井美知代
45	お母さんの平手うち	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃、太田省吾	池野文雄	桜井美知代
46	お父さんのさびしい顔	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃、太田省吾	池野文雄	桜井美知代
47	立ちあがった仔牛	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃、太田省吾	とみの喜幸	桜井美知代
48	じゃじゃ馬ならし	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃、太田省吾	池野文雄	桜井美知代
49	雪の家	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃、太田省吾	森光	桜井美知代
50	カヌーの進水式	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃	池野文雄	桜井美知代
51	残された一週間	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃	池野文雄	桜井美知代
52	別れと出発の時	遠藤政治、腰繁男	宮崎晃	池野文雄	桜井美知代

※スタッフロールに表記なし。



愛少女ポリアンナ物語

放映期間：1986／01／05～1986／12／28

メインスタッフ

原作：エレナ・ホグマン・ポーター「少女パレアナ」「パレアナの青春」 **製作**：本橋浩一 **企画**：佐藤昭司、久保田栄一
脚本：久貫千彩子 **音楽**：小六禮次郎 **レイアウト監修**：古山匠 **キャラクターデザイン**：佐藤好春 **絵コンテ**：矢沢則夫、腰重男、杉村博美、黒川文男、吉田健二郎、片渕須直、ほか **作画監督**：佐藤好春 **美術監督**：川井憲 **撮影監督**：森田俊昭 **録音監督**：山田悦司 **色指定検査**：小山明子 **動画チェック**：立石良子、中田博文、箕輪博子、林浩一 **編集**：瀬山武司、笠原義宏、名取信一 **プロデューサー**：中島順三、石川泰平 **監督**：楠葉宏三

メインキャスト

ポリアンナ：堀江美都子、**ジョン牧師**：田中秀幸、**パレー**：野沢雅子、**ジミー**：山田栄子、**トーマス・チルトン**：田中秀幸

主題歌

オープニングテーマ：「し・あ・わ・せカーニバル」、作詞：岩里祐穂、作曲：芹沢廣明、編曲：和泉一弥、歌：工藤夕貴
エンディングテーマ：「愛になりたい」、作詞：岩里祐穂、作曲：芹沢廣明、編曲：和泉一弥、歌：工藤夕貴
オープニングテーマ：「微笑むあなたにあいたい」、作詞：浅見純、作曲：鈴木キサブロー、編曲：矢野立美、歌：工藤夕貴
エンディングテーマ：「幸福」、作詞：三浦徳子、作曲：小杉保夫、編曲：矢野立美、歌：工藤夕貴

話数	サブタイトル	脚本	絵コンテ	作画監督
1	教会の小さな娘	久貫千彩子	楠葉宏三	佐藤好春
2	死なないで父さん	久貫千彩子	楠葉宏三	佐藤好春
3	丘の上の賛美歌	久貫千彩子	楠葉宏三	佐藤好春
4	見知らぬ町へ	久貫千彩子	矢沢則夫	佐藤好春
5	ナンシーの約束	久貫千彩子	腰繁男	佐藤好春
6	新しい服騒動	久貫千彩子	杉村博美	佐藤好春
7	うれしいおしおき	久貫千彩子	矢沢則夫	佐藤好春
8	不思議な紳士	久貫千彩子	黒川文男	佐藤好春
9	放っておけないわ	久貫千彩子	楠葉宏三	佐藤好春
10	何とかしなくちゃ！	久貫千彩子	矢沢則夫	佐藤好春
11	ペンデルトンの森で	久貫千彩子	楠葉宏三	佐藤好春
12	スノー夫人の驚き	久貫千彩子	楠葉宏三	佐藤好春
13	おば様はお気の毒	久貫千彩子	杉村博美	佐藤好春
14	手鏡の思い出	久貫千彩子	矢沢則夫	佐藤好春
15	不思議な特効薬？	久貫千彩子	吉田健二郎	佐藤好春
16	怒らないで！おば様	久貫千彩子	矢沢則夫	佐藤好春
17	チルトン先生大好き！	久貫千彩子	杉村博美	佐藤好春
18	ペンデルトンの謎	久貫千彩子	吉田健二郎	佐藤好春
19	驚くべき秘密	久貫千彩子	矢沢則夫	佐藤好春
20	危ない！ポリアンナ	久貫千彩子	杉村博美、楠葉宏三	佐藤好春
21	恐ろしい宣告	久貫千彩子	矢沢則夫	佐藤好春
22	足が動かない!!	久貫千彩子	杉村博美、楠葉宏三	佐藤好春
23	よかったが探せない！	久貫千彩子	矢沢則夫	佐藤好春
24	もう一度歩きたい！	久貫千彩子	杉村博美	佐藤好春
25	危険な手術	久貫千彩子	矢沢則夫	佐藤好春
26	死なないでポリアンナ	久貫千彩子	楠葉宏三	佐藤好春
27	第1部 完 愛になりたい	久貫千彩子	楠葉宏三	佐藤好春
28	忍びよる影	久貫千彩子	矢沢則夫	佐藤好春
29	さよなら！ベルディングスビル	久貫千彩子	片渕須直	佐藤好春
30	大都会ボストンの生活	久貫千彩子	楠葉宏三	佐藤好春
31	チップマックがいない！	久貫千彩子	矢沢則夫	佐藤好春
32	迷子のポリアンナ	久貫千彩子	杉村博美	佐藤好春
33	チップマックはどこ？	久貫千彩子	片渕須直	佐藤好春
34	カリウ夫人の悲しい秘密	久貫千彩子	矢沢則夫	佐藤好春
35	若君ジェームス	久貫千彩子	杉村博美	佐藤好春
36	路地裏の天使	久貫千彩子	矢沢則夫	佐藤好春
37	本当のジェミーが欲しい!!	久貫千彩子	楠葉宏三	佐藤好春
38	どうして幸福になれないの？	久貫千彩子	杉村博美	佐藤好春
39	さよならパーティ事件	久貫千彩子	矢沢則夫	佐藤好春
40	たのしいボストン見物	久貫千彩子	杉村博美	佐藤好春
41	嵐のはじまり	久貫千彩子	矢沢則夫	佐藤好春
42	失われた帰り道	久貫千彩子	杉村博美	佐藤好春
43	死なないでチルトン先生！	久貫千彩子	杉村博美	佐藤好春
44	悲しみをのりこえて	久貫千彩子	矢沢則夫	佐藤好春
45	荒れた花園	久貫千彩子	杉村博美	佐藤好春
46	ジェミー・ケントの謎	久貫千彩子	矢沢則夫	佐藤好春
47	危険な遊び	久貫千彩子	楠葉宏三	佐藤好春
48	助けて!ジェミー	久貫千彩子	矢沢則夫	佐藤好春
49	解きあかされた過去	久貫千彩子	矢沢則夫	佐藤好春
50	ボクがジェミーだ！	久貫千彩子	楠葉宏三	佐藤好春
51	幸福はすぐそばに	久貫千彩子	楠葉宏三	佐藤好春

私のあしながおじさん

放映期間：1990／01／14～1990／12／23

メインスタッフ

原作：ジーン・ウェブスター「あしながおじさん」 **製作**：本橋浩一 **企画**：佐藤昭司、大橋益之介、清水賢治 **脚本**：藤本信行 **音楽**：若草恵 **キャラクターデザイン**：関修一 **絵コンテ**：鈴木孝義、楠葉宏三、松見真一、斉藤次郎、加賀剛、ほか **作画監督**：ふるたしょうじ、菊池晃、大城勝、入江篤 **美術設定**：工藤剛一 **美術監督**：森元茂 **撮影監督**：森田俊昭 **音響監督**：藤野貞義 **色指定**：小山明子、唐沢伸彦、小酒井久代 **整音**：佐藤千明 **彩画**：スタジオロビン **背景**：アトリエローク、スタジオアクア **プロデューサー**：松土隆二、立川善久 **監督**：横田和善

メインキャスト

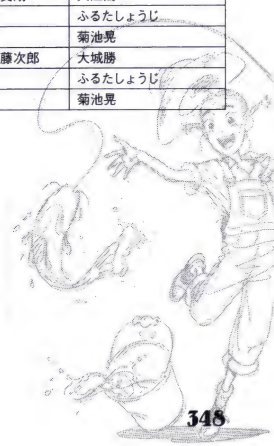
ジュディ：堀江美都子、**ジャーヴィス**：田中秀幸、**ジュリア**：天野由梨、**サリー**：佐藤智恵、**リペット院長**：藤田淑子

主題歌

オープニングテーマ：「グローイング･アップ」 作詞：来生えつこ 作曲：来生たかお 編曲：信田かずお 歌：堀江美都子

エンディングテーマ：「キミの風」、作詞：来生えつこ、作曲：来生たかお、編曲：信田かずお、歌：堀江美都子、SHINES

話数	サブタイトル	脚本	絵コンテ	演出	作画監督
1	運命を変えた月曜日	藤本信行	横田和善	横田和善	ふるたしょうじ
2	ひとりぼっちの旅立ち	藤本信行	鈴木孝義	鈴木孝義	菊池晃
3	憧れのリンカーン記念女子学園	藤本信行	横田和善	横田和善	大城勝
4	てんやわんやの入学式	藤本信行	鈴木孝義	鈴木孝義	ふるたしょうじ
5	お部屋の素敵な飾り方	藤本信行	和田市郎	横田和善、松見真一	菊池晃
6	嘘つきは嫌いですか？	藤本信行	関戸始	横田和善	大城勝
7	金貨の上手な使いみち	藤本信行	鈴木孝義	鈴木孝義	入江篤
8	屑籠に捨てられた手紙	藤本信行	横田和善	横田和善	ふるたしょうじ
9	ジュリアの叔父様は変り者？	藤本信行	和田幾雄	横田和善、松見真一	菊池晃
10	裏切ってごめんなさい	藤本信行	鈴木孝義	鈴木孝義	大城勝
11	おもいがけない人の名	藤本信行	関戸始	横田和善、斉藤次郎	入江篤
12	奇妙な偶然	藤本信行	和田幾雄	横田和善、松見真一	ふるたしょうじ
13	サリーの勇気ある挑戦	藤本信行	鈴木孝義	鈴木孝義	菊池晃
14	初めての小説が盗作？	藤本信行	横田和善	横田和善	大城勝
15	ホットドッグと壁の花	藤本信行	関戸始	横田和善、斉藤次郎	入江篤
16	クォーターバックからの贈り物	藤本信行	鈴木孝義	鈴木孝義	ふるたしょうじ
17	打ちあけられない心	藤本信行	松見真一	横田和善、松見真一	菊池晃
18	感謝祭への招待状	藤本信行	横田和善	横田和善	大城勝
19	友よ、ともに歌わん	藤本信行	関戸始	横田和善、斉藤次郎	入江篤
20	年上の同級生	藤本信行	鈴木孝義	鈴木孝義	ふるたしょうじ
21	美しさとかなしみと	藤本信行	関戸始	横田和善、加賀剛	菊池晃
22	窓に降る雪	藤本信行	横田和善	横田和善	大城勝
23	それぞれのクリスマス	藤本信行	鈴木孝義	鈴木孝義	入江篤
24	お気に召すまま	藤本信行	斉藤次郎	横田和善、斉藤次郎	ふるたしょうじ
25	ふるさと・ニューヨーク	藤本信行	楠葉宏三	横田和善、佐土原武之	菊池晃
26	明日に架ける橋	藤本信行	加賀剛	横田和善、加賀剛	大城勝
27	家庭教師は楽じゃない	藤本信行	横田和善	横田和善	入江篤
28	無慈悲な命令	藤本信行	鈴木孝義	鈴木孝義	ふるたしょうじ
29	思い出がいっぱい	藤本信行	斉藤次郎	横田和善、斉藤次郎	菊池晃
30	夏の日の恋	藤本信行	楠葉宏三	横田和善、中西伸彰	大城勝
31	花ざかりの娘たち	藤本信行	横田和善、佐土原武之	横田和善	入江篤
32	黄昏の駅にて	藤本信行	鈴木孝義	鈴木孝義	ふるたしょうじ
33	すれちがう想い	藤本信行	楠葉宏三	横田和善、斉藤次郎	菊池晃
34	この胸のときめきを	藤本信行	横田和善	横田和善	大城勝
35	孤独な青春	藤本信行	加賀剛	横田和善、加賀剛	入江篤
36	今を生きるために	藤本信行	鈴木孝義	鈴木孝義	ふるたしょうじ
37	聖夜のさようなら	藤本信行	横田和善	横田和善	菊池晃
38	悲しいプロポーズ	藤本信行	斉藤次郎	横田和善、斉藤次郎	大城勝
39	過去からの卒業	藤本信行	鈴木孝義	鈴木孝義	ふるたしょうじ
40	はじめましておじさま	藤本信行	横田和善	横田和善	菊池晃



大草原の小さな天使　ブッシュベイビー

放映期間：1992/01/12～1992/12/20

メインスタッフ

原作：ウィリアム・スチーブンソン「カバの国への旅」 **製作**：本橋浩一 **企画**：佐藤昭司、清水賢治、大橋益之助 **脚本**：宮崎晃 **音楽**：宮川彬良 **キャラクターデザイン**：関修一、加藤裕美 **絵コンテ**：鈴木孝義、加賀剛、中西伸彰、則座誠、楠葉宏三、斎藤博 **作画監督**：加藤裕美、細井信宏、伊藤広治、田中穣、鷲田敏弥 **美術設定**：伊藤主計 **美術監督**：森元茂 **撮影監督**：森田俊昭 **音響監督**：藤野貞義 **色指定**：小山明子、小酒井久代、諸澤千恵子 **原画**：石川哲也、朝戸澄子、大城勝、橋本聡子、ふるたしょうじ、三浦辰夫、ほか **プロデューサー**：松土隆二、和田実 **監督**：鈴木孝義

メインキャスト

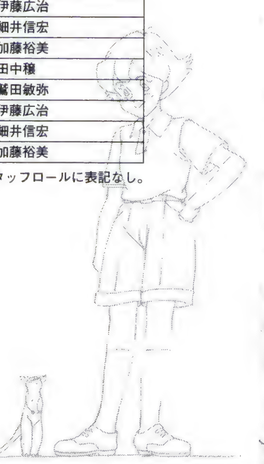
ジャッキー：岡本麻弥、**マーフィ**：白鳥由里、**テンボ**：小杉十郎太、**アンドルー**：金丸淳一、**アーサー**：土師孝也、**ペニー**：滝沢久美子、**ケイト**：松下美由紀、**ミッキー**：松岡洋子、**クランクショウ博士**：緒方賢一

主題歌

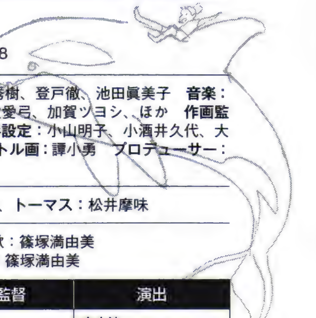
オープニングテーマ：「APOLLO」 作詞・作曲：谷村新司 編曲：佐藤康夫 歌：沢靖英
オープニングテーマ：「微笑でプロローグ」 作詞：及川眠子 作曲：岸正之 編曲：信田かずお 歌：山野さと子
エンディングテーマ：「鳥になる」 作詞・作曲：谷村新司 編曲：佐藤康夫 歌：岡本麻弥

話数	サブタイトル	脚本	絵コンテ	演出	作画監督
1	草原で拾った赤ちゃん	宮崎晃	鈴木孝義	※	加藤裕美
2	死なないでマーフィ	宮崎晃	中西伸彰、鈴木孝義	鈴木孝義、中西伸彰	伊藤広治
3	しかけやローズ	宮崎晃	則座誠	※	田中穣
4	哺乳ビンをさがせ	宮崎晃	加賀剛	加賀剛	細井信宏
5	傷ついた象	宮崎晃	鈴木孝義	※	加藤裕美
6	マーフィの病気	宮崎晃	楠葉宏三	加賀剛、鈴木孝義	伊藤広治
7	女性獣医ハンナ	宮崎晃	則座誠	則座誠	田中穣
8	博士の飛行機	宮崎晃	加賀剛	加賀剛	細井信宏
9	真夜中のお散歩	宮崎晃	鈴木孝義	※	加藤裕美
10	修理屋ダン・ムーア	宮崎晃	楠葉宏三	加賀剛	伊藤広治
11	探偵団結成！	宮崎晃	則座誠	則座誠	田中穣
12	ハッカアメと密猟者	宮崎晃	中西伸彰	中西伸彰	細井信宏
13	探偵団プラス1	宮崎晃	鈴木孝義	※	加藤裕美
14	ヒヒの襲撃	宮崎晃	加賀剛	加賀剛	伊藤広治
15	ふしぎな木バオバブ	宮崎晃	楠葉宏三、則座誠	則座誠	田中穣
16	秘密のほらあな	宮崎晃	楠葉宏三、中西伸彰	中西伸彰	細井信宏
17	密猟団現わる	宮崎晃	鈴木孝義	※	加藤裕美
18	チョッキ騒動	宮崎晃	加賀剛	加賀剛	伊藤広治
19	運命のはじまり	宮崎晃	楠葉宏三	則座誠	田中穣
20	霧のキリマンジャロ	宮崎晃	斉藤博	中西伸彰	細井信宏
21	さようならケイト	宮崎晃	鈴木孝義	加賀剛	加藤裕美
22	無くなった許可証	宮崎晃	楠葉宏三、中西伸彰	中西伸彰	伊藤広治
23	波止場の大事件	宮崎晃	斉藤博	加賀剛	鷲田敏弥
24	アフリカひとりぼっち	宮崎晃	則座誠	則座誠	田中穣
25	テンボに逮捕状!?	宮崎晃	鈴木孝義	※	細井信宏
26	マーフィの災難	宮崎晃	斉藤博	中西伸彰	加藤裕美
27	追う人、追われる人	宮崎晃	加賀剛	加賀剛	鷲田敏弥
28	密林の象たち	宮崎晃	則座誠	則座誠	田中穣
29	野性を取りもどせ!!	宮崎晃	鈴木孝義	※	細井信宏
30	サバンナのおきて	宮崎晃	斉藤博	中西伸彰	加藤裕美
31	毒矢とハーモニカ	宮崎晃	加賀剛	加賀剛	鷲田敏弥
32	やさしい戦士・テンボ	宮崎晃	則座誠	則座誠	田中穣
33	炎に向かって走れ！	宮崎晃	斉藤博	中西伸彰	伊藤広治
34	マサイ族の小屋	宮崎晃	鈴木孝義	※	細井信宏
35	ジャッキー倒れる！	宮崎晃	加賀剛	加賀剛	加藤裕美
36	豹と二人の戦士	宮崎晃	則座誠	則座誠	田中穣
37	雨の日の思い出	宮崎晃	斉藤博	中西伸彰	鷲田敏弥
38	列車が流される!?	宮崎晃	加賀剛	加賀剛	伊藤広治
39	駆けぬけろマーフィ	宮崎晃	中西伸彰	中西伸彰	細井信宏
40	マーフィのさようなら	宮崎晃	鈴木孝義	※	加藤裕美

※スタッフロールに表記なし。



七つの海のティコ



放映期間：1994／01／16～1994／12／18

メインスタッフ

製作：本橋浩一　**企画**：佐藤昭司、清水賢治　**原案**：広尾明　**脚本**：青山紀之、松井亜弥、三井秀樹、登戸徹、池田眞美子　**音楽**：美和響　**キャラクターデザイン**：森川聡子　**絵コンテ**：鈴木輪流郎、稲垣卓也、片渕須直、伊吹愛弓、加賀ツヨシ、ほか　**作画監督**：佐藤好春、大城勝、井上鋭、早乙女浩一朗　**美術設定**：伊藤主計　**美術監督**：森元茂　**色彩設定**：小山明子、小酒井久代、大城千恵子　**原画**：平松禎史、宮崎なぎさ、高野登、石川哲也、諸星伸司、鷲田敏弥、ほか　**タイトル画**：譚小勇　**プロデューサー**：余語昭夫、鈴木吉弘　**監督**：高木淳

メインキャスト

ナナミ・シンプソン：林原めぐみ、**スコット**：池田秀一、**アル**：緒方賢一、**シェリル**：水谷優子、**トーマス**：松井摩味

主題歌

オープニングテーマ：「Sea loves you」、作詞：佐藤ありす、作曲：清岡千穂、編曲：戸塚修、歌：篠塚満由美
エンディングテーマ：「Twinkle talk」、作詞：佐藤ありす、作曲：清岡千穂、編曲：戸塚修、歌：篠塚満由美

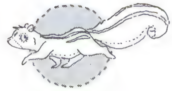
話数	サブタイトル	脚本	絵コンテ	作画監督	演出
1	シャチをつれた少女　冒険者ナナミ	青山紀之	高木淳	大城勝	高木淳
2	カリブの海賊は子供をねらう!?	三井秀樹	片渕須直	井上鋭	稲垣卓也
3	大西洋のギャングがやって来る!?	松井亜弥	鈴木輪流郎	五月女浩一朗	花井信也
4	逃げて逃げて逃げまくれ!!	三井秀樹	楠葉宏三	大城勝	稲垣卓也
5	リオデジャネイロは眠らない	三井秀樹	楠葉宏三、稲垣卓也	佐藤好春	楠葉宏三
6	シロナガスクジラに逢った日	青山紀之	辻伸一	井上鋭	稲垣卓也
7	大西洋の底　トーマスひとりぼっち	青山紀之	辻伸一	五月女浩一朗	花井信也
8	ザイール川の沈没船　秘宝の謎	三井秀樹	知吹愛弓	大城勝	稲垣卓也
9	幻の地底湖に浮かぶ希望の船	松井亜弥	楠葉宏三	佐藤好春	楠葉宏三
10	ペペロンチーノ号が陸を走る！	三井秀樹	高木淳、楠葉宏三	井上鋭	楠葉宏三
11	プリンセス・ナナミ　エーゲ海の夢	松井亜弥	辻伸一	五月女浩一朗	花井信也
12	もうひとりのナナミと幸福な家族	松井亜弥	辻伸一	大城勝	稲垣卓也
13	ああ！トーマス君の人生最悪の日	三井秀樹	知吹愛弓	佐藤好春	楠葉宏三
14	豪快！シチリア島のアル婆ちゃん	松井亜弥	片渕須直	井上鋭	楠葉宏三
15	素晴らしき団結！空に舞うナナミ	三井秀樹	片渕須直	五月女浩一朗	花井信也
16	新しい仲間！！ティコの赤ちゃん！	松井亜弥	知吹愛弓	大城勝	楠葉宏三
17	がんばれジュニア！最初の深呼吸	池田眞美子	高木淳、楠葉宏三	佐藤好春	藤本次郎、宮下新平
18	えっ！！シュリルさんついに婚約！？	登戸徹	辻伸一	井上鋭	楠葉宏三
19	北海油田大パニック　海鳥を守れ！	登戸徹	知吹愛弓	五月女浩一朗	花井信也
20	ジュニアはナナミがきらいなの！？	松井亜弥	知吹愛弓	大城勝	高木淳
21	光る氷山！北極海のオーロラ伝説	三井秀樹	片渕須直	佐藤好春	藤本次郎、宮下新平
22	氷の迷宮！埋もれたままの時間	三井秀樹	知吹愛弓	井上鋭	楠葉宏三
23	さようなら永遠に！ティコの死	登戸徹	高木淳	大城勝	高木淳
24	命を継ぐ者　海に響くクジラの歌	松井亜弥	楠葉宏三	佐藤好春	楠葉宏三
25	日本へ！母さんの思い出を訪ねて	三井秀樹	知吹愛弓	五月女浩一朗	花井信也
26	お母さんに会えた！遠い夏の日	松井亜弥	楠葉宏三	井上鋭	宮下新平
27	霧の怪談！セントエルモの幽霊船	登戸徹	片渕須直	大城勝	楠葉宏三
28	スクイドボール2号　深海をゆく！	三井秀樹	辻伸一	佐藤好春	藤本次郎
29	ナナミの冒険　チョウの舞う島！	松井亜弥	知吹愛弓	杉山東夜美	知吹愛弓
30	永遠の美しさが出にはいる　奇跡の卵	登戸徹	楠葉宏三	井上鋭	楠葉宏三
31	シュリルとスコット　無人島の一夜	松井亜弥	知吹愛弓	大城勝	宮下新平
32	シーラカンスの海へ　光る怪物の謎	三井秀樹	片渕須直	佐藤好春	楠葉宏三
33	スコット応答せず！！悪魔の棲む海	三井秀樹	片渕須直	井上鋭	宮下新平
34	帆をあげろ！！大追跡ヒカリクジラ	登戸徹	加賀ツヨシ	大城勝	高木淳
35	ラストチャンス！父さんの祈り	松井亜弥	知吹愛弓	杉山東夜美	知吹愛弓
36	ヒカリクジラが危ない　悪魔の襲撃！	三井秀樹	片渕須直	井上鋭	宮下新平
37	動きはじめた野望！　南極大陸の城	登戸徹	加賀ツヨシ	大城勝	加賀ツヨシ
38	ヒカリクジラの導き　鉄の城の最後	松井亜弥	知吹愛弓	入好さとる	加賀ツヨシ
39	それぞれの旅立ち　永遠の光の輪	青山紀之、三井秀樹、松井亜弥	高木淳	井上鋭	高木淳

Contents 目次

Column

Special Interview





世界名作劇場シリーズ メモリアルブック
アメリカ&ワールド編

2009年7月27日　初版発行

発行者　大貫尚雄
発行所　株式会社新紀元社
〒101-0054
東京都千代田区神田錦町3-19　楠本第3ビル4F
TEL：03-3291-0961　FAX：03-3291-0963
郵便振替 00110-4-27618

著　ちばかおり

表紙イラスト　佐藤好春、善國 道

編集　新紀元社編集部

デザイン／DTP　株式会社明昌堂
印刷／製本　東京書籍印刷株式会社

ISBN978-4-7753-0680-2
定価はカバーに表示してあります。
Printed in Japan



9784775306802
1920074025008
ISBN978-4-7753-0680-2
C0074 ¥2500E
定価：本体2,500円（税別）

南の虹のルーシー

トム・ソーヤーの冒険

愛の若草物語

母をたずねて三千里

若草物語 ナンとジョー先生

ふしぎな島のフローネ 家族ロビンソン漂流記

赤毛のアン

あらいぐまラスカル

愛少女ポリアンナ物語

私のあしながおじさん

大草原の小さな天使 ブッシュベイビー

七つの海のティコ